

「地域子ども教室推進事業」 実施状況調査報告書

平成18年3月

地域子ども教室推進事業普及委員会

CONTENTS

はじめに

第1部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の全国的な取組実態	1
1 - 1 . 調査の概要	1
(1) 事業報告書の分析について	1
(2) アンケート調査の実施について	1
1 - 2 . 運営協議会の事業実施体制等について	2
(1) 運営協議会の組織体制	2
(2) 運営協議会での研修会の開催状況	5
(3) 運営協議会におけるコーディネーター・指導員の確保・登録方法	8
(4) 運営協議会の安全対策	9
(5) 運営協議会における事業推進体制	11
(6) 運営協議会としての今後の課題	13
1 - 3 . 実行委員会の事業実施体制等について	17
(1) 実行委員会の組織体制	17
(2) 実行委員会ごとの地域子ども教室開催（設置）数	18
(3) 地域子ども教室での活動内容	20
(4) 実行委員会の子どもの参加者数	21
(5) 実行委員会での研修会の開催状況	22
(6) 実行委員会の指導員配置状況	24
(7) 実行委員会のボランティア参加数	26
(8) 実行委員会のコーディネーター数	28
(9) 実行委員会の障害児・不登校児の受け入れ状況	30
(10) 実行委員会の安全対策	31
(11) 実行委員会における事業推進体制	33
(12) 実行委員会としての今後の課題	34
1 - 4 . 地域子ども教室の開催状況等について	35
(1) 地域子ども教室の年間開催数	35
(2) 地域子ども教室の実施場所	36
(3) 地域子ども教室の対象学年	36
(4) 地域子ども教室の曜日別の開催状況	37
(5) 地域子ども教室の参加者数	38
(6) 地域子ども教室の指導員数	40
(7) 地域子ども教室のボランティア数	42
1 - 5 . 今後の地域子ども教室推進事業の実施について	43

CONTENTS

第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析	45
2 - 1 . 調査の概要	45
(1) アンケート調査の種類及び対象等について	45
(2) アンケート調査の回収状況	45
2 - 2 . 子どもに対するアンケート調査結果について	46
(1) 学年・性別及び地域子ども教室への登録の有無	47
(2) 普段の生活や放課後の過ごし方	48
(3) 地域子ども教室についての認知度や感想と今後の参加意向	53
2 - 3 . 保護者に対するアンケート調査結果について	70
(1) 回答者の属性	71
(2) アンケートの入手経路等について	72
(3) 地域子ども教室に参加している子どもの参加理由や変化	74
(4) 地域子ども教室に参加していない子どもの不参加理由など	80
(5) 保護者の方の地域子ども教室への関わりなど	83
(6) 今後の地域子ども教室のあり方	87
2 - 4 . 指導員・ボランティアに対するアンケート調査結果について	92
(1) 指導員・ボランティアの属性	93
(2) 地域子ども教室との関わり	96
(3) 地域子ども教室で活動する指導員やボランティアへの研修	98
(4) 地域子ども教室の実施による子どもや地域の変化	100
(5) 地域子ども教室での安全管理体制	103
(6) 地域子ども教室の事業効果や今後の進め方	104
2 - 5 . コーディネーターに対するアンケート調査結果について	108
(1) コーディネーターの属性	109
(2) 地域子ども教室との関わり	112
(3) 地域子ども教室で活動するコーディネーターへの研修	115
(4) 地域子ども教室の実施による子どもや地域の変化	117
(5) 地域子ども教室の事業運営上の問題点	120
(6) 地域子ども教室の事業効果や今後の進め方	122
2 - 6 . 実施学校に対するアンケート調査結果について	124
(1) 活動場所となった学校のこれまでの取組	125
(2) 地域子ども教室との関わり	126
(3) 地域子ども教室の実施による子どもや保護者、地域の大人などの変化	131
(4) 地域子ども教室の事業効果や今後の進め方	132

CONTENTS

2 - 7 . 実施施設に対するアンケート調査結果について	135
(1) 活動場所となった施設のこれまでの取組	136
(2) 地域子ども教室との関わり	137
(3) 地域子ども教室の実施による子どもや地域の大人などの変化	142
(4) 地域子ども教室の事業効果や今後の進め方	143
2 - 8 . 未実施学校に対するアンケート調査結果について	146
(1) 子どもの健全育成に係る取組及び地域子ども教室との関わり	147
(2) 放課後児童対策について	149
(3) 地域子ども教室の今後の推進方策	151
2 - 9 . 本事業の事業効果に関する総合評価	154
(1) 子どもに対する事業効果の分析	154
(2) 家庭教育に関する事業効果の分析	155
(3) 地域の大人や地域社会に関する事業効果の分析	156
(4) 学校等の活動場所となる施設に対する事業効果の分析	157
(5) 本事業の総合評価	158

第3部 地域子ども教室の今後の推進に向けて

159

3 - 1 . 地域子ども教室の意義・効果 ～子どもにとって真の『居場所』とは～	159
3 - 2 . 事業を支える人材の確保・養成 ～地域の“人材”の資質向上を目指して～	166
3 - 3 . 安全・安心な『子どもの居場所』づくりの方策 ～危機管理とリスクの共有～ ..	174
3 - 4 . 多くの主体の参加による事業運営に向けて ～各種支援制度等の紹介～	189
3 - 5 . 「地域子ども教室」に一度来てみませんか？	196

参考資料

参考資料1 各種アンケート票

参考資料2 「地域子ども教室推進事業普及委員会」設置要項

はじめに



本調査の趣旨

はじめに

1 本調査の趣旨

子どもたちに関わる重大事件の続発など、青少年の問題行動の深刻化や地域や家庭の教育力の低下等の緊急的課題に対応するため、文部科学省では、地域住民が主体となった子どもの居場所づくりに関する取組を推進しており、平成16年度から「地域子ども教室推進事業」として委託事業として実施している。

本事業は、緊急かつ計画的な取組として、3年間に限り国の委託費として予算措置するものであるため、平成19年度以降も各地域で継続的に取組が推進されるためには、委託期間に子どもたちの居場所（活動拠点）づくりとその運営体制の基礎が確立され、地域の自主的・独自の活動へと円滑に移行できる基盤を築く必要がある。

このため、本調査では、事業初年度である平成16年度における各地の事業成果等について整理するとともに、各地の特色ある取組内容等について調査し、広く全国に情報提供することにより、各地における子どもの居場所づくりに係る取組の推進に寄与することを目的として実施したものである。

2 調査事項

- (1) 実施者（運営協議会、実行委員会）、子ども（登録・非登録）及びその保護者、指導員・ボランティア、コーディネーター、学校（事業実施、未実施）、施設（事業実施）に対してアンケート調査を行い、子どもや関係者の事業実施前と現在の意識の変容や事業を通じた行動の変化などについて
- (2) 平成16年度実績の結果をもとに、本事業の開催状況や参加者・関係者数の把握及び相関関係について

3 調査主体・調査実施機関

調査主体：地域子ども教室推進事業普及委員会

文部科学省生涯学習政策局において、地域子ども教室推進事業の一層の普及に資する目的で、学識経験者等による「地域子ども教室推進事業普及委員会」を設置し、調査の方針や項目などの検討を行った。委員については以下のとおりである。

伊藤 康志	琉球大学教授
岡田 俊樹	大阪市教育委員会事務局教育施策担当部長
小澤紀美子	東京学芸大学教授
猿渡 智衛	弘前大学大学院地域社会研究科大学院生
西岡 伸紀	兵庫教育大学大学院教授
濱田 崇	弁護士
鍋島 豊	岡山県教育委員会生涯学習課長

（平成16年10月～平成17年3月 渡邊 倫子 役職同）

（以上、五十音順 座長）

調査実施機関：財団法人日本システム開発研究所

第 1 部



平成 16 年度「地域子ども教室推進事業」の 全国的な取組実態

第1部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の全国的な取組実態

1-1. 調査の概要

平成16年度には、全国の都道府県等が中心となった57運営協議会において4,192箇所の地域子ども教室が実施されている。

ここでは、地域子ども教室推進事業を実施した全国の運営協議会及び実行委員会から提出された事業報告書をもとに、平成16年度に実施された全地域の「地域子ども教室」に係る運営体制等の実態を把握するとともに、運営協議会・実行委員会に対するアンケート調査を実施し、具体的な活動内容等を整理した。

(1) 事業報告書の分析について

平成16年度に事業を実施した以下の全運営協議会及び全実行委員会からの事業報告書記載内容を分析対象とした。

事業報告書とは、「地域子ども教室推進事業」の委託を受けた運営協議会等が、事業終了時に当該事業の実績等をまとめ文部科学省に提出する実績報告書及び各様式を指す。

表1-1 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の実施状況

平成16年度 運営協議会数	57 (都道府県 47、政令指定都市 10)
平成16年度 実行委員会数	1,236(都道府県運営協議会下 1,212 政令指定都市運営協議会下 24)
平成16年度 地域子ども教室数	4,192(都道府県運営協議会下 3,558 政令指定都市運営協議会下 634)

(2) アンケート調査の実施について

運営協議会に対する実態調査

平成16年度に事業を実施した全57運営協議会を対象としてアンケート調査を実施した。

実行委員会に対する実態調査

平成16年度に事業を実施した実行委員会から、都市階層等に配慮して220箇所を抽出し、アンケート調査を実施した。

表1-2 実行委員会に対する実態調査の対象数及び回収数

都市階層 実行委員会数	県庁所在地	市部	町村部	特別区	政令市	合計
調査対象数	42	87	79	3	9	220
回収数 (回収率)	33 (78.6%)	72 (82.8%)	54 (68.4%)	2 (66.7%)	8 (88.9%)	169 (76.8%)
参考: 対象実行委員会での教室数	317	573	356	40	546	1,832

グラフ中の標記について

SA...単一回答(「あてはまるものひとつに 印」と聞いた設問)

MA...複数回答(「あてはまるものすべてに 印」と聞いた設問)

MA3...制限複数回答(「あてはまるものを3つまで 印」と聞いた設問)

平均多重回答数...MAの設問について1回答者あたりいくつ をつけたか

1 - 2 . 運営協議会の事業実施体制等について

(1) 運営協議会の組織体制

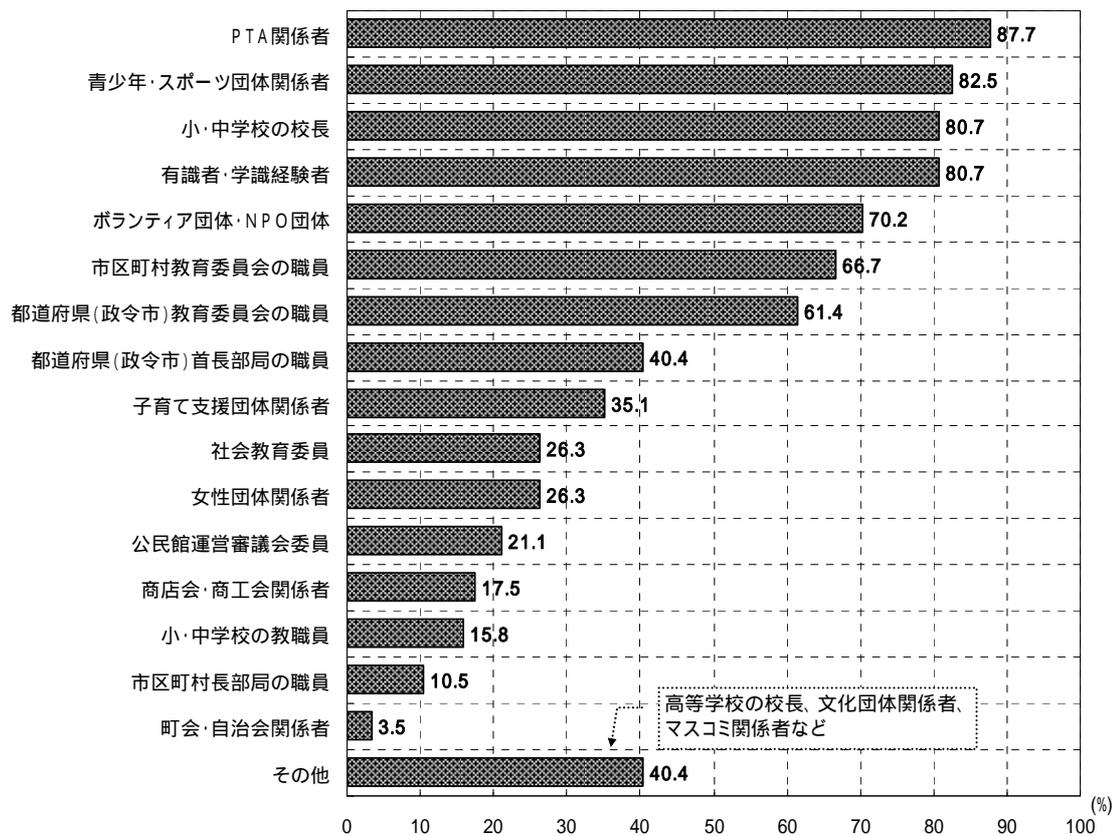
組織体制

〔アンケート結果より〕アンケート問1・2

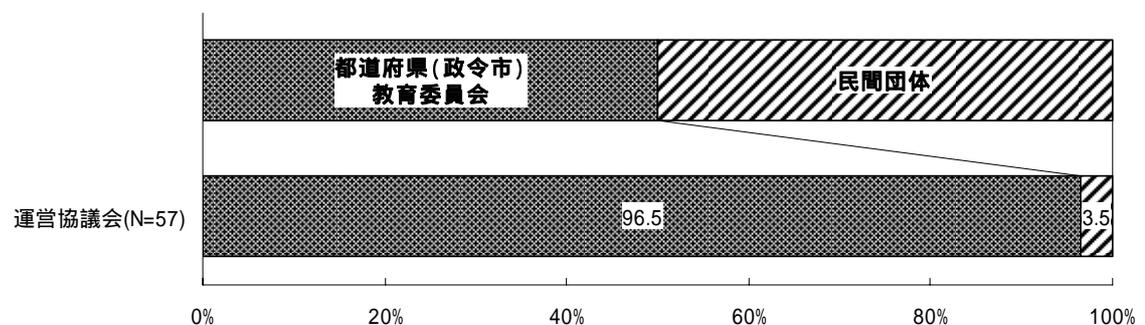
- ❖ 運営協議会の構成メンバーをみると、PTA 関係者、青少年・スポーツ団体関係者、小中学校の校長、有識者・学識経験者などは 8 割以上の運営協議会でメンバーに参画している。
- ❖ 運営協議会の事務局は、96.5%の運営協議会が都道府県（政令市）教育委員会に設置している。

問1 貴運営協議会には、どのような方が委員として参画していますか。(MA)

運営協議会 [N=57,平均多重回答数 = 7.7]



問2 貴運営協議会の事務局はどこに設置していますか。(SA)



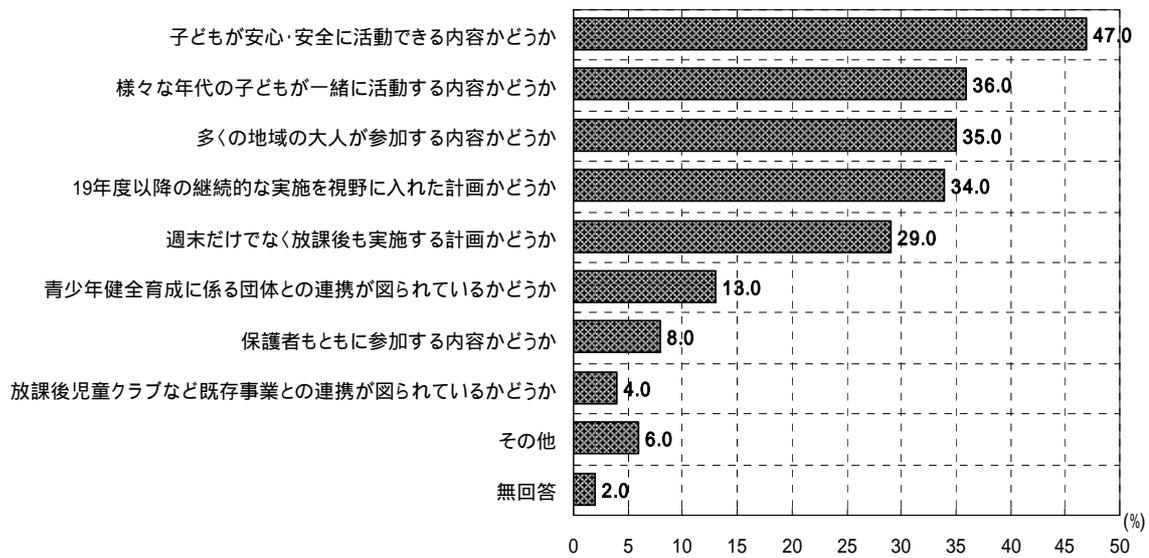
実行委員会への再委託選定の視点

〔アンケート結果より〕アンケート問4

- ❖ 実行委員会への再委託の決定に際しては、「子どもが安心・安全に活動できる内容かどうか」が最も高く47.0%を占めている。以下、「様々な年代の子どもと一緒に活動する内容かどうか(36.0%)」「多くの地域の大人が参加する内容かどうか(35.0%)」「19年度以降の継続的な実施を視野に入れた計画かどうか(34.0%)」などの視点で選定・審査が行われている。
- ❖ また、特に重視した視点は、「19年度以降の継続的な実施を視野に入れた計画かどうか(28.0%)」が最も高く、事業の継続性が重視されている。

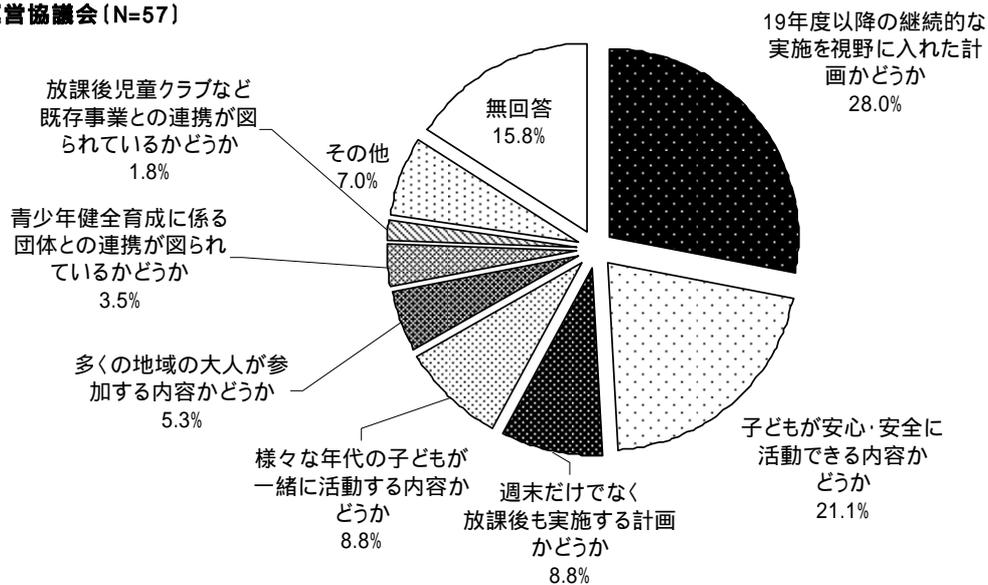
問4 貴運営協議会は、本事業における実行委員会への再委託の決定に際し、どのような視点で選定・審査を行いましたか。(MA, 最も重視したものについてSA)

運営協議会 [N=57, 平均多重回答数 = 3.8]



最も重視したこと

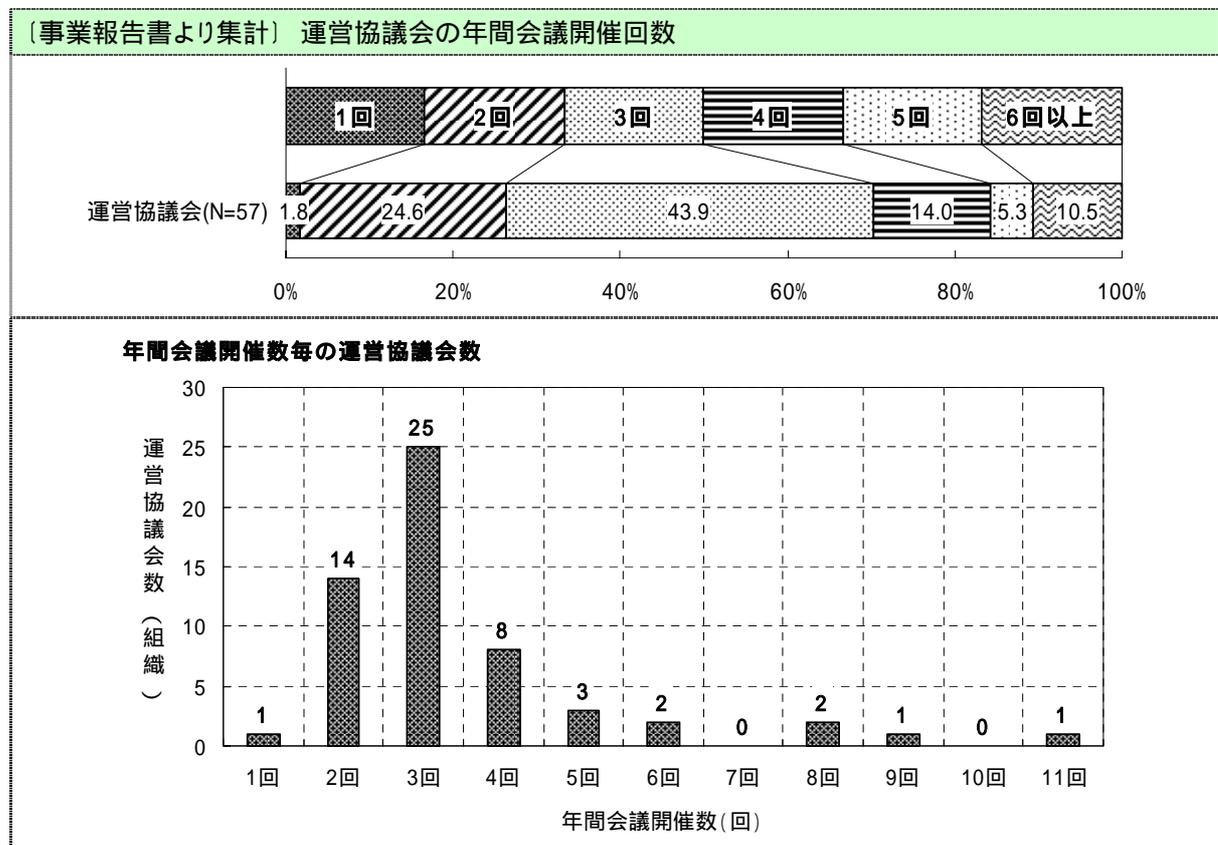
運営協議会 (N=57)



会議開催状況

〔事業報告書より〕

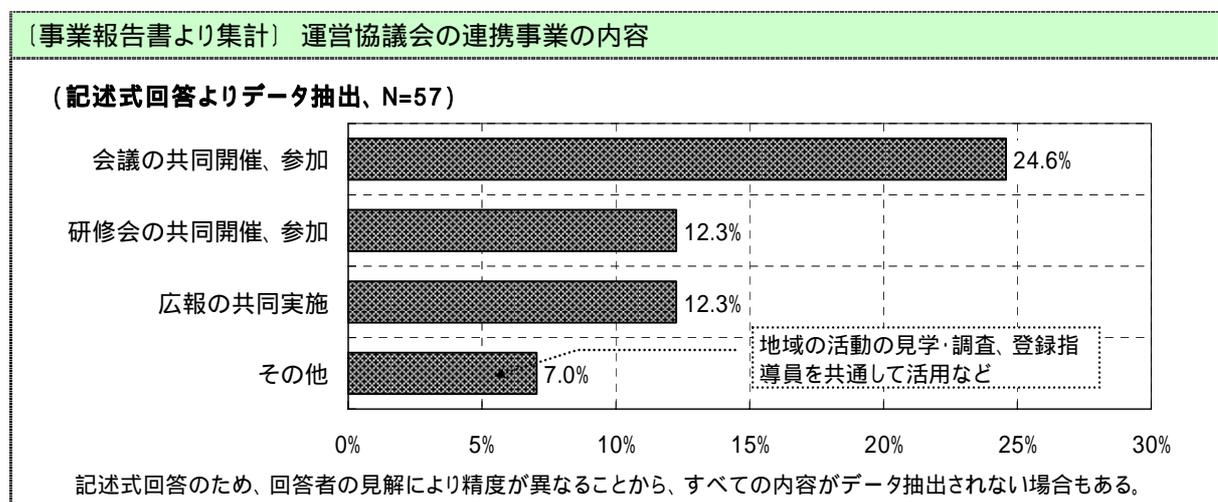
❖ 運営協議会の年間会議開催数は、「3回開催」43.9%（25 運営協議会）、「2回開催」24.6%（14 運営協議会）が多く、2～3回で全体の約7割を占めている。



運営協議会での連携事業

〔事業報告書より〕

❖ 他の都道府県の独自事業等と連携して「会議の共同開催、参加」を行っている運営協議会が24.6%みられるほか、「研修会の共同開催、参加」や「広報の共同実施」が12.3%の運営協議会で実施されている。

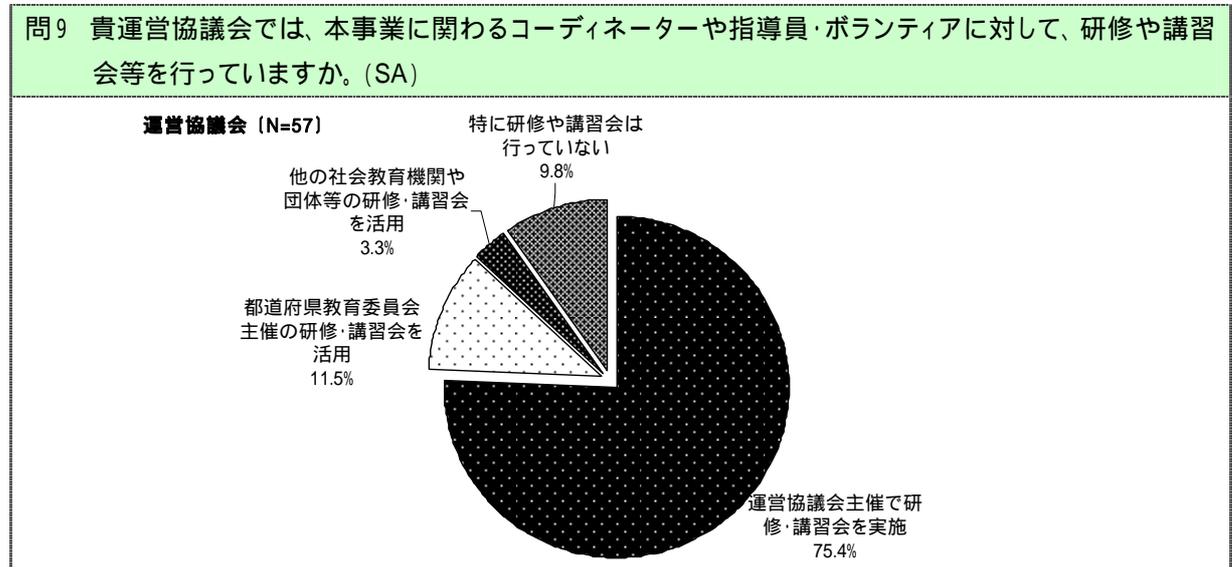


(2) 運営協議会での研修会の開催状況

研修会の開催主体

〔アンケート結果より〕アンケート問9

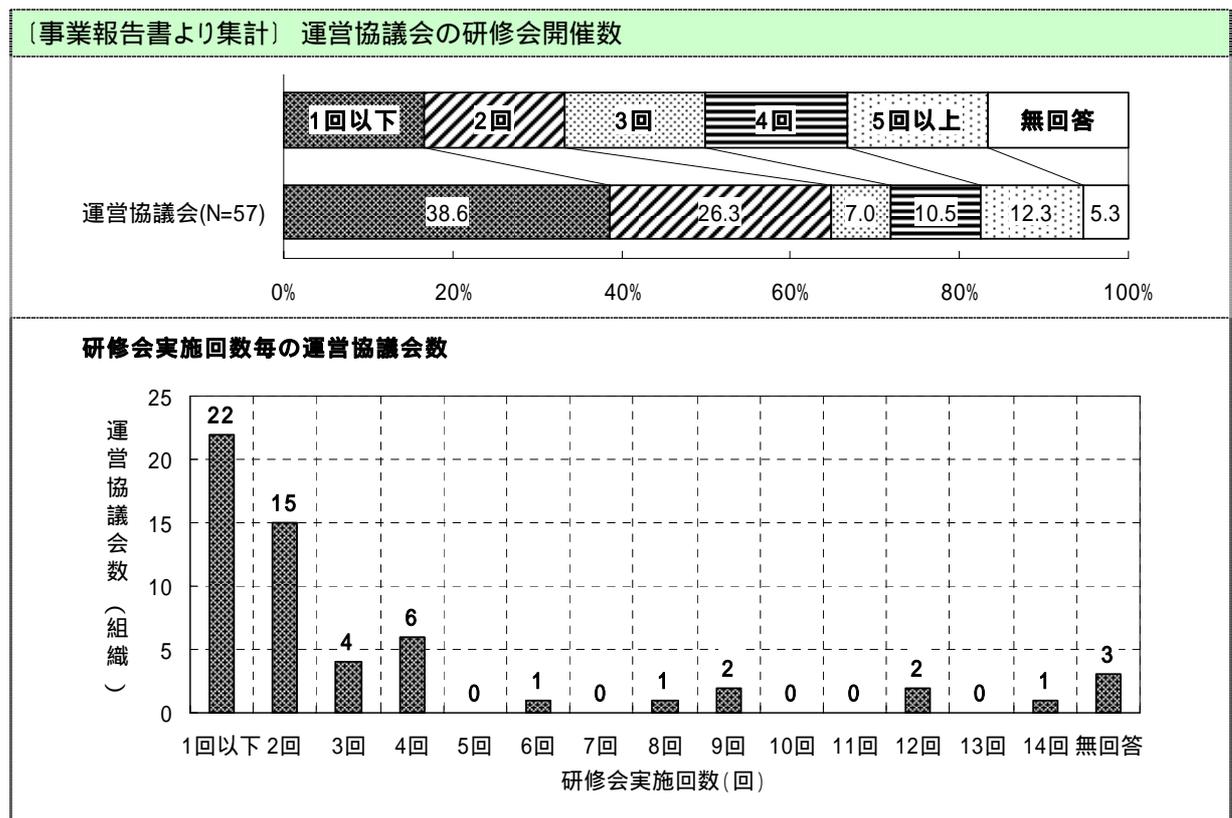
❖ 運営協議会でのコーディネーターや指導員・ボランティアに対する研修の実施状況については、「運営協議会主催で研修・講習会を実施」しているケースが最も多く、75.4%を占めている。



研修会の開催数

〔事業報告書より〕

❖ 運営協議会での研修会の開催数は、「1回以下」38.6% (22 運営協議会)、「2回」26.3% (15 運営協議会)が多く、2回までの開催が全体の6割強を占めている。

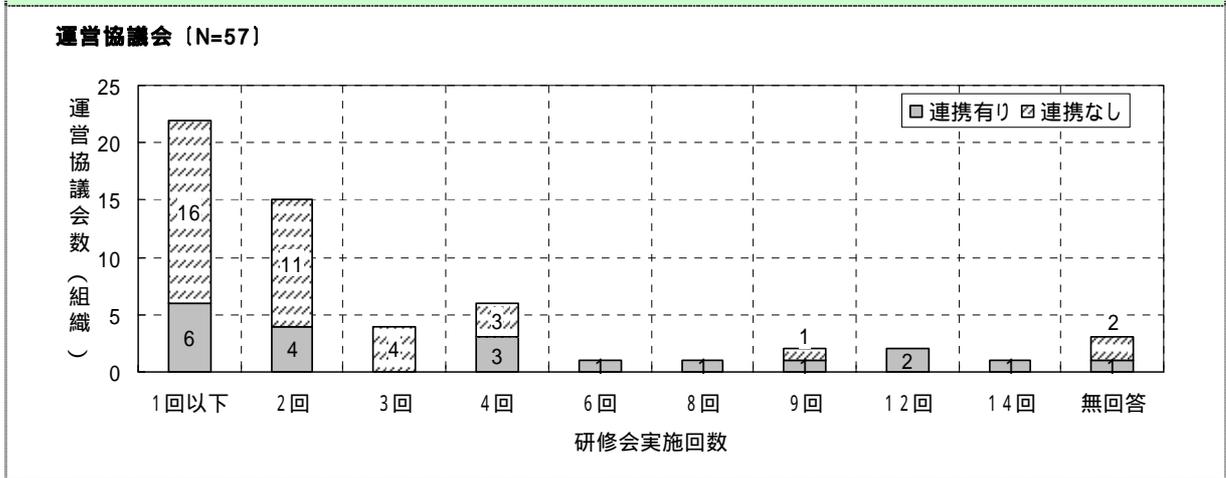


他事業と連携した研修会の開催状況

〔事業報告書より〕

❖ 運営協議会では他の事業と連携して研修会を開催している場合があるが、年度を通じた研修会の実施回数との関係は見られなかった。

〔事業報告書より集計〕 研修会実施回数と研修会連携事業の有無

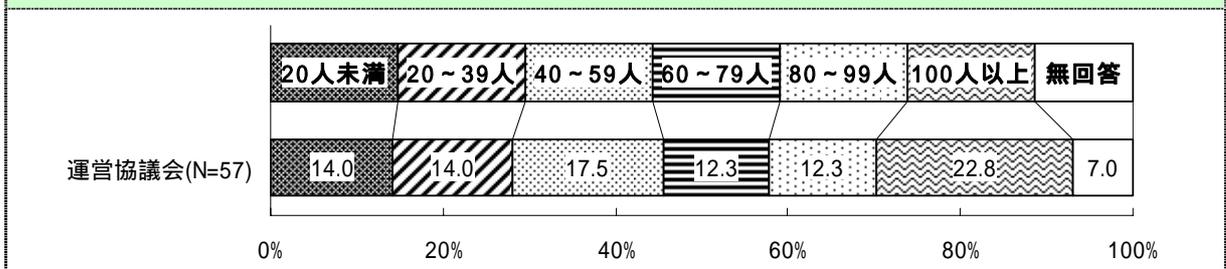


研修会への参加状況

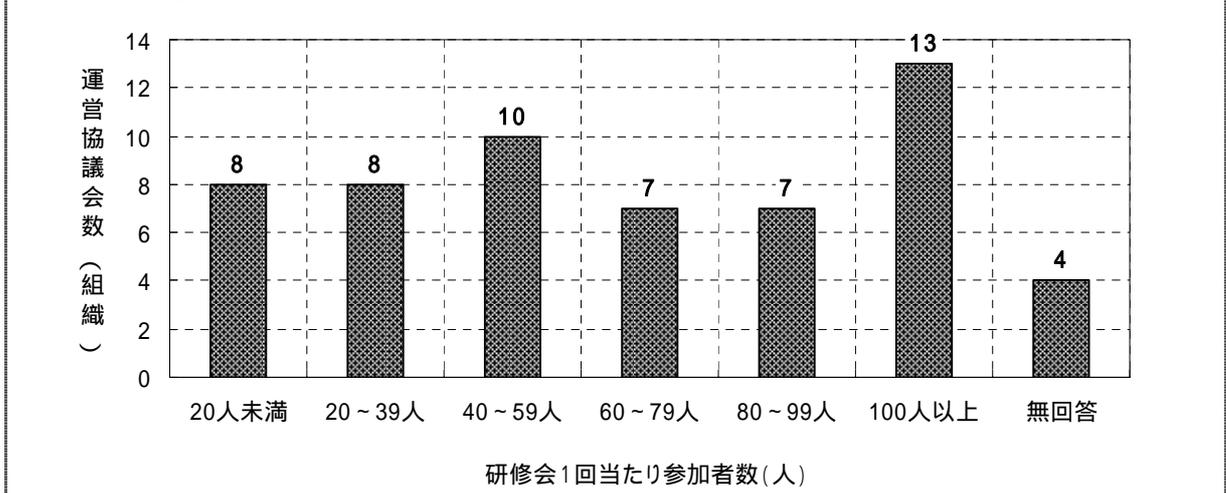
〔事業報告書より〕

❖ 1回あたりの研修会への参加者数をみると、「100人以上」という比較的規模の大きい研修を行っている運営協議会が22.8%と最も多く、次いで「40～59人」規模が17.5%であった。

〔事業報告書より集計〕 運営協議会が実施している研修会への1回あたり参加者数



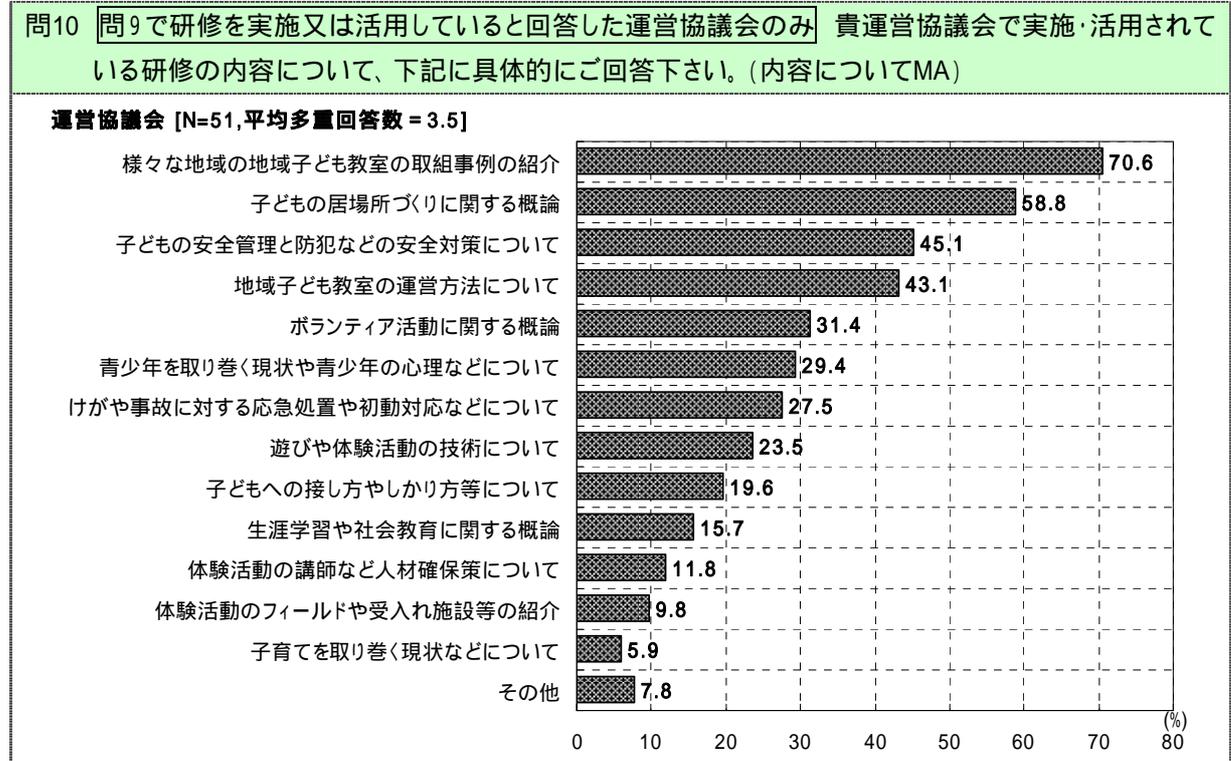
運営協議会 (N=57)



研修会の内容

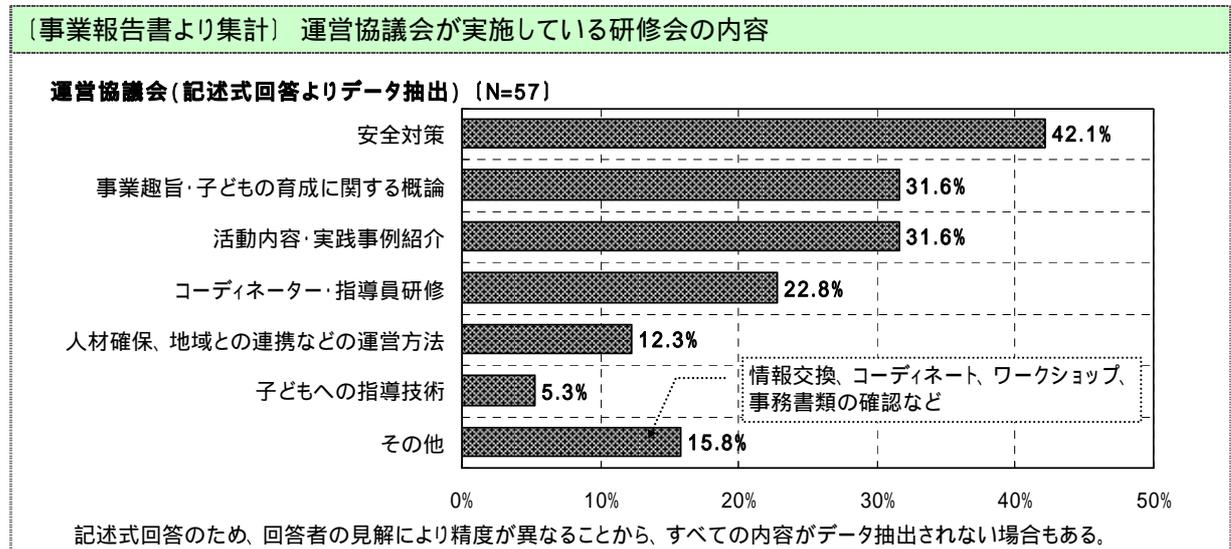
〔アンケート結果より〕アンケート問10

❖ 運営協議会で実施・活用されている研修の内容をみると、「様々な地域の取組事例の紹介（70.6%）」や「子どもの居場所づくりに関する概論（58.8%）」など、基本的な事業説明に関することや、「子どもの安全管理と防犯などの安全対策について（45.1%）」などが多く行われている。



〔事業報告書より〕

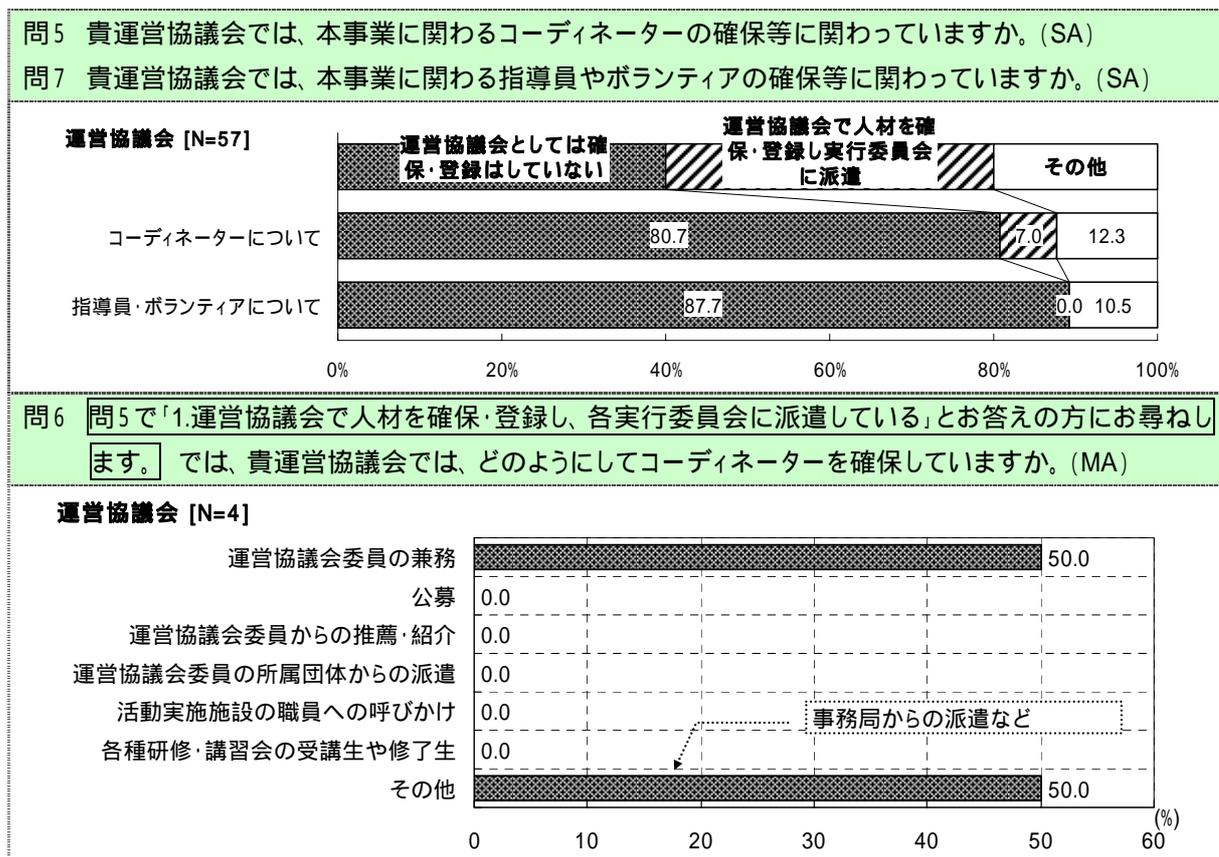
❖ 研修会の内容については、事業報告書でも“事例紹介”“概論”“安全対策”などが多く報告されている。その内訳は、「安全対策（42.1%）」に関するものが最も多く、次いで、「事業趣旨・子どもの育成に関する概論」や「活動内容・実践事例紹介」が31.6%の運営協議会で実施されている。



(3) 運営協議会におけるコーディネーター・指導員の確保・登録方法

〔アンケート結果より〕アンケート問5~8

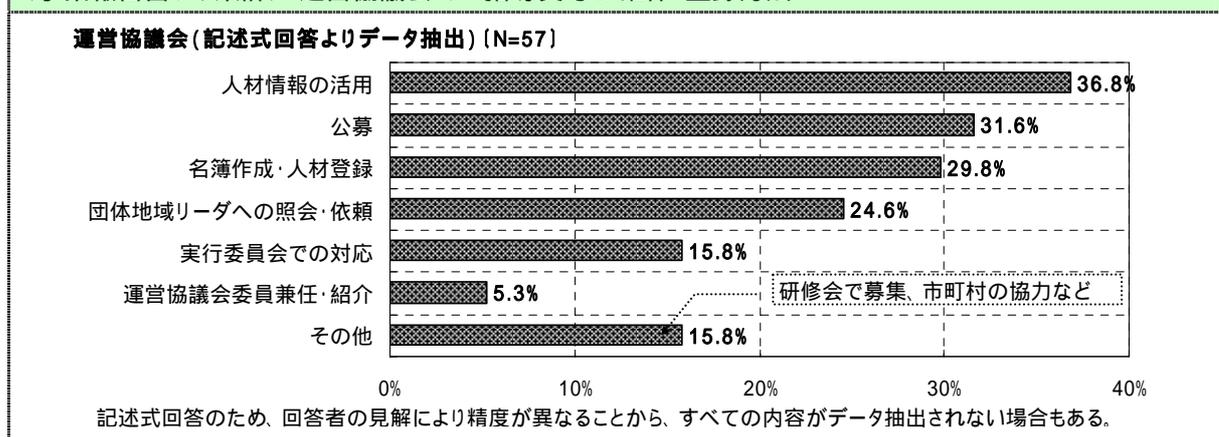
- ❖ 運営協議会でのコーディネーターの確保は、「確保・登録はしていない」が8割以上を占めている。また、「運営協議会で人材を確保・登録し実行委員会に派遣」しているケースが7.0%であり、その確保の方法は「運営協議会委員の兼務(50.0%)」となっている。
- ❖ 一方、指導員・ボランティアについては、「運営協議会で人材を確保・登録し実行委員会に派遣」と回答した運営協議会はなかった。



〔事業報告書より〕

- ❖ 事業報告書を見ると、実行委員会での取組を含めた指導員の確保・登録については、体験活動ボランティア活動支援センター等の「人材情報の活用(36.8%)」や広報等による「公募(31.6%)」、「名簿作成・人材登録(29.8%)」が多く報告されている。

(事業報告書より集計) 運営協議会での指導員等の確保・登録方法

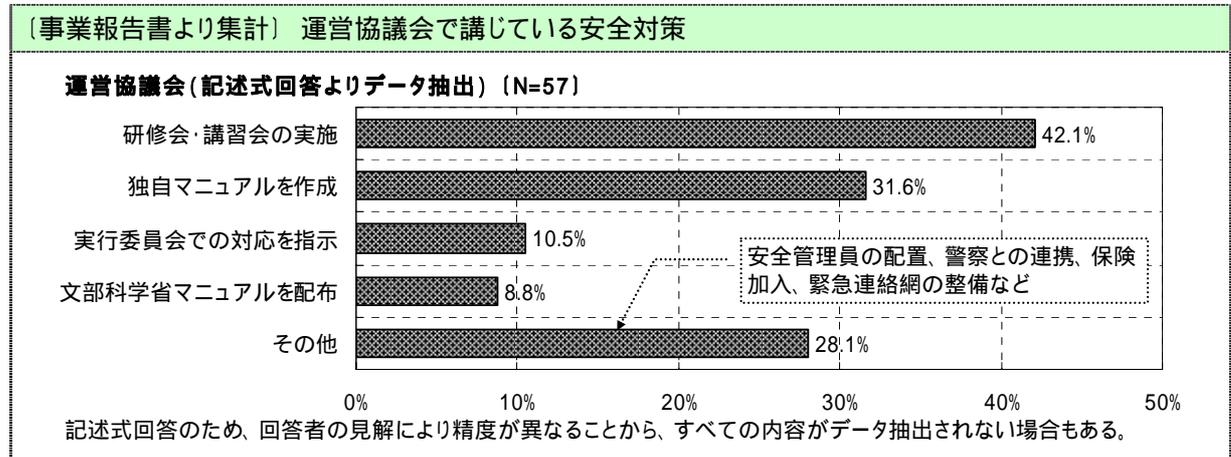


(4) 運営協議会の安全対策

安全対策

〔事業報告書より〕

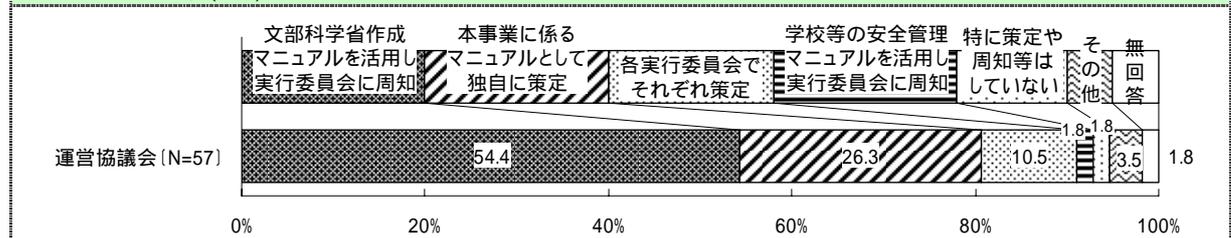
- ❖ 運営協議会としての安全対策への取組としては、「研修会・講習会の実施(42.1%)」や「独自マニュアルを作成(31.6%)」して実行委員会に配布するなどが行われている。



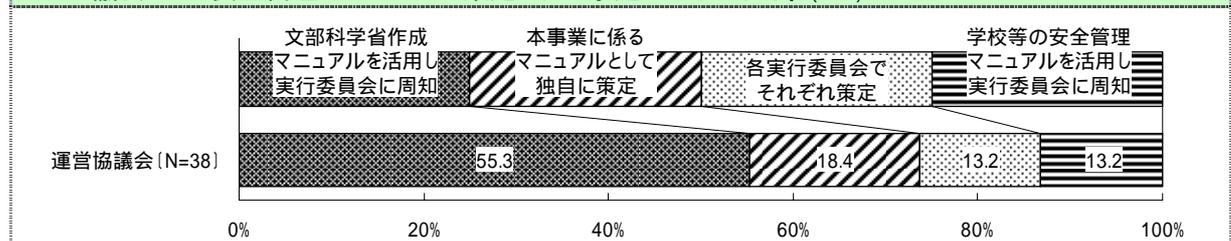
〔アンケート結果より〕 アンケート問 11～14

- ❖ 運営協議会での安全管理マニュアルの活用状況を見ると、「文部科学省作成マニュアルを活用し実行委員会に周知(54.3%)」したり「本事業に係るマニュアルとして独自に策定(26.3%)」するなど、9割の運営協議会でマニュアルの活用が推進されている。
- ❖ 独自マニュアルを策定していない運営協議会の55.3%が「文部科学省作成マニュアルを活用」するとしており、今後も運営協議会として独自に策定するのではなく、現在使用されている文部科学省や実行委員会、学校等のマニュアルでの対応を継続するところが多いと考えられる。
- ❖ その他の安全対策としては、子どもや指導員等に保険加入を指導しているという回答がそれぞれ6割近く見られ、その種類は「スポーツ安全保険(63.2%)」が多い。

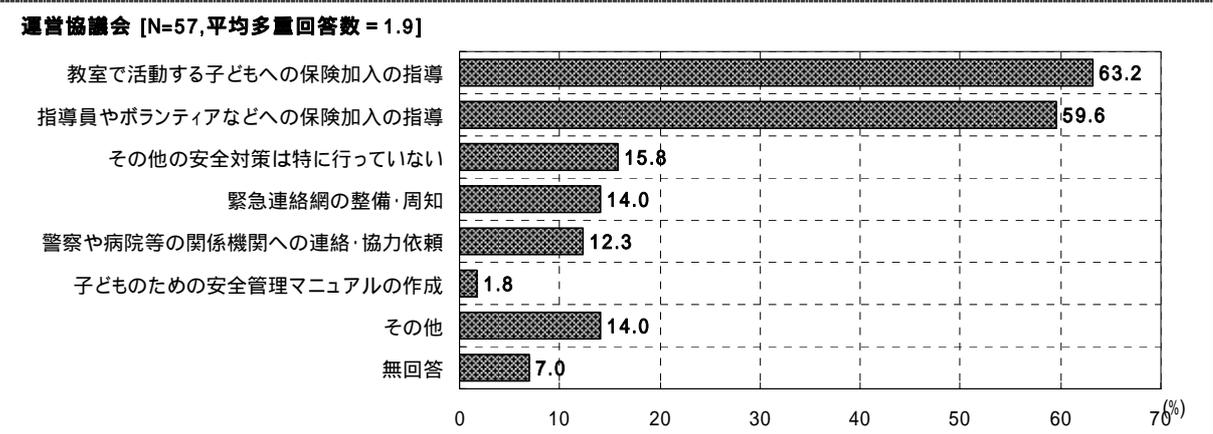
問11 貴運営協議会では、「地域子ども教室」における安全対策として、安全管理マニュアル等を策定されましたか。(SA)



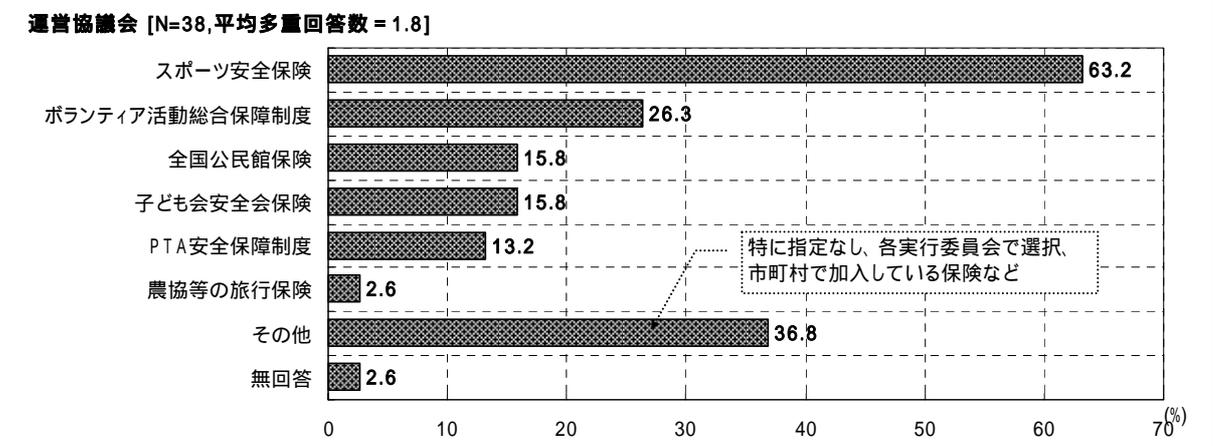
問12 問11で「2.各実行委員会ですべて策定した」「3.学校等の安全管理マニュアルを活用した」「4.文部科学省が作成した安全管理マニュアルを活用した」とお答えの方にお尋ねします。今後、貴運営協議会として安全管理マニュアルを策定される予定はありますか。(SA)



問13 安全管理マニュアルの策定以外に、貴運営協議会において図られた安全対策はありますか。(SA)



問14 問13で「4.指導員やボランティアなどへの保険加入の指導」「5.教室で活動する子どもへの保険加入の指導」につけた方にお尋ねします。貴運営協議会では、どのような保険への加入を指導していますか。(MA)

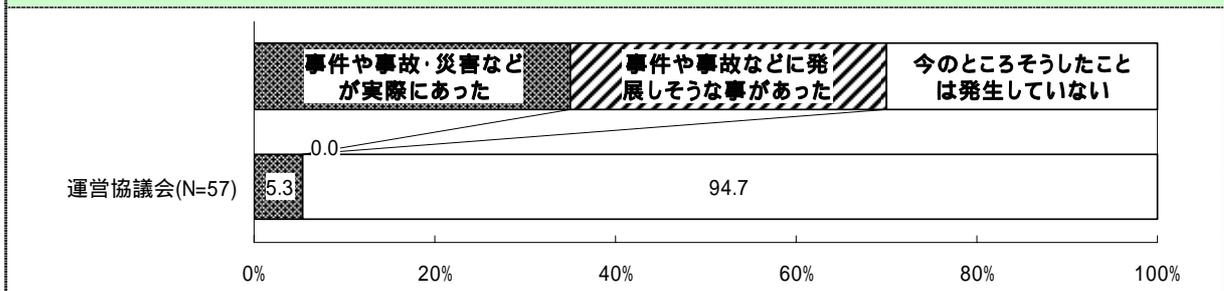


事故・事件や災害等の発生の有無

[アンケート結果より] アンケート問 15・16 (自由記述)

❖ 地域子ども教室で発生した事故・事件や災害等について「実際にあった」という回答が 5.3%見られた。その内容は“子どものけが”が多く、応急措置後、病院で治療を受けさせるなどの対応がなされている。このほか、“台風による中止”や“地域子ども教室の近くで傷害事件発生による中止”があり、その際には緊急連絡網が使われている(事件・事事故例の詳細については第3部を参照)。

問15 貴運営協議会で実施した「地域子ども教室」で、これまで何か事故や事件、災害、あるいはそうした事態に発展しそうなことがありましたか。(SA)



(5) 運営協議会における事業推進体制

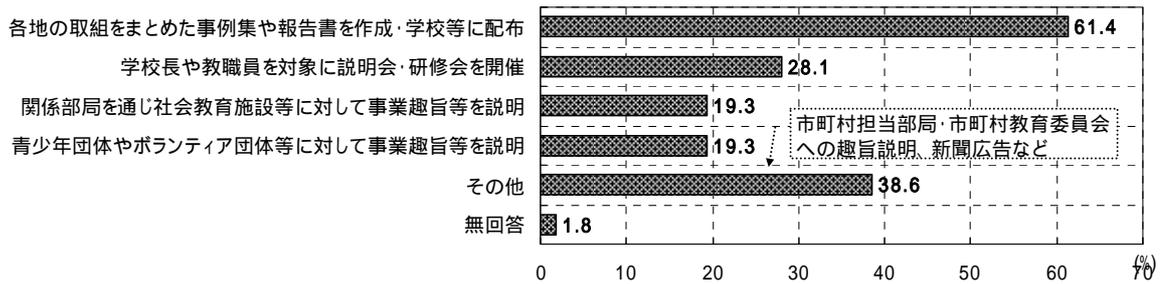
広報活動の内容

〔アンケート結果より〕アンケート問17・18

- ❖ 事業推進のために行った活動としては、「各地の取組をまとめた事例集や報告書を作成・学校等に配布」した運営協議会が61.4%と多くなっている。
- ❖ また、子どもや地域の大人の参加を促進するための広報活動として「広報資料を作成し学校等を通じて子どもや家庭に配布(61.4%)」や「行政の広報誌に紹介記事を掲載(40.4%)」、「新聞やテレビ・ラジオなどでの広報・CM(38.6%)」が実施されている。

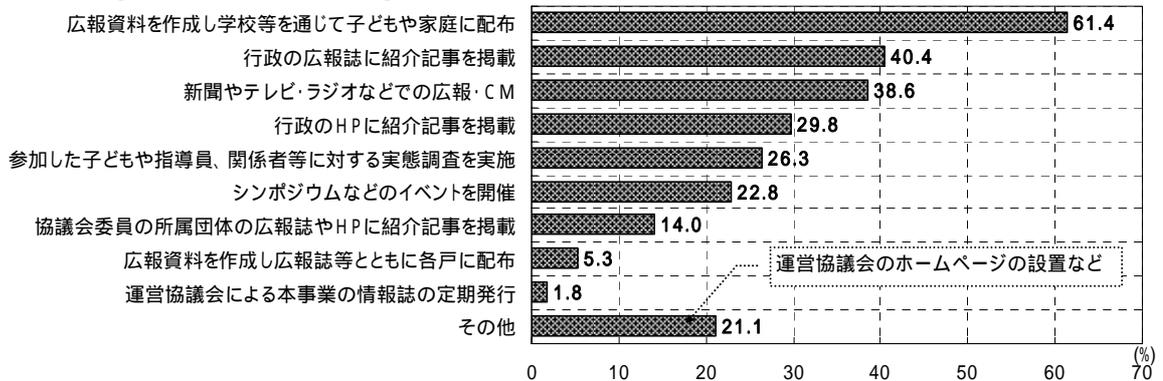
問17 貴運営協議会では、本事業を推進するために、どのような活動をされましたか。(MA)

運営協議会 [N=57,平均多重回答数=1.7]



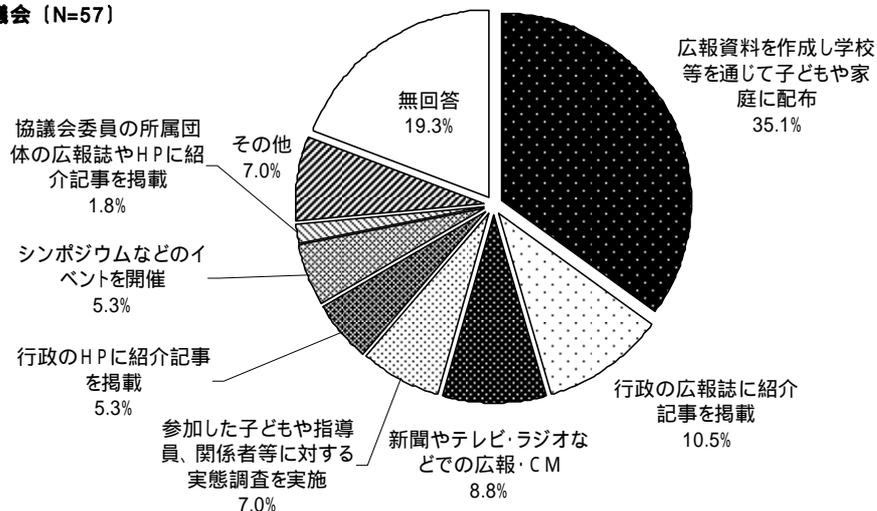
問18 貴運営協議会では、本事業への子どもや地域の大人の参加を促進するために、どのような広報活動を行いましたか。(MA,最も力を入れたものについてSA)

運営協議会 [N=57,平均多重回答数=2.6]



最も力を入れた広報活動

運営協議会 (N=57)

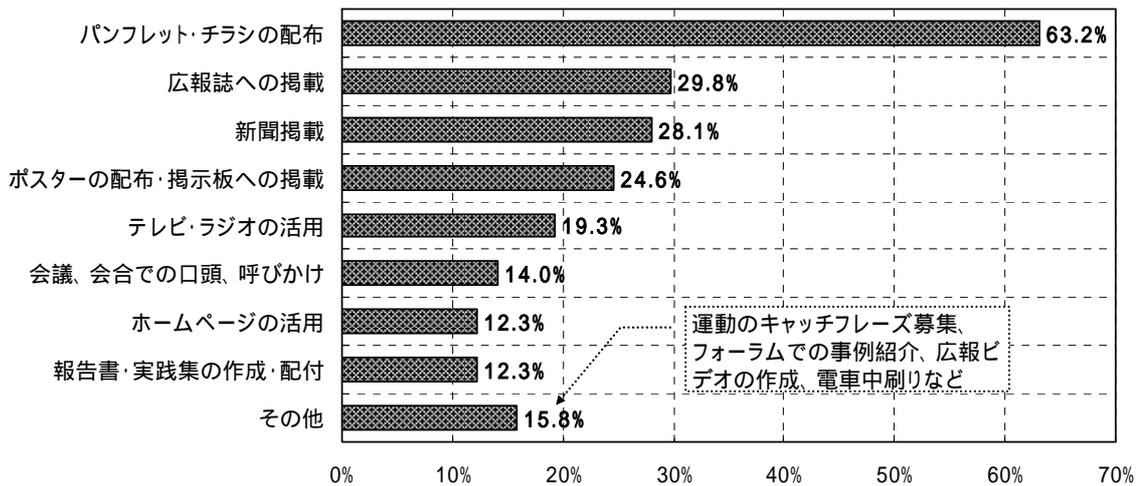


〔事業報告書より〕

❖事業報告書を見ても、“パンフレット・チラシ等の広報資料”“広報誌”“新聞”などを活用した広報活動が多く報告されている。その内訳は、「パンフレット・チラシの配布(63.2%)」が最も多く、以下「広報誌への掲載(29.8%)」、「新聞掲載(28.1%)」、「ポスターの配布・掲示板への掲載(24.6%)」などによる広報活動が実施されている。

〔事業報告書より集計〕 運営協議会の広報活動の内容

運営協議会(記述式回答よりデータ抽出)(N=57)



記述式回答のため、回答者の見解により精度が異なることから、すべての内容がデータ抽出されない場合もある。

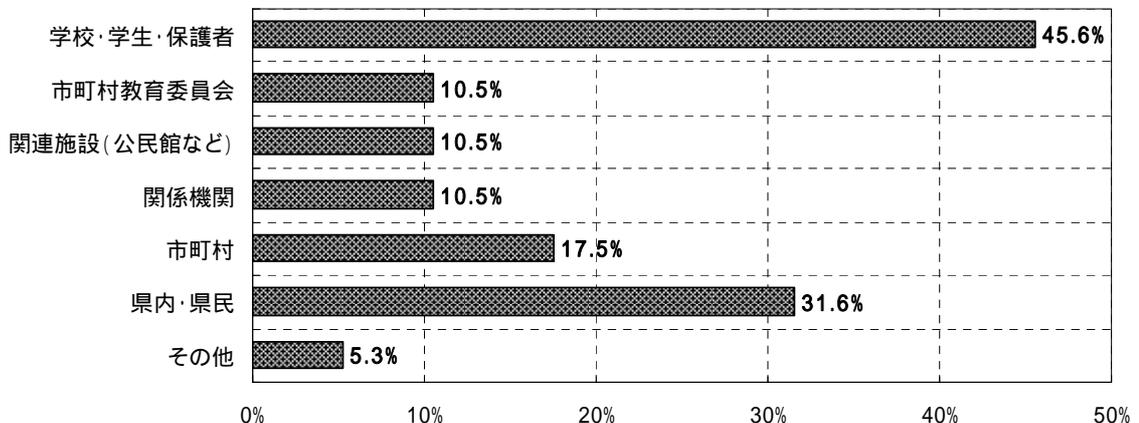
広報活動の対象

〔事業報告書より〕

❖広報活動の対象は、本事業の対象となる「学校・学生・保護者」に直接情報を提供する場合が最も多く45.6%を占めている。その他、県広報誌や地方新聞、TVなどで「県内・県民」向けに広く広報活動が行われている。

〔事業報告書より集計〕 運営協議会の広報活動の対象

運営協議会(記述式回答よりデータ抽出)(N=57)



記述式回答のため、回答者の見解により精度が異なることから、すべての内容がデータ抽出されない場合もある。

(6) 運営協議会としての今後の課題

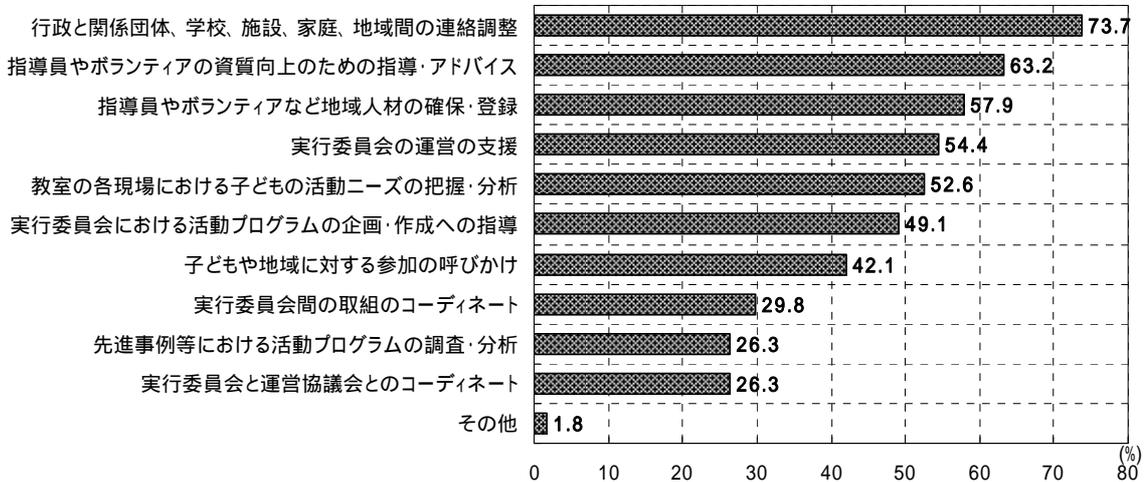
コーディネーターに期待する役割

〔アンケート結果より〕アンケート問19

- ❖ 事業の推進において運営協議会がコーディネーターに期待する役割としては、「行政と関係団体、学校、施設、家庭、地域間の連絡調整」が最も高く73.7%を占めており、次いで「指導員やボランティアの資質向上のための指導・アドバイス(63.2%)」や「指導員やボランティアなど地域人材の確保・登録(57.9%)」などが期待されている。
- ❖ 特に強く期待する役割としては、「行政と関係団体、学校、施設、家庭、地域間の連絡調整(28.1%)」、「指導員やボランティアなど地域人材の確保・登録(14.0%)」に加え、「実行委員会と運営協議会とのコーディネート(14.0%)」など調整役としての役割についても高い割合となっている。

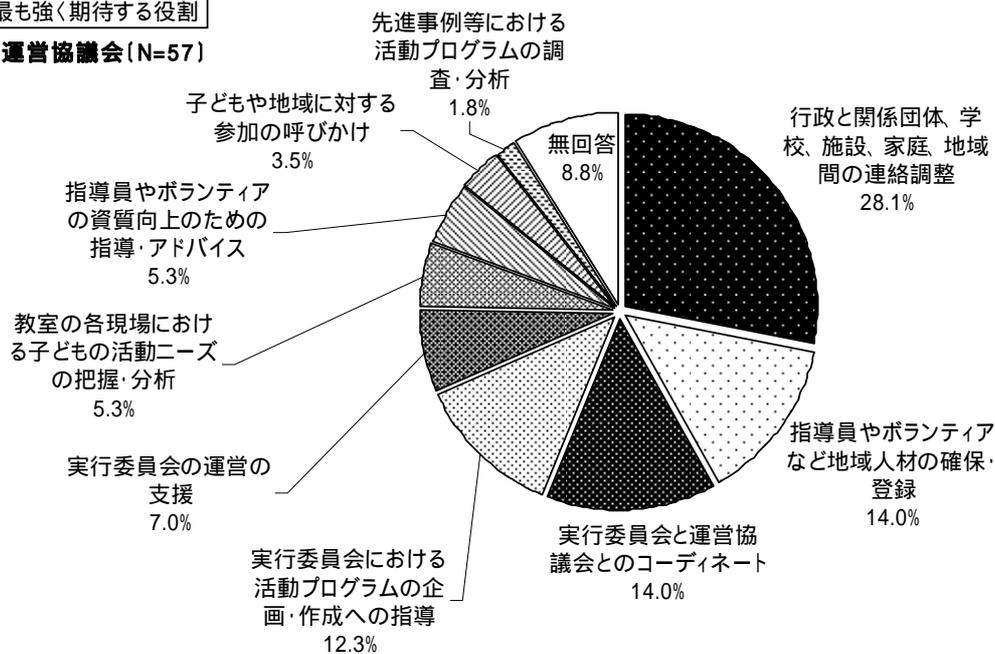
問19 貴運営協議会では、本事業の推進において、コーディネーターに対してどのような役割を期待しますか。(MA, 最も強く期待する役割についてSA)

運営協議会 [N=57, 平均多重回答数 = 4.8]



最も強く期待する役割

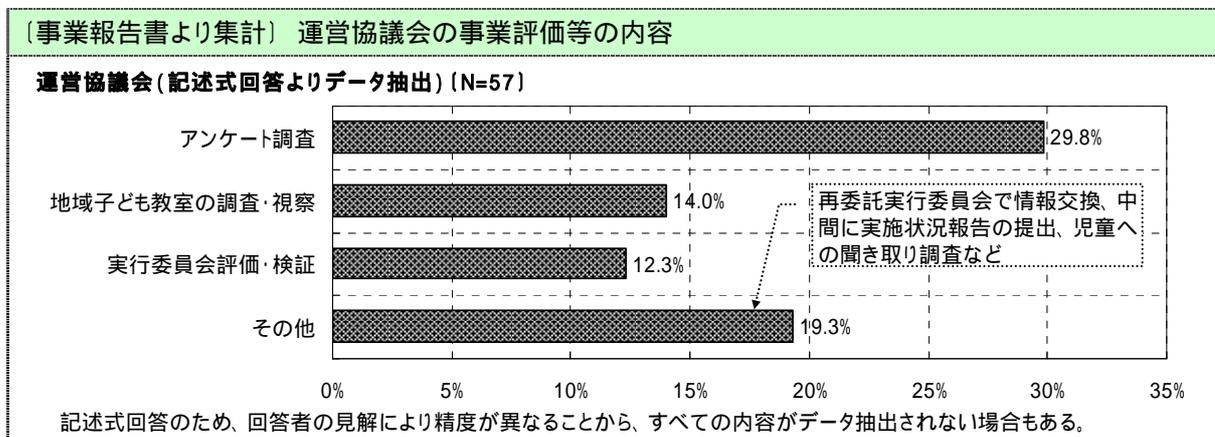
運営協議会 (N=57)



運営協議会の事業評価の状況

〔事業報告書より〕

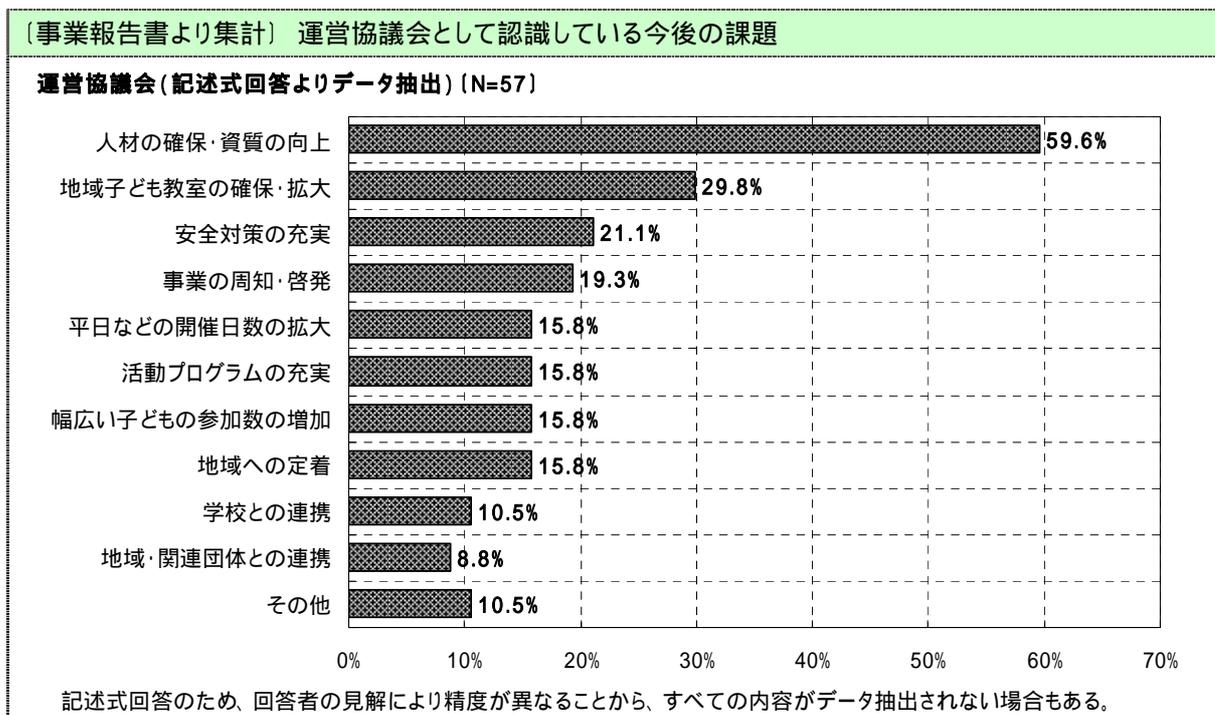
- ❖ 運営協議会では、事業評価に際して、実行委員会や地域子ども教室に対する「アンケート調査（29.8%）」を行ったり、運営協議会委員による「地域子ども教室の調査・視察（14.0%）」などを行ったりするケースが見られる。



今後の課題

〔事業報告書より〕

- ❖ 運営協議会が指摘している今後の課題について事業報告書から整理すると、指導者やコーディネーター等の「人材の確保・資質の向上」について最も多く59.6%の運営協議会が課題としている。また、域内全域への「地域子ども教室の確保・拡大（29.8%）」や「安全対策の充実（21.1%）」などについても比較的多くの運営協議会から課題として挙げられている。

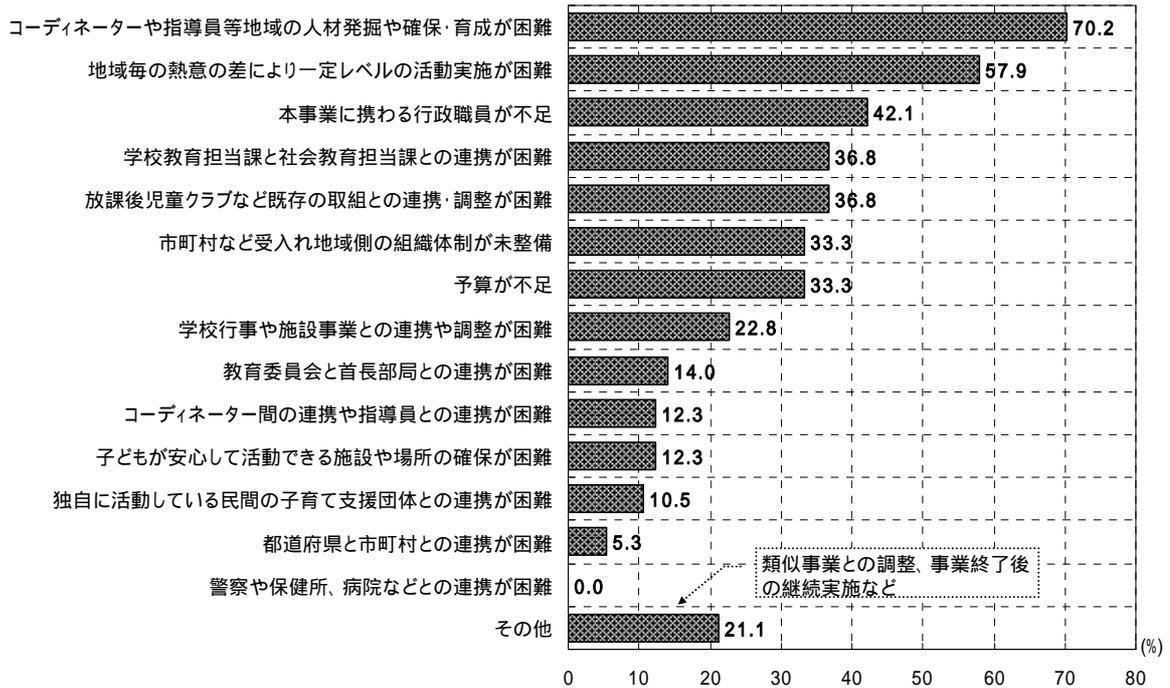


〔アンケート結果より〕アンケート問20

❖ アンケート調査からも、「地域子ども教室推進事業」の事業運営上の課題として、「コーディネーターや指導員等地域の人材発掘や確保・育成が困難（70.2%）」である点が最も高い割合となっているほか、「地域ごとの熱意の差により一定レベルの活動実施が困難（57.9%）」である点も比較的高い割合を占めている。

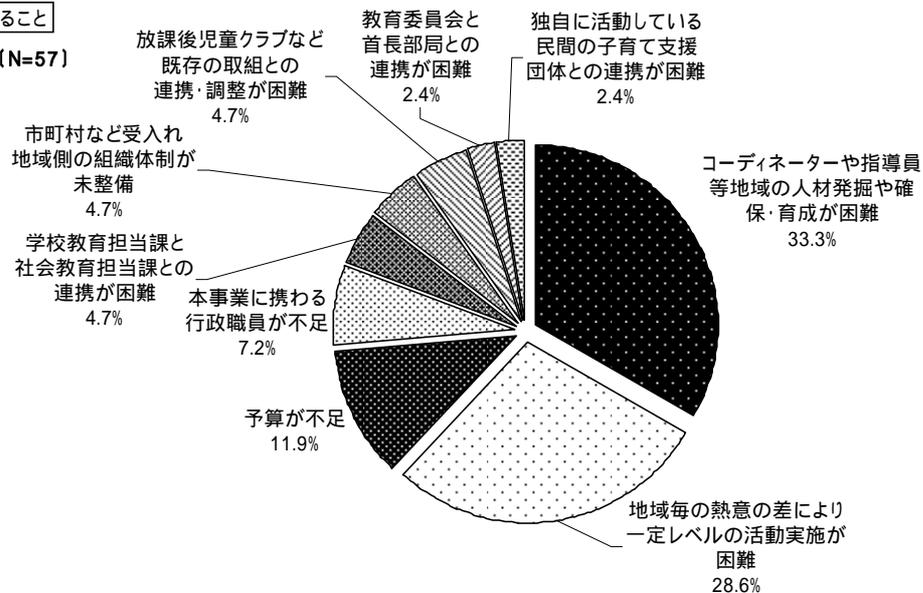
問20 貴運営協議会では、「地域子ども教室推進事業」を実施してみて、事業運営上どのような課題があると思われますか。（MA, 最も課題と思われるものについてSA）

運営協議会 [N=57, 平均多重回答数 = 4.1]



最も課題となること

運営協議会 (N=57)

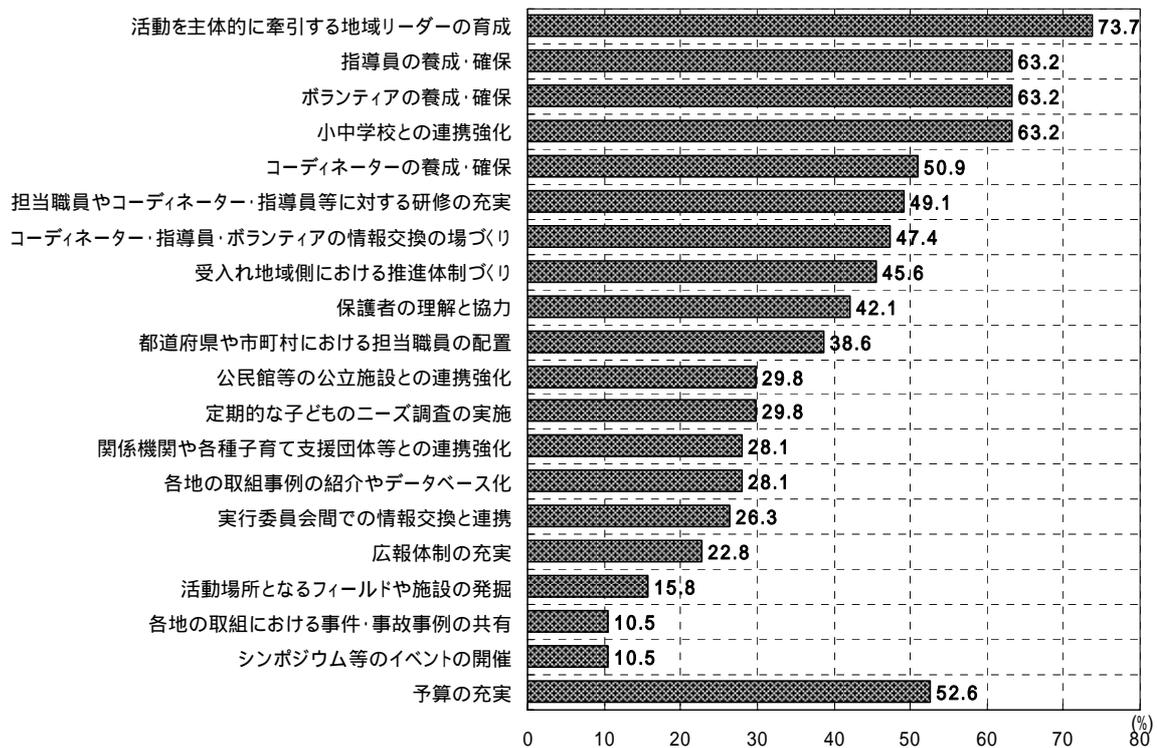


〔アンケート結果より〕アンケート問 21

❖ 「地域子ども教室推進事業」の推進に向けて必要なこととしては、「活動を主体的に牽引する地域リーダーの育成 (73.7%)」や「指導員の養成・確保」、「ボランティアの養成・確保」、「小中学校との連携強化」(各 63.2%) など、人材育成や学校との連携に関するものが高い割合を占めている。

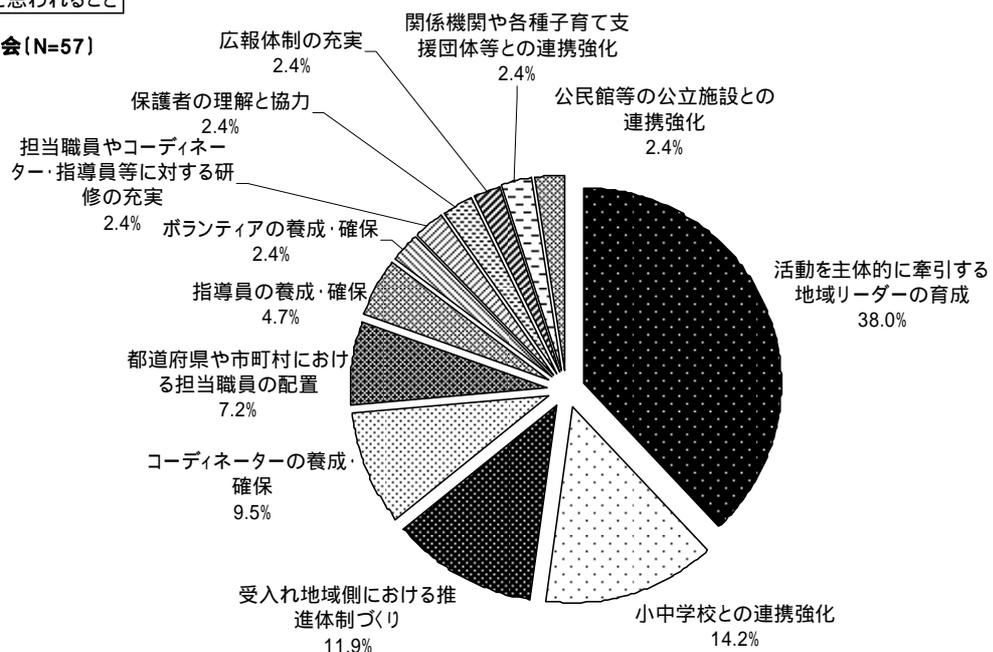
問21 貴運営協議会において「地域子ども教室推進事業」をより一層推進していくにあたって、今後どのようなことが必要だと思いますか。(MA, 最も必要と思われるものについてSA)

運営協議会 [N=57, 平均多重回答数 = 4.5]



最も必要と思われること

運営協議会 (N=57)

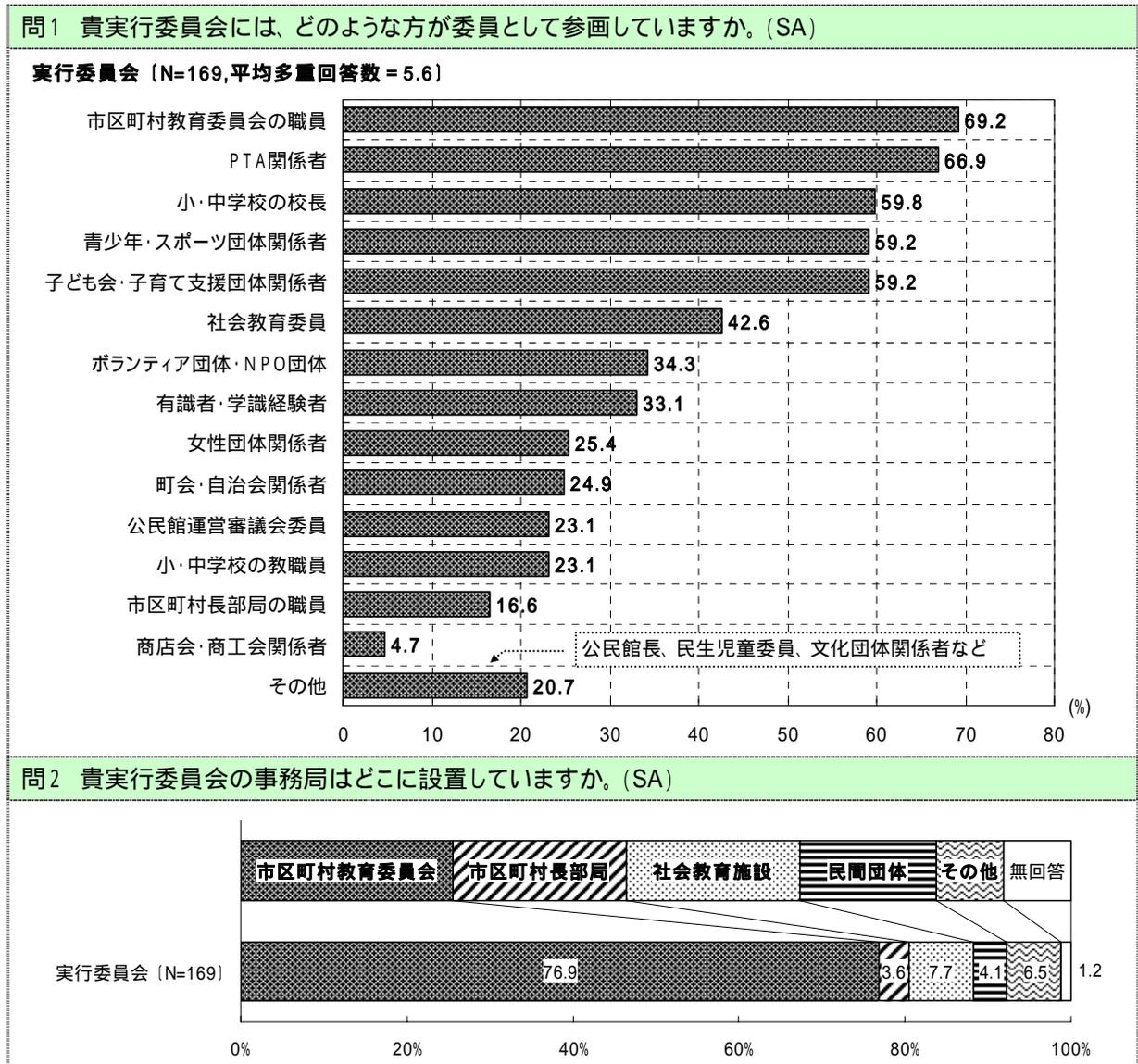


1 - 3 . 実行委員会の事業実施体制等について

(1) 実行委員会の組織体制

〔アンケート結果より〕アンケート問1・2

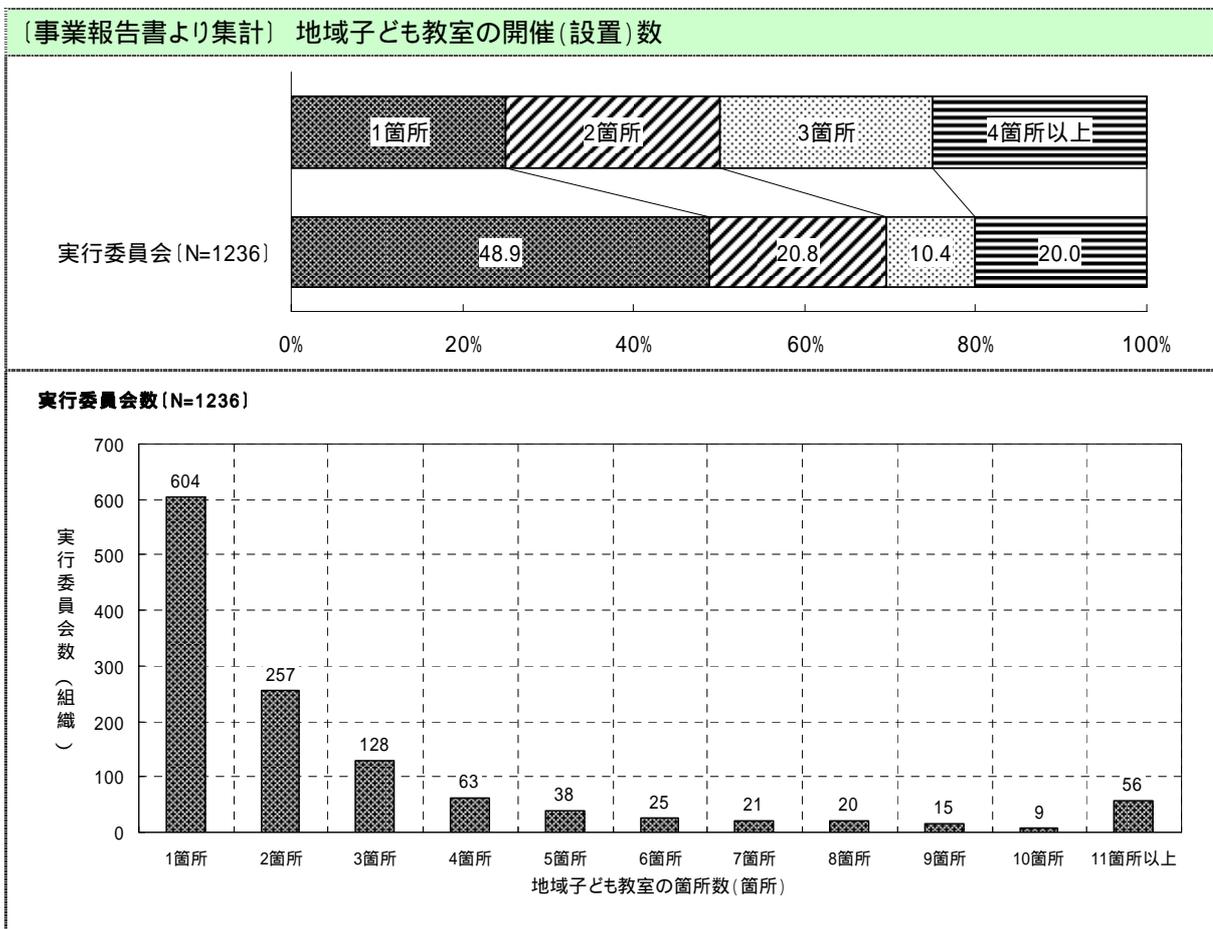
- ❖ 実行委員会の構成メンバーをみると、市区町村教育委員会の職員、PTA関係者、小・中学校の校長、青少年・スポーツ団体関係者、子ども会・子育て支援団体関係者などは5割以上の実行委員会でメンバーに参画している。
- ❖ 実行委員会の事務局は、76.9%の実行委員会が市区町村教育委員会に設置している。



(2) 実行委員会ごとの地域子ども教室開催(設置)数

〔事業報告書より〕

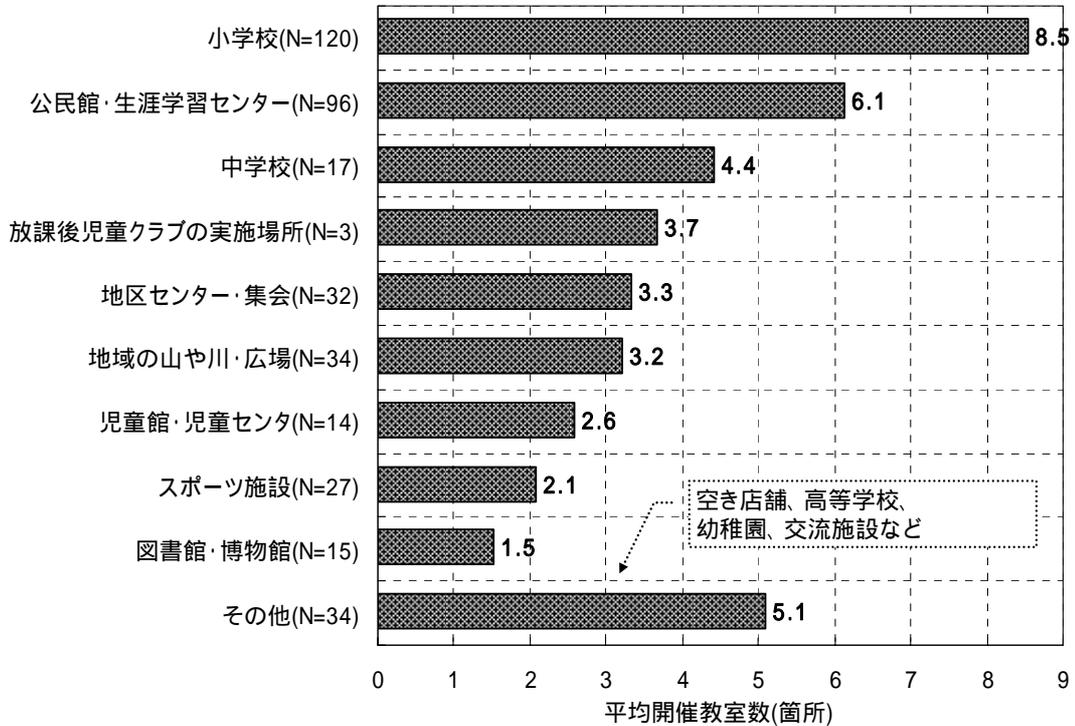
- ❖ 実行委員会ごとの地域子ども教室開催(設置)数をみると、「1箇所」が48.9%(604実行委員会)と最も多くなっている。
- ❖ また、4箇所以上の地域子ども教室を開催している実行委員会も全体の2割程度みられ、多いところでは11箇所以上の教室が開催されている実行委員会が56組織ある。



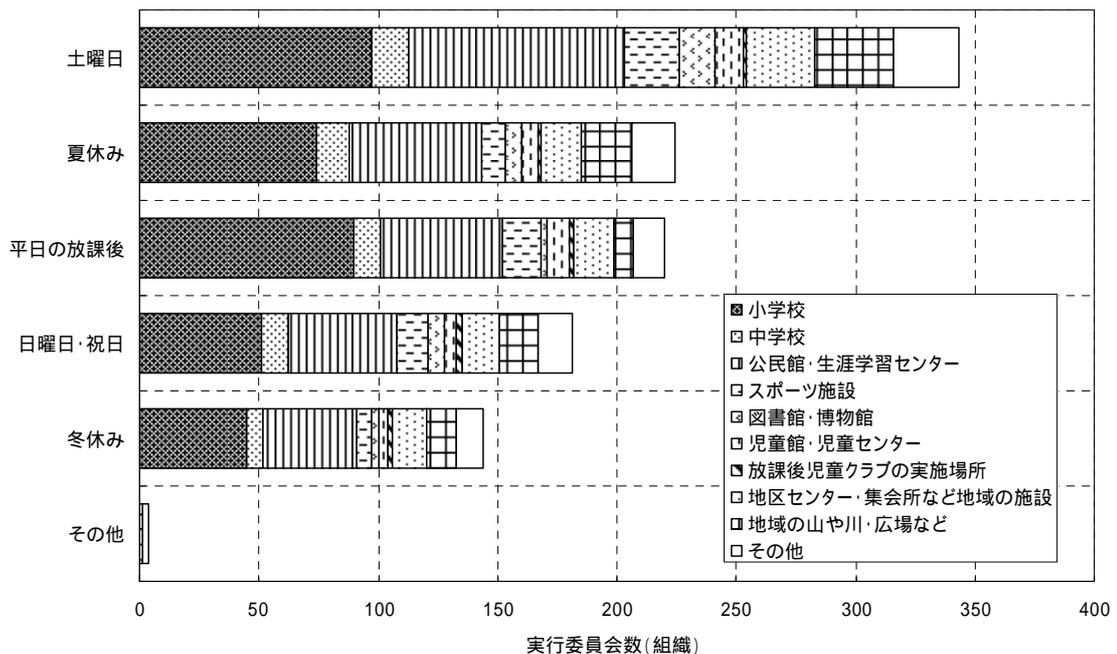
〔アンケート結果より〕アンケート問3

- ❖ 地域子ども教室の活動場所（実行委員会あたり）は、「小学校（8.5箇所）」が最も多く、以下、「公民館・生涯学習センター（6.1箇所）」「中学校（4.4箇所）」などが多い。
- ❖ 開催時期は「土曜日」が最も多く、以下「夏休み」「平日の放課後」「日曜日・祝日」「冬休み」の順となっている。

問3 貴実行委員会は、どのような場所で「地域子ども教室」の活動を実施していますか。（MA）



(問3より)実施日別・実施場所別での実行委員会数(延べ)



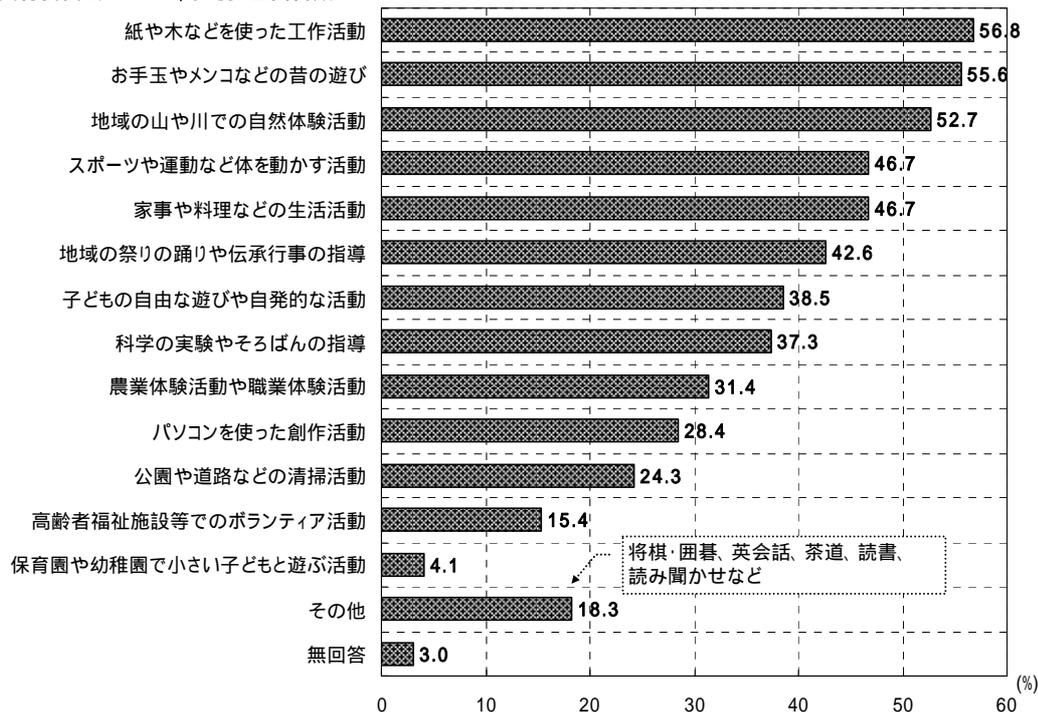
(3) 地域子ども教室での活動内容

〔アンケート結果より〕アンケート問9

- ❖ 地域子ども教室での活動は「紙や木などを使った工作活動 (56.8%)」「お手玉やメンコなどの昔の遊び (55.6%)」「地域の山や川での自然体験活動 (52.7%)」などが行われている。
- ❖ 特に実施回数の多かった活動は「スポーツや運動など体を動かす活動」が45.0%と高い割合を示している。
- ❖ これらの結果は、指導員が“地域の高齢者”や“青少年・スポーツ団体関係者”の割合が高い (P25 参照) ことも関係していると推察される。

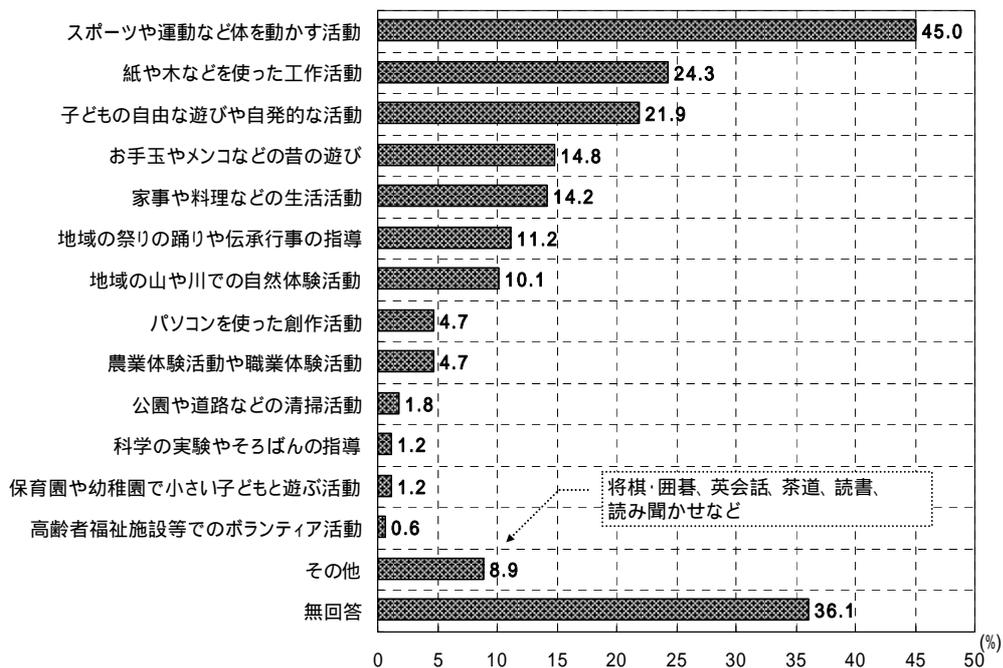
問9 貴実行委員会で実施されている「地域子ども教室」の活動内容はどのようなものですか。(MA)

実行委員会 (N=169, 平均多重回答数 = 5)



特に実施回数の多かったもの

実行委員会 (N=169, 平均多重回答数 = 1.6)

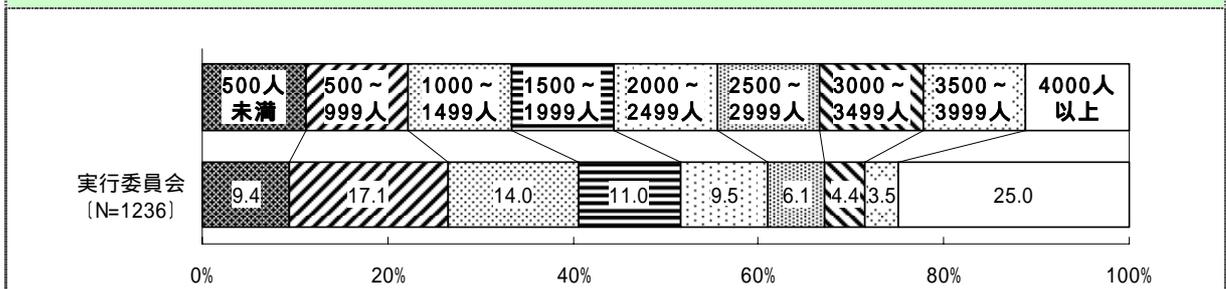


(4) 実行委員会の子どもの参加者数

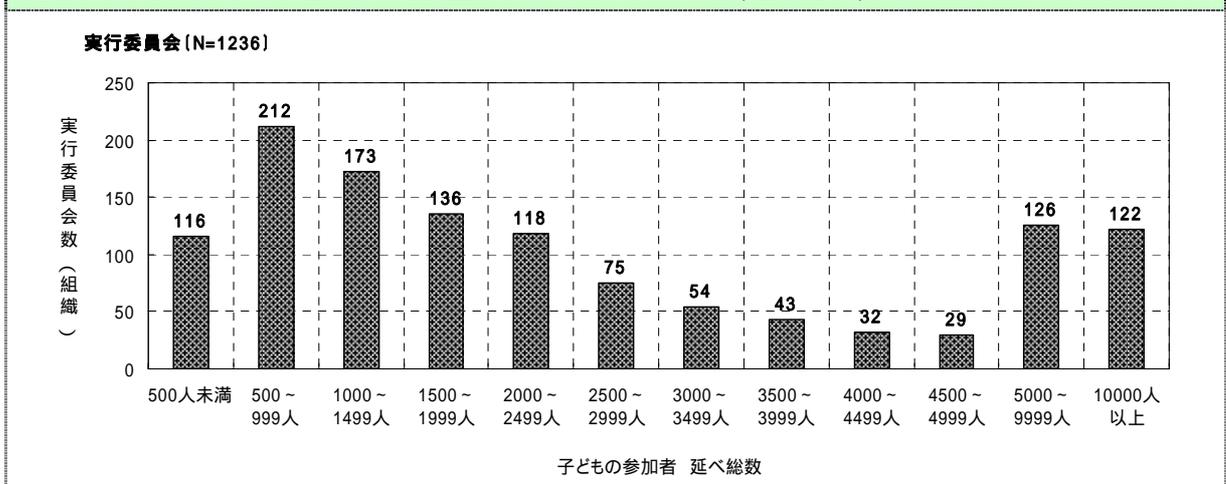
〔事業報告書より〕

- ❖ 実行委員会単位での子どもの延べ参加者数は、「500～999人」が最も多く17.1%（212実行委員会）を占め、2,000人未満の参加者数の実行委員会が全体の約5割を占めている。
- ❖ 実行委員会あたりの地域子ども教室数開催数と、教室あたりの子どもの延べ参加者数の関係を見ると、教室開催数が10箇所未満の場合は、「1箇所」で開催している場合に教室あたりの子どもの参加者数が最も多く、開催教室数が増えるにしたがって教室あたり参加者数は少なくなる傾向がみられる。一方、実行委員会あたり10箇所以上の教室を開催している場合は、教室あたりの子どもの参加者数は3,000人前後と多くなっている。

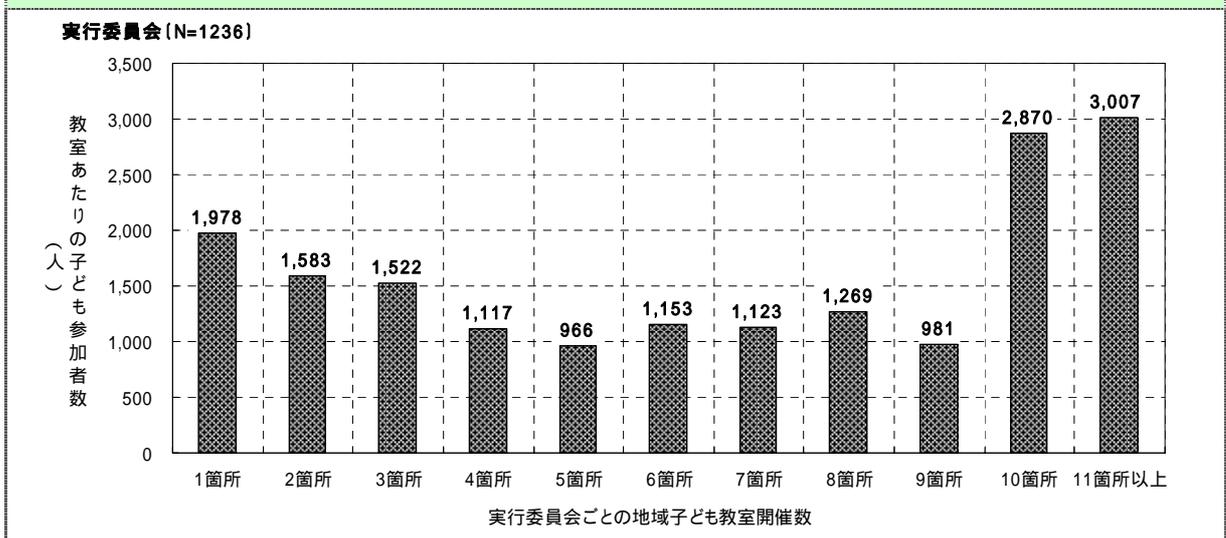
〔事業報告書より集計〕 地域子ども教室への子どもの参加者数(延べ総数)



〔事業報告書より集計〕 地域子ども教室への子どもの参加者数(延べ総数)の規模別 実行委員会数



〔事業報告書より集計〕 実行委員会ごとの開催教室数別 教室あたりの子ども参加者数



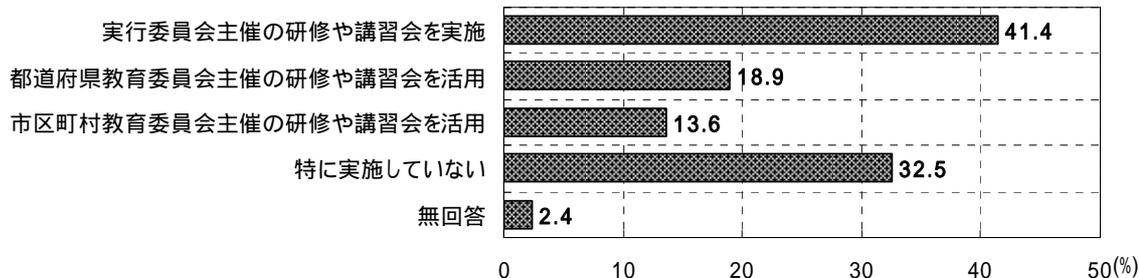
(5) 実行委員会での研修会の開催状況

〔アンケート結果より〕アンケート問6・7

- ❖ 実行委員会での指導員やボランティアに対する研修や講習会については、「実行委員会主催の研修や講習会を実施」しているケースが41.4%と最も高くなっている。
- ❖ 研修の内容は、実行委員会主催の場合、「子どもの安全管理と防犯などの安全対策(68.6%)」や「けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて(57.1%)」など、現場での実践的な安全管理に対する内容が高い割合を占めている。
- ❖ 市区町村教育委員会主催の場合には、「子育てを取り巻く現状などについて」や「遊びや体験活動の技術について」、「子どもの安全管理と防犯などの安全対策について」、「けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて」の研修が43.5%と比較的多くなっている。
- ❖ 都道府県教育委員会主催の研修では、「様々な地域の地域子ども教室の取組事例の紹介(68.8%)」や「子どもの居場所づくりに関する概論(56.3%)」など、事業説明に関する内容の割合が高い。

問6 貴実行委員会では、「地域子ども教室」で活動する指導員やボランティアに対して、研修や講習会等を行っていますか。(MA)

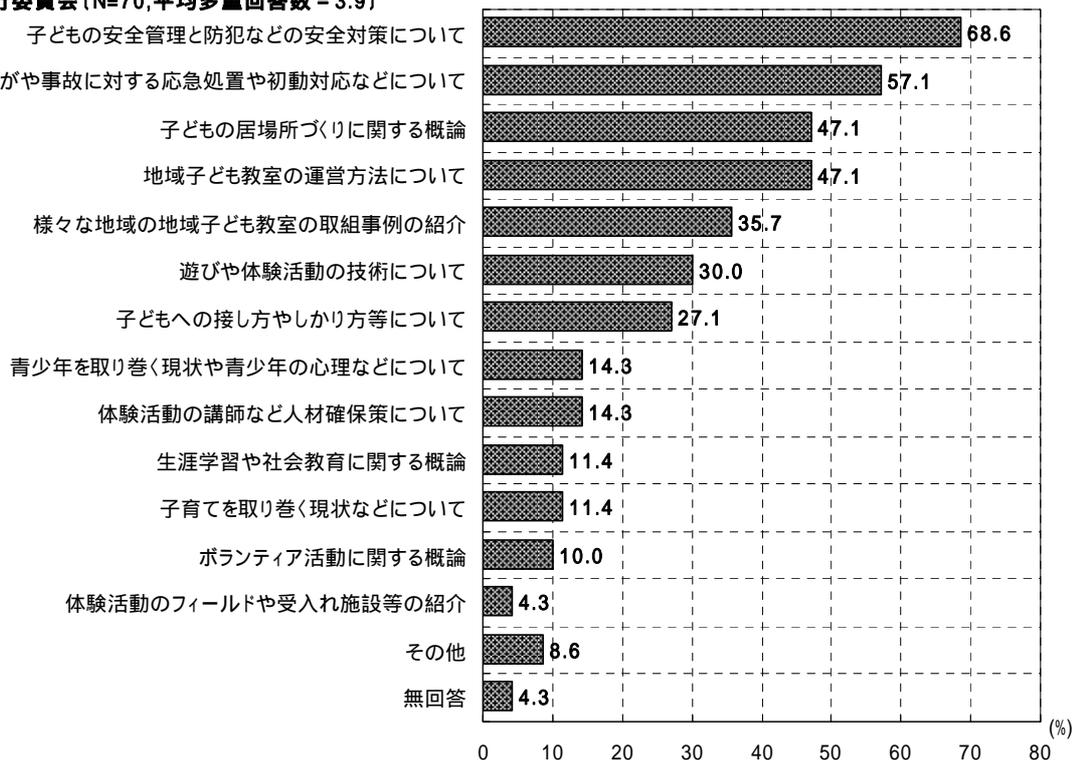
実行委員会(N=169,平均多重回答数=1.1)



問7 問6で「4.特に研修や講習会は行っていない」とお答えの方以外の方にお尋ねします。貴実行委員会で行っている研修や活用されている研修の内容は、どのようなものですか。(研修の主催者別にMA)

実行委員会で実施している研修や講習会

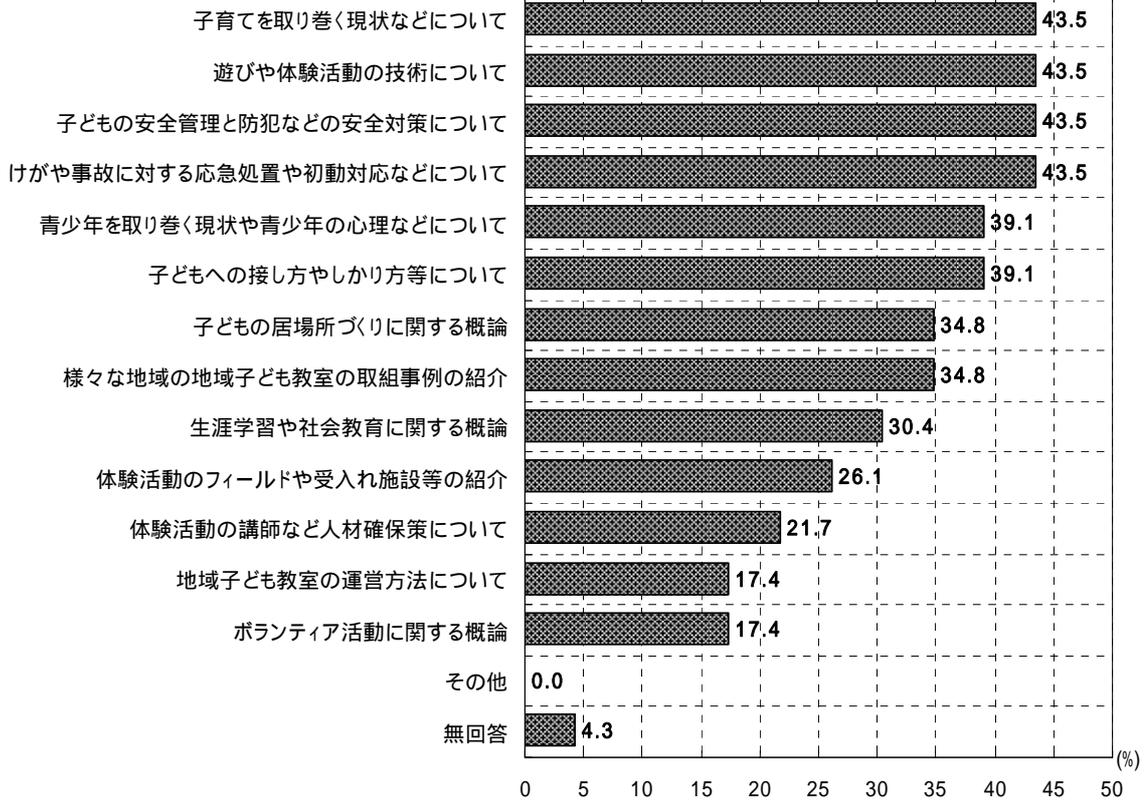
実行委員会(N=70,平均多重回答数=3.9)



第1部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の全国的な取組実態

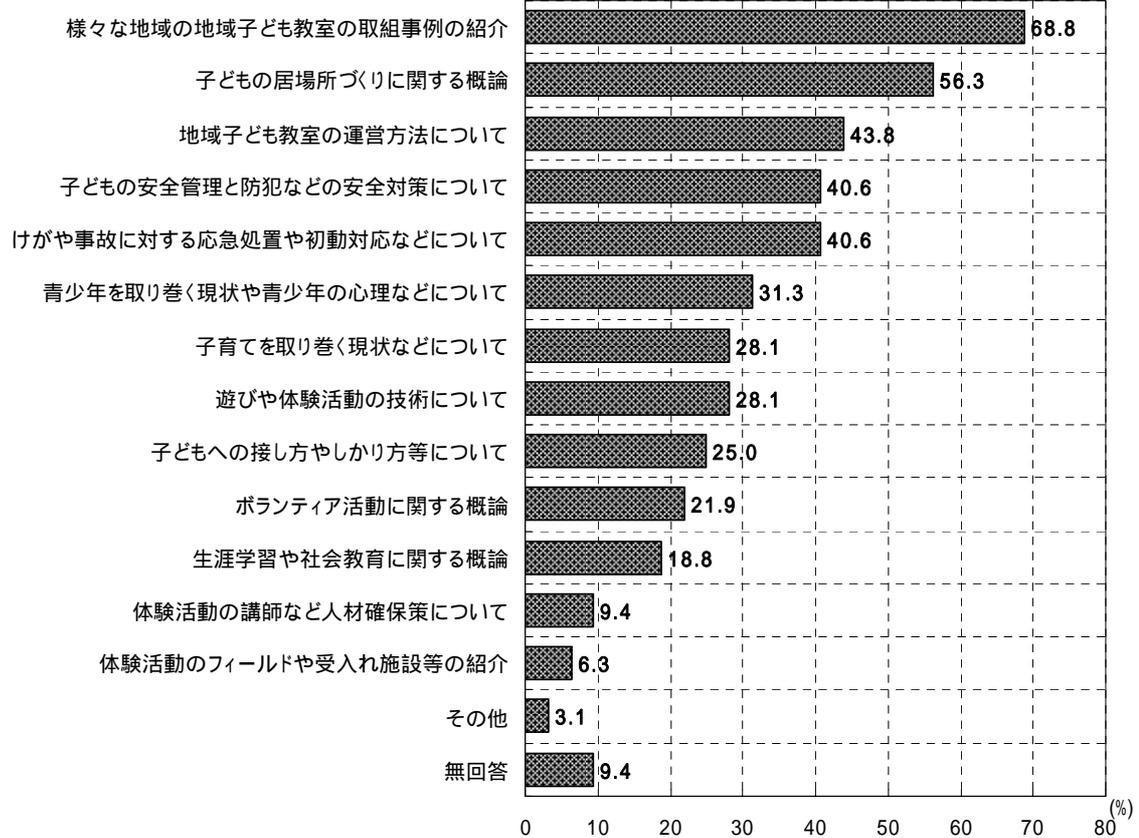
市区町村教育委員会で実施している研修や講習会

実行委員会 (N=23, 平均多重回答数 = 4.3)



都道府県教育委員会で実施している研修や講習会

実行委員会 (N=32, 平均多重回答数 = 4.2)



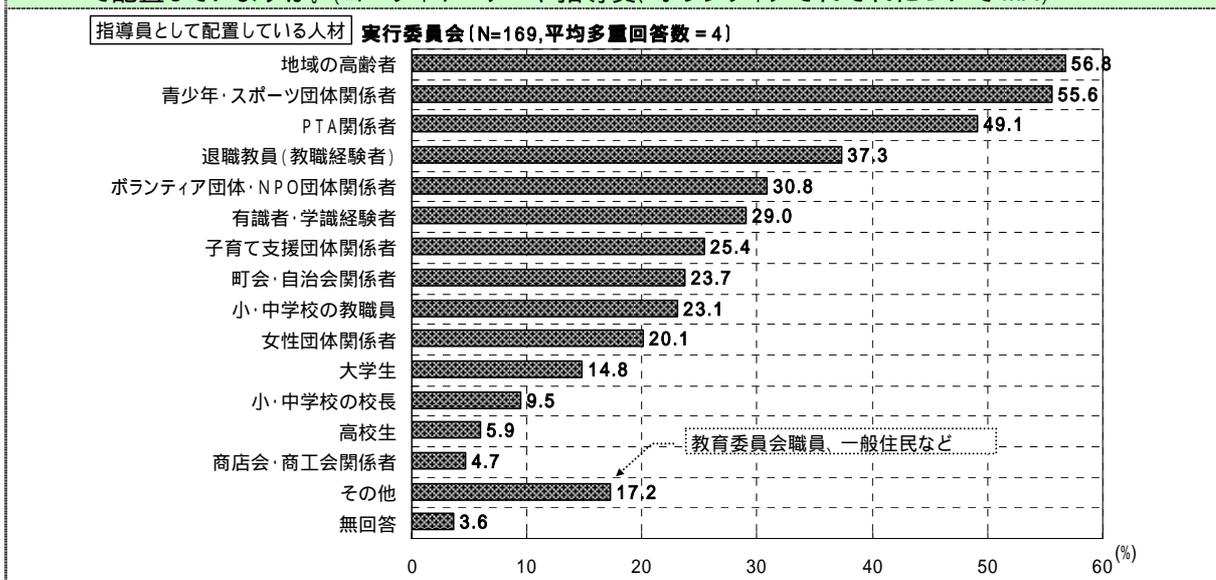
(6) 実行委員会の指導員配置状況

指導員の属性・確保方法・人材像

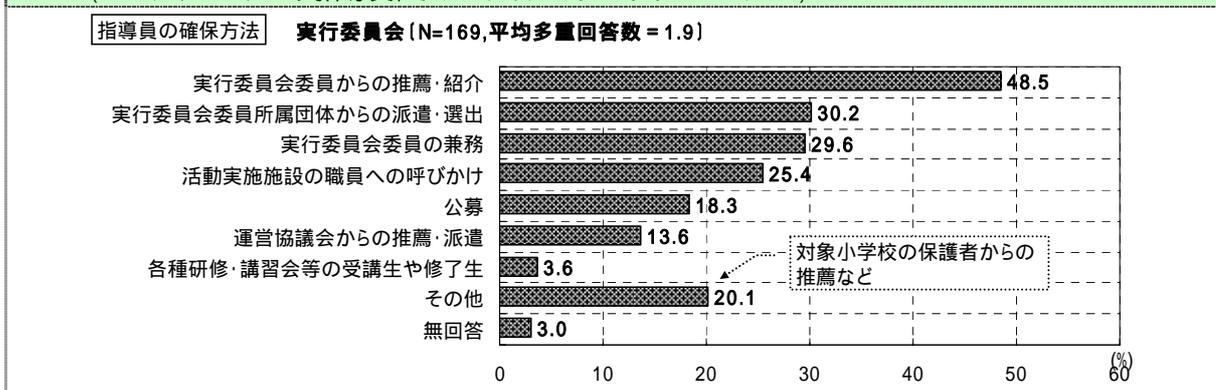
〔アンケート結果より〕アンケート問4・5・8

- ❖ 実行委員会が指導員として配置している人材は、「地域の高齢者（56.8%）」や「青少年・スポーツ団体関係者（55.6%）」、「PTA関係者（49.1%）」などが多い。
- ❖ 指導員は「実行委員会委員からの推薦・紹介」により確保しているケースが48.5%と最も多い。
- ❖ 望ましい指導者としては「子どもを指導したり子どもと関わったりした経験のある人（85.8%）」や「地域活動に積極的に参加している人（81.1%）」などが挙げられている。

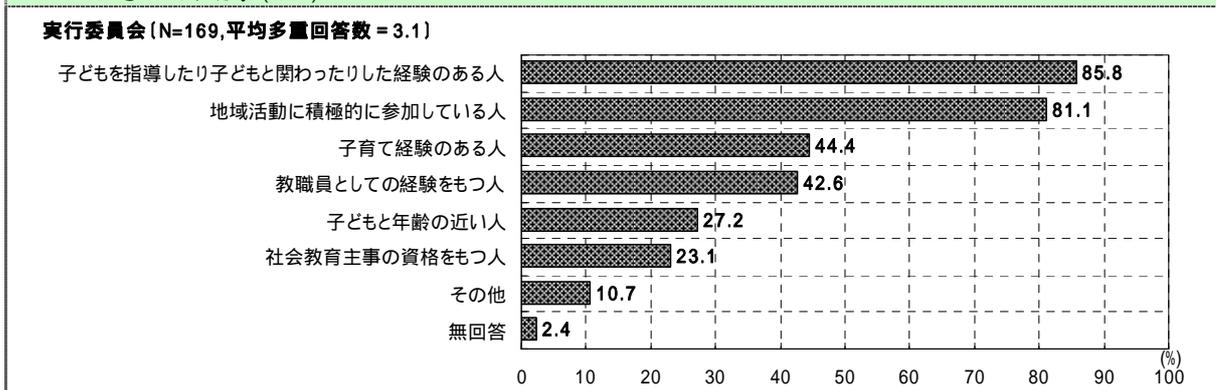
問4 貴実行委員会では、どのような方を「地域子ども教室」のコーディネーターや指導員、ボランティアとして配置していますか。（コーディネーターや指導員、ボランティアそれぞれについてMA）



問5 貴実行委員会では、コーディネーターや指導員、ボランティアをどのようにして確保していますか。（コーディネーターや指導員、ボランティアそれぞれについてMA）



問8 貴実行委員会では、「地域子ども教室」の指導員等として参加いただく方はどのような方が望ましいとお考えですか。（MA）

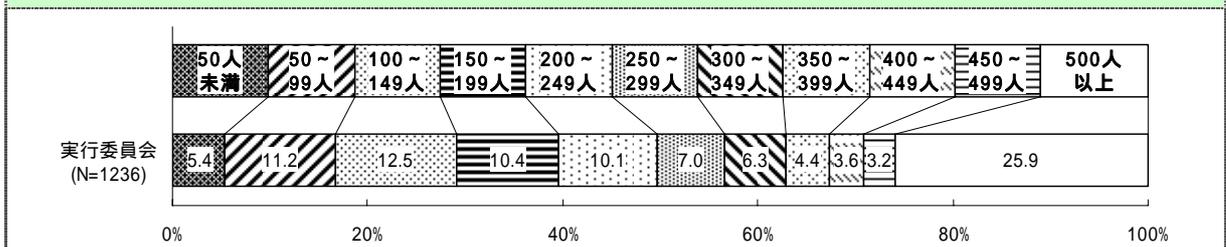


指導員配置総数

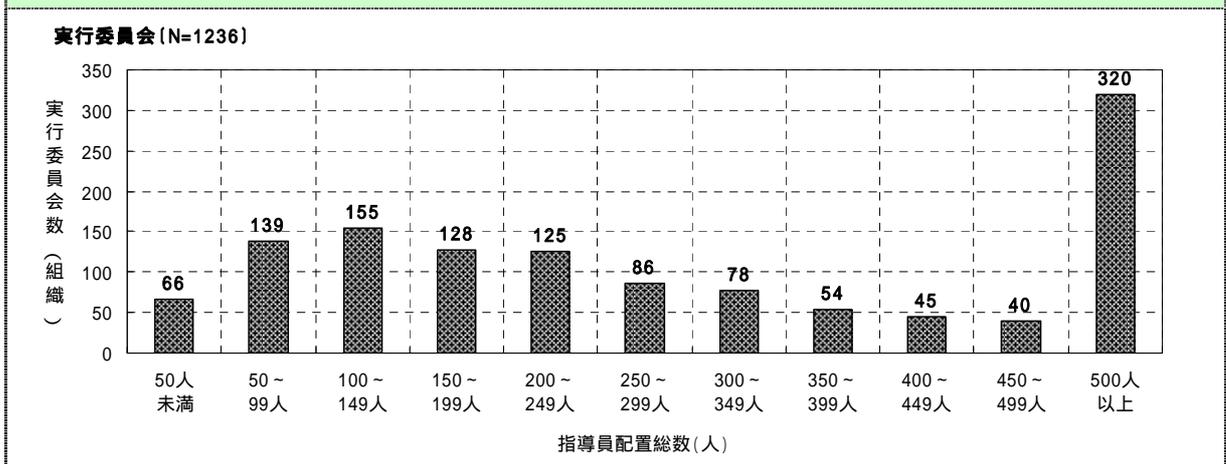
〔事業報告書より〕

- ❖ 実行委員会単位での指導員の延べ配置人数は、50人から250人程度の規模が多くを占め、そのうち「100～150人」が12.5%（155実行委員会）と最も多くなっている。
- ❖ 実行委員会の地域子ども教室数別の指導員配置の延べ人数（1地域子ども教室あたり）は、「1箇所」の実行委員会では243人と多いものの、7箇所までは地域子ども教室数が増えるにしたがって指導員総数は減少しており、限られた指導員を各地域子ども教室に配置しながら事業を行っている状況がみられる。一方、10箇所以上になると、相応の人員の配置が必要となることから、指導員総数は増加している。

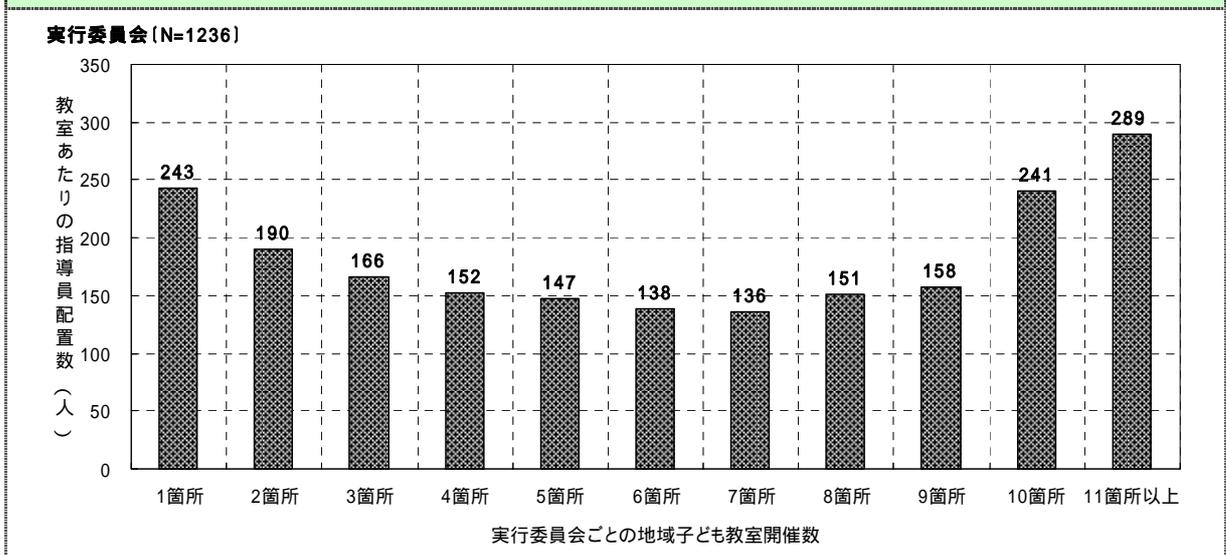
〔事業報告書より集計〕 実行委員会単位での指導員の延べ配置数



〔事業報告書より集計〕 指導員の延べ配置人数規模別 実行員会数



〔事業報告書より集計〕 実行委員会ごとの開催教室数別 教室あたりの指導員配置数



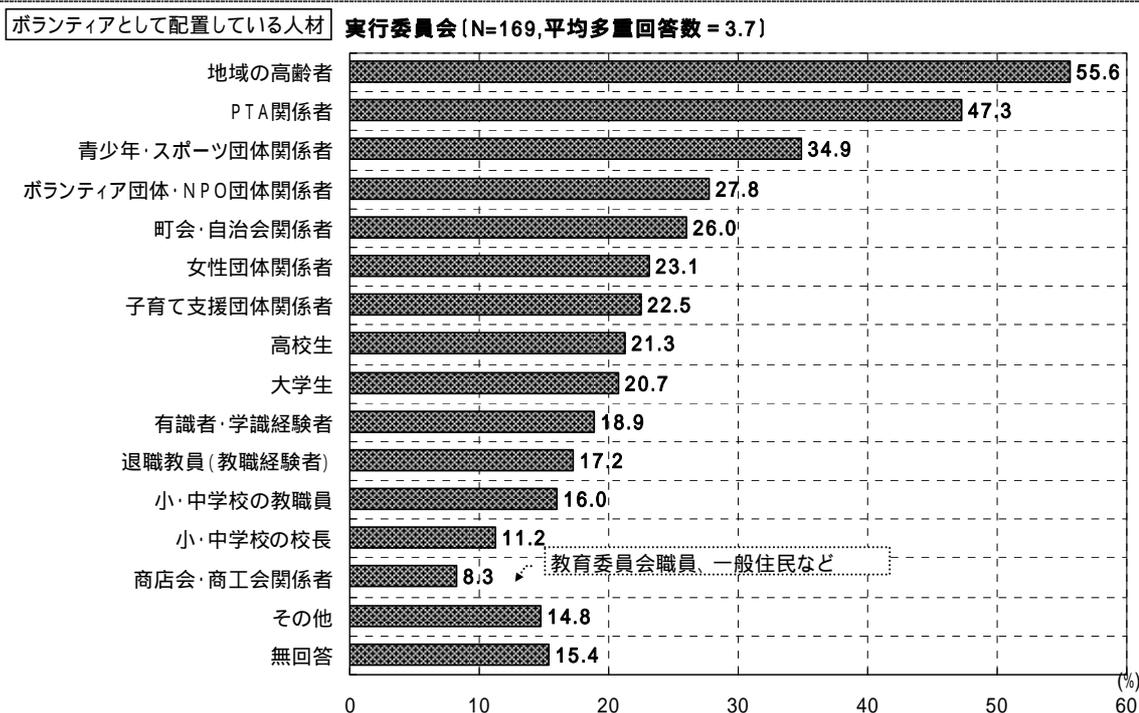
(7) 実行委員会のボランティア参加数

ボランティアの属性・確保方法

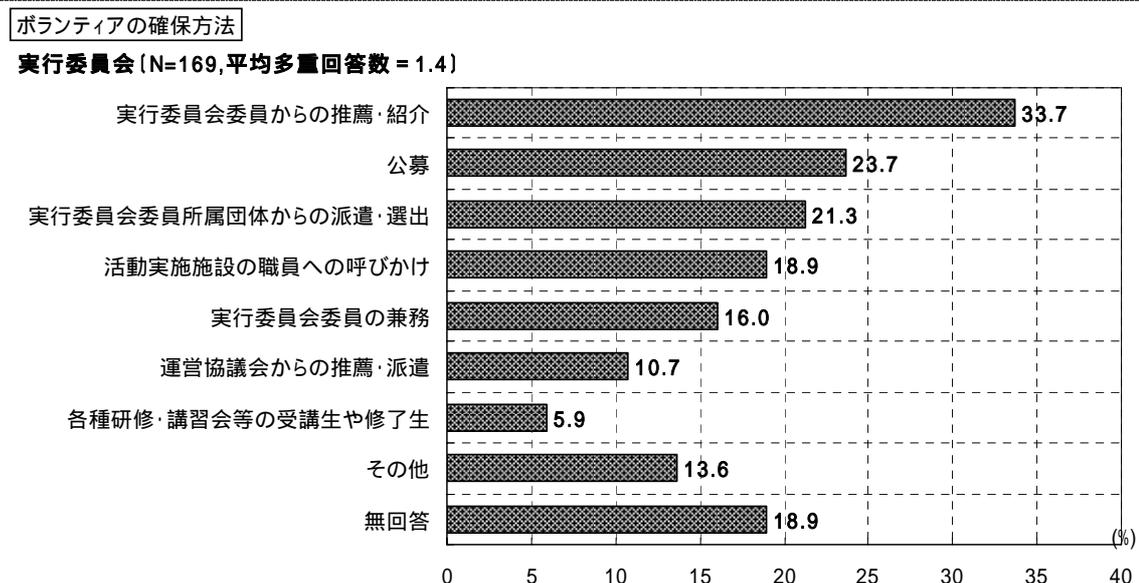
〔アンケート結果より〕アンケート問4・5

- ❖ 実行委員会がボランティアとして配置している人は、指導員と同様、「地域の高齢者（55.6%）」や「PTA関係者（47.3%）」、「青少年・スポーツ団体関係者（34.9%）」などが多い。
- ❖ ボランティアの確保も指導員と同様に「実行委員会委員からの推薦・紹介」が最も多く33.7%を占めているが、「公募（23.7%）」による確保の割合も比較的高い点に特徴がみられる。

問4 貴実行委員会では、どのような方を「地域子ども教室」のコーディネーターや指導員、ボランティアとして配置していますか。（コーディネーターや指導員、ボランティアそれぞれについてMA）



問5 貴実行委員会では、コーディネーターや指導員、ボランティアをどのようにして確保していますか。（コーディネーターや指導員、ボランティアそれぞれについてMA）

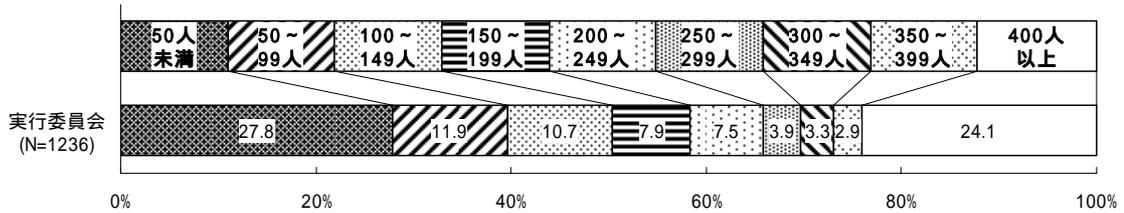


ボランティア参加総数

〔事業報告書より〕

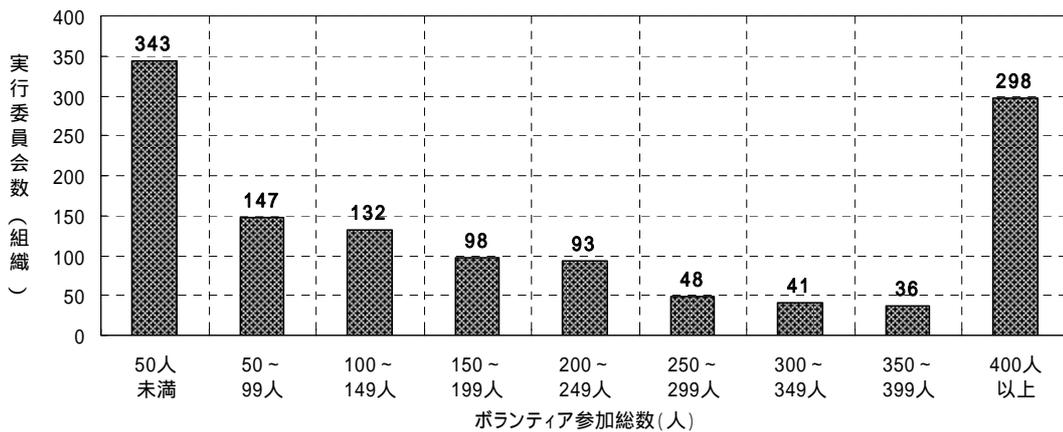
- ❖ 実行委員会単位でのボランティア参加の延べ人数は、「50人未満」が27.8%（343 実行委員会）と最も多く、ボランティアの参加数が150人未満の実行委員会が全体の約5割を占めている。
- ❖ 地域子ども教室数別のボランティアの延べ参加者数（1地域子ども教室あたり）については、実行委員会あたりの開催教室数が1～2箇所の場合に平均167人と最も多く、3箇所の教室を開催している場合は平均131人、4箇所では平均95人と減少している。一方、10箇所以上開催している場合は、1教室あたりのボランティア数も平均200人近くと多くなっている。

〔事業報告書より集計〕 実行委員会単位でのボランティアの延べ参加者数



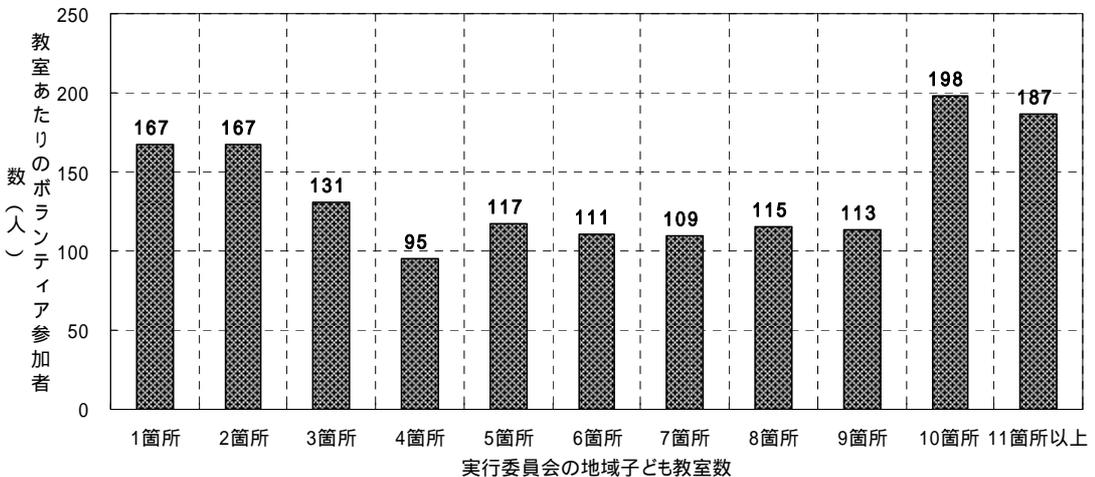
〔事業報告書より集計〕 ボランティアの延べ参加者数規模別 実行委員会数

実行委員会 (N=1236)



〔事業報告書より集計〕 実行委員会ごとの開催教室数別 教室あたりのボランティア参加者数

実行委員会 (N=1236)



(8) 実行委員会のコーディネーター数

コーディネーターの属性・確保方法

〔アンケート結果より〕アンケート問4・5

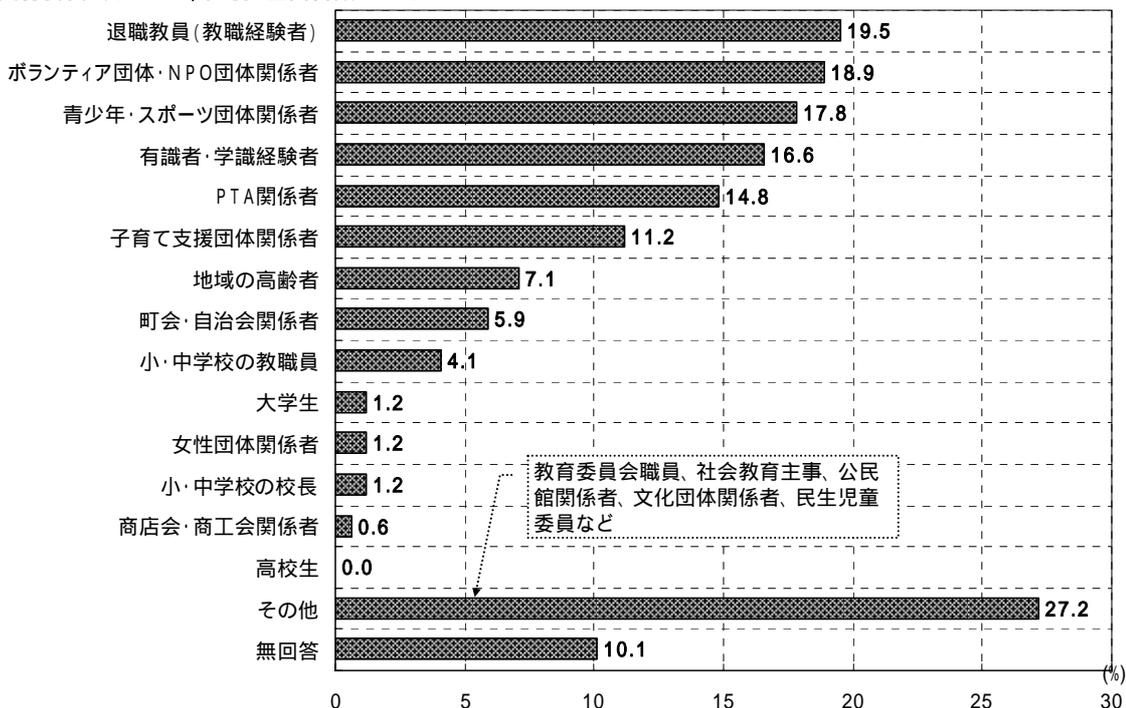
❖ 実行委員会がコーディネーターとして配置している人は、「退職教員(19.5%)」や「ボランティア団体・NPO団体関係者(18.9%)」、「青少年・スポーツ団体関係者(17.8%)」など、関係団体や学校との調整が期待できる人材が多い。

❖ コーディネーターの確保方法としては、「実行委員会委員の兼務(38.5%)」が最も多くなっている。

問4 貴実行委員会では、どのような方を「地域子ども教室」のコーディネーターや指導員、ボランティアとして配置していますか。(コーディネーターや指導員、ボランティアそれぞれについてMA)

コーディネーターとして配置している人材

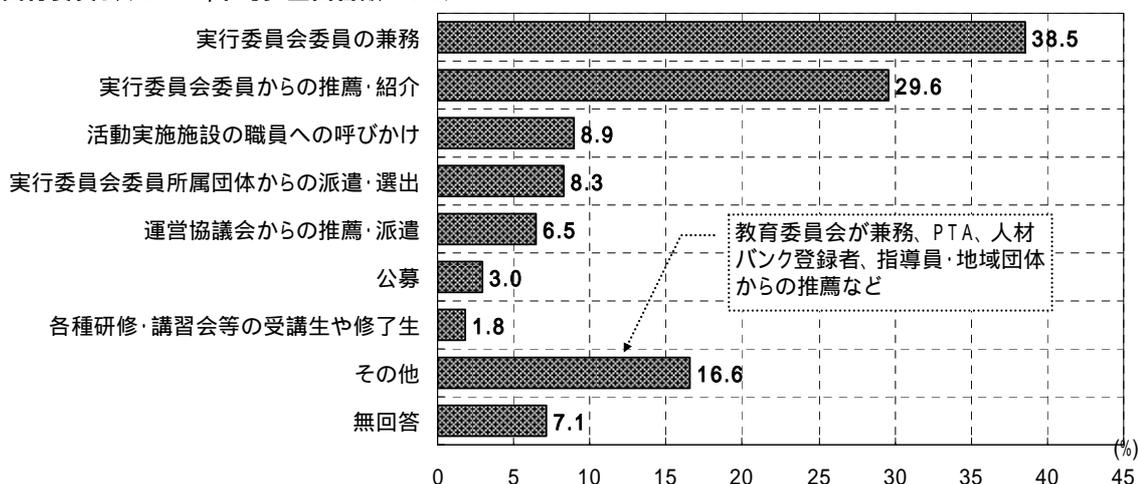
実行委員会(N=169,平均多重回答数=1.5)



問5 貴実行委員会では、コーディネーターや指導員、ボランティアをどのようにして確保していますか。(コーディネーターや指導員、ボランティアそれぞれについてMA)

コーディネーターの確保方法

実行委員会(N=169,平均多重回答数=1.1)

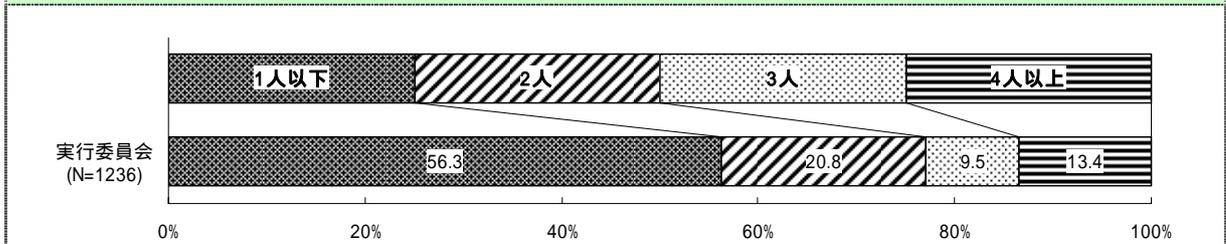


コーディネーター総数

〔事業報告書より〕

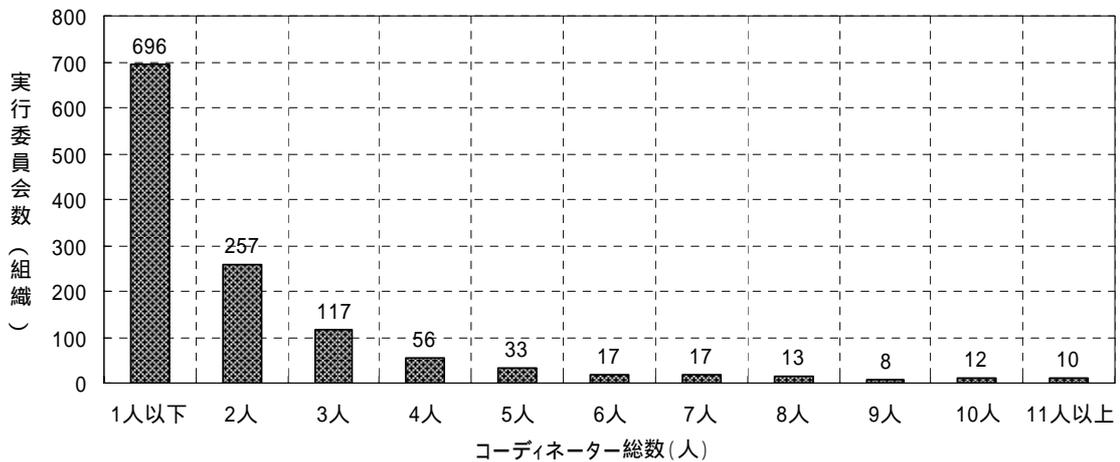
- ❖ 実行委員会単位のコーディネーター総数は、「1人以下」が56.3%（696 実行委員会）と最も多く、1人以下から3人までで全体の8割強を占めている。
- ❖ 実行委員会の地域子ども教室数別のコーディネーター数（1実行委員会あたり）をみると、教室の数が多い実行委員会ほど多くのコーディネーターを配置している。

〔事業報告書より集計〕 実行委員会単位でのコーディネーター数



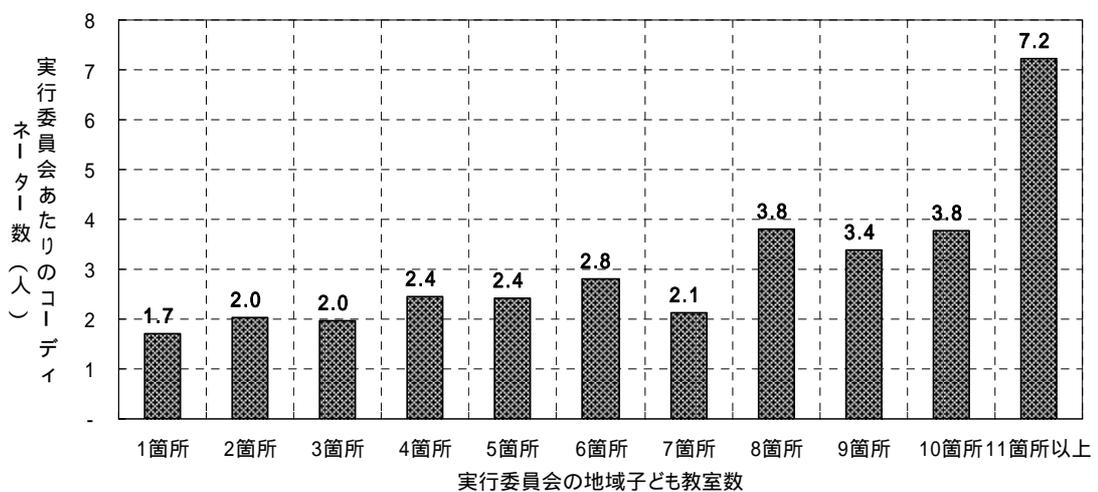
〔事業報告書より集計〕 コーディネーター数の規模別 実行員会数

実行委員会 (N=1236)



〔事業報告書より集計〕 実行委員会ごとの開催教室数別 実行委員会あたりのコーディネーター数

実行委員会 (N=1236)



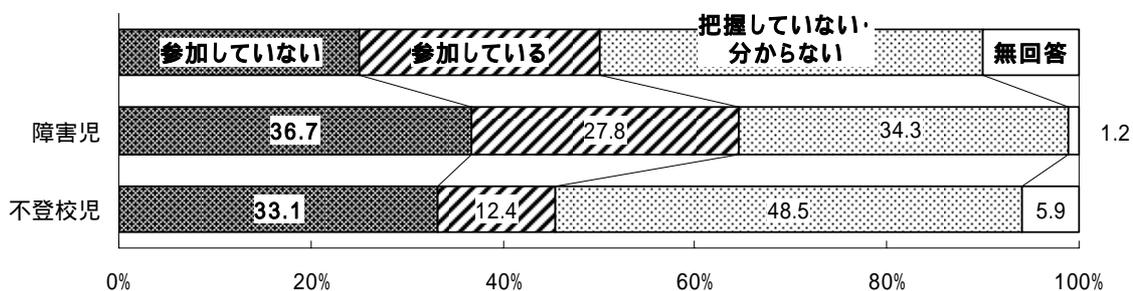
(9) 実行委員会の障害児・不登校児の受け入れ状況

〔アンケート結果より〕アンケート問 11～14

- ❖ 地域子ども教室への障害児・不登校児の受け入れについては、「把握していない・分からない」という回答が多いものの、障害児については約 28%で、不登校児については約 12%の実行委員会が「参加している」と回答している。
- ❖ 障害児・不登校児を受け入れる際の配慮点についてみると、障害児に対しては「保護者の参加も依頼（40.4%）」や「指導員・ボランティアを増員（38.3%）」が挙げられている。不登校児に対しては、「参加方法や行動に幅をもたせた柔軟な対応への配慮（38.1%）」や「教師的な関わり方にならないよう接し方・声かけへの配慮（38.1%）」などが挙げられている。

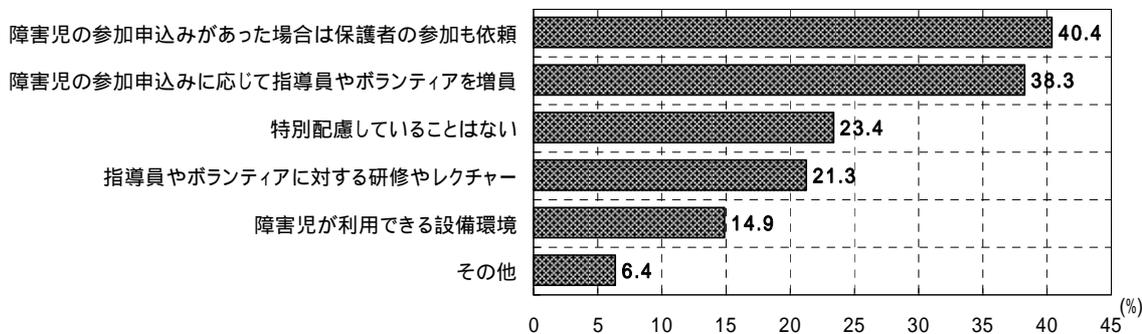
問11 貴実行委員会で実施された「地域子ども教室」では、障害児は参加していますか。(SA)
 問13 貴実行委員会で実施された「地域子ども教室」では、不登校児は参加していますか。(SA)

実行委員会 (N=169)



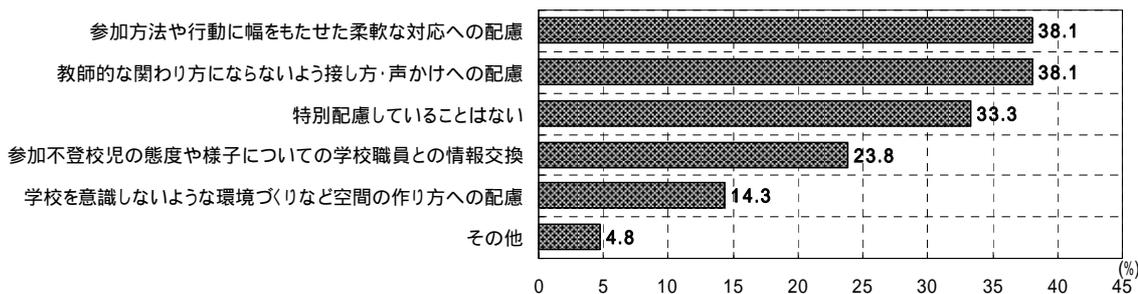
問12 問11で「1.参加している」とお答えの方にお尋ねします。障害児の受け入れについて、何か配慮している点がありますか。(MA)

実行委員会 (N=47, 平均多重回答数 = 1.4)



問14 問13で「1.参加している」とお答えの方にお尋ねします。不登校児の受け入れについて、何か配慮している点がありますか。(MA)

実行委員会 (N=21, 平均多重回答数 = 1.5)

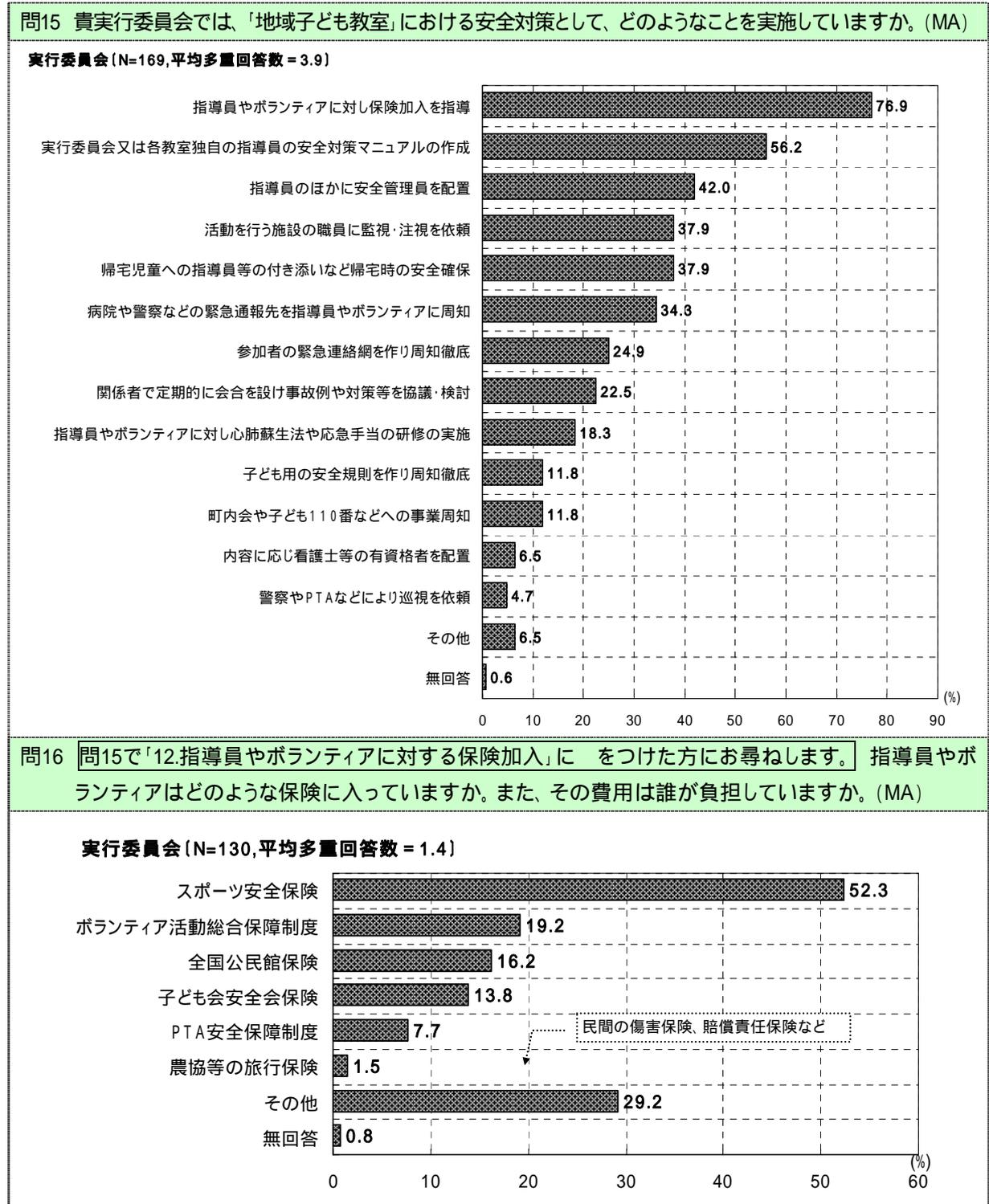


(10) 実行委員会の安全対策

安全対策

〔アンケート結果より〕アンケート問15・16

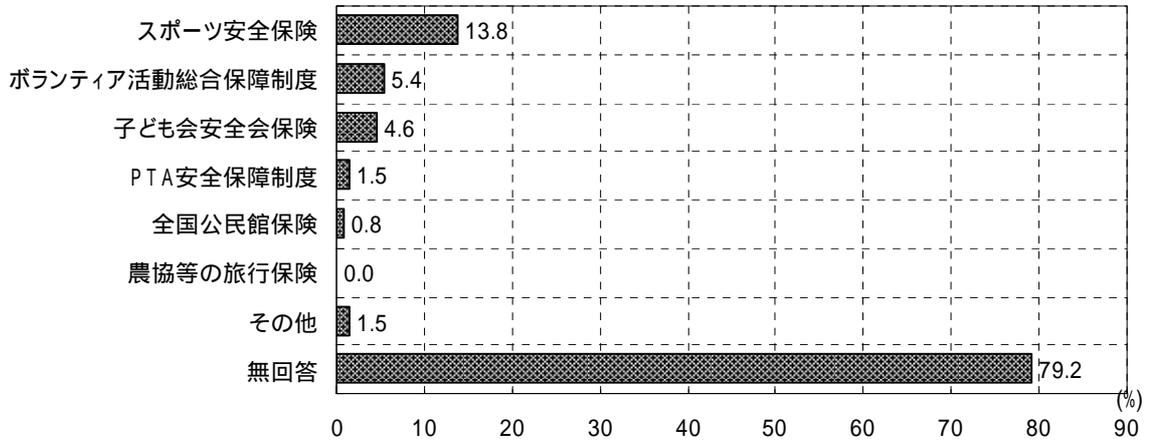
- ❖ 実行委員会での安全対策としては、「指導員やボランティアに対し保険加入を指導」が高く76.9%の実行委員会で実施されている。以下、「安全対策マニュアルの作成(56.2%)」や「安全管理員を配置(42.0%)」などの実施割合が高い。
- ❖ 指導員やボランティアが加入している保険は、運営協議会でも加入指導の割合が高い「スポーツ安全保険」への加入が52.3%と高い。



問16 問15で「12.指導員やボランティアに対する保険加入」につけた方にお尋ねします。指導員やボランティアはどのような保険に入っていますか。また、その費用は誰が負担していますか。(MA)

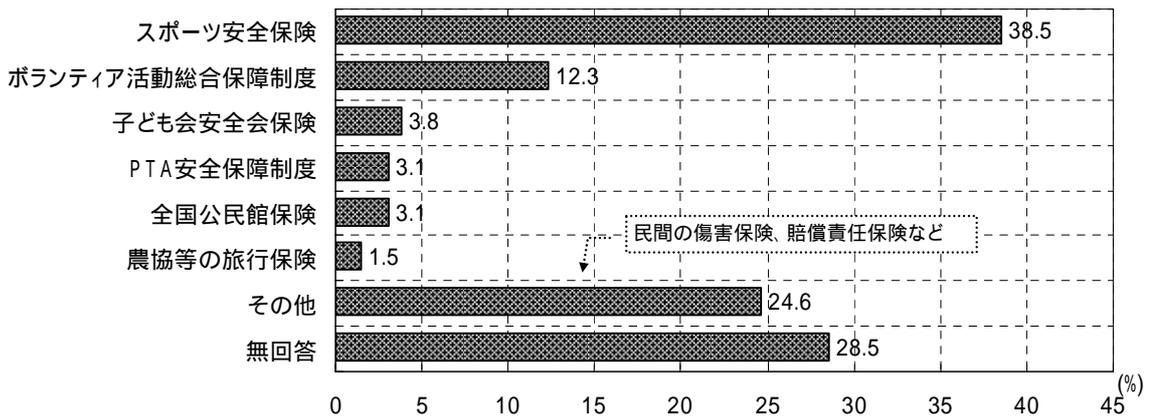
参加者個人が費用負担している保険

実行委員会 (N=130, 平均多重回答数 = 0.3)



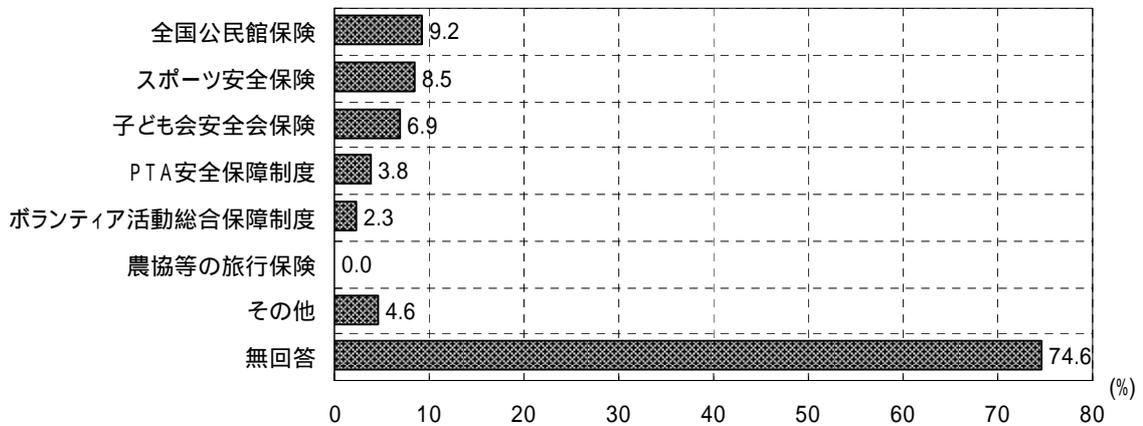
実行委員会が費用負担している保険

実行委員会 (N=130, 平均多重回答数 = 0.9)



参加者が所属する団体費用負担している保険

実行委員会 (N=130, 平均多重回答数 = 0.4)

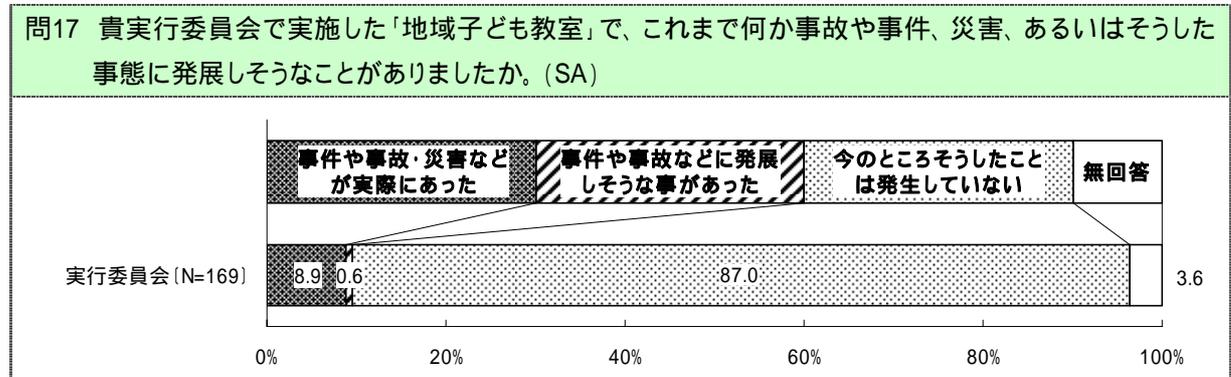


第1部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の全国的な取組実態

事故・事件や災害等の発生状況

〔アンケート結果より〕アンケート問17・18（自由記述）

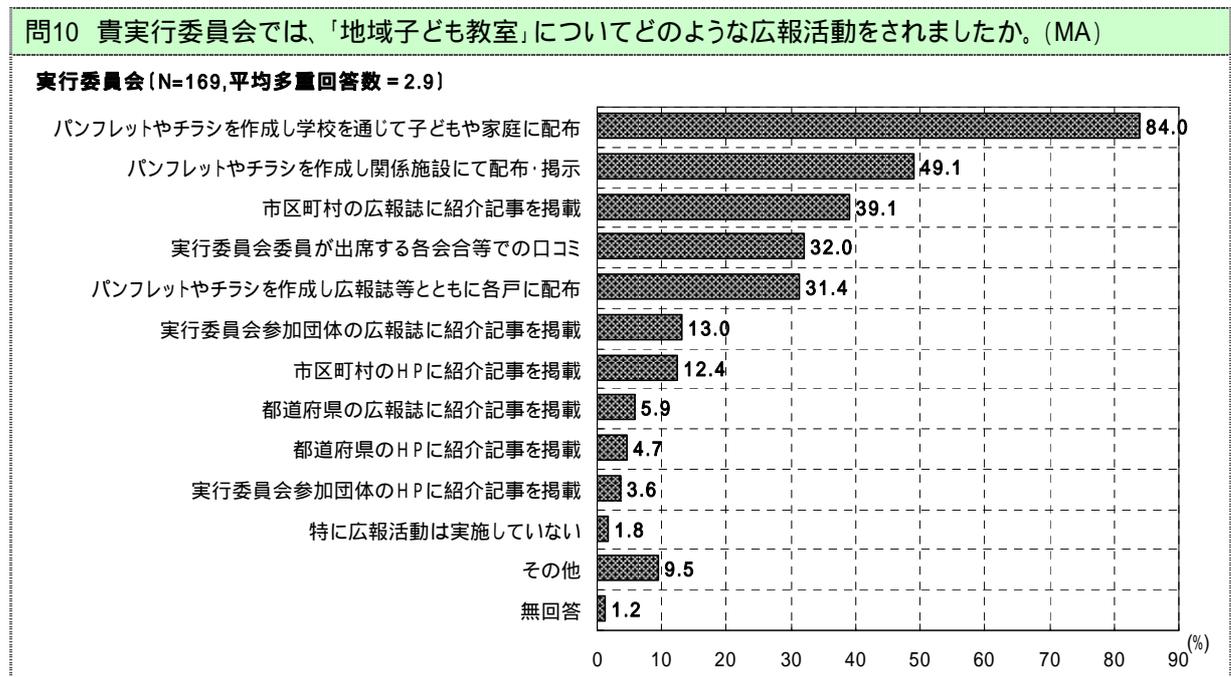
❖ 地域子ども教室で発生した事故・事件や災害等について、「実際にあった」と回答した実行委員会が8.9%あった。その内容（問18）は“子どものけが”が多く、その対応として、保護者へ連絡したり病院に搬送して治療を受けさせたなどが挙げられている。



(11) 実行委員会における事業推進体制

〔アンケート結果より〕アンケート問10

❖ 実行委員会での広報活動は、運営協議会の広報活動と同様に「パンフレットやチラシを作成し学校を通じて子どもや家庭に配布」が多く、84.0%の実行委員会で実施されている。



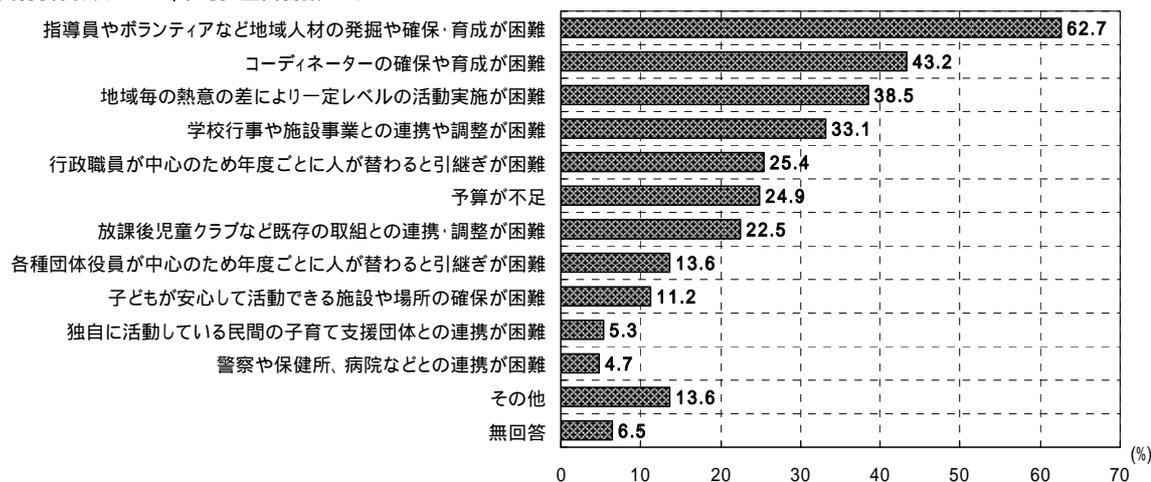
(12) 実行委員会としての今後の課題

〔アンケート結果より〕アンケート問19・20

❖ 実行委員会としての今後の課題は、運営協議会の回答と同様に「指導員やボランティアなど地域人材の発掘や確保・育成が困難(62.7%)」、「コーディネーターの確保や育成が困難(43.2%)」など、人材の確保が課題として高い割合を占めている。事業推進に向けて必要なことについても指導員やボランティアの養成・確保が挙げられている。

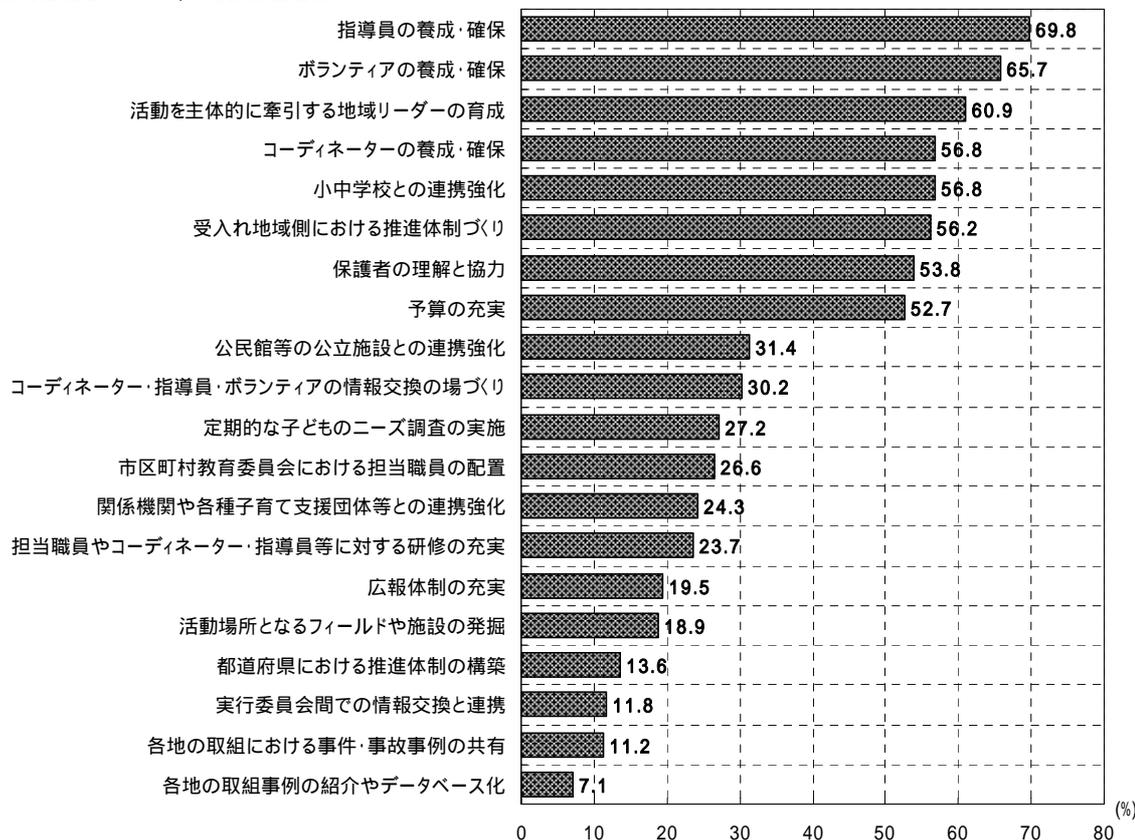
問19 貴実行委員会では、「地域子ども教室」を実施してみて、実行委員会の運営上どのような問題点がありましたか。(MA)

実行委員会(N=169,平均多重回答数=3)



問20 貴実行委員会において「地域子ども教室推進事業」をより一層推進していくにあたって、今後どのようなことが必要だと思いますか。(MA)

実行委員会(N=169,平均多重回答数=7.2)

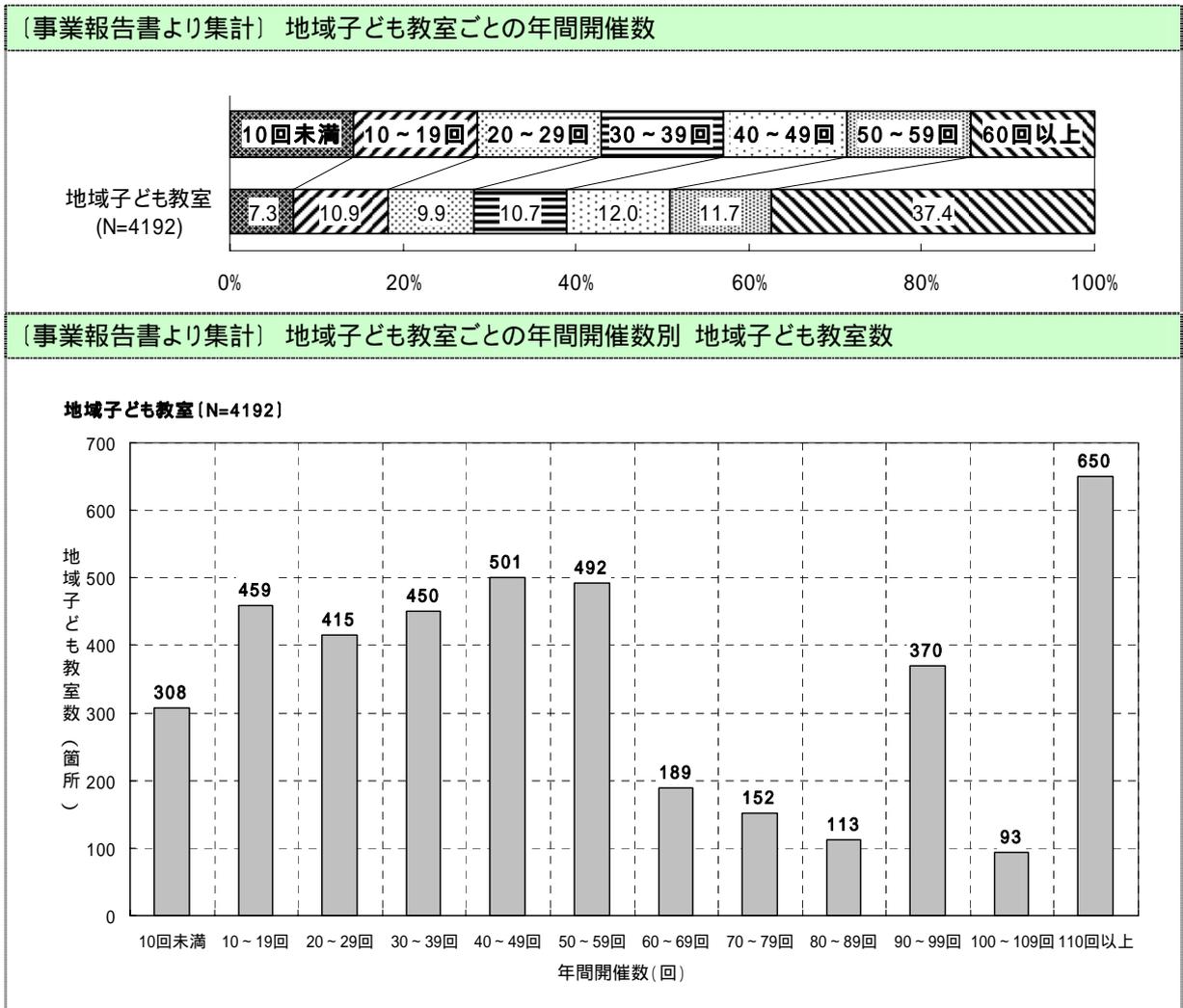


1 - 4 . 地域子ども教室の開催状況等について

(1) 地域子ども教室の年間開催数

〔事業報告書より〕

- ❖ 地域子ども教室での活動の年間開催数は 59 回までで全体の約 5 割強を占めており、このうちでは「40～49 回」が 12.0% (501 箇所) と最も多い。
- ❖ 一方、年間 60 回以上開催している地域子ども教室は全体の 37.4% を占めており、このうちでは「90～99 回」の開催が 370 箇所、「110 回以上」の開催が 650 箇所と多い。

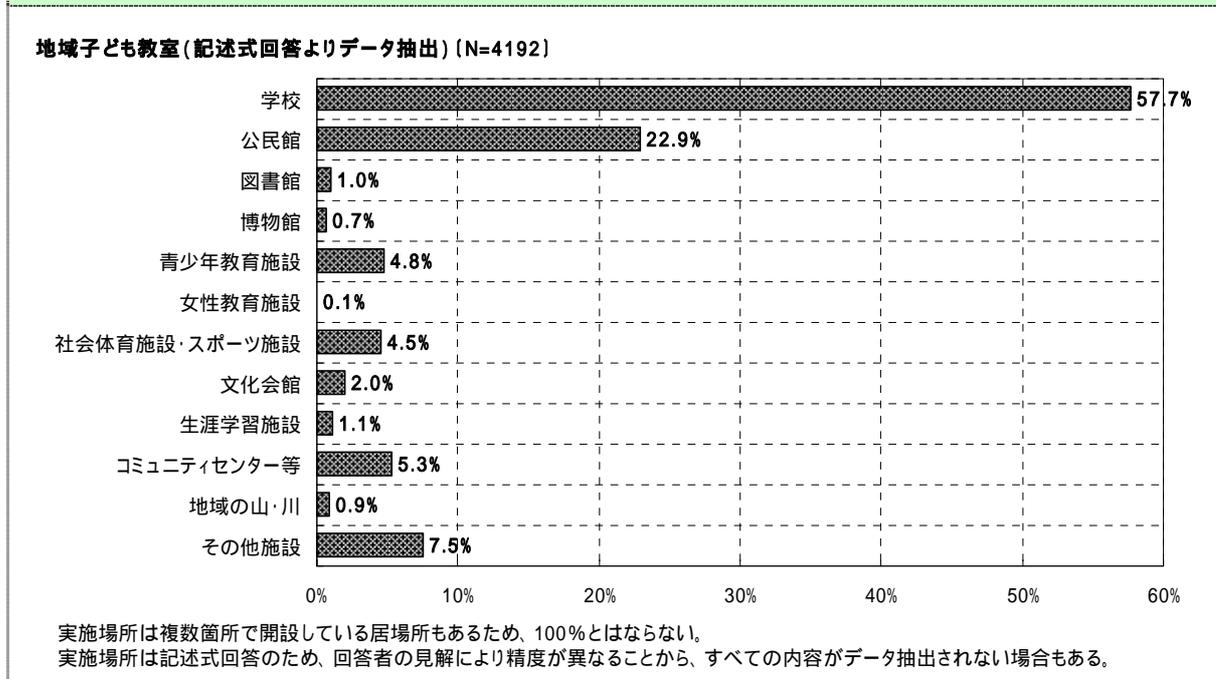


(2) 地域子ども教室の実施場所

〔事業報告書より〕

❖ 地域子ども教室の実施場所としては、実行委員会へのアンケート調査結果と同様、「学校 (57.7%) 」や「公民館 (22.9%) 」が多く報告されている。

〔事業報告書より集計〕 地域子ども教室の実施場所 (実施施設) 別割合

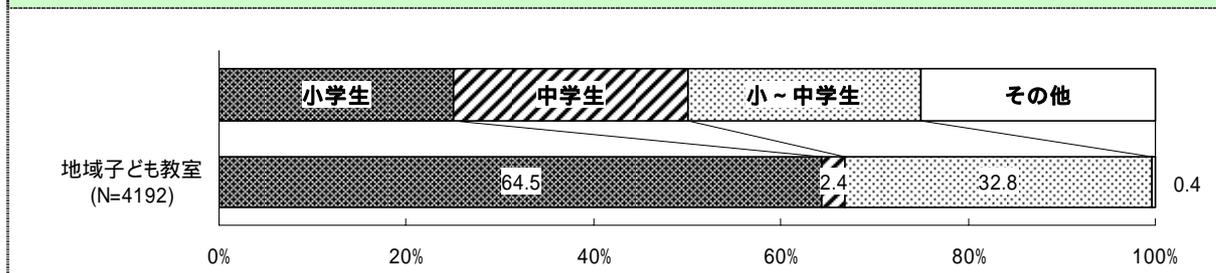


(3) 地域子ども教室の対象学年

〔事業報告書より〕

❖ 地域子ども教室の実施に際して、対象とした子どもは「小学生」が 64.5% と最も多く、次いで「小～中学生」が 32.8% を占めている。

〔事業報告書より集計〕 地域子ども教室ごとの活動における対象者

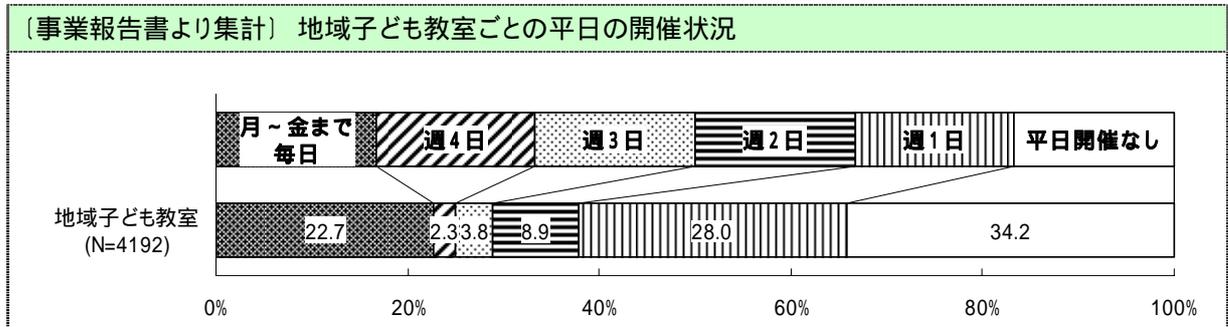


(4) 地域子ども教室の曜日別の開催状況

平日の開催状況

〔事業報告書より〕

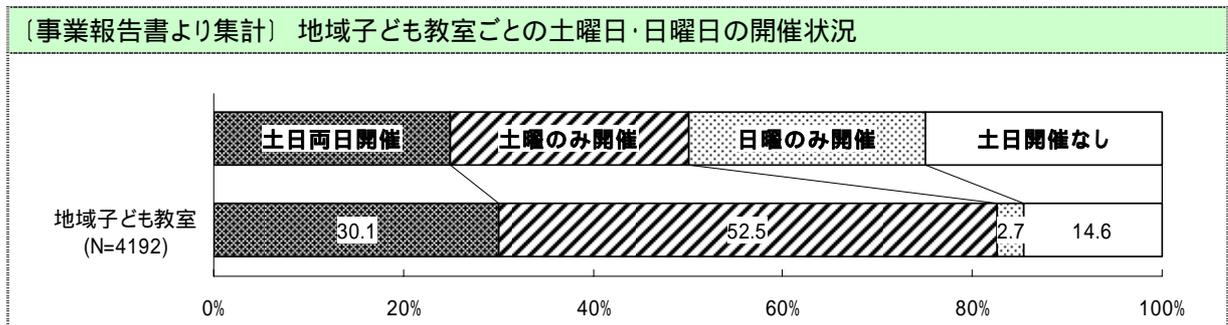
❖ 平日の開催状況についてみると、「週1日(28.0%)」及び「月～金まで毎日(22.7%)」の開催が多い。また平日には開催していないところも34.2%みられる。



土曜日・日曜日の開催状況

〔事業報告書より〕

❖ 土曜日・日曜日の開催状況については、「土曜のみ開催」しているところが52.5%と最も多く、次いで「土日両日開催」が30.1%であり、「日曜のみ開催」は2.7%にとどまっている。

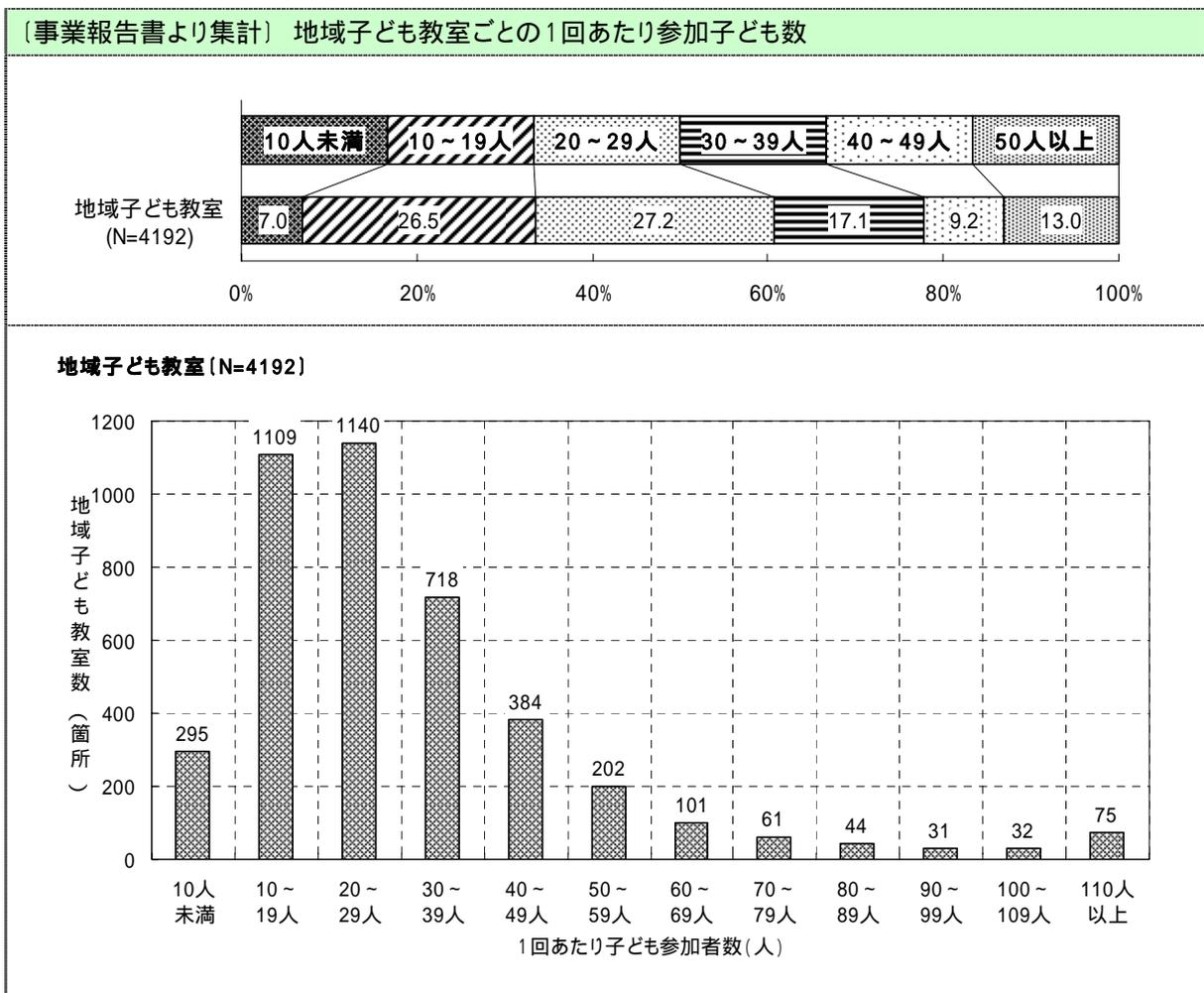


(5) 地域子ども教室の参加者数

1回あたりの参加者数

〔事業報告書より〕

❖ 地域子ども教室での活動1回あたりの子どもの参加者数は10人から29人までが多く、「10～19人」が26.5%（1,109箇所）、「20～29人」が27.2%（1,140箇所）を占めている。

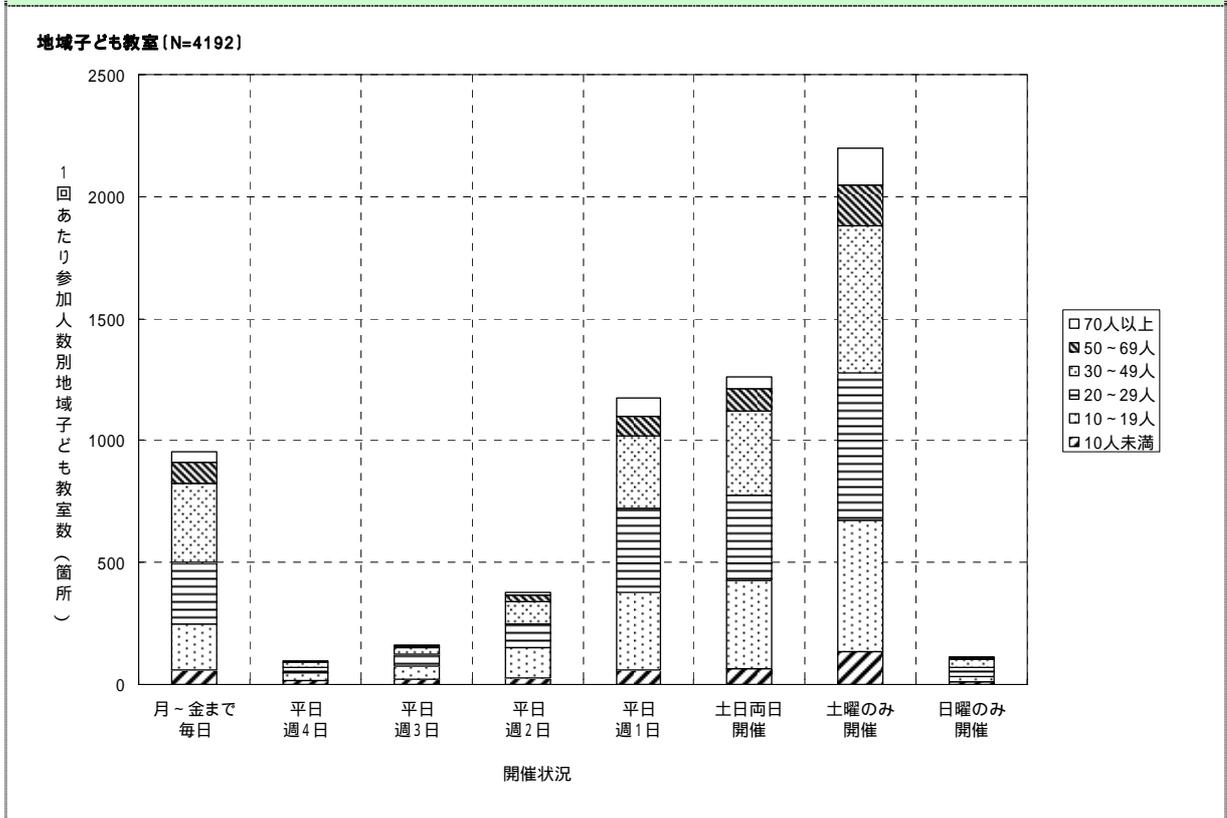


開催状況毎の子ども参加者数

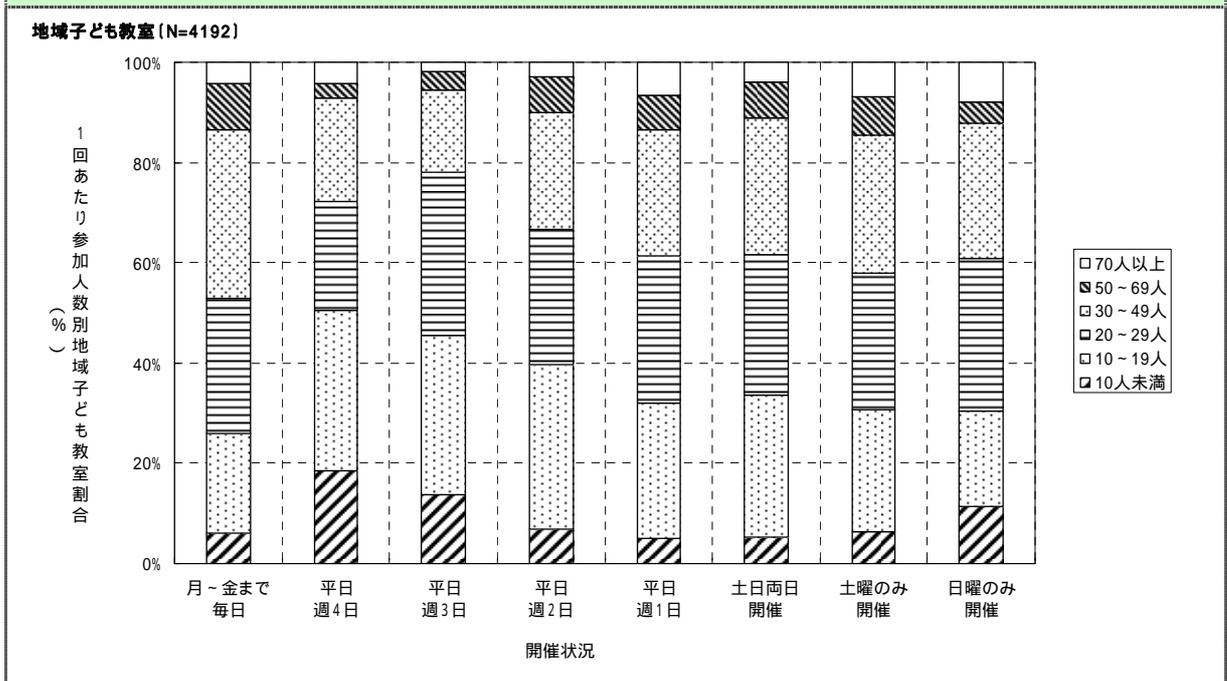
〔事業報告書より〕

❖ 曜日別の開催状況と1回あたりの子どもの参加者数の関係は、「月～金まで毎日」開催している地域子ども教室の参加者数が比較的多いものの、曜日による参加者数の差はあまり見られない。

〔事業報告書より集計〕 地域子ども教室ごとの開催状況別1回あたり参加子ども数別 教室数



〔事業報告書より集計〕 地域子ども教室ごとの開催状況別1回あたり参加子ども数別 教室割合

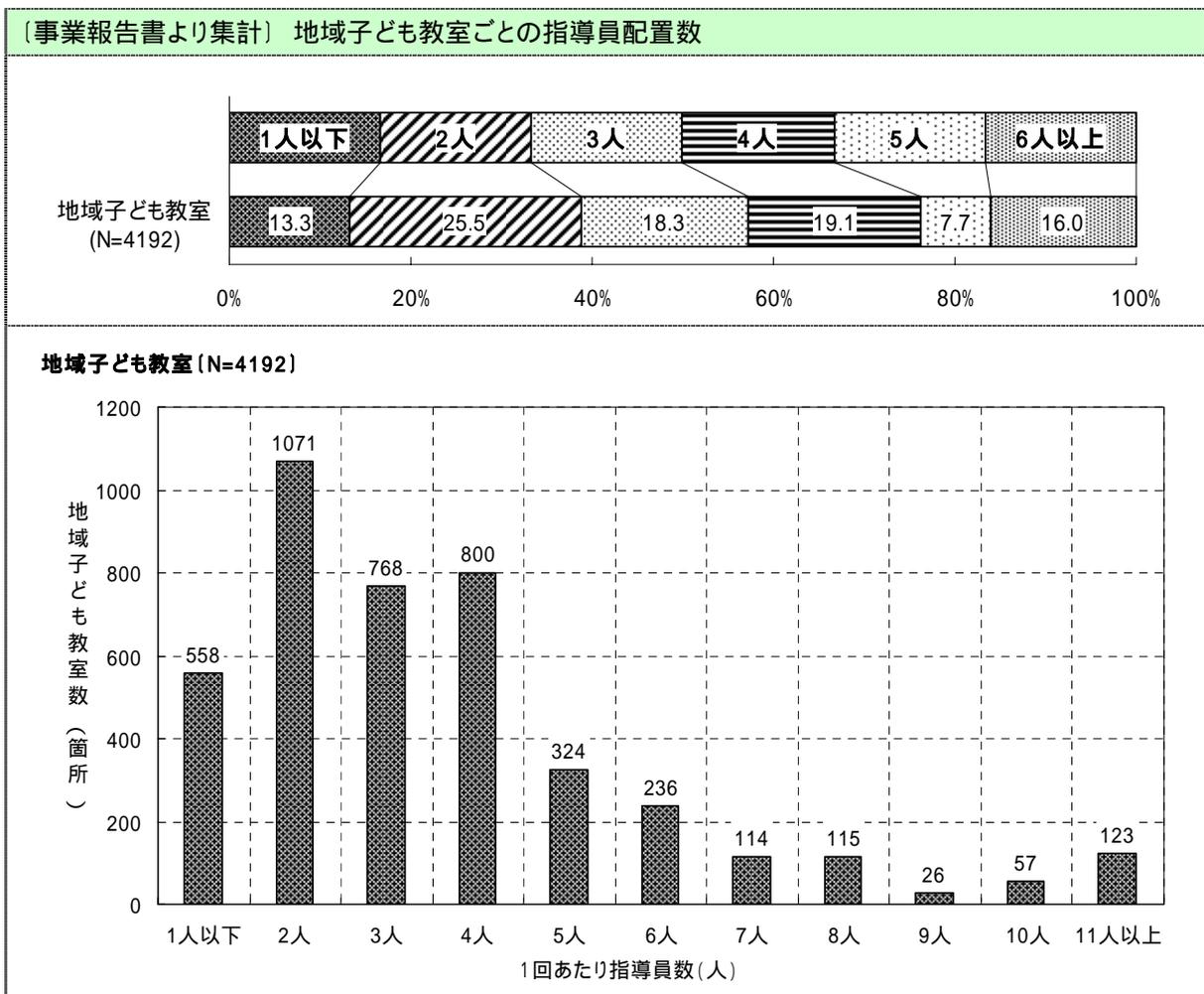


(6) 地域子ども教室の指導員数

1回あたりの指導員配置数

〔事業報告書より〕

❖ 地域子ども教室での活動1回あたりの指導員の配置数は、2～4人規模が全体の約6割と多くなっており、そのうち「2人」が最も多く25.5%（1,071箇所）を占めている。

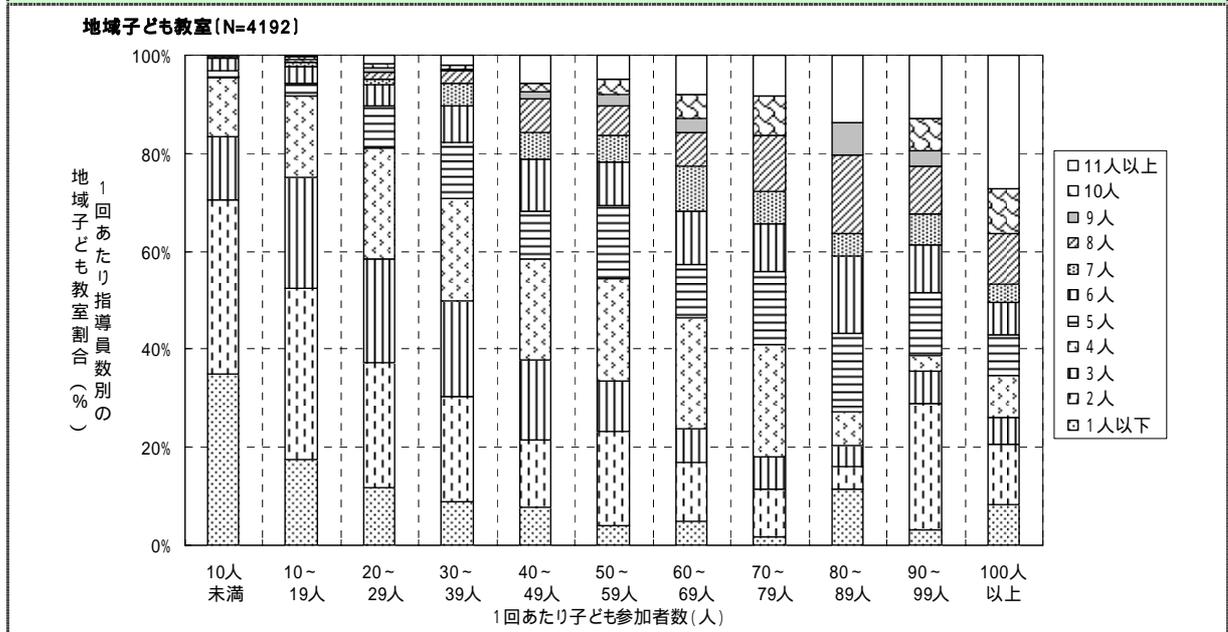


子ども参加者数と指導員配置数

〔事業報告書より〕

- ❖ 1回あたりの子ども参加者数が増加するとともに、指導員配置数も増加している。子どもの参加が20人以上となると、指導員数が5人以上の地域子ども教室が増えはじめ、子どもの参加が60人以上となると、指導員数が5人以上の地域子ども教室が5割を占める。

〔事業報告書より集計〕 地域子ども教室1回あたり参加者数別/1回あたり指導員配置数別割合

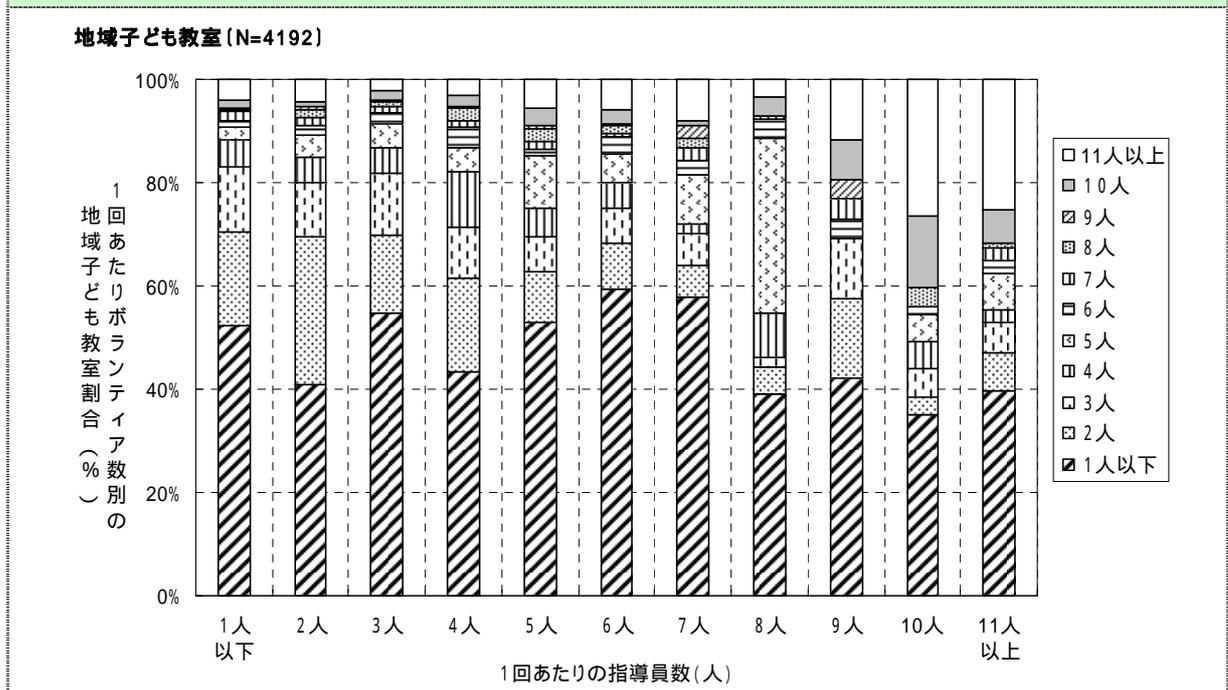


指導員の配置人数別のボランティア数

〔事業報告書より〕

- ❖ 指導員の配置人数が多い場合、ボランティア数も増加する傾向が見られる。一方、指導員の配置人数に関わらず、ボランティア数が1人以下の地域子ども教室が4~6割程度見られる。

〔事業報告書より集計〕 地域子ども教室1回あたり指導員配置数別/1回あたりボランティア数別割合



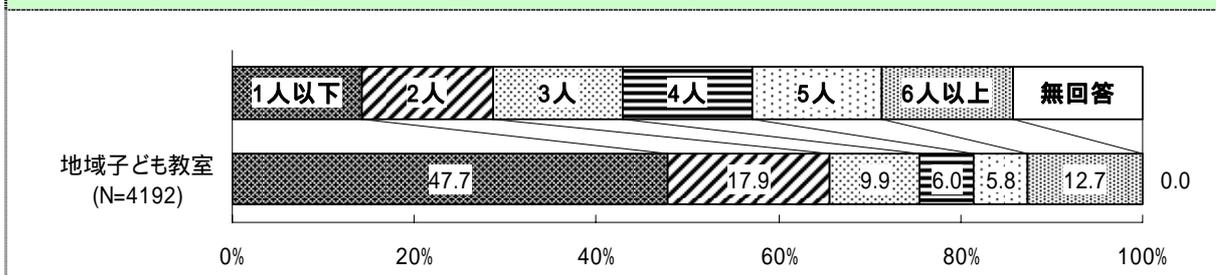
(7) 地域子ども教室のボランティア数

1回あたりのボランティア数

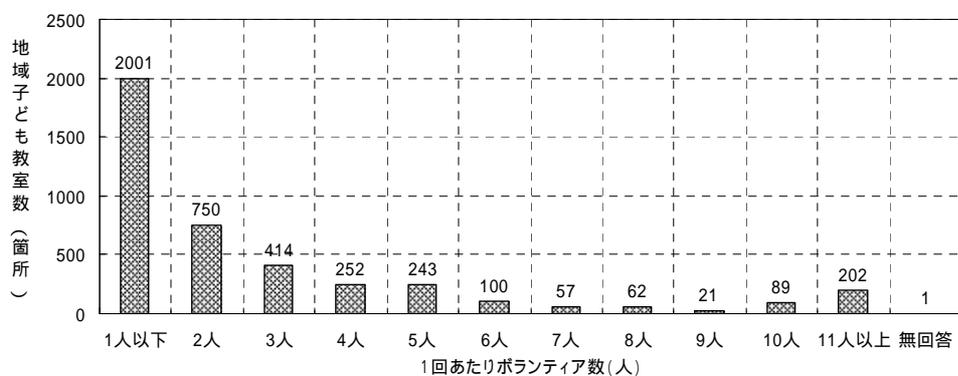
〔事業報告書より〕

※ 地域子ども教室での活動1回あたりのボランティア数は、「1人以下」が最も多く47.7% (2,001箇所) を占める。

〔事業報告書より集計〕 地域子ども教室ごとのボランティア参加者数



地域子ども教室 (N=4192)

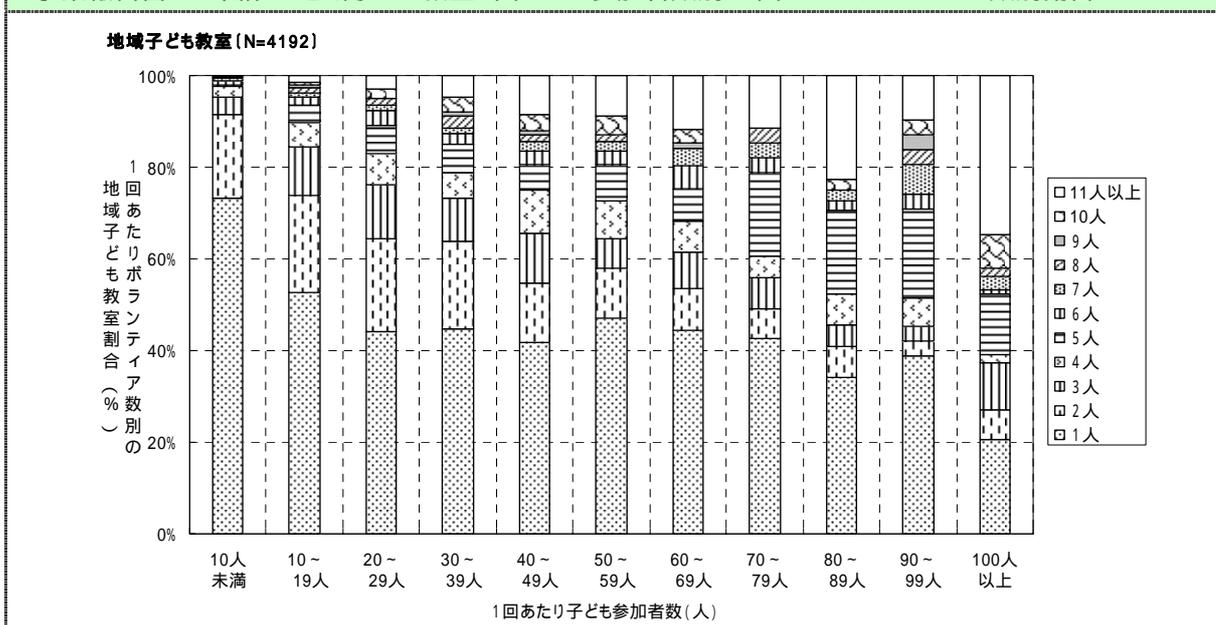


子ども参加者数とボランティア数

〔事業報告書より〕

※ 1回あたりの子ども参加者数が増加するとともに、ボランティア数も増加する傾向があるものの、子どもの参加人数に関わらず、ボランティア数が1人以下の地域子ども教室が4割前後見られる。

〔事業報告書より集計〕 地域子ども教室1回あたり参加者数別/1回あたりボランティア数別割合



1 - 5 . 今後の地域子ども教室推進事業の実施について

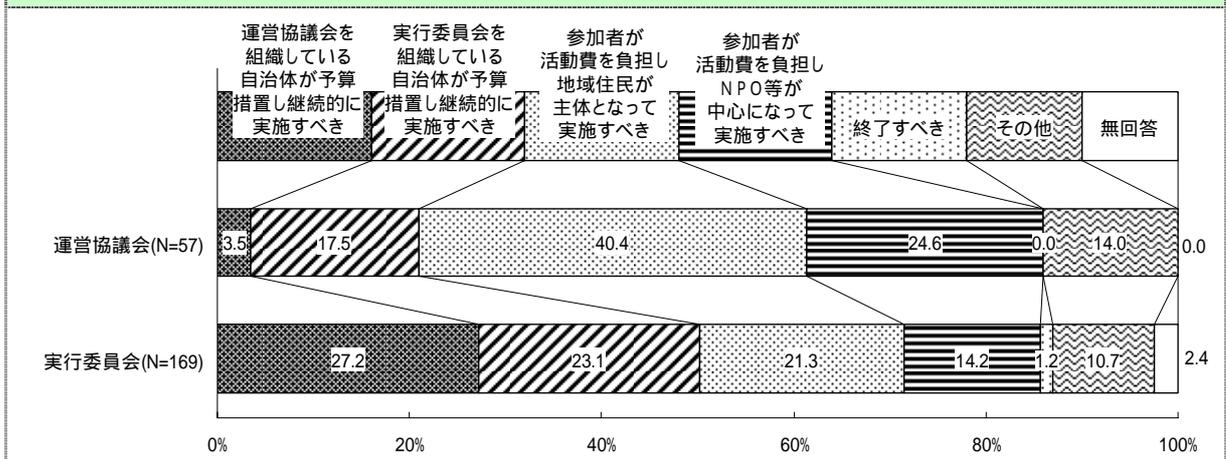
平成16年度より開始された本事業は、緊急かつ計画的な取組として、3年間に限り国の委託費として予算措置するものである。

このため、平成19年度以降の地域子ども教室推進事業についてどのようにしていくべきか、運営協議会及び実行委員会の意向を把握した。

〔アンケート結果より〕運営協議会アンケート問22，実行委員会アンケート問21

- ❖ 運営協議会においては、国の委託費がなくなった後の地域子ども教室について、「参加者が活動費を負担し地域住民が主体となって実施すべき」という意見が4割を占め、次いで「参加者が活動費を負担し、NPO等が中心になって実施すべき」が約25%と、行政の手から参加者・地域住民の手に事業を委ねていくべきという考えが大半を占めている。
- ❖ これに対して、実行委員会では、国の委託費がなくなった後は「運営協議会を組織している自治体が予算措置し継続的に実施すべき」という意見が27.2%、「実行委員会を組織している自治体が予算措置し継続的に実施すべき」という意見が23.1%と、平成19年度以降も行政が主体的に事業を実施していくことが必要との考えが約半数を占めている。
- ❖ 地域子ども教室の活動現場により近い実行委員会においては、国の委託費がなくなったからといってすぐに地域住民や参加者だけの手に事業を委ねるのは難しいという考えがより強く、自らも含めて行政がある程度継続的な事業展開のために予算措置していくべきという意向が比較的強い。
- ❖ これに対して、運営協議会では、国の3年間の委託事業が当初より平成19年度以降の地域の自主的・独自の活動へと円滑に移行するための基盤づくりを目的としていたことをふまえて、やはり今後は参加者自身が応分の費用負担をしつつ、地域住民やNPO等が中心となって取り組んでいくべきという考えが強い。

問22(問21) 本事業に対する国の委託費は平成18年度までと予定されていますが、貴運営協議会(貴実行委員会)では、国の委託費がなくなった後の地域子ども教室はどのようにしていくべきだとお考えになりますか。(SA)



第 2 部



平成 16 年度「地域子ども教室推進事業」の 事業効果分析

第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

2-1. 調査の概要

本事業において地域子ども教室に登録した子ども及びその保護者、指導員・ボランティア、コーディネーター、及び活動場所となった施設（学校・その他）に対してアンケート調査を実施し、事業実施に伴い参加者である子どもやその保護者に見られる変化などを把握した。

また、事業参加経験の有無により意識等にどのような違いが見られるか等を把握し、事業成果の客観的な評価を行うことも重要であるため、上記アンケート調査と併せて本事業に参加しなかった子どもやその保護者に対してもアンケート調査を実施した。

(1) アンケート調査の種類及び対象等について

各アンケートの対象及び配布方法・サンプル数については、以下のとおりである。

表2-1 各アンケートの対象及び配布方法・サンプル数

アンケート対象	配布方法	サンプル数
子ども	地域子ども教室経由で配布	220実行委×2教室×15人=6,600人
	地域子ども教室の活動場所とならなかった学校 経由で配布（小3・小6・中2 各1クラスずつ）	220実行委×1小学校×60人=13,200人 220実行委×1中学校×30人=6,600人
	保護者	220実行委×2教室×15人=6,600人 220実行委×1小学校×60人=13,200人 220実行委×1中学校×30人=6,600人
指導員・ボランティア	地域子ども教室経由で配布	220実行委×2教室×5人=2,200人
コーディネーター	実行委員会経由で配布	220実行委×3人=660人
実施学校長	実行委員会経由で配布	220実行委×2学校=440学校
実施施設長	実行委員会経由で配布	220実行委×2施設=440施設
未実施学校長	実行委員会経由で配布（小中1校ずつ）	220実行委×2学校=440学校

実施施設とは、公民館や児童館、市民センター、コミュニティセンターなど、学校施設以外で地域子ども教室推進事業を実施した施設を指す。

(2) アンケート調査の回収状況

各アンケートの回収状況は以下のとおりである。

表2-2 各アンケート回収状況

	対象数	回収数	回収率	掲載ページ
子ども	26,400	9,027	34.2%	P 46
保護者	26,400	8,545	32.4%	P 70
指導員・ボランティア	2,200	1,089	49.5%	P 92
コーディネーター	660	330	50.0%	P 108
実施学校長	440	206	46.8%	P 124
実施施設長	440	190	43.2%	P 135
未実施小学校長	220	106	48.2%	P 146
未実施中学校長	220	120	54.5%	

--- グラフ中の標記について ---

SA...単一回答（「あてはまるものひとつに 印」と聞いた設問）

MA...複数回答（「あてはまるものすべてに 印」と聞いた設問）

FA...自由記述回答

平均多重回答数...MAの設問について1回答者あたりいくつ をつけたか

2 - 2 . 子どもに対するアンケート調査結果について

調査対象	全国の 220 箇所の実行委員会において、任意の地域子ども教室2箇所において登録・活動に参加している子ども及び任意の2小中学校に通う小3・小6・中2の児童生徒 (対象市町村数 = 203 市町村)
対象抽出	各実行委員会において、任意の地域子ども教室を2箇所(学校施設1箇所、その他の施設1箇所)抽出 各実行委員会において、地域子ども教室の活動場所となっていない小中学校から各1校ずつ抽出 (総サンプル数 26,400)
調査方法	各地域子ども教室において指導員経由で15人の子どもに対してアンケート票を配布(「登録子ども」) 学校経由で小3・小6・中2の児童生徒各1クラスずつにアンケート票を配布(「非登録子ども」)
調査時期	2005.8.22 ~ 2005.11.30
回答数	9,027 人 (回答率 34.2%)

《結果のポイント》

普段の生活や地域への関心など

小学生は普段は家で遊んだり塾に行ったりしているが、中学生はクラブ活動をしている子どもが多い。地域活動等への参加についてみると、学年別では低学年の方が、登録/非登録別では登録子どもの方が一般的に様々な活動に参加している。

また、登録子どもの方が、放課後一緒に遊ぶ友だちや、名前と顔の両方を知っている地域の大人の人、いつも声をかけてくれる人、いたずらをすると叱ってくれる人がたくさんおり、自分の住んでいるまちについての興味・関心も高い。

地域子ども教室に参加した感想や自身の変化など

登録子どもが参加するようになったきっかけは、小学校低学年では両親の勤めが最も多く、また小学校高学年や中学生では友だちからの誘いやポスター・チラシなどが比較的多くなっている。

登録子どもの9割以上は「楽しい」と感じており、低学年ほどその割合が高い。

楽しいと感じる理由は、「友だちと遊べるから」や「普段できない遊びや活動ができるから」が上位に挙げられている。一方、楽しくないと感じる理由としても「友だちが来ていないから」「おもしろい遊びや活動がないから」が上位であり、**友だちの存在と面白い活動内容**の2点が主な評価軸となっている。

半数以上の子どもが、参加前と比べて異学年の友だちや地域の大人で知っている人が増えたとしている。参加する前と後とでの自身の変化については、低学年ほど高評価であり、特に地域の大人の人と挨拶をしたりするようになった、学校に行くのが楽しくなった、教室のことを家の人と話したりするようになったなどについて比較的強く変化を感じている。

今後の地域子ども教室への参加意向など

非登録子どもの不参加理由は、「地域子ども教室のことを知らなかったから」が最も多い。

登録子どもは8割近くが継続的な参加意向を示している。非登録子どもでも1割弱は参加したいとしており、その理由から新しい友だちができることへの期待が見て取れる。

参加したくないという子どもが挙げた理由をみると、学年が上がるほど、つまらなそう、面倒、ゆっくり休みたいなどが高い割合となっている。

今後の地域子ども教室についても、評価軸と同様、**友だちの存在と面白い活動内容**が求められており、活動自体は長期休みに学校や公民館などで実施してほしいという声が多い。

第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

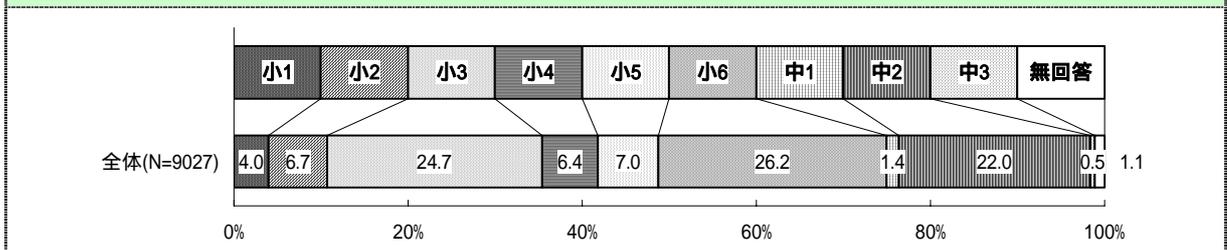
(1) 学年・性別及び地域子ども教室への登録の有無

問2 あなたは、何年生ですか。(SA)

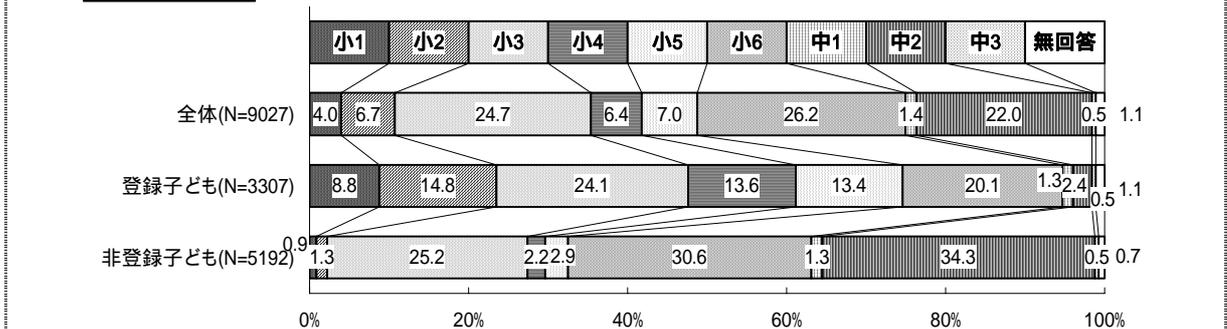
問3 あなたの性別は。(SA)

- ❖ 学校経由で配布したものが全体のサンプル数の75%を占めるため、回答者の学年についても、小3・小6及び中2の割合がそれぞれ25%前後と高くなっている。
- ❖ 「地域子ども教室にどのくらい来ているか」という設問に対し、頻度は異なっても「来ている」と回答した子どもについては「登録子ども」とし、「来ていない」と回答した子どもについては「非登録子ども」として集計した。その結果、登録子どもは36.6%(3,307人)、非登録子どもは57.5%(5,192人)であった。
- ❖ 性別については、女子の方が若干多くなっている。

問3 あなたは、何年生ですか。(SA)

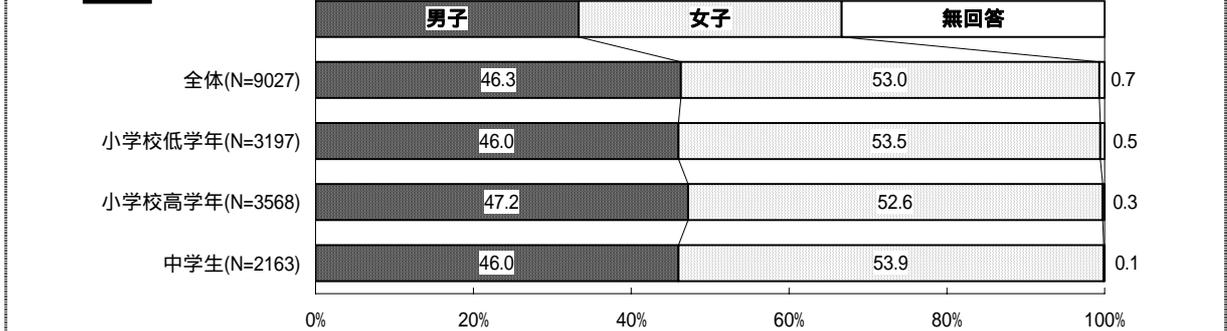


登録/非登録別

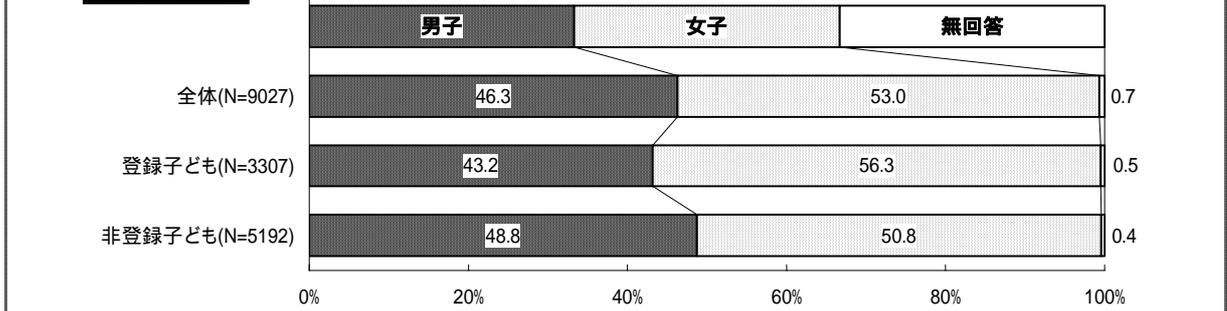


問3 あなたの性別は。(SA)

学年別



登録/非登録別

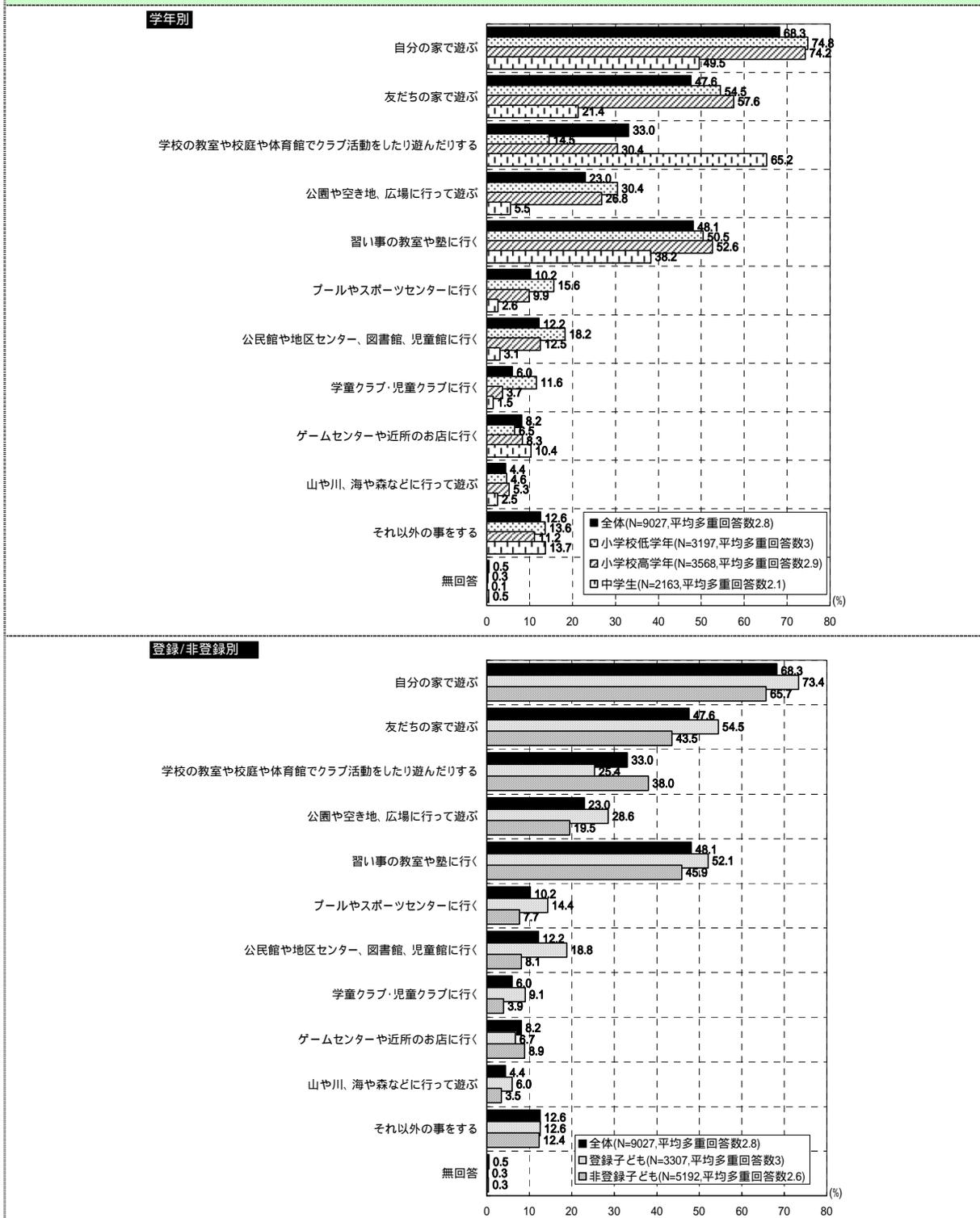


(2) 普段の生活や放課後の過ごし方

問4 あなたは、いつも学校がおわったあと、どのようにすごしていますか。(MA)

- ❖ 学校が終わった後の過ごし方についてみると、全体では「自分の家で遊ぶ」が「習い事の教室や塾に行く」、「友だちの家で遊ぶ」が多い。
- ❖ 学年別にみると、中学生はクラブ活動等の割合が高く、自分の家や友だちの家で遊ぶという回答は小学生の方が高くなっている。また登録/非登録で比較すると、「学校の教室や校庭や体育館でクラブ活動をしたり遊んだりする」、「ゲームセンターや近所のお店に行く」以外は登録子どもの方が高い割合となっている。

問4 あなたは、いつも学校がおわったあと、どのようにすごしていますか。(MA)

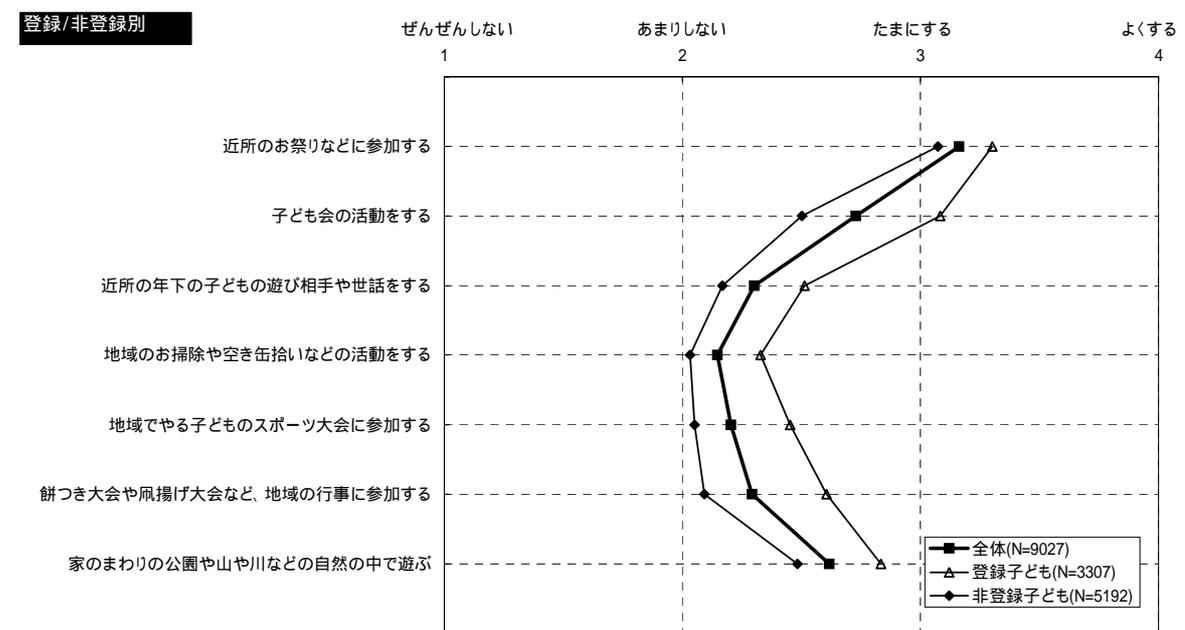
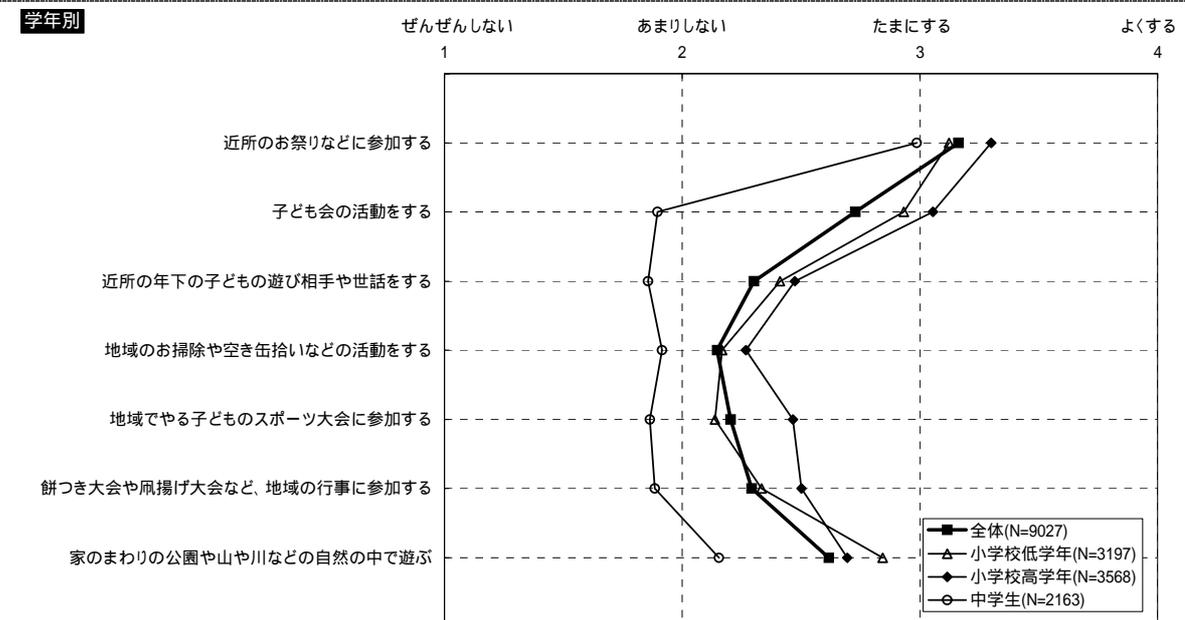


第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問5 あなたは、いつも、つぎのようなことをどのくらいしていますか。(各項目ごとにSA)

- ❖いつもしていることについて「よくする」を4点、「たまにする」を3点、「あまりしない」を2点、「ぜんぜんしない」を1点として評点化すると、全体では「近所のお祭りなどに参加する」「子ども会の活動をする」「家のまわりの公園や山や川などの自然の中で遊ぶ」については比較的ポイントが高いが、「地域のお掃除や空き缶拾いなどの活動をする」や「地域でやる子どものスポーツ大会に参加する」「餅つき大会や凧揚げ大会など地域の行事に参加する」などについては「あまりしない」に近い値となっている。
- ❖また、学年別にみると、全体的に小学生の方が活動参加状況が高く、中学生では「近所のお祭りなどに参加する」を除く全項目で「あまりしない」～「ぜんぜんしない」と活動参加状況が低くなっている。
- ❖全項目について、登録子どもの方が非登録子どもよりもポイントが高く、地域での活動や屋外での遊びなどについて登録子どもの方が活発に行っていることがわかる。

問5 あなたは、いつも、つぎのようなことをどのくらいしていますか。(各項目ごとに SA)



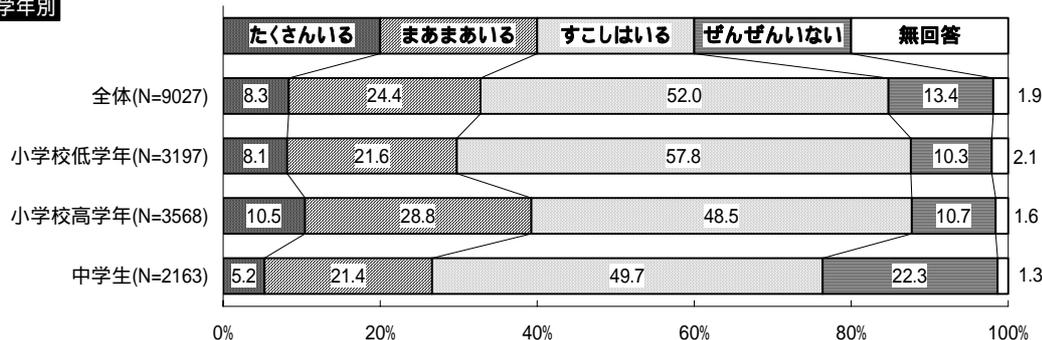
問6 あなたは、学校から帰って、いつもいっしょにあそぶ友だちが近所にいますか。(SA)

問7 あなたは、近所に顔と名前のりょうほうを知っているおじさんやおばさん、おにいさんやおねえさんがいますか。(SA)

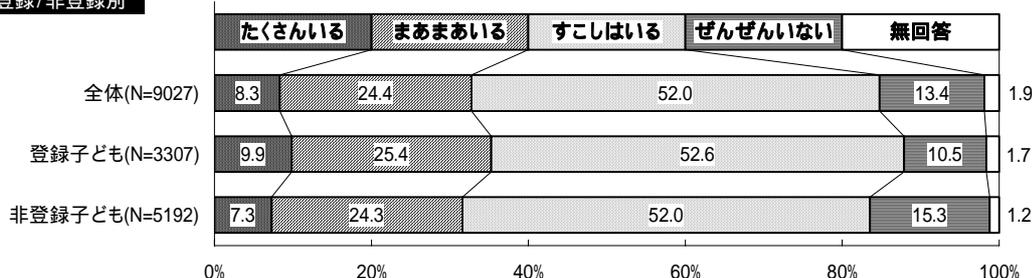
- ❖ 放課後一緒に遊ぶ友だちについては、「少しはいる」が半数以上と最も高い割合を占めるが、学年別では小学校高学年で、登録/非登録別では登録子どもで「たくさんいる」が10%近くとなっている。
- ❖ 顔と名前の両方を知っている大人の存在については、学年別では小学校高学年、登録/非登録別では登録子どもが比較的多く、「たくさんいる」と「まあまあいる」をあわせると50%以上となっている。「ぜんぜんいない」は全体で9.1%であり、放課後一緒に遊ぶ友だちについての方が「ぜんぜんいない」としている割合が13.4%と高い。

問6 あなたは、学校から帰って、いつもいっしょにあそぶ友だちが近所にいますか。(SA)

学年別

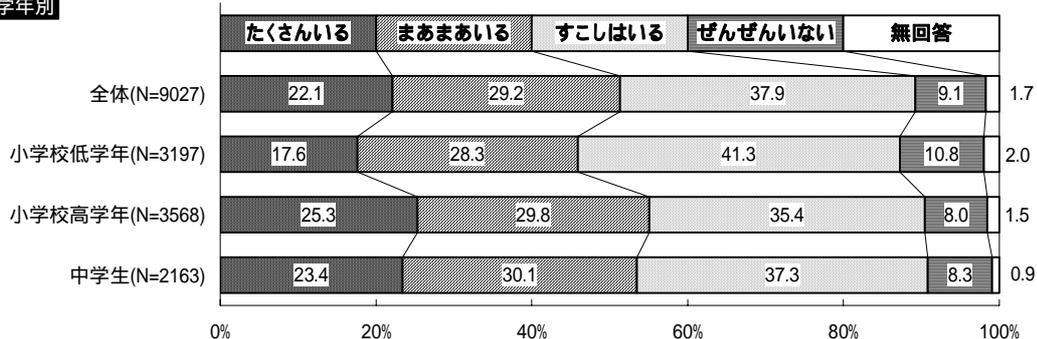


登録/非登録別

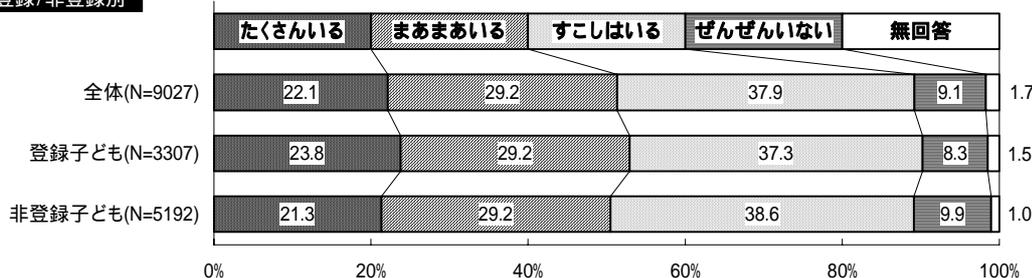


問7 あなたは、近所に顔と名前のりょうほうを知っているおじさんやおばさん、おにいさんやおねえさんがいますか。(SA)

学年別



登録/非登録別



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

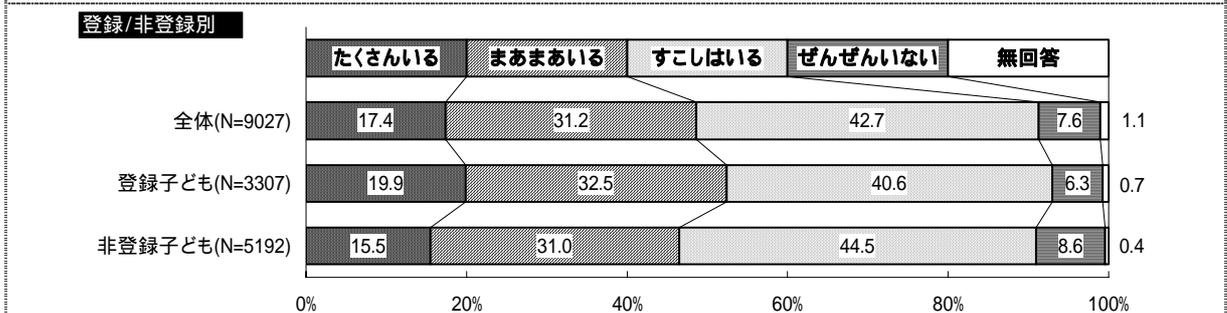
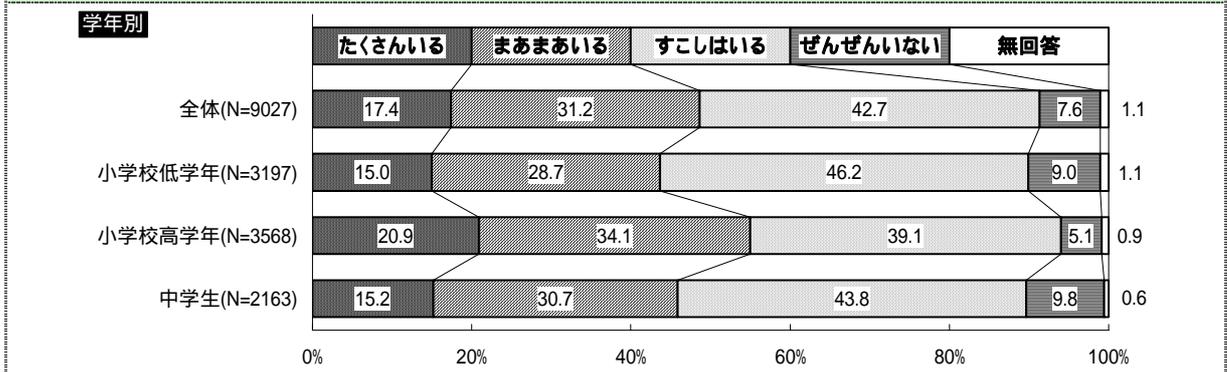
問8 あなたの家のまわりには、いつも「おはよう」などと声をかけてくれる人がいますか。(SA)

問9 あなたの家のまわりには、いたずらをしたりするとおこったり注意したりする人はいますか。(SA)

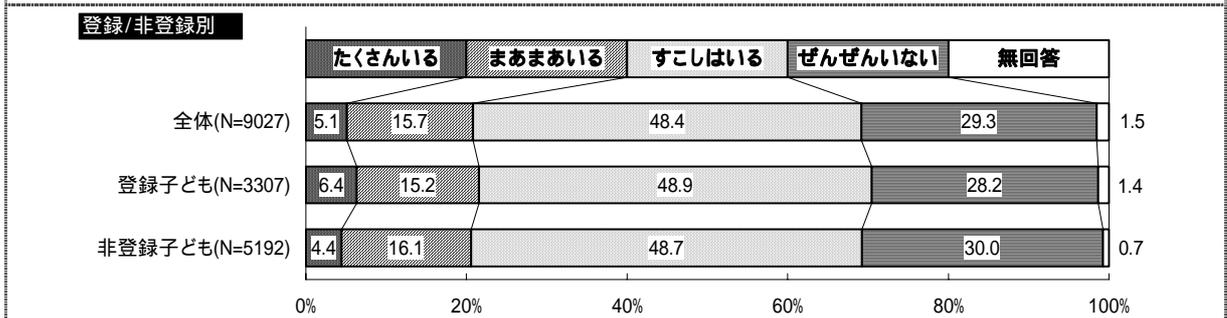
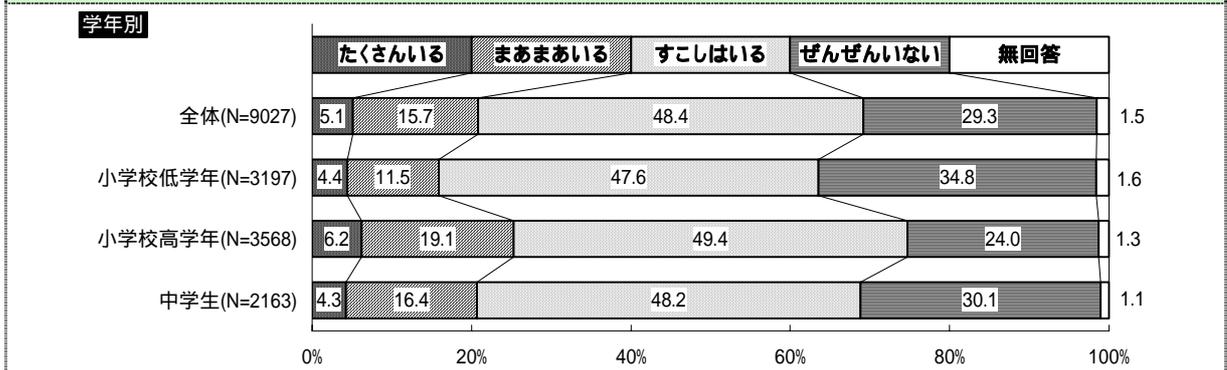
❖ いつも声をかけてくれる人の存在については、「ぜんぜんいない」の割合は全体で7.6%であり、9割以上は「いる」と肯定的な評価をしている。学年別では小学校高学年で、登録/非登録別では登録子どもで、「たくさんいる」と「まあまあいる」をあわせると50%以上となっている。

❖ 一方、いたずらをすると怒ってくれる人の存在については、「ぜんぜんいない」が約30%と比較的高い割合となっている。学年別では小学校高学年で、登録/非登録別では登録子どもで、「たくさんいる」、「まあまあいる」の割合が比較的高い。

問8 あなたの家のまわりには、いつも「おはよう」などと声をかけてくれる人がいますか。(SA)



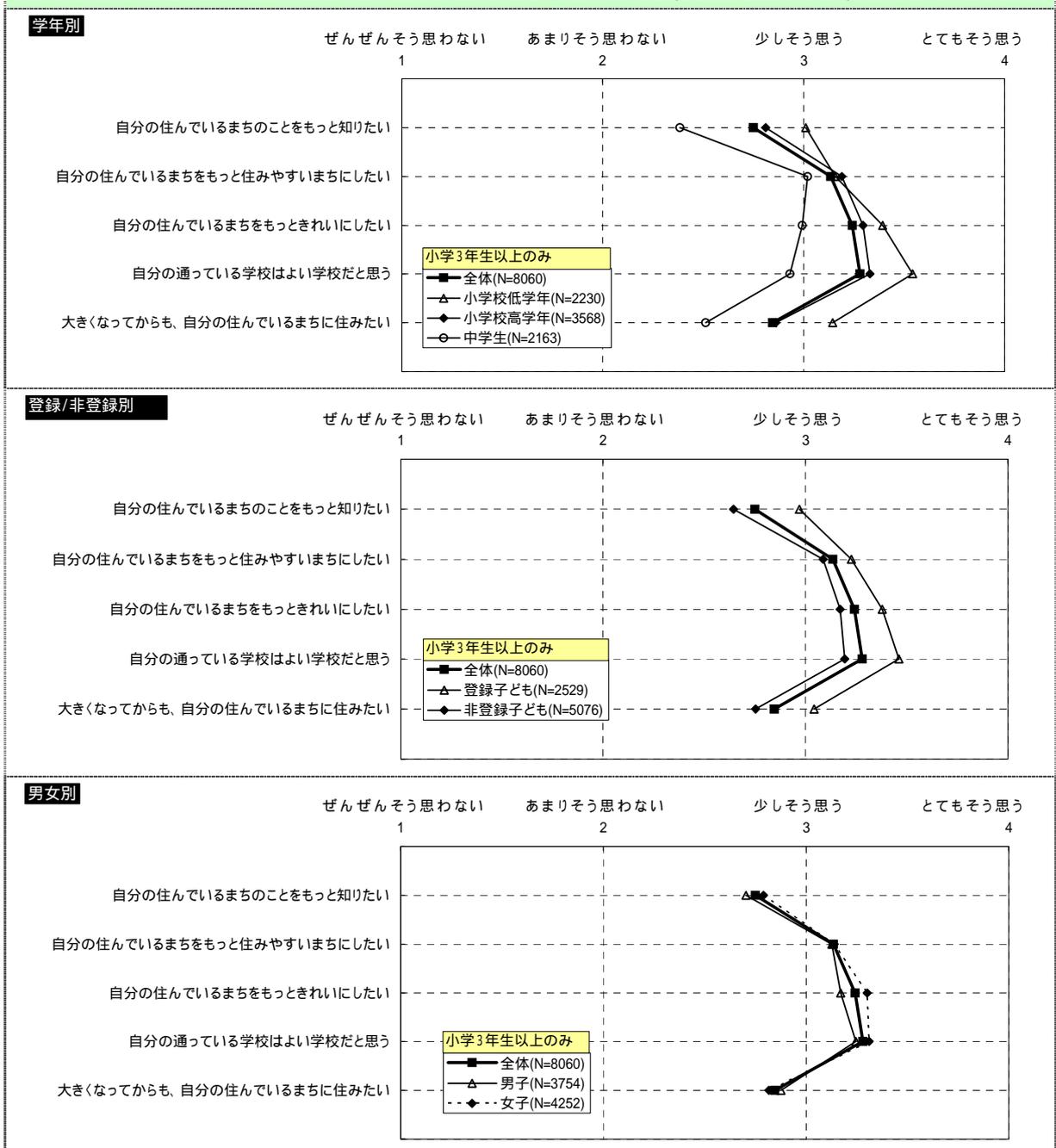
問9 あなたの家のまわりには、いたずらをしたりするとおこったり注意したりする人はいますか。(SA)



問10 小学3年生以上の人におききます。あなたは、自分の住んでいるまちについて、どう思いますか。(各項目ごとにSA)

- ❖ 小学3年生以上の子どもに対して、自分の住んでいるまちについての評価を聞いたところ、全体的に肯定的な評価となっており、特に「自分の住んでいるまちをもっと住みやすいまちにしたい」、「自分の住んでいるまちをもっときれいにしたい」、「自分の通っている学校はよい学校だと思う」について評価が高くなっている。
- ❖ 学年別で見ると、全項目について学年が低いほど評価が高くなっており、特に「自分の通っている学校はよい学校だと思う」については、小学校低学年で3.5ポイントと高い評価となっている。
- ❖ また登録/非登録別にみると、全項目について登録子どもの方が評価が高くなっている。
- ❖ 男女別ではほとんど差はないが、「自分の住んでいるまちをもっときれいにしたい」については、男女で多少差が見られ、女子の方が高いポイントとなっている。

問 10 あなたは、自分の住んでいるまちについて、どう思いますか。(各項目ごとに SA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

(3) 地域子ども教室についての認知度や感想と今後の参加意向

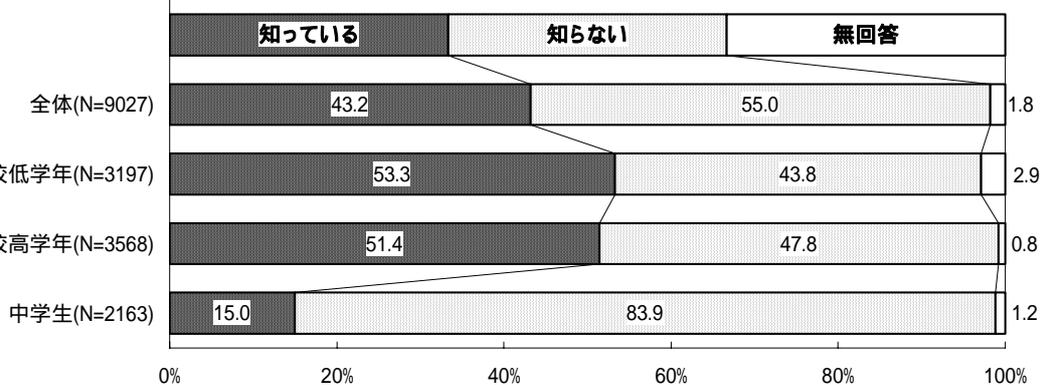
問11 あなたは「地域子ども教室」を知っていますか。(SA)

問12 あなたは「地域子ども教室」にどのくらい来ていますか。(SA)

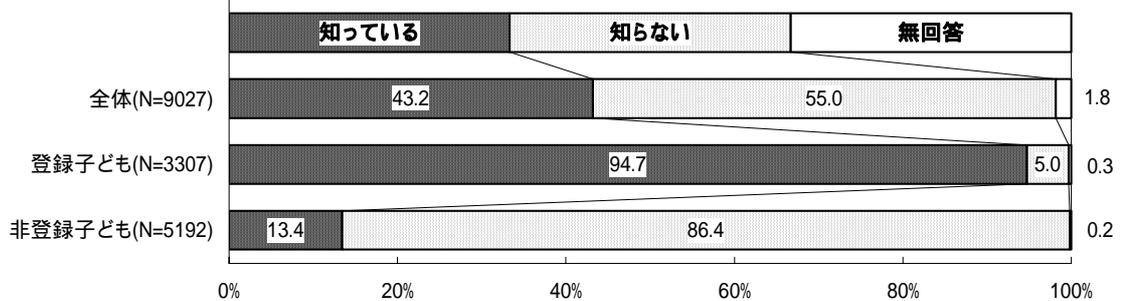
- ◆地域子ども教室の認知度については、小学生は「知っている」が半数を占めているが、中学生では「知っている」は15.0%にとどまり、「知らない」が83.9%と認知度が下がっている。
- ◆登録/非登録別でみると、非登録子どもの中でも、13.4%の子どもは地域子ども教室のことを「知っている」としている。
- ◆地域子ども教室への参加頻度については、全体の約6割が「来ていない」すなわち非登録子どもであったが、「来ている」すなわち登録子どもの中では、「ひと月に1日から3日程度来ている」という割合が13.9%と最も高く、ついで「一週間に1日程度来ている」が9.6%となっている。
- ◆学年別に参加頻度をみると、中学生の9割近くは「来ていない」すなわち非登録子どもであり、登録子どもの大部分は小学生である。

問11 あなたは「地域子ども教室」を知っていますか。(SA)

学年別

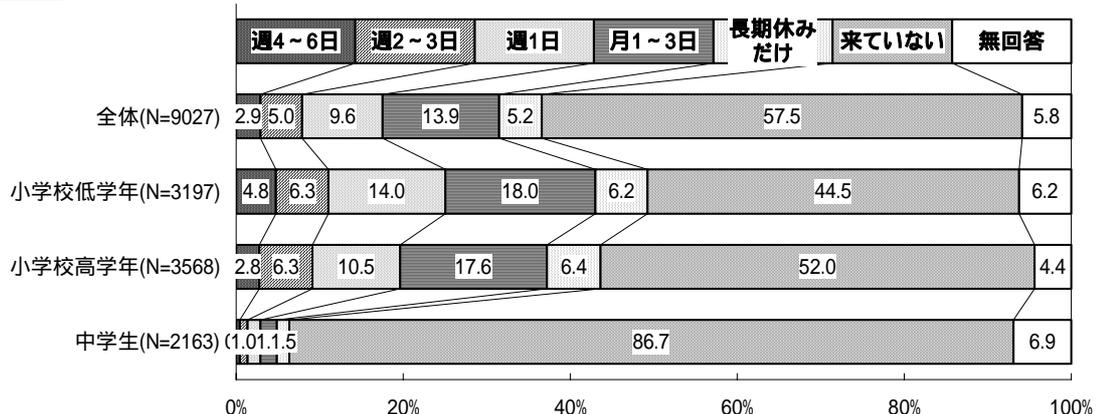


登録/非登録別



問12 あなたは「地域子ども教室」にどのくらい来ていますか。(SA)

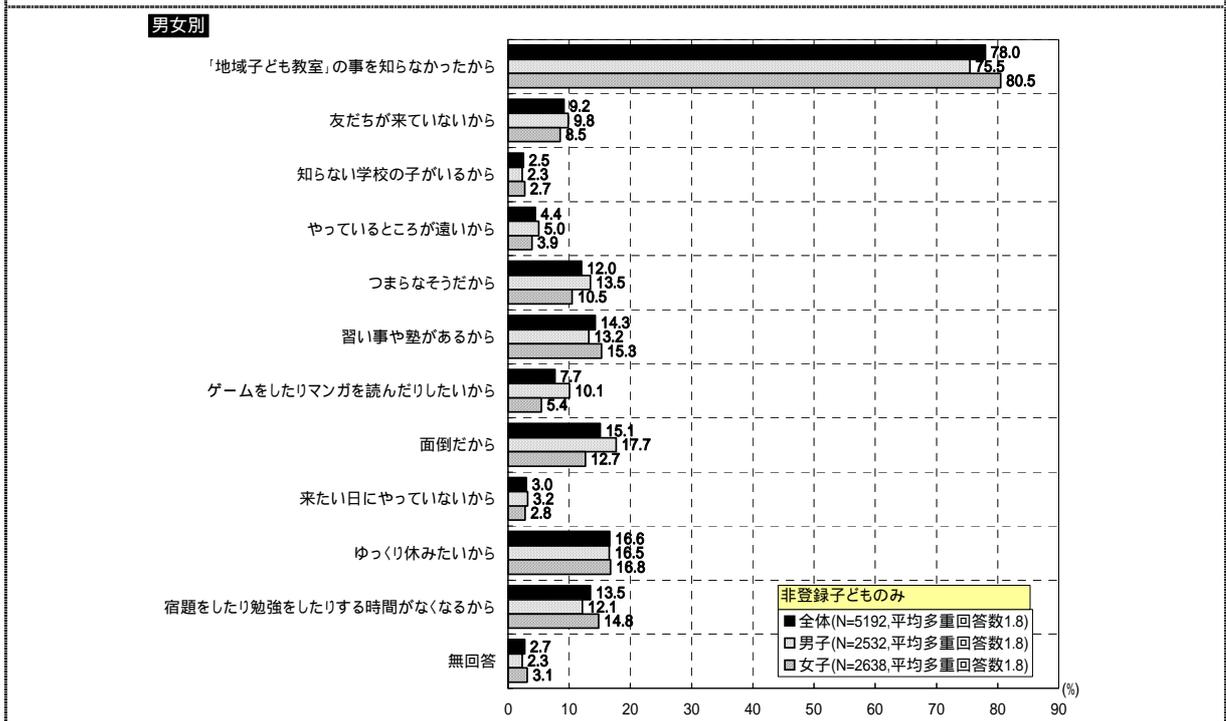
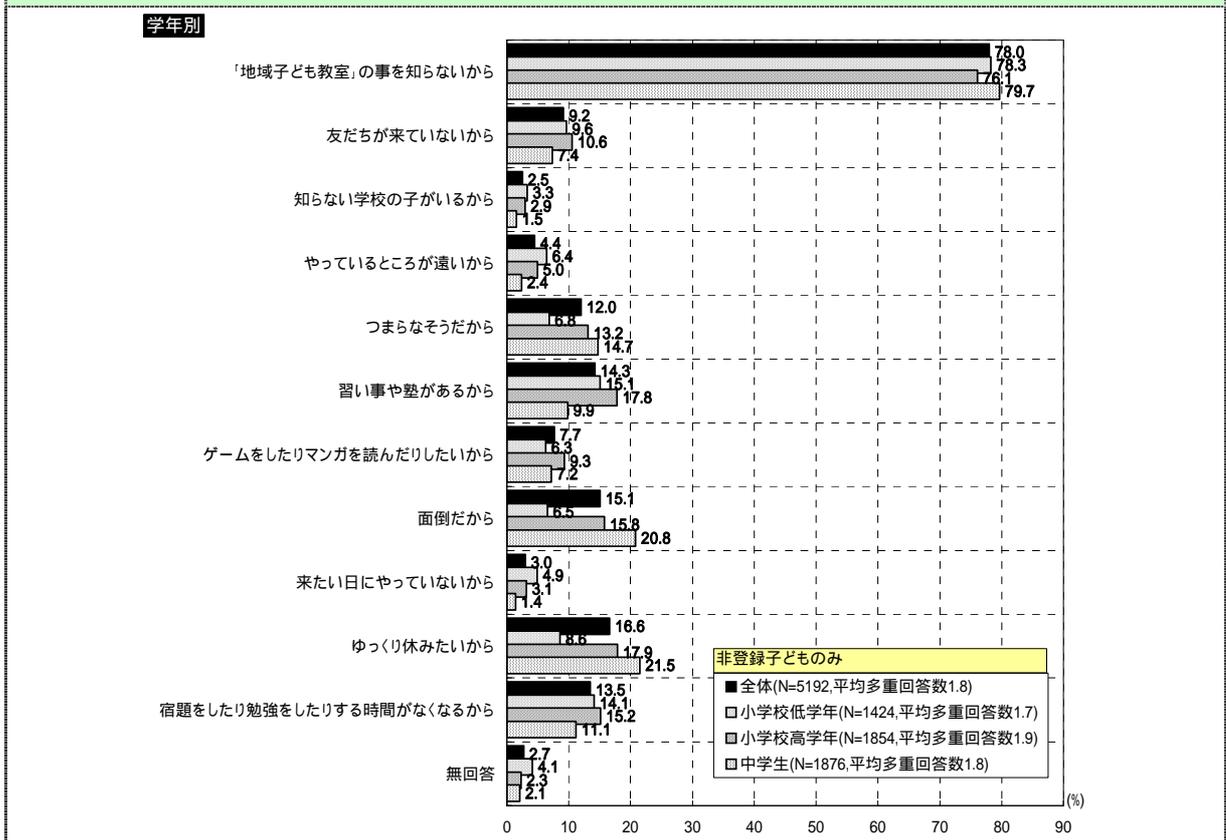
学年別



問13 「地域子ども教室」に来ていない人にだけ、おきします。あなたが「地域子ども教室」に来ていないのは、どうしてですか。(MA)

- ❖ 非登録子ども(5,192人)のみについて、地域子ども教室へ参加しない理由をみると、「地域子ども教室のことを知らなかったから」という理由が8割近くと突出して高くなっている。
- ❖ その他の理由の中では、特に中学生では「ゆっくり休みたいから」や「面倒だから」などが高く、小学校高学年では「習い事や塾があるから」などが比較的高い。
- ❖ 性別でみても大きな差はないが、男子の方が「面倒だから」という割合が若干高くなっている。

問 13 あなたが「地域子ども教室」に来ていないのは、どうしてですか。(MA)



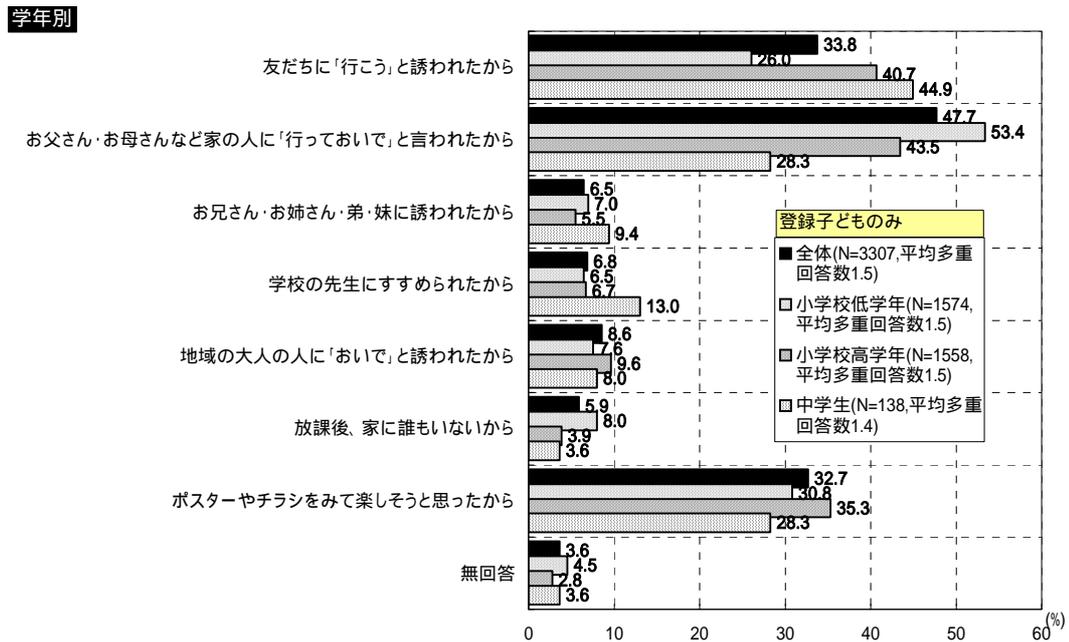
第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問14 「地域子ども教室」に来ている人に、おききます。一番はじめに「地域子ども教室」に来たときのことを思い出してください。あなたは、どうして「地域子ども教室」に来るようになったのですか。(MA)

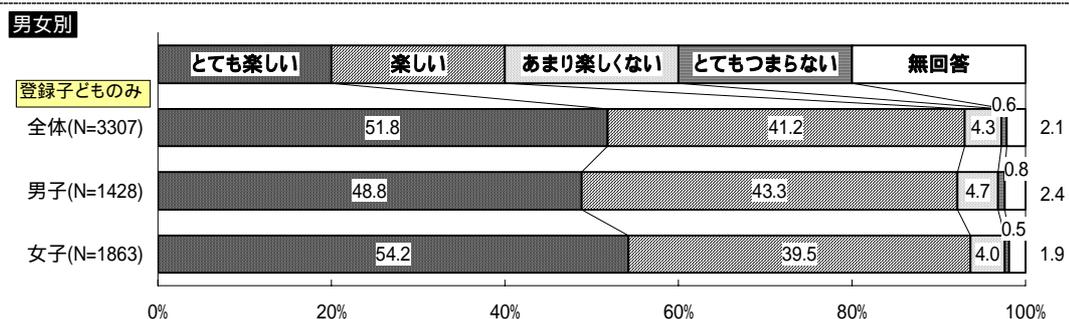
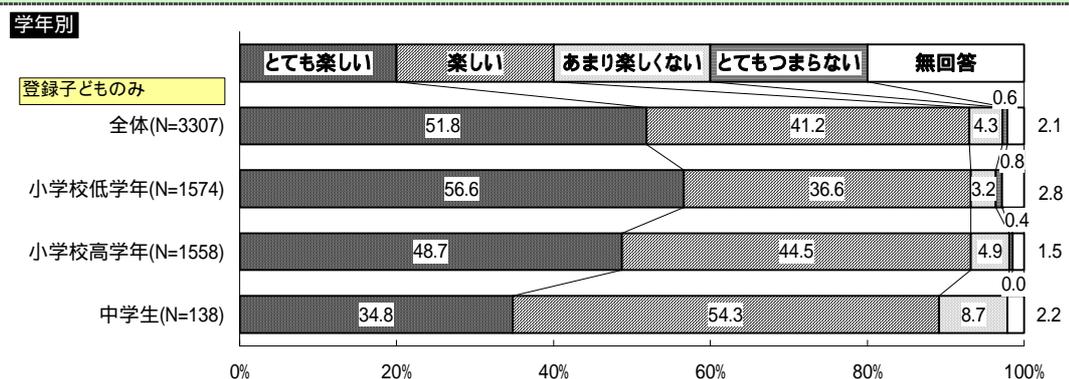
問15 では、あなたは「地域子ども教室」に来ていて、楽しいですか。(SA)

- ❖登録子ども(3,307人)のみについて、地域子ども教室に来るようになったきっかけをみると、家の人からの勧めが最も多く、次いで「友だちに誘われたから」や「ポスターやチラシをみて楽しそうと思ったから」などが高い割合となっている。学年別にみると、友だちからの誘いについては学年が上がるほど高い割合となっており、逆に小学校低学年では両親など家の人から勧められたという理由が高い割合となっている。
- ❖また地域子ども教室についての感想をみると、全体の93.0%が「とても楽しい」又は「楽しい」と感じており、低学年ほど「とても楽しい」が高い割合となっている。

問14 あなたは、どうして「地域子ども教室」に来るようになったのですか。(MA)



問15 では、あなたは「地域子ども教室」に来ていて、楽しいですか。(MA)

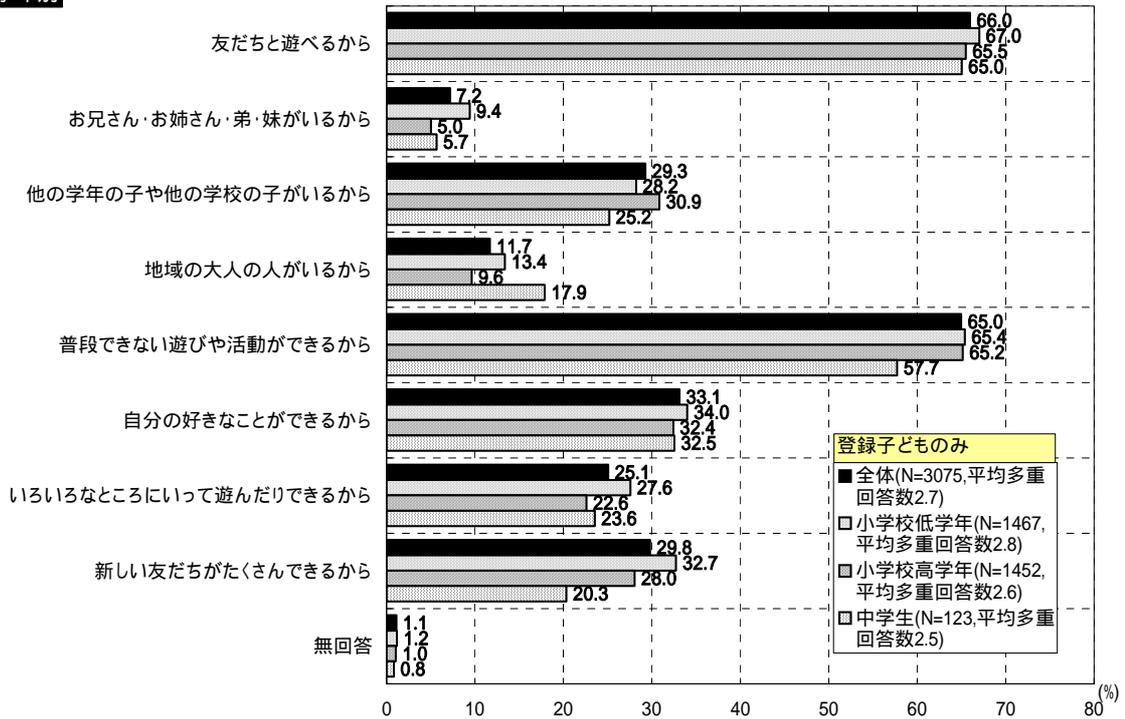


問16 「地域子ども教室」に来ていて「とても楽しい」という人や、「楽しい」という人に、おききます。あなたが「地域子ども教室」に来ていて楽しいと思うのは、どうしてですか。(MA)

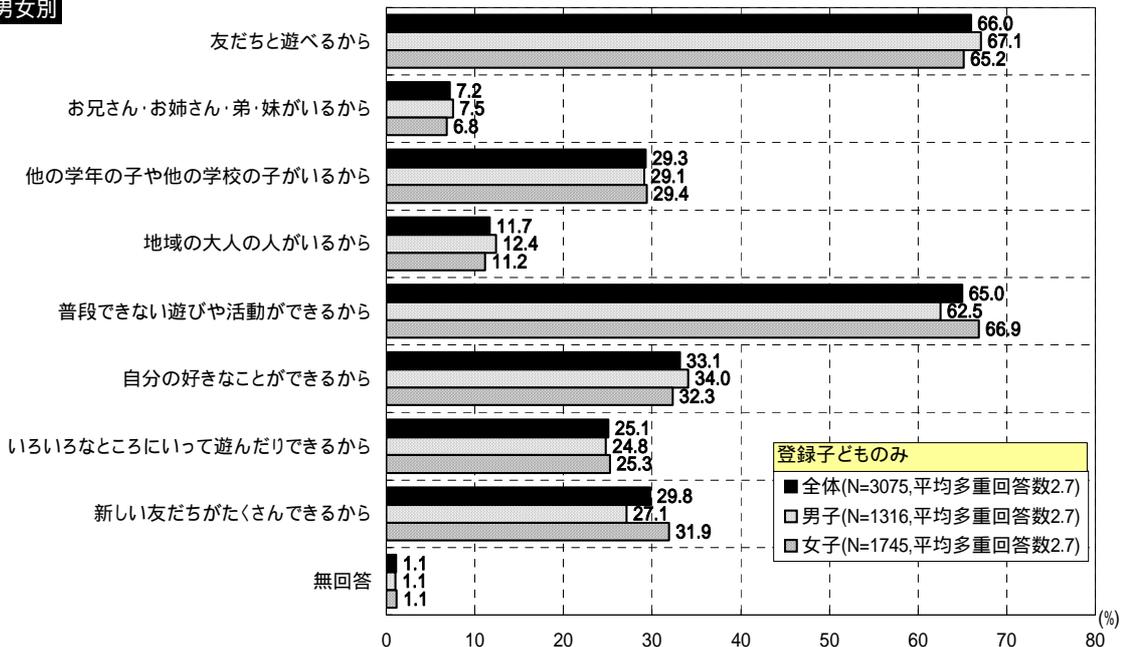
- ❖ 地域子ども教室について「とても楽しい」又は「楽しい」と回答した子ども(3,075人)について、楽しいと感じる理由を聞いたところ、「友だちと遊べるから」及び「普段できない遊びや活動ができるから」がそれぞれ65%以上となっている。
- ❖ 学年別にみると「新しい友だちがたくさんできるから」「他の学年の子や他の学校の子がいるから」など新たな交友関係の広がりについて、中学生よりも小学生の方が高い割合となっている。逆に中学生では、「地域の大人の人がいるから」について全体及び小学生よりも高い割合となっている。
- ❖ 男女別ではあまり大きな差はみられない。

問 16 あなたが「地域子ども教室」に来ていて楽しいと思うのは、どうしてですか。(MA)

学年別



男女別



問17 あなたが、これまで「地域子ども教室」でやったことの中で楽しかったことは何ですか。楽しかったことをくわしく教えてください。

- ❖ 地域子ども教室で子どもたちが楽しいと感じる活動は、一人ではできないスポーツや自然体験、また、手作りで活動の成果が得られる料理や工作、普段はやったことのない昔遊びなどが比較的多く挙げられているが、その他、化学実験、パソコン教室、囲碁将棋など、様々な活動分野に対して幅広く楽しいと感じられている。
- ❖ また、活動内容のみならず、「みんなと一緒に遊ぶ」、「友だちがたくさんできる」など、子ども同士で遊び・体験の時間を共有できることに楽しいと感じられている。
- ❖ その他、「いろいろな遊びができる」、「いろいろな大人とふれあえる」、「いろいろな所に行って体験できる」など、普段体験できない多様な活動内容が子どもの興味を向上させている。さらに「試合・大会で優勝したこと」、「祭りで演奏したこと」、「みんなの前で発表したこと」など、活動の成果を色々な人に見てもらう機会が、子どもに達成感を与え、楽しいと感じる要因ともなっている。

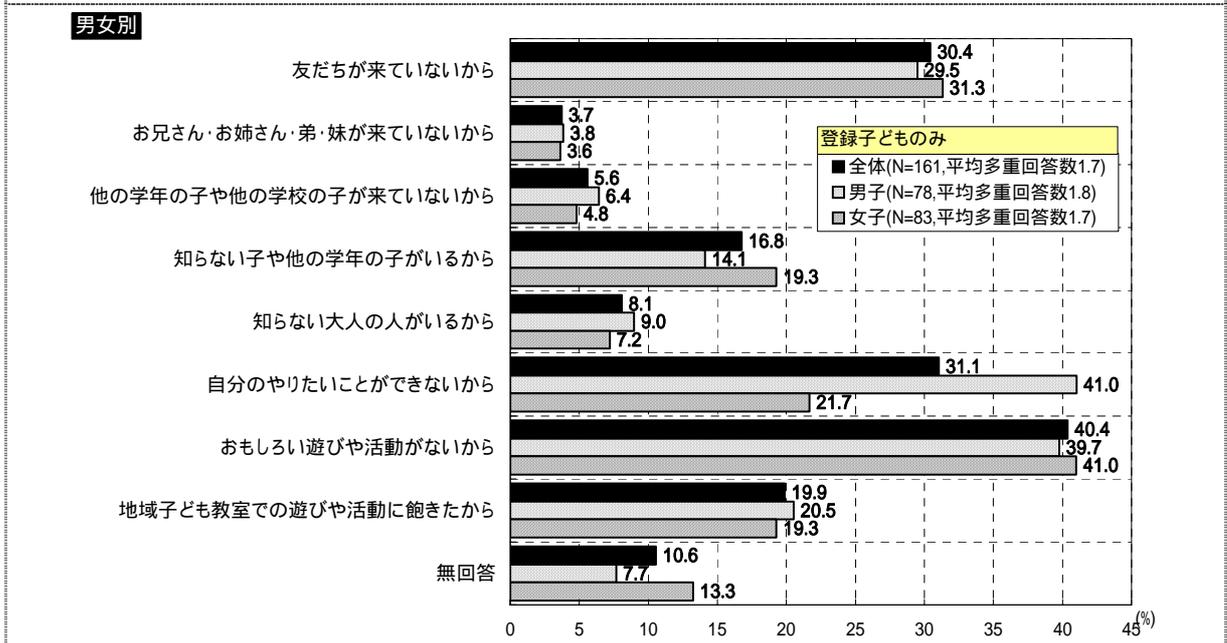
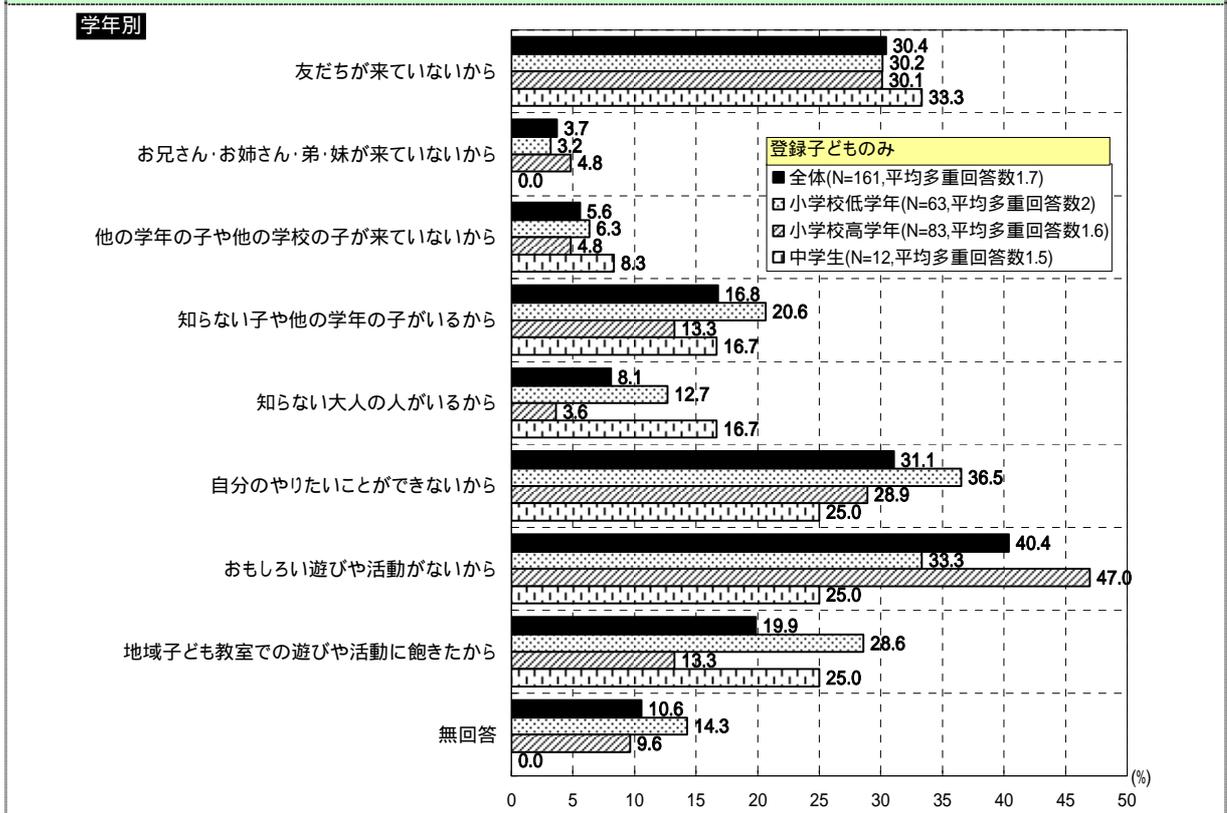
表2-3 地域子ども教室で楽しかったこと（FA）《抜粋》

分類	内容
工作	アイロンビーズ、ビーズづくり、あみもの、絵描き、手芸、習字、おえかき、スライムづくり等
昔遊び	おりがみ、紙芝居、けん玉、こま回し、ゴム跳び、しめなわづくり、しゃぼん玉、竹細工、ちぎり絵、ベーゴマ、万華鏡づくり、紙ヒコーキ等 おにごっこ、かんけり等
自然体験	キャンプ、バス遠足・遠足、野外活動、あるこう会、合宿、魚釣り・魚つかみ、川遊び、ウミガメ観察等
生活体験	料理教室、お菓子作り、クッキー作り、ケーキづくり、アイスクャンディーづくり、おはぎづくり、カレーづくり、パンづくり、もちつき、そうめん流し等
スポーツ	テニス、パドミントン、サッカー、カヌー、キックベース、グランドゴルフ、ゲートボール、ソフトバレー、卓球、トランポリン、バスケット、バレーボール、プール、野球、一輪車、剣道、空手、柔道、卓球、体操、ダンス等 ドッジビー、ドッチボール、キンボール、カローリング、ベタンク等
伝承行事	お祭り、ねぶた等 お琴、茶道、太鼓、陶芸等
実験	科学実験、サイエンス教室、ペットボトルロケット等
農業体験	ジャガイモ掘り、田植え等
パソコン	パソコン教室等
地域活動	手話、ベビーシッター等
その他	みんなといっしょにあそんだりすること、友だちがたくさんいること、友だちと遊べること、学校以外の友だちができる、おじいさん、おばあさんと遊ぶこと いろいろ(あそび、おとな、ところ、ひと、作る)できること 試合・大会で優勝したこと、祭りで演奏したこと、発表会等 囲碁、将棋、ピンゴゲーム、オセロ、チェス クリスマス会 通学合宿 プラスバンド 英語、本読み等

問18 「地域子ども教室」に来ていて「あまり楽しくない」という人や、「とてもつまらない」という人におききします。あなたが「地域子ども教室」に来ていて楽しくないと思うのは、どうしてですか。(MA)

- ❖ 地域子ども教室について「あまり楽しくない」又は「とてもつまらない」と回答した子ども(161人)について、その理由を聞いたところ、「おもしろい遊びや活動がないから」が40.4%、「自分のやりたいことができないから」「友だちが来ていないから」がそれぞれ30%以上となっている。
- ❖ 学年別にみると、小学校低学年では「自分のやりたいことができないから」や「地域子ども教室での遊びや活動に飽きたから」、「知らない子や他の学年の子がいるから」などが比較的高い割合となっており、小学校高学年では「おもしろい遊びや活動がないから」が高くなっている。
- ❖ 男女別では、男子の方が「自分のやりたいことができないから」の割合が高い。

問 18 あなたが「地域子ども教室」に来ていて楽しくないと思うのは、どうしてですか。(MA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問19 あなたは、「地域子ども教室」に来るようになってから、同じ学年の友だちはふえましたか。(SA)

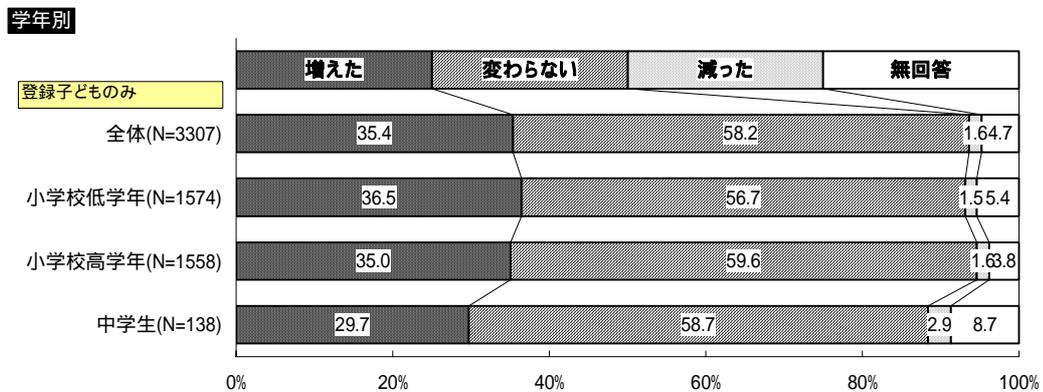
問20 あなたは、「地域子ども教室」に来るようになってから、違う学年の友だちはふえましたか。(SA)

問21 あなたは、「地域子ども教室」に来るようになってから、地域の大人の人で知っている人はふえましたか。(SA)

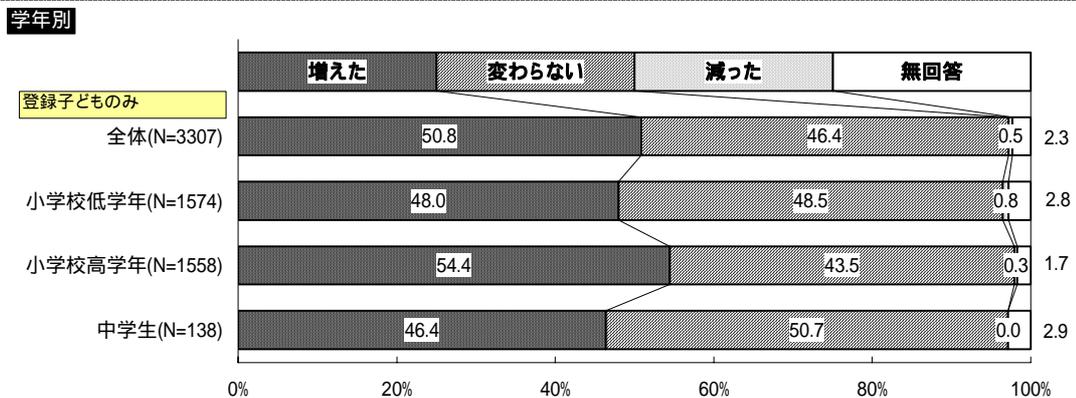
❖ 地域子ども教室に来てからの交友関係や地域の大人との関係についての変化をみると、同学年の友だちについて「増えた」としているのは全体の35.4%であり、6割近くは「変わらない」としているが、異学年の友だちや地域の大人で知っている人については、「増えた」という回答が50%以上となっている。

❖ 学年別にみると、同学年の友だちについては低学年ほど「増えた」という割合が高くなっているのに対し、異学年の友だちについては、小学校高学年で「増えた」が54.4%と最も高い割合となっている。また、地域の大人で知っている人については、学年が上がるほど「増えた」という割合が高くなり、中学生では61.6%が「増えた」としている。

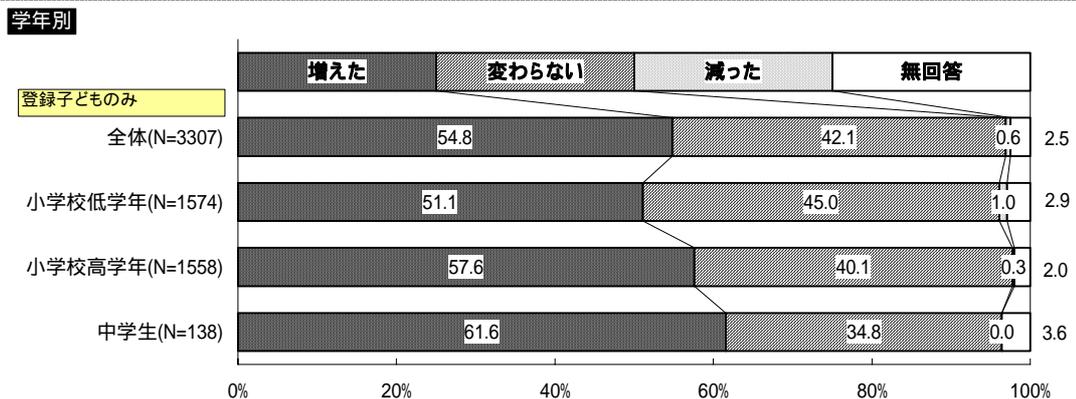
問19 あなたは、「地域子ども教室」に来るようになってから、同じ学年の友だちはふえましたか。(MA)



問20 あなたは、「地域子ども教室」に来るようになってから、違う学年の友だちはふえましたか。(MA)



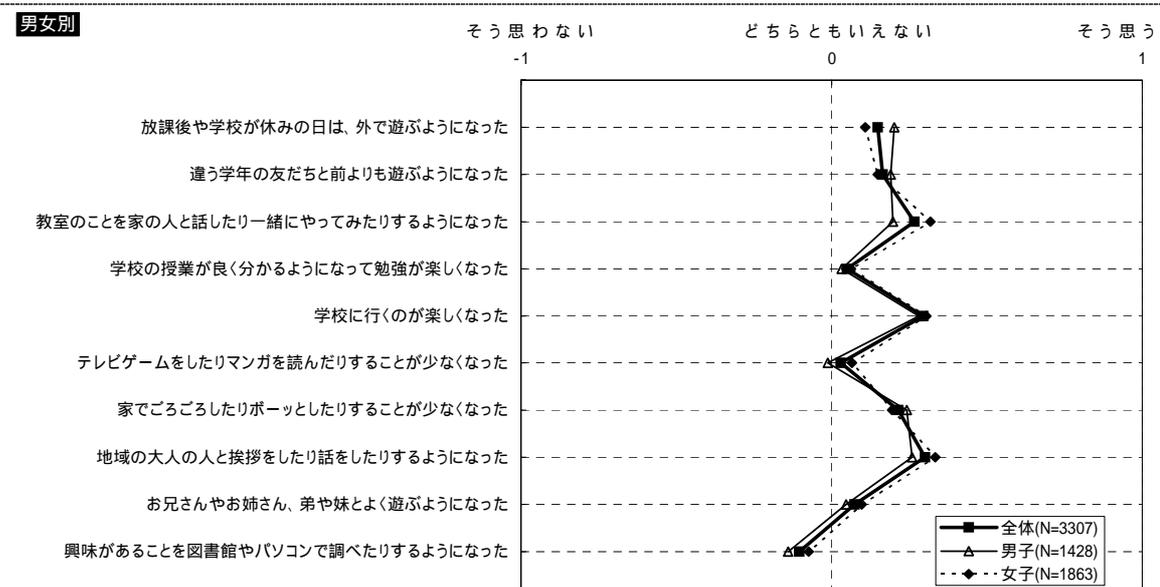
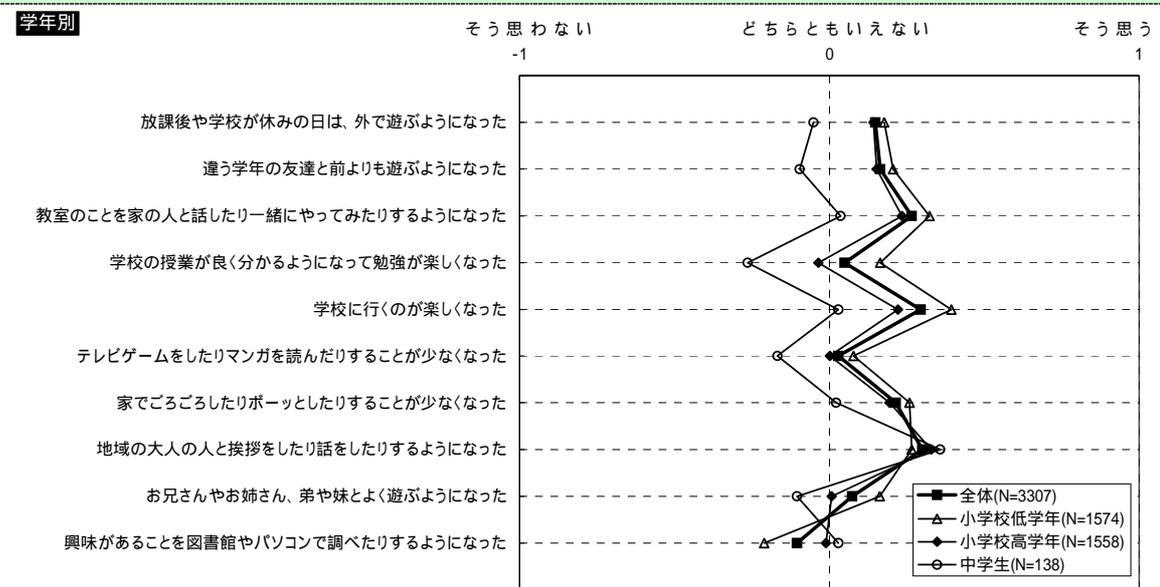
問21 あなたは、「地域子ども教室」に来るようになってから、地域の大人の人で知っている人はふえましたか。(MA)



問22 あなたは、「地域子ども教室」に来るようになってから、来る前とくらべて、いつもの生活の中でなにか変わったことはありますか。(各項目ごとにSA)

- ❖ 地域子ども教室に来る前と比べて変わったことについての自己評価を、「そう思う」を1点、「どちらともいえない」を0点、「そう思わない」を-1点として評点化すると、「地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった」や「学校に行くのが楽しくなった」「教室のことを家の人と話をしたり一緒にやってみたりするようになった」などについては比較的高く評価されている。
- ❖ 学年別にみると、いずれの項目も概ね学年が低いほど自己評価が高い傾向がみられ、特に「学校に行くのが楽しくなった」や「地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった」については小学校低学年で自己評価が高い。一方、中学生は「地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった」以外は否定的な評価にシフトしている。
- ❖ 男女別でもあまり大きな差は見られないが、「放課後や学校が休みの日は外で遊ぶようになった」については男子の方が、「教室のことを家の人と話をしたり一緒にやってみたりするようになった」については女子の方が若干高い。

問22 あなたは、「地域子ども教室」に来るようになってから、来る前とくらべて、いつもの生活の中でなにか変わったことはありますか。(各項目ごとに SA)

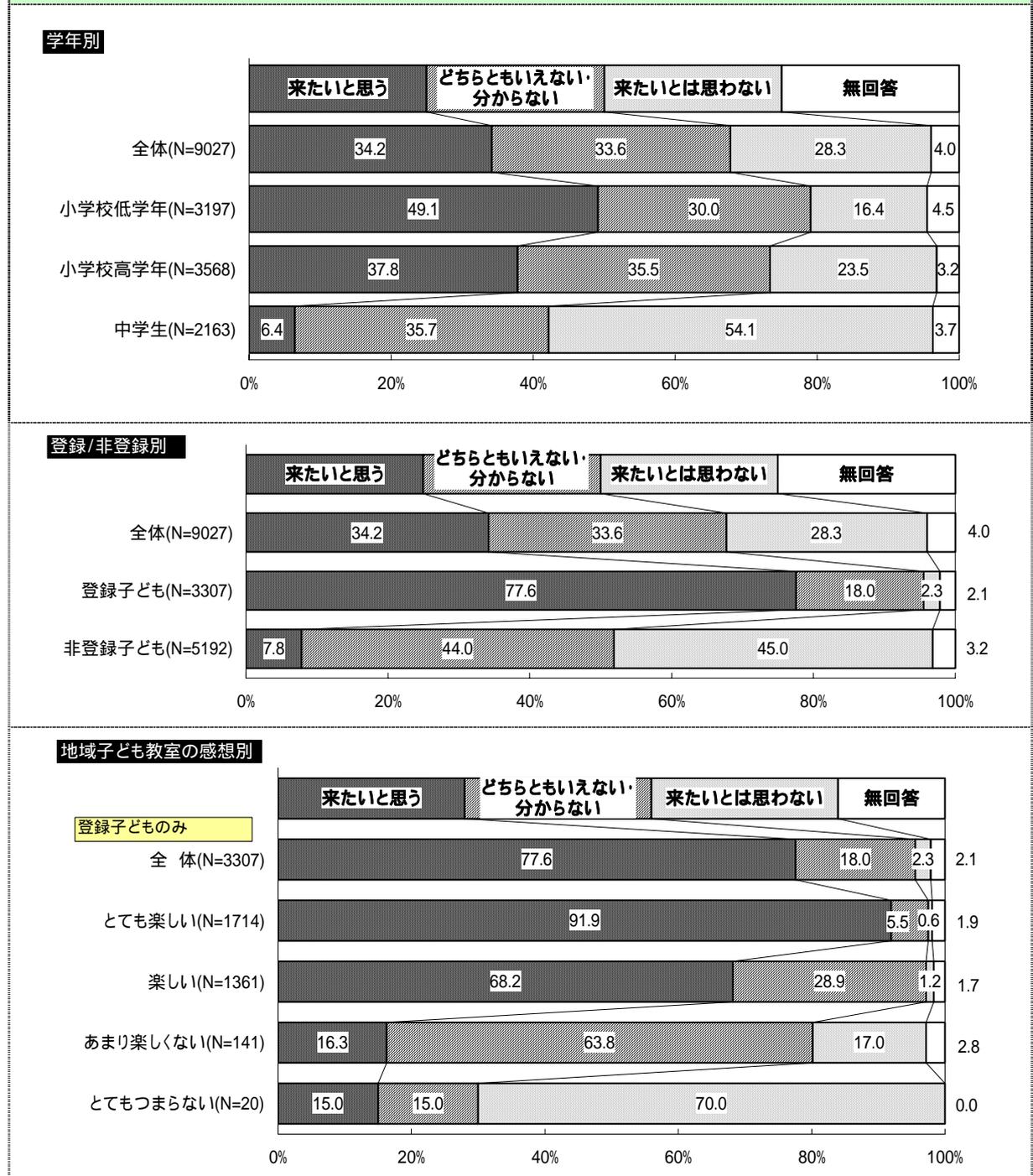


第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問23 あなたは、これから「地域子ども教室」に来たいと思いますか。(SA)

- ❖ 地域子ども教室への今後の参加意向については、低学年の子どもほど「来たいと思う」の割合が高く、小学校低学年では約半数が「来たいと思う」としているのに対して、中学生では54.1%が「来たいとは思わない」と過半数が今後の参加に否定的である。
- ❖ 登録/非登録別にみると、登録子どもでは8割近くが「来たいと思う」と継続的な参加意向を示しており、地域子ども教室に来たことがない非登録子どもでも約8%は「来たいと思う」としている。
- ❖ 登録子ども(3,307人)の今後の参加意向について、地域子ども教室への感想とのクロスでみると、「とても楽しい」「楽しい」と肯定的に評価している子どもほど今後も「来たいと思う」とする割合が高く、「あまり楽しくない」「とてもつまらない」とした子どもほど「来たいとは思わない」が高い割合を占めている。

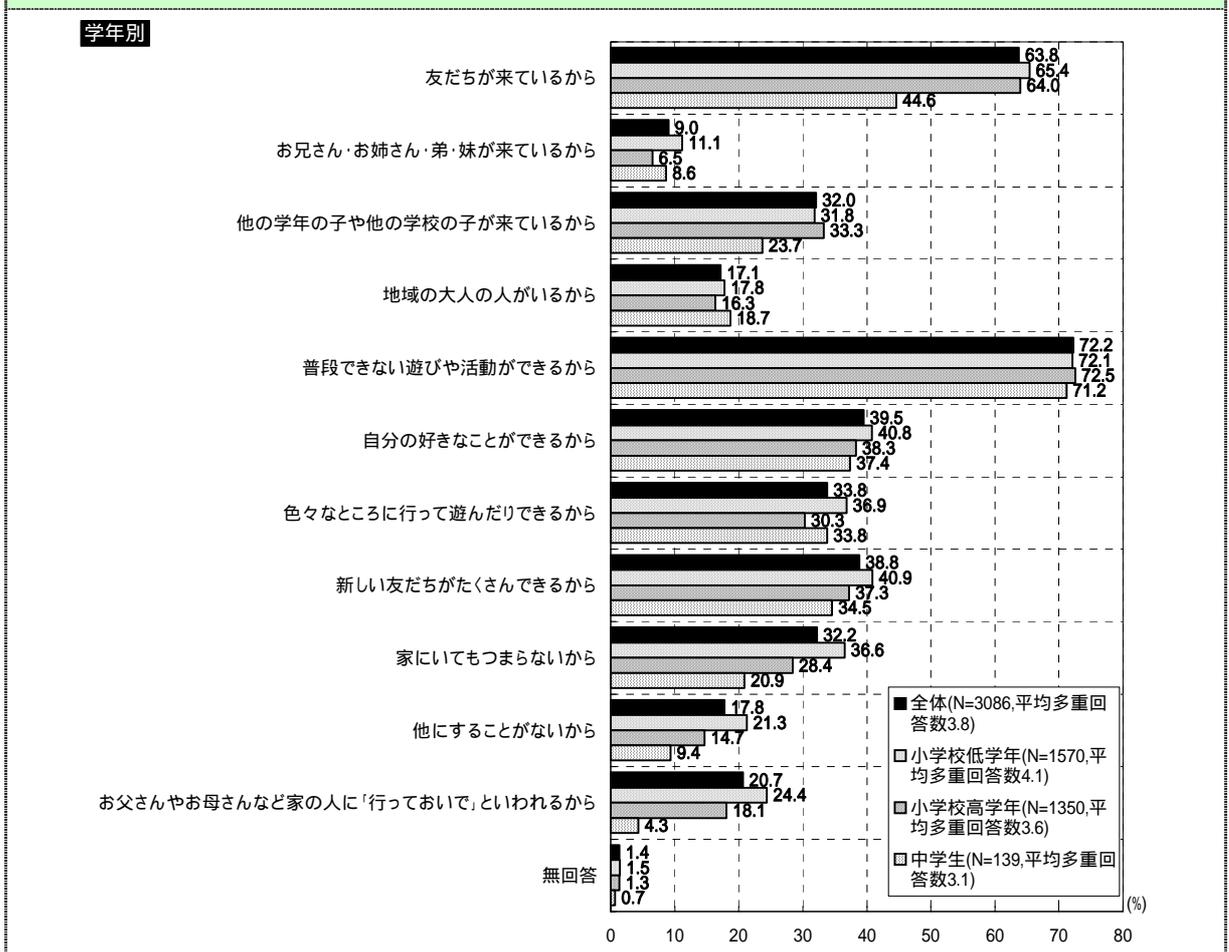
問23 あなたは、これから「地域子ども教室」に来たいと思いますか。(SA)



問24 「地域子ども教室」に「来たいと思う」という人に、おききます。あなたがこれから「地域子ども教室」に来たいと思うのはどうしてですか。(MA)

- ❖ 地域子ども教室に「来たいと思う」と回答した子ども(3,086人)のみについて、その理由を聞いたところ、「普段できない遊びや活動ができるから」が72.2%と最も高いほか、「友だちが来ているから」が63.8%となっており、活動内容に加えて友だちが一緒かどうか大きな参加理由となっていることが分かる。また、「家にいてもつまらない」や「他にすることがない」、「お父さんやお母さんなど家の人に行っておいでといわれる」など消極的な理由はあまり高くなく、積極的な動機から地域子ども教室に参加したいと考えていることが分かる。
- ❖ 学年別にみると、「友だちが来ているから」という理由については、特に中学生よりも小学生で高い割合となっている。また小学校低学年では、「新しい友だちがたくさんできるから」についても他学年よりも比較的高く、地域子ども教室での交友関係の拡がりや深まりを重視していることが分かる。
- ❖ 登録/非登録別にみると、「普段できない遊びや活動ができるから」については登録子ども・非登録子どもいずれでも高い割合となっている。差がみられる項目としては、登録子どもでは「友だちが来ているから」が約70%と高いのに対して、非登録子どもでは「新しい友だちがたくさんできるから」が52.6%と高くなっている。
- ❖ 男女別ではあまり大きな差はみられないが、「友だちが来ているから」や「自分の好きなことができるから」などについては男子の方が高く、「普段できない遊びや活動ができるから」や「新しい友だちができるから」などについては女子の方が高い。このことから、男子は現在の交友関係の継続・発展や自分の意向を通せる活動内容などについて評価しており、女子は未知の体験や新しい交友関係の形成について期待していることが分かる。

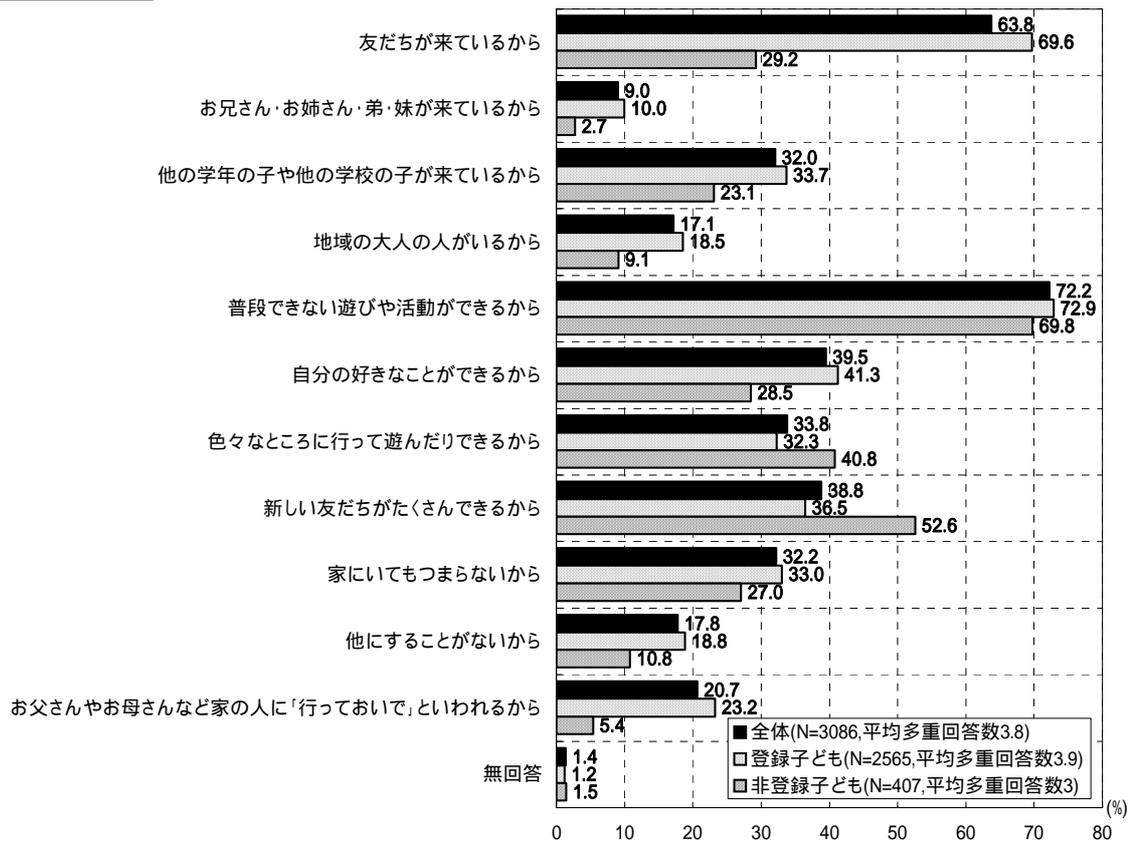
問24 あなたがこれから「地域子ども教室」に来たいと思うのはどうしてですか。(MA)



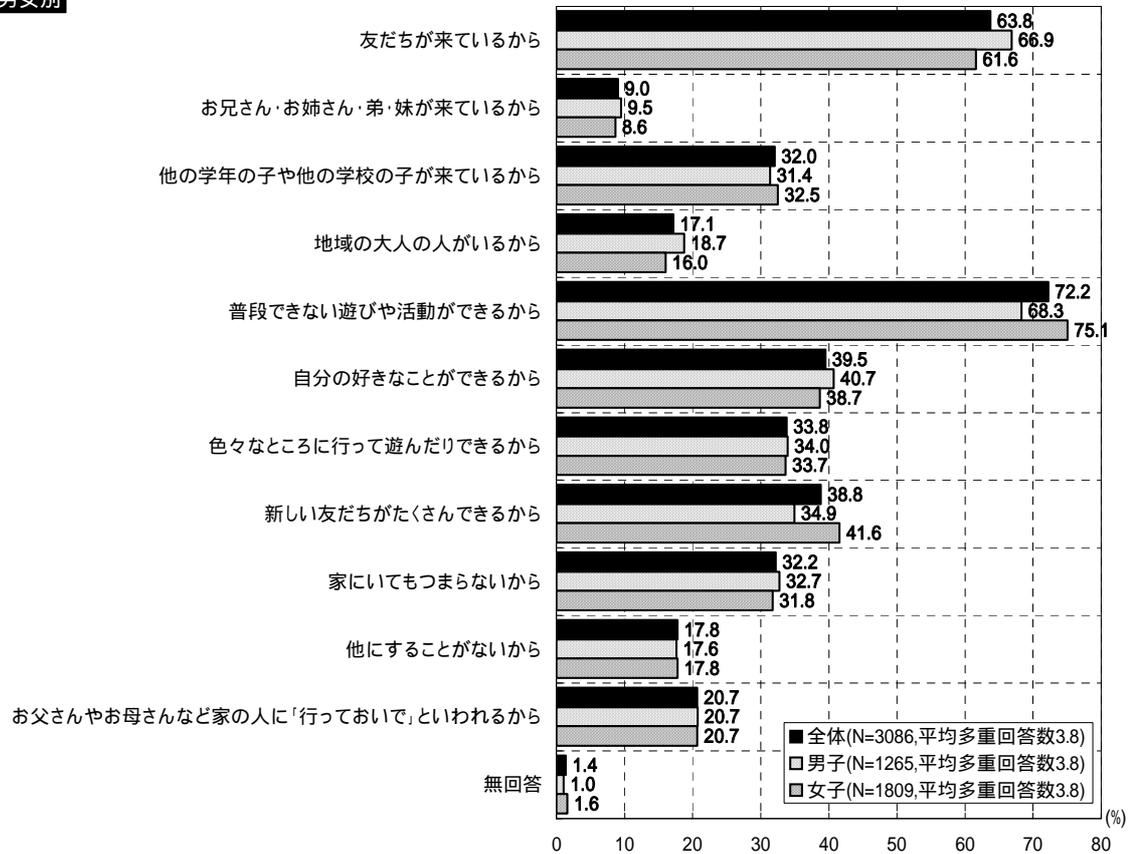
第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問24 あなたがこれから「地域子ども教室」に来たいと思うのはどうですか。(MA)

登録/非登録別



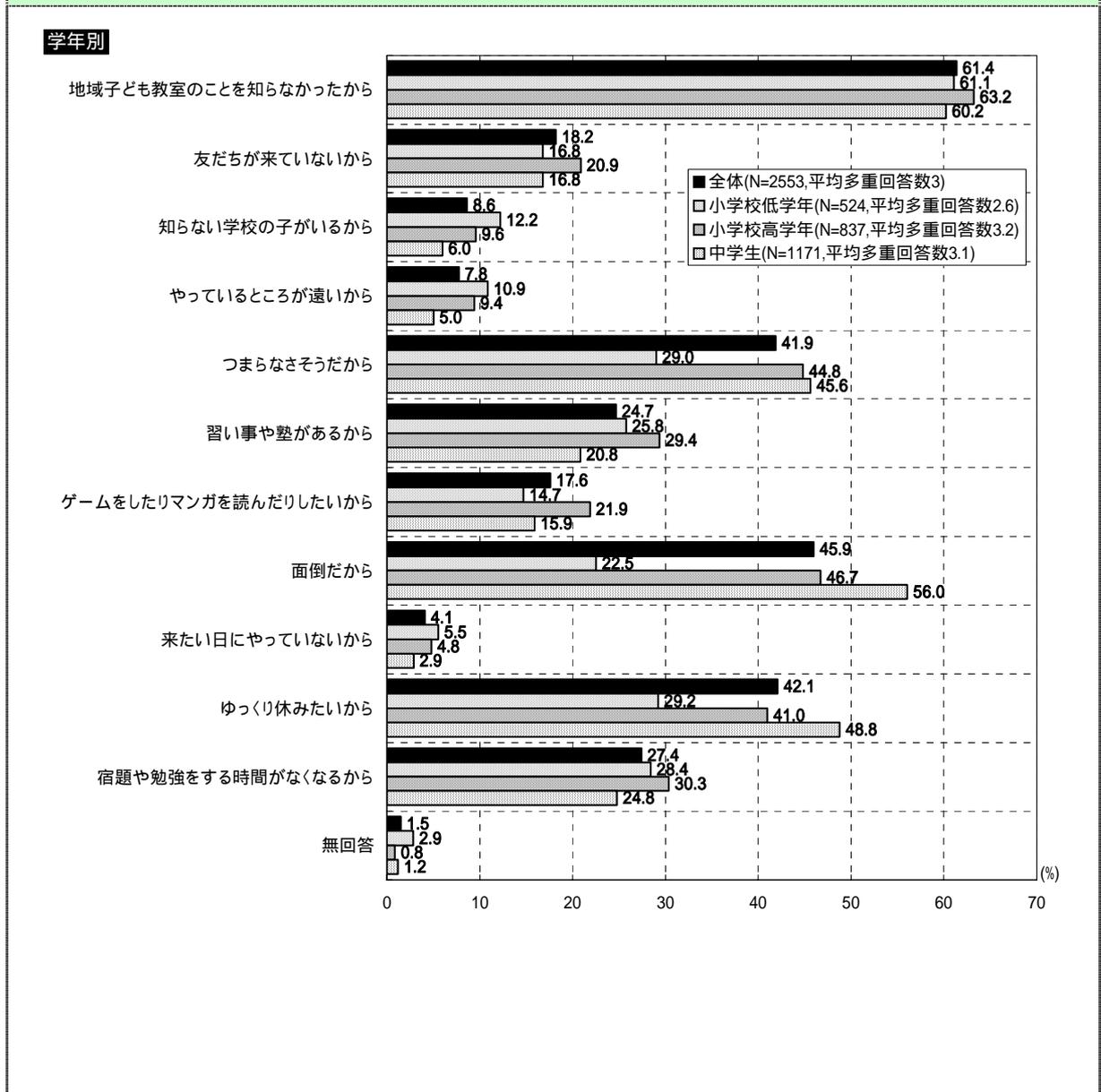
男女別



問25 「地域子ども教室」に「来たいとは思わない」という人に、おききします。あなたがこれから「地域子ども教室」に来たいとは思わないのはどうしてですか。(MA)

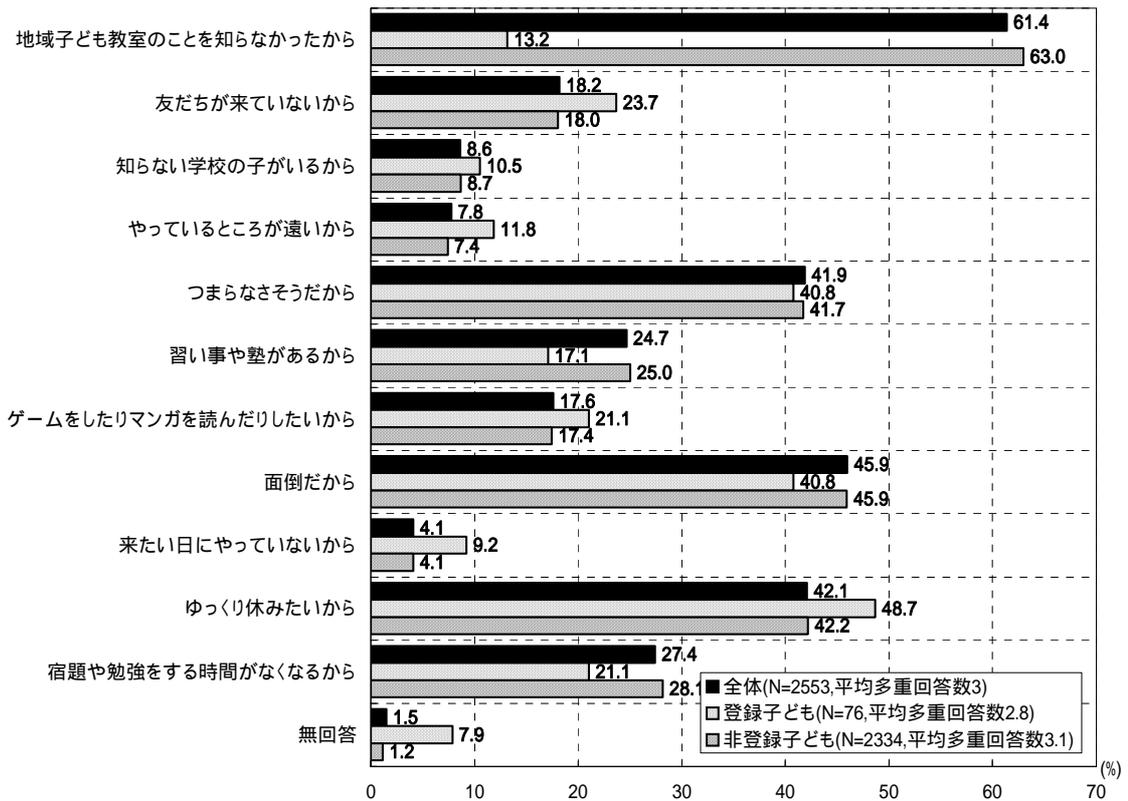
- ❖ 地域子ども教室に「来たいとは思わない」と回答した子ども(2,553人)のみについて、その理由を聞いたところ、「地域子ども教室のことを知らなかったから」が60%以上と最も高い割合を占めている。その他の理由をみると、「やっているところが遠いから」や「来たい日にやっていないから」など、実施体制上の制約については参加したくない理由としてあまり大きな影響を与えておらず、むしろ「面倒だから」や「ゆっくり休みたいから」、「つまらなさそうだから」など、本人の意欲に関係する項目がそれぞれ40%以上と比較的高い割合となっている。
- ❖ 登録/非登録の別でみると、「地域子ども教室のことを知らなかったから」は非登録子どもで60%以上と高くなっている。登録子どもで高い割合となっていた理由としては、「ゆっくり休みたいから」が48.7%と最も高い。
- ❖ 男女別でみると、「ゆっくり休みたいから」、「宿題や勉強をする時間がなくなるから」などは女子の方が男子よりも高い割合となっている。

問 25 あなたがこれから「地域子ども教室」に来たいとは思わないのはどうしてですか。(MA)

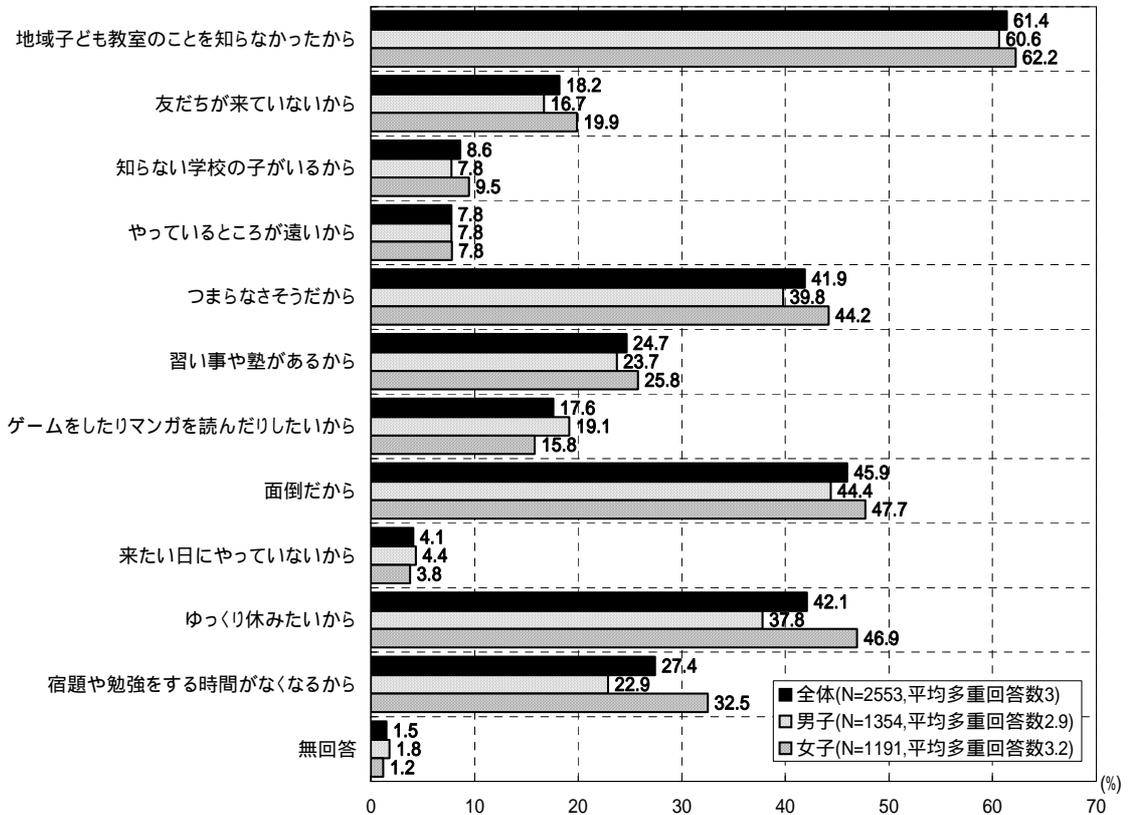


問25 あなたがこれから「地域子ども教室」に来たいとは思わないのはどうしてですか。(MA)

登録/非登録別



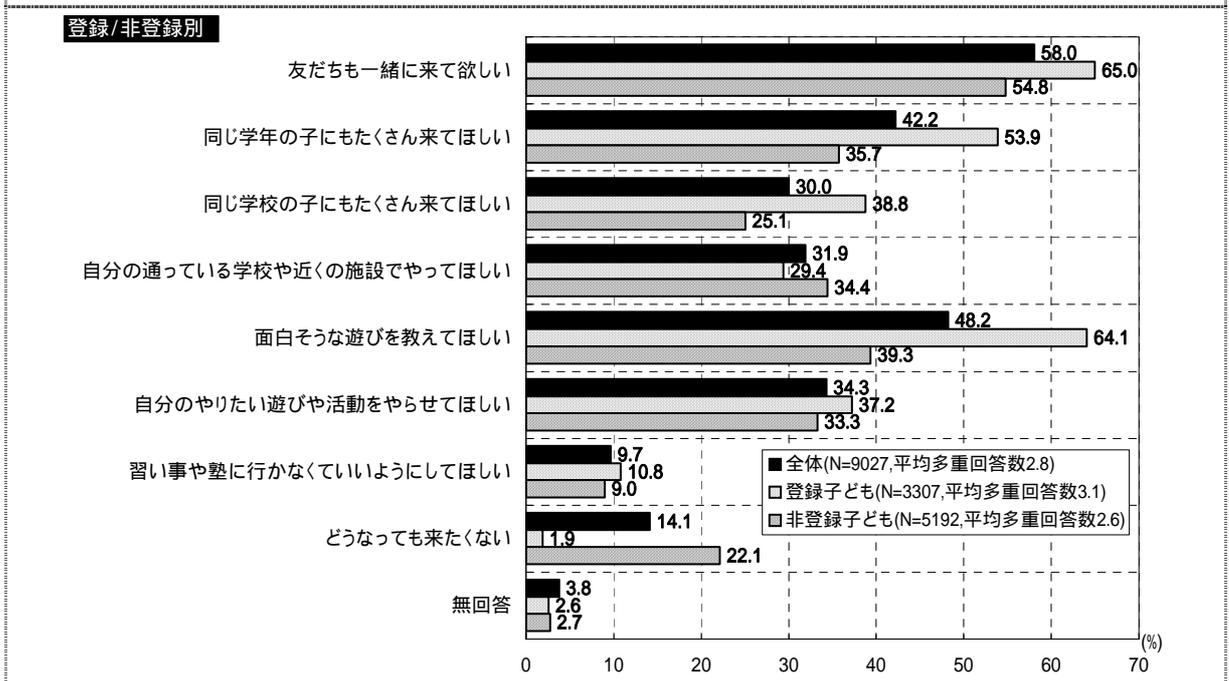
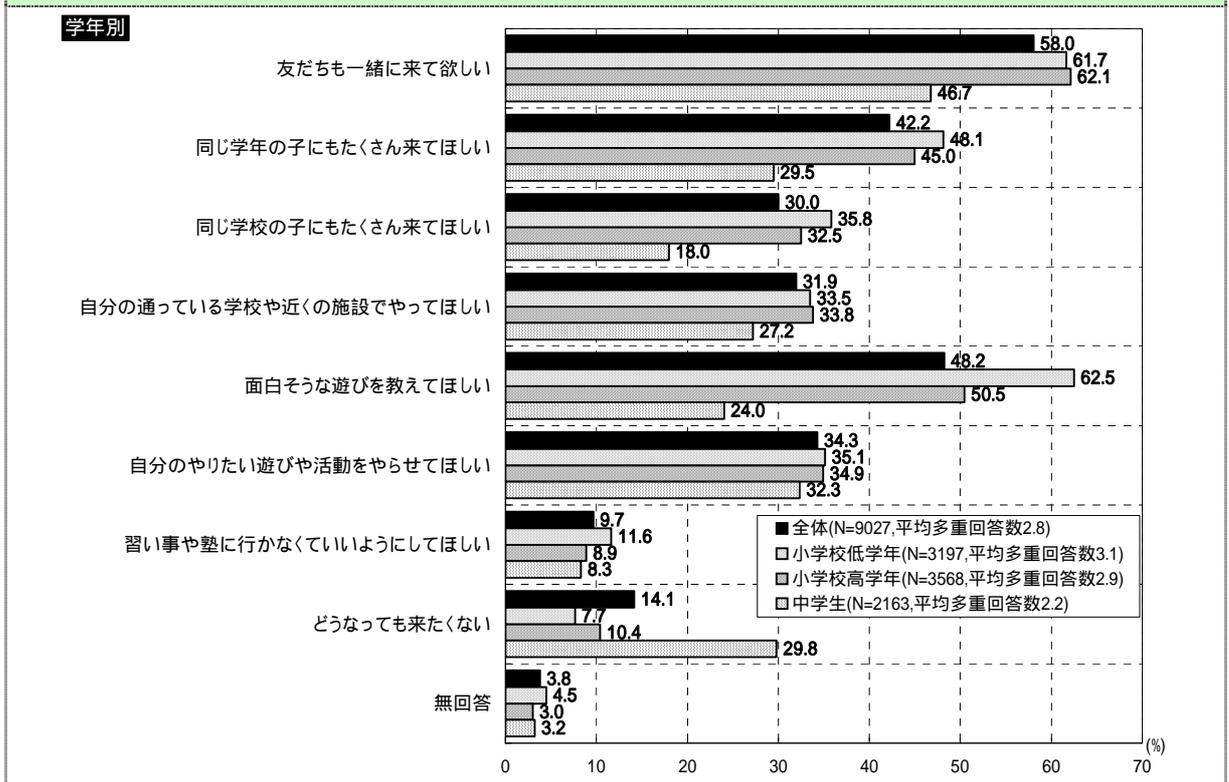
男女別



問26 全員におききます。あなたは、もし「地域子ども教室」に来るとしたら、「地域子ども教室」がどうなってほしいと思いますか。(MA)

- ❖ 地域子ども教室に来るとしたらどうなってほしいかを聞いたところ、全体では「友だちも一緒に来てほしい」や「おもしろそうな遊びを教えてください」「同じ学年の子にもたくさん来てほしい」などが多くから挙げられている。「どうなっても来たくない」という回答は14.1%であった。
- ❖ 学年別にみると、小学校低学年では「おもしろそうな遊びを教えてください」が62.5%と非常に高い割合となっているほか、「友だちも一緒に来てほしい」も60%以上と高くなっている。一方、小学校高学年になると、「友だちも一緒に来てほしい」の方が「おもしろそうな遊びを教えてください」よりも高い割合となっており、中学生では「どうなっても来たくない」が30%近くと非常に高い。

問26 あなたは、もし「地域子ども教室」に来るとしたら、「地域子ども教室」がどうなってほしいと思いますか。(MA)

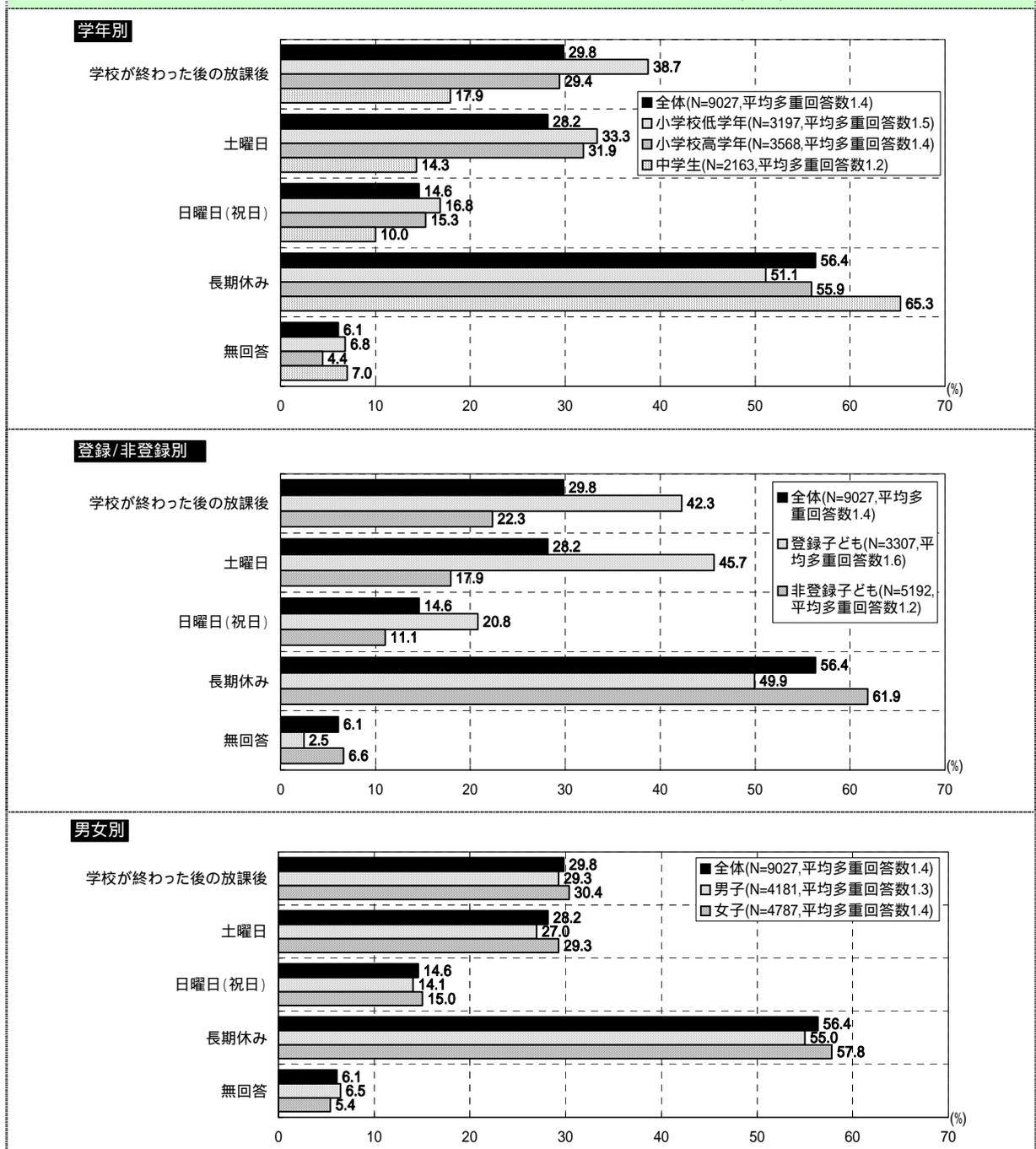


第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問27 あなたは、もし「地域子ども教室」に来るとしたら、いつがいいですか。(MA)

- ❖ 地域子ども教室に来るとしたらいつがよいかを聞いたところ、「夏休み・冬休みなどの長期休み」での実施が60%近くと最も高く望まれている。また「学校が終わった後の放課後」や「土曜日」については、30%近くが参加意向を示している。
- ❖ 学年別にみると、「長期休み」での実施は高学年ほど割合が高く、中学生で65.3%と最も望まれている。一方、小学校低学年では「長期休み」のほか、「土曜日」や「学校が終わった後の放課後」を希望する声も比較的高い。
- ❖ また登録/非登録別にみると、登録子どもでは「土曜日」や「学校が終わった後の放課後」での実施に対する参加意向が比較的高く、「日曜日(祝日)」の開催も20.8%から望まれているが、非登録子どもでは「長期休み」での実施が60%以上とより望まれている。
- ❖ 男女別ではあまり大きな差はみられない。

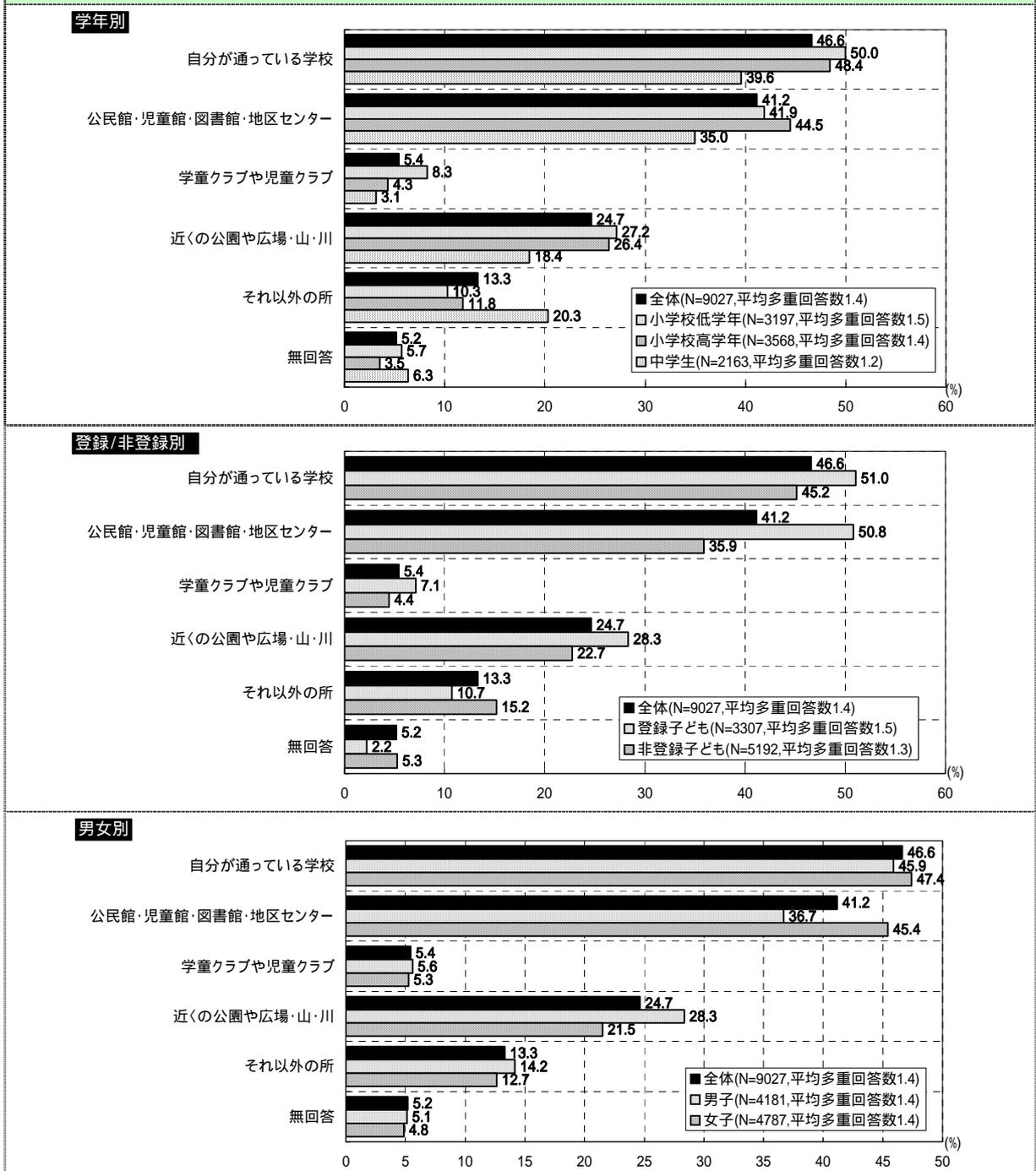
問27 あなたは、もし「地域子ども教室」に来るとしたら、いつがいいですか。(MA)



問28 あなたは、もし「地域子ども教室」に来るとしたら、どこで活動したいですか。(MA)

- ❖ 地域子ども教室に来るとしたらどこでの開催がよいかを聞いたところ、「自分が通っている学校」や「公民館・児童館・図書館・地区センター」が40%以上と高い割合となっている。また「近くの公園や広場・山・川」についても25%近くが参加意向を示している。
- ❖ 学年別にみると、「自分が通っている学校」での実施は小学校低学年で最も高い割合となっており、「公民館・児童館・図書館・地区センター」は小学校高学年で最も望まれている。
- ❖ また登録/非登録別にみると、登録子どもでは「自分が通っている学校」と「公民館・児童館・図書館・地区センター」がいずれも50%以上と参加意向が高くなっている。
- ❖ 男女別でみると、女子は「公民館・児童館・図書館・地区センター」などの屋内への意向が男子より高く、一方、男子は「近くの公園や広場・山・川」などの屋外への意向が女子より高い。

問28 あなたは、もし「地域子ども教室」に来るとしたら、どこで活動したいですか。(MA)



問29 あなたは、これから「地域子ども教室」に来るとしたら、一番やってみたいあそびや活動は何ですか。
 やってみたいことを自由に書いてください。

- ❖ 地域子ども教室で子どもたちが一番やってみたいことは、スポーツやキャンプなど、野外で体を思いきり動かすものや、料理や昔遊びなど、大人がいないと普段体験できないものが比較的多く挙げられている。その他、「ボランティア活動」や「勉強」など、遊びだけではない活動へ興味を持っている子どもも見られた。
- ❖ また、子どもの回答には、「いっぱい したい」、「いっしょに したい」、「いろいろ したい」、「みんなで したい」など、時間にとらわれず大勢の友だちと思いきり活動したいという思いが込められた表現が多く見られた。

表2-4 地域子ども教室で一番やってみたいこと (FA)《抜粋》

分類	内容
工作	あみもの、生け花、かみねんど・ねんど、ガラス細工、キーホルダーづくり、アイロンビーズ、ビーズづくり、手芸、スライム作り、ぬいぐるみ作り、漫画づくり、紙飛行機 等
昔遊び	あやとり、お絵描き、お手玉、おりがみ、かるた、けん玉、こままわし、いすとりゲーム 等 おにごっこ、かくれんぼ、かけっこ、かんけり、けいどろ、こおりおに、凧揚げ、なわとび、羽子板、ベーゴマ、竹とんぼ、竹馬、てつぼう、季節にあったあそび、地区の伝統の遊び 等
自然体験	アウトドア活動、ウォークラリー、キャンプ、サバイバルゲーム、自然の中での遊び、釣り、昆虫採集、水遊び、木登り、外で遊ぶ 等
生活体験	お菓子作り、料理、お茶、ケーキ作り、パン作り、もちつき 等
スポーツ	キックベース、グランドゴルフ、ゴルフ、サッカー、フットサル、野球、テニス・ソフトテニス、ソフトボール、卓球、バスケットボール、バトミントン、バレーボール、プール、スキー、プロレス、ボール遊び、リレー、空手、剣道、柔道、一輪車、ドッジボール、ニュースポーツ 等
伝承行事	おどり、太鼓 等
実験	科学の実験 等
パソコン	パソコンで遊ぶ 等
地域活動	ゴミ拾い活動、ボランティア活動、リサイクル工作 等
その他	いっぱい したい、いっしょに したい、いろいろ したい、みんなで したい たのしい したい、普段できない遊び、おしゃべり、ちがう学校の子との遊び TVゲーム、オセロ、カードゲーム、ピンゴゲーム、映画、マジック 囲碁将棋、チェス、トランプ、百人一首 英語、勉強、読書 遠足、お泊まり会、きもだめし ダンス、音楽活動、ギター 動物とのふれあい 等

2 - 3 . 保護者に対するアンケート調査結果について

調査対象	全国の220箇所の実行委員会において、任意の地域子ども教室2箇所にて登録・活動に参加している子どもの保護者及び任意の小中学校に通う小3・小6・中2の子どもの保護者（対象市町村数 = 203市町村）
対象抽出	〔子どもに対する調査と同じ〕 各実行委員会において、任意の地域子ども教室を2箇所（学校施設1箇所、その他の施設1箇所）抽出 各実行委員会において、地域子ども教室の活動場所となっていない小中学校から各1校ずつ抽出 （総サンプル数 26,400）
調査方法	各地域子ども教室において指導員経由で15人の子どもに対してアンケート票を配布、各家庭に持ち帰させた上、各家庭で保護者がアンケートに記入し、子ども経由で指導員に提出（登録保護者） 学校経由で小3・小6・中2の児童生徒各1クラスずつにアンケート票を配布、各家庭に持ち帰させた上、各家庭で保護者がアンケートに記入し、児童生徒アンケートとともに直接返送（非登録保護者）
調査時期	2005.8.22. ~ 2005.11.30.
回答数	8,545人（回答率32.4%）

《結果のポイント》

普段の子どもとの会話の程度や地域子ども教室への参加のきっかけなど

登録保護者の方がアンケートを持って帰った子ども（以下「子ども」とする）と「よく話をする」という割合は高く、また子どもが放課後遊んでいる場所についても「子どもから話を聞いて知っている」という割合が高い。地域子ども教室に参加するきっかけとして、6割近くが子ども自身の意志だとしており、子ども自身の受け止め方との違いが見られる（cf. 子どもアンケートでは約半数の登録子どもが両親の勧めで参加したと回答）。

保護者としては、色々な体験活動ができる点について最も高く評価している。

地域子ども教室に参加した感想や子ども・自身の変化

9割以上の保護者が、子どもは地域子ども教室の活動を楽しんでいると評価しており、低学年ほど保護者の評価は高い。そう思う理由としては、色々な体験や普段できない経験ができる点が上位に挙げられている。また4割近くの保護者が、「興味があることは自分で調べたりするようになった」とことや「地域の行事に積極的に参加するようになった」、「地域の大人のひととあいさつをしたりするようになった」ことを中心に、子どもの変化を感じている。一方で、自身の変化についてはあまり強く意識されていない。

子どもが地域子ども教室に参加するようになって親子の会話が増えたという保護者は4割に及んでいる。

今後の参加意向と地域子ども教室に望むこと

登録保護者の9割以上は子どもは今後も参加したいと思っているとしている。非登録保護者でも8割以上が今後は参加させたい（させてもよい）と考えており、その理由として多様な活動ができる点が高く評価されている。本事業については、3分の2近くの保護者がよい取組と評価しており、その理由として色々な体験活動ができるが高く評価されている。なお子どもを参加させるにあたっては、子どもが通っている学校で開催することや教職員が安全管理をすることなど、子どもを安心して預けられる環境づくりが求められている。

登録保護者の36%は保護者自身も親子で参加できる企画に参加したことがあり、また今後指導員やボランティアとして参加したいという人も3分の1程度みられる。

また8割以上の保護者が地域子ども教室を今後も実施してほしいとしており、中でも色々な活動を充実することと子どもにとって安全・安心な場所とすることが強く求められている。

なお希望する時期・場所については、長期休みや土曜日に学校や公民館等の施設での開催を求める声が高く、活動内容としては体を動かす活動や自然体験活動などが望まれている。

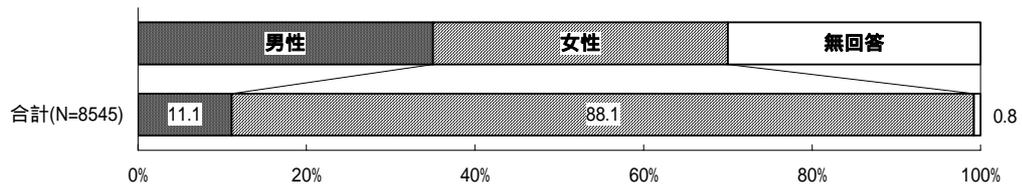
第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

(1) 回答者の属性

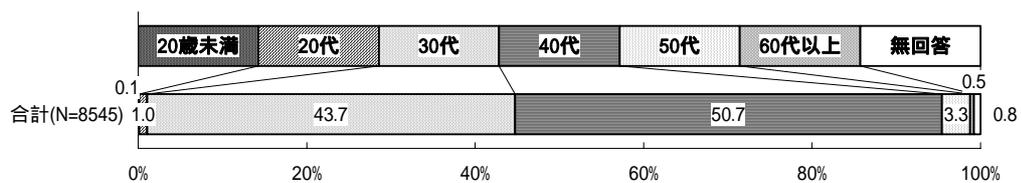
- 問1 あなたの性別は。(SA)
 問2 あなたの年齢は。(SA)
 問3 お子さんは何人いらっしゃいますか。(SA)
 問4 お子さんはそれぞれ何年生ですか。(MA)

- ❖ 回答者の性別をみると、女性が88.1%と大部分を占めている。
- ❖ 年齢別内訳をみると、30代・40代で全体の95%を占めている。
- ❖ 「アンケートを持って帰ってきた子どもは地域子ども教室にどのくらい参加しているか」という設問に対し、頻度は異なっても「参加している」と回答した保護者については「登録保護者」とし、「参加していない」と回答した保護者については「非登録保護者」として集計した。その結果、登録保護者は44.3% (3,786人)、非登録保護者は53.2% (4,547人)であった。
- ❖ 子どもの数は「2人」が約半数を占めており、次いで「3人」が32.7%、「1人」が10.9%であった。

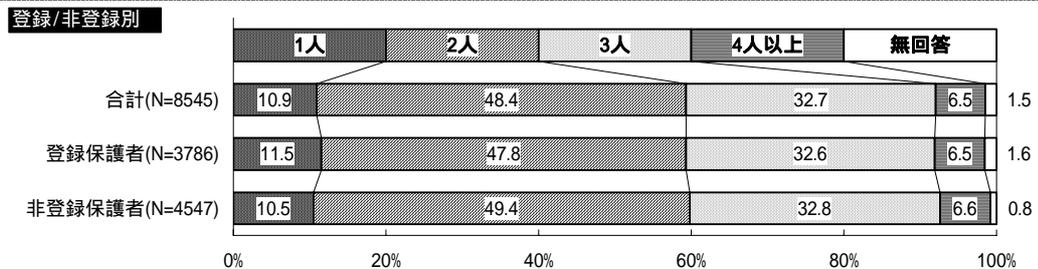
問1 あなたの性別は。(SA)



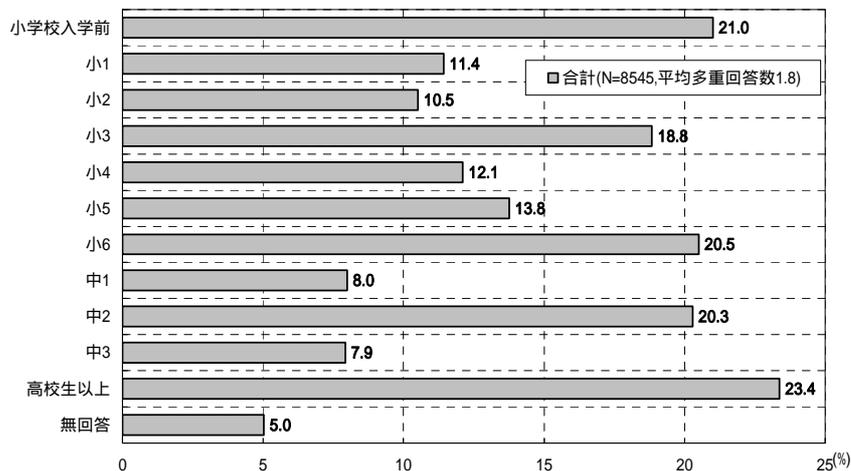
問2 あなたの年齢は。(SA)



問3 お子さんは何人いらっしゃいますか。(SA)



問4 お子さんはそれぞれ何年生ですか。(MA)



(2) アンケートの入手経路等について

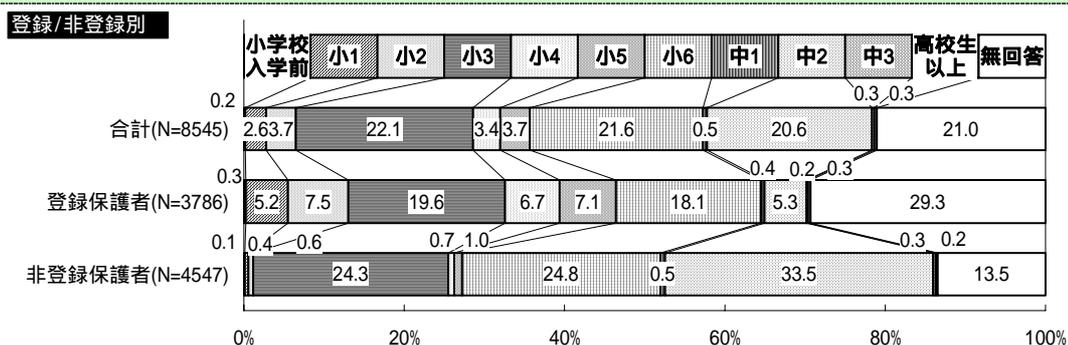
問4 (あなたのお子さんのうち)このアンケートを持って帰ってきたお子さんは何年生ですか。(SA)

問5 (このアンケートを持って帰ってきた)お子さんの性別は。(SA)

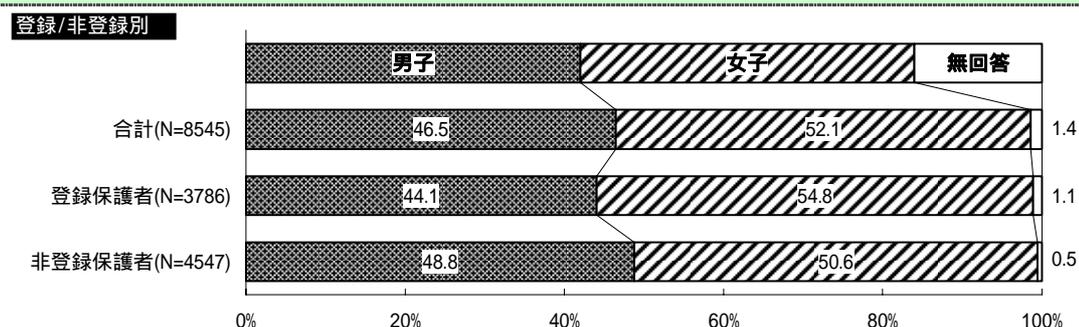
問6 お子さんは、このアンケートをどこで・誰から渡されてきましたか。(SA)

- ❖ 本アンケートを持って帰った子どもの学年については、回答漏れが多かったため、アンケート入手経路と全ての子どもの学年への回答からデータを修正の上集計した。学校経由で配布した場合は小学3年・小学6年及び中学2年に学年を限定して配布しているため、これらの学年が占める割合がそれぞれ20%以上と高くなっている。なお性別は若干女子の方が高い割合となっている。
- ❖ 主に地域子ども教室経由で配布されている登録保護者についてみると、小学1・2年や小学4・5年もそれぞれ5%前後みられる。
- ❖ アンケートの入手経路については、「通っている学校の担任の先生から」が77.0%を占めているが、これは学校経由で配布したものが全体のサンプルの75%を占めるためである。なお、登録保護者については、基本的には指導員からの配布を予定していたが、実際の配布にあたっては各地域の実情にあわせて柔軟に対応していただいたため、学校が居場所となっている場合などについては、指導員ではなく学校の先生から配布していただいたケースも多かったようである。このため、「通っている学校の担任の先生から」配布されたという回答が54.6%となっている。

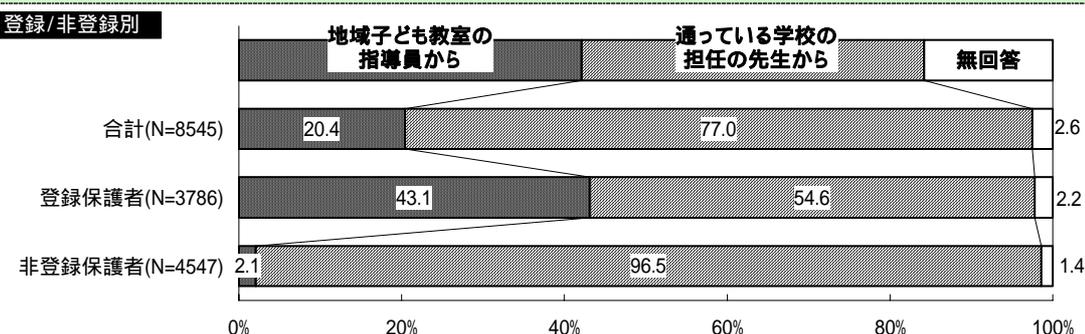
問4 (あなたのお子さんのうち)このアンケートを持って帰ってきたお子さんは何年生ですか。(SA)



問5 (このアンケートを持って帰ってきた)お子さんの性別は。(SA)



問6 お子さんは、このアンケートをどこで・誰から渡されてきましたか。(SA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

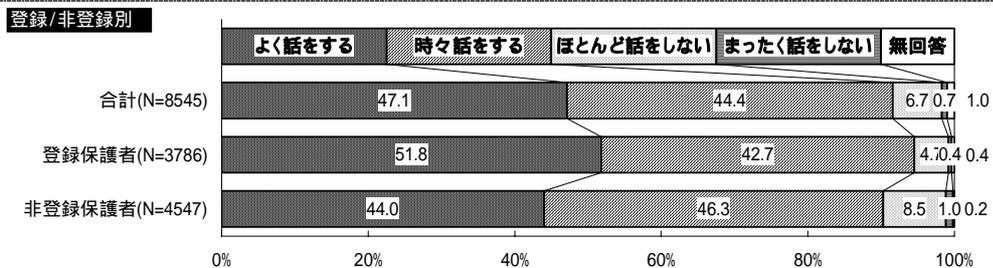
問7 お子さんは、普段ご家庭で学校のことや放課後のことなどをよく話しますか。(SA)

問8 あなたは、お子さんがふだんは放課後どこでよく遊んでいるかご存知ですか。(SA)

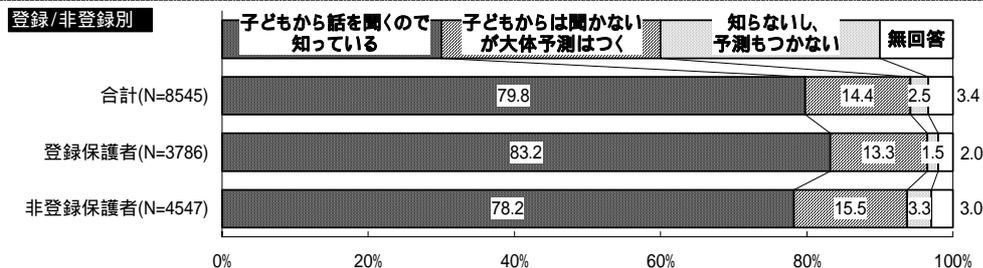
問9 地域子ども教室に、お子さんはどのくらい参加していますか。(SA)

- ❖ 普段子どもと学校や放課後のことを話すかどうかについては、「よく話をする」「時々話をする」がそれぞれ45%前後となっており、比較的子どもと話をしている保護者が多い。
- ❖ 登録/非登録別にみると、登録保護者の方が「よく話をする」という割合が高くなっている。
- ❖ 子どもが放課後遊んでいる場所については、全体で8割近くの保護者が「子どもから話を聞くので知っている」としており、また14.4%が「子どもからは聞かないが大体予測はつく」としている。放課後子どもがどこで遊んでいるのが「知らないし予測もつかない」とした保護者は2.5%であった。
- ❖ 登録/非登録別にみると、登録保護者の方が「子どもから話を聞くので知っている」という割合が高くなっている。また男女別にみると、女性(母親)の方が子どもの放課後の過ごし方について子どもとよく話をしていることが分かる。
- ❖ 地域子ども教室への参加頻度についてみると、参加している中では「ひと月に1～3日程度参加する」が最も多く、ついで「特別なイベントのときだけ」や「一週間に1日程度」が多くなっている。

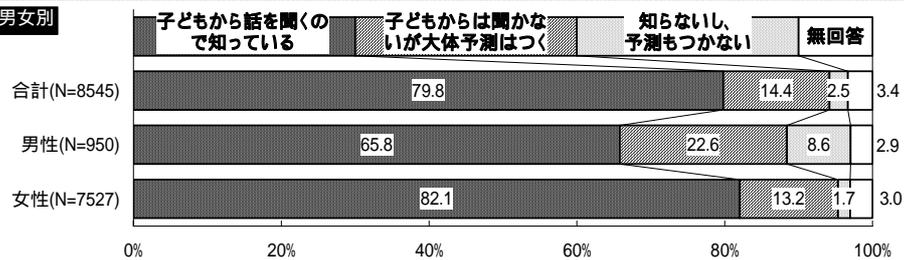
問7 お子さんは、普段ご家庭で学校のことや放課後のことなどをよく話しますか。(SA)



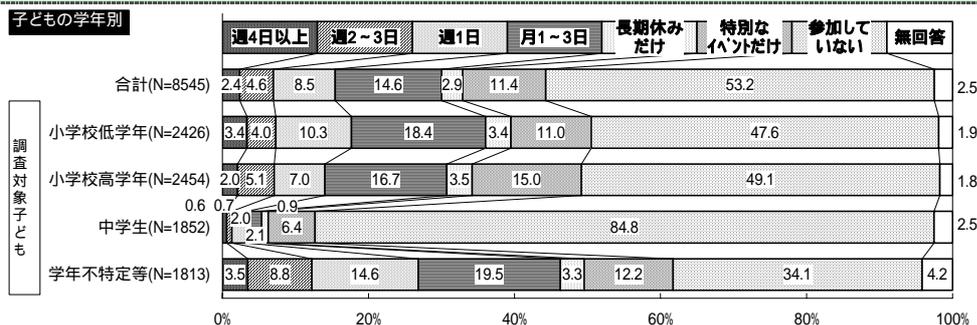
問8 あなたは、お子さんがふだんは放課後どこでよく遊んでいるかご存知ですか。(SA)



男女別



問9 地域子ども教室に、お子さんはどのくらい参加していますか。(SA)



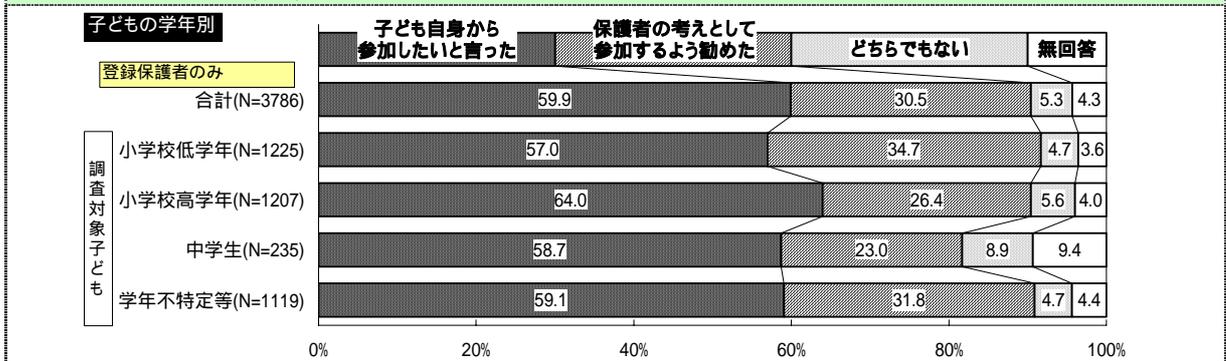
(3) 地域子ども教室に参加している子どもの参加理由や変化

問10 問9で「7.参加していない」とお答えの方以外の方にお尋ねします。地域子ども教室に参加するようになったのは、お子さん自身の考えですか。それとも保護者の方の考えですか。(SA)

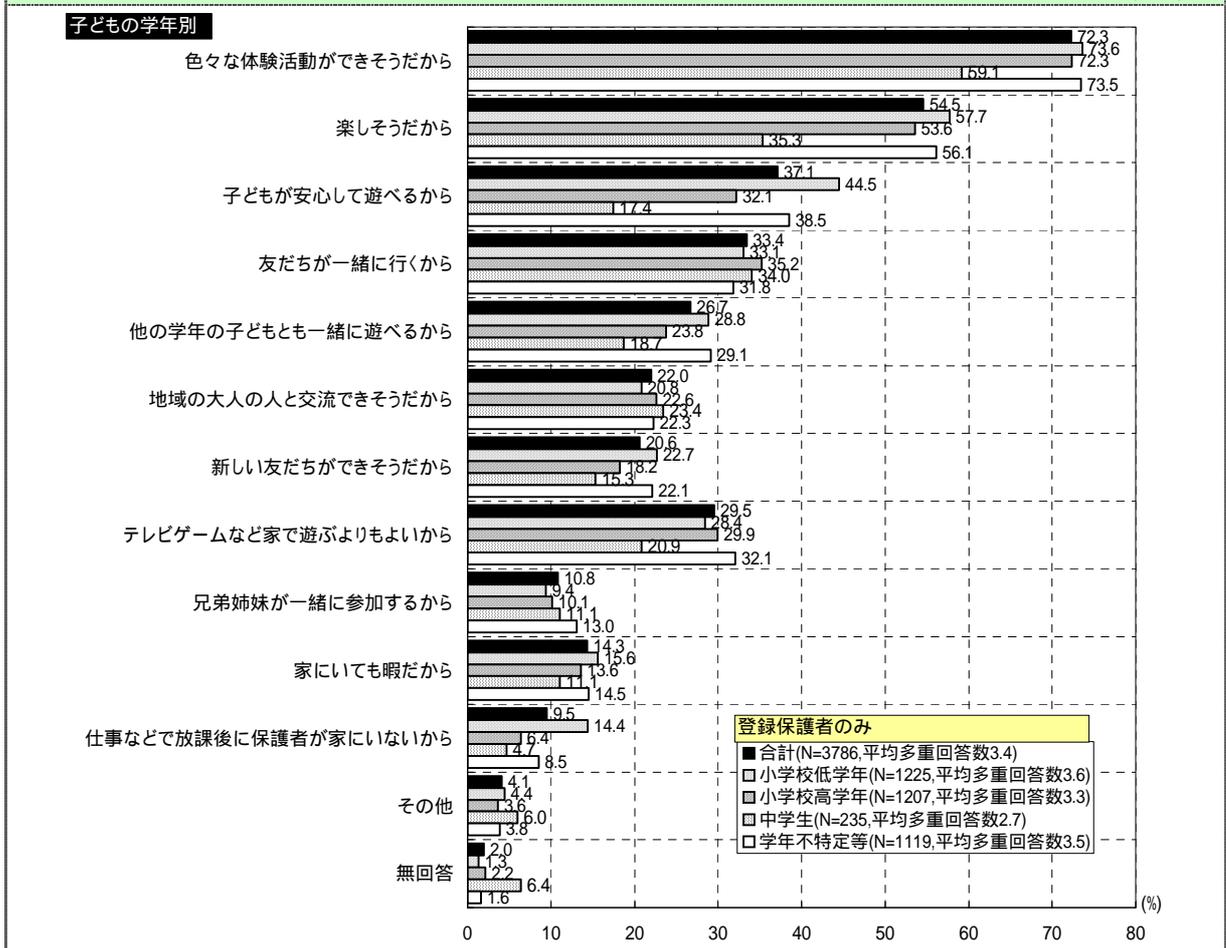
問11 では、あなたやお子さんが地域子ども教室に参加させたい・したいと思った具体的な理由は何ですか。(MA)

- ◆登録保護者（アンケートを持って帰ってきた子どもが地域子ども教室に参加している保護者）のみに限定して、教室に参加するようになったきっかけをみると、「子ども自身から参加したいと言った」が6割近くを占めており、「保護者の考えとして参加するよう勧めた」よりも高い割合となっている。
- ◆子どもの学年別に見ると、小学校高学年や中学生の方が比較的子ども自身の考えで参加したという割合が高くなっている。
- ◆参加させたい・したいと思った理由としては、「色々な体験活動ができそうだから」が72.3%と最も多く、次いで「楽しそうだから」「子どもが安心して遊べるから」などが続いている。

問10 地域子ども教室に参加するようになったのは、お子さん自身の考えですか。それとも保護者の方の考えですか。(SA)



問11 あなたやお子さんが地域子ども教室に参加させたい・したいと思った具体的な理由は何ですか。(MA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

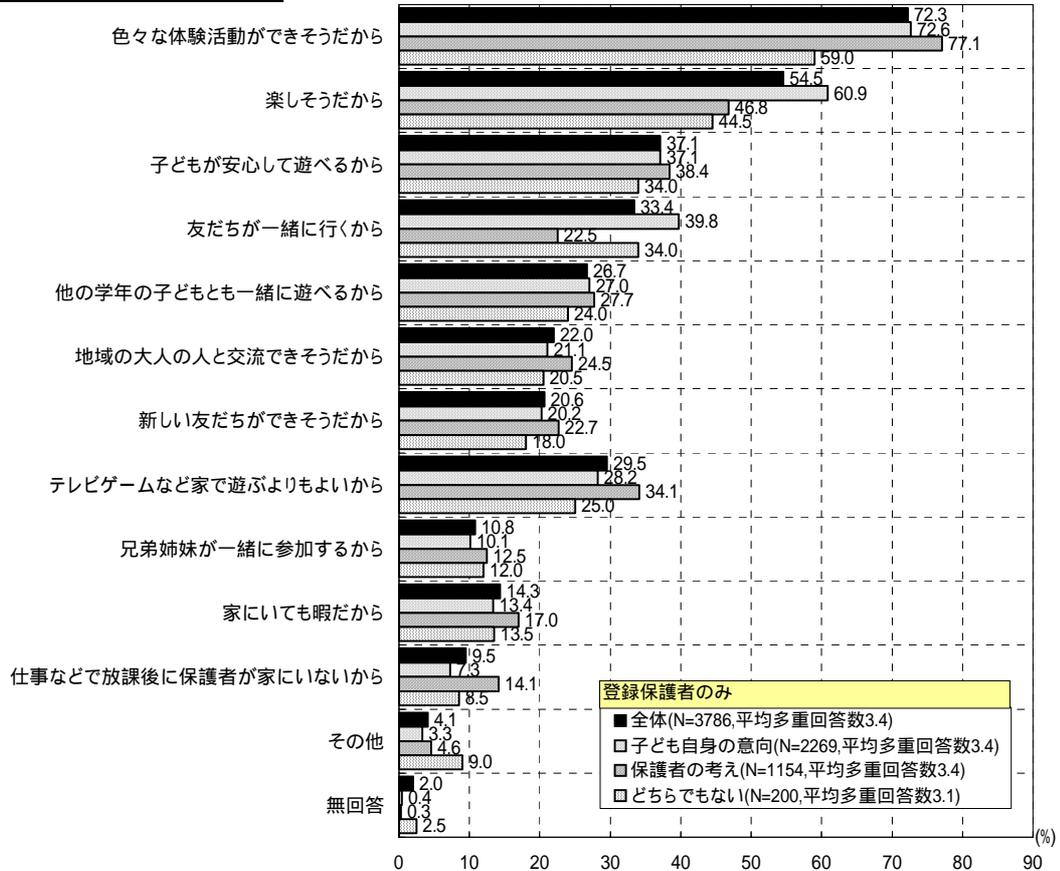
問11 では、あなたやお子さんが地域子ども教室に参加させたい・したいと思った具体的な理由は何ですか。(MA)

問12 お子さんは、地域子ども教室での活動をどのように感じているようですか。(SA)

- ❖ 参加させたい・したいと思った理由を、参加するようになったきっかけ別にみると、『子ども自身の意向で参加した』ケースでは「楽しそうだから」や「友だちが一緒に行くから」などが高い割合となっており、『保護者の考えで参加させた』ケースでは「色々な体験活動ができそうだから」や「テレビゲームなど家で遊ぶよりもよいから」などが高い割合となっている。
- ❖ 子どもが地域子ども教室での活動をどう感じているかについては、「とても楽しいと感じているようだ」と「まあ楽しんでいるようだ」が95%以上と大部分を占めている。
- ❖ 地域子ども教室に通っている子どもの学年別にみると、学年が低いほど「とても楽しいと感じているようだ」という割合が高くなっている。

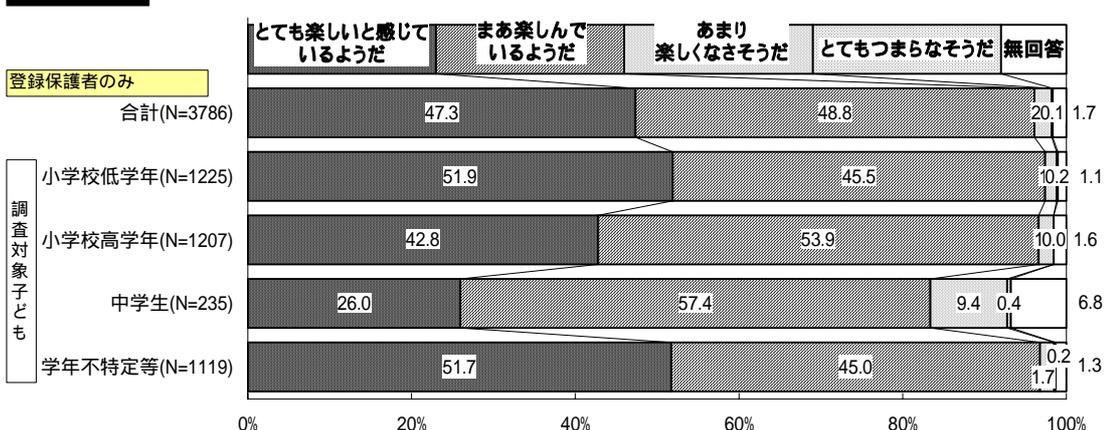
問11 あなたやお子さんが地域子ども教室に参加させたい・したいと思った具体的な理由は何ですか。(MA)

参加するようになったきっかけ別



問12 お子さんは、地域子ども教室での活動をどのように感じているようですか。(SA)

子どもの学年別

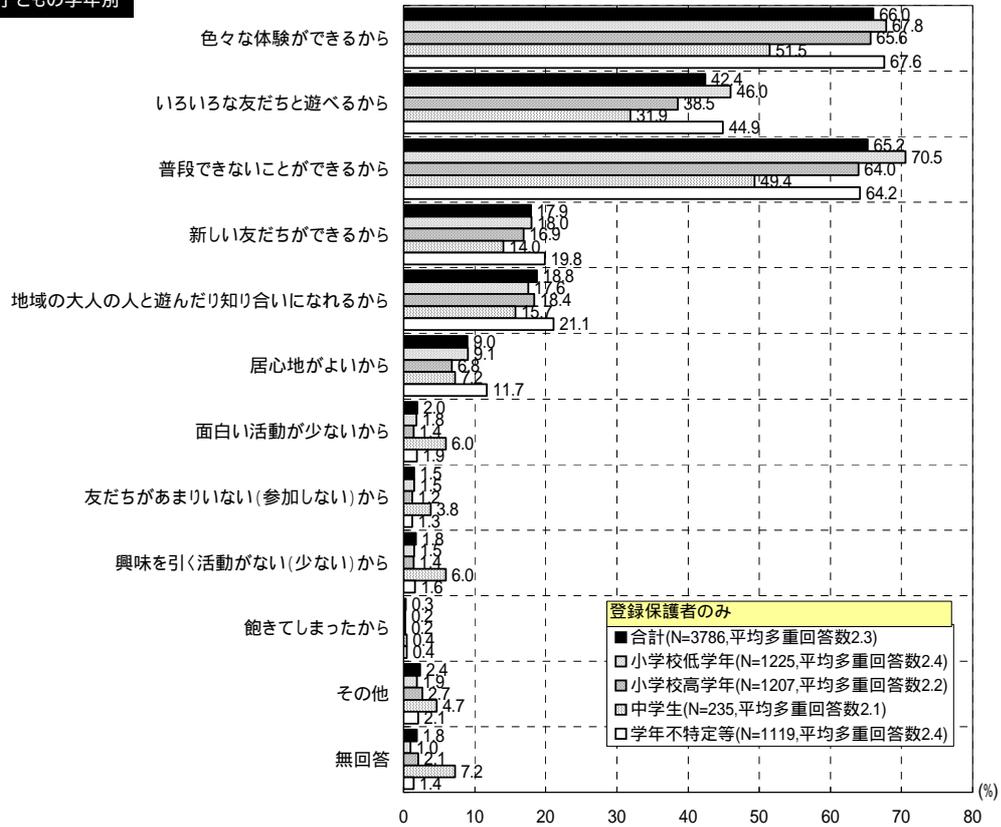


問13 では、具体的にはどのような点でそう感じているようですか。(MA)

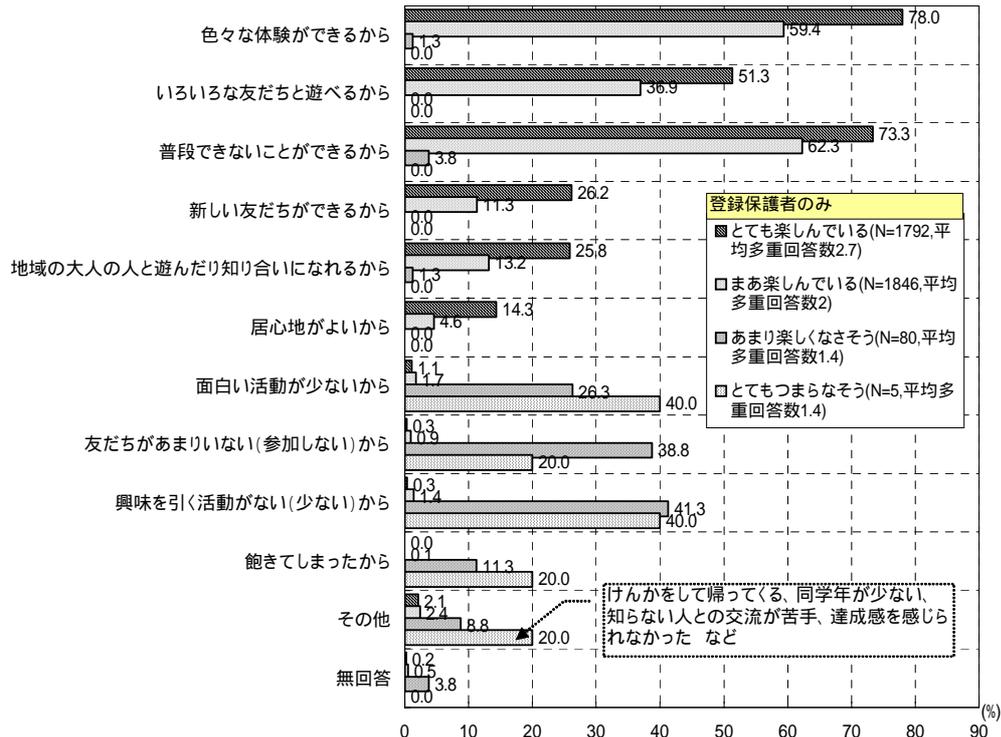
❖地域子ども教室を楽しいと思う理由・あるいはつまらないと思う理由について具体的な内容をみると、「色々な体験ができるから」や「普段できないことができるから」などが楽しいと思う理由として上位に挙げられている。一方で、「興味をひく活動がないから」や「おもしろい活動が少ないから」などはつまらないと思う理由として挙げられている。

問13 では、具体的にはどのような点でそう感じているようですか。(MA)

子どもの学年別



子どもが地域子ども教室の活動を楽しんでいるかどうか別



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問14 地域子ども教室に参加してから、お子さんの様子が変わったなと感じることはありますか。(SA)

問15 では、お子さんが地域子ども教室に参加してから、どのような点がどれくらい変わったと感じますか。(各項目ごとにSA)

- ◆地域子ども教室に参加してからの子どもの変化については、4割近くが「ある」としており、学年別にみると小学生の方が変化を見せていることが分かる。
- ◆具体的な子どもの変化の内容としては、「興味があることは自分で調べたりするようになった」や「地域の行事に積極的に参加するようになった」、「地域の大人の人とあいさつをしたり、話をしたりするようになった」などが変わった点として上位に挙げられている。

問14 地域子ども教室に参加してから、お子さんの様子が変わったなと感じることはありますか。(SA)

子どもの学年別

登録保護者のみ

合計(N=3786)

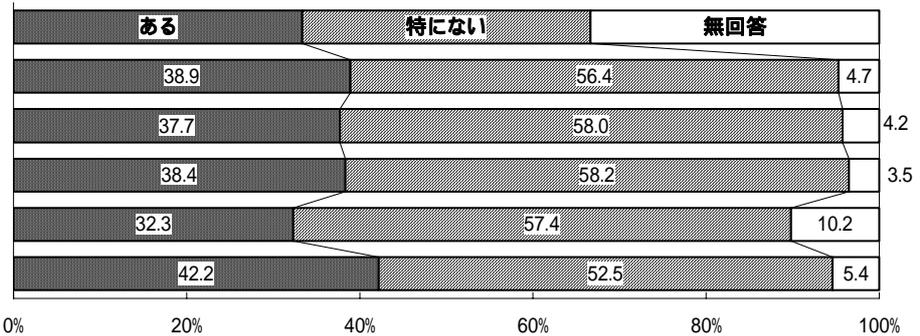
調査対象子ども

小学校低学年(N=1225)

小学校高学年(N=1207)

中学生(N=235)

学年不特定等(N=1119)



問15 では、お子さんが地域子ども教室に参加してから、どのような点がどれくらい変わったと感じますか。(各項目ごとにSA)

子どもの学年別

全く変わらない

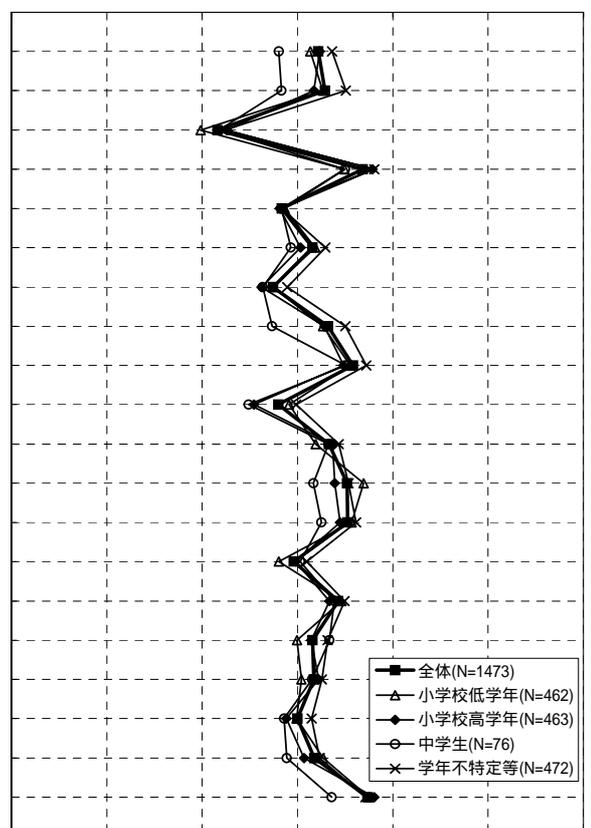
あまり変わらない

少しは変わった

とても変わった

1 2 3 4

家の中よりも、屋外でよく遊ぶようになった
 違う学年の友だちとよく遊ぶようになった
 違う学校の友だちとよく遊ぶようになった
 地域の行事に積極的に参加するようになった
 宿題や勉強を積極的にやるようになった
 学校に行くのを楽しみにするようになった
 テレビゲームをしたりマンガを読んだりすることが少なくなった
 家出ごろごろしたりポーッとしたりすることが少なくなった
 地域の大人の人とあいさつをしたり、話をしたりするようになった
 年上の人とよく遊ぶようになった
 自分より年下の子の面倒をよくみるようになった
 自分で考えて遊ぶようになった
 以前よりも活発で明るくなった
 落ち着いた行動が取れるようになった
 ルールや決まりを守れるようになった
 正しい言葉遣いや礼儀正しい行動が取れるようになった
 我慢強くなった
 大人の言うことを良く聞くようになった
 家の手伝いを積極的にするようになった
 興味があることは自分で調べたりするようになった



問16 このほかに、特にお子さんが地域子ども教室に参加して大きく変わったと感じたことがあれば、ご自由にご回答下さい。

❖ 問 15 の選択肢での回答のほかに、特に子どもが地域子ども教室に参加してから変わったと思う点について自由に挙げられた内容をみると、知らない人や多くの人の中で遊ぶのが苦手だった子どもの積極性や社交性が増したという回答や、地域の大人との交流が増した、地域行事に積極的に参加するようになったなど、様々な面での変化が挙げられている。

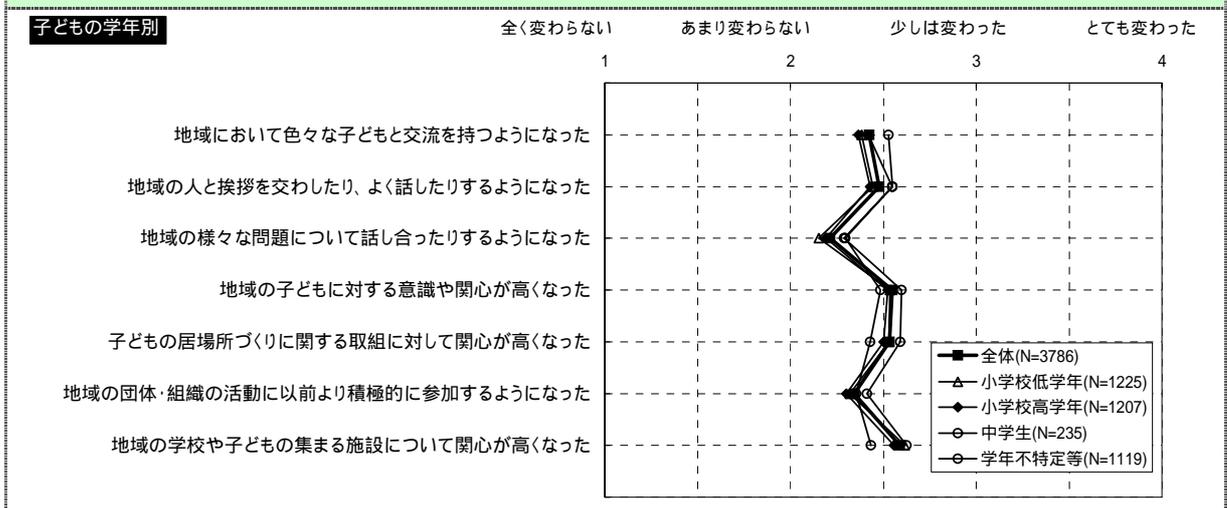
表2-5 地域子ども教室に参加してから子どもが大きく変わった点 (FA)《抜粋》

具体的な子どもの変化
・他の人の輪に入っていけるようになった。(30代 女性)
・多い人数で遊ぶのが苦手だったのでこの教室で遊べるようになった気がする。(30代 女性)
・家の祖父母以外のおじいさん、おばあさんの存在を強く意識するようになった。(40代 女性)
・毎日のように児童館へ行くので、2歳ぐらいの小さな子どもたちとも知り合いになりお母さんたちにも顔を覚えてもらい、本人も知り合いが増えて楽しく過ごしている。(30代 女性)
・同年代の子と数多くふれ合うことができ、とてもうれしそうである。(40代 女性)
・いろんなことに自信がついて積極的になった。(40代 女性)
・自分から進んで行動できるようになってきた。(30代 女性)
・地域の活動にはほとんど参加するようになり、そのときの色々な話をしてくれたり、家でも同じことをやってみたりして、とても楽しい時間が過ごせて嬉しそうである。(30代 女性)
・地域の人との挨拶が増え、行事に進んで出られるようになった。(40代 女性)
・知らない人の中の活動でも楽しいと思えるようになったようだ。(30代 女性)
・体を動かすことが好きなので、夜は早く寝るようになった。子どもの表現が豊かになった。色々な大人、お友だちに出会うことによって、相手を思いやったり、大人に対する接し方が分かるようになった。約束を守ることを覚えた。(30代 女性)
・他の学校、学年、男女の差をあまり意識しないで話せるようになった。(40代 女性)

問17 お子さんが地域子ども教室に参加したことによって、あなたご自身の気持ちや暮らし方などに何か変化はありましたか。(各項目ごとにSA)

❖ 保護者自身の変化について内容をみると、「変わった」と強く意識されている項目は見当たらず、いずれの項目も中間値から「あまり変わらない」側にシフトした評価になっている。

問17 お子さんが地域子ども教室に参加したことによって、あなたご自身の気持ちや暮らし方などに何か変化はありましたか。(各項目ごとに SA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

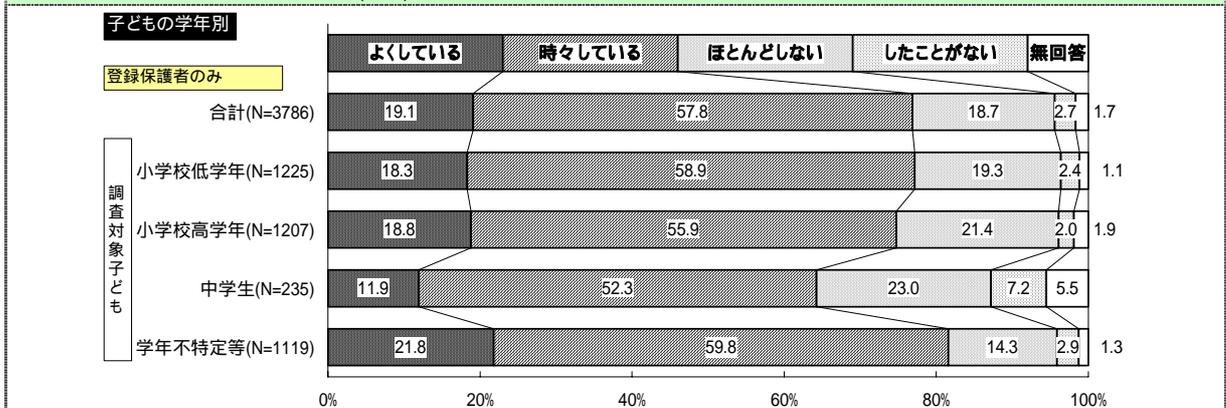
問18 地域子ども教室の活動についてお子さんと話をしたり、教室で習ったことを家庭で親子で行うなどをしたことがありますか。(SA)

問19 お子さんが地域子ども教室に参加するようになってから、親子の会話の頻度に変化はありましたか。(SA)

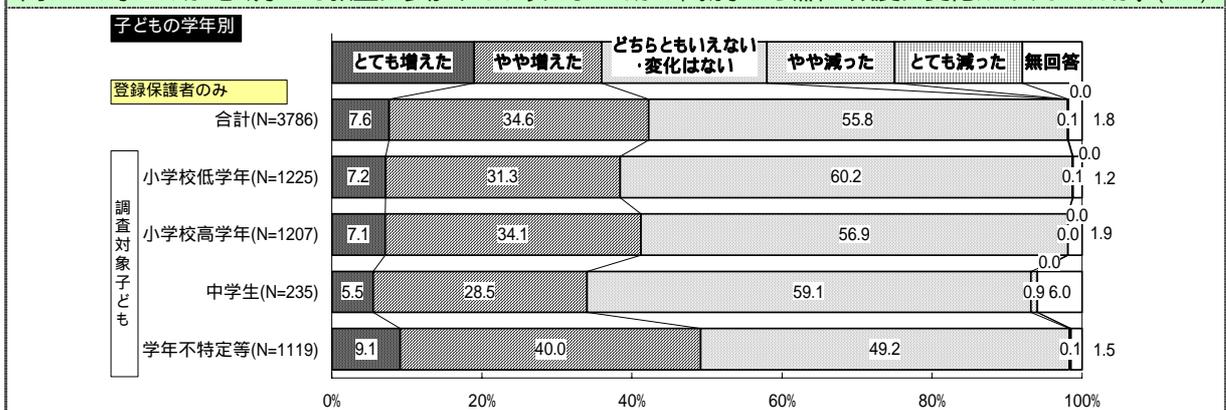
問20 お子さんは今後も地域子ども教室に参加したいと思っているようですか。(SA)

- ❖ 地域子ども教室のことを親子で話をしたり習ったことをやってみたりするかどうかについては、全体の75%以上が「よくしている」あるいは「時々している」と回答しており、学年が低いほどしているという割合が高くなっている。
- ❖ 地域子ども教室参加後の親子の会話の頻度については、全体で4割以上が「増えた」としており、「とても増えた」は小学生で高い割合となっている。
- ❖ 地域子ども教室への子どもの今後の参加意向については、「積極的に参加したいと思っているようだ」が約39%、「参加してもいいと思っているようだ」が約55%と高く、特に小学校低学年では高い参加意向を保護者も感じ取っている。

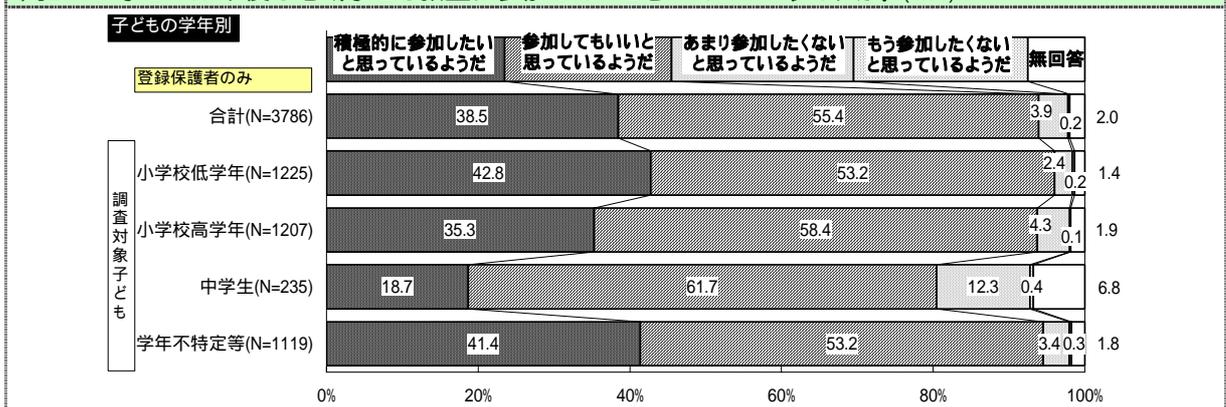
問18 地域子ども教室の活動についてお子さんと話をしたり、教室で習ったことを家庭で親子で行うなどをしたことがありますか。(SA)



問19 お子さんが地域子ども教室に参加するようになってから、親子の会話の頻度に変化はありましたか。(SA)



問20 お子さんは今後も地域子ども教室に参加したいと思っているようですか。(SA)



(4) 地域子ども教室に参加していない子どもの不参加理由など

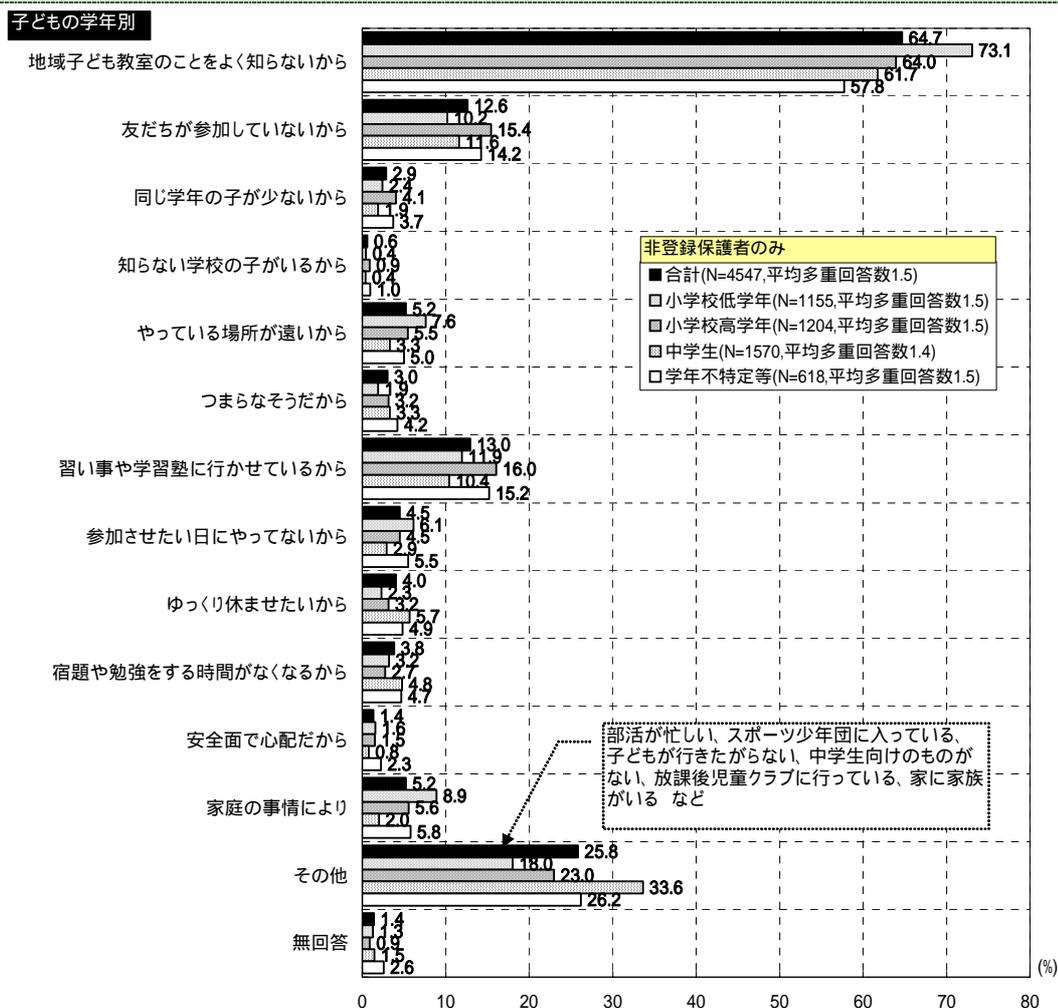
問21 お子さんが地域子ども教室に参加していないのは、なぜですか。(MA)

問22 あなたは、今後地域子ども教室にお子さんを参加させたいと思いますか。(SA)

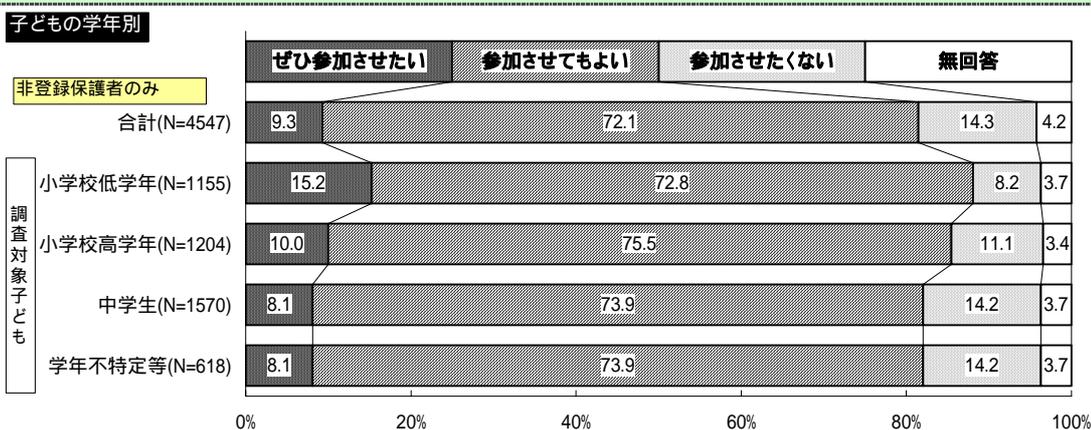
❖ 非登録保護者（アンケートを持って帰ってきた子どもが地域子ども教室に参加していない保護者）のみに限定して、教室に参加しない理由をみると、「地域子ども教室のことをよく知らないから」が65%近くと最も高い割合を占めている。

❖ 本アンケートで地域子ども教室の取組について知った上で、今後地域子ども教室に子どもを参加させたいかどうかを聞いたところ、72.1%が「参加させてもよい」と前向きな回答を寄せている。

問21 お子さんが地域子ども教室に参加していないのは、なぜですか。(MA)



問22 あなたは、今後地域子ども教室にお子さんを参加させたいと思いますか。(SA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

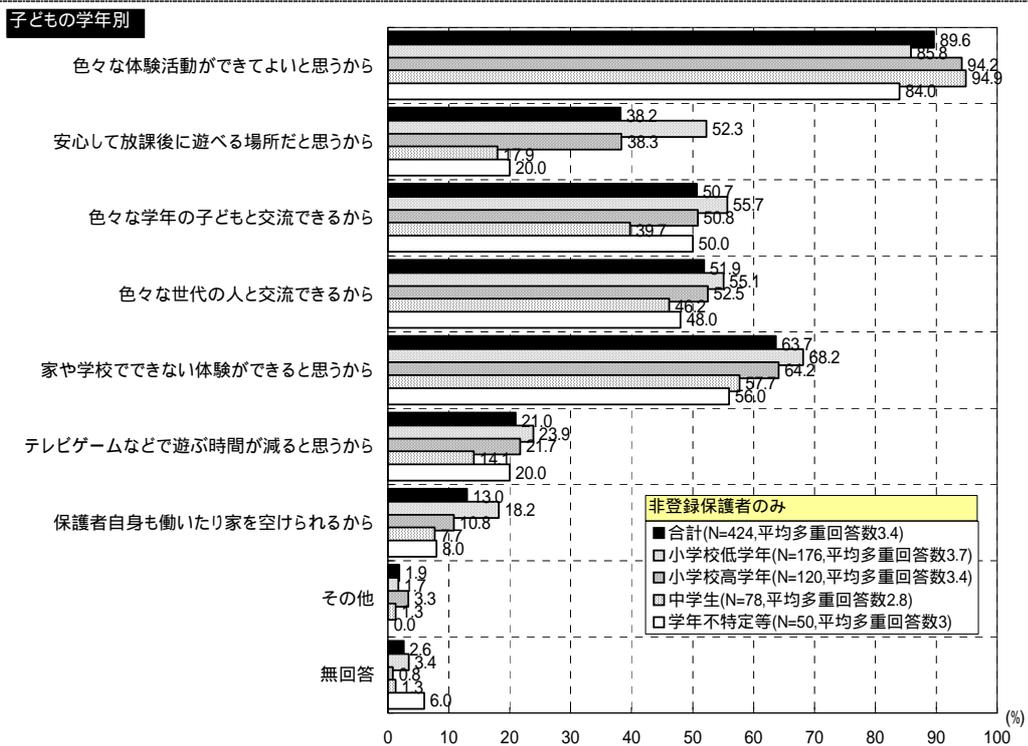
問23 問22で「1.ぜひ参加させたい」とお答えの方にお尋ねします。ぜひ参加させたいと思う理由は何ですか。(MA)

問24 問22で「3.参加させたくない」とお答えの方にお尋ねします。あまり参加させたくないと思う理由は何ですか。(MA)

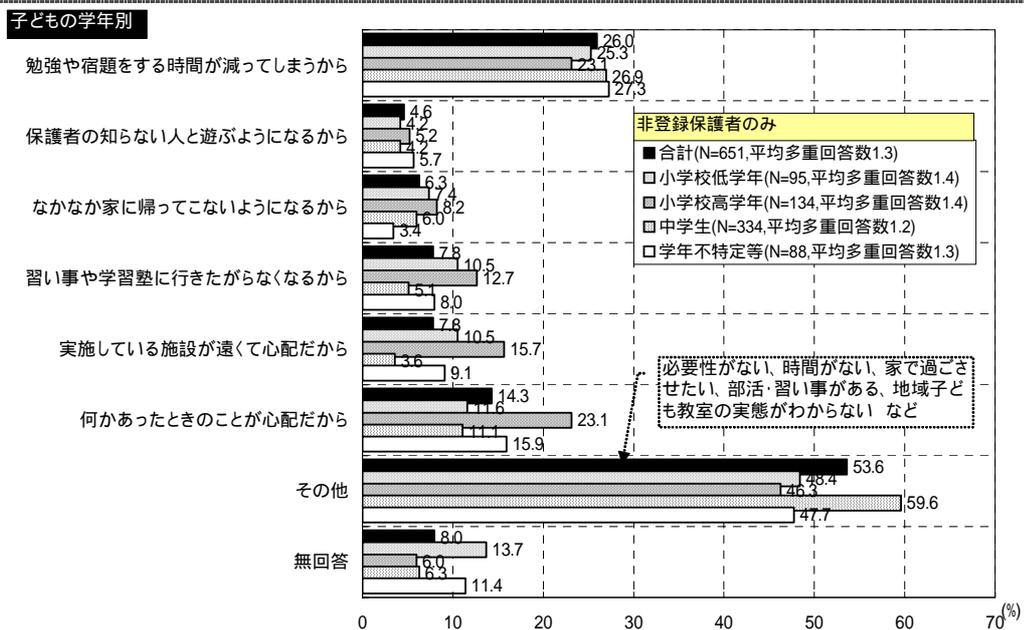
❖ 「ぜひ参加させたい」と回答した非登録保護者について、その理由をみると、「色々な体験活動ができてよいと思うから」が89.6%と最も高く、次いで「家や学校でできない体験ができると思うから」が63.7%と続いており、子どもの交友関係の拡がりや多世代交流という点よりも多様な活動が経験できるという点の方が保護者としては高く評価している。

❖ 逆に「参加させたくない」理由をみると、「勉強や宿題をする時間が減ってしまうから」が高くなっており、その他をみても、「必要性がない」、「時間がない」、「家で過ごさせたい」、「部活・習い事がある」など、普段の時間を割いてまで地域子ども教室へ参加させることへの否定的な意識が見られる。また、「地域子ども教室の実態がわからない」など、地域への周知不足も見られる。

問23 ぜひ参加させたいと思う理由は何ですか。(MA)



問24 あまり参加させたくないと思う理由は何ですか。(MA)

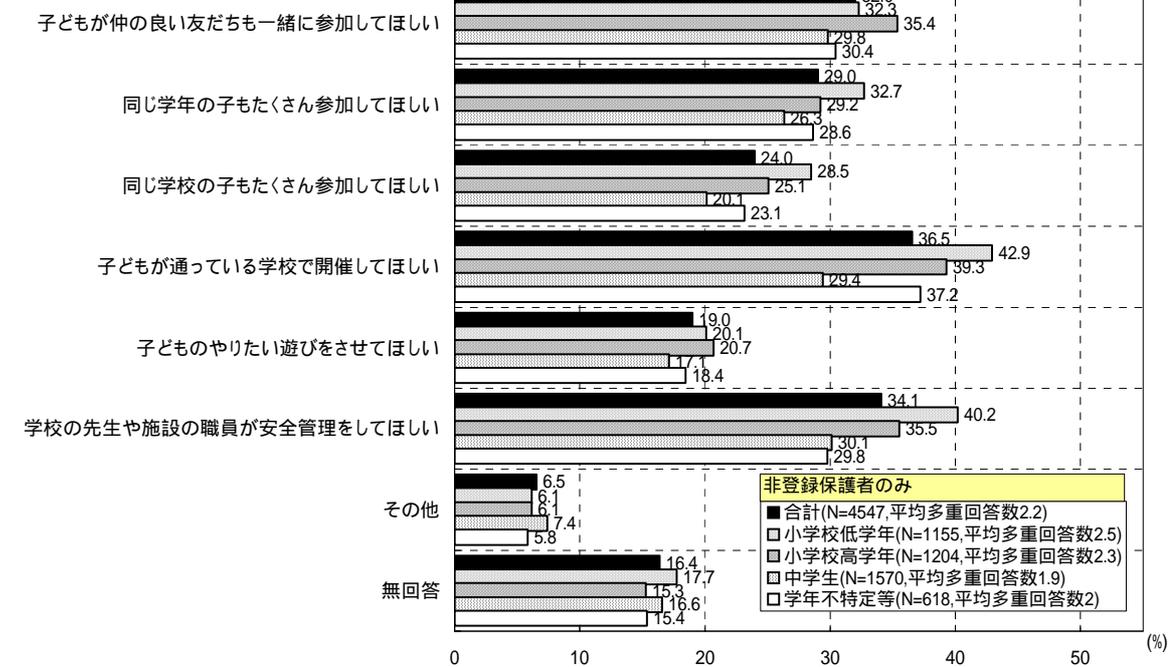


問25 あなたは、もしお子さんを地域子ども教室に参加させるとしたら、地域子ども教室はどのようになってほしいと思いますか。(MA)

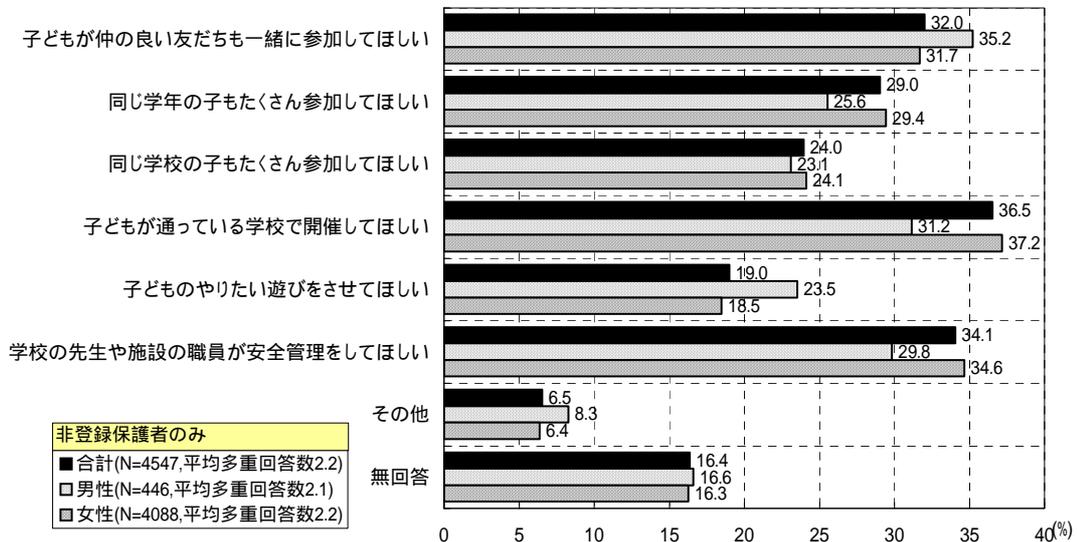
- ❖ 非登録保護者のみに対して、もし子どもを地域子ども教室に参加させるとしたらどうしてほしいかを聞いたところ、「子どもが通っている学校で開催してほしい」や「学校の先生や施設の職員が安全管理をしてほしい」などが高い割合となっており、これらは特に小学校低学年の保護者で高い割合となっている。
- ❖ 男女別にみると、「子どもが通っている学校で開催してほしい」「学校の先生や施設の職員が安全管理をしてほしい」など、子どもを安心して預けられる体制整備については、女性の方がより強く求めている。一方男性では、「子どもが仲の良い友だちも一緒に参加してほしい」や「子どものやりたい遊びをさせてほしい」など、子どもの自主性や意向を尊重した体制についての配慮を求める声が女性よりも高い点が特徴的である。

問25 あなたは、もしお子さんを地域子ども教室に参加させるとしたら、地域子ども教室はどのようになってほしいと思いますか。(MA)

子どもの学年別



男女別



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

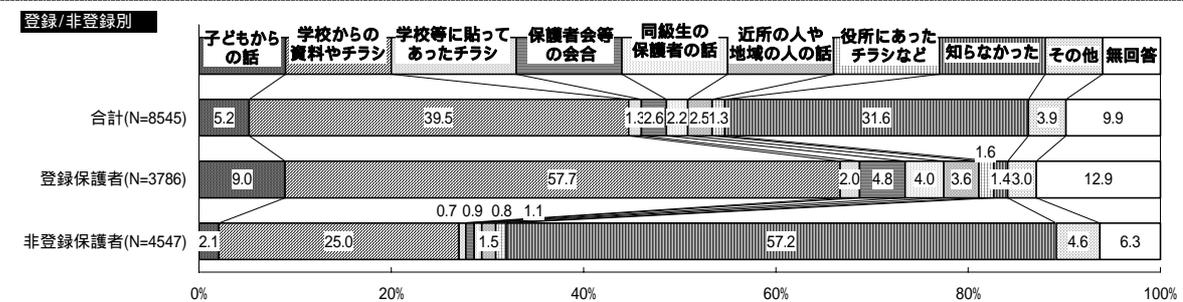
(5) 保護者の方の地域子ども教室への関わりなど

問26 あなたは、地域子ども教室のことを、どのようにして知りましたか。(SA)

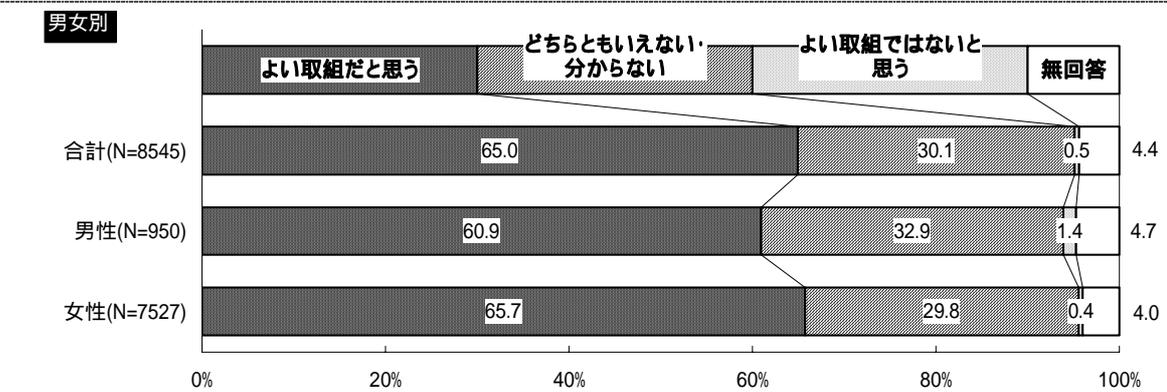
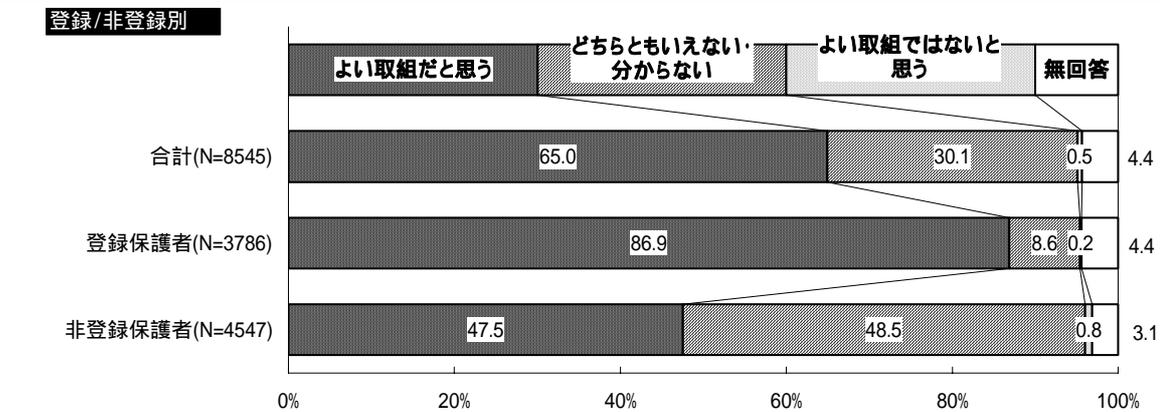
問27 あなたは、地域子ども教室が開始されたことについて、どう思われますか。(SA)

- ❖ 地域子ども教室のことをどのように知ったかについては、「学校からの資料やチラシ」が約4割と最も多くなっている。一方、「このアンケートを見るまで知らなかった」という回答も、非登録保護者を中心に比較的多く得られている。登録保護者の回答をみると、「学校からの資料やチラシ」が約6割と最も多く、「子どもからの話」は9.0%にとどまっている。
- ❖ 地域子ども教室の開催についてどう思うかを聞いたところ、全体の約65%が「よい取組だと思う」と評価しており、「よい取組ではないと思う」はわずか0.5%であった。
- ❖ 登録/非登録別にみると、登録保護者では約87%が「よい取組だと思う」と高く評価している。一方、非登録保護者では、「よい取組だと思う」と「どちらともいえない・分からない」がほぼ同率となっているが、子どもが地域子ども教室に参加していない保護者にとっても、取組自体は評価している人が半数近くいることが分かる。

問26 あなたは、地域子ども教室のことを、どのようにして知りましたか。(SA)



問27 あなたは、地域子ども教室が開始されたことについて、どう思われますか。(SA)

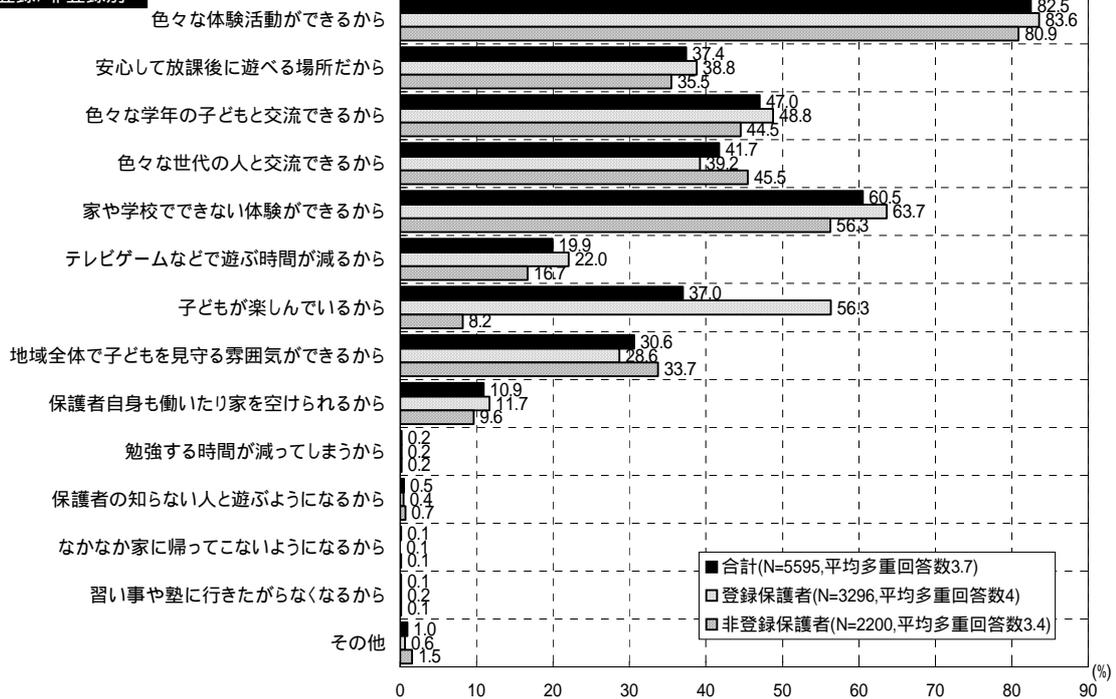


問28 問27で「1.よい取組だと思う」又は「3.よい取組ではないと思う」とお答えの方にお尋ねします。 そう思われるのは、具体的にはどういう点からですか。(MA)

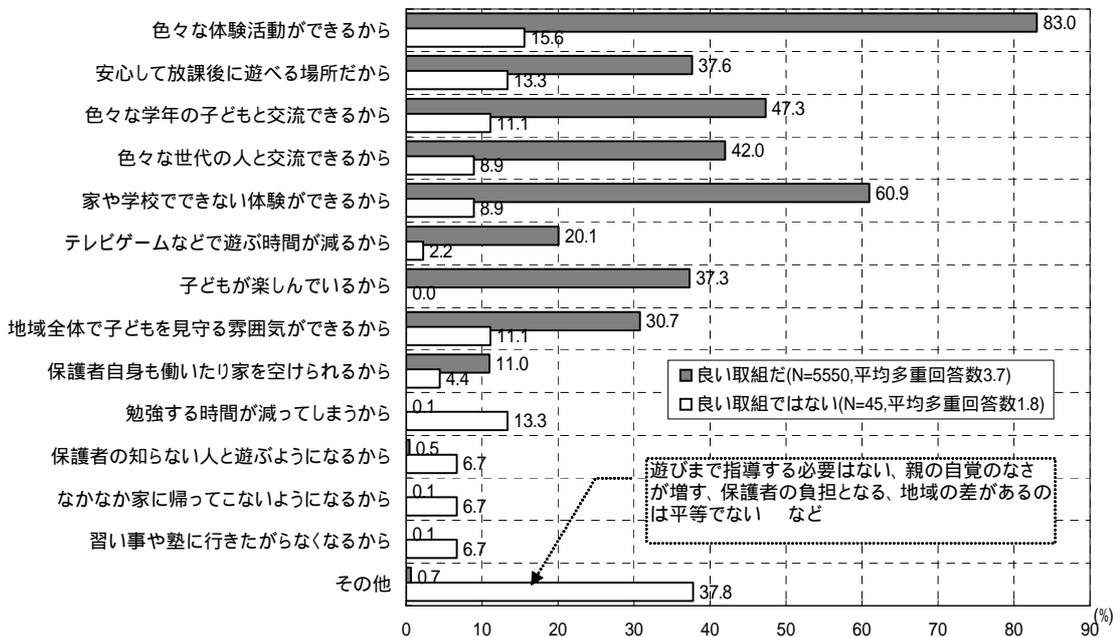
- ❖ 地域子ども教室についての具体的な評価理由をみると、「色々な体験活動ができるから」や「家や学校でできない体験ができるから」など、多様な活動体験ができる点が評価されている。
- ❖ 登録/非登録別にみると、登録保護者では「子どもが楽しんでいるから」が56%と比較的高く、子ども自身が楽しんでいることを評価理由としている保護者が比較的多い。
- ❖ 事業についての良い/良くないという評価とその理由とのクロスをみると、「よい取組だと思う」とした保護者の多くは色々な活動ができる点などを評価している一方、「良い取組ではない」とした保護者は「勉強する時間が減ってしまうから」などをその理由として挙げている。

問28 地域子ども教室がよい取組だ・又はよい取組ではないと思われるのは、具体的にはどういう点からですか。(MA)

登録/非登録別



地域子ども教室への評価別



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

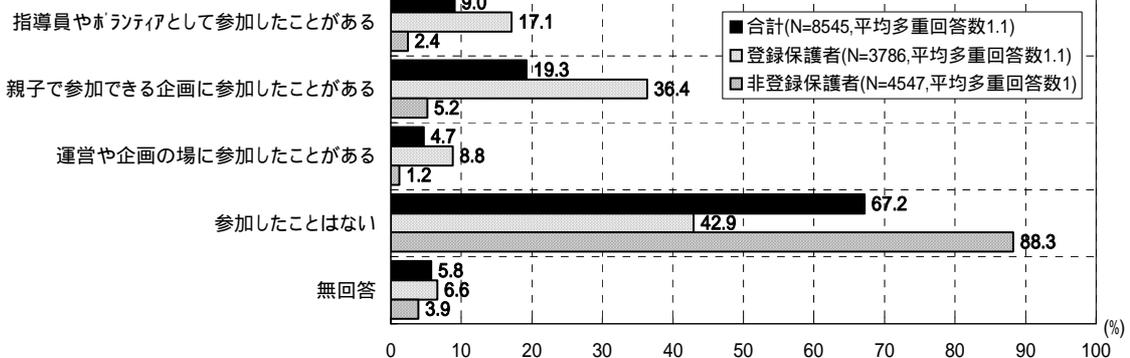
問29 あなたは、地域子ども教室の活動に何らかの形で参加されたことはありますか。(MA)

問30 あなたご自身は、今後、地域子ども教室の運営に参加・協力したいと思いますか。(MA)

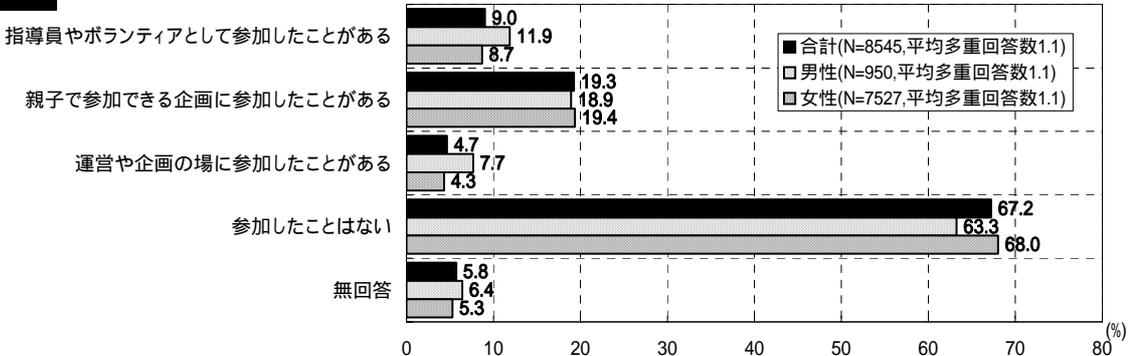
- ❖ 地域子ども教室への参加経験をみると、全体の約7割が「参加したことはない」としている。参加したことがあるという回答の中では、「親子で参加できる企画に参加したことがある」が19.3%と最も多く、「指導員やボランティアとして参加」は9.0%、「運営や企画の場に参加」はわずか4.7%であった。
- ❖ 男女別に参加経験をみると、女性の方が「参加したことはない」という割合が高く、「指導員やボランティアとして参加」は男性で若干高くなっている。
- ❖ 今後の地域子ども教室への参加意向をみると、「指導員やボランティアとして参加・協力したい」という人は22.8%いるものの、約4割は「運営には参加・協力したいとは思わない」としている。
- ❖ 登録/非登録別にみると、登録保護者の方が今後の参加・協力意向は高く、「指導員やボランティアとして参加・協力したい」という割合が33.1%となっている。

問29 あなたは、地域子ども教室の活動に何らかの形で参加されたことはありますか。(MA)

登録/非登録別

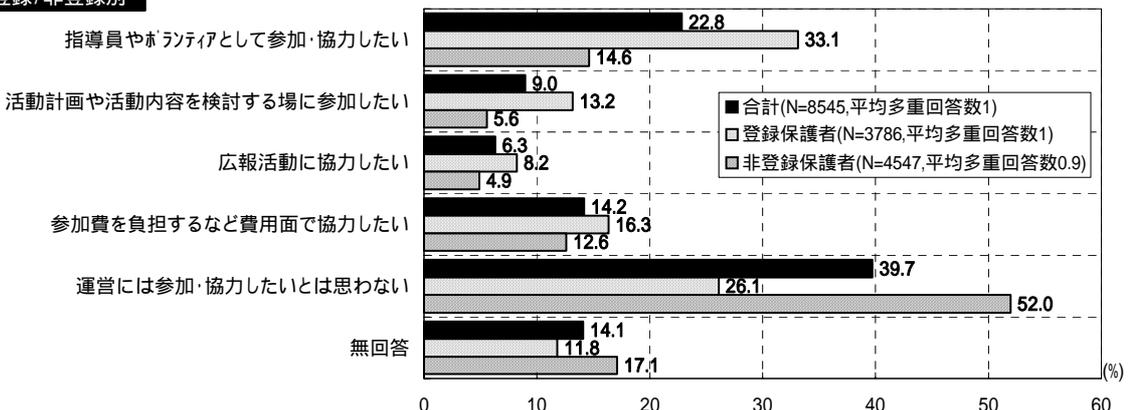


男女別



問30 あなたご自身は、今後、地域子ども教室の運営に参加・協力したいと思いますか。(MA)

登録/非登録別

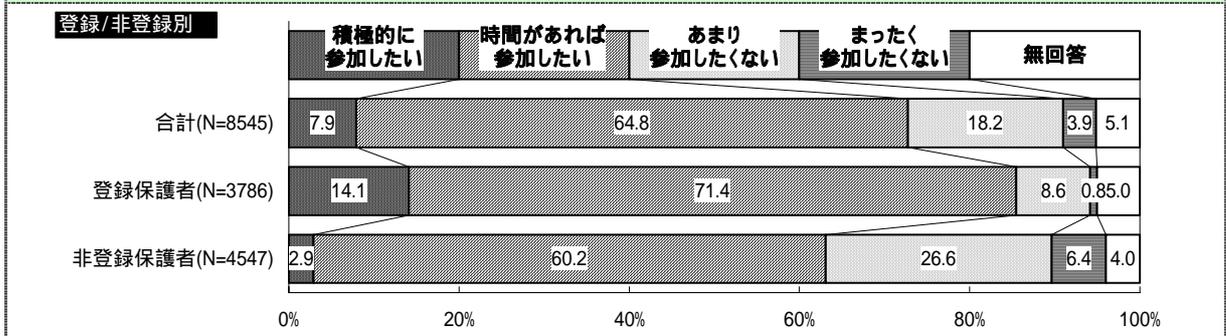


問31 あなたご自身は、今後、地域子ども教室で親子交流企画(親子で参加できる企画)があれば参加したいと思いますか。(SA)

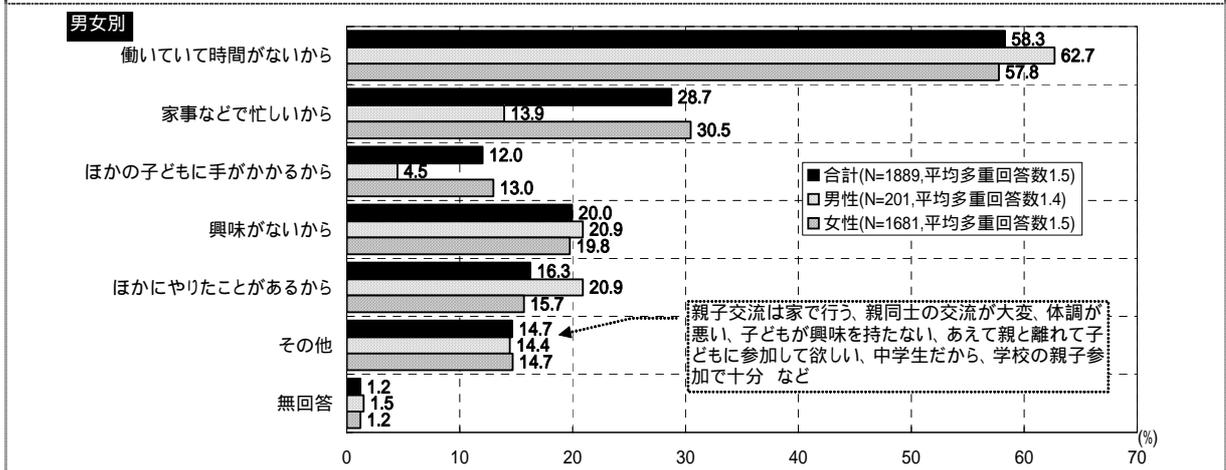
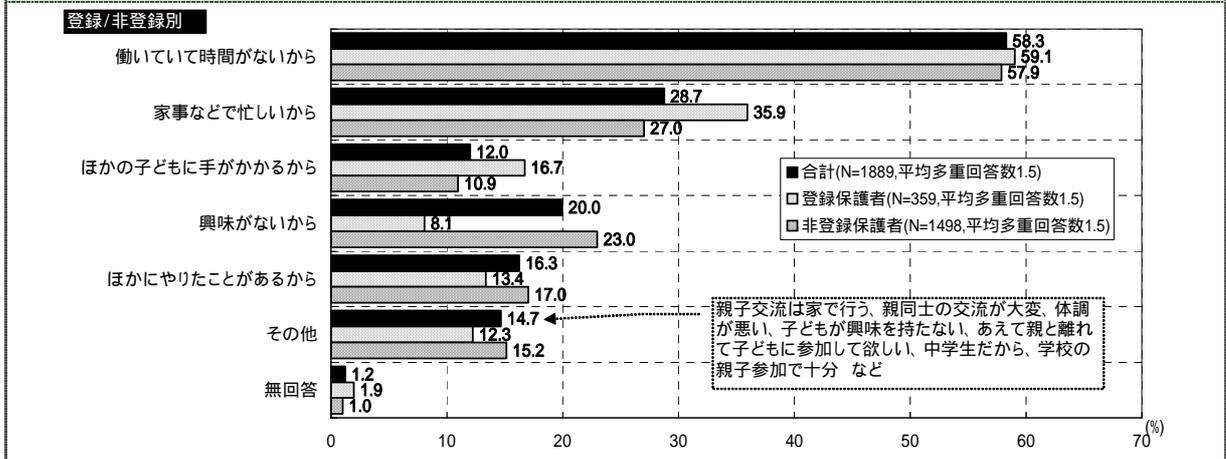
問32 問31で「3.あまり参加したくない」「4.まったく参加したくない」とお答えの方にお尋ねします。あなたが、地域子ども教室にあまり参加したくないと思う理由は、何ですか。(MA)

- ❖親子で参加できる企画への参加意向についてみると、約65%は「時間があれば参加したい」としており、「積極的に参加したい」とあわせると約7割が参加したいと考えている。
- ❖登録/非登録別にみると、「積極的に参加したい」という人も14.1%おり、登録保護者の方が親子交流企画への参加意向は高い。
- ❖親子交流企画に「あまり参加したくない」あるいは「全く参加したくない」と回答した保護者に限定して、その理由を聞いたところ、「働いていて時間がないから」という理由が最も高くなっている。
- ❖男女別にみると、男性では「働いていて時間がないから」が62.7%、女性では「家事などで忙しいから」が30.5%と、それぞれ多くなっている。

問31 あなたご自身は、今後、地域子ども教室で親子交流企画(親子で参加できる企画)があれば参加したいと思いますか。(SA)



問32 あなたが、地域子ども教室にあまり参加したくないと思う理由は、何ですか。(MA)



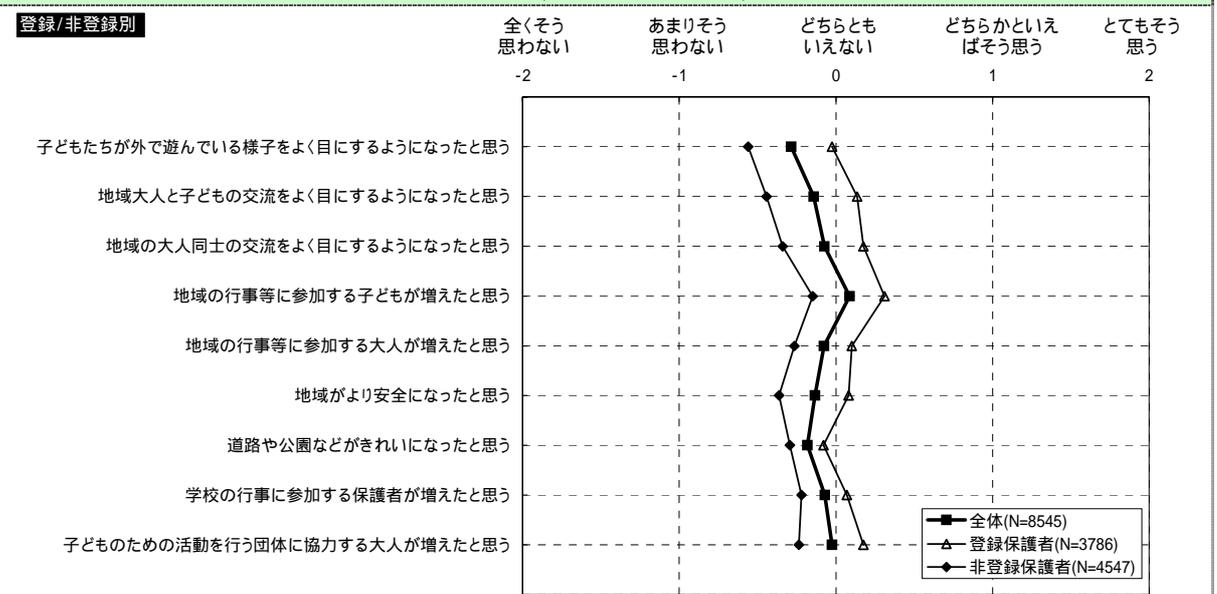
(6) 今後の地域子ども教室のあり方

問33 あなたは、お住まいの地域で地域子ども教室が実施されたことにより、実施する前と比べて地域において変わったなと思うことはありますか。(各項目ごとにSA)

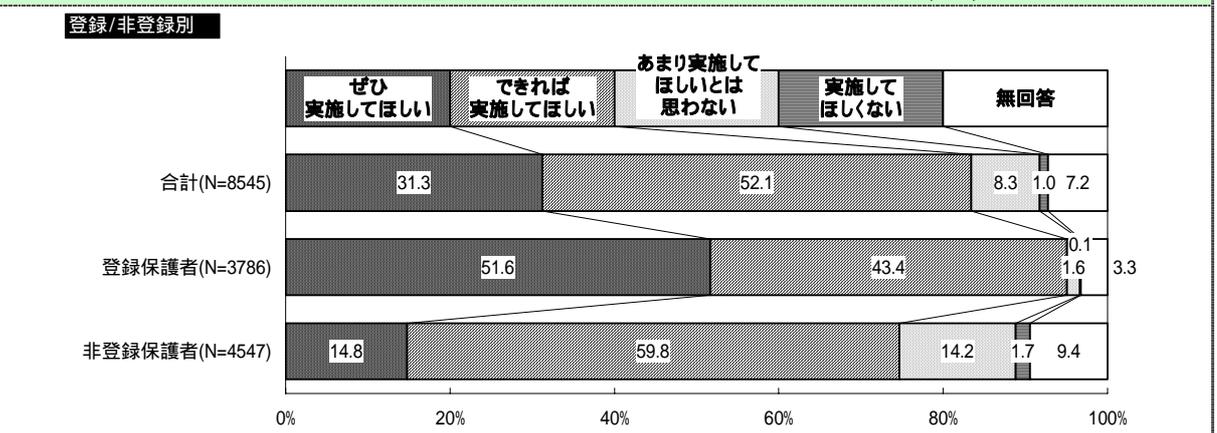
問34 あなたは、今後、地域子ども教室を実施することについて、どう思いますか。(SA)

- ❖ 地域子ども教室の実施により地域において何か変化がみられるかどうかについては、総じてあまり高い評価ではなく、中間値「どちらともいえない」からマイナス側(「あまりそう思わない」)にかけての範囲に値が集中している。全体でプラス評価になっていたのはわずかに「地域の行事に参加する子どもが増えたと思う」のみであった。
- ❖ 登録/非登録別にみると、全項目について、登録保護者の方が非登録保護者よりも高く評価されており、中でも「地域の行事に参加する子どもが増えたと思う」や「子どものための活動を行う団体に協力する大人が増えたと思う」などは比較的变化を感じた人が多いことが分かる。
- ❖ 今後の地域子ども教室の実施については、全体の約3割が「是非実施してほしい」としており、「できれば実施してほしい」とあわせると、8割以上の保護者から今後の地域子ども教室の実施が求められていることが分かる。
- ❖ 登録/非登録別にみると、登録保護者の半数以上は「是非実施してほしい」としており、事業継続への期待が強いほか、子どもが地域子ども教室に参加していない非登録保護者でも、14.8%の人が「是非実施してほしい」と強く実施を求めている。

問33 あなたは、お住まいの地域で地域子ども教室が実施されたことにより、実施する前と比べて地域において変わったなと思うことはありますか。(各項目ごとにSA)



問34 あなたは、今後、地域子ども教室を実施することについて、どう思いますか。(SA)

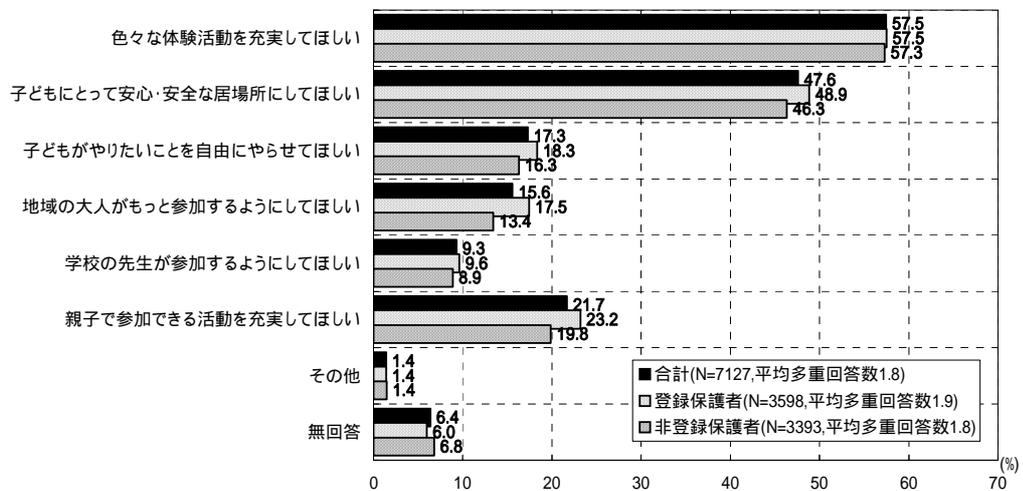


問35 問34で「1.ぜひ実施してほしい」「2.できれば実施してほしい」とお答えの方にお尋ねします。では、今後の地域子ども教室に、どのようなことを望みますか。(MA, 最も望むものについてSA)

- ❖ 「是非実施してほしい」又は「できれば実施してほしい」と回答した保護者に限り、今後の地域子ども教室の実施にあたり望むことについては、「色々な体験活動を充実してほしい」が 57.5%と最も高く、「子どもにとって安心・安全な居場所にしてほしい」が 47.6%で続いている。
- ❖ これらのうち、最も望むことひとつを挙げてもらったところ、「色々な体験活動を充実してほしい」が 35.2%と最も望まれていることが分かった。
- ❖ 登録/非登録別で大きな差は見られないが、登録保護者の方が活動内容をより重視し、非登録保護者は安全性をより重視している傾向がみられる。
- ❖ 学年別でみてもあまり大きな差はないが、中学生の保護者の方が子どもの自主性を重視してほしいという期待が若干高く、小学校低学年の保護者は安全性をより重視していることが示されている。

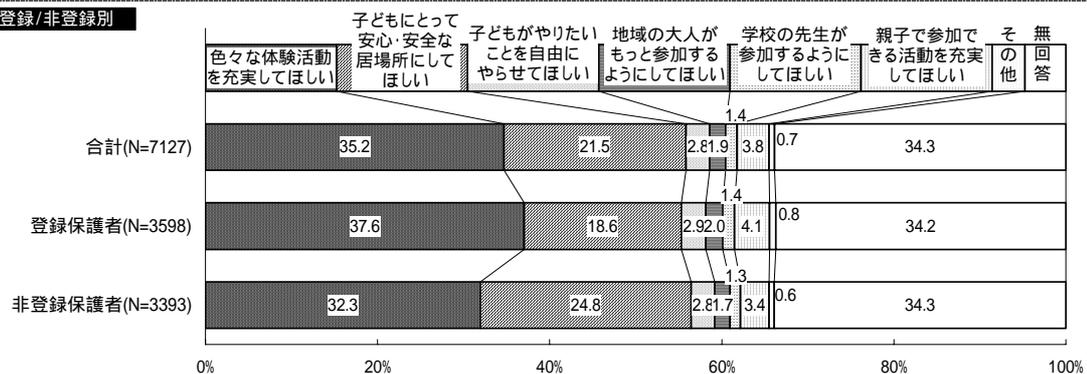
問35 今後の地域子ども教室に、どのようなことを望みますか。(MA)

登録/非登録別

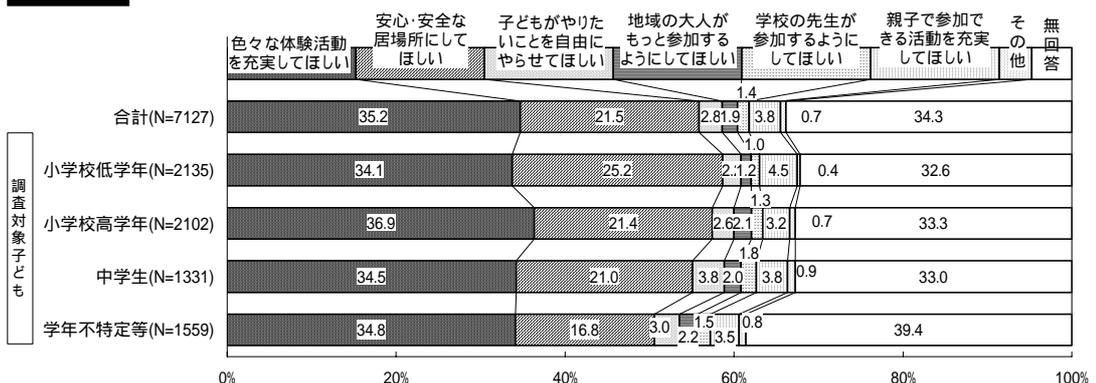


問35(S) 今後の地域子ども教室に最も望むことは何ですか。(SA)

登録/非登録別



子どもの学年別



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

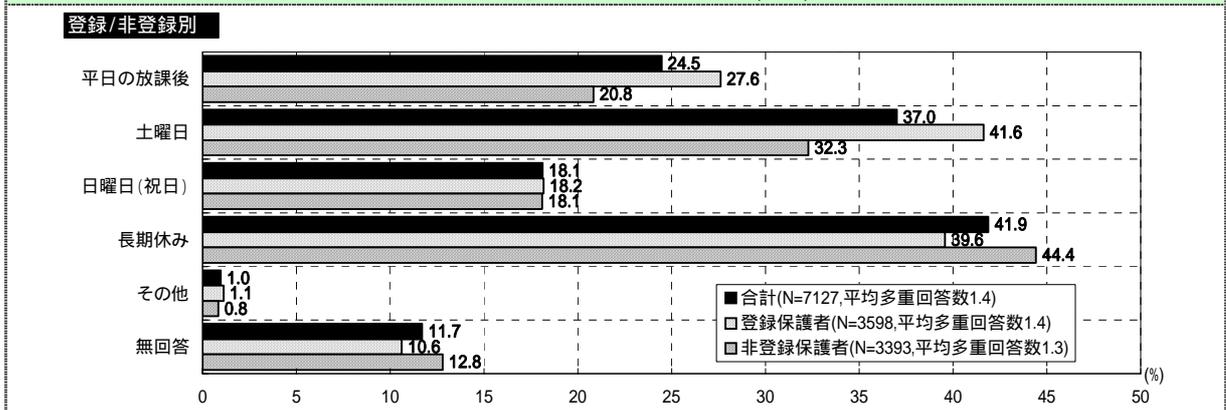
問36 では、今後、地域子ども教室をいつ実施してほしいですか。(MA, 最も望むものについてSA)

問37 では、今後、地域子ども教室をどこで実施してほしいですか。(MA, 最も望むものについてSA)

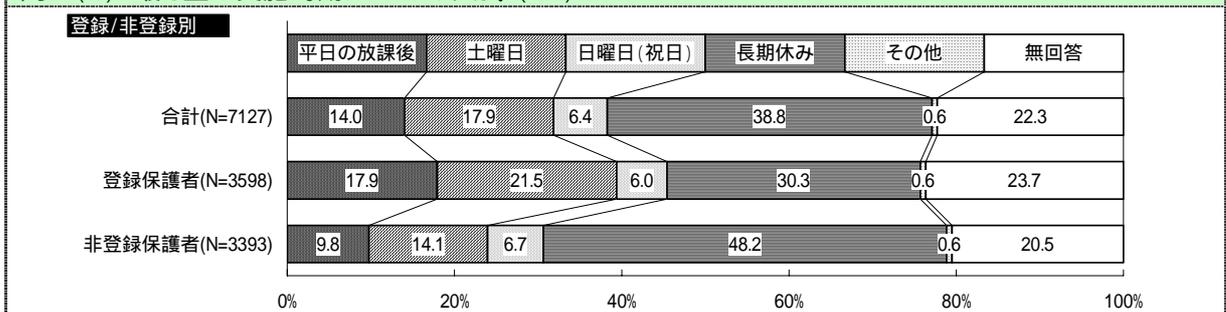
❖ 「是非実施してほしい」又は「できれば実施してほしい」と回答した保護者に限り、今後の地域子ども教室の実施時期や実施場所の希望をきいたところ、時期としては「長期休み」や「土曜日」が、場所としては「学校施設」や「公民館・児童館など」が望まれている。

❖ 登録/非登録別にみると、非登録保護者の方が「長期休み」での実施をより希望し、登録保護者は「土曜日」や「平日の放課後」の実施についても比較的希望が高くなっている。

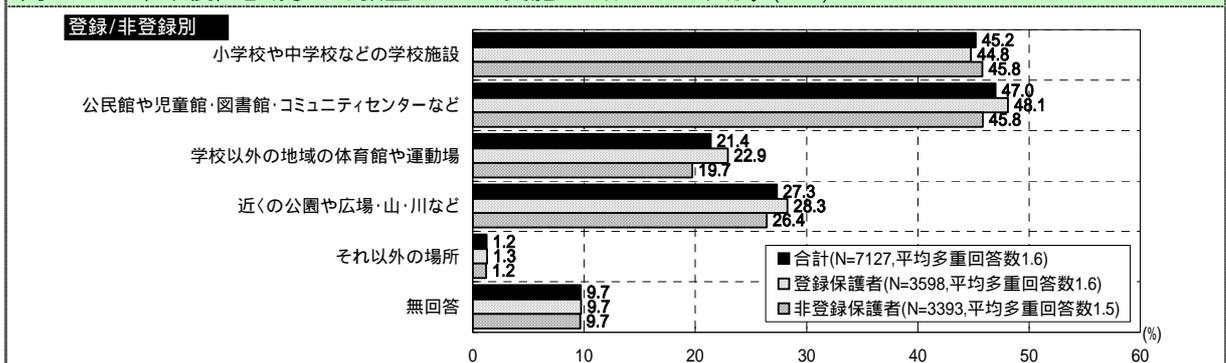
問36 では、今後、地域子ども教室をいつ実施してほしいですか。(MA)



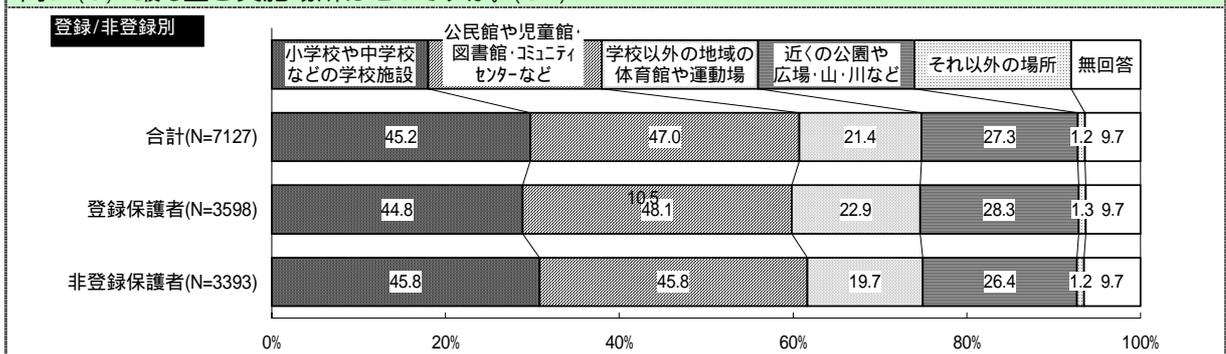
問36(S) 最も望む実施時期はいつですか。(SA)



問37 では、今後、地域子ども教室をどこで実施してほしいですか。(MA)



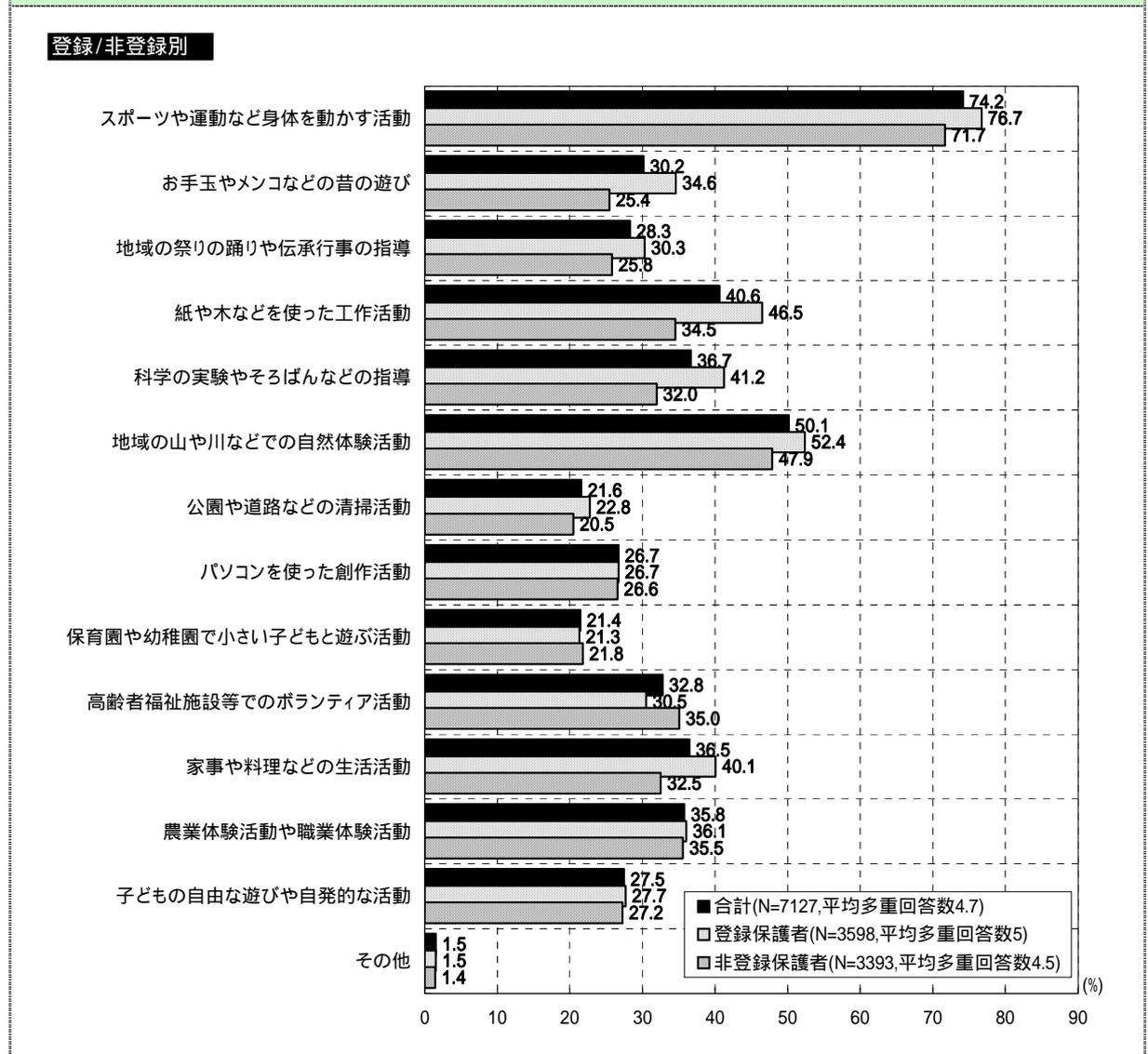
問37(S) 最も望む実施場所はどこですか。(SA)



問38 今後、どのような活動内容を地域子ども教室で充実させてほしいですか。(MA)

- ❖ 「是非実施してほしい」又は「できれば実施してほしい」と回答した保護者に限り、地域子ども教室で今後充実させてほしい活動内容についてみると、「スポーツや運動など身体を動かす活動」が74.2%と最も高く、次いで「地域の山や川などでの自然体験活動」が50.1%となっており、屋外での体を動かす活動について地域子ども教室で充実させてほしいという意向がうかがえる。
- ❖ 登録/非登録別にみると、全体の傾向に大きな差はないが、屋外での体を動かす活動や工作活動、科学やそろばんなどの指導や昔の遊びなどについては、登録保護者の方が非登録保護者よりも充実を期待する声が高い。

問38 今後、どのような活動内容を地域子ども教室で充実させてほしいですか。(MA)



問39 全員にお尋ねします。お住まいの地域で子育てをされていて日頃感じていることや、地域全体で子どもを育てることなどについてのご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。

- ❖ 地域での子育てや地域全体で子どもを育てることなどについて自由な意見を聞いたところ、全体で2,347名の保護者から回答が得られた。
- ❖ 今回の調査では、事業参加経験の有無により意識等にどのような違いが見られるか等を把握するため、学校経由で地域子ども教室に参加していない子ども及びその保護者にもアンケート調査を実施した。このため、「地域子ども教室がどのような活動なのか知らない」「地域子ども教室という言葉は聞いたことがない」という意見が142件寄せられた。
- ❖ その他の回答としては、公園など子どもが安心して外で遊べる場所がなくなったことを挙げる保護者が多く、またそのような安心して遊べる場所のひとつとして「地域子ども教室」はよい取組であるという評価も多くから得られた。ただし、地域子ども教室に対して、放課後児童クラブのように家庭にかわって子どもを預かる場所といった認識を持っている保護者の意見もみられた。
- ❖ また、地域全体で子どもを見守り育てる環境の重要性についても多くの保護者から挙げられている。

表2-6 地域での子育てや地域全体で子どもを育てることについての意見（FA）《抜粋》

子どもが安心して遊べる場所が減った(外で遊ぶ子どもが減った) [324件]	
私の子どもの頃とは全く時代が変わり外で遊ぶ子どもたちの姿をほとんど見ることはありません。子どもたちの遊ぶ声が聞こえる地域となってほしいです。(40代 女性)	
子どもの数は少なく、外で遊んでいるのをほとんど見ていません。大人の支援も大事ですが、子ども同士のコミュニケーションをより深める手立てが必要ではないでしょうか。(40代 女性)	
公園などが少ない [248件]	
安心して自由に遊べる場所がない。公園もボール遊び禁止なので思うように遊べない。広いスペースがない。自転車も道路で練習している。(30代 女性)	
放課後など外遊びをさせたいと思っても遊べる公園や場所が少なすぎる。その結果、家で遊ぶことが多くなりあまりさせたくないゲームの時間がどうしても増えてしまっている。(40代 女性)	
地域子ども教室を進めてほしい [125件]	
近所に子どもがいないので、兄妹で遊ぶことが多いです。友だち同士で遊ぶときは低学年の間は送迎しています。学校区中心で「地域子ども教室」があれば良いと思います。(30代 女性)	
両親共働きで子どもに全然目が届いていないと思う。祖父母だけでは不安な点があるので子ども教室があればすごくいいと思う。(40代女性)	
地域全体で子どもを育てることが重要 [99件]	
子どもを持つ親も、子どもが大きくなり、手がかからなくなった親も、地域全体が地域の一員として子どもたちを温かく見守ることのできる(無関心ではない)ようにしていきたい。(40代 男性)	
地域全体ということで大人も、子どもも、親もいっしょになって活動できる場でありたいです。子どもとの関わり方で、声をかけやすかったり、大人の言うことに耳をかたむけたりできる子どもが増えていくのだと思います。(30代 女性)	
子どもは塾やクラブで忙しく自由な時間がない [91件]	
クラブ活動や学校行事の練習・準備などで子どもたちの帰宅が遅いので、平日の放課後に子ども教室があっても参加できません。(40代 女性)	
学校行事や部活動等で、子どもたちに時間がない。これ以上、家にいる時間を減らさないでほしいです。無理にいろいろな活動をするより、親子での時間を持てるようになりたいです。(40代 女性)	

2 - 4 . 指導員・ボランティアに対するアンケート調査結果について

調査対象	全国の 220 箇所の実行委員会において、任意の地域子ども教室2箇所において活動している指導員・ボランティア(対象市町村数 = 203 市町村)
対象抽出	各実行委員会において、任意の地域子ども教室を2箇所(学校施設1箇所、その他の施設1箇所)抽出し、各地域子ども教室で活動する指導員・ボランティアを、1箇所あたり5名まで抽出・実行委員会から配布(総サンプル数 2,200) なるべく指導員が2名、ボランティアが3名になるように配布を依頼
調査方法	実行委員会から指導員・ボランティアに調査票を配布、指導員・ボランティアは回答の上、子ども用・保護者用アンケートと併せて実行委員会に提出し、実行委員会から一括返送
調査時期	2005.8.22 ~ 2005.11.30
回答数	1,089 人 (回答率 49.5%)

《結果のポイント》

地域子ども教室との関わり

指導員・ボランティアとして活動している人は子どもと一緒に活動した経験や地域のイベント等への参加経験、ボランティア経験が豊富である。

指導員の6割以上は地域子ども教室で有償で活動しており、ボランティアでも3割弱は報酬を受けている。

活動頻度は月1~3回程度が最も多く、ボランティアは特別なイベント時のみ活動する人も比較的多い。

指導員は、行政担当者や実行委員会から聞いて地域子ども教室のことを知ったという人が多いが、ボランティアは地域子ども教室で活動している他の指導員やボランティアから話を聞いたという人が多い。

活動に参加するようになったきっかけは、市町村教育委員会からの推薦や指導員やボランティアとして活動している友人からの誘いが多く、前者は指導員で、後者はボランティアでより高い割合となっている。

指導員やボランティアに対する研修の必要性

研修を受講したことがあるのは全体で3割程度であるが、半数近くは研修が必要であるとしている。

具体的には、子どもの居場所づくりに関する概論や子どもへの接し方や叱り方などは活動参加前に、安全対策や事故に対する応急処置などについては参加前及び定期的に行った方が良いという声が高い。

地域子ども教室の実施による子どもや地域の変化

地域子ども教室の参加前と参加後での子どもの変化については、違う学年の子と遊ぶようになった点や地域の大人の人に挨拶をしたりするようになった点、ルールや決まりを守れるようになった点等で評価されている。

また地域子ども教室に参加したことによる自身の変化は各項目で比較的高く認識されており、特に地域の子どものに対する意識や関心の高まりについては自己評価が高い。

地域の大人の变化や地域社会の変化については、自身の变化ほど強く感じられてはいないが、地域子ども教室に参加する大人が増えた点や学校と地域との連携が進んだ点などが比較的评价されている。

地域子ども教室での安全管理体制と今後の事業の進め方

安全対策として、子どもの帰宅時の安全確保が最も多く実施されており、事件や事故が発生したというケースは非常に少ない。

本事業については、子どもが異学年の子や地域の大人と交流できる点や、安心して過ごせる居場所ができる点などで高く評価されており、9割が今後も活動したいとしている。なお、報酬が減額されたりなくなったりした場合でも、8割以上が活動継続意向を示している。

今後参加する場合最も希望が高いのは土曜日の開催であり保護者や子どもの希望との相違が見られる。

今後の地域子ども教室の発展に向けては、子どものニーズをふまえた活動内容の充実が重要との指摘が多くなっている。

(1) 指導員・ボランティアの属性

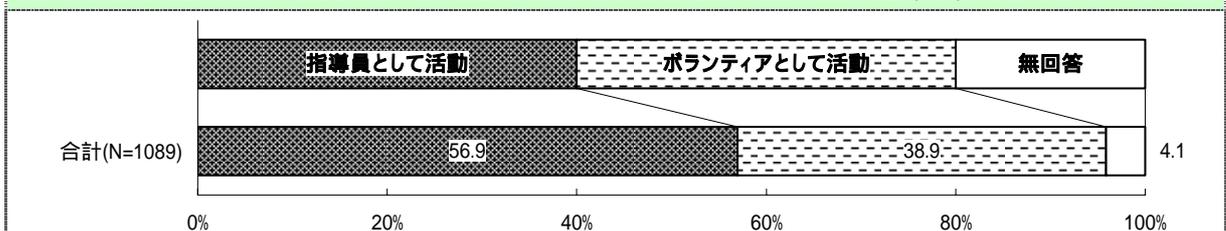
問8 あなたは、現在、地域子ども教室で、どのような立場で活動していますか。(SA)

問1 あなたの性別は。(SA)

問2 あなたの年齢は。(SA)

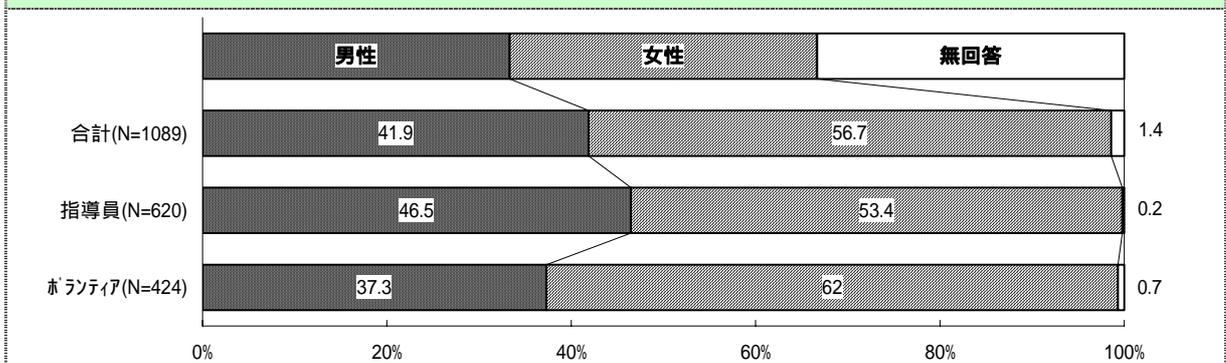
- ❖ 地域子ども教室でどのような立場で活動しているかを聞いたところ、「指導員」は56.9%、「ボランティア」は38.9%であった。
- ❖ 回答者の男女別内訳をみると、男性が41.9%、女性が56.7%と若干女性の方が多くなっている。
- ❖ 指導員/ボランティア別にみると、指導員の方がボランティアに比べて男性の比率が若干高くなっている。
- ❖ 年齢別にみると、40代が29.7%と最も多く、次いで60代が19.6%となっている。
- ❖ 指導員/ボランティア別に年齢をみると、ボランティアの方が若干高齢層にシフトしている。

問8 あなたは、現在、地域子ども教室で、どのような立場で活動していますか。(SA)

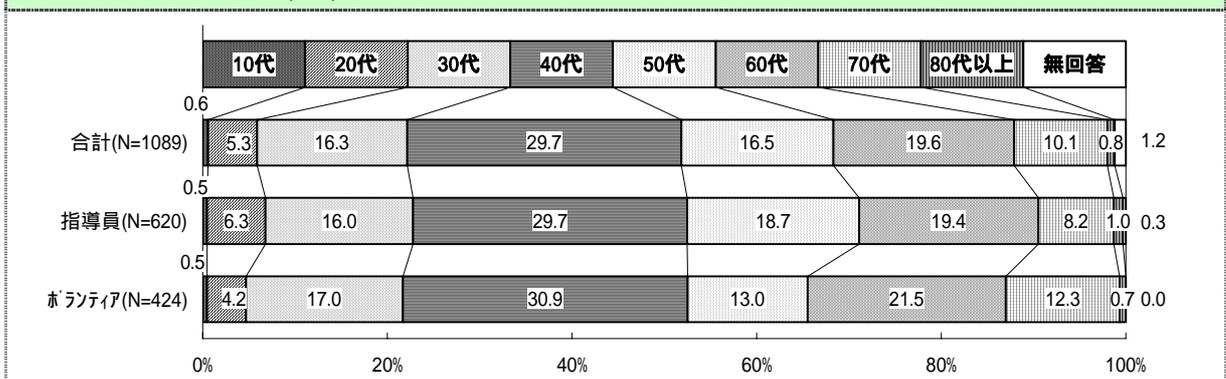


本事業では、地域の高齢者や退職教員などの地域の大人を中心に、子どもたちの安全管理や様々な活動のための指導員を配置することとしているが、その役務や報酬の有無・額などについては具体的には定義をしていない。このため、必ずしも「指導員」・「ボランティア」という呼称を用いて人員配置を行っていないところもあり、また有償であっても「ボランティア」という呼称を用いるなど、その定義・運用は各地域で様々である。このような状況を勘案し、本調査では、本設問に対する回答から、「指導員」・「ボランティア」を分類し、集計した。

問1 あなたの性別は。(SA)



問2 あなたの年齢は。(SA)

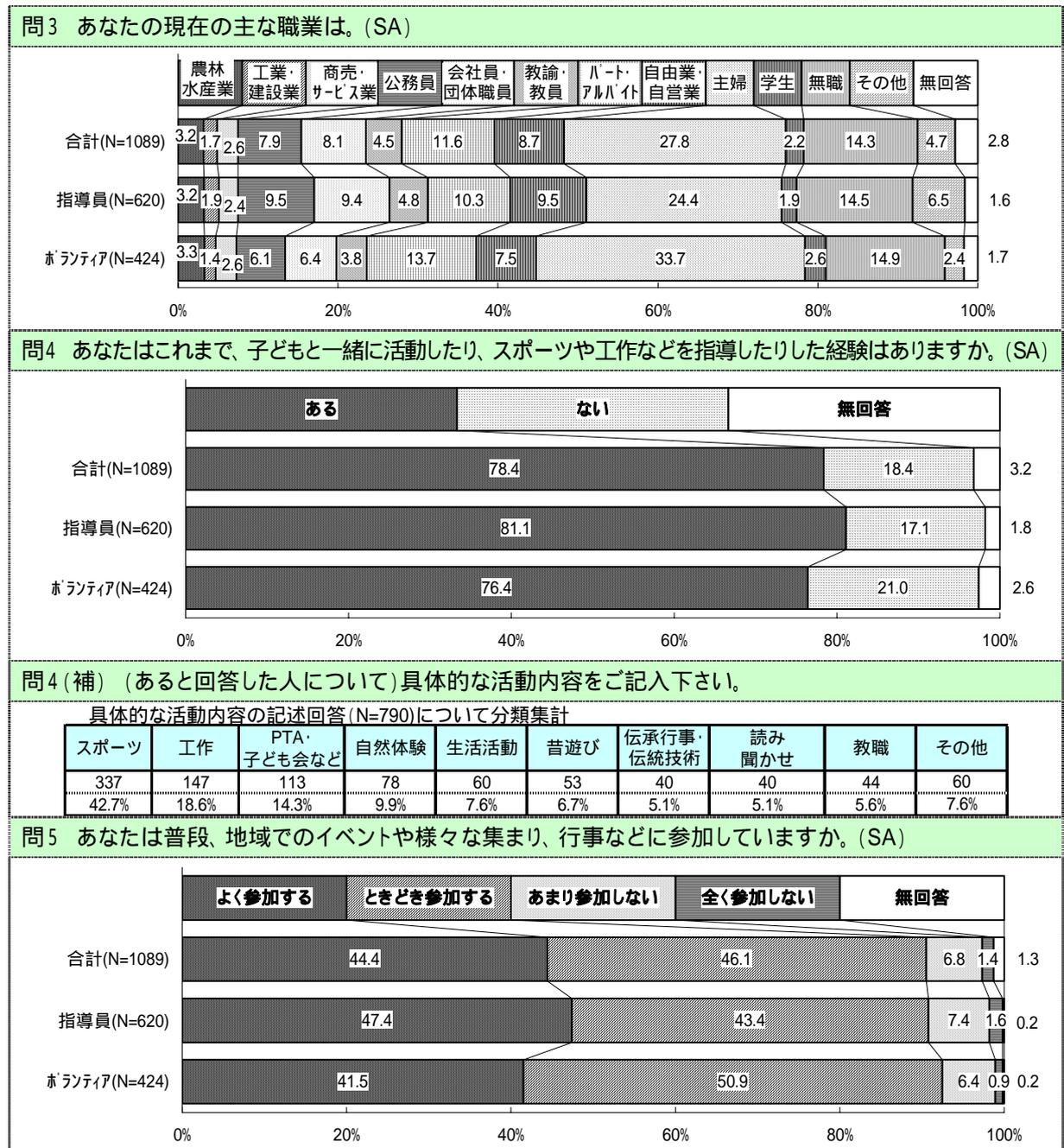


問3 あなたの現在の主な職業は。(SA)

問4 あなたはこれまで、子どもと一緒に活動したり、スポーツや工作などを指導したりした経験はありますか。(SA)

問5 あなたは普段、地域でのイベントや様々な集まり、行事などに参加していますか。(SA)

- ❖職業別にみると、全体では「主婦」が27.8%と多く、次いで「無職」が14.3%、「パート・アルバイト」が11.6%となっている。
- ❖指導員/ボランティア別に職業をみると、「主婦」や「無職」、「パート・アルバイト」の比率はボランティアの方が高く、指導員では「公務員」や「会社員・団体職員」等の比率が若干高くなっている。
- ❖子どもと一緒に活動した経験については、約8割が「ある」としており、指導員の方がボランティアよりも「ある」とする人の割合が高くなっている。
- ❖「ある」とした活動内容は、スポーツや工作、自然体験などの活動経験の他、PTA や子ども会での活動経験が多く挙げられている。
- ❖地域のイベント等への参加状況については、「よく参加する」、「ときどき参加する」を合わせると全体で約9割が「参加する」としており、指導員の方が「よく参加する」という割合が高い。



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問6 あなたは地域子ども教室に参加する以前に、何かボランティア活動に参加したことはありますか。(SA)

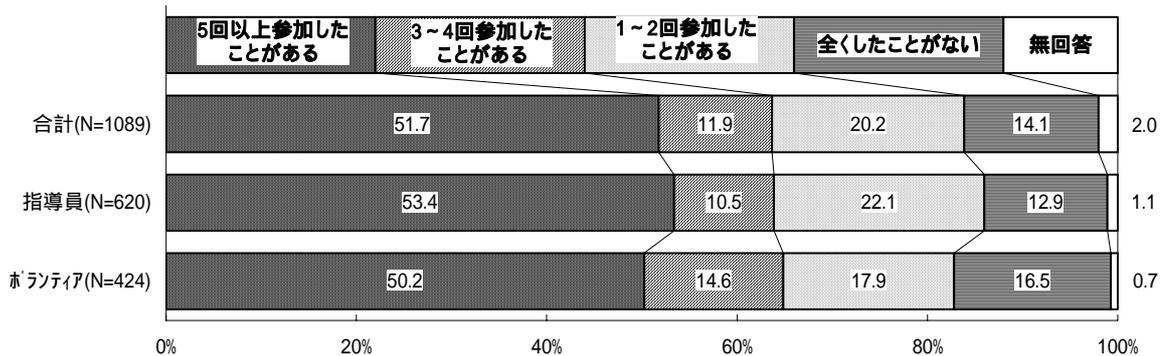
問7 あなたは、まちや地域の団体や組織で何か活動をなさっていますか。(MA)

❖ 地域子ども教室に参加する以前のボランティアの活動経験については、半数以上が「5回以上参加したことがある」としている。

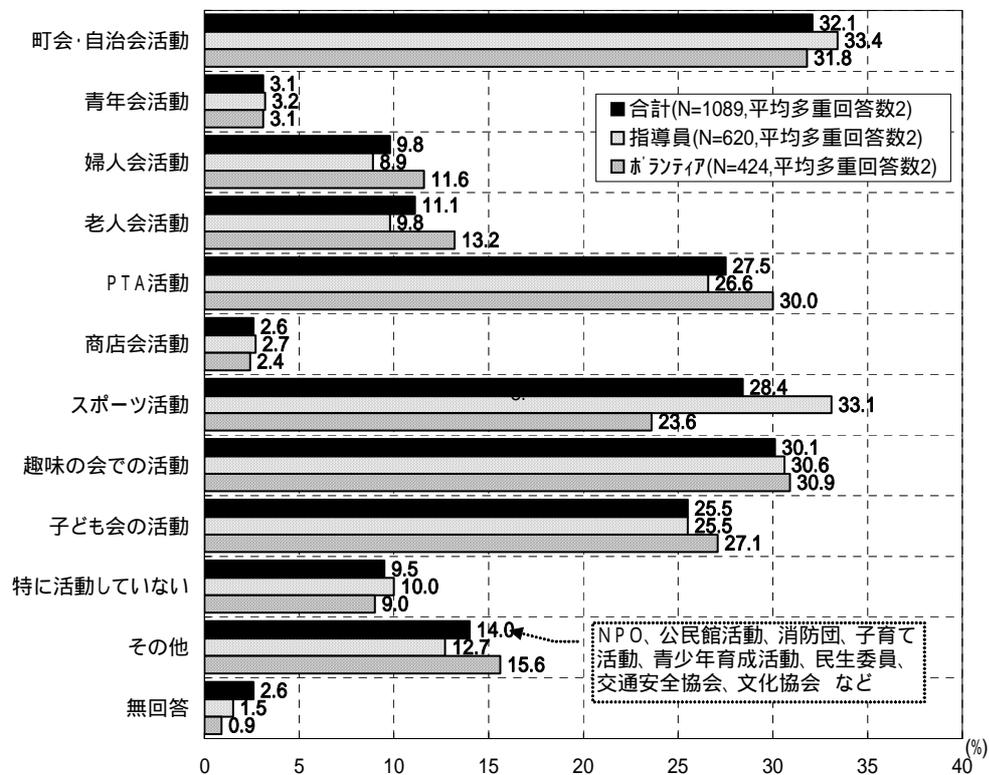
❖ まちや地域の団体や組織の活動への参画については、「町会・自治会活動」や「趣味の会での活動」に参加している人の割合が3割以上と高く、次いで「スポーツ活動」が28.4%となっている。

❖ 指導員/ボランティア別にみると、「スポーツ活動」について指導員の参加割合の方がボランティアよりも高い。一方、「婦人会活動」、「老人会活動」、「PTA活動」などでは、ボランティアの参加割合の方が高くなっている。

問6 あなたは地域子ども教室に参加する以前に、何かボランティア活動に参加したことはありますか。(SA)



問7 あなたは、まちや地域の団体や組織で何か活動をなさっていますか。(MA)



(2) 地域子ども教室との関わり

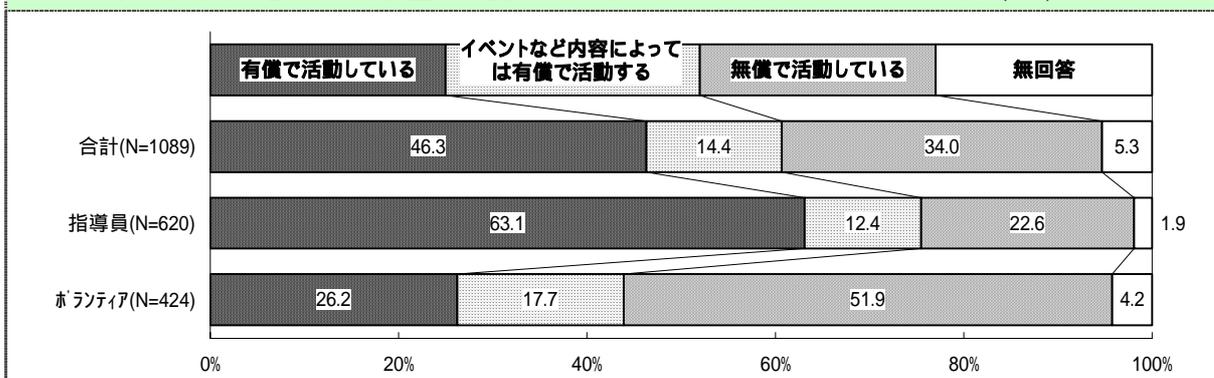
問9 あなたが現在、地域子ども教室で活動されるとき、報酬等は支給されていますか。(SA)

問10 問9で「1.有償で活動している」「2.内容によっては有償で活動する」とお答えの方にお尋ねします。支給されているものすべてに をつけて下さい。(MA)

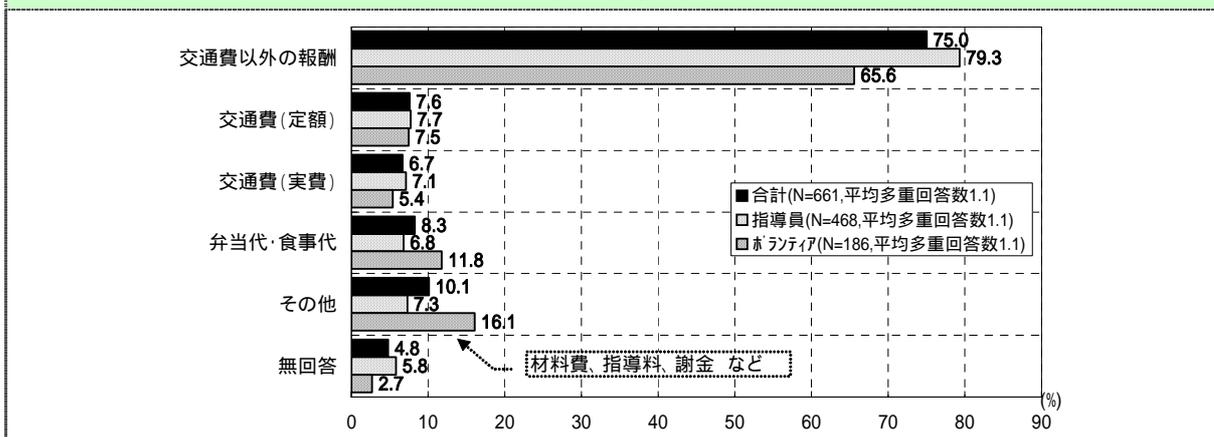
問11 あなたは、地域子ども教室にどのくらいの頻度で活動していますか。(SA)

- ❖ 地域子ども教室での活動について、全体の 46.3%が「有償で活動している」としており、「イベントなど内容によっては有償で活動する」と合わせると約 6 割が有償で活動していることが分かる。
- ❖ 指導員/ボランティア別では、指導員では 63.1%が「有償で活動している」としている。ボランティアは「無償で活動している」割合が半数以上だが、26.2%は「有償で活動している」としている。
- ❖ 支給されている報酬の種類は、「交通費以外の報酬」が 7 割以上と最も多くから挙げられている。
- ❖ 活動頻度については、「ひと月に 1~3 日程度」が 43.7%と最も多く、次いで「一週間に 1 日程度」、「特別なイベントのみ活動」と続いている。
- ❖ 指導員/ボランティア別にみると、指導員は「ひと月に 1~3 日程度」という割合が半数近くとなっており、ボランティアは「特別なイベントのみ活動」している人が 23.6%と高い割合を占めている。

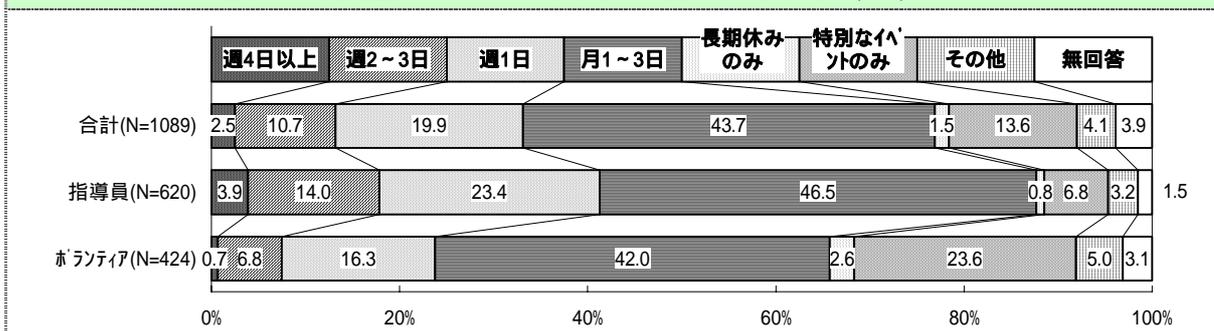
問9 あなたが現在、地域子ども教室で活動されるとき、報酬等は支給されていますか。(SA)



問10 支給されているものすべてに をつけて下さい。(MA)



問11 あなたは、地域子ども教室にどのくらいの頻度で活動していますか。(SA)



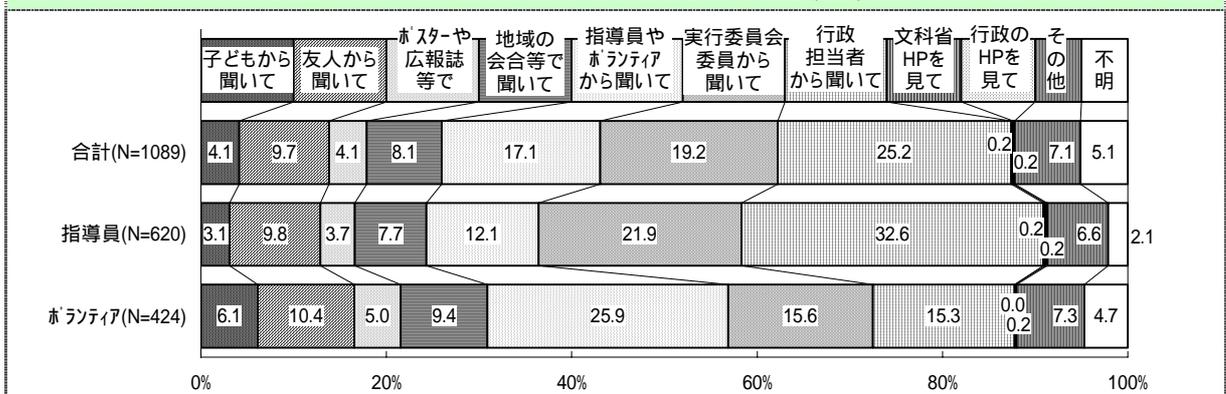
第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問12 あなたが、地域子ども教室を初めて知ったきっかけは何ですか。(SA)

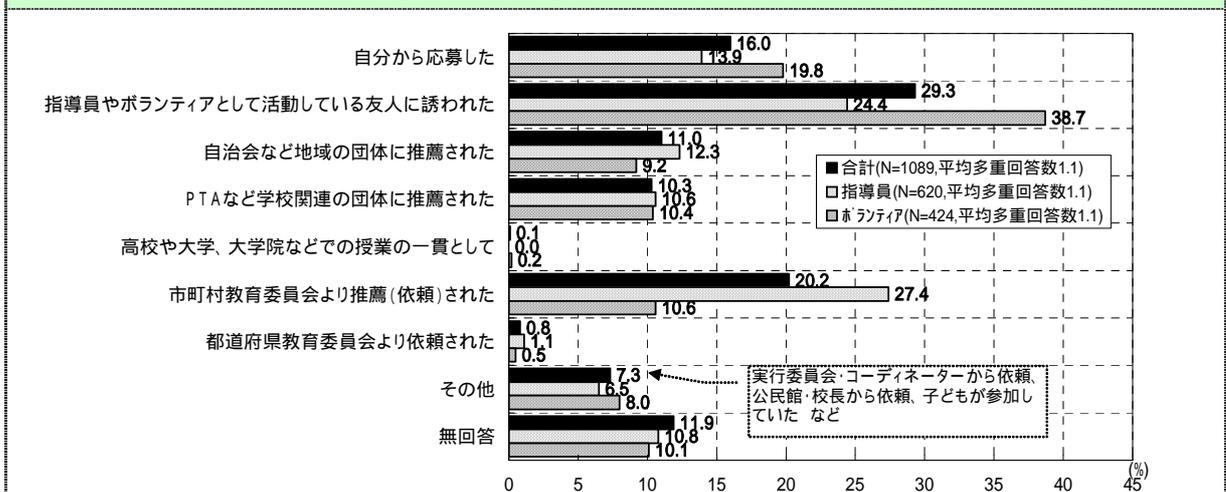
問13 では、あなたが地域子ども教室で指導員又はボランティアとして活動するようになったきっかけは何ですか。(MA, 最もあてはまるものについてSA)

- ◆地域子ども教室を知ったきっかけについては、「行政担当者から聞いて」が25.2%と最も多く、次いで「実行委員会から聞いて」、「指導員やボランティアから聞いて」などが続いている。
- ◆指導員/ボランティア別にみると、指導員は「行政担当者から聞いて」や「実行委員会から聞いて」などが高い一方、ボランティアでは「指導員やボランティアから聞いて」の割合が高くなっている。
- ◆活動のきっかけについては、「指導員やボランティアとして活動している友人に誘われた」や「市町村教育委員会より推薦(依頼)された」が多くなっており、前者についてはボランティアが、後者については指導員がより高い割合となっている。また、最も大きなきっかけとして「自分から応募した」という人も、指導員で12.9%、ボランティアで17.5%となっている。

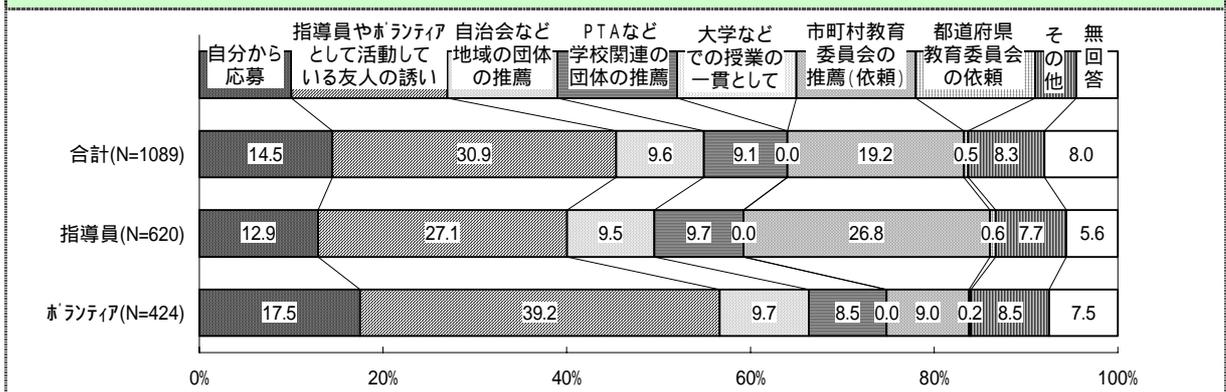
問12 あなたが、地域子ども教室を初めて知ったきっかけは何ですか。(SA)



問13 あなたが地域子ども教室で指導員又はボランティアとして活動するようになったきっかけは何ですか。(MA)



問13(S) 地域子ども教室で活動するようになったきっかけのうち最もあてはまるものは何ですか。(SA)



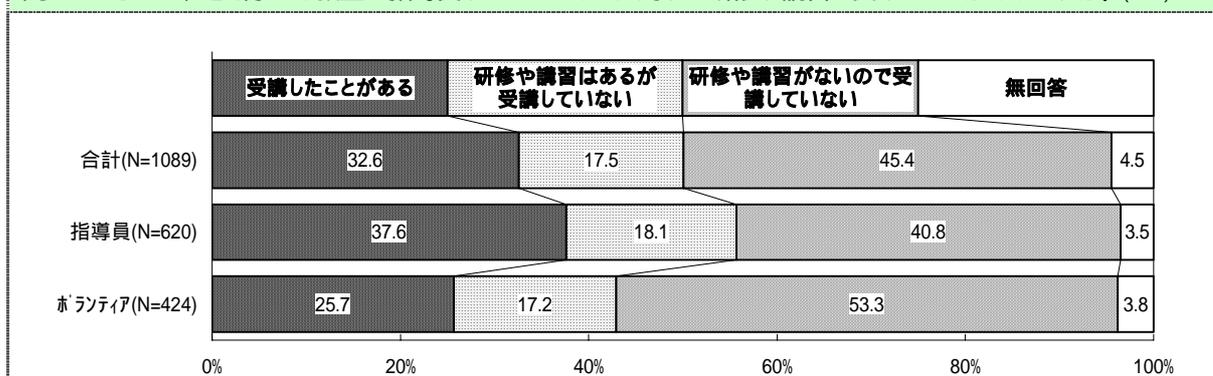
(3) 地域子ども教室で活動する指導員やボランティアへの研修

問14 あなたは、地域子ども教室の指導員やボランティアに対する研修や講習を受けたことがありますか。(SA)

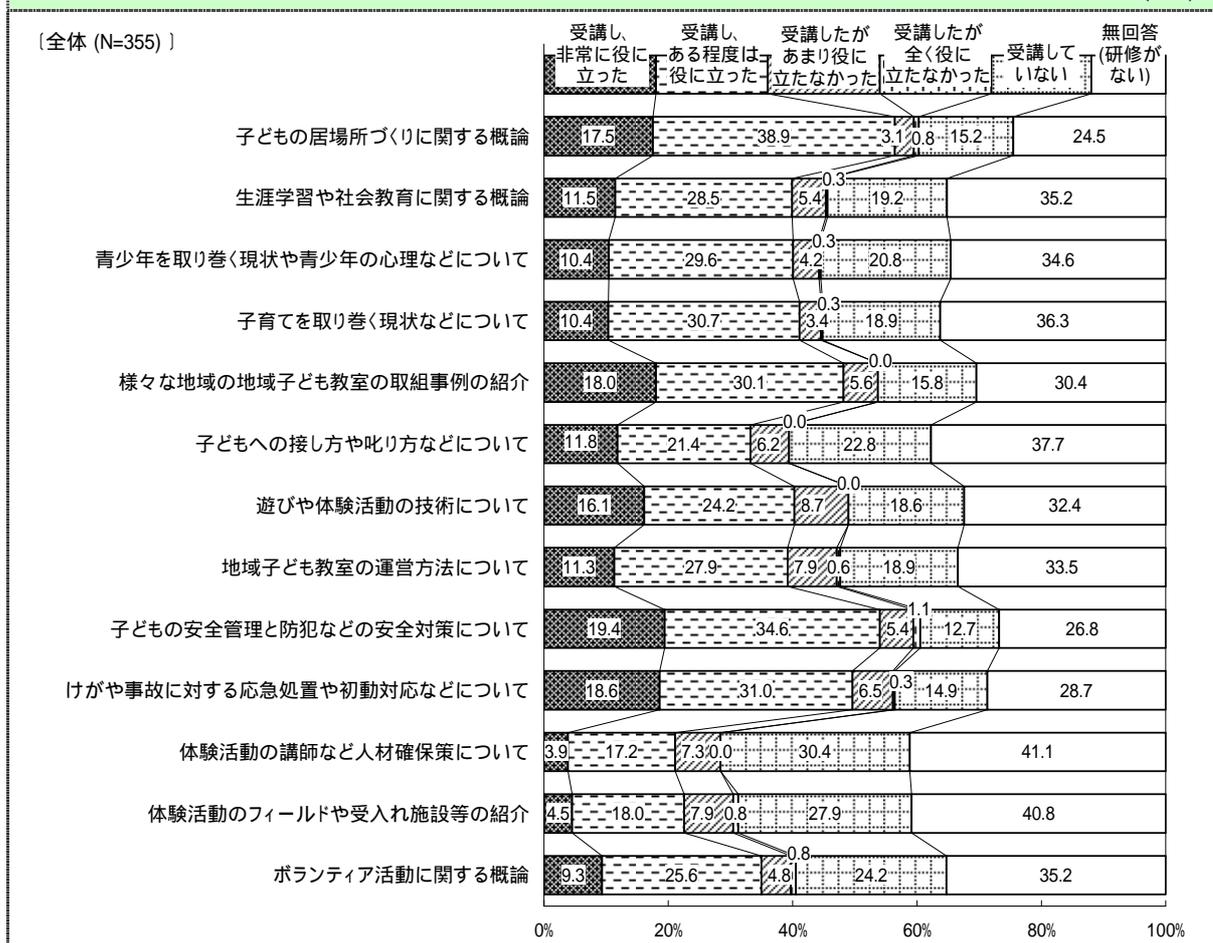
問15 問14で「1.受講したことがある」とお答えの方にお尋ねします。あなたが受けた研修の内容はどのようなものですか。またそれはどの程度役に立ちましたか。(各項目ごとにSA)

- ❖ 指導員やボランティアに対する研修の受講については、32.6%が「受講したことがある」としているが、45.4%は「研修や講習がないので受講していない」としている。指導員/ボランティア別にみると、指導員の方が「受講したことがある」人の割合が若干高い。
- ❖ 受講した研修について内容についてみると、「子どもの居場所づくりに関する概論」や「様々な地域の地域子ども教室の取組事例の紹介」、「子どもの安全管理と防犯などの安全対策について」、「けがや事故に対する応急措置や初動対応などについて」等に関する研修が、受講し役に立ったとの評価が高い。

問14 あなたは、地域子ども教室の指導員やボランティアに対する研修や講習を受けたことがありますか。(SA)



問15 あなたが受けた研修の内容はどのようなものですか。またそれはどの程度役に立ちましたか。(SA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

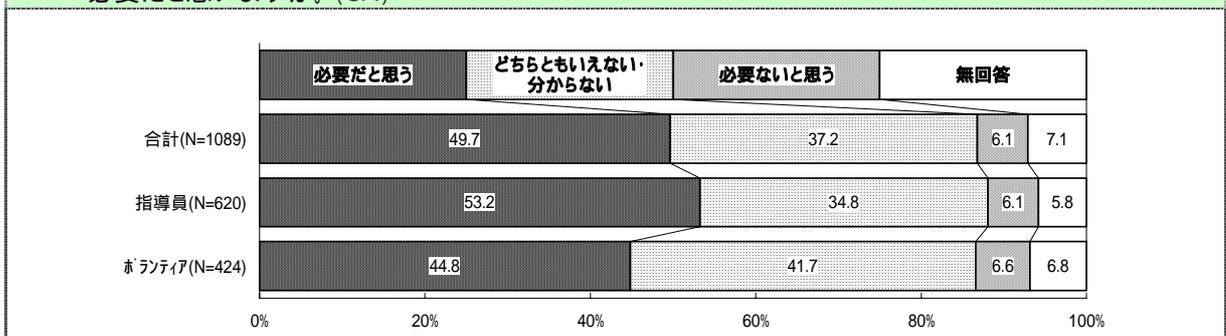
問16 あなたは、地域の大人が地域子ども教室でスタッフとして活動する場合に、参加者に対する研修は必要だと思いますか。(SA)

問17 問16で「1.必要だと思う」とお答えの方にお尋ねします。では、どのような内容の研修がどのような時期に必要だと思いますか。問15の選択肢から、必要だと思う番号をすべてご記入下さい。

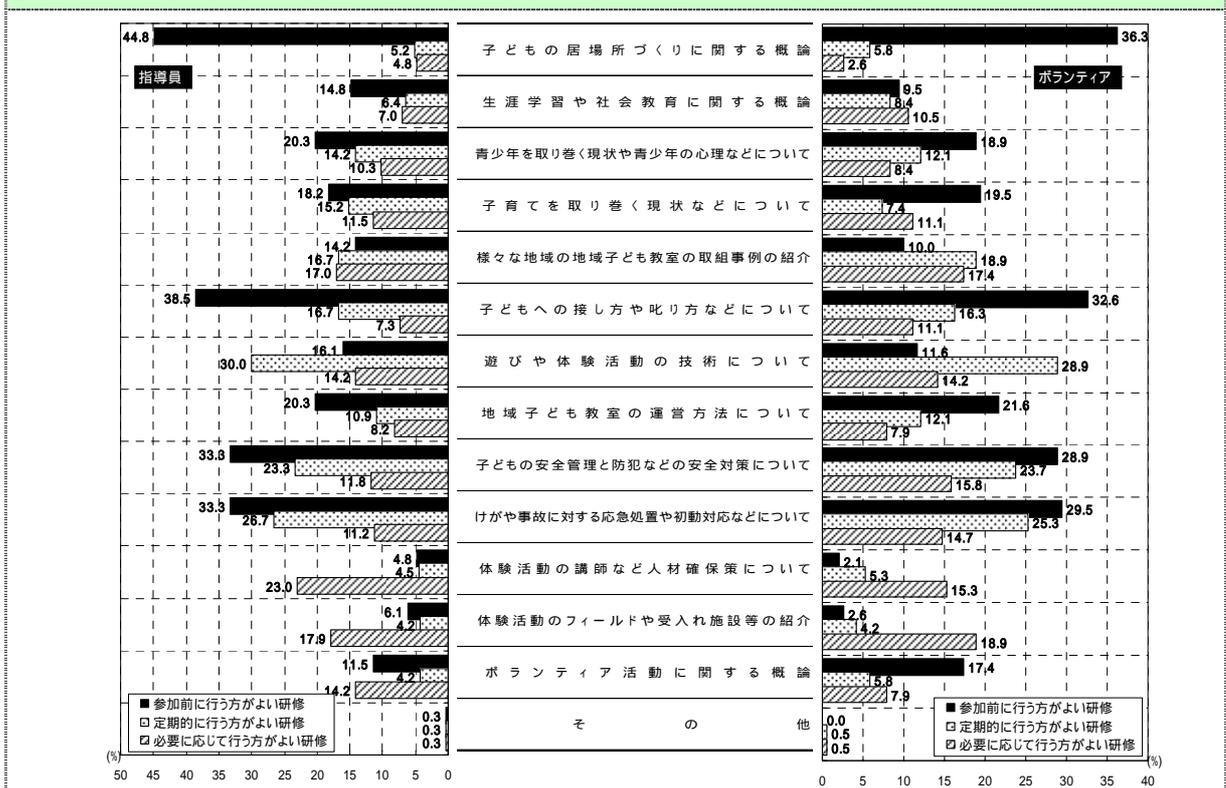
問18 問15の選択肢以外に必要な研修内容や、研修の方法についてのご意見など、ご自由にご記入下さい。

- ❖ 研修の必要性については、全体の約半数が「必要だと思う」としており、特に指導員の方が必要性を感じている人の割合が高くなっている。
- ❖ 必要な研修とその時期については、指導員・ボランティアともに「子どもの居場所づくりに関する概論」や「子どもへの接し方や叱り方などについて」の研修を参加前に行うべきという声が高く、また「子どもの安全管理と防犯などの安全対策について」や「けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて」の研修は参加前とともに定期的に行う方が良いという指摘が高くなっている。
- ❖ また、問18で選択肢以外に必要な研修や研修方法についての意見を聞いたところ、「情報交換会・活動見学会」「指導員のカウンセリング」「保護者への対応」「障害児への対応」「運営資金づくり」などの研修の必要性が指摘されている。

問16 あなたは、地域の大人が地域子ども教室でスタッフとして活動する場合に、参加者に対する研修は必要だと思いますか。(SA)



問17 どのような内容の研修がどのような時期に必要だと思いますか。(MA)



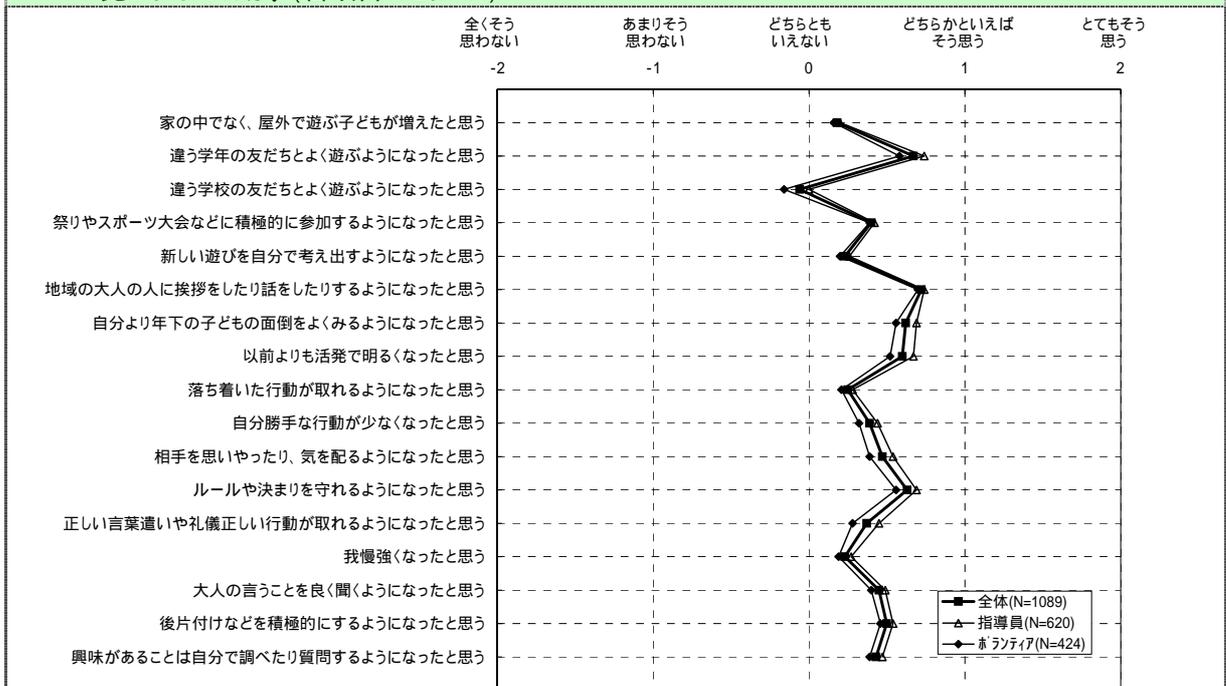
(4) 地域子ども教室の実施による子どもや地域の変化

問19 地域子ども教室の実施前と実施後を比較して、参加している子どもたちの様子や態度に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)

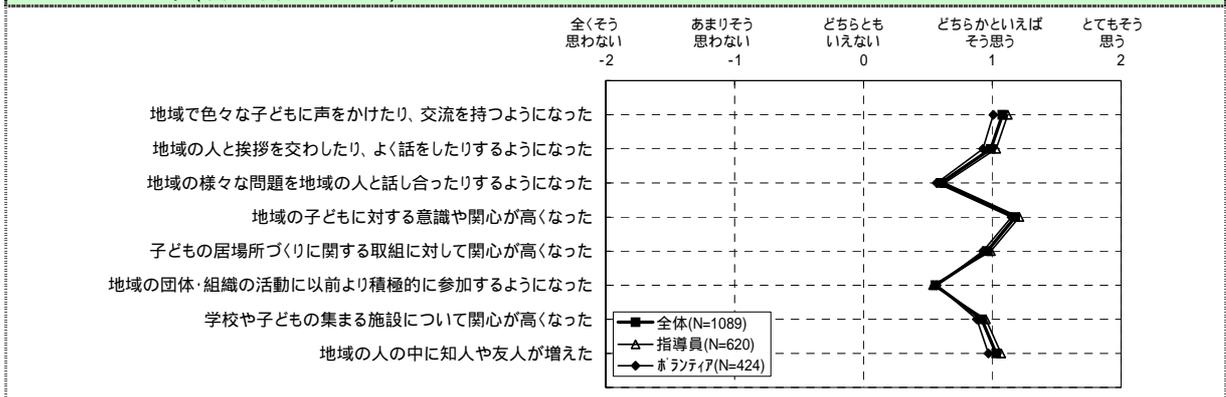
問20 地域子ども教室に参加したことによって、あなたご自身の気持ちや暮らし方などに何か変化はありましたか。(各項目ごとにSA)

- ❖ 地域子ども教室の実施により子どもに見られた変化としては、「違う学年の友だちとよく遊ぶようになった」や「地域の大人のの人に挨拶をしたり話をしたりするようになった」、「自分より年下の子どもの面倒をよくみるようになった」、「ルールや決まりを守れるようになった」などが比較的高く評価されている。
- ❖ 指導員/ボランティア別に見ると、全体的に指導員の方が若干評価が高い。
- ❖ また、地域子ども教室に参加したことによる自身の変化については、全体的にプラス(変化したと感じた)側にシフトしており、特に「地域の子どもに対する意識や関心が高くなった」や「地域の子どもに声をかけたり、交流をもつようになった」、「地域の人の中に知人や友人が増えた」などが自己の変化として比較的高く認識されている。
- ❖ 指導員/ボランティア別にはあまり大きな差はみられない。

問19 地域子ども教室の実施前と実施後を比較して、参加している子どもたちの様子や態度に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)



問20 地域子ども教室に参加したことによって、あなたご自身の気持ちや暮らし方などに何か変化はありましたか。(各項目ごとにSA)



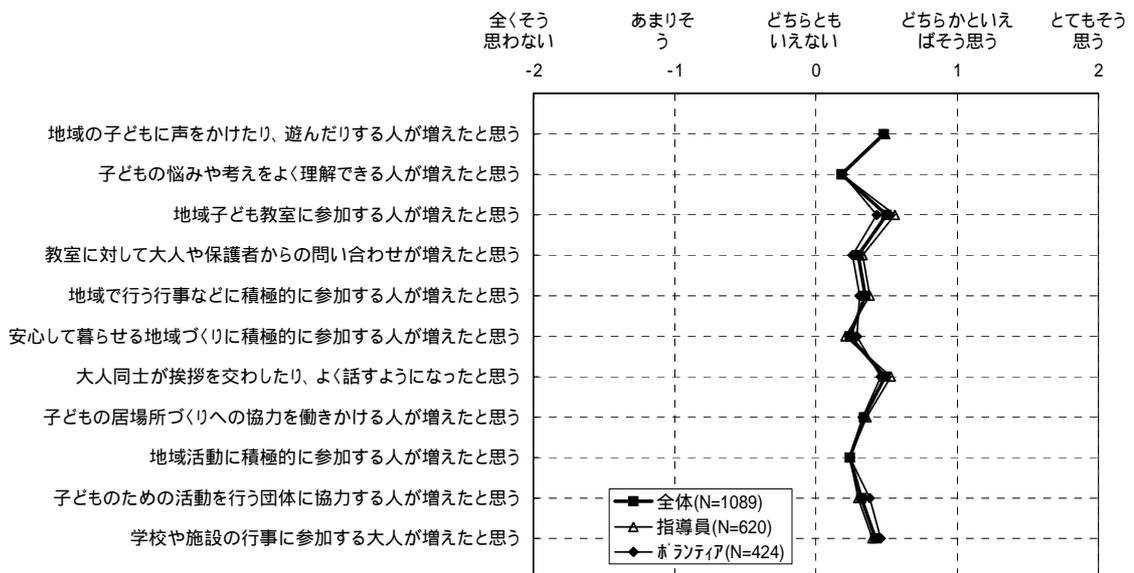
第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問21 地域子ども教室の実施前と実施後とを比較して、地域の大人や保護者に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)

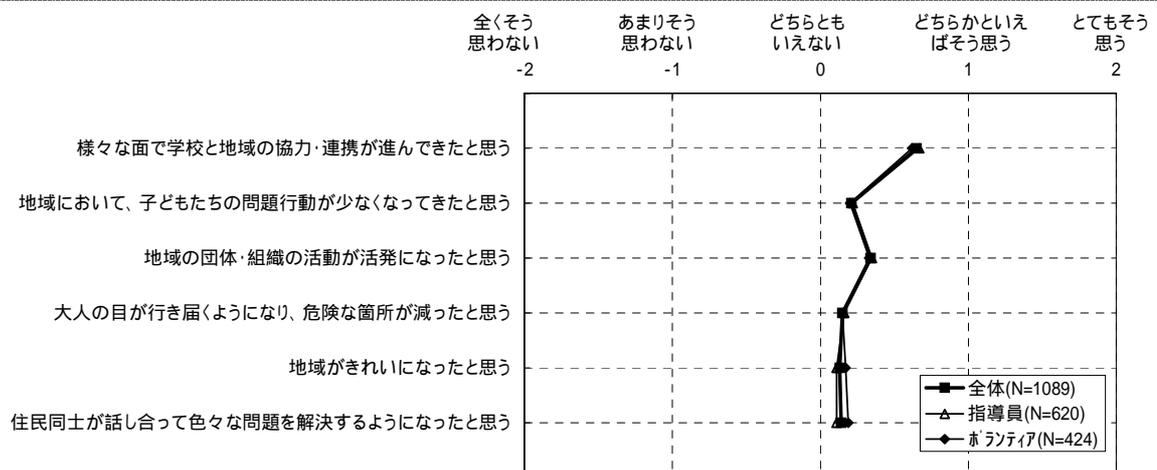
問22 地域子ども教室を実施したことによって、地域社会に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)

- ❖ 地域子ども教室の実施により地域の大人に見られた変化についての評価は、全体的に中間値(どちらともいえない)からプラス側付近に集中しているが、比較的变化が感じられている項目としては、「地域子ども教室に参加する人が増えたと思う」や「大人同士が挨拶を交わしたり、よく話すようになった」、「地域の子どもの声をかけたり、遊んだりする人が増えた」などが挙げられる。
- ❖ 指導員/ボランティア別にはあまり大きな差はみられない。
- ❖ 地域子ども教室の実施を通じた地域社会の変化としては、「様々な面で学校と地域の協力・連携が進んできた」点が最も高評価となっており、「地域の団体・組織の活動が活発になった」という点についても比較的变化を感じている声が多い。しかし、全体的に中間値(どちらともいえない)付近に集中しており、本事業の実施によって地域社会がどう変わるかという点まではあまり強く意識されていないことが分かる。なお、指導員/ボランティア別にはあまり大きな差はみられない。

問21 地域子ども教室の実施前と実施後とを比較して、地域の大人や保護者に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)



問22 地域子ども教室を実施したことによって、地域社会に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)



問23 その他、地域子ども教室を実施したことによる変化として感じたことがあればご回答下さい。

- ❖ 地域子ども教室を実施したことによる変化を自由に挙げてもらったところ、163名から回答が得られた。
- ❖ 中には子どもや地域の変化はすぐには現れないという意見も見られた(15件)が、最も多くから挙げられたのは、この取組を通じて子ども同士や子どもと大人、大人同士など地域内での様々な世代の交流が促進されたという変化であった(55件)。
- ❖ また、子ども自身が礼儀正しくなったりルールを守れるようになった、挨拶ができるようになったなど、問19でも評価の高かった点について具体的にどのような変化があったかという回答も比較的多くみられた(39件)。

表2-7 地域子ども教室の実施による変化(FA)《主な意見の抜粋》

子ども同士や子どもと大人など、地域内での様々な世代の交流が増えた [55件]	
いろいろな所で子どもたちから声をかけられ、またこちらからも悪い遊びなどしている子どもがいれば注意できるようになったと思う。(60代 女性)	
子どもの保護者間での交流及び意見交換が活発になってきたので、学校・保護者と地域住民との距離が近づき、互いに尊重し合うようになってきた。(30代 男性)	
地域子ども教室の会場となった地域の施設(公民館など)を子どもたちが“気軽に利用できる場所”として認識してくれたことが、子どもたち、地域にとってプラスとなった。(30代 男性)	
今まで出入りの少なかった子どもたちや若いお母さんたちに、公民館を身近に感じてもらえるようになったと思う。地域子ども教室のある日は、館内は老若男女がふれ合い、活気がある。(50代 女性)	
子ども自身が変わった(礼儀正しくなった、積極的になった、挨拶ができるようになったなど) [39件]	
国際交流の一環として初めて取り組んだが、当初は親が連れて来るようなものだった。少しでも興味・理解のある子どもたちがいて、今では真剣に勉強するようになった。中学生になったら姉妹校である韓国の中学校に行って、今まで勉強したことを役立てたいと言ってくれた。(30代 女性)	
物事に取り組む姿勢が前向きになった。落ちついて話を聞くようになった。(60代 女性)	
子どもたちが地域の歴史や文化、行事等に関心を持つようになり、親も共に関心を持つようになったと思う。(60代 女性)	
指導者の意識(自分自身を含めて)が変わった [12件]	
よりよい効果の出るような実力をつけようと、指導する者としての事前準備、指導案、流れなどに努力するようになった。(50代 女性)	
指導員の意識が高まり、子どもと接することの喜びを感じているように思われる。準備や子どもとの対応、時間の使い方など、慣れるにしたがって、子どもの良さや充実感を感じるようになった。(40代 男性)	
指導者間での結束が強くなり、活動をよりよくするためにどうしたらよいか、真剣に考え意見がたくさん出てくるようになった。また、指導者の年齢が若いせいか、子どもたちの方から寄ってきたり、話しかけてきたりと距離が毎回近付いている気がする。(20代 女性)	

第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

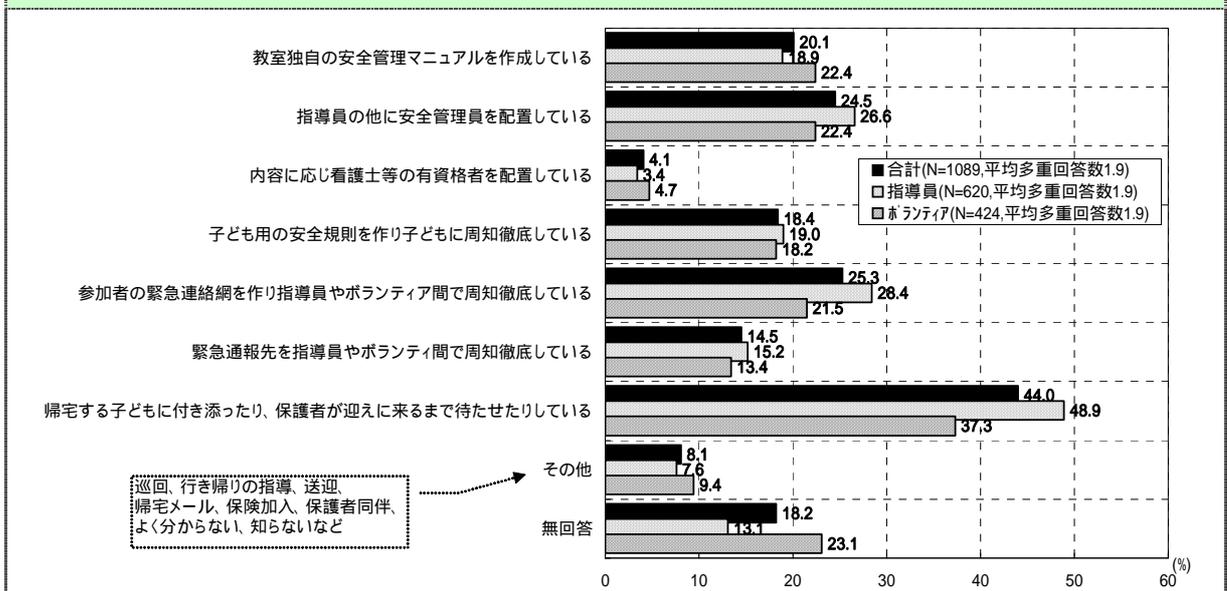
(5) 地域子ども教室での安全管理体制

問24 あなたが活動している地域子ども教室では、安全管理体制として、どのようなことを行っていますか。(MA)

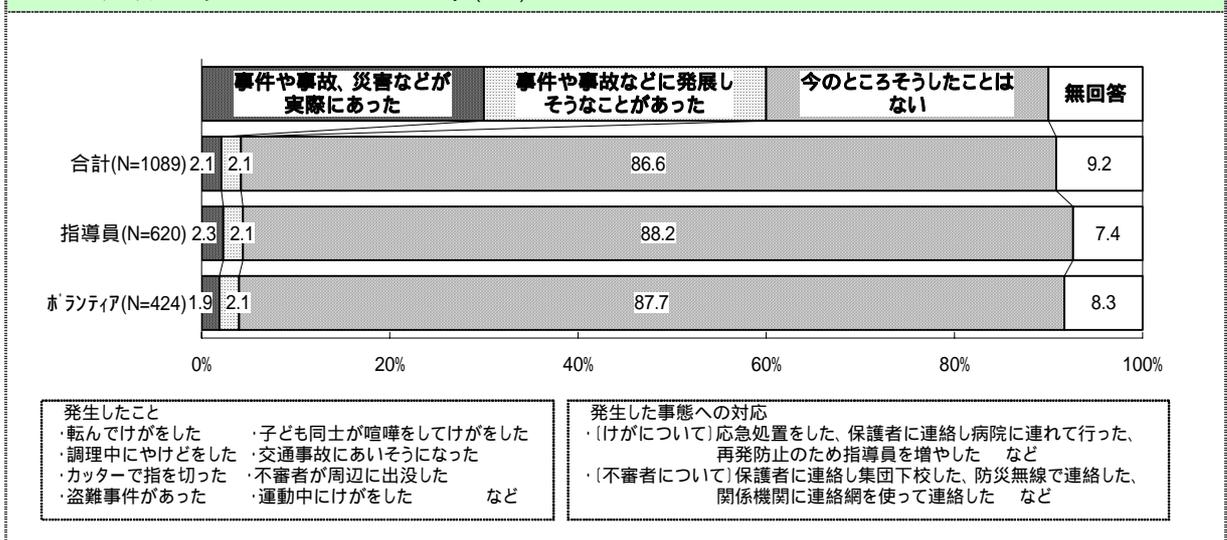
問25 あなたが活動している地域子ども教室で、これまで何か事故や事件、災害、あるいはそうした事態に発展しそうなことがありましたか。(SA)

- ❖ 地域子ども教室で実施されている安全管理対策についてみると、「帰宅する子どもに付き添ったり保護者が迎えにくるまで待たせたりしている」が最も多く、次いで「参加者の緊急連絡網を作り指導員やボランティア間で周知徹底している」、「指導員のほかに安全管理員を配置している」等が多く取り組まれている。一方、その他の中には、「ボランティアには知らされていない」、「よく分からない」など、スタッフ間での安全管理の周知が行われていない回答も見られた。
- ❖ 地域子ども教室での事件・事故又はそれに発展しそうな事態の発生状況についてみると、「事件や事故、災害などがあった」あるいは「事件や事故などに発展しそうなことがあった」としたのはそれぞれ2%程度であり、86.6%は「今のところそうした事態は発生していない」としている。
- ❖ 発生した事態の具体的な内容をみると、活動中のけがや骨折、捻挫などがほとんどであり、保護者に連絡したり病院に連れて行ったりといった対応をしている。

問24 あなたが活動している地域子ども教室では、安全管理体制として、どのようなことを行っていますか。(MA)



問25 あなたが活動している地域子ども教室で、これまで何か事故や事件、災害、あるいはそうした事態に発展しそうなことがありましたか。(SA)



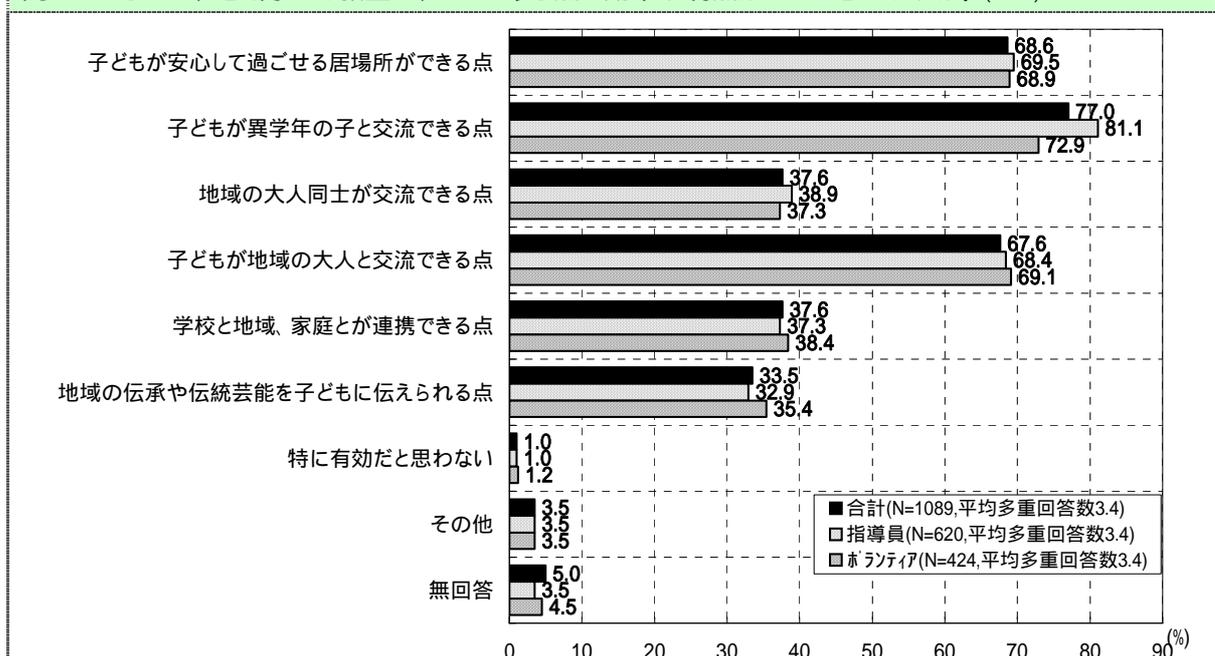
(6) 地域子ども教室の事業効果や今後の進め方

問26 あなたは、地域子ども教室は、どのような点で効果や利点があると思いますか。(MA)

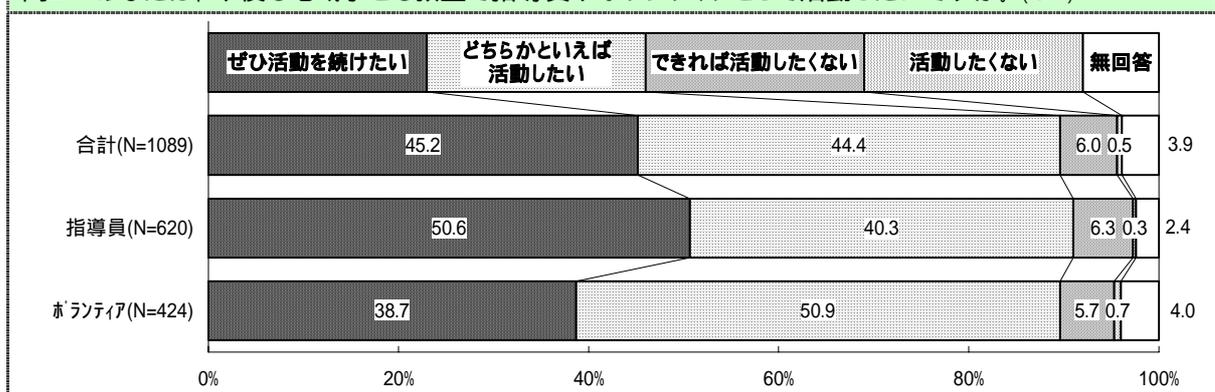
問27 あなたは、今後も地域子ども教室で指導員やボランティアとして活動したいですか。(SA)

- ❖ 地域子ども教室の効果や利点について、指導員やボランティアがどう評価しているかをみると、「子どもが異学年の子と交流できる点」が最も効果・利点としての評価が高く、次いで「子どもが安心して過ごせる居場所ができる点」や「子どもが地域の大人と交流できる点」などが続いている。
- ❖ 指導員/ボランティア別にみると、上位2項目については指導員の方が若干評価が高くなっている。
- ❖ 今後の活動意向については、「ぜひ活動を続けたい」という人が45.2%、「どちらかといえば活動したい」が44.4%で、全体の約9割が活動継続意向を示している。
- ❖ 指導員/ボランティア別にみると、指導員の方が「ぜひ活動を続けたい」という割合が高く、より積極的な活動継続意向を示していることがわかる。

問26 あなたは、地域子ども教室は、どのような点で効果や利点があると思いますか。(MA)



問27 あなたは、今後も地域子ども教室で指導員やボランティアとして活動したいですか。(SA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

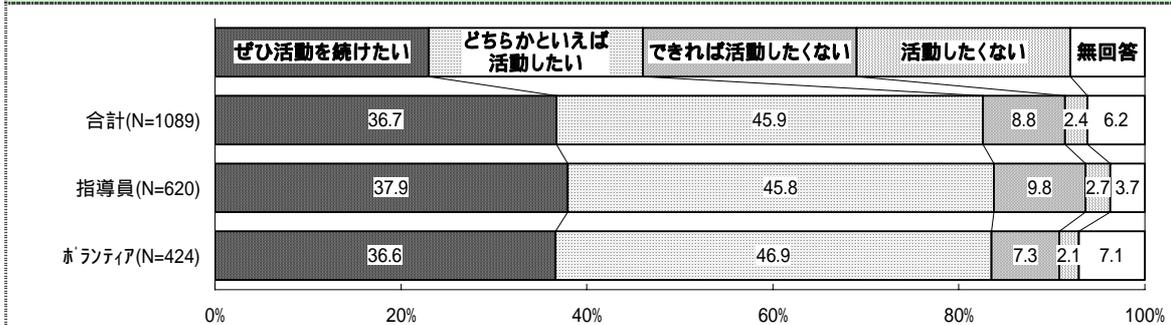
問28 では、今後、今の報酬等が減額されたりなくなったりした場合は、指導員やボランティアとして活動したいですか。(SA)

問29 今後、地域子ども教室をいつ実施したいですか。(MA)

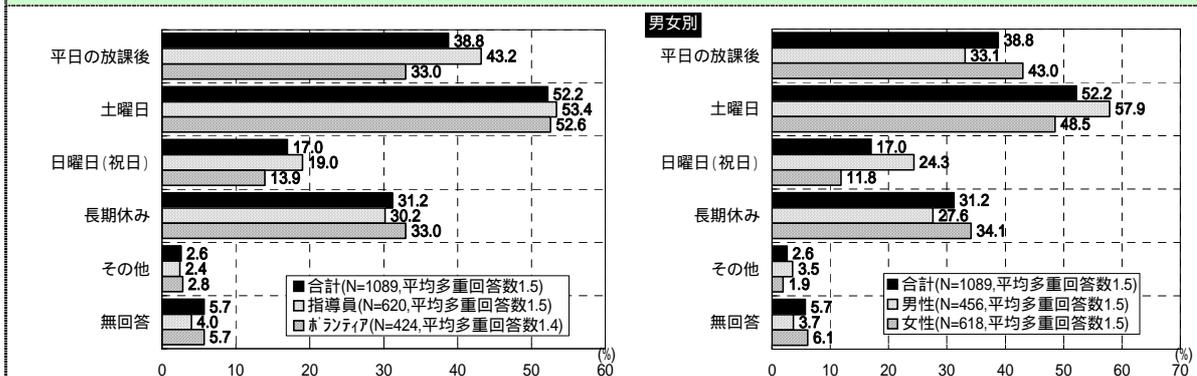
問30 今後、地域子ども教室をどこで実施したいですか。(MA)

- ❖ 報酬が減額されたりした場合についての意向をみると、「ぜひ活動を続けたい」という割合が若干減少するものの、全体の8割以上が活動継続意向を示している。
- ❖ 指導員/ボランティア別にみると、指導員の方が問27に比べて「ぜひ活動を続けたい」という割合が大きく減少しており、「できれば活動したくない」が9.8%と大きくなっている。
- ❖ 今後の地域子ども教室の活動時期についての希望をみると、指導員・ボランティアともに「土曜日」の活動が最も望まれており、次いで「平日の放課後」や「長期休み」等が高い割合となっている。
- ❖ 「平日の放課後」については指導員が、「長期休み」についてはボランティアが若干高い。
- ❖ 男女別にみると、「土曜日」、「日曜日(祝日)」は男性の方が女性より希望しており、一方の女性は「平日の放課後」や「長期休み」での希望が男性よりも高くなっている。
- ❖ 今後の地域子ども教室の活動場所については、指導員・ボランティアともに「小学校や中学校などの学校施設」や「児童館や公民館・図書館・コミュニティセンターなど」が希望されている。

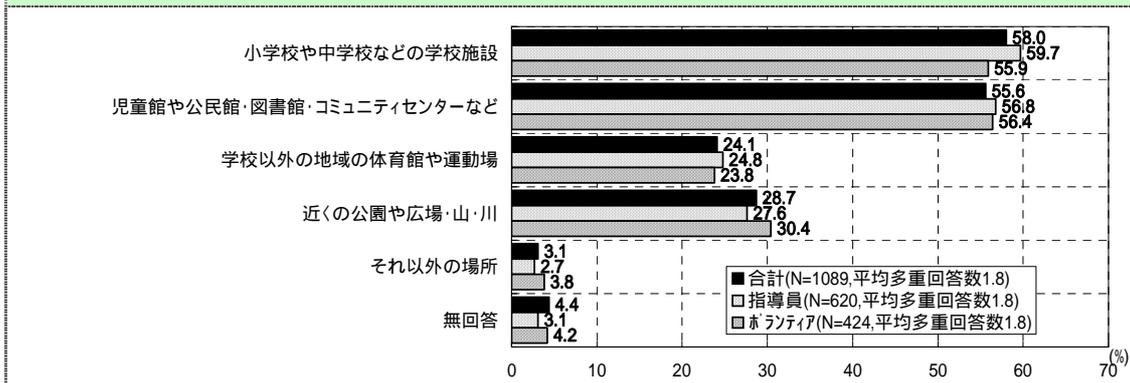
問28 今後、今の報酬等が減額されたりなくなったりした場合は、指導員やボランティアとして活動したいですか。(SA)



問29 今後、地域子ども教室をいつ実施したいですか。(MA)



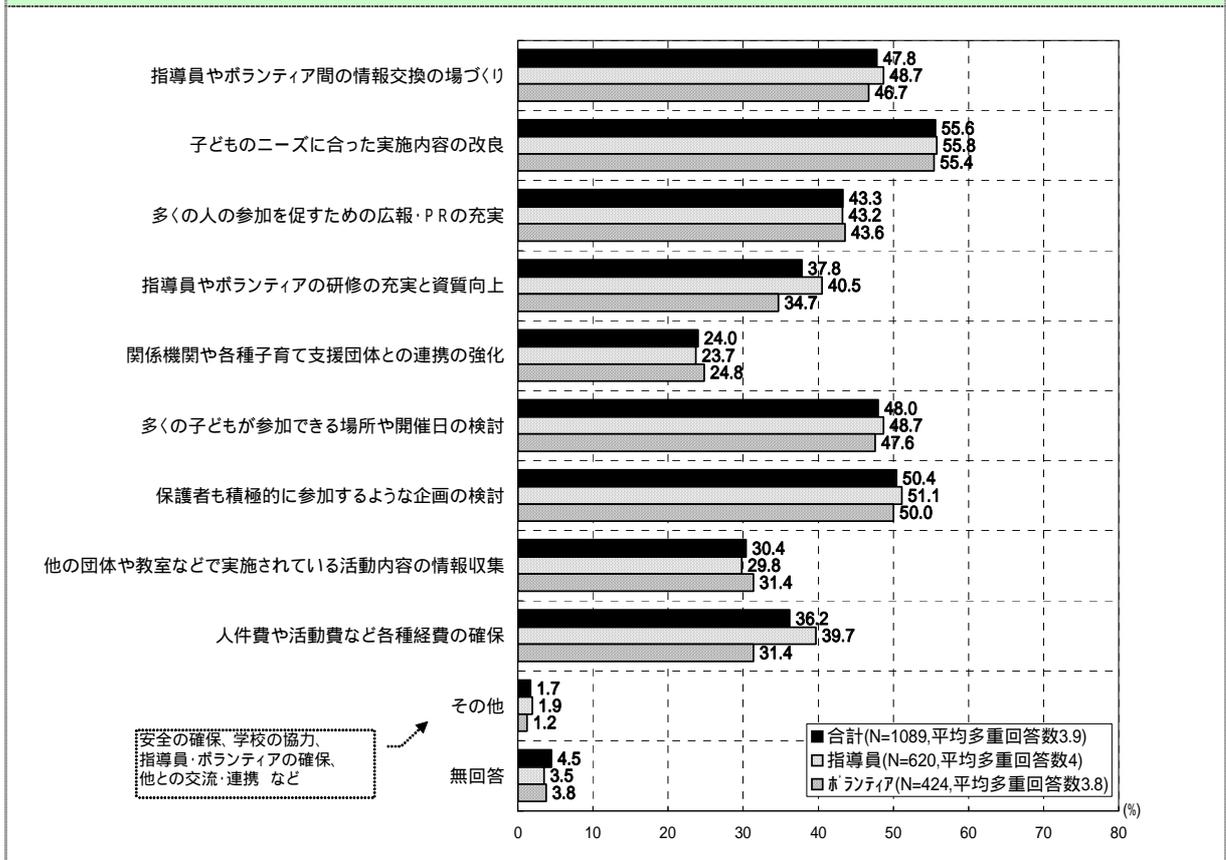
問30 今後、地域子ども教室をどこで実施したいですか。(MA)



問31 今後、地域子ども教室の取組をより発展させていくためにはどのようなことが重要だと思いますか。(MA)

- ❖ 地域子ども教室の取組をより発展させていくために重要と考える点についてみると、「子どものニーズに合った実施内容の改良」が55.6%と最も多くから指摘されており、次いで「保護者も積極的に参加するような企画の検討」が50.4%と、子どものニーズをふまえた活動内容の充実について重視されていることが分かる。
- ❖ 上記以外では、「多くの子どもが参加できる場所や開催日の検討」や「指導員やボランティア間の情報交換の場づくり」や「指導員やボランティア間の情報交換の場づくり」、「多くの人の参加を促すための広報・PRの充実」などが比較的高い割合となっている。

問31 今後、地域子ども教室の取組をより発展させていくためにはどのようなことが重要だと思いますか。(MA)



問32 その他、お住まいの地域で日頃感じていることや、地域全体で子どもを育てることなどについてのご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。

- ❖ 地域全体で子どもを育てることなどについて自由な意見を聞いたところ、全体で272名の指導員・ボランティアから回答が得られた。
- ❖ その中で多かった回答は、地域の大人が子どもへ関心を持つことや指導員・ボランティアに協力してくれる人材の確保への意見であった。また、地域子ども教室へ積極的に参加しない保護者の意識に対する意見も多かった。
- ❖ その他、少子化の中で子ども同士の交流の場として地域子ども教室の取組に期待を寄せている一方、活動の際の子どもの安全確保や参加しない子どもへの呼びかけなどへの意見が挙げられている。

表2-8 地域全体で子どもを育てることについての意見（FA）《抜粋》

大人の関心を持たせる 【26件】	
	地域のすべての大人が子育てへの関心を持つように、そのためには意識を高めるための指導を、形だけでなくじっくりと取り組んで欲しい。(40代 女性)
	子育ては親・学校だけで行われるものではないと思う。地域の目や温かい心遣いが不可欠である。自分の子、さんの子ではなく私たち地域の子であるという見方が少しでも多くの方にはいただければよいのではないかと思う。(50代 男性)
保護者の意識が低い 【23件】	
	“行政や学校が何かやってくれれば助かる”という保護者の意識を、「自分にも何かできるかも…」という意識に変えていく必要があると思う。その為には、誰が、ということなく、いろんな方面から保護者に呼びかけていく必要があると思う。(30代 女性)
	保護者が積極的に参加してほしい。他人まかせのところがある。(40代 男性)
指導員やボランティアに協力してくれる人を増やす必要がある 【16件】	
	児童生徒の指導者が不足。力量があるが責任が伴うので指導をさける。(30代 男性)
	定年退職者や元気な高齢者に積極的に参加して欲しい。今現在、子を持つ親や決まった人たちばかりに負担がかかっている気がする。(50代 女性)
活動を継続するための費用が必要 【10件】	
	指導に対しての報酬は要らないが、消耗費、交通費、活動中での事故等の保障がないと活動を長く続けていけないと思う。(20代 男性)
	活動を継続するための教材・用具等に必要な費用を確保してほしい。(50代 女性)
子どもたちの安全な環境づくり 【10件】	
	子どもたちの安全を地域全体ですることが習慣となる社会になればよいと思う。(40代 女性)
参加する子どもや保護者を広げることが必要 【10件】	
	積極的に参加する児童、保護者とそうでない人がいる。本当に居場所の必要な子どもが参加するよう、呼びかけを保護者や子どもにしなければならない(60代 男性)
	子どもの数が少なく、近所に遊び友だちがいない子どもたちにとっては、このような施設があれば異学年の子どもたちとの交流も生まれ、友だちと遊ぶ機会も多くなると思う。(70代 女性)

2 - 5 . コーディネーターに対するアンケート調査結果について

調査対象	全国の 220 箇所の実行委員会において活動しているコーディネーター（対象市町村数 = 203 市町村）
対象抽出	各実行委員会において、登録・活動しているコーディネーターから任意の 3 名を抽出 (総サンプル数 660 人)
調査方法	各実行委員会から任意の 3 名のコーディネーターにアンケート票を配布、各コーディネーターから直接返送
調査時期	2005.8.22 ~ 2005.11.30
回答数	330 人 (回答率 50.0%)

《結果のポイント》

地域子ども教室との関わり

コーディネーターとして活動している人は、男性では公務員、女性では主婦やパートが中心となっている。

子どもと一緒に活動した経験やボランティア経験は豊富である。

約半数は地域子ども教室での活動に謝礼が支給されているが、交通費は支給されていないことが多い。

活動に参加するようになったきっかけは、市町村教育委員会からの推薦が圧倒的に多く、自分から応募した人は 1 割に満たない。

活動内容や役割としては、学校と行政や地域等との連絡調整や、実行委員会の運営支援、事業協力者の確保や配置などが中心となっており、自身が指導員や講師、ボランティアを兼務しているケースも比較的多い。

コーディネーターに対する研修の必要性

半数以上が研修を受講したことがあり、役に立ったものとして「様々な地域の教室での取組事例の紹介」や「子どもの居場所づくりに関する概論」等が挙げられている。

全体の約 65% が研修は必要であるとしており、具体的には、子どもの居場所づくりに関する概論や地域子ども教室の運営方法についてなどは活動参加前に、安全対策や事故に対する応急処置などについては参加前及び定期的に行った方が良いという声が高い。また、他の教室の取組事例の紹介や、遊びや体験活動の技術についての研修は、定期的に行った方が良いものとして多くから挙げられている。

地域子ども教室の実施による子どもや地域の変化

地域子ども教室の参加前と参加後での子どもの変化については、違う学年の子と遊ぶようになった点や地域の大人の人に挨拶をしたりするようになった点、ルールや決まりを守れるようになった点など、指導員やボランティアと同じ項目について評価が高い。

また地域子ども教室に参加したことによる自身の変化は各項目で高く認識されており、特に地域の子どもの対する意識や関心の高まりについては自己評価が高い。

地域の大人の変化や地域社会の変化については、自身の変化ほど強く感じられてはいないが、地域子ども教室への参加者が増えたり、子どもに声をかける大人が増えたりしたことについては比較的評価されている。

地域子ども教室での取組の問題点と今後の事業の進め方

自身の活動上の問題点としては、指導員などの事業協力者の確保や学校行事との調整が難しかった点が多くから挙げられており、子どもの指導経験がある人がコーディネーターとして最も望まれている。

本事業については、子どもが異学年の子や地域の大人と交流できる点で高く評価されており、8 割が今後も活動したいとしている。なお、報酬・謝金は必要であるという声が半数以上となっている。

今後の地域子ども教室の発展に向けては、子どものニーズをふまえた活動内容の充実とあわせて、保護者の理解と協力が重要であるとの指摘が多く、国の委託費がなくなった後は、都道府県が予算措置を講じて継続すべきという意見と、地域住民が主体となって実施すべきという意見が多い。

第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

(1) コーディネーターの属性

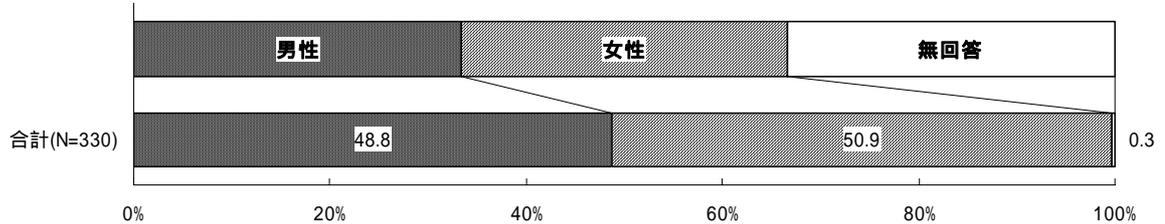
問1 あなたの性別は。(SA)

問2 あなたの年齢は。(SA)

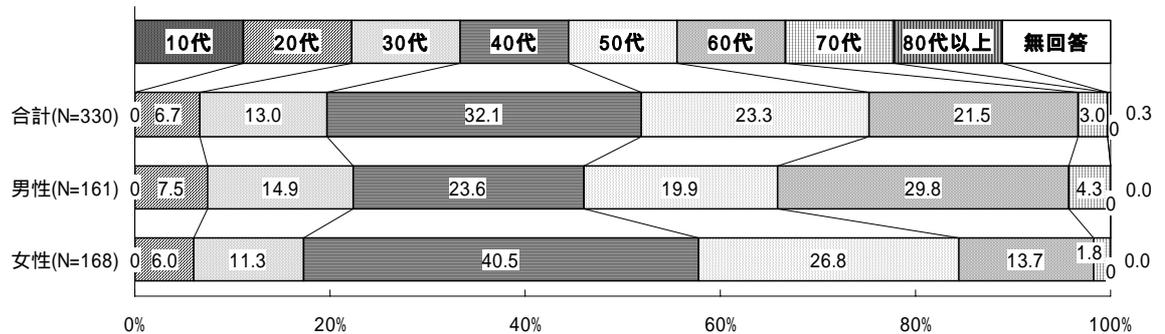
問3 あなたの現在の主な職業は。(SA)

- ❖ 回答者の内訳をみると、男性が48.8%、女性が50.9%とほぼ半数ずつとなっている。
- ❖ 年齢別にみると、40代が32.1%と最も多く、次いで50代が23.3%、60代が21.5%となっており、40～60代で全体の約8割を占めている。
- ❖ 男女別に年齢をみると、女性の方が男性よりも若い世代が多くなっている。
- ❖ 職業別にみると、全体では「公務員」や「主婦」の割合が高く、それ以外では「パート・アルバイト」が比較的多い。
- ❖ 男女別にみると、男性の4割以上は「公務員」であり、また13.0%は「無職」としている。一方、女性では、42.9%が「主婦」であり、21.4%が「パート・アルバイト」である。

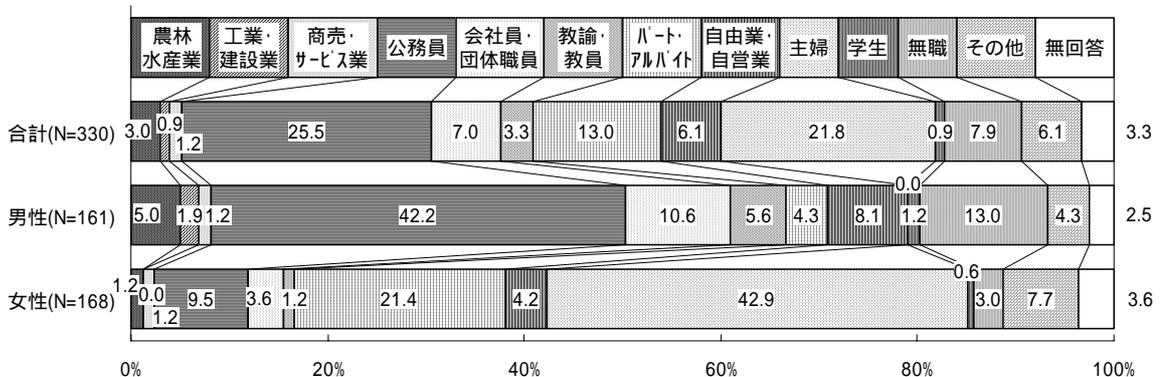
問1 あなたの性別は。(SA)



問2 あなたの年齢は。(SA)



問3 あなたの現在の主な職業は。(SA)

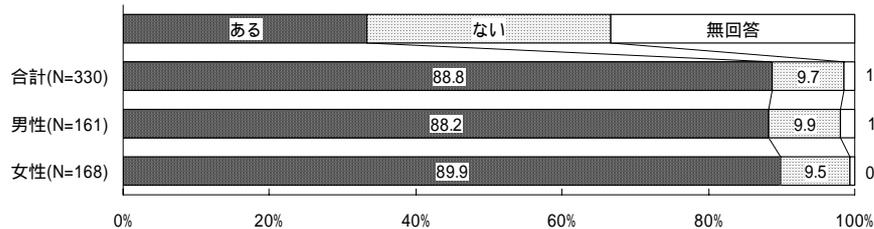


問4 あなたはこれまで、子どもと一緒に活動したり、スポーツや工作などを指導したりした経験はありますか。(SA)

問5 あなたは、右のような資格をお持ちですか。(MA)またそのうちご経験されたものはありますか。(SA)

- ❖ 子どもと一緒に活動した経験については、88.8%が「ある」としており、ほとんどのコーディネーターが子どもとの活動経験を有していることが分かる。なお、女性の方が男性よりも若干「ある」とした人の割合が高くなっている。
- ❖ 教諭等の資格については、選択肢にある資格は有していない(無回答)人が4割以上と最も多かったが、有している中では、「中学校教諭」や「高等学校教諭」等が多くなっている。
- ❖ また有しており経験のある資格についてみると、その他としてスポーツ・レクリエーション等の指導員、社会福祉主事や図書館司書などが挙げられているほか、特に男性で「社会教育主事」が高い割合となっている。

問4 あなたはこれまで、子どもと一緒に活動したり、スポーツや工作などを指導したりした経験はありますか。(SA)

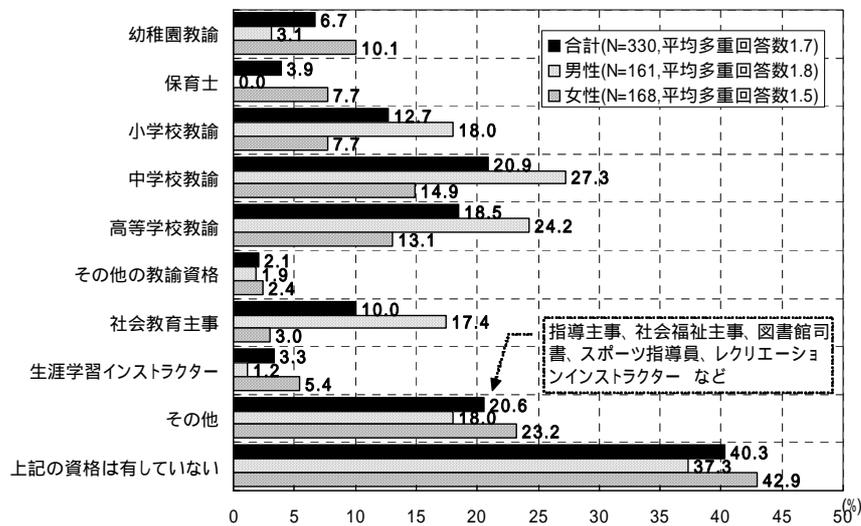


問4 (補) (あると回答した人について)具体的な活動内容をご記入下さい。

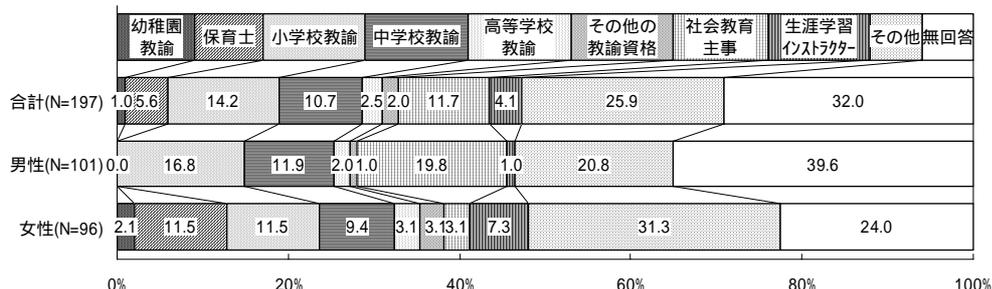
具体的な活動内容の記述回答(N=273)について分類集計

スポーツ	工作	自然体験	PTA・子ども会など	教職	生活活動	昔遊び	読み聞かせ	伝承行事・伝統技術	その他
100	58	47	42	22	15	14	11	3	13
36.6%	21.2%	17.2%	15.4%	8.1%	5.5%	5.1%	4.0%	1.1%	4.8%

問5 あなたは、右のような資格をお持ちですか。(MA)



問5 お持ちの資格のうち、ご経験されたものはありますかですか。(SA)



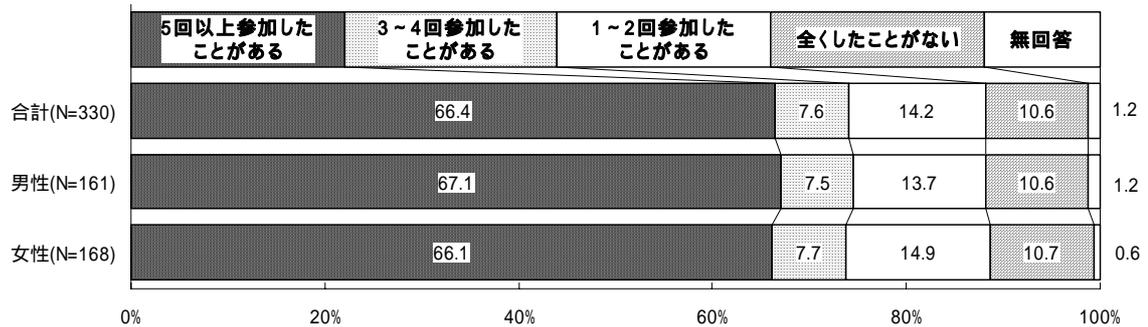
第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問6 あなたは地域子ども教室に参加する以前に、何かボランティア活動に参加したことはありますか。(SA)

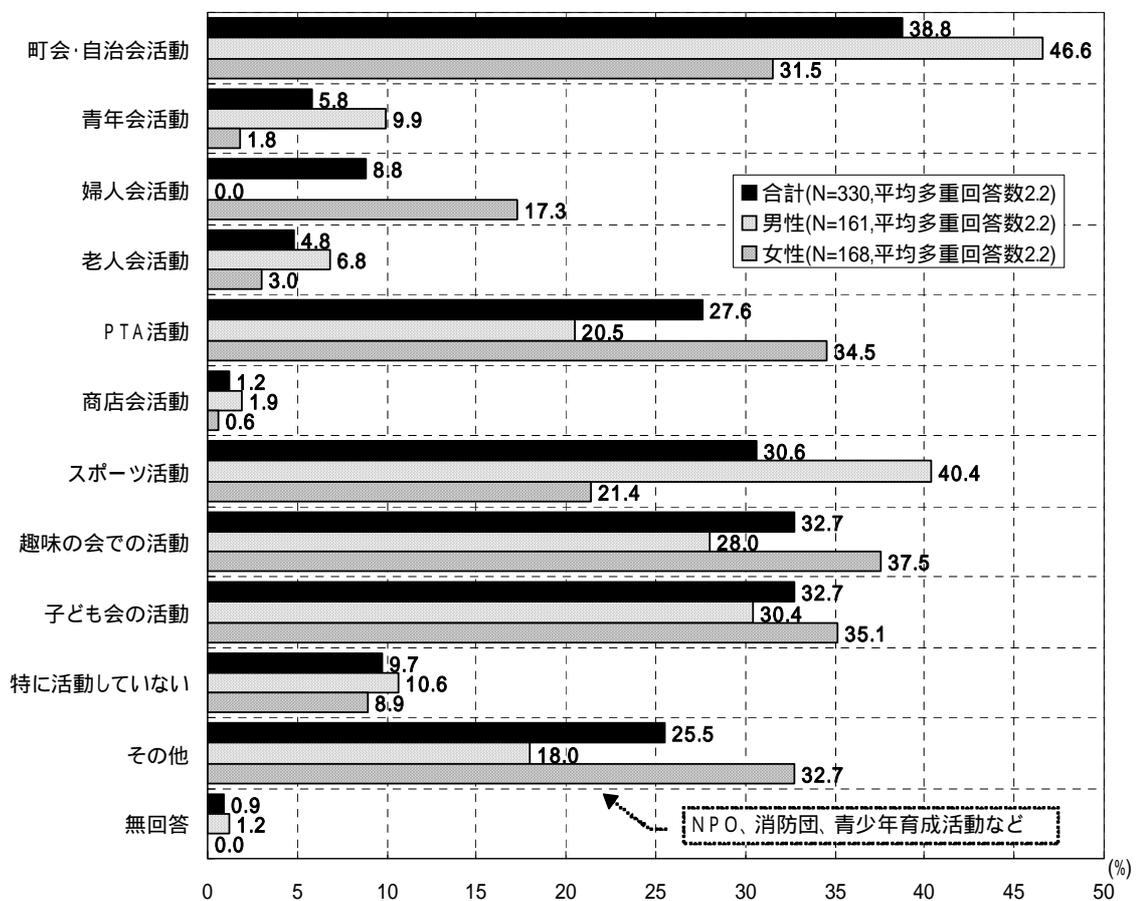
問7 あなたは、まちや地域の団体や組織で何か活動をなさっていますか。(MA)

- ❖ ボランティア経験については、66.4%が「5回以上参加したことがある」としており、全体の約9割近くがボランティア活動の経験を有している。
- ❖ まちや地域の団体や組織の活動への参画については、全体では「町会・自治会活動」や「子ども会の活動」、「趣味の会での活動」などが高い割合となっている。
- ❖ 男女別で見ると、男性では「町会・自治会活動」に参加している人が半数近くにのぼっているほか、「スポーツ活動」についても比較的高い割合となっている。一方女性では、「趣味の会での活動」や「子ども会の活動」、「PTA活動」などが男性よりも高い割合となっている。

問6 あなたは地域子ども教室に参加する以前に、何かボランティア活動に参加したことはありますか。(SA)



問7 あなたは、まちや地域の団体や組織で何か活動をなさっていますか。(MA)



(2) 地域子ども教室との関わり

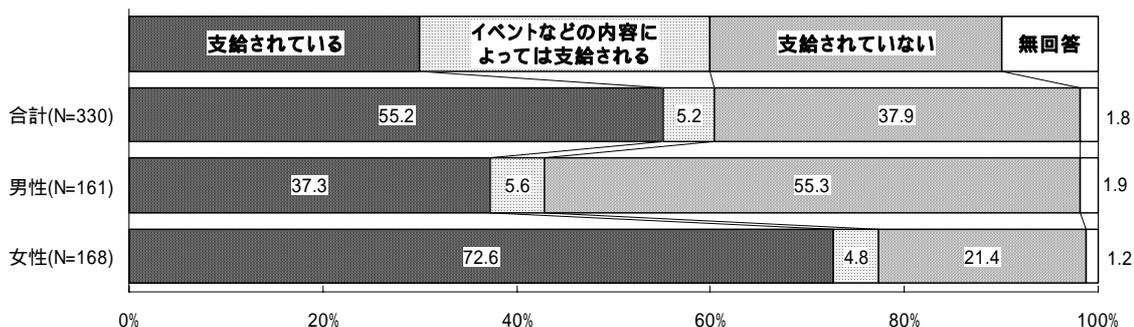
問8 あなたが、地域子ども教室推進事業においてコーディネーターとして活動するにあたり、謝金は支給されていますか。(SA)

問9 それでは、交通費は支給されていますか。(SA)

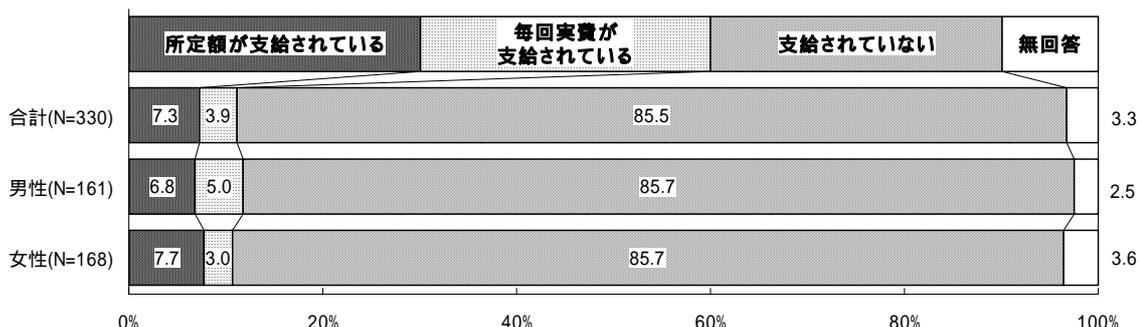
問10 それでは、上記の謝金や交通費のほかに支給されている報酬はありますか。(SA)

- ❖ 地域子ども教室で活動するにあたり、55.2%のコーディネーターは謝金が「支給されている」としているが、「支給されていない」コーディネーターも37.9%見られる。
- ❖ 男女別で見ると、女性では「支給されている」人の割合が7割以上と非常に高い一方、男性では「支給されていない」人の方が半数以上を占めている。
- ❖ 交通費については、ほとんどのコーディネーターが「支給されていない」としている。
- ❖ 謝金や交通費以外に支給されている報酬の有無については、全体の12.4%が「ある」としているが、約85%のコーディネーターは「ない」としている。
- ❖ 支給されている報酬については、具体的には、「職員として派遣されているため手当が支払われている」ケースや実行委員会・研修会に出席する時の手当が支払われているケースなどがみられる。

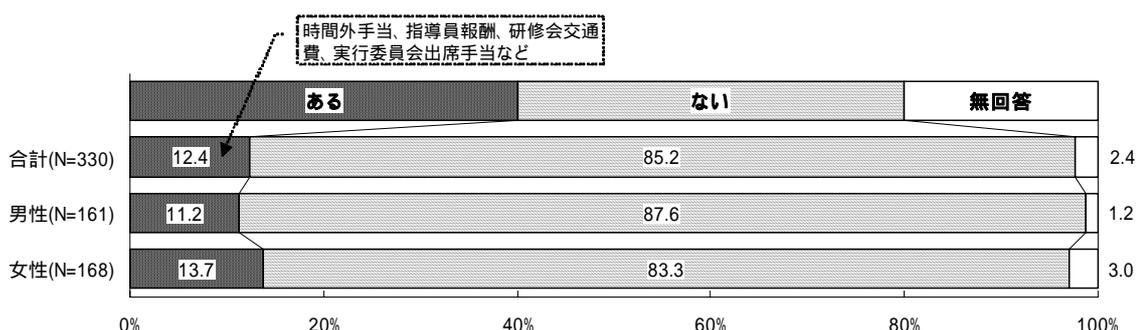
問8 あなたが、地域子ども教室推進事業においてコーディネーターとして活動するにあたり、謝金は支給されていますか。(SA)



問9 それでは、交通費は支給されていますか。(SA)



問10 それでは、上記の謝金や交通費のほかに支給されている報酬はありますか。(SA)

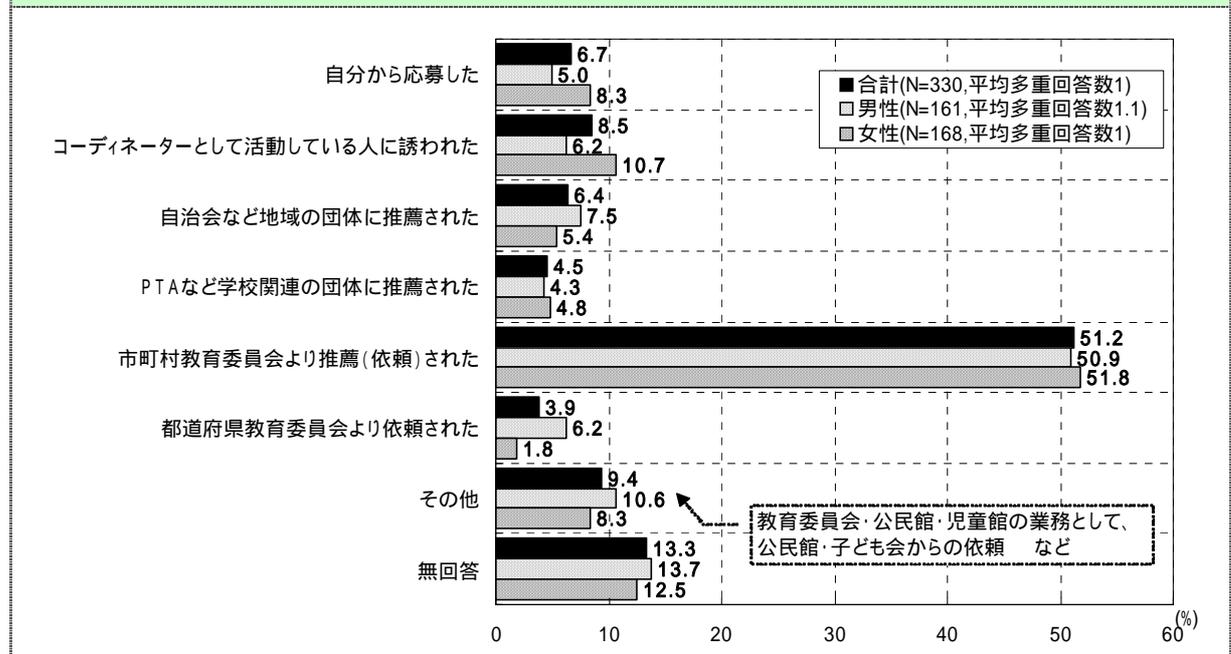


第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

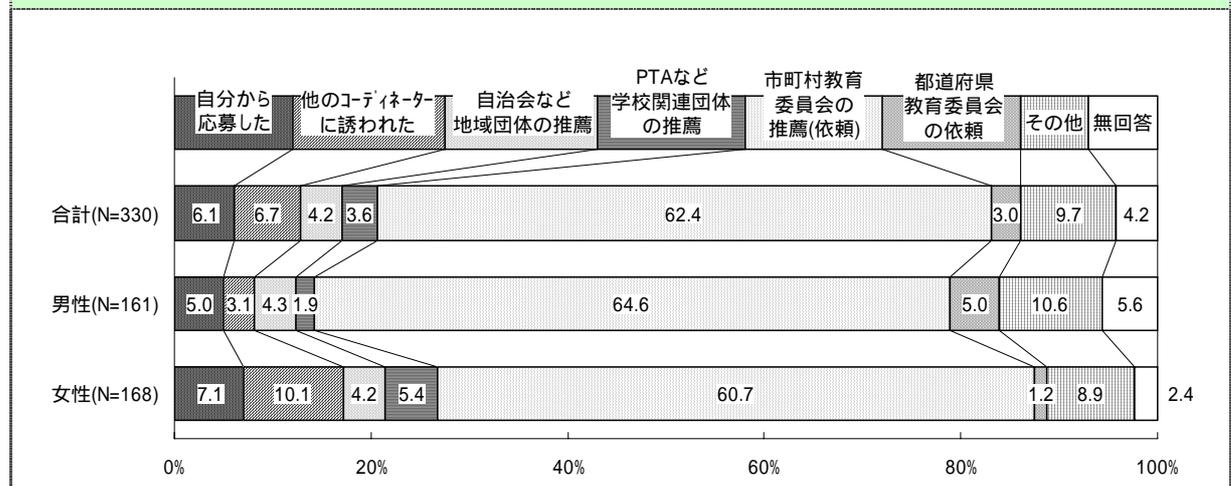
問11 あなたが地域子ども教室推進事業でコーディネーターとして活動するようになったきっかけは何ですか。(MA, 最もあてはまるものについてSA)

- ❖ 地域子ども教室で活動するようになったきっかけについてみると、全体では半数以上の方が「市町村教育委員会より推薦(依頼)された」としており、男女でもあまり差は見られない。
- ❖ 一方、「自分から応募した」人は6.7%にとどまっているが、わずかながら女性の方が高い割合となっている。
- ❖ 男性では、「都道府県教育委員会より依頼された」ケースや「自治会など地域の団体に推薦された」ケースが女性より高い割合となっている。
- ❖ 地域子ども教室で活動するようになったきっかけのうち最もあてはまるものについてみると、全体の6割以上が「市町村教育委員会より推薦(依頼)された」と、多数を占めている。
- ❖ 男女別にみると、「市町村教育委員会より推薦(依頼)された」人の割合は男性の方が若干高く、女性では「他のコーディネーターに誘われた」という人の割合が10.1%と比較的高い点で差がみられる。

問11 あなたが地域子ども教室推進事業でコーディネーターとして活動するようになったきっかけは何ですか。(MA)



問11(S) 地域子ども教室で活動するようになったきっかけのうち最もあてはまるものは何ですか。(SA)

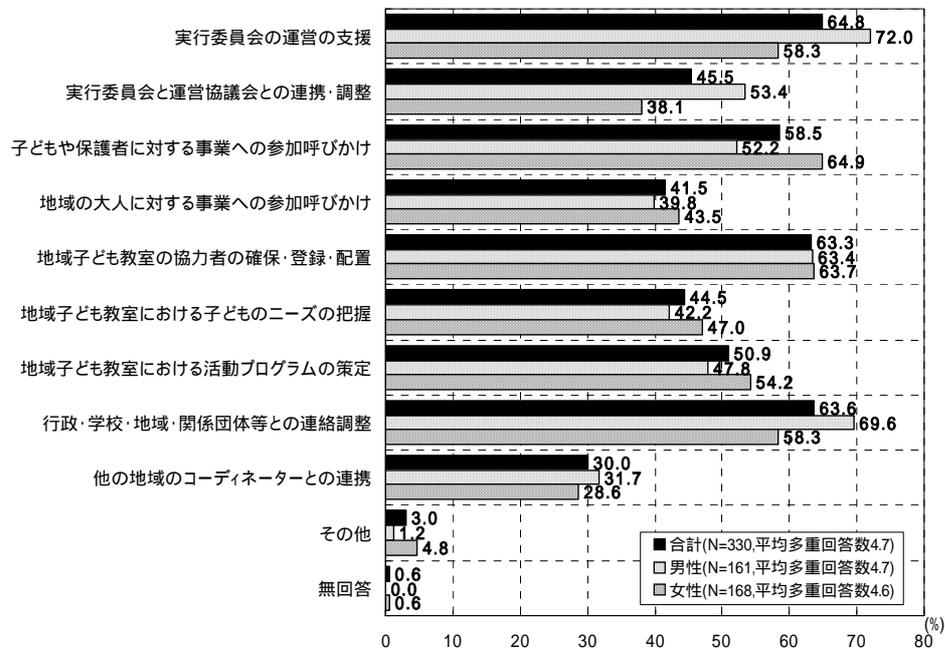


問12 あなたは、地域子ども教室推進事業におけるコーディネーターとして、どのような役割や活動をされていますか。(MA)

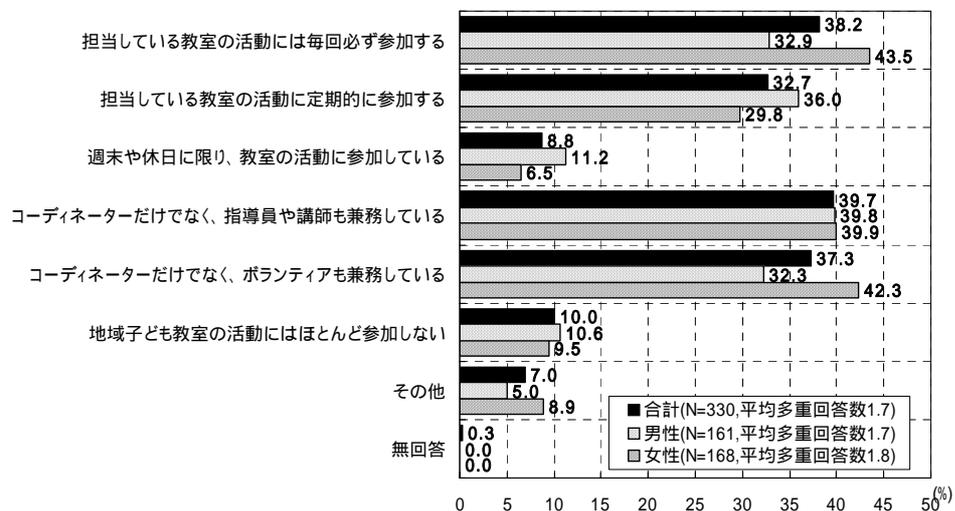
問13 あなたは、コーディネーターとして、各地域子ども教室での活動にどの程度関わっていますか。(MA)

- ❖ 地域子ども教室推進事業における役割や活動内容をみると、「行政・学校・地域・関係団体等との連絡調整」や「実行委員会の運営の支援」等が高い割合となっており、特に男性での割合が高い。
- ❖ コーディネーターとしてどのように地域子ども教室に関わっているかをみると、全体では、「コーディネーターだけでなく指導員や講師も兼務している」ケースや「担当している教室の活動には毎回必ず参加する」ケース、「コーディネーターだけでなくボランティアも兼務している」ケースなどが多く見られる。
- ❖ 男女別でみると、女性では「担当している教室の活動には毎回必ず参加する」ケースや「コーディネーターだけでなくボランティアも兼務している」ケースが多く、それぞれ40%以上となっている。これに対して、男性では「担当している教室の活動に定期的に参加する」人や「週末や休日に限り、教室の活動に参加している」という人の割合が比較的高い。

問12 あなたは、地域子ども教室推進事業におけるコーディネーターとして、どのような役割や活動をされていますか。(MA)



問13 あなたは、コーディネーターとして、各地域子ども教室での活動にどの程度関わっていますか。(MA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

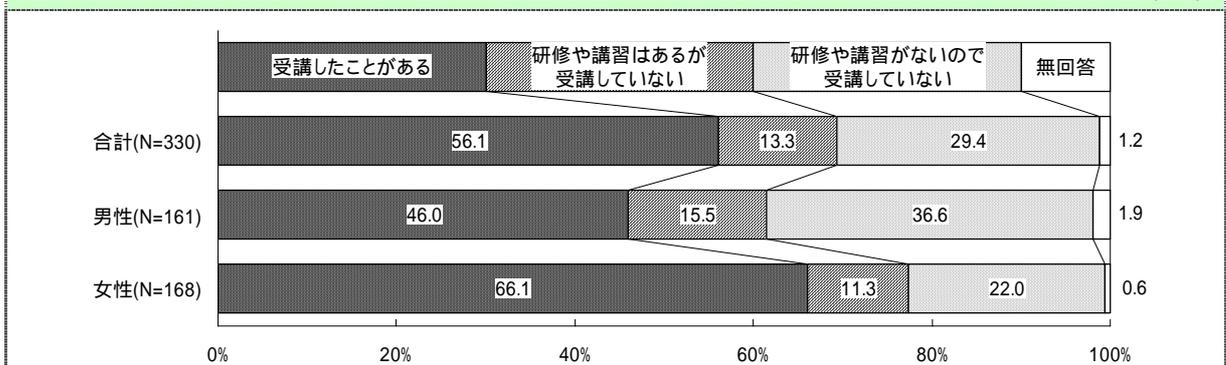
(3) 地域子ども教室で活動するコーディネーターへの研修

問14 あなたは、地域子ども教室のコーディネーターに対する研修や講習を受けたことがありますか。(SA)

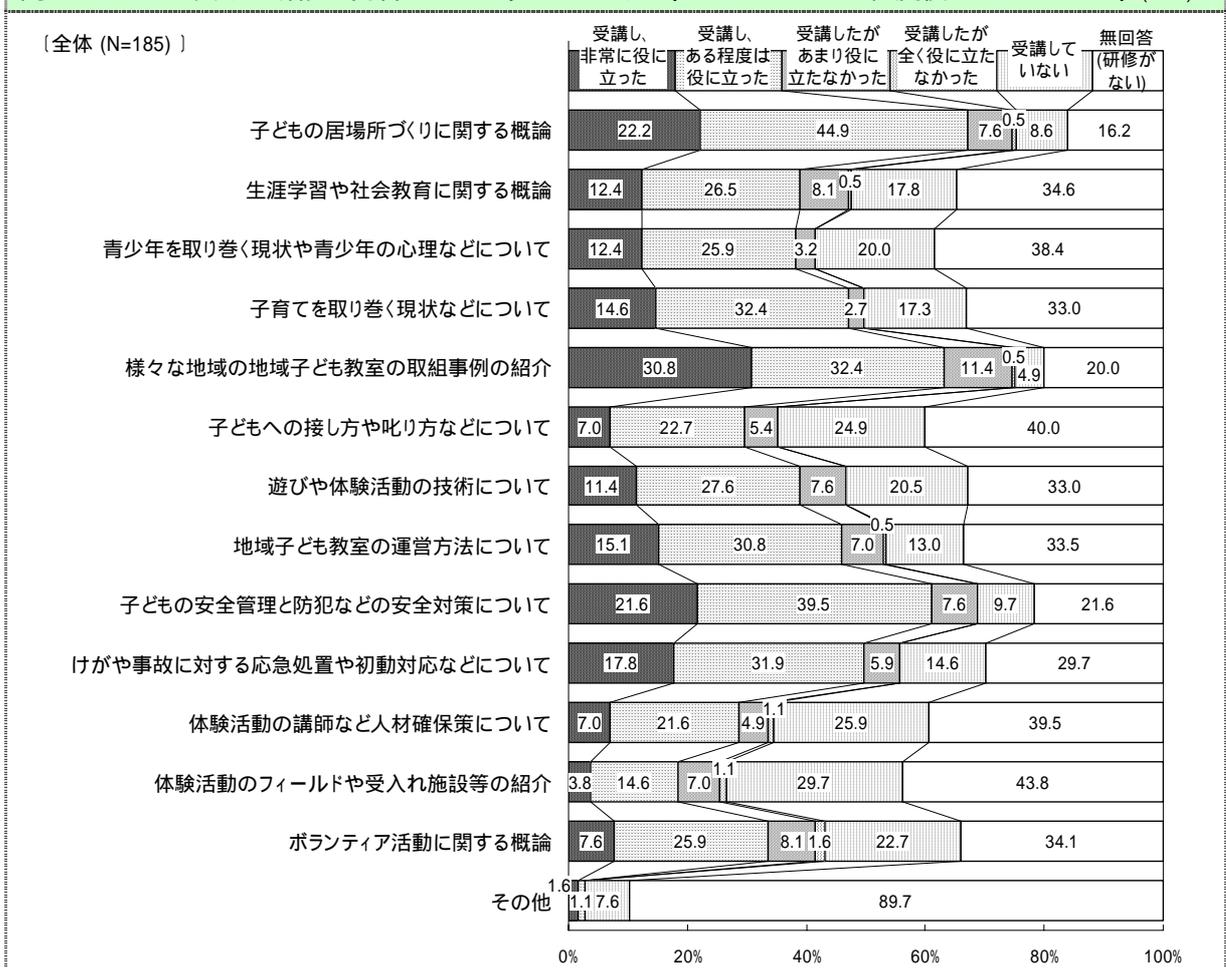
問15 問14で「1.受講したことがある」とお答えの方にお尋ねします。あなたが受けた研修の内容はどのようなものですか。またそれはどの程度役に立ちましたか。(各項目ごとにSA)

- ❖ コーディネーターに対する研修の受講については、半数以上が「受講したことがある」としているが、約3割は「研修や講習がないので受講していない」としている。男女別にみると、女性の方が受講率が高い。
- ❖ これまでに研修を受講したと回答したコーディネーターに限り、どのような内容の研修を受講したか、またそれが役に立ったかを聞いたところ、「受講し非常に役に立った」又は「受講し、ある程度は役に立った」ものとして「様々な地域の地域子ども教室の取組事例の紹介」や「子どもの居場所づくりに関する概論」、「子どもの安全管理と防犯などの安全対策について」等が挙げられている。

問14 あなたは、地域子ども教室のコーディネーターに対する研修や講習を受けたことがありますか。(SA)



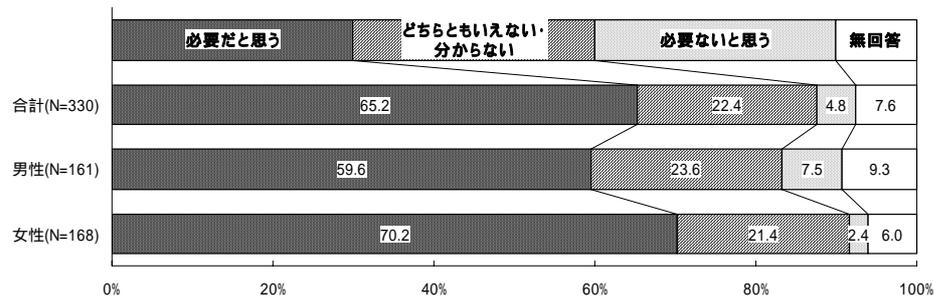
問15 あなたが受けた研修の内容はどのようなものですか。またそれはどの程度役に立ちましたか。(SA)



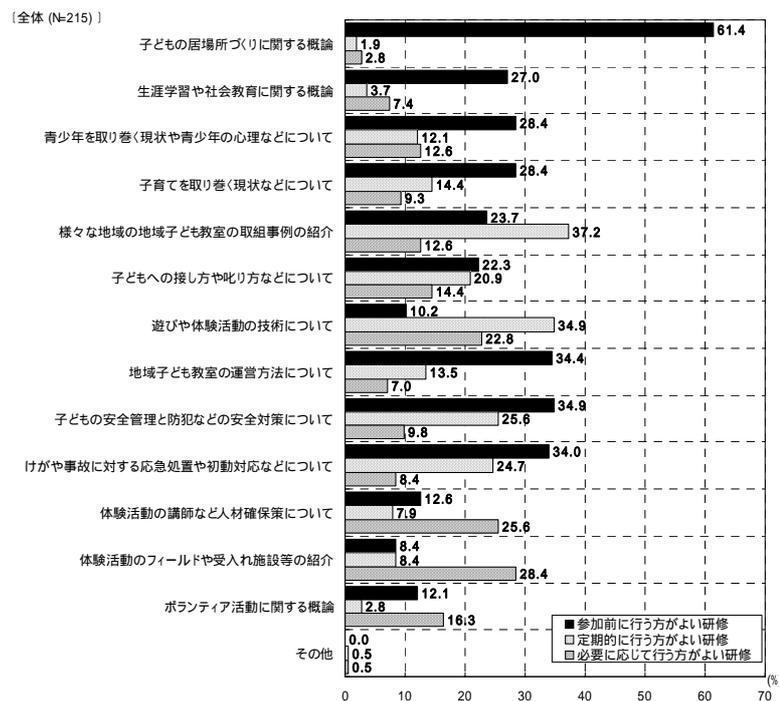
問16 あなたは、地域子ども教室でコーディネーターとして活動する人に対する研修は必要だと思いますか。(SA)
 問17 問16で「1.必要だと思う」とお答えの方にお尋ねします。では、どのような内容の研修がどのような時期に必要だと思いますか。問15の選択肢から、必要だと思う番号をすべてご記入下さい。
 問18 問15の選択肢以外に必要だと思う研修内容や、研修の方法についてのご意見など、ご自由にご記入下さい。

- ❖ コーディネーターに対する研修の必要性については、全体の65.2%が「必要だと思う」としており、特に女性の方が必要性を感じている人の割合が高くなっている。
- ❖ 必要な研修とその時期についてみると、参加前に行う方が良い研修として、「子どもの居場所づくりに関する概論」が6割のコーディネーターから挙げられている。また、「子どもの安全管理と防犯などの安全対策について」や「けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて」の研修については、参加前とともに定期的に行う方がよいものとしての割合も高くなっている。
- ❖ 定期的に行った方がよい研修としては、「様々な地域の地域子ども教室の取組事例の紹介」や「遊びや体験活動の技術について」等が挙げられており、必要に応じて行った方がよい研修は、「体験活動のフィールドや受入施設等の紹介」、「体験活動の講師など人材確保策について」などである。
- ❖ また、問18で選択肢以外に必要な研修や研修方法についての意見を聞いたところ、「同じ研修を数回実施して参加できる機会を確保する」、「ワークショップ方式の研修」、「コーディネーターの交流会」、「障害児への対応」、「保護者への接し方」などの研修の必要性が指摘されている。

問16 あなたは、地域子ども教室でコーディネーターとして活動する人に対する研修は必要だと思いますか。(SA)



問17 どのような内容の研修がどのような時期に必要だと思いますか。(MA)



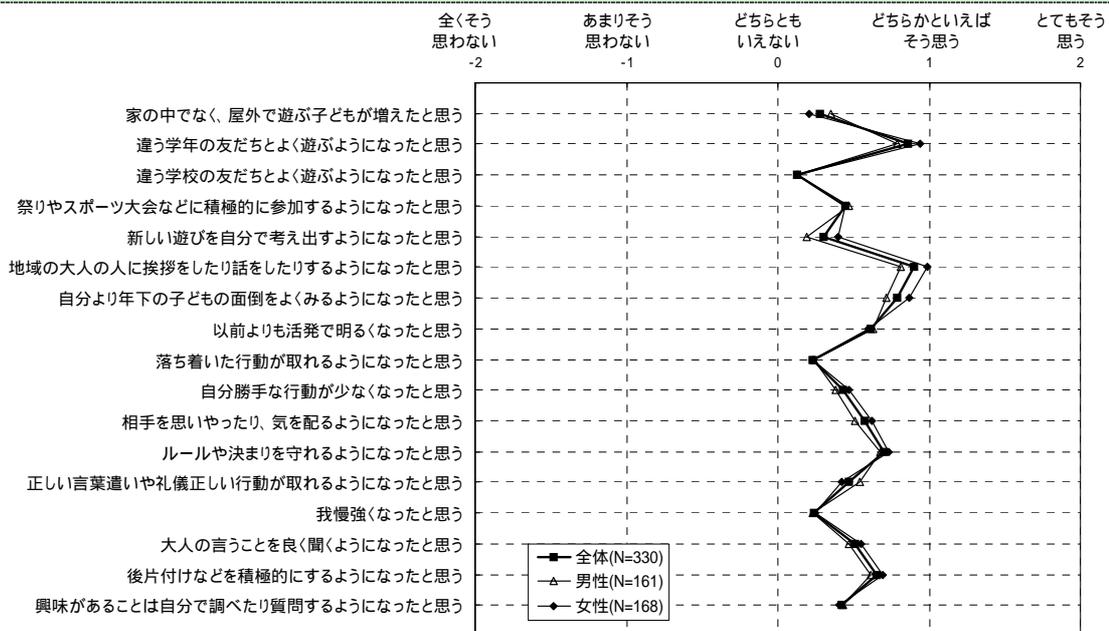
(4) 地域子ども教室の実施による子どもや地域の変化

問19 地域子ども教室の実施前と実施後を比較して、参加している子どもたちに何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)

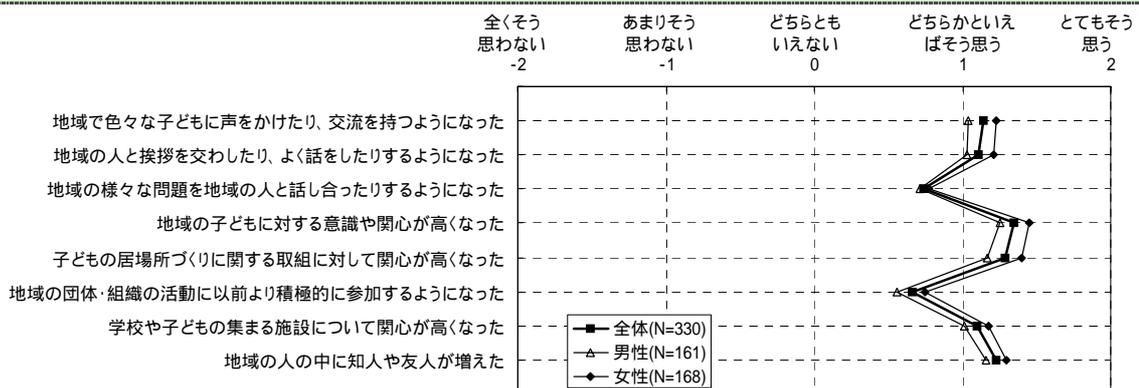
問20 地域子ども教室に参加したことによって、あなたご自身の気持ちや暮らし方などに何か変化はありましたか。(各項目ごとにSA)

- ❖ 地域子ども教室の実施により子どもに見られた変化としては、「地域の大人の人に挨拶をしたり話をしたりするようになった」や「違う学年の友だちとよく遊ぶようになった」、「自分より年下の子どもの面倒をよくみるようになった」、「ルールや決まりを守れるようになった」、「片付けなどを積極的にするようになった」などが比較的高く評価されている。
- ❖ また、地域子ども教室に参加したことによる自身の変化としては、全体的にプラス（変化したと感じた）側にシフトしており、8項目のうち6項目でプラス1（どちらかといえばそう思う）以上のポイントとなっている。特に「地域の子どもに対する意識や関心が高くなった」や「子どもの居場所づくりに関する取組に対して関心が高くなった」など関心の高まりについてや、「地域の人の中に知人や友人が増えた」、「地域で色々な子どもに声を掛けたり、交流を持つようになった」、「地域の人と挨拶を交わしたり、よく話をしたりするようになった」など、地域での交流について、自身の変化を感じていることが分かる。

問19 地域子ども教室の実施前と実施後を比較して、参加している子どもたちの様子や態度に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)



問20 地域子ども教室に参加したことによって、あなたご自身の気持ちや暮らし方などに何か変化はありましたか。(各項目ごとにSA)

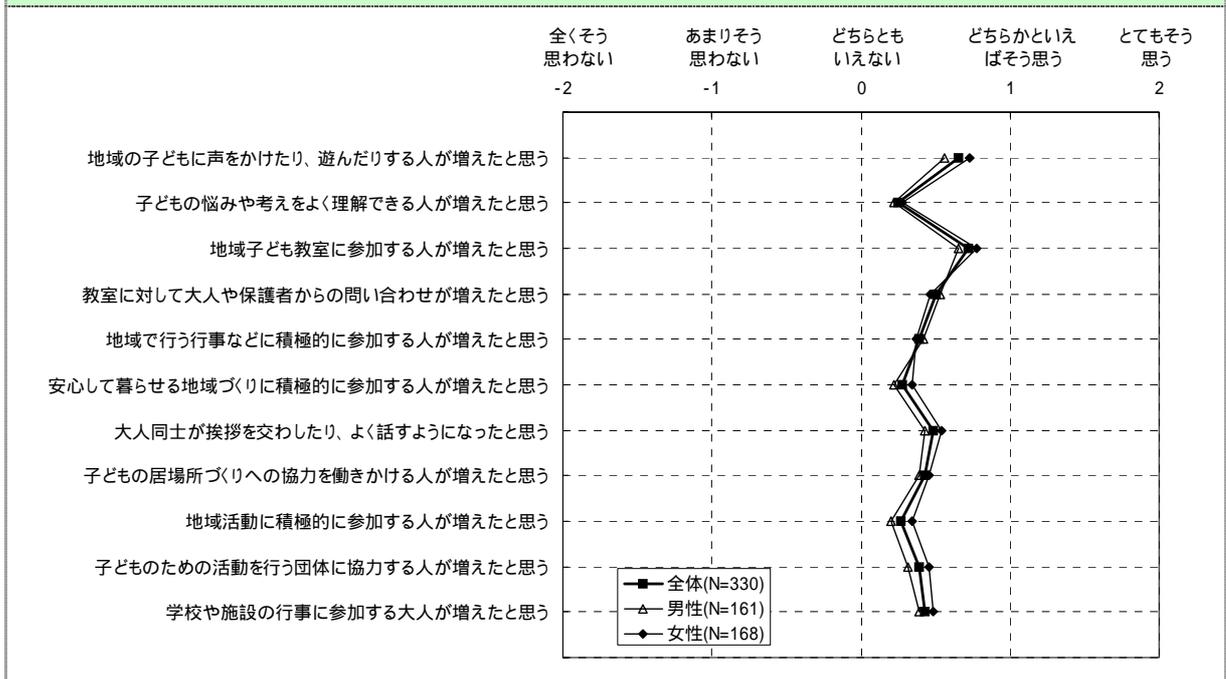


問21 地域子ども教室の実施前と実施後とを比較して、地域の大人や保護者に何か変化は見られましたか。
(各項目ごとにSA)

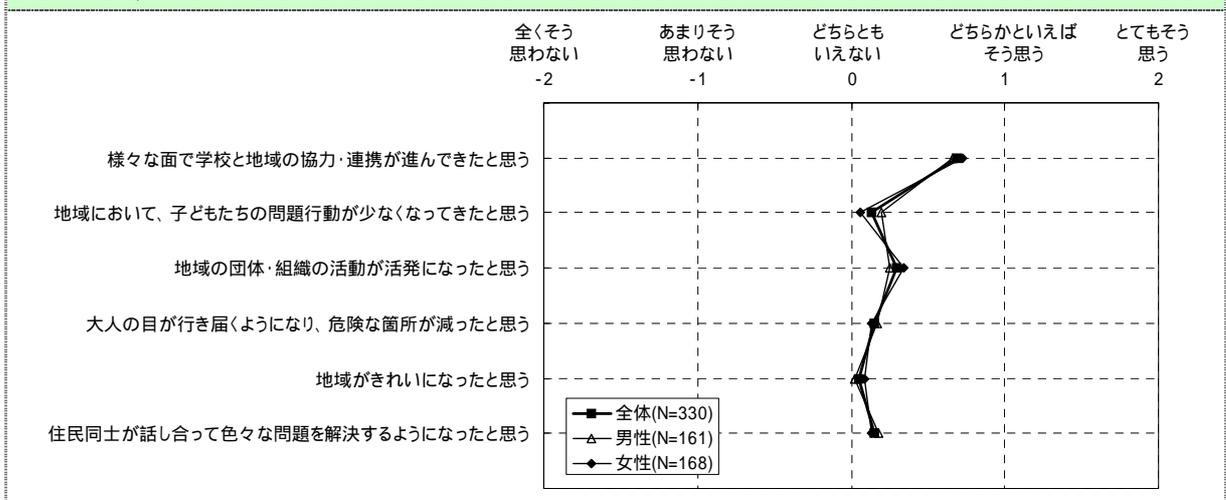
問22 地域子ども教室を実施したことによって、地域社会に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)

- ❖ 地域子ども教室の実施により地域の大人に見られた変化としては、中間値からプラス側付近に集中しており、中でも比較的变化が感じられている項目としては、「地域子ども教室に参加する人が増えたと思う」や「地域の子どもに声をかけたり、遊んだりする人が増えたと思う」などが挙げられる。
- ❖ 地域子ども教室の実施を通じた地域社会の変化としては「様々な面で学校と地域の協力・連携が進んできた」点について最も評価が高くなっているが、それ以外は中間値付近に集中している。

問21 地域子ども教室の実施前と実施後とを比較して、地域の大人や保護者に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)



問22 地域子ども教室を実施したことによって、地域社会に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)



問23 その他、地域子ども教室を実施したことによる変化として感じたことがあればご回答下さい。

❖ 地域子ども教室を実施したことによる変化を自由に挙げてもらったところ、88名から回答が得られた。

表2-9 地域子ども教室の実施による変化（FA）《主な意見の抜粋》

地域子ども教室の実施による主な変化
保護者の方の教育や子育てに関する関心が少し高まったように思う。(60代 男性)
地域の大人が地域で子どもを育てることに真剣に取り組み始めた。(50代 女性)
多くの地域の方、小・中学生との出会いがあり、言葉かけがとても楽になった。子どもたちが積極的に関わってくれている。大人と子どもの交流もとてもよく、お互いの居場所づくりとして楽しめている。(60代 女性)
小学6年生の児童が中学に行ってから公民館に立ち寄る子が増加した。(50代 男性)
顔見知りの子が増えてスーパーで出会ったりすると笑顔で応えてくれる。(60代 女性)
宿題忘れや忘れ物が少なくなったと校長先生がよく話されているのを何度か耳にした。(60代 男性)
遊びの楽しさを知った。異年齢の交流が図れた。ボランティアの人々との交流がもてた。(60代 女性)
主に小学校で実施しているので、学校の先生(特に校長、教頭)とは非常にうまく連携が取れていると思う。(40代 女性)
はじめの準備、おわりの後片づけを、しっかりとやっている。異学年なのに、仲良く共同でよく遊ぶ、よく挨拶をするようになった。(70代 女性)
万引きが減ってきたように思う。地域の人々が、子どもに声かけや注意をするようになった。(60代 男性)
年齢の違った子どもたち(幼児も)が、知り合い、仲良く遊べるようになった。若いお母さん方同士の友だちづくりの場になっている。また、指導員やボランティアに子育て相談ができるので、お母さん方が一緒にいるようになった。(50代 女性)
子どもたちの目の輝き、笑顔が多くなった。自信・自主性が増した。(60代 男性)
2年目に入り、高学年や1年目には参加しなかった子らも参加してくれるようになった。全体的に応募者の数も増え、保護者の関心の高さがうかがわれる。(40代 女性)
子どもの言葉遣いが気になっていたが、少しずつよくなっていった気がした。(40代 男性)
以前は落ち着きがなく、困っていた児童が、人の話を静かに聞くことができるようになったり、皆と同じペースで教室に参加できるようになっていった。(20代 女性)

(5) 地域子ども教室の事業運営上の問題点

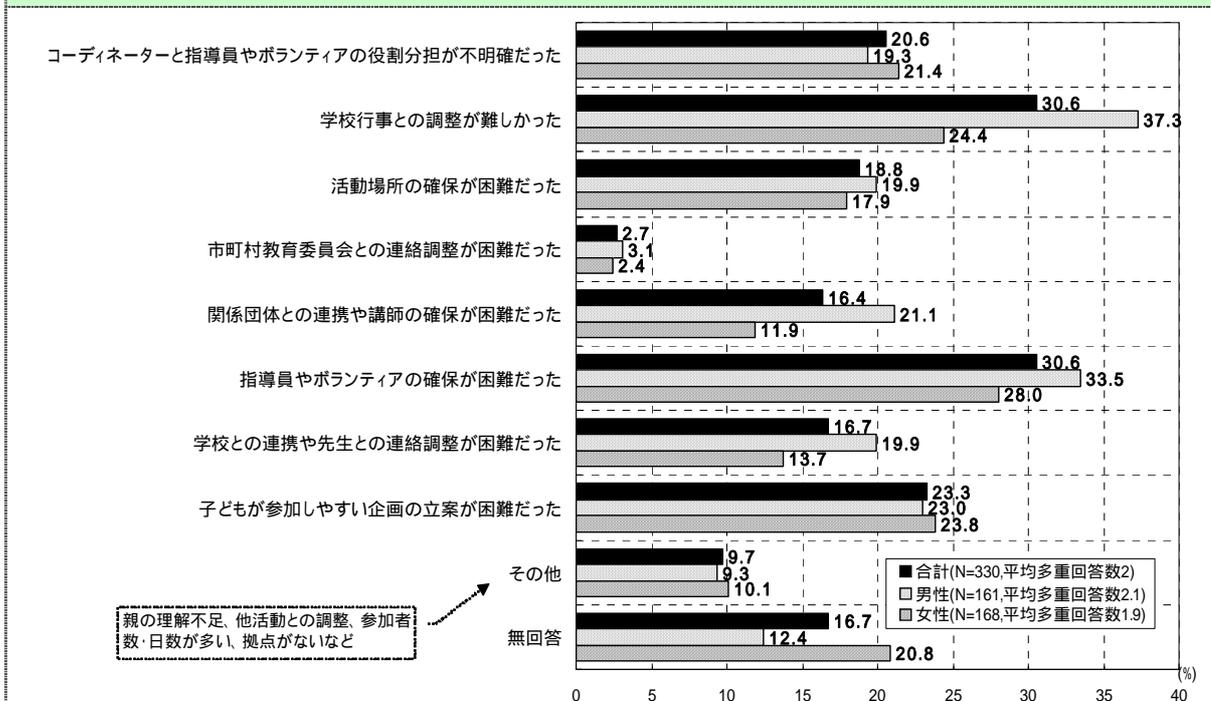
問24 あなたがコーディネーターとして「地域子ども教室推進事業」に関わる中で、何か困ったことや問題となったことなどはありましたか。(MA)

問25 あなたが活動している地域子ども教室で、これまで何か事故や事件、災害、あるいはそうした事態に発展しそうなことがありましたか。(SA)

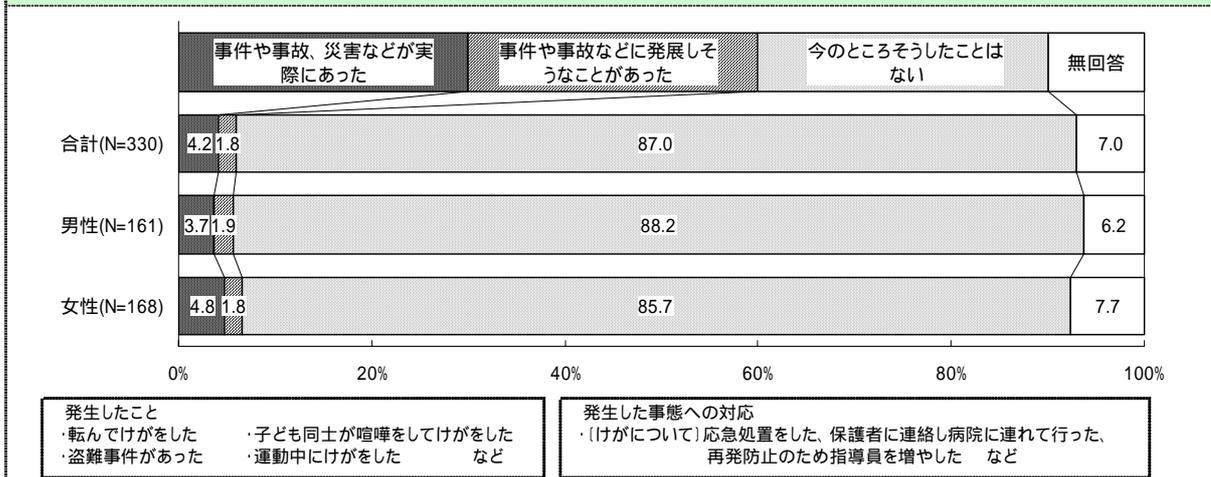
❖ 地域子ども教室で活動する中で困ったことや問題となったことについてみると、「指導員やボランティアの確保」や「学校行事との調整」について約3割の人が困難だったとしている。また、「子どもが参加しやすい企画の立案」や「コーディネーターと指導員やボランティアとの役割分担」なども困った点として比較的多くから挙げられている。

❖ また地域子ども教室での事件・事故又はそれに発展しそうな事態の発生状況についてみると、「事件や事故、災害などが実際にあった」あるいは「事件や事故などに発展しそうなことがあった」としたのは合わせて6%程度であり、大部分は「今のところそうしたことはない」としている。

問24 あなたがコーディネーターとして「地域子ども教室推進事業」に関わる中で、何か困ったことや問題となったことなどはありましたか。(MA)



問25 あなたが活動している地域子ども教室で、これまで何か事故や事件、災害、あるいはそうした事態に発展しそうなことがありましたか。(SA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問26 あなたは、地域子ども教室推進事業では、どのようなコーディネーターの配置が望ましいとお考えになりますか。(MA)

問27 あなたは、今後も地域子ども教室推進事業でコーディネーターとして活動したいですか。(SA)

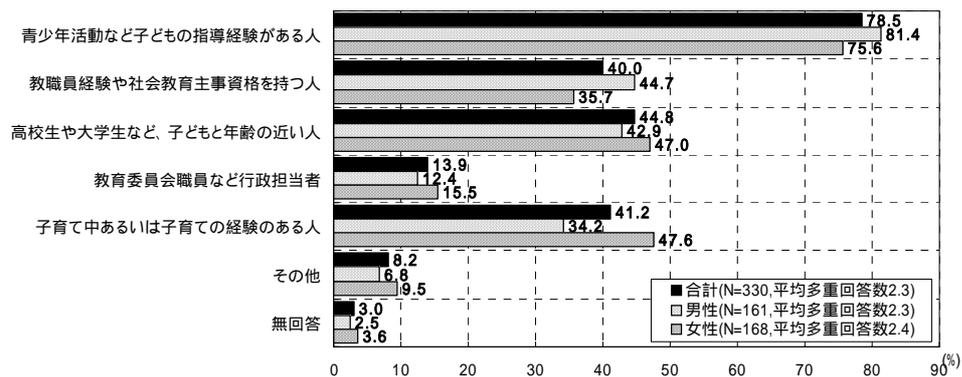
問28 問27で「1.ぜひ活動を続けたい」「2.どちらかといえば活動したい」とお答えの方にお尋ねします。では、その際にコーディネーターに対する報酬は必要だと思いますか。(SA)

❖地域子ども教室で活動するコーディネーターとしてどのような人材の配置が望ましいかを聞いたところ、「青少年活動など子どもの指導経験がある人」が8割近くと最も高い割合となっており、コーディネーターとして活動する上で子どもの指導経験が重視されていることがうかがえる。またこれに次いで、「高校生や大学生など、子どもと年齢の近い人」が44.8%と、子育て経験や教職資格などよりも高くなっている点が特徴的である。

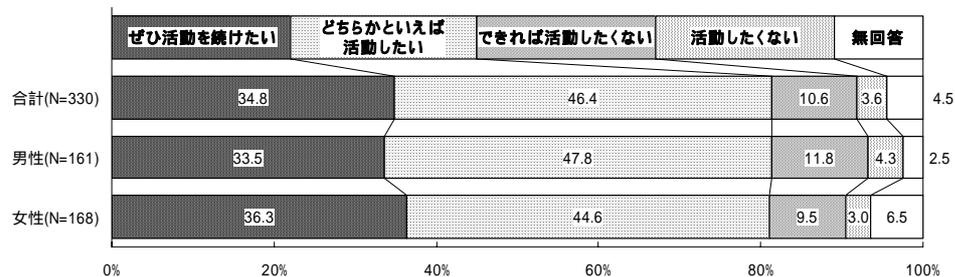
❖今後については、全体の8割以上が「ぜひ活動を続けたい」あるいは「どちらかといえば活動したい」と、コーディネーターとしての活動の継続意向を示している。

❖コーディネーターに対する報酬の必要性については、半数以上が「報酬・謝金は必要である」としており、「無報酬でよいと思う」を大きく上回っている。また、「交通費などが支給されれば謝金は不要である」も24.6%と、実費負担がなければ無報酬でもよいという考えの人も約4分の1程度はいることが分かる。

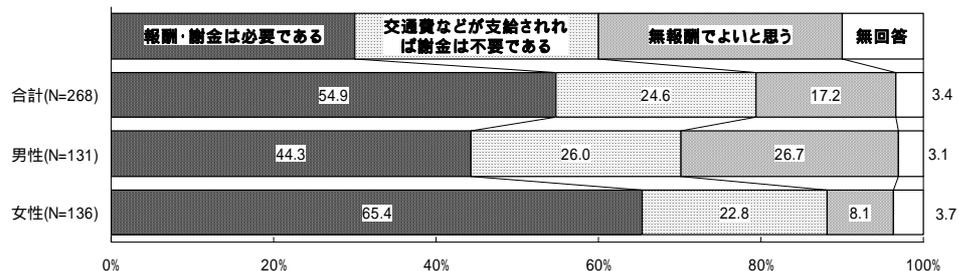
問26 あなたは、地域子ども教室推進事業では、どのようなコーディネーターの配置が望ましいとお考えになりますか。(MA)



問27 あなたは、今後も地域子ども教室推進事業でコーディネーターとして活動したいですか。(SA)



問28 その際にコーディネーターに対する報酬は必要だと思いますか。(SA)



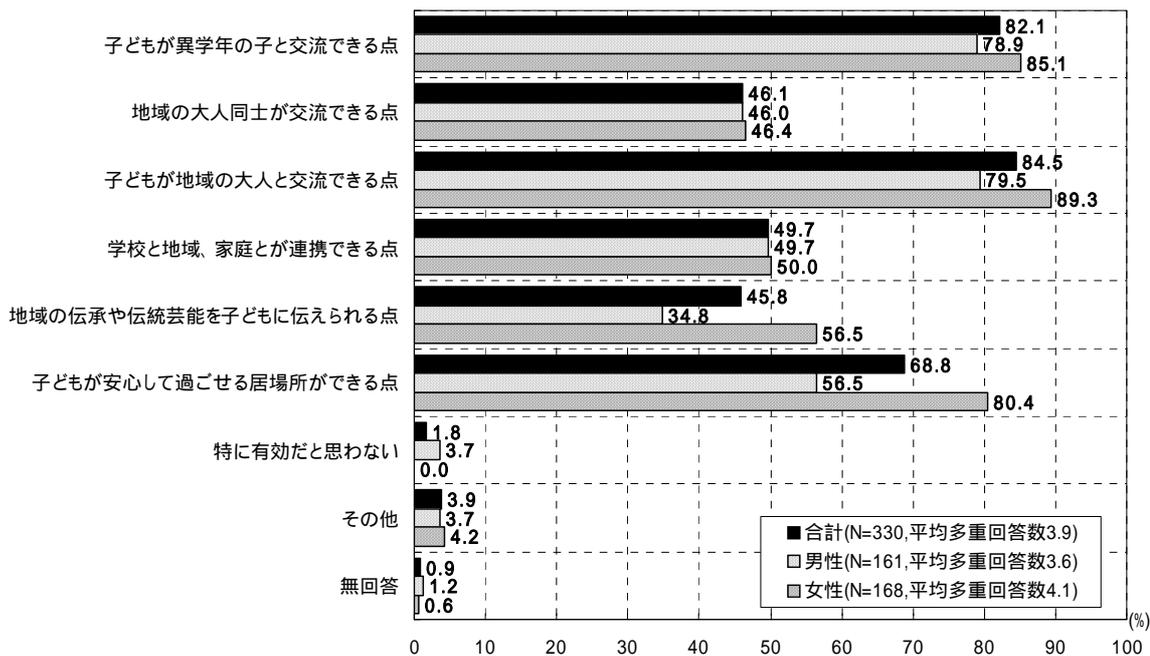
(6) 地域子ども教室の事業効果や今後の進め方

問29 あなたは、地域子ども教室は、どのような点で効果や利点があると思いますか。(MA)

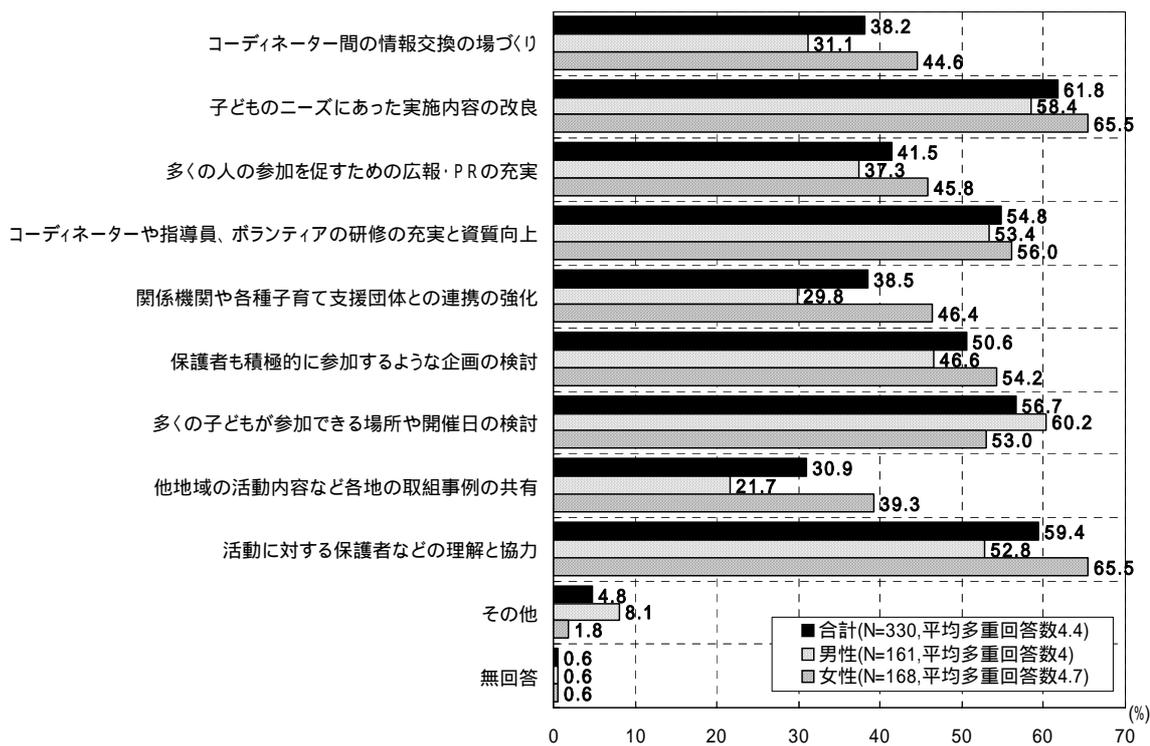
問30 今後、地域子ども教室の取組をより発展させていくためにはどのようなことが重要だと思いますか。(MA)

- ❖ 地域子ども教室の効果や利点について、コーディネーターの評価をみると、「子どもが地域の大人と交流できる点」や「子どもが異学年の子と交流できる点」などが高く評価されている。また「子どもが安心して過ごせる居場所ができる点」も、特に女性を中心に評価が高い。
- ❖ 今後の取組の発展において重要なこととしては、「子どものニーズに合った実施内容の改良」とあわせて、「活動に対する保護者などの理解と協力」も比較的多くから挙げられている。

問29 あなたは、地域子ども教室は、どのような点で効果や利点があると思いますか。(MA)



問30 今後、地域子ども教室の取組をより発展させていくためにはどのようなことが重要だと思いますか。(MA)

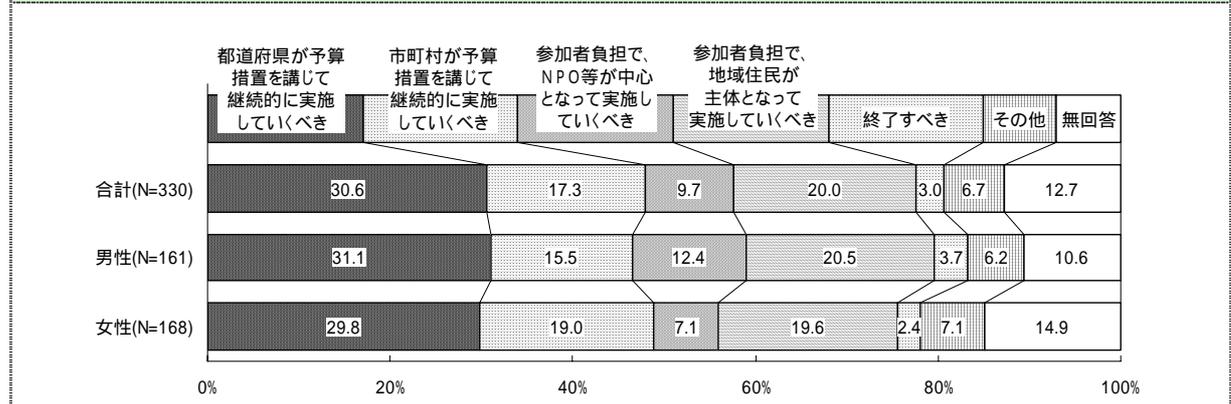


第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問31 本事業に対する国の委託費は平成18年度までと予定されていますが、あなたは、国の委託費がなくなった後の地域子ども教室はどのようにしていくべきだと思いますか。(MA)

- ◆国の委託費がなくなったあとの地域子ども教室をどのようにしていくべきと考えるかについては、「都道府県が予算措置を講じて継続的に実施していくべき」との声が30.6%と最も高くなっており、都道府県が主体となって継続していくべきとの意見が最も多い。これに次いで「参加者に活動費を負担してもらい、地域住民が主体となって実施していくべき」も20.0%と比較的多く、これからの地域子ども教室は地域主導で進めていくべきという意見もある程度聞かれる。

問31 本事業に対する国の委託費は平成18年度までと予定されていますが、あなたは、国の委託費がなくなった後の地域子ども教室はどのようにしていくべきだと思いますか。(MA)



問32 その他、お住まいの地域で日頃感じていることや、地域全体で子どもを育てることなどについてのご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。

- ◆地域全体で子どもを育てることなどについて自由な意見を聞いたところ、全体で133名のコーディネーターから回答が得られた。その中では、地域で行われている様々な活動や団体との連携への意見が挙げられおり、特に、余裕教室の活用など学校との連携が難しいとの意見がある。
- ◆また、地域の活動に無関心な保護者への働きかけや家庭教育の重要性、高校生や中学生への周知や、大人からの挨拶など、積極的な取組の必要性への意見もみられる。

表2-10 地域全体で子どもを育てることについての意見 (FA)《抜粋》

子ども会、老人会、趣味の会等、色々な団体が活発に活動しています。それぞれの団体がひとつになって連携して活動していない。定期的に代表者が集まって話し合う場があれば、もっと充実した活動ができると思う。(40代 女性)
自分の子どもを預けるという意識を捨て保護者自身が参加児童全ての親になるという意識で積極的に参加してほしい。参加する保護者や子どもが固定化してはいけない。(40代 男性)
保護者対応に苦心する場面がある。子どもを預けているという意識が強く、ちょっとしたけがの責任を追及したり、叱られたことに抗議すること等が起きている。保護者がよく理解し、協力してもらい働きかけが必要かと思う。(50代 女性)
一番大切なことは、家庭教育だと思う。基本的なことは家庭できっちと教育すべき。親子の対話、ふれあいが大切。他人の子どもでも注意できる&注意してもらえるようになれば良い。(50代 女性)
18年度以降も予算措置を継続して頂けることが望ましいが、国の支援がなくなったとしても、自主財源や参加費を中心に運営ができるよう計画を立てていく必要がある。PTA など、年度毎に交替もあるのでスムーズな連携が取れるような組織作り、自立して活動団体の育成、活動の定着化を図っていくことが課題である。(50代女性)
自治会や学校から地域に協力を依頼されて1年あまりで、うまく運営されてきたように思う。学校は特に今まで組織づくりや運営に大変だったと思う。せっかくここまで進めてきたのだから、この制度を長く続けて欲しい。そのためには18年以降も県か市で何か指導をする方策を考え予算も若干見て欲しいと思う。(70代 男性)
「地域子ども教室」や、コーディネーターの存在を、地元の高校生や大学生に知ってもらいたい。ボランティアの参加の場、身近にあることを知ってもらいたい。当日ボランティアだけでなく、企画・運営まで携われると面白いと思う。ボランティアの参加を大学の単位として認めるなどの考慮があるといいかもしれない。(20代 女性)

2 - 6 . 実施学校に対するアンケート調査結果について

調査対象	全国の 220 箇所の実行委員会において、地域子ども教室の活動場所として施設を提供した学校 (対象市町村数 = 203 市町村)
対象抽出	各実行委員会において任意の地域子ども教室の活動場所となった学校施設を 2 箇所抽出 うち 1 箇所については、子ども・保護者・指導員等アンケートを実施 (総サンプル数 440)
調査方法	実行委員会から各学校長にアンケート票を配布、各学校長から直接返送
調査時期	2005.8.22 ~ 2005.11.30
回答数	実施学校長 206 人 (回答率 46.8%)

《結果のポイント》

地域子ども教室との関わり

活動場所となった学校では、半数以上は、これまで地域子ども教室以外で子どもの健全育成に係る事業は実施していないとしている。

実行委員会に学校として参画しているというケースは約半数程度見られる。

活動場所となったきっかけとしては、実行委員会からの提案が最も多くなっている。

学校施設で行われている地域子ども教室への参加については、PTA やスポーツ団体、子ども会などが多く見られる。

地域子ども教室の活動への参画や実施上の配慮

各施設での地域子ども教室の活動に対する職員の参加については半数以上の学校で見られる。

地域子ども教室に関する広報活動としては、教育委員会等で作成したチラシの配布が多く、また保護者に対して地域子ども教室の説明を行っているケースも約 4 割見られる。

地域子ども教室の活動について学校行事等と特に連携・調整を図るようなことはなかったという回答が多いが、参加している子どもの様子や活動内容についての指導員等との話し合いについては、7 割以上の学校が定期的もしくは必要に応じて行っており、それにより教職員の児童理解がある程度進んだと評価されている。

また学校施設が活動場所となるにあたり、学校として配慮した点についてみると、施設や備品の管理方法や清掃方法について指導員等のスタッフと協議・確認したり、あるいは教職員に対して事業趣旨や活動内容の説明をしたりといったことが多く挙げられており、実際に事件・事故が発生したケースはほとんどない。

地域子ども教室を通じた子どもや保護者などの変化

子どもの変化としては、異学年の子と遊ぶようになった点や自分より年下の子どもの面倒をよく見るようになった点などを中心に評価されている。

また学校への保護者や地域の協力が増した点や、学校と保護者・地域とが協働で取り組む機会が増えた点などでも変化が感じ取られている。

地域子ども教室の今後のあり方

特に子どもが異学年の子や地域の大人と交流できる点、子どもが安心して過ごせる居場所ができる点などで本事業は高く評価されており、また、学校は地域の核となる施設であることから、本取組の活動場所として活用されることについて好ましいとする意見が多数を占めている。

施設活用上の改善点としては、帰宅時の安全管理の強化や安全確保対策の強化などが特に多くから指摘されている。

第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

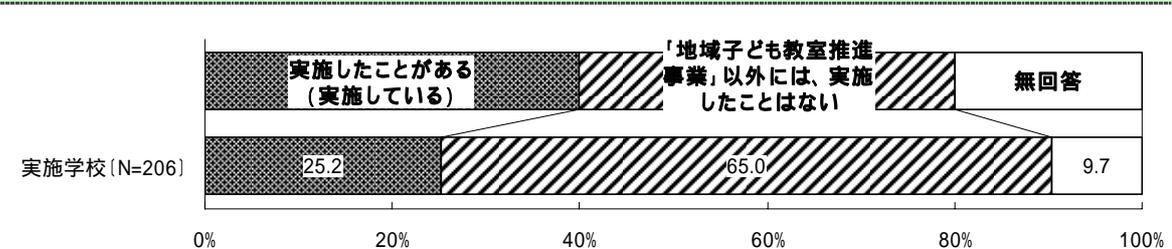
(1) 活動場所となった学校のこれまでの取組

問1 貴校では、これまでに、「地域子ども教室推進事業」以外で、学校施設を活用した子どもの健全育成に関する補助事業やモデル事業等を実施したことはありますか。(SA)

問2 問1で「1.実施したことがある(実施している)」とご回答の方にお尋ねします。貴校で実施した、子どもの健全育成に関する事業について、最新のものから5つまで、ご回答下さい。

- ❖ 地域子ども教室の実施場所として施設が活用された学校施設(以下、「実施学校」という)について、これまでに地域子ども教室以外の子どもの健全育成に関する補助事業やモデル事業等の実施状況をきいたところ、「実施したことがある(実施している)」が25.2%、「地域子ども教室推進事業以外には実施したことはない」が65.0%であった。
- ❖ 地域子ども教室以外の事業の実施内容についてみると、学校開放・校庭開放や幅広い子どもが参加できるスポーツや遊びの教室などが実施されている。
- ❖ これまでに実施された子どもの健全育成に関する事業について事業主体から分類すると、学校施設で実施された事業の約半数は都道府県・市町村が事業主体となっている。

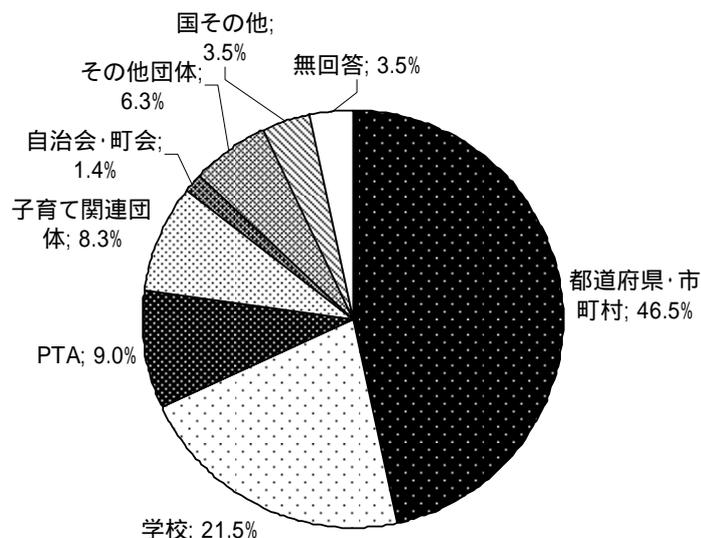
問1 貴校では、これまでに、「地域子ども教室推進事業」以外で、施設を活用した子どもの健全育成に関する補助事業やモデル事業等を実施したことはありますか。(SA)



問2 貴校で実施した、子どもの健全育成に関する事業について、最新のものから5つまで、ご回答下さい。

学校・校庭開放、各種教室の開催(スポーツ・遊び・神楽・英会話・読書等)、キャンプ、祭りへの参加、校区パトロール、地域の名人・芸術家等の講師派遣など

各学校で実施している子どもの健全育成に関する事業の実施主体
実施学校(回答総事業数 N=144)



(2) 地域子ども教室との関わり

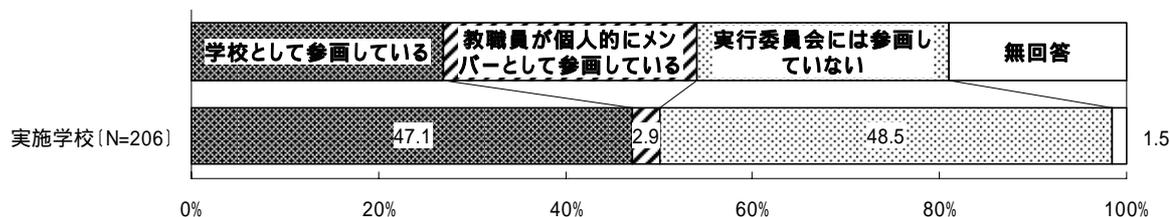
問3 貴校が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたり、このアンケートを配られた実行委員会(市町村レベルの実行委員会)に委員として参画しているかどうか。(SA)

問4 貴校が「地域子ども教室」の活動場所となった理由はどのようなことでしたか。(SA)

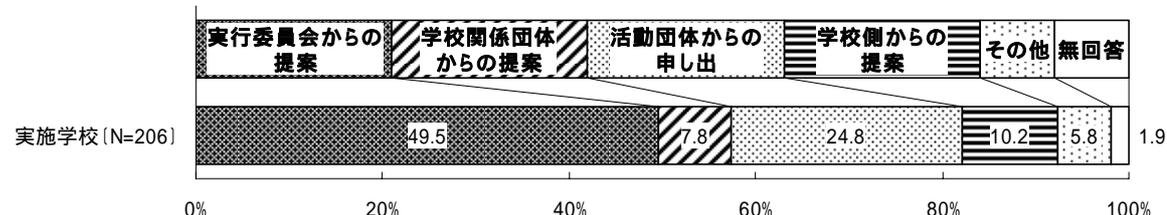
問5 貴校で実施されている「地域子ども教室」では、何年生が登録・参加していますか。(MA)

- ❖ 学校施設としての実行委員会への参画状況を見ると、「学校として参画している」割合は47.1%と、半数近くの学校で施設としての参画が進んでいる。
- ❖ 地域子ども教室の活動場所として施設が活用された経緯についてみると、「実行委員会からの提案」が最も多く、半数近くを占めている。また、「地域子ども教室を実施している団体から活動場所として活用したいという申し出があった」というケースも24.8%と比較的高い割合となっている。
- ❖ 各施設で実施されている地域子ども教室に登録・参加している子どもの学年については、小学生の各学年が8~9割となっている。

問3 貴校が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたり、このアンケートを配られた実行委員会(市町村レベルの実行委員会)に委員として参画しているかどうか。(SA)

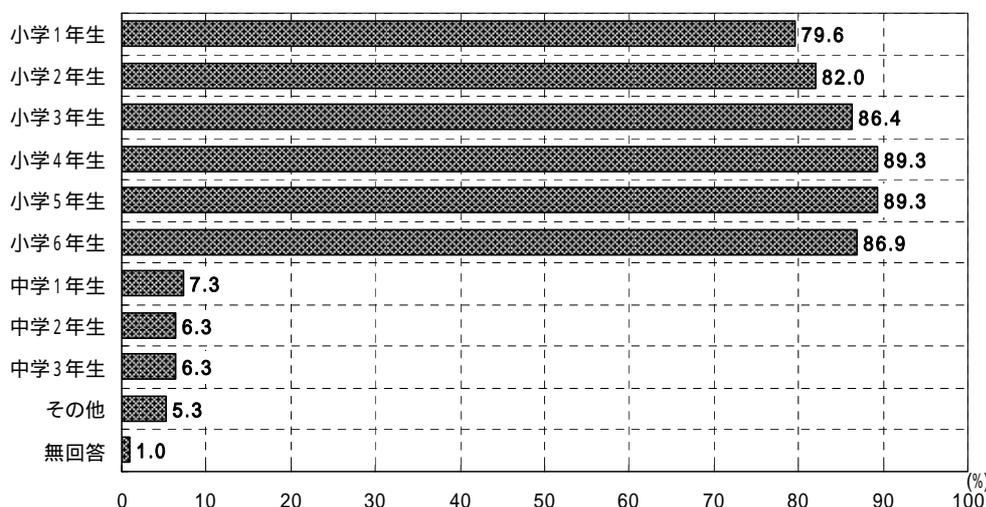


問4 貴校が「地域子ども教室」の活動場所となった理由はどのようなことでしたか。(SA)



問5 貴校で実施されている「地域子ども教室」では、何年生が登録・参加していますか。(MA)

実施学校(N=206, 平均多重回答数=5.4)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問6 貴校で実施されている「地域子ども教室」では、どの学校施設を使用していますか。(MA)

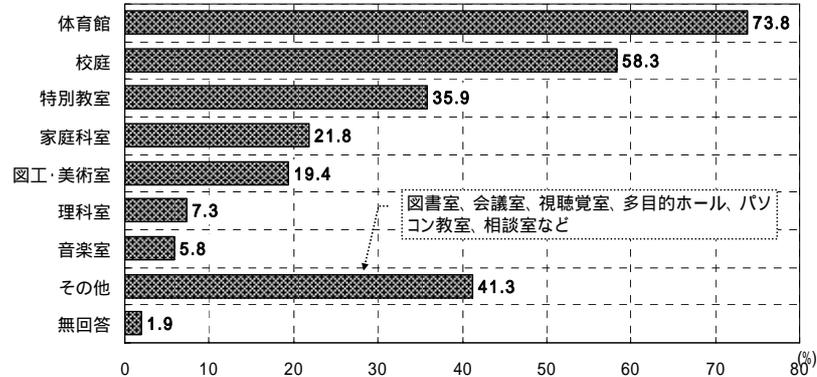
問7 貴校で実施されている「地域子ども教室」には、どのような地域の団体・組織が活動に参加していますか。(MA)

問8 貴校では、貴校で実施されている「地域子ども教室」の活動を、教職員の方が直接ご覧になったことはありますか。(SA)

- ❖ 地域子ども教室で使用している場所について聞いたところ、「体育館」が最も多く、7割を超える学校で使用されている。また「校庭」についても半数以上の学校で使用されている。「その他」については、図書室や多目的ホール、パソコン教室などが挙げられている。
- ❖ 各施設で実施されている地域子ども教室に参加している地域の団体・組織については、「PTA」が最も高い割合となっている。
- ❖ 学校で実施されている地域子ども教室の活動について、教職員が直接見たことがあるかどうかについてみると、「何度かは見たことがある」が51.0%と最も高くなっている。

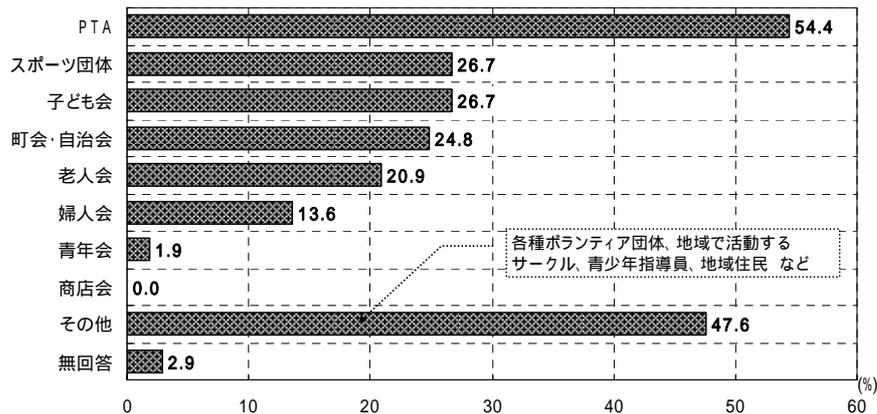
問6 貴校で実施されている「地域子ども教室」では、どの学校施設を使用していますか。(MA)

実施学校(N=206,平均多重回答数=2.6)



問7 貴校で実施されている「地域子ども教室」には、どのような地域の団体・組織が活動に参加していますか。(MA)

実施学校(N=206,平均多重回答数=2.2)



問8 貴校では、貴校で実施されている「地域子ども教室」の活動を、教職員の方が直接ご覧になったことはありますか。(SA)



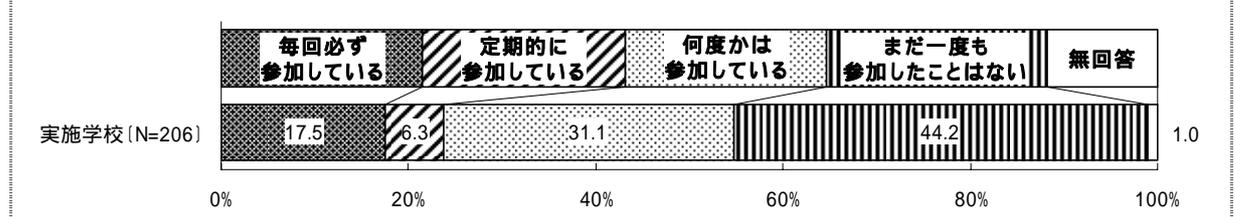
問9 貴校では、貴校で実施されている「地域子ども教室」の活動に、教職員の方が講師やスタッフとして参加されていますか。(SA)

問10 貴校の先生方は、「地域子ども教室」の活動に講師やスタッフとして参加することについてどう思っているようですか。(SA)

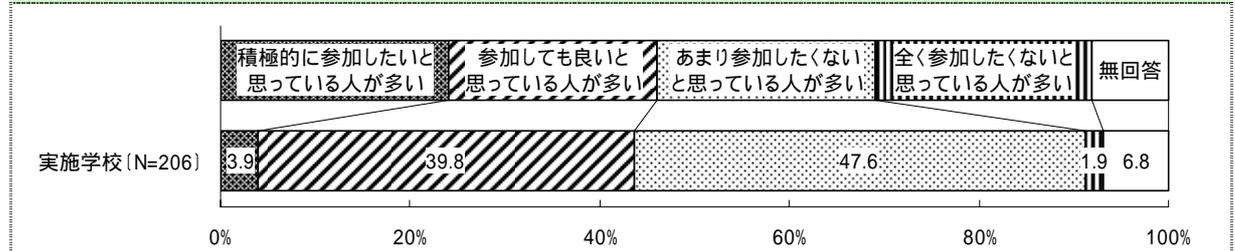
問11 貴校では、「地域子ども教室」の取組について、何か広報活動を行ったり、参加を促進するための働きかけを行ったりしましたか。(SA)

- ❖ 地域子ども教室の活動についての教職員の参加については、「まだ一度も参加したことはない」が44.2%と最も高いが、「毎回必ず参加している」、「何度かは参加している」、「定期的に参加している」を合わせると半数以上が活動に教職員を参加させていることが分かる。
- ❖ 地域子ども教室にスタッフとして参加することについて教職員がどう思っているかを聞いたところ、「あまり参加したくないと思っている人が多い」が47.6%と最も多い。
- ❖ 広報活動や参加促進のための活動についてみると、「教育委員会で作成したチラシを子どもや保護者に配布した」が7割以上と多くの学校で実施されている。

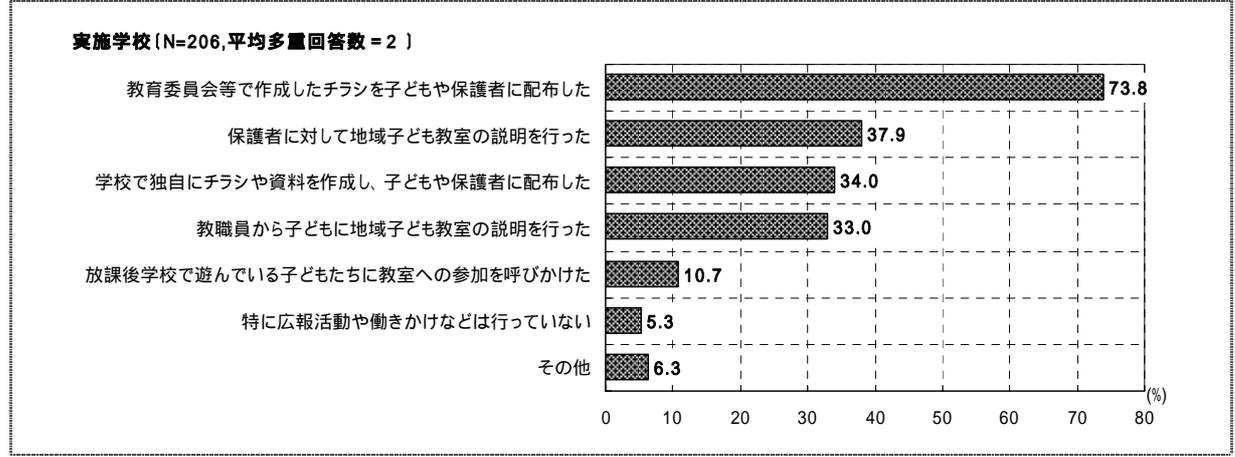
問9 貴校では、貴校で実施されている「地域子ども教室」の活動に、教職員の方が講師やスタッフとして参加されていますか。(SA)



問10 貴校の先生方は、「地域子ども教室」の活動に講師やスタッフとして参加することについてどう思っているようですか。(SA)



問11 貴校では、「地域子ども教室」の取組について、何か広報活動を行ったり、参加を促進するための働きかけを行ったりしましたか。(SA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問12 貴校では、「地域子ども教室」での活動内容について、学校行事や授業などの連携や調整を行ったことはありますか。(MA)

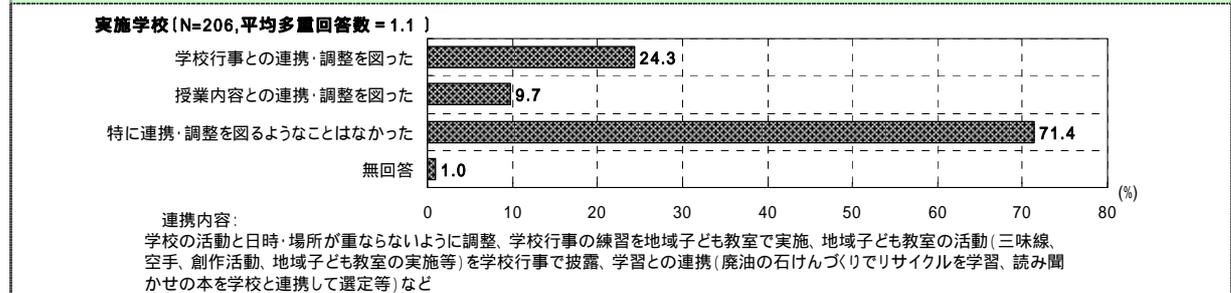
問13 貴校では、「地域子ども教室」の指導員やボランティアと、「地域子ども教室」に参加している子どもについての情報交換や協議・話し合いをされることはありますか。(SA)

問14 問13で「1.定期的に行っている」「2.必要なときに行っている」とお答えの方にお尋ねします。「地域子ども教室」の指導員やボランティアとどのようなことを話し合われますか。(MA)

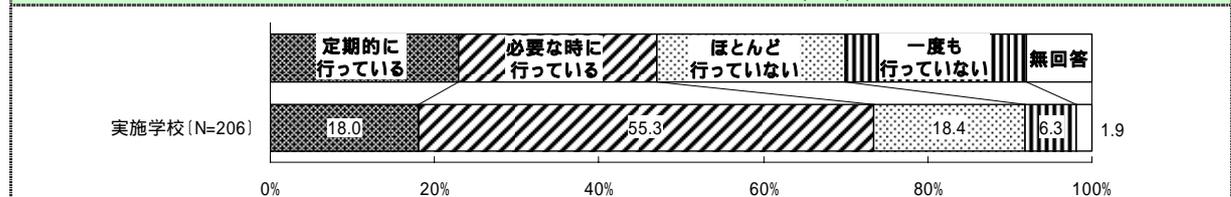
問15 「地域子ども教室」のスタッフと協議や話し合い等を行った結果、貴校の教職員の方の児童理解が進んだと感じましたか。(SA)

- ❖ 学校行事や授業などの連携や調整について、約7割が「特に連携・調整を図るようなことはなかった」としているが、「学校行事との連携・調整を図った」学校も25%近くみられる。
- ❖ 地域子ども教室の指導員やボランティアとの間で情報交換や協議・話し合いを持っているかどうかについては、「必要なときに行っている」が半数以上となっている。
- ❖ 指導員等との話し合いを「定期的に行っている」又は「必要なときに行っている」とした学校に限り、話し合いの内容を聞いたところ、「参加した子どもの態度や様子」が8割以上と最も高くなっている。また、そのような話し合いを行った結果、約8割が教職員の児童理解が進んだと感じている。

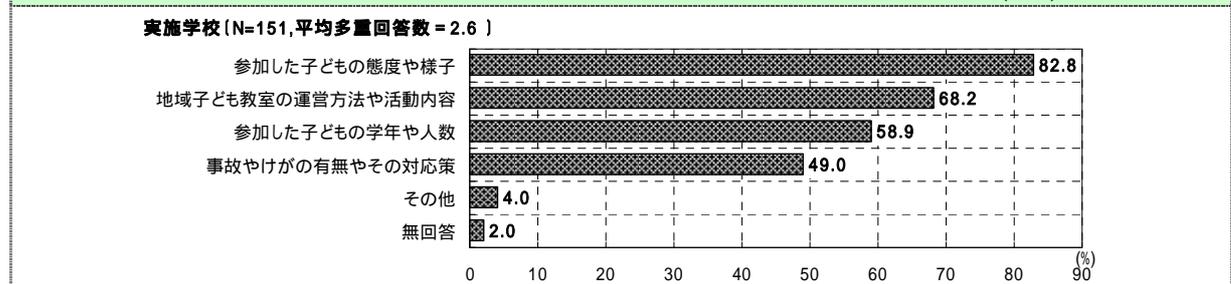
問12 貴校では、「地域子ども教室」での活動内容について、学校行事や授業などの連携や調整を行ったことはありますか。(MA)



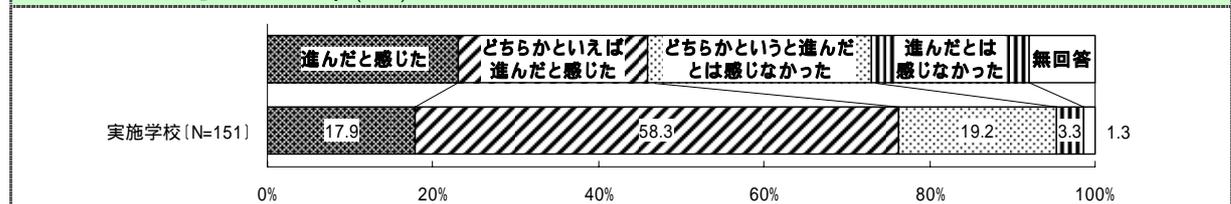
問13 貴校では、「地域子ども教室」の指導員やボランティアと、「地域子ども教室」に参加している子どもについての情報交換や協議・話し合いをされることはありますか。(SA)



問14 「地域子ども教室」の指導員やボランティアとどのようなことを話し合われますか。(MA)



問15 「地域子ども教室」のスタッフと協議や話し合い等を行った結果、貴校の教職員の方の児童理解が進んだと感じましたか。(SA)



問16 貴校が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたって、学校として何か配慮したことはありますか。(MA)

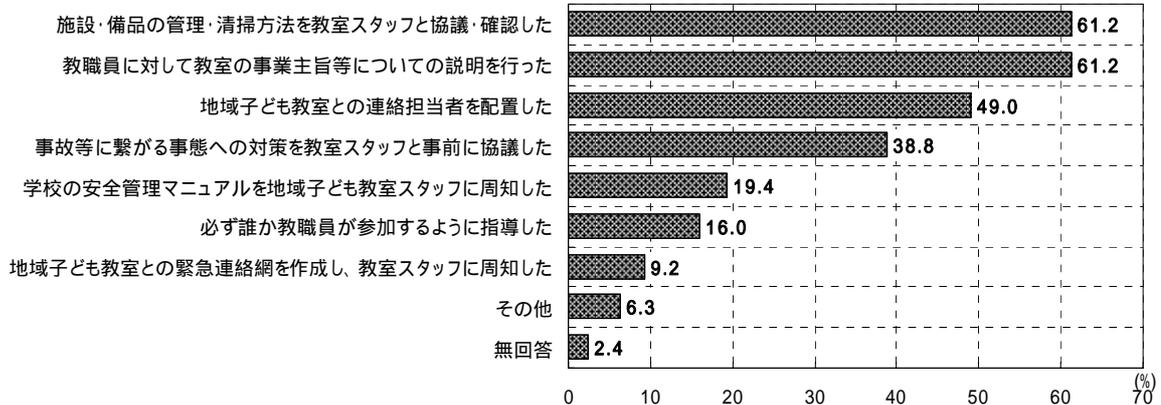
問17 貴校では実施されている「地域子ども教室」の活動において、事件・事故やそれにつながるようなこと、あるいはトラブルなどは、発生しましたか。(SA)

問18 貴校では、「地域子ども教室」の活動場所として学校施設が活用されたことで、学校教育活動や学校運営において何か支障や問題が生じたことはありましたか。(SA)

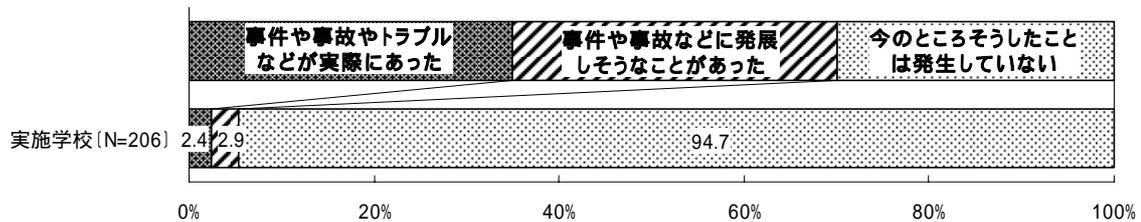
- ❖ 地域子ども教室の実施場所として活用されるにあたって、学校として配慮した点を聞いたところ、「施設や備品等の管理方法や清掃方法についてスタッフと協議・確認した」や「教職員に対して事業趣旨や具体的な活動内容等についての説明を行った」などが60%以上と比較的高い。
- ❖ 事件や事故、トラブルについては、9割以上が「今のところそうしたことは発生していない」と回答している。
- ❖ 学校施設を居場所として活用されたことにより支障や問題が生じたかどうかについても、9割以上が「今のところそうした問題は発生していない」と回答している。

問16 貴校が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたって、学校として何か配慮したことはありますか。(MA)

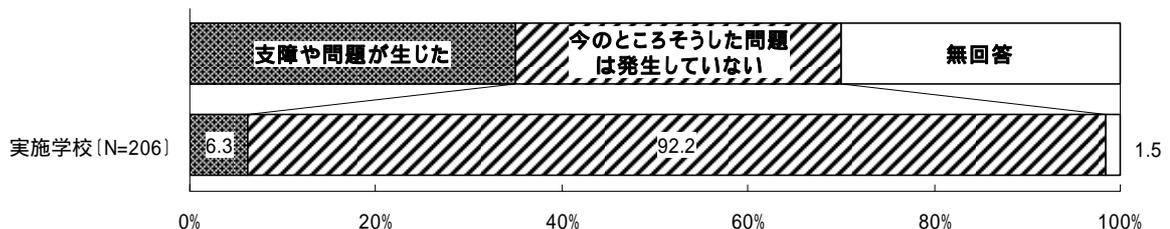
実施学校(N=206,平均多重回答数=2.6)



問17 貴校では実施されている「地域子ども教室」の活動において、事件・事故やそれにつながるようなこと、あるいはトラブルなどは、発生しましたか。(SA)



問18 貴校では、「地域子ども教室」の活動場所として学校施設が活用されたことで、学校教育活動や学校運営において何か支障や問題が生じたことはありましたか。(SA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

(3) 地域子ども教室の実施による子どもや保護者、地域の大人などの変化

問19 地域子ども教室の実施前と実施後と比較して、貴校に通う子どもたちの様子や態度に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)

問20 上記のほかに、特に地域子ども教室を実施してから、学校の子どもたちに大きく変わったことがあれば、ご自由にご回答下さい。

問21 地域子ども教室の実施前と実施後とを比較して、保護者や地域の大人の様子や活動に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)

❖ 地域子ども教室の実施により子どもに見られた変化についてみると、「自分より年下の子どもの面倒をよく見るようになった」や「違う学年の友だちとよく遊ぶようになった」など、様々な学年の子どもと一緒に遊んだり活動したりするようになった点が比較的高く評価されている。

❖ 自由記述回答をみると、子どもが積極的・意欲的になったという点や、異学年交流が進んだという点なども多く挙げられている。

❖ 地域子ども教室の実施により保護者や地域の大人に見られた変化については、「学校の様々な取組に対して、保護者や地域の協力がより得られるようになった」点が最も評価が高く、「学校の様々な取組に対して、学校と保護者・地域とが協働で取り組む機会が増えた」「学校や子どもの問題について、学校と保護者・地域が話し合う機会が増えた」が続いている。

問19 地域子ども教室の実施前と実施後と比較して、貴校に通う子どもたちの様子や態度に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)



問21 地域子ども教室の実施前と実施後とを比較して、保護者や地域の大人の様子や活動に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)



(4) 地域子ども教室の事業効果や今後の進め方

問22 あなたは、地域子ども教室は、どのような点で効果や利点があると思いますか。(MA)

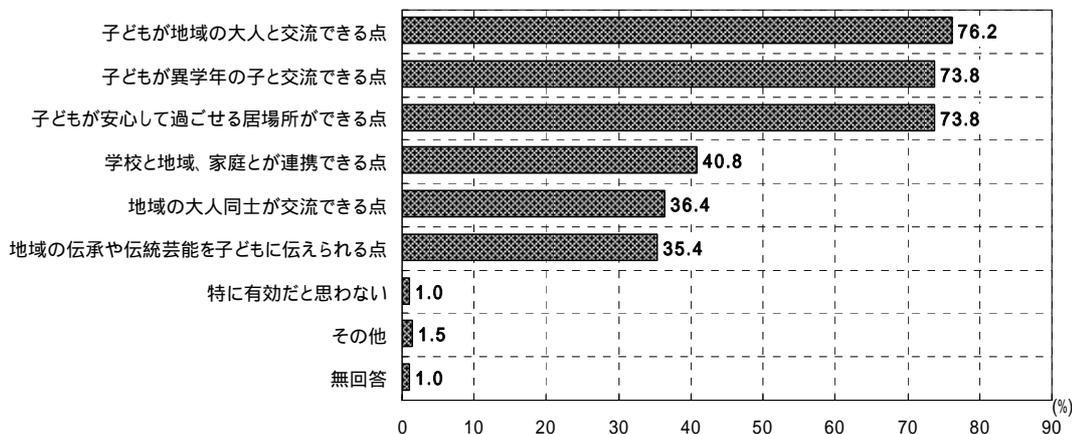
問23 「地域子ども教室」の活動場所として学校施設が活用されることについて、どうお考えになりますか。(SA)

問24 問23で「1.非常に好ましいと思う」「2.好ましいと思う」とお答えの方にお尋ねします。では、好ましいと思う理由は何ですか。(MA)

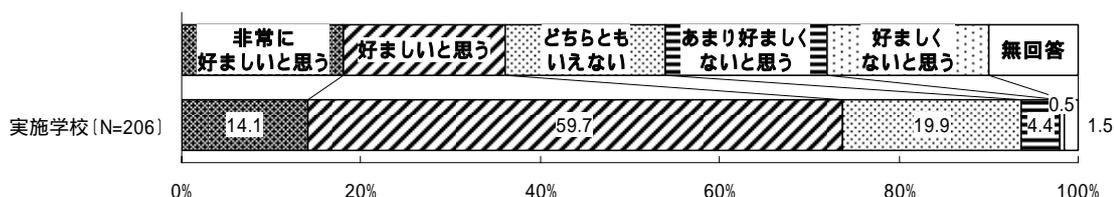
- ❖ 地域子ども教室の事業効果や利点についてみると、「子どもが地域の大人と交流できる点」、や「子どもが異学年の子と交流できる点」、「子どもが安心して過ごせる居場所ができる点」等が高く評価されている。
- ❖ また、学校施設が地域子ども教室の活動場所として活用されることについては、7割以上の実施学校が「好ましい」(「非常に好ましいと思う」+「好ましいと思う」の割合)と評価している。
- ❖ 地域子ども教室の活動場所として学校が活用されることを「好ましい」と思う理由としては、「地域の核となる施設であり、地域の人にとっても参加しやすいから」が最も多くから挙げられており、また「子どもが慣れ親しんでいる施設だから」も7割近くと比較的高い割合となっている。

問22 あなたは、地域子ども教室は、どのような点で効果や利点があると思いますか。(MA)

実施学校(N=206,平均多重回答数=3.4)

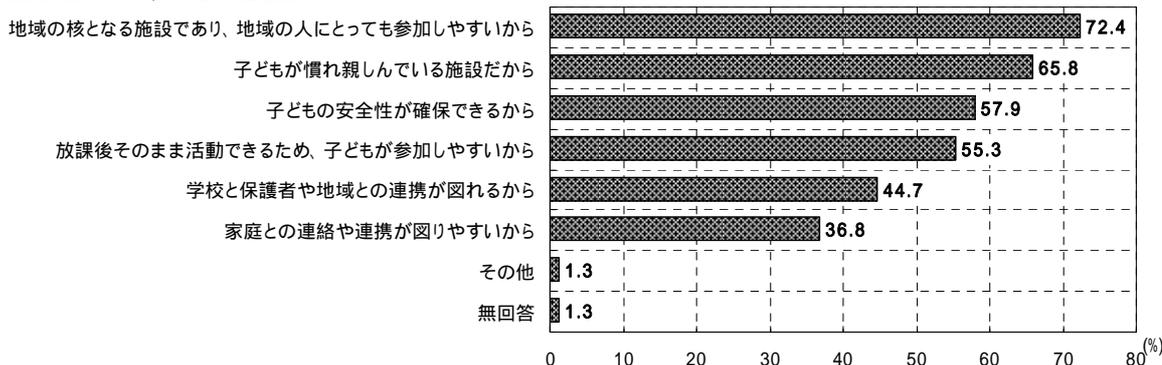


問23 「地域子ども教室」の活動場所として学校施設が活用されることについて、どうお考えになりますか。(SA)



問24 (学校施設が活用されることについて)好ましいと思う理由は何ですか。(MA)

実施学校(N=152,平均多重回答数=3.3)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

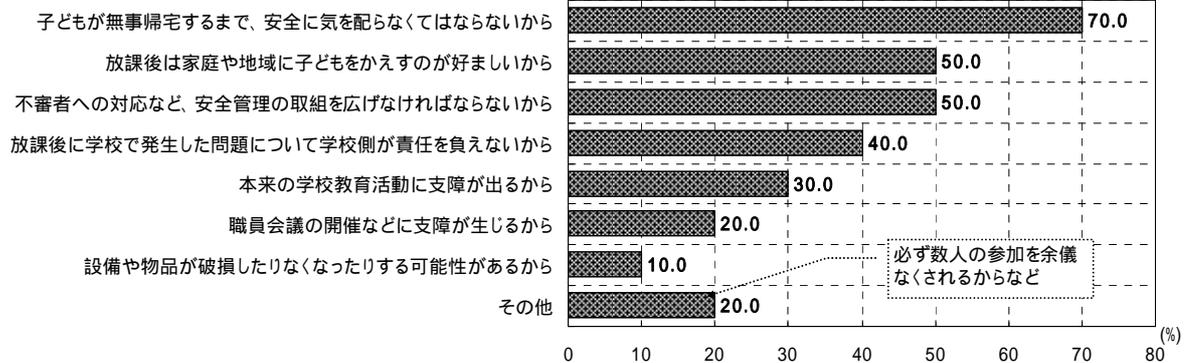
問25 問23で「4.あまり好ましくないと思う」「5.好ましくないと思う」とお答えの方にお尋ねします。では、好ましくないと思う理由は何ですか。(MA)

問26 今後、「地域子ども教室」の活動場所として学校施設を活用するにあたり、どのような課題や改善点があると思いますか。(MA)

- ❖ 学校施設の活用が「好ましくないと思う」理由としては、「子どもが無事帰宅するまで、学校としても安全に気を配らなくてはならないから」が最も多くから挙げられており、子どもの安全確保について不安があることがうかがえる。
- ❖ 地域子ども教室の活動場所として学校施設を活用する上での課題や改善点としては、「子どもの帰宅時の安全管理を強化すること」が最も高い割合となっている。これに次いで、「学校施設における子どもの安全確保の対策を強化すること」や「学校施設の管理について地域子ども教室との連携を図ること」等が挙げられており、子どもの安全の確保や安全・安心な活動場所としての対策について強く意識されていることがうかがえる。

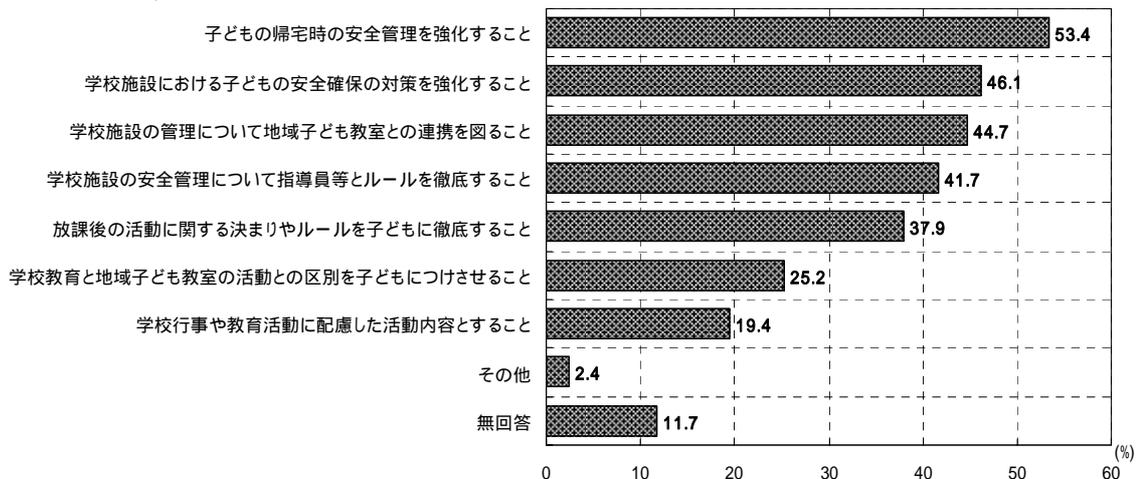
問25 (学校施設が活用されることについて)好ましくないと思う理由は何ですか。(MA)

実施学校(N=10,平均多重回答数=2.7)



問26 今後、「地域子ども教室」の活動場所として学校施設を活用するにあたり、どのような課題や改善点があると思いますか。(MA)

実施学校(N=206,平均多重回答数=2.7)



問27 その他、貴校で「地域子ども教室」を実施した感想や、今後の「地域子ども教室」に望むことなどがあれば、ご自由にお書き下さい。

- ❖ 地域子ども教室を実施した感想や望むことについて自由な意見を聞いたところ、90校の実施学校から回答が得られた。
- ❖ これらの意見の中では、ボランティアへ謝金や教材費の援助など、活動資金の確保への意見が多く挙げられている。また、子どもと地域の人のコミュニケーション、学校と地域との連携など、地域のつながりを生み出したとする意見も比較的多く得られた。

表2-11 「地域子ども教室」を実施した感想や望むことについての意見（FA）《抜粋》

活動のための予算確保が必要である【12件】	子どもの居場所づくりとしては、大変効果が上がっている。参加する子どもの喜びとして顔を見るととてもよい事業であると思う。しかし、その裏には、スタッフの方々の大変なご苦労があってからのことである。ボランティアとはいえ、毎週とにかくすごいエネルギーを使っている。この方々の報酬も何らかのかたちで考えていただきたい。
地域子ども教室の取組が地域のつながりを生み出した【9件】	<p>地域の方が教師となり、指導をしていただくことで、子どもと地域の人のコミュニケーションができて、学校を核とした地域コミュニティが徐々にできつつある。となく希薄になりがちな今の時代にあって、このことの意味は大きいと考える。</p> <p>地域の方々が、この事業の講師として久しぶりに学校に来ていただき、地域に開かれた学校の一助となった。地域の方々と直接話したり、接することができ、交流の場となった。講師としての申し出も多数有り、今後地域のみでこの事業が運営できるとなおい。</p> <p>地域のボランティアの方が学校行事に参加するなど、学校教育に関心を持ち、理解を示して下さるようになった。</p>
保護者の意識が低い【8件】	<p>保護者への啓発活動が不十分であるためもあってか、単に子どもを預かってもらうという意識が大きいようであった。そのため、子どもたち自身も自由に遊んでいけば良いという気持ちが強いようであり、活動内容の発展性等が少ない。指導員の研修等も含め十分の検討をしないと狙いの達成は難しいように思う。</p> <p>保護者の教育力の低下が見られ、指導員(地域の方々)に対する礼儀に多々失礼がある。その事で不快感を持たれ学校不信へもつながりかねないので、子どもの姿等を通じて保護者の啓発の必要を感じている。</p>
地域子ども教室の活動が定着・発展してきた【8件】	<p>年を追うごとに、参加人数が増え、有効な活動が推進されている。市教育委員会を中心とした、実行委員会のスタッフが充実している。</p> <p>PTA を中心にして活動を始めて2年目になるが、特技を持つ地域人材を発掘し、講師依頼をするなど、活動の広がりが見られてきたので、そういう意味での期待がもてる。</p>

2-7. 実施施設に対するアンケート調査結果について

調査対象	全国の220箇所の実行委員会において、地域子ども教室の活動場所として施設を提供した公民館、児童館、コミュニティセンター、地区センター、市民会館などの学校以外の施設（対象市町村数=203市町村）
対象抽出	各実行委員会において任意の地域子ども教室の活動場所となった施設を2箇所抽出 うち1箇所については、子ども・保護者・指導員アンケートを実施（総サンプル数440）
調査方法	実行委員会から各施設長にアンケート票を配布、施設長から直接返送
調査時期	2005.8.22～2005.11.30
回答数	実施施設長 190人（回答数43.2%）

《結果のポイント》

地域子ども教室との関わり

活動場所となった施設の半数近くは、これまで地域子ども教室以外で子どもの健全育成に係る事業は実施していないとしている。

実行委員会に施設として参画しているというケースは約6割でみられる。

当該施設が実施場所となったきっかけとしては、実行委員会からの提案が最も多くなっている。

地域子ども教室の活動への参画や実施上の配慮

各施設での地域子ども教室の活動に対しては、半数前後の施設で職員が毎回必ず活動を見ていたり、あるいは職員が毎回必ず参加しているなど、高い参加状況がみられる。

地域子ども教室に関する広報活動としては、教育委員会等で作成したチラシの配布や施設広報誌への紹介記事の掲載について多くの取組が見られる。

地域子ども教室の活動について特に施設の主催事業等との連携・調整を図るようなことはなかったという施設が多いが、参加している子どもの様子や活動内容についての指導員等との話し合いについては、7割以上の施設が定期的もしくは必要に応じて行っており、それにより施設独自事業の発展がある程度進んだと評価されている。

また施設が活動場所となるにあたっての施設側の配慮点としては、職員に対して事業趣旨や活動内容の説明をしたり、施設や備品の管理方法や清掃方法について指導員等のスタッフと協議・確認したりといったことが比較的多く取り組まれており、実際に事件・事故が発生したケースはほとんどない。

地域子ども教室を通じた子どもや保護者などの変化

子どもの変化としては、異学年の子と遊ぶようになった点や職員の言うことを良く聞くようになった点、ルールや決まりを守れるようになった点などを中心に高く評価されている。

また子どもに声をかけたり遊んだりする大人が増えた点や、子どもと一緒に活動するイベントへの参加者が増えた点などでも変化が感じ取られている。

地域子ども教室の今後のあり方

子どもが安心して過ごせる居場所ができる点や異学年の子や地域の大人と交流できる点などで本事業は高く評価されており、また地域の核となる施設であることから、当該施設が活動場所として活用されることについて好ましいとする意見が多数を占めている。

施設活用上の改善点としては、施設の利用方法に関するルールの子どもの周知徹底が最も多くから指摘されている。

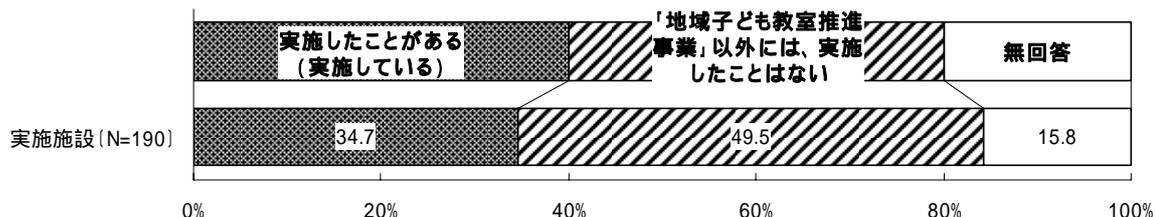
(1) 活動場所となった施設のこれまでの取組

問1 貴施設では、これまでに、「地域子ども教室推進事業」以外で、施設を活用した子どもの健全育成に関する補助事業やモデル事業等を実施したことはありますか。(SA)

問2 問1で「1.実施したことがある(実施している)」とご回答の方にお尋ねします。貴施設で実施した、子どもの健全育成に関する事業について、最新のものから5つまで、ご回答下さい。

- ❖ 地域子ども教室の実施場所として施設が活用された公民館や児童館などの学校以外の施設(以下、「実施施設」という)について、これまでに地域子ども教室以外の子どもの健全育成に関する補助事業やモデル事業等の実施状況をきいたところ、「実施したことがある(実施している)」が34.7%、「地域子ども教室推進事業以外には実施したことはない」が49.5%であった。
- ❖ 地域子ども教室以外の事業の実施内容は、世代間交流を目的とした活動や料理や科学実験など子どもがじっくりと取り組める講座の他、県警による少年補導の現状や子育て学習など、大人を対象とした事業等が実施されている。
- ❖ これまでに実施された子どもの健全育成に関する事業について事業主体から分類すると、約4割が都道府県・市町村が事業主体となっており、公民館等の施設自身が事業主体となっているものは約3分の1である。

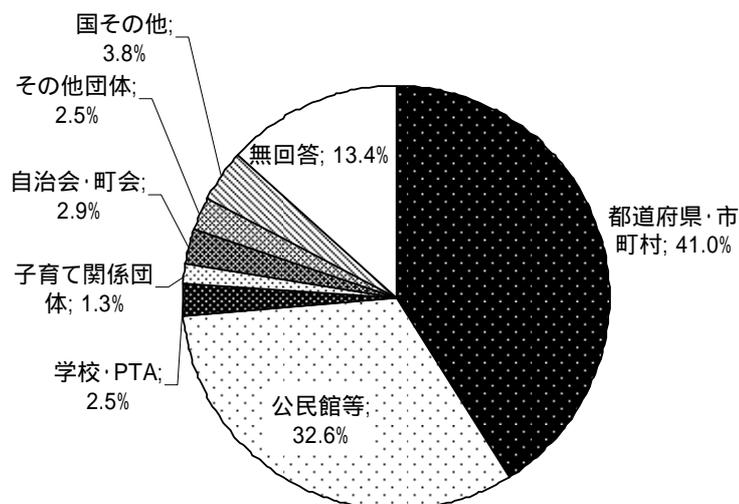
問1 貴施設では、これまでに、「地域子ども教室推進事業」以外で、施設を活用した子どもの健全育成に関する補助事業やモデル事業等を実施したことはありますか。(SA)



問2 貴施設で実施した、子どもの健全育成に関する事業について、最新のものから5つまで、ご回答下さい。

世代間交流(スポーツ、作品展、もちつきなど)、教室・講座(絵画、料理、科学実験等)

各施設で実施している子どもの健全育成に関する事業の実施主体
実施施設(回答総事業数 N=239)

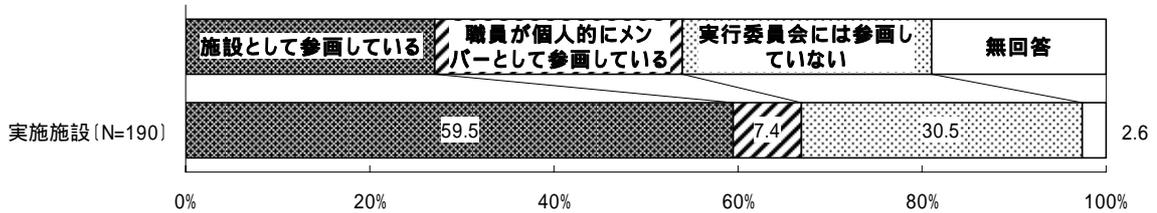


(2) 地域子ども教室との関わり

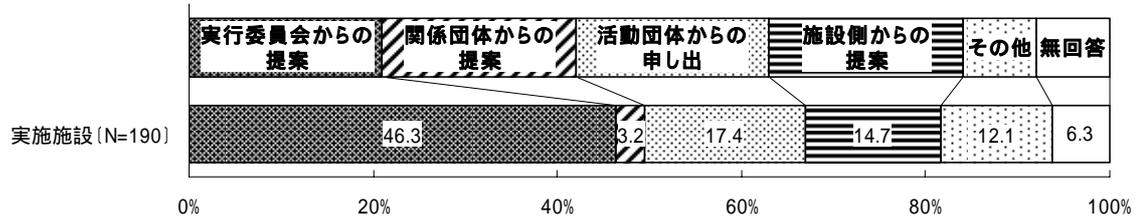
- 問3 貴施設が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたり、このアンケートを配られた実行委員会(市町村レベルの実行委員会)に委員として参画していらっしゃいますか。(SA)
- 問4 貴施設が「地域子ども教室」の活動場所となった理由はどのようなことでしたか。(SA)
- 問5 貴施設で実施されている「地域子ども教室」では、何年生が登録・参加していますか。(MA)

- ❖施設としての実行委員会への参画状況をみると、59.5%が「施設として参画している」としている。
- ❖地域子ども教室の活動場所となったきっかけは「実行委員会からの提案」が46.3%と最も多く、次いで「活動団体からの申し出」が17.4%、「施設側からの提案」が14.7%となっている。
- ❖施設で実施されている地域子ども教室に登録・参加している子どもの学年については、小学生の各学年が8割以上となっており、中学生については2~3割程度みられる。

問3 貴施設が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたり、このアンケートを配られた実行委員会(市町村レベルの実行委員会)に委員として参画していらっしゃいますか。(SA)

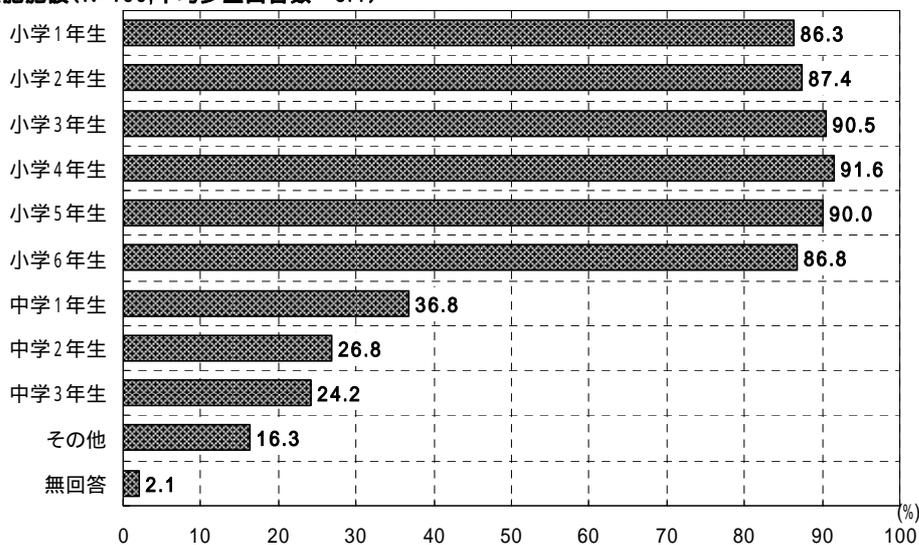


問4 貴施設が「地域子ども教室」の活動場所となった理由はどのようなことでしたか。(SA)



問5 貴施設で実施されている「地域子ども教室」では、何年生が登録・参加していますか。(MA)

実施施設(N=190,平均多重回答数=6.4)



問6 貴施設で実施されている「地域子ども教室」には、どのような地域の団体・組織が活動に参加していますか。(MA)

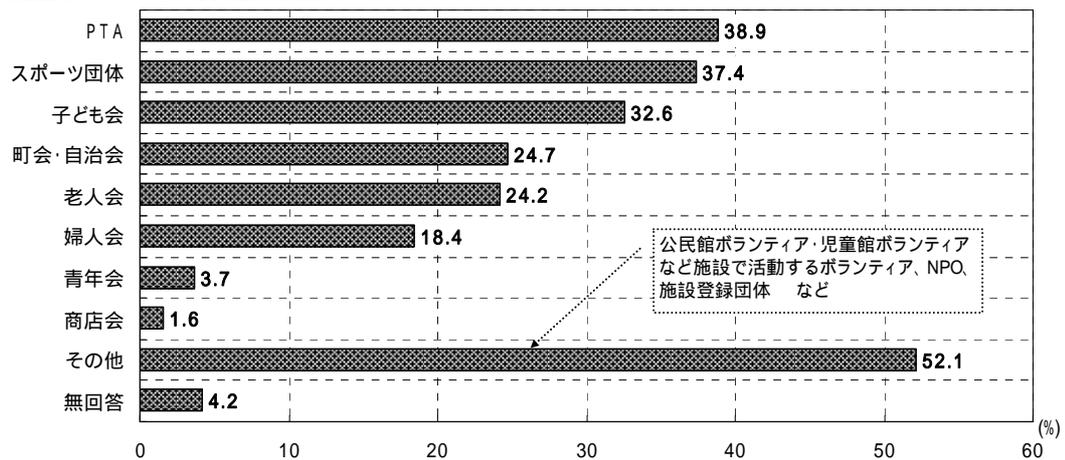
問7 貴施設では、貴施設で実施されている「地域子ども教室」の活動を、職員の方が直接ご覧になったことはありますか。(SA)

問8 貴施設では、貴施設で実施されている「地域子ども教室」の活動に、職員の方が講師やスタッフとして参加されていますか。(SA)

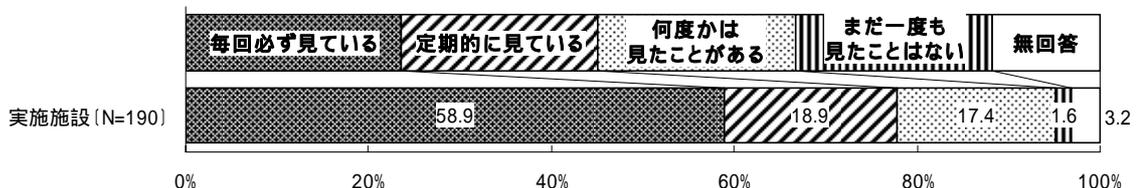
- ❖各施設で実施されている地域子ども教室に参加している地域の団体・組織についてみると、「PTA」や「スポーツ団体」、「子ども会」などが比較的参加している。
- ❖また「その他」としては、公民館ボランティアや児童館ボランティアなどの各施設にて登録・活動しているボランティアや、施設利用団体、NPOなどが挙げられている。
- ❖各施設で実施されている地域子ども教室の活動については、職員が「毎回必ず見ている」という施設が58.9%と最も多い。また職員のスタッフとしての参加状況についても、「毎回必ず参加している」が42.1%と高く、「何度かは参加している」、「定期的に参加している」とあわせると約8割の施設が活動に職員を参加させていることが分かる。

問6 貴施設で実施されている「地域子ども教室」には、どのような地域の団体・組織が活動に参加していますか。(MA)

実施施設(N=190,平均多重回答数=2.3)



問7 貴施設では、貴施設で実施されている「地域子ども教室」の活動を、職員の方が直接ご覧になったことはありますか。(SA)



問8 貴施設では、貴施設で実施されている「地域子ども教室」の活動に、職員の方が講師やスタッフとして参加されていますか。(SA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

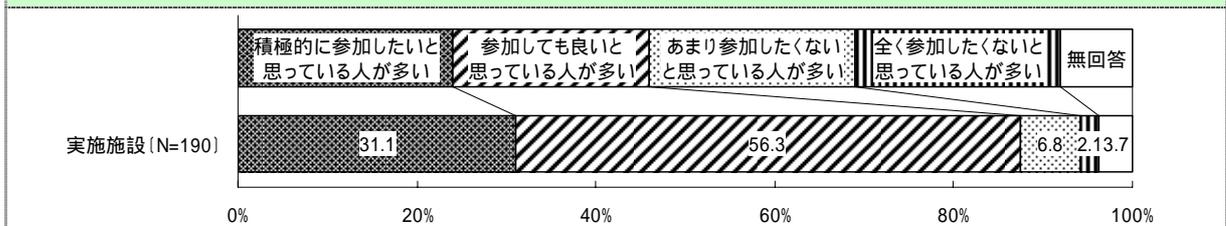
問9 貴施設の職員は、「地域子ども教室」の活動に講師やスタッフとして参加することについてどう思っているようですか。(SA)

問10 貴施設では、「地域子ども教室」の取組について、何か広報活動を行ったり、参加を促進するための働きかけを行ったりしましたか。(SA)

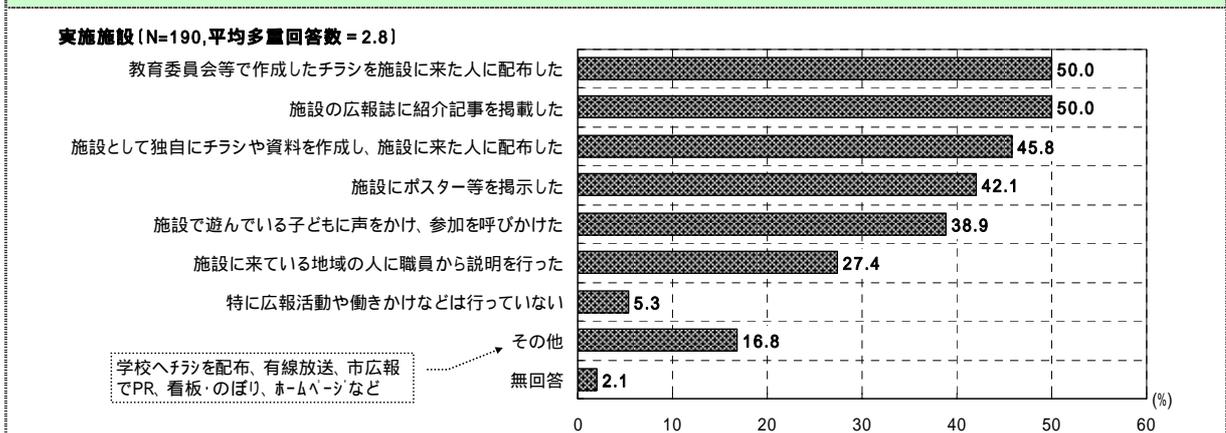
問11 貴施設では、「地域子ども教室」での活動内容について、施設の主催事業などとの連携や調整を行ったことはありますか。(SA)

- ❖ 各施設で実施されている地域子ども教室にスタッフとして参加することについては、「積極的に参加したいと思っている人が多い」が約3割と高く、「参加してもよいと思っている人が多い」とあわせると、9割近くがスタッフとしての活動への参加に積極的である。
- ❖ 施設として実施した広報活動としては、「教育委員会で作成したチラシを施設に来た人に配布した」や「施設の広報誌に紹介記事を掲載した」が多くの施設で取り組まれている。
- ❖ 地域子ども教室の活動と施設の事業との連携や調整についてみると、「施設の主催事業との連携・調整を図った」が45.8%であり、具体的には、日時・場所の調整の他、地域子ども教室での活動成果を施設の行事で発表するなどの連携を図っており、日頃の活動を家族に発表したり、理解を得たりする機会となっている。

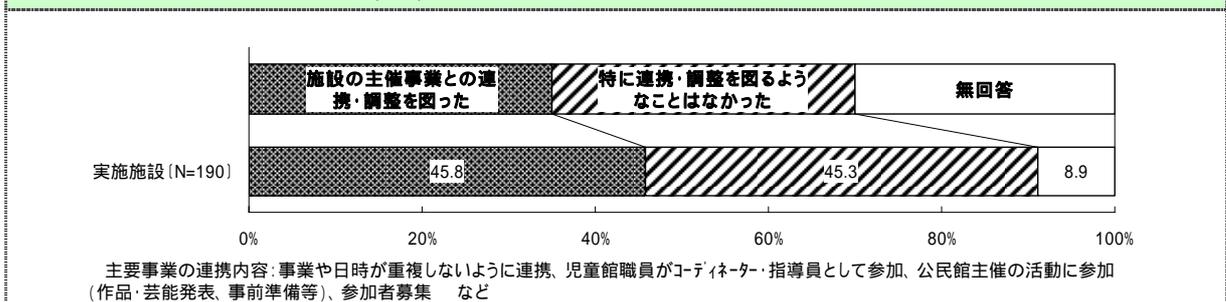
問9 貴施設の職員は、「地域子ども教室」の活動に講師やスタッフとして参加することについてどう思っているようですか。(SA)



問10 貴施設では、「地域子ども教室」の取組について、何か広報活動を行ったり、参加を促進するための働きかけを行ったりしましたか。(SA)



問11 貴施設では、「地域子ども教室」での活動内容について、施設の主催事業などとの連携や調整を行ったことはありますか。(SA)



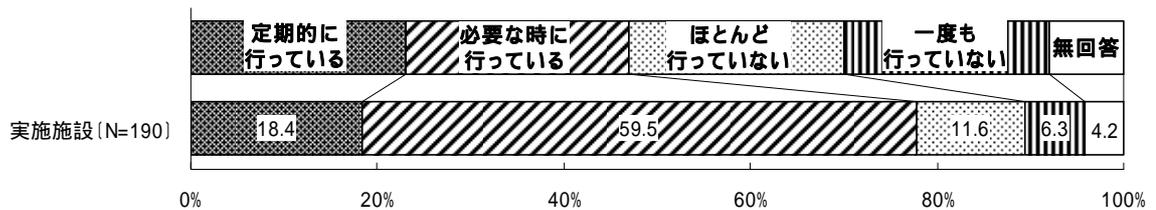
問12 貴施設では、「地域子ども教室」の指導員やボランティアと、「地域子ども教室」に参加している子どもについての情報交換や協議・話し合いをされることはありますか。(SA)

問13 問12で「1.定期的に行っている」「2.必要なときに行っている」とお答えの方にお尋ねします。「地域子ども教室」の指導員やボランティアとどのようなことを話し合われますか。(MA)

問14 「地域子ども教室」のスタッフと協議や話し合い等を行った結果、貴施設においてよりよい事業展開や施設独自の事業の発展などが進んだと感じましたか。(SA)

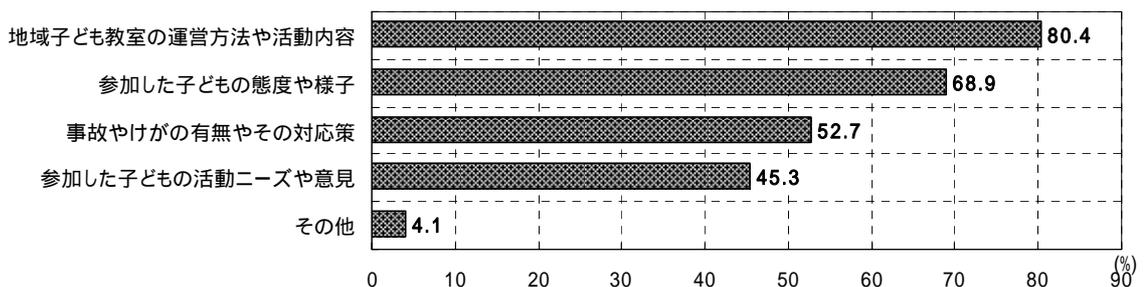
- ❖ 各施設が地域子ども教室の指導員やボランティアとの間で情報交換や協議・話し合いを持っているかどうかについては、「必要なときに行っている」が半数以上となっている。
- ❖ 指導員等との話し合いを「定期的に行っている」又は「必要なときに行っている」とした施設に限り、どのような内容の話し合いを行っているかについて聞いたところ、「地域子ども教室の運営方法や活動内容」が80.4%と最も高い割合となっている。
- ❖ 指導員等との話し合いを行っている施設に対して、そのような話し合いを行った結果よりよい事業展開や独自事業の発展が進んだかを聞いたところ、「進んだと感じた」が37.8%と比較的高く、「どちらかといえば進んだと感じた」とあわせると9割以上が施設の事業展開に有効だったと感じていることが分かる。

問12 貴施設では、「地域子ども教室」の指導員やボランティアと、「地域子ども教室」に参加している子どもについての情報交換や協議・話し合いをされることはありますか。(SA)

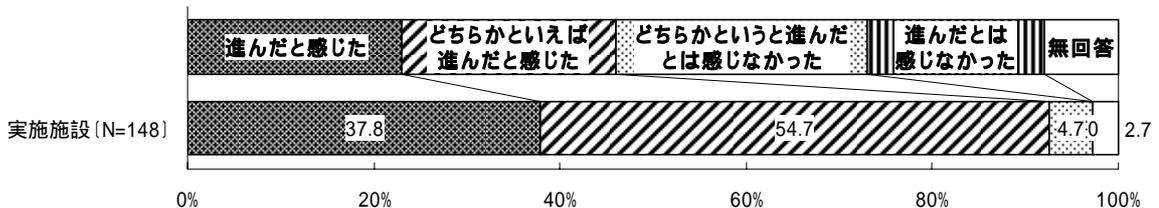


問13 「地域子ども教室」の指導員やボランティアとどのようなことを話し合われますか。(MA)

実施施設 (N=148, 平均多重回答数 = 2.5)



問14 「地域子ども教室」のスタッフと協議や話し合い等を行った結果、貴施設においてよりよい事業展開や施設独自の事業の発展などが進んだと感じましたか。(SA)



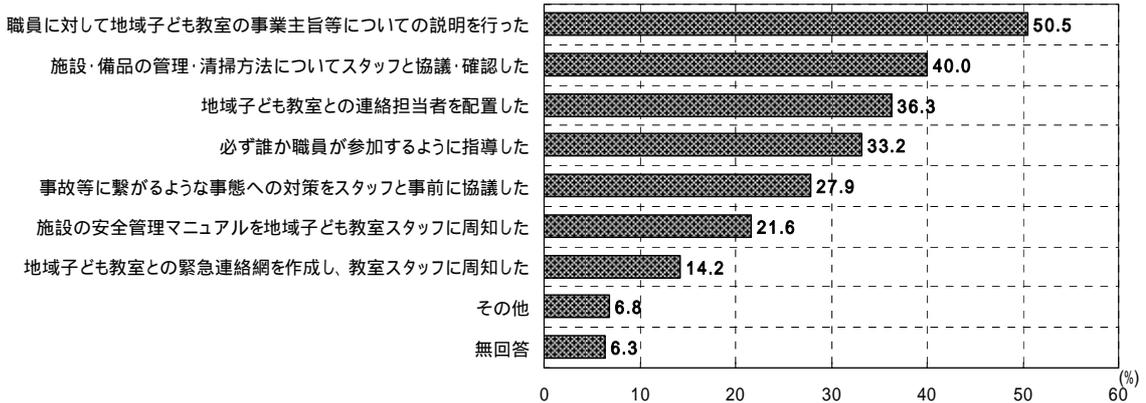
第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

- 問15 貴施設が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたって、施設として何か配慮したことはありますか。(MA)
- 問16 貴施設では実施されている「地域子ども教室」の活動において、事件・事故やそれにつながるようなこと、あるいはトラブルなどは、発生しましたか。(SA)
- 問17 貴施設では、「地域子ども教室」の活動場所として施設が活用されたことで、施設の事業運営において何か支障や問題が生じたことはありましたか。(SA)

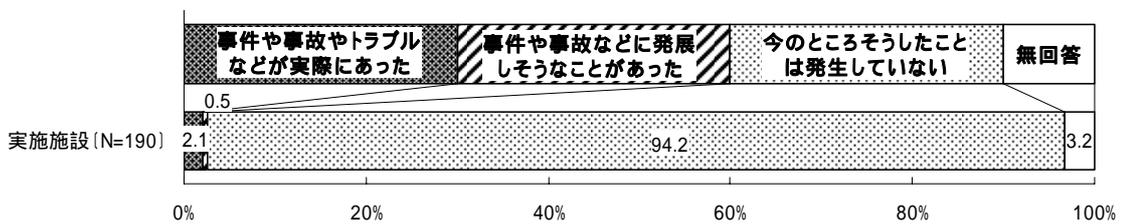
- ❖ 地域子ども教室の実施場所として活用されるにあたって、施設として配慮したこととしては、「職員に対して事業趣旨や具体的な活動内容等についての説明を行った」が50%以上と最も高くなっている。
- ❖ また実施施設のうち9割以上が、事件や事故、トラブルなどは「今のところ発生していない」と回答している。
- ❖ 施設を居場所として活用されたことにより支障や問題が生じたかどうかについても、9割以上が「今のところそうした問題は発生していない」と回答している。

問15 貴施設が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたって、施設として何か配慮したことはありますか。(MA)

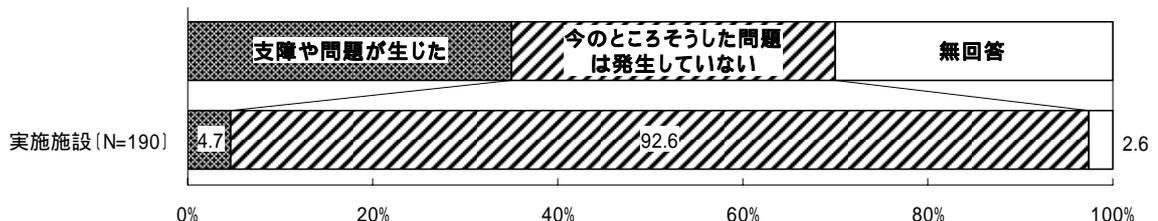
実施施設(N=190,平均多重回答数=2.3)



問16 貴施設では実施されている「地域子ども教室」の活動において、事件・事故やそれにつながるようなこと、あるいはトラブルなどは、発生しましたか。(SA)



問17 貴施設では、「地域子ども教室」の活動場所として施設が活用されたことで、施設の事業運営において何か支障や問題が生じたことはありましたか。(SA)



(3) 地域子ども教室の実施による子どもや地域の大人などの変化

問18 地域子ども教室の実施前と実施後と比較して、施設に来る子どもたちの様子や態度に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)

問19 上記のほかに、特に地域子ども教室を実施してから、施設に来る子どもたちに大きく変わったことがあれば、ご自由にご回答下さい。

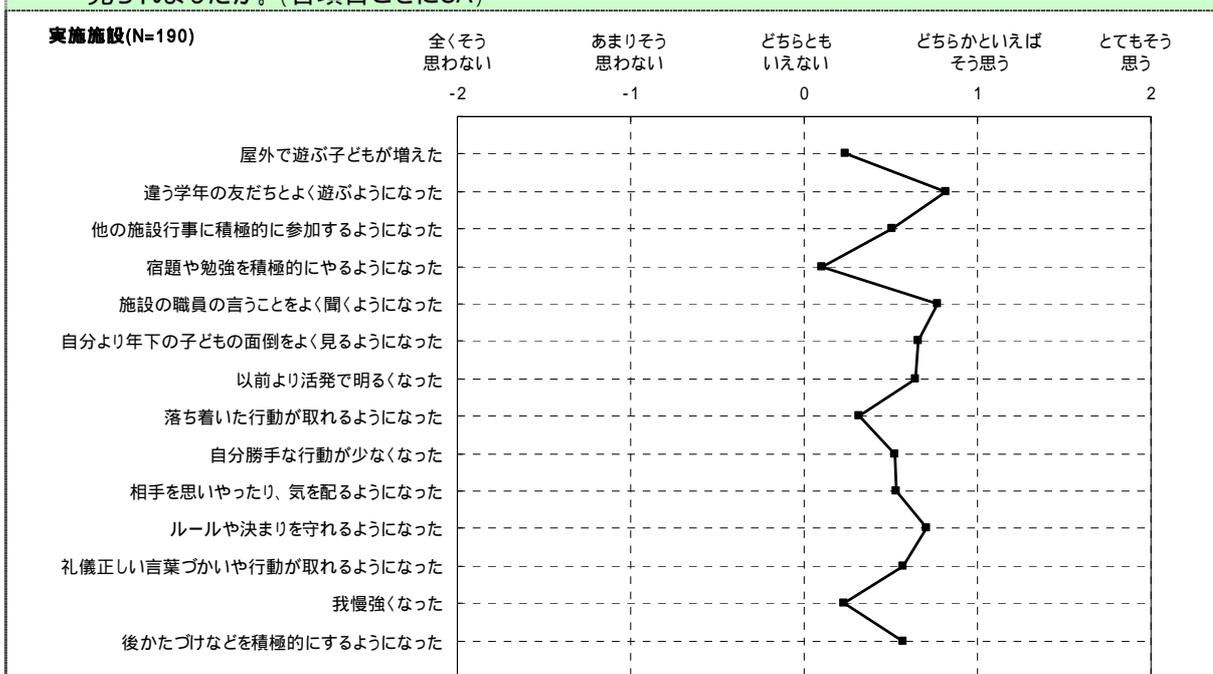
問20 地域子ども教室の実施前と実施後とを比較して、施設を利用する地域の大人に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)

❖ 地域子ども教室の実施により子どもに見られた変化についてみると、「違う学年の友だちとよく遊ぶようになった」点や「施設職員の言うことをよく聞くようになった」、「ルールや決まりを守れるようになった」などの点が高く評価されている。

❖ 自由記述回答をみると、施設を利用する子どもが増えたという点や、子どもの規範性や社会性が向上したという点なども挙げられている。

❖ 地域子ども教室の実施により施設を利用する地域の大人に見られた変化については、「子どもに声をかけたり、遊んだりする人が増えた」や「子どもと一緒に活動する事業やイベントへの参加者が増えた」などは比較的评价が高い。

問18 地域子ども教室の実施前と実施後と比較して、施設に来る子どもたちの様子や態度に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)



問20 地域子ども教室の実施前と実施後とを比較して、施設を利用する地域の大人に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

(4) 地域子ども教室の事業効果や今後の進め方

問21 あなたは、地域子ども教室は、どのような点で効果や利点があると思いますか。(MA)

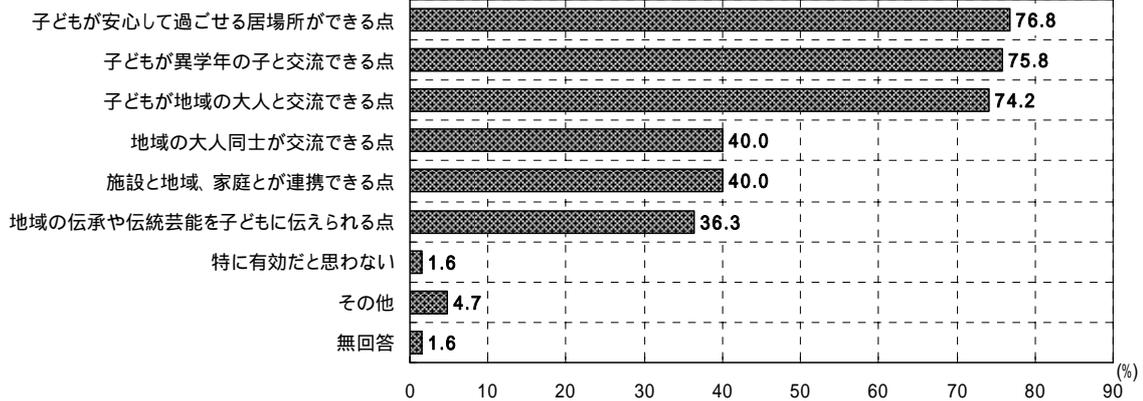
問22 「地域子ども教室」の活動場所として貴施設が活用されることについて、どうお考えになりますか。(SA)

問23 問22で「1.非常に好ましいと思う」「2.好ましいと思う」とお答えの方にお尋ねします。では、好ましいと思う理由は何ですか。(MA)

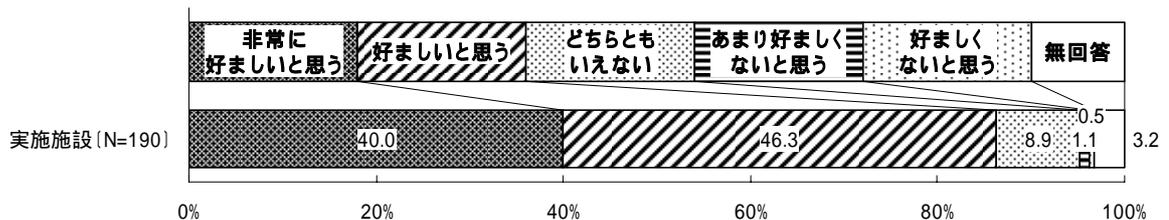
- ❖ 地域子ども教室の事業効果や利点について、居場所となった施設側の評価をみると、「子どもが安心して過ごせる居場所ができる点」や「子どもが異学年の子と交流できる点」、「子どもが地域の大人と交流できる点」などが高く評価されている。
- ❖ また9割近くの実施施設が、地域子ども教室の活動場所として施設が活用されることについて「好ましい」(「非常に好ましいと思う」+「好ましいと思う」の割合)と評価している。
- ❖ 施設が地域子ども教室の活動場所として活用されることを「好ましい」と思う理由としては、「地域の核となる施設であり、地域の人にとっても参加しやすいから」が最も多く挙げられているほか、「保護者にもよく知られている施設であり、家庭との連絡や連携が図りやすいから」や「地域の人の日頃からよく使う施設だから」なども比較的高い割合となっている。

問21 あなたは、地域子ども教室は、どのような点で効果や利点があると思いますか。(MA)

実施施設(N=190,平均多重回答数=3.5)

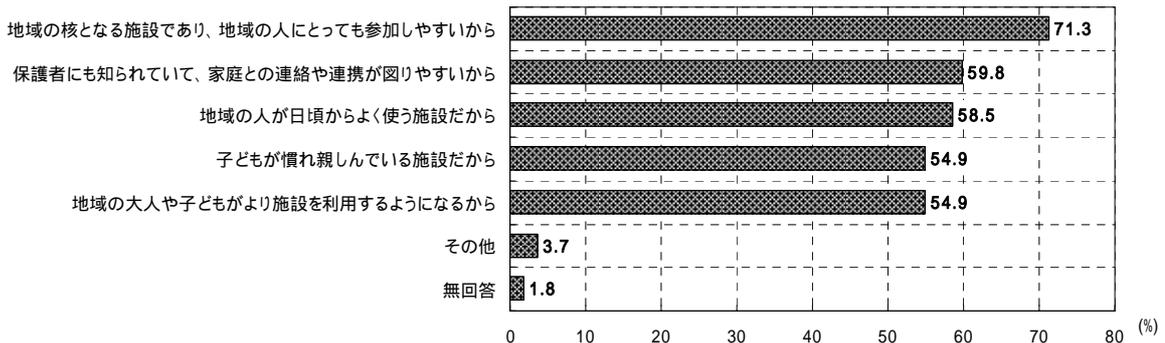


問22 「地域子ども教室」の活動場所として貴施設が活用されることについて、どうお考えになりますか。(SA)



問23 (施設が活用されることについて)好ましいと思う理由は何ですか。(MA)

実施施設(N=164,平均多重回答数=3)



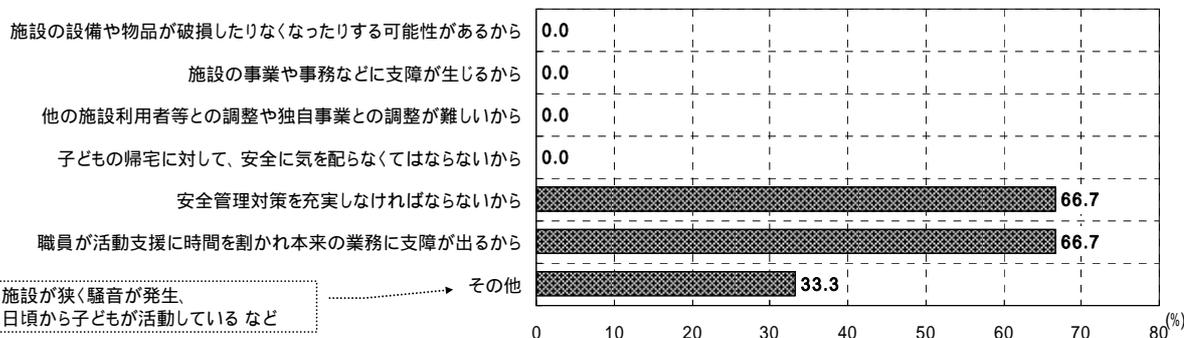
問24 問22で「4.あまり好ましくないと思う」「5.好ましくないと思う」とお答えの方にお尋ねします。では、好ましくないと思う理由は何ですか。(MA)

問25 今後、「地域子ども教室」の活動場所として学校以外の施設を活用するにあたり、どのような課題や改善点があると思いますか。(MA)

- ❖ 地域子ども教室の活動場所として施設を活用することが「あまり好ましくないと思う」あるいは「好ましくないと思う」とした実施施設は3施設のみであったが、その理由としては、「子どもが安心して過ごせる場所としての安全管理対策を充実しなければならないから」及び「職員が地域子ども教室の活動支援に時間を割かれ本来の業務に支障が出るから」が挙げられている。
- ❖ 地域子ども教室の活動場所として学校以外の施設を活用する上での課題や改善点としては、「施設の利用方法に関する決まりやルールを子どもに徹底すること」が最も高い割合となっており、公民館やコミュニティセンターなど、地域の大人の利用が中心となる施設では特に施設利用上のルールの共有が重視されていることが分かる。

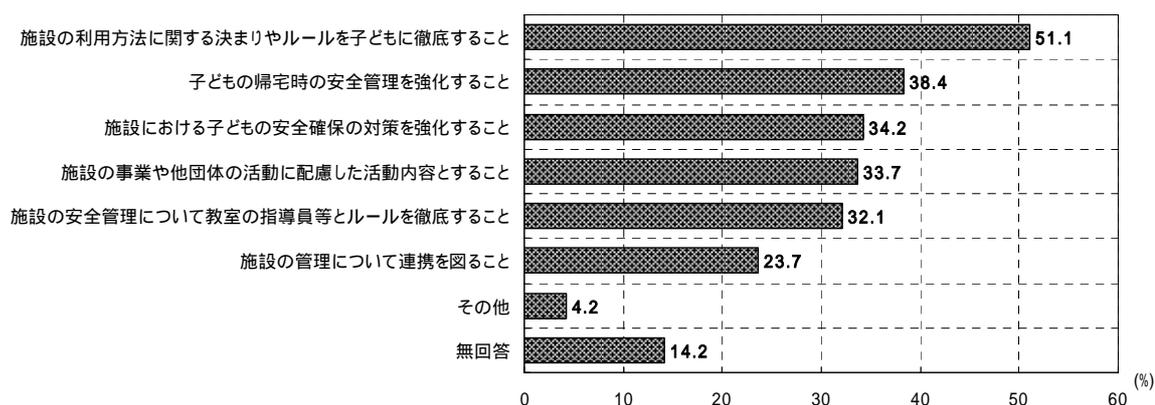
問24 (施設が活用されることについて)好ましくないと思う理由は何ですか。(MA)

実施施設 (N=3)



問25 今後、「地域子ども教室」の活動場所として学校以外の施設を活用するにあたり、どのような課題や改善点があると思いますか。(MA)

実施施設 (N=190, 平均多重回答数 = 2.2)



問26 その他、貴施設で「地域子ども教室」を実施した感想や、今後の「地域子ども教室」に望むことなどがあれば、ご自由にお書き下さい。

- ❖ 地域子ども教室を実施した感想や望むことについて自由な意見を聞いたところ、86 施設の実施施設から回答が得られた。
- ❖ それらの意見の中では、補助金の事業終了後の人材確保や地域子ども教室の維持体制などについての意見が比較的多くみられた。また、地域子ども教室へ参加する子どもが固定化しているため、参加者の拡大を図るための新しい企画が必要であるとの意見も挙げられている。
- ❖ これらのほか、地区住民、小学校、保護者とのコミュニケーションがスムーズに取れるようになったなど、地域のつながりを生み出している効果についての意見も挙げられている。

表2-12 「地域子ども教室」を実施した感想や望むことについての意見（FA）《抜粋》

活動のための予算確保が必要である【21件】	
地域づくりにつながる活動になりつつあるが、国からの支援が18年で終わってしまうと、指導者の拡大をしている中で、どうなるのか心配である。	
予算の内容があまりに細かく決められていて、活動内容にマッチして応用できない。これでは形式的な内容になりがちである。もっと、弾力的な運用ができるよう考えてほしい。	
地域子ども教室の取組が地域のつながりを生み出した【10件】	
地区住民、小学校、保護者とのコミュニケーションがスムーズに取れるようになった。子どもたちの言動が積極的になった。	
参加した子どもたちの当施設の利用状況も理解できた。また、子どもたちと地域住民との交流も図られ、利用効果も増加し、施設の有効利用が図られる。	
地域の保護者(特に父親)の参加が多く、色々なイベントへの発展をした。地域の人材の発掘に役立った。子どもたちを地域で育てる意識が芽生えた。公民館活動が活発になった。	
参加者が少なかったり、固定化したりしている【6件】	
子どもたちの参加人数を増やしたいが、参加できる子どもが偏ってしまっているように思う。町内放送などで呼びかけはやっているが、あまり効果がないように思う。また、新しい内容の子どもの講座など、考えていかなければ、と思う。	
参加者が固定化してきていると考えられるため、参加者の今後の拡大を図ることも含め、新たな企画で対応することが望ましいと考える。	
多くの大人の参加が望まれる【5件】	
平日の子どもの活動時間に子どもたちの世話を下さるボランティアの方が少ない。	
地域の大人たちにより多く参加してもらうことが大事である。大人たちの経験上から、子どもたちに、大人になった時に役に立つような提案をしてほしい。	

2 - 8 . 未実施学校に対するアンケート調査結果について

調査対象	全国の 220 箇所の実行委員会において、地域子ども教室の活動場所とならなかった小学校及び中学校 (対象市町村数 = 203 市町村)
対象抽出	各実行委員会において、地域子ども教室の活動場所とならなかった小学校・中学校から、それぞれ任意の 1校ずつ、計2箇所(小学校1校 + 中学校1校)を抽出 (総サンプル数 小学校 220、中学校 220)
調査方法	実行委員会から各学校長にアンケート票を配布、各学校長から直接返送
調査時期	2005.8.22 ~ 2005.11.30
回 答 数	小学校 106 人 (回答率 48.2%) 中学校 120 人 (回答数 54.5%)

《結果のポイント》

地域子ども教室との関わり

活動場所とならなかった小中学校の多くは、これまで子どもの健全育成に係る事業を実施したことはないとしている。

地域子ども教室については7割以上の小中学校が知っており、地域で実施されていることも6割程度が知っている。しかし、ほとんどの小中学校は、活動場所として各施設を活用することについて打診や提案を受けたり検討したりしたことはないという。

放課後児童対策について

放課後児童クラブ については 38%の小学校で実施されているが、放課後児童クラブ以外の取組を実施しているところはほとんどない。

放課後児童対策を実施した結果見られた子どもの変化としては、異学年の子と遊ぶようになった点や年下の子どもの面倒をみるようになった点で比較的高く評価されている。

一方、保護者や地域の大人の変化まではあまり感じられていない。

地域子ども教室の今後の推進方策

地域子ども教室の活動場所として学校施設が活用されることについては、小中学校ともに4割前後で好ましいとされているが、特に中学校では好ましくないとする意見も2割程度見られる。

学校施設の活用が好ましい理由としては、学校が地域の核となる施設であり、地域の人が参加しやすい点や、放課後子どもがそのまま活動に参加できる点などが多くから挙げられている。

一方、学校施設の活用が好ましくない理由としては、放課後発生した問題について学校が責任を負えないことや、子どもが無事帰宅するまで安全管理に気を配らなければならないことなどが多くから挙げられている。

地域子ども教室の活動場所として今後学校を活用するかどうかについては、小学校では4割以上が活用したいあるいは活用を検討したいとしているのに対して、中学校の4割以上は活用を検討するつもりはないとしている。その理由としては、クラブ活動との調整が難しい点が多くから指摘されている。

活動場所として学校を利用するにあたっての必要事項としては、学校施設の管理を指導員等のスタッフが徹底して行うことや、学校施設の安全管理について指導員等とルールを徹底することなど、施設の安全管理に関する事項が多くなっている。

放課後児童クラブとは、児童福祉の観点から、保護者が労働等により昼間家庭にいない児童に対し、児童厚生施設等の施設を利用して、専用の部屋を確保し、適切な遊びや生活の場を与えて健全育成を図ることを目的に、厚生労働省が実施している放課後児童健全育成事業のことを指す。学童保育と言われることもある。

第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

(1) 子どもの健全育成に係る取組及び地域子ども教室との関わり

問1 貴校では、これまでに学校施設を活用した子どもの健全育成に関する補助事業やモデル事業等を実施したことはありますか。(SA)

問2 問1で「1.実施したことがある(実施している)」とご回答の方にお尋ねします。貴校で実施した、子どもの健全育成に関する事業について、最新のものから5つまで、ご回答下さい。

問3 「地域子ども教室推進事業」について、ご存知でしたか。(SA)

問4 市町村において「地域子ども教室」の実行委員会が組織され、「地域子ども教室推進事業」が実施されていることをご存知でしたか。(SA)

❖ 地域子ども教室の活動場所とならなかった小中学校に対して、子どもの健全育成に関する事業の実施状況を聞いたところ、小学校では約8割が、中学校では9割以上が「実施したことはない」としており、「実施したことがある」という学校は、小学校で16.0%、中学校では5.8%である。

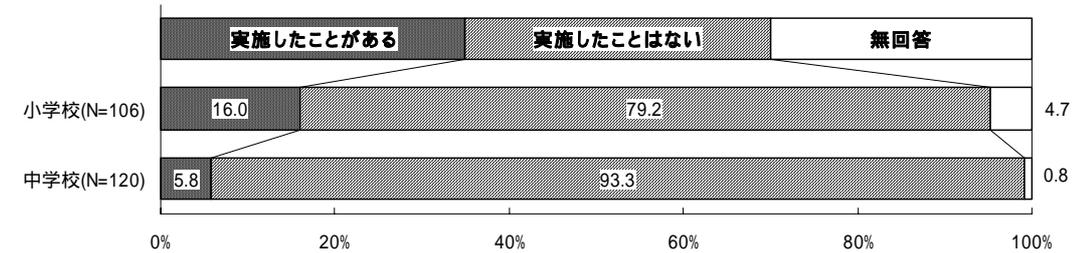
❖ 実施されている事業の内容をみると、学校開放親子教室、サマースクール、子育て支援事業、講演会などが行われている。

❖ 「地域子ども教室推進事業」についての認知度をみると、小学校/中学校ともに7割以上が「知っていた」としており、事業の認知度は高いことが分かる。

❖ また、各学校が立地する市町村において実行委員会が組織され、地域子ども教室推進事業が実施されていたことについても、小学校/中学校ともに65%前後が「知っていた」としており、自地域において事業が展開されていることについて3分の2以上が知っていたことが分かる。

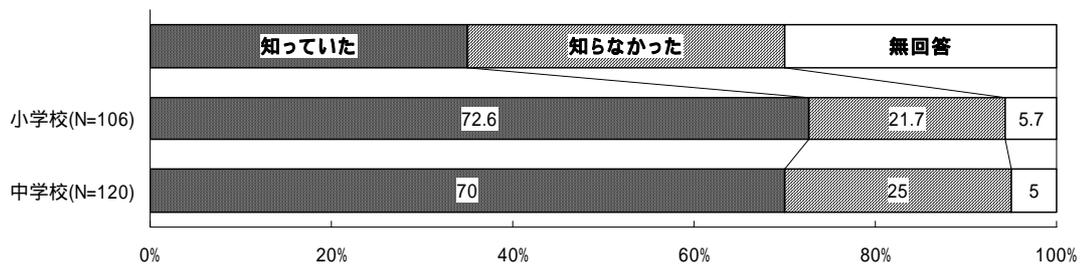
問1 貴校では、これまでに、「地域子ども教室推進事業」以外で、学校施設を活用した子どもの健全育成に関する補助事業やモデル事業等を実施したことはありますか。(SA)

問2 貴校で実施した、子どもの健全育成に関する事業について、最新のものから5つまで、ご回答下さい。

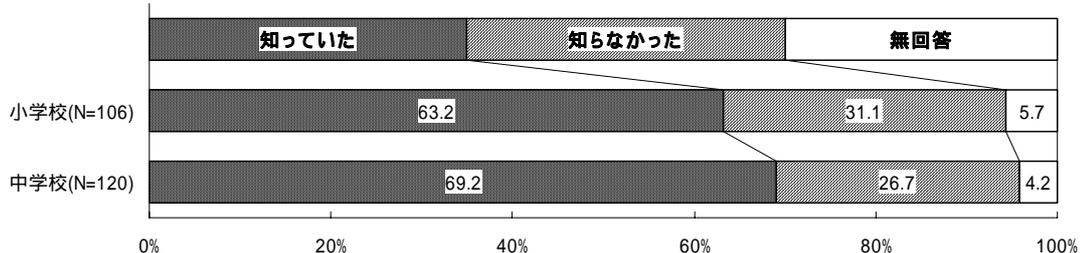


問2 実施している事業の内容：学校開放親子教室、サマースクール、子育て支援事業、講演会など

問3 「地域子ども教室推進事業」について、ご存知でしたか。(SA)



問4 市町村において「地域子ども教室」の実行委員会が組織され、「地域子ども教室推進事業」が実施されていることをご存知でしたか。(SA)

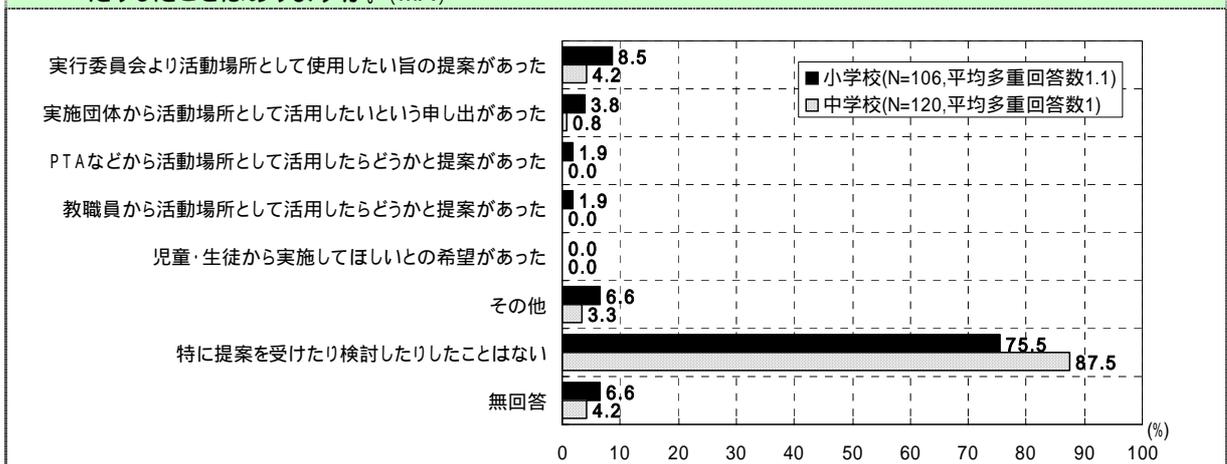


問5 「地域子ども教室」の活動場所として貴校の施設を活用することについて、打診があったり検討をされたりしたことはありますか。(MA)

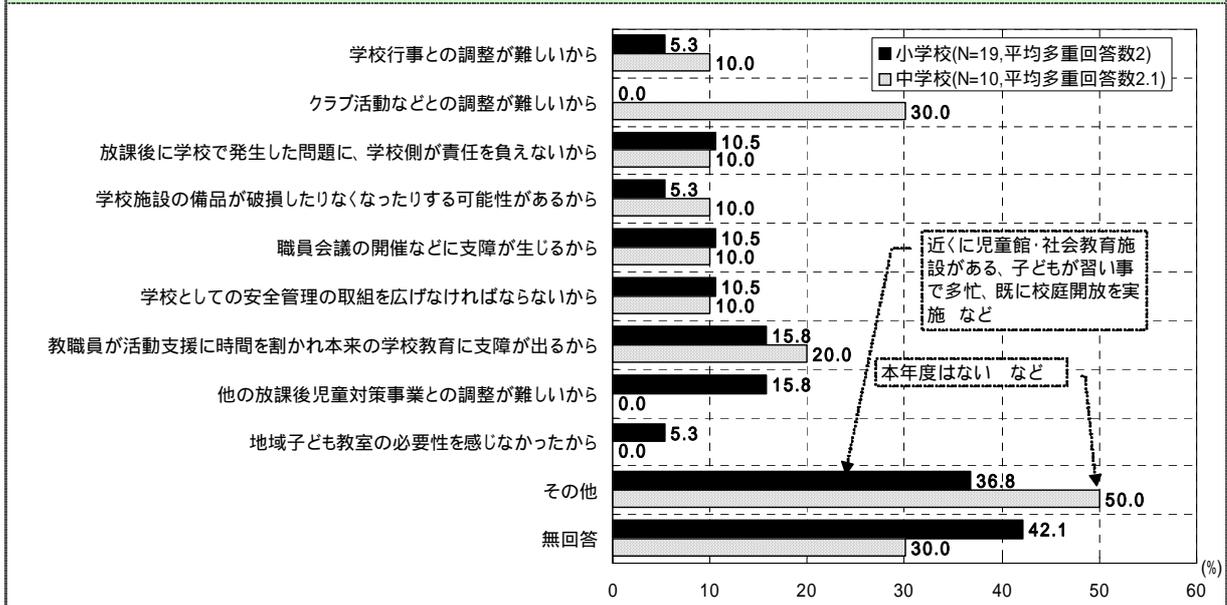
問6 問5で「7.特に本校を活動場所とするかどうか、提案や検討をしたことはない」とお答えの方以外の方にお尋ねします。貴校が「地域子ども教室」の活動場所とならなかった(しなかった)理由はどのようなことですか。(MA)

- ❖ 学校施設を活動場所として活用することについて打診があったり検討されたりしたことがあったかどうかについてみると、小学校/中学校ともに、「特に提案を受けたり検討したりしたことはない」が7~8割と高くなっている。
- ❖ 検討や打診があったという中では、「実行委員会より活動場所として使用したい旨の提案があった」が最も多くなっている。
- ❖ 地域子ども教室における施設の活用について何らかの提案や検討があったという学校に限り、結果的に実施場所とならなかった理由を聞いたところ、「その他」として「近くに本事業を実施する児童館などがあり本校で実施する必要性が低かった」や「子どもが塾などで忙しいから」など様々な理由が挙げられている。これらのほか、中学校では「クラブ活動などとの調整が難しいから」が比較的多くから挙げられている。

問5 「地域子ども教室」の活動場所として貴校の施設を活用することについて、打診があったり検討をされたりしたことはありますか。(MA)



問6 貴校が「地域子ども教室」の活動場所とならなかった(しなかった)理由はどのようなことですか。(MA)



(2) 放課後児童対策について

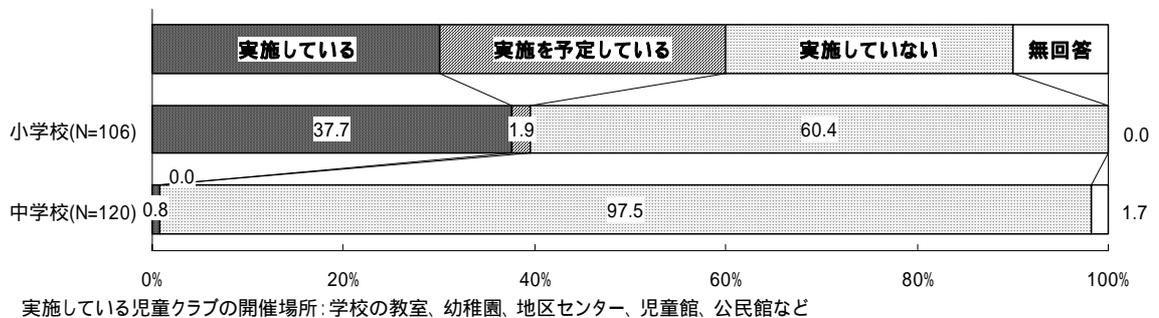
問7 貴校では、放課後児童クラブを実施していますか。(SA)

問8 貴校では、放課後児童クラブ以外に、放課後児童対策に関する取組を実施していますか。(SA)

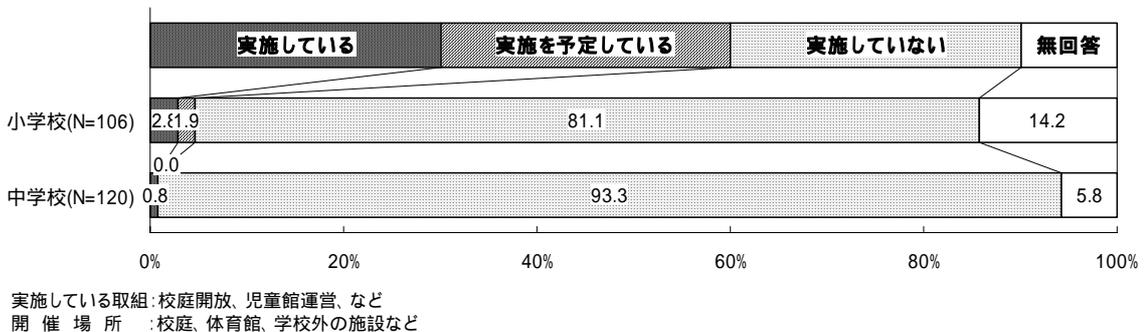
問9 問7又は問8で「1.実施している」とお答えの方にお尋ねします。貴校では、放課後児童対策事業を実施する中で、事件・事故やそれにつながるようなことは、発生しましたか。(SA)

- ❖ 放課後児童クラブの実施状況を見ると、小学校では37.7%が「実施している」としている。
- ❖ 放課後児童クラブ以外に、放課後児童対策に関して取組をしているかどうかを聞いたところ、やはりほとんどの学校で「実施していない」としている。
- ❖ 放課後児童クラブ等の放課後児童対策事業を「実施している」と回答した学校に限り、そのような取組を実施する中で事件や事故、トラブル等が発生したかどうかを聞いたところ、「事件や事故・トラブル等が実際にあった」とした学校は小学校でわずか6%であり、大部分の学校は「今のところそうしたことは発生していない」あるいは無回答であった。

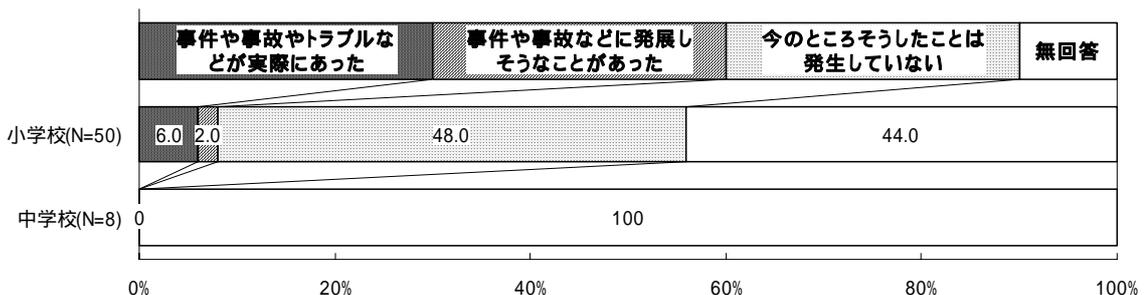
問7 貴校では、放課後児童クラブを実施していますか。(SA)



問8 貴校では、放課後児童クラブ以外に、放課後児童対策に関する取組を実施していますか。(SA)



問9 貴校では、放課後児童対策事業を実施する中で、事件・事故やそれにつながるようなことは、発生しましたか。(SA)

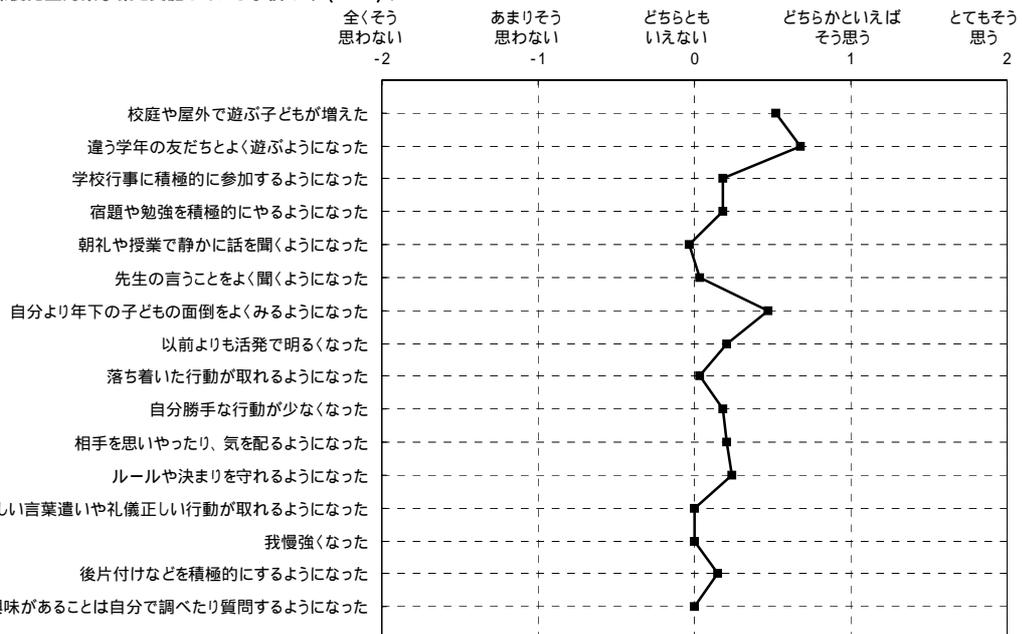


- 問10 問7又は問8で「1.実施している」とお答えの方にお尋ねします。 貴校では、放課後児童対策事業を実施したことにより、実施する前と後とで貴校に通う子どもたちの様子や態度に何か変化が見られましたか。(各項目ごとにSA)
- 問11 上記のほかに、特に放課後児童対策事業を実施してから、学校の子どもたちに大きく変わったことがあれば、ご自由にご回答下さい。
- 問12 問7又は問8で「1.実施している」とお答えの方にお尋ねします。 放課後児童対策事業の実施前と実施後とを比較して、保護者や地域の大人の様子や活動に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)

- ❖ 放課後児童クラブ等の放課後児童対策事業を「実施している」と回答した学校に限り、そのような取組の実施を通じて子どもに変化が見られたかどうかを聞いたところ、「違う学年の友だちとよく遊ぶようになった」や「校庭や屋外で遊ぶ子どもが増えた」、「自分より年下の子どもの面倒をよくみるようになった」などについて、比較的变化が感じられている。
- ❖ その他の子どもの変化(問11)については回答数が少なかったが、いったん帰宅してから学校に遊びに来る子どもが増えたなどが挙げられている。
- ❖ また、そうした事業・取組の実施を通じた保護者や地域の大人の変化については、「学校や子どもの問題について、学校と保護者・地域が話し合う機会が増えた」が比較的評価されているが、全体的に中間値(どちらともいえない)付近に集中しており、あまり保護者や地域の大人の変化までは捉えられていないことが分かる。

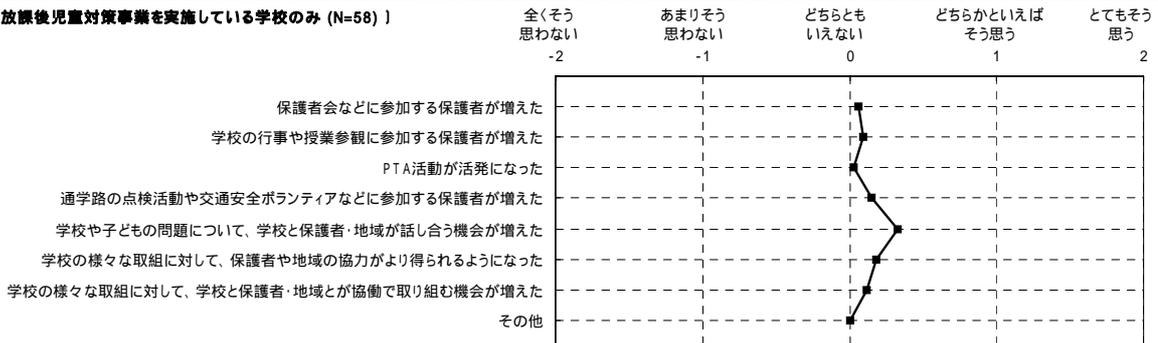
問10 貴校では、放課後児童対策事業を実施したことにより、実施する前と後とで貴校に通う子どもたちの様子や態度に何か変化が見られましたか。(各項目ごとにSA)

(放課後児童対策事業を実施している学校のみ (N=58))



問12 放課後児童対策事業の実施前と実施後とを比較して、保護者や地域の大人の様子や活動に何か変化は見られましたか。(各項目ごとにSA)

(放課後児童対策事業を実施している学校のみ (N=58))



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

(3) 地域子ども教室の今後の推進方策

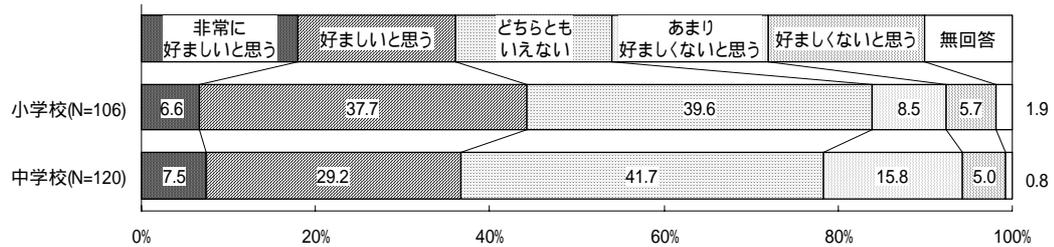
問13 「地域子ども教室」の活動場所として学校施設が活用されることについて、どうお考えになりますか。(SA)

問14 問13で「1.非常に好ましいと思う」「2.好ましいと思う」とお答えの方にお尋ねします。では、好ましいと思う理由は何ですか。(MA)

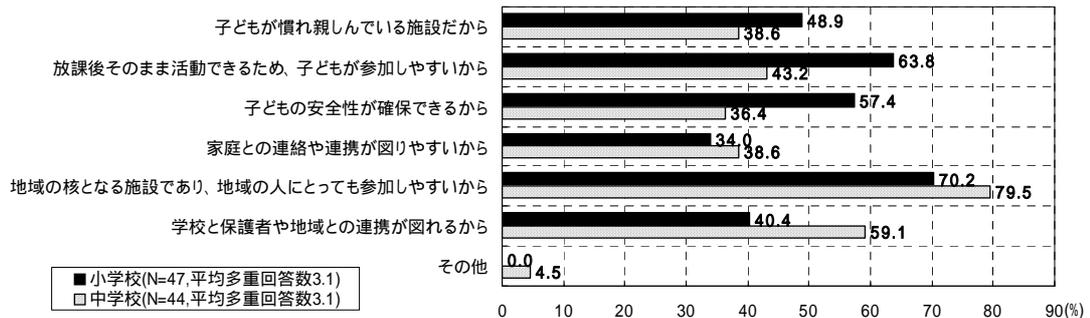
問15 問13で「4.あまり好ましくないと思う」「5.好ましくないと思う」とお答えの方にお尋ねします。では、好ましくないと思う理由は何ですか。(MA)

- ❖ 地域子ども教室の活動場所として学校施設が活用されることについての考えを聞いたところ、小学校/中学校ともに、4割前後の学校が「非常に好ましいと思う」又は「好ましいと思う」としているが、「あまり好ましくないと思う」「好ましくないと思う」という声も中学校では2割程度聞かれる。
- ❖ 「好ましい」と回答した学校に限って、その理由をみると、「地域の核となる施設であり、参加する地域の人にとっても参加しやすいから」が最も多くの学校から挙げられているほか、小学校で特に「放課後そのまま活動できるため、子どもが参加しやすいから」や「子どもの安全性が確保できるから」等も高い割合となっている。
- ❖ 一方、「好ましくない」と回答した学校に限って、その理由をみると、特に小学校において「放課後に学校で発生した問題について、学校側が責任を負えないから」や「子どもが無事帰宅するまで、学校としても安全に気を配らなくてはならないから」など子どもの放課後の活動に対する安全性の確保を心配する声が高い。

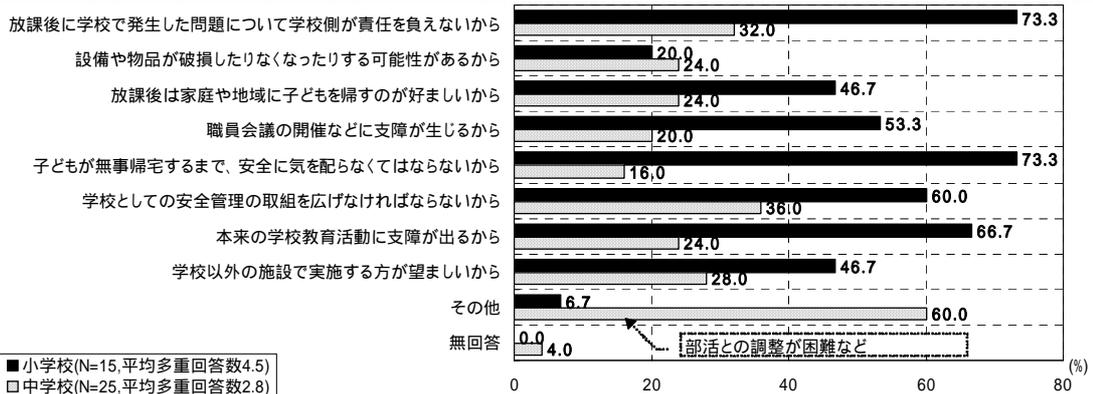
問13 「地域子ども教室」の活動場所として学校施設が活用されることについて、どうお考えになりますか。(SA)



問14 好ましいと思う理由は何ですか。(MA)



問15 好ましくないと思う理由は何ですか。(MA)

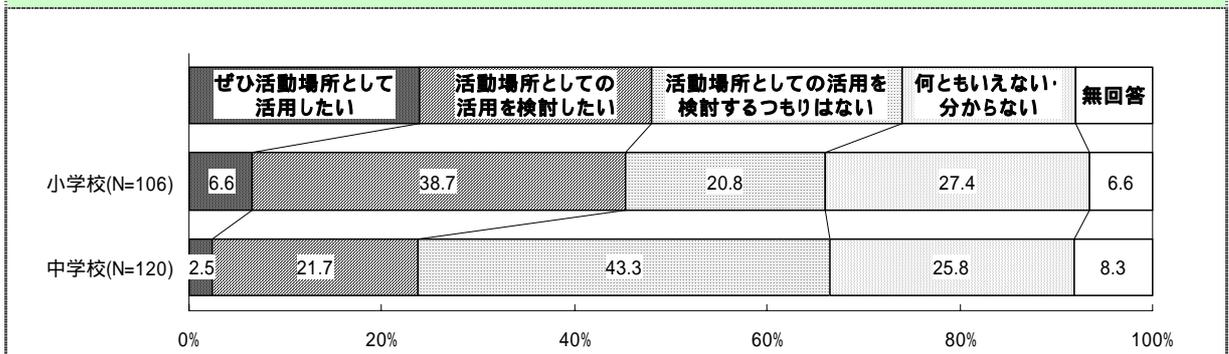


問16 今後、「地域子ども教室」の活動場所として貴校を活用していきたいとお考えになりますか。(SA)

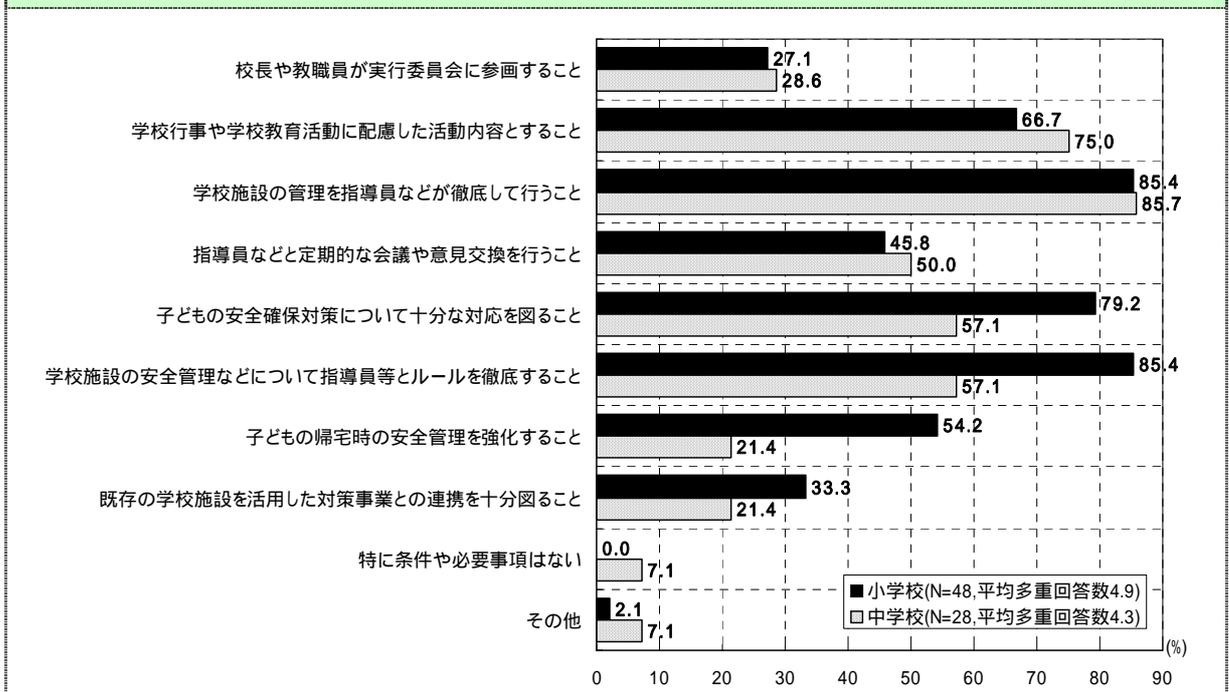
問17 問16で「1.ぜひ活動場所として活用したい」「2.活動場所としての活用を検討したい」とお答えの方にお尋ねします。貴校が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたり、何か条件や必要事項はありますか。(MA)

- ❖ 今後「地域子ども教室」の活動場所として自校を活用することについての意向をみると、小学校では「活用を検討したい」が約4割と最も高いが、中学校では「活用を検討するつもりはない」が4割以上と最も多くなっており、今後の施設活用について小学校の方がより積極的であることがうかがえる。
- ❖ 「活用したい」あるいは「活用を検討したい」と回答した学校に限って、その際の必要事項を聞いたところ、「戸締りや物品の管理など、学校施設の管理を指導員等が徹底して行うこと」や「学校施設の安全管理などについて、指導員等とルールを徹底すること」等が高い割合となっている。

問16 今後、「地域子ども教室」の活動場所として貴校を活用していきたいとお考えになりますか。(SA)



問17 貴校が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたり、何か条件や必要事項はありますか。(MA)



第2部 平成16年度「地域子ども教室推進事業」の事業効果分析

問18 問16で「3.活動場所としての活用を検討するつもりはない」とお答えの方にお尋ねします。「地域子ども教室」の活動場所として、貴校の活用を検討されない理由は何ですか。(MA)

問19 その他、今後の「地域子ども教室推進事業」に望むことや、学校と地域、家庭とが連携して地域全体で子どもを育てることについてのお考えなどがあれば、ご自由にお書き下さい。

- ❖ 問16で、今後「地域子ども教室」の活動場所として施設を「活用を検討するつもりはない」とした学校に限ってその理由を聞いたところ、「教職員が「地域子ども教室」での活動支援に時間を割かれ本来の学校教育に支障が出るから」が小学校では最も高く、中学校では「クラブ活動などとの調整が難しいから」が最も高い割合となっている。
- ❖ その他、地域子ども教室推進事業等に対する自由意見として、71件の自由回答が得られた。多くは地域全体で子どもを育てることの重要性を指摘した意見であり、その中で学校運営と地域子ども教室との連携を図る上での難しさや、安全管理上配慮すべきことなどが挙げられている。

問18 「地域子ども教室」の活動場所として、貴校の活用を検討されない理由は何ですか。(MA)

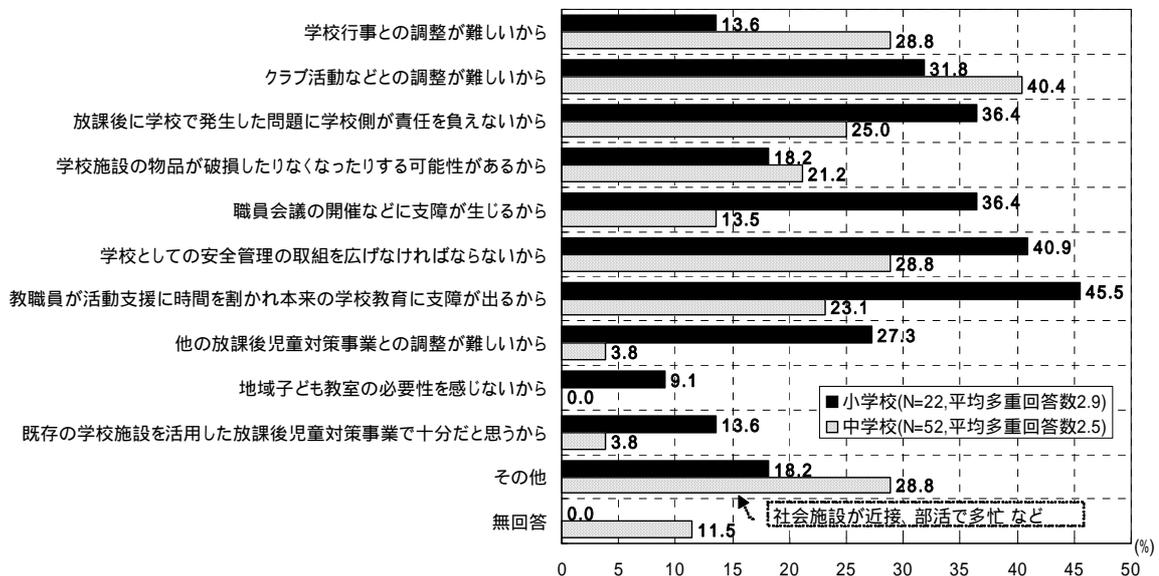


表2-13 学校長として今後の「地域子ども教室推進事業」に望むことなど (FA)《抜粋》

地域子ども教室に望むことなど
地域の子どもたちが家から外に出てより多くの人と触れ合う機会が少なくなっている。地域全体で地域の子どもを遊びや体験を通して子ふれあいの場を作っていくとする取組は今後必要だと思う。組織的な動きをする体制づくり(継続的なもの)においては、既存のものをどう活性化させるかも含めて広い立場で検討していくことが大切だと思う。(小学校長)
地域ぐるみでの青少年の健全育成については、誰も異論はないと思う。その意味から、学校等公共施設の開放も必要である。ただ、そういった場合、管理者の明確化、子どもたちの安全確保等の条件及び環境整備が前提となることが必要。関係者の準備や努力に比べて、子どもたちが、ややもすると、いわば“お客様”のような扱いになっていることもある。何とか、子どもたちが主体的に関わっていけるような事業を考えていきたいと思う。(小学校長)
地域子ども教室推進事業については、学校と地域・家庭が連携して地域全体で子どもを育てることは非常に大切なことだと考えている。しかし、本校の現状を考慮するとスポーツ少年団活動(バレー、野球、サッカー、バスケット、ドッジボール)と活発である。また文化活動として、金管、カラーガーズと多様に施設を活用している実態があり、地域子ども教室推進のための施設及び人材の育成が最大の課題である。(小学校長)

2 - 9 . 本事業の事業効果に関する総合評価

(1) 子どもに対する事業効果の分析

子どもへのアンケート及び保護者や指導員・ボランティアへのアンケートから、本事業に参加したことによって、子どもの気持ちや普段の態度、行動などにどのような変化が見られたかを以下に整理した。

子どもにとって、普段できない様々な活動ができる点が「楽しさ」を感じるポイントに

地域子ども教室に来ている子どもの9割以上が、地域子ども教室での活動を「楽しい」と感じており(P55)、また8割近くがこれからも地域子ども教室に来たいと思っていることが明らかになった(P61)。

地域子ども教室を「楽しい」あるいは「また来たい」と感じる理由としては、「普段できない遊びや活動ができるから」という点が強く(P56)、子どもにとって普段の生活ではできない様々な体験活動ができる点が楽しさを感じる大きなポイントとなっていることが分かる。

この「普段できない様々な活動」には、一人ではできないスポーツや自然体験、昔遊びや囲碁・将棋など、まさに多様な活動内容そのものが挙げられるが、こうした活動内容の多様性のみならず、「みんなと一緒に遊ぶ」「色々な大人の人と触れ合える」「みんなの前で発表する」など、地域子ども教室ならではの活動形態自体が子どもにとって「普段できない活動」であり、「楽しさ」を感じる理由となっている点も興味深い(P57)。

特に低学年では、活動に参加したことによる自身の前向きな変化を強く感じている

子ども自身が、地域子ども教室に参加する前と後とで自身の様々な面での前向きな変化を感じている。特に、「学校に行くのが楽しくなった」、「地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった」、「教室のことを家の人と話したりするようになった」などの点について、自身の変化を感じる子どもが多く、その傾向は低学年ほど顕著である(P60)。

また、こうした子どもの変化については、保護者や指導員・ボランティアからも高く評価されている。保護者からは、子どもが地域の行事に積極的に参加するようになったり、地域の大人の人に挨拶をしたり話をしたりするようになったなど、子どもが地域とのかかわりを持つようになった点が変化として捉えられている(P77)。また、「興味があることは自分で調べたりするようになった」など、主体性・積極性が増したことなども評価されている。

指導員・ボランティアからは、こうした点のほか、違う学年の友だちと遊ぶようになったことや、年下の子どもの面倒をよく見るようになったことなど、様々な年齢の子ども同士の交流が増した点が変化として捉えられている(P100)。

親の勧めや友だちの誘いのほか、ポスターやチラシをみて参加した子どもも少なくない

地域子ども教室に参加するようになったきっかけをみると、親から勧められたり友だちから誘われたというケースが多いが、特に高学年になると、ポスターやチラシをみて参加したという子どもも多くなっている(P55)。また、地域子ども教室に参加していない子どもについては、不参加の理由として「地域子ども教室のことを知らなかったから」が最も多くなっている(P54)こととあわせると、地域子ども教室の活動についてより子どもの目に留まるような広報を充実することが、今後の参加者拡大に向けて重要なポイントとなることが示される。

(2) 家庭教育に関する事業効果の分析

保護者へのアンケート結果などから、地域子ども教室に子どもが参加している家庭と参加していない家庭ではそれぞれ子どもとの関わり方にどのような違いがあり、今後の本事業への参加意向にどのような違いが見られるか、あるいは本事業に参加したことにより、家庭での親子のふれあいにどのような変化が見られたか等を整理すると、以下のとおりである。

地域子ども教室に参加している家庭ほど、子どもとの普段の会話が多い

子どもが地域子ども教室に参加しているという保護者と、参加していないという保護者とで、普段の子どもとの会話の程度を比較すると、教室に参加している保護者ほど「よく話をする」という割合が高くなっている（P73）。また、子どもが放課後普段遊んでいる場所についても「子どもから話を聞いて知っている」という割合がより高いのは、子どもが地域子ども教室に参加している保護者であった（P73）。これらの結果から、普段から子どもとよく話をし、子どもとのふれあいが多い家庭の方が、本事業への参加率が高いことが示唆される。

子どもの地域子ども教室への参加を通して、家庭での親子のふれあいが増している

地域子ども教室に参加してからの子どもの変化については、前述のとおり、地域活動への関わりや自主性・積極性の向上などの面で比較的高く評価されているが、家庭での子どもとのふれあいについても変化が見られている。例えば、地域子ども教室のことを子どもと話したり、教室で習ったことを家庭で親子でやってみたりするという保護者は75%に及んでおり、また4割以上の保護者が、子どもが地域子ども教室に参加するようになって親子の会話が増えたとしている（P79）。

すなわち、普段の生活ではなかなかできない様々な活動を地域子ども教室で経験することにより、家庭での親子の会話（話題）が増えるとともに、保護者に対しても子どもの様子や変化により注意を払うようになるなど、家庭教育の充実においても大きな効果があると考えられる。

地域全体で子どもを育てることに對する保護者の意識醸成の面でも有効

子どもが地域子ども教室の活動に参加している保護者は、参加していない子どもの保護者と比べて、今後の地域子ども教室の運営に対して指導員やボランティアとしての参加・協力意向を示す人が多く（P85）また親子交流企画への参加意向も高い（P86）。また、子どもが活動に参加したことにより、保護者自身も地域の子どもの對する意識や、子どもの集まる施設についての関心が高くなるなどの変化を感じている（P78）。

こうした点から、保護者に対しても、地域全体で子どもを育てることに對しての意識啓発という面で本事業が有効であることが示唆される。

(3) 地域の大人や地域社会に関する事業効果の分析

コーディネーターや指導員・ボランティアへのアンケートの結果から、本事業に参加し直接子どもと関わった立場から、地域での子どもと大人との関わり方においてどのような変化が見られたか、また、施設管理者へのアンケートの結果から、居場所となった施設側から見て本事業が地域の大人や地域社会全体にどのような影響を与えたかなどを整理すると、以下のとおりである。

学校・地域・保護者の連携強化や協働体制の構築に有効

地域子ども教室の活動に参加した指導員・ボランティアやコーディネーター、あるいは活動場所となった学校の校長それぞれの回答から、本事業の実施による変化として、学校と地域、保護者の連携が進んだ点が特に高く評価されている。

具体的には、地域子ども教室を通じた地域社会の変化として、指導員・ボランティア、及びコーディネーターからは、「様々な面で学校と地域の協力・連携が進んできたと思う」という点での評価が最も高くなっている（P101, P118）。また、活動場所となった小学校の校長からも、「学校の様々な取組に対して、保護者や地域の協力がより得られるようになった」、「学校の様々な取組に対して、学校と保護者・地域とが協働で取り組む機会が増えた」などが特に本事業による変化として強く認識されている（P131）。

地域全体で子どもを育てるための土壌として、学校・地域・保護者の連携は欠かせないが、本事業の実施によりこの三者の協働体制が構築されたことは、今後本事業を通じて「地域の子どもは地域で育てる」気運を高めていく上で高く評価すべき点であろう。

地域住民同士の交流の促進や様々な地域活動の盛り上がりによる地域活性化

特に指導員・ボランティアやコーディネーターからは、本事業の実施により「地域子ども教室に参加する大人が増えた」のはもとより、「大人同士が挨拶を交わしたり、よく話すようになった」点や、「地域の子どもに声をかけたり、遊んだりする人が増えた」点など、地域の大人自身が地域に目を向け、地域の中で大人から子どもまで幅広く交流が進み、地域が活性化してきたことが変化として挙げられている（P101, P118）。

また、活動場所となった公民館などの施設長からも、「子どもに声をかけたり遊んだりする人が増えた」点や「子どもと一緒に活動するイベント等への参加者が増えた」点などが比較的高く評価されており（P142）地域の大人が地域の子どもに目を向け、地域全体で子どもを温かく見守る雰囲気醸成されつつあることがうかがえる。

参加する地域の大人自身にとっても地域とのつながりを深めるきっかけに

指導員・ボランティアやコーディネーターとして参加した人自身が、本事業への参加を通じて「地域の子どもに対する意識や関心が高くなった」、「地域の人の中に知人や友人が増えた」、「地域で色々な子どもに声をかけたり交流をもつようになった」など、自身の中での子どもの居場所づくりや地域社会に対する意識・関心の高まりを感じている（P100, P117）。また、活動に参加した指導員等の大部分は、今後も地域子ども教室での活動を続けたいとしている（P104, P121）。

こうした点から、地域の大人が中心となって活動を支える地域子ども教室の取組は、参加する大人自身にとっても地域とのつながりを深めるきっかけとして重要な役割を果たしているといえる。

(4) 学校等の活動場所となる施設に対する事業効果の分析

本事業において活動場所となった学校や公民館等の施設について、本事業の実施が他の児童・生徒など学校全体、あるいは施設を利用する他の子どもに対してどのような影響を与えたかなどを整理すると、以下のとおりである。

施設の子ども全体に対して、異年齢の交流促進や社会性の向上などの効果がみられる

実施学校・実施施設の回答から、地域子ども教室の活動場所として施設が活用されたことにより、施設を利用する子どもに見られた変化として、「違う学年の友だちとよく遊ぶようになった」点や「自分より年下の子どもの面倒をよく見るようになった」など、様々な学年の子ども同士の交流が増したことが変化として感じ取られていることが分かる（P131, P142）。

また、「ルールや決まりを守れるようになった」や「後片付けなどを積極的にするようになった」、「正しい言葉遣いや礼儀正しい行動が取れるようになった」など、社会性の向上という点でもある程度の効果が見られている（P131, P142）。

職員の児童理解の促進や施設全体の事業発展などにも効果的

地域子ども教室の活動場所として施設を提供する際には、活動に参加する指導員やボランティアなどのスタッフと施設職員との連携が不可欠になる。

こうしたスタッフとの連携は比較的積極的に取り組まれており、特に活動自体に職員が参加しているという割合は、一度も参加していないという割合よりも高くなっている（P128, P138）。

また、2割近くの実施学校や実施施設が、指導員等との情報交換や話し合い・協議などを行っており、こうした連携を図ることにより、教職員の児童理解が促進されたり、施設としての事業展開が進んだという声も高くなっている（P129, P140）。

(5) 本事業の総合評価

以上の分析結果を総合し、地域子ども教室推進事業の事業効果を総合評価すると、以下のように集約できる。

地域子ども教室は、スポーツや自然観察、工作、昔の遊び、あるいは料理教室などの様々な体験活動を、地域の大人の人に教わりながら、色々な年齢の子ども同士が一緒になって行うという点が特徴的であるが、こうした点それぞれが今の子どもにとっては「普段できないこと」である。参加した子どもの声からは、活動内容の面でも、活動を支える体制の面でも、あるいは誰とどう遊ぶかという活動形態の面でも、「普段できないことができる」ことこそが「楽しい」「また行きたい」と思わせる居場所として評価されているのである。

参加した子どもの多くは、居場所での活動が楽しいと感じるばかりでなく、自分自身の中でも、「学校に行くのが楽しくなった」あるいは「興味があることは自分で調べたりするようになった」など、前向きな変化を感じ取っている。また、保護者や指導員などの目から見ても、地域子ども教室に参加するようになって子どもの活発さが増したという評価が得られている。近年、子どもの「意欲」や「やる気」の低下が危惧される中で、地域子ども教室での活動が子どもの主体性や積極性の発現を促し、様々な場面における子どもの意欲を向上させている点は、特に注目に値する。

普段学校や家庭でなかなかできないような経験を地域子ども教室で体験することを通して、子どもと保護者の間に話題が増えるなど、家庭教育の充実の面でも本事業がもたらす効果は大きい。各地域の実情に合わせて活動内容や活動体制を工夫し、強制ではなく子ども自身の自由な意思によって活動が展開されるからこそ、保護者自身も子どもの様子や居場所での活動内容により注意を払うようになる。子どもはそうした親の変化を敏感に感じ取るため、親がより自分に関心をもってくれているという安心感が生まれ、親子のふれあいが深まると考えられる。

地域の子どもは地域で育てるという気運を高めるためには、子どもに関わる様々な主体が連携・協力し、「地域社会」全体として子どもを見守る体制を作ることが重要である。この点において、地域子ども教室が学校施設や様々な子どもの集まる施設を活用して実施されたことから、学校と地域の大人、保護者の間の理解や連携が進み、地域における子どもの居場所づくりに係る協働体制の構築に大きく寄与した点は、本事業の趣旨に照らしても高く評価すべきであろう。

第3部



地域子ども教室の今後の推進に向けて

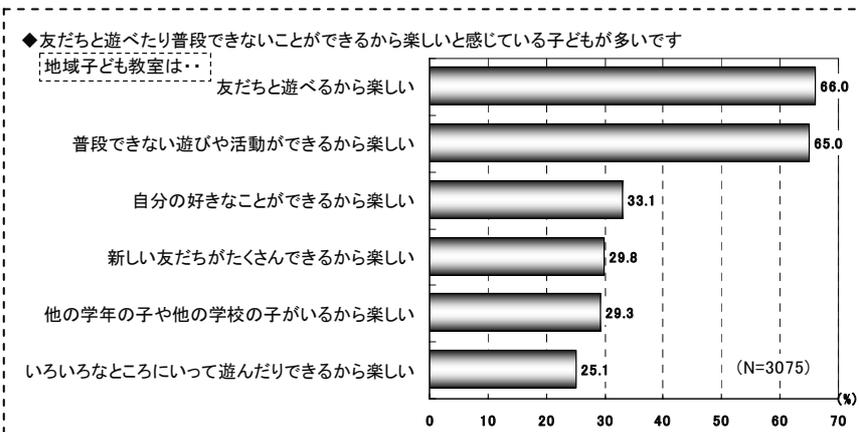
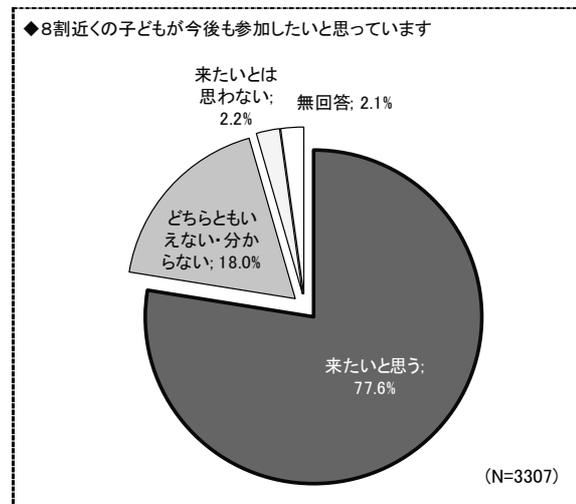
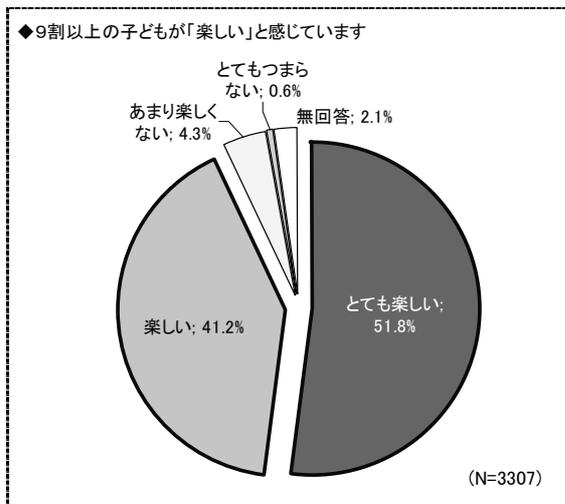
第3部 地域子ども教室の今後の推進に向けて

3 - 1 . 地域子ども教室の意義・効果 ~子どもにとって真の『居場所』とは~

参加した子ども自身は、地域子ども教室での活動をどう感じているのでしょうか

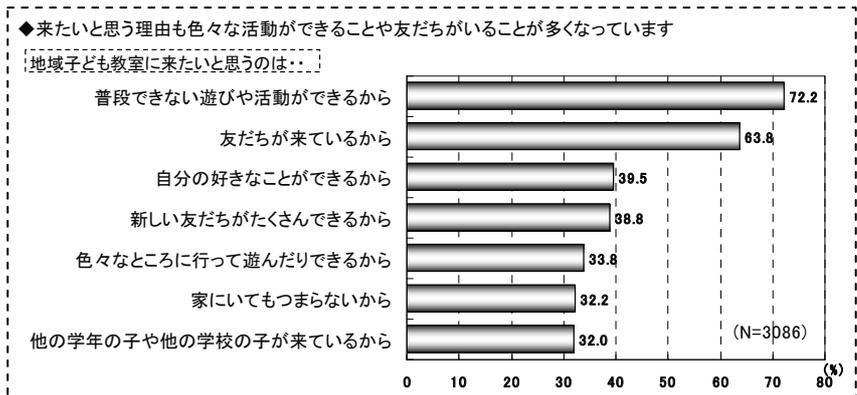
地域子ども教室の活動に参加した子どもは、9割以上が教室での活動を「楽しい」と感じており、また参加した子どもの8割近くは今後も「地域子ども教室に来たい」と思っています。

その理由をみると、仲の良い友だちと遊べるということ、普段の生活ではできないような活動ができること、の2点が大きな理由であることが分かります。



本市の地域子ども教室に参加している子どもたちから、「ここにすれば誰かがいるので遊びにきてるよ」という声を聞きます。まさに、子ども居場所が安心して過ごせる場所になっていることを実感します。(愛媛県コーディネーター)

今の子どもには、ゲームにまけないソフト、それも大人がすべて用意するのではなく、自分たちで作り出すソフトが必要です。地域子ども教室は、普段できない色々な体験活動を通して、子ども自身がソフトを生み出す場となっています。(東京都 コーディネーター)

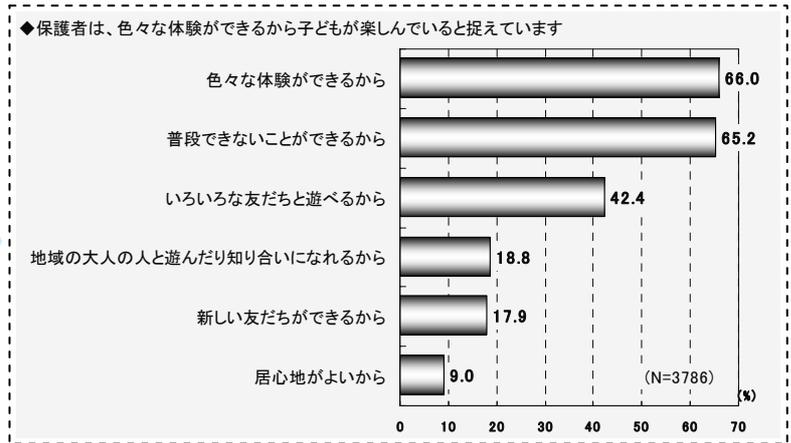
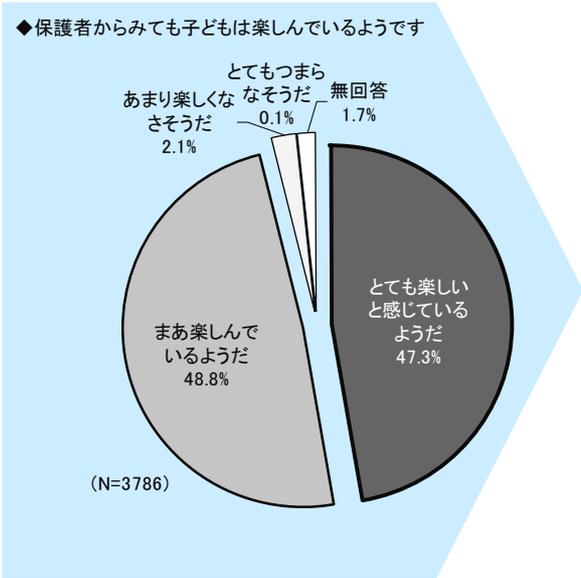


保護者からみて、活動に参加した子どもの様子はどう写っているのでしょうか

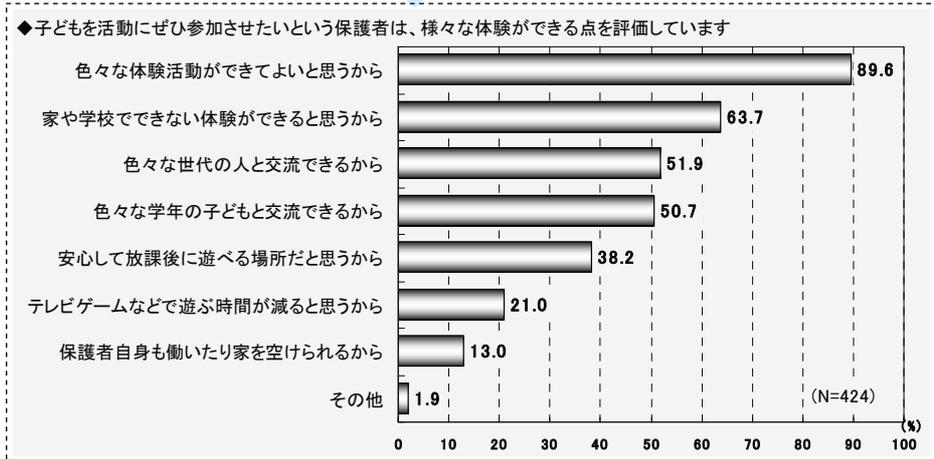
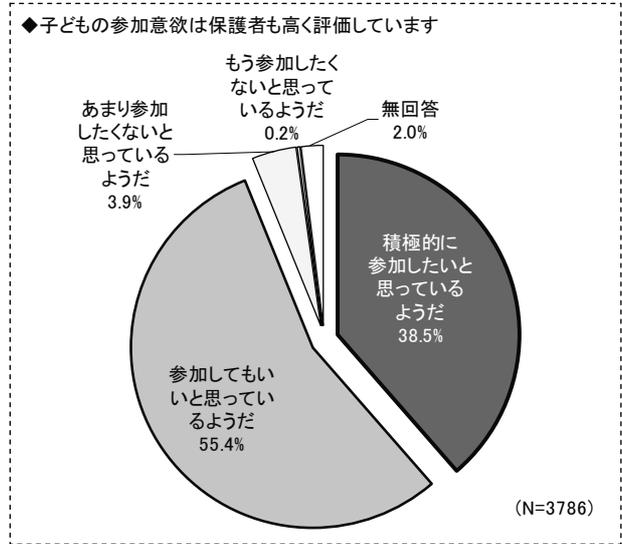
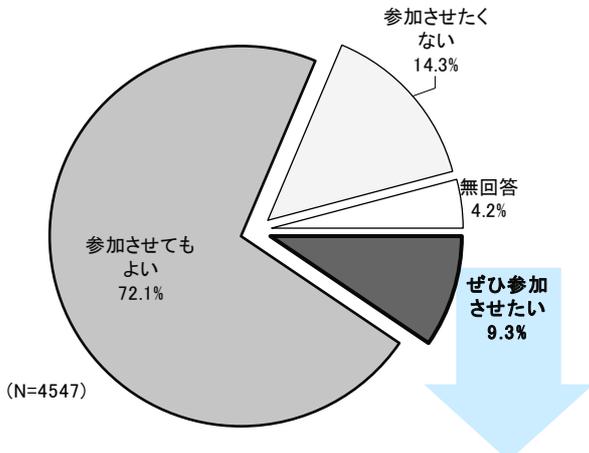
地域子ども教室に参加しているお子さんの様子を保護者の方に聞くと、ほとんどの方が「楽しんでいるようだ」と回答されています。

そう思う理由として、保護者の方は、地域子ども教室での活動内容の多様性を重視しています。

普段できない色々な体験活動が、地域の大人の方々が見守る中安心してできるということが、保護者の方からも評価されているといえます。



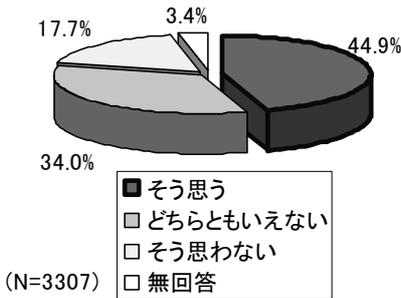
◆子どもの活動への参加には肯定的な保護者が多いです



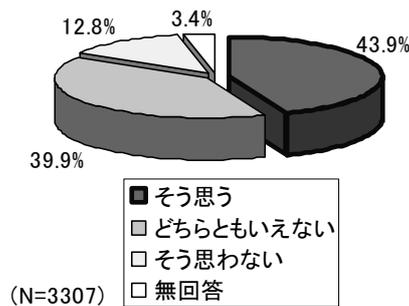
活動に参加した子どもは、自分自身の変化をどのように感じているのでしょうか

子ども自身は、地域子ども教室に参加して、「教室のことを家の人と話したり、教室でやったことを家の人とやってみたりするようになった」、「学校に行くのが楽しくなった」、「地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった」などと感じています。

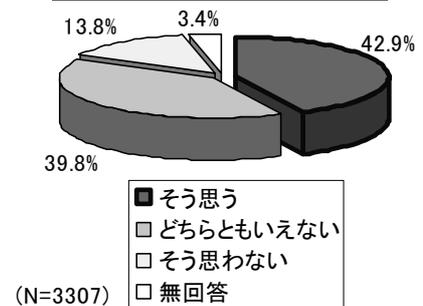
教室のことを家の人と話したりするようになった



学校に行くのが楽しくなった



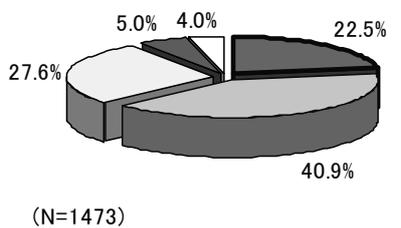
地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった



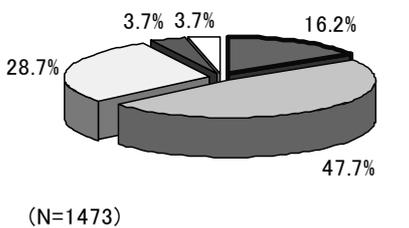
活動に参加した子どもの様子から、保護者はどのような変化を捉えているのでしょうか

保護者からみると、地域子ども教室に参加してから子どもが「地域の行事に積極的に参加するようになった」、「地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった」、「興味があることは自分で調べたりするようになった」など、お子さんが地域との関わりを持つようになったり、主体性・積極性が増したことが変化として捉えられています。

地域の行事に積極的に参加するようになった



地域の大人の人と挨拶をしたり話をしたりするようになった



興味があることは自分で調べたりするようになった

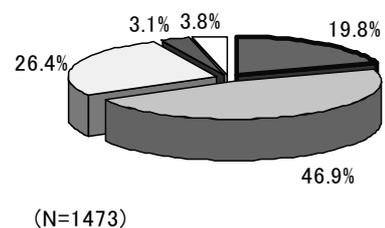


表3-1 保護者が感じる本事業の効果や意義《保護者アンケート回答から抜粋》

<p>現在の地域子ども教室は平日のためなかなか参加できませんが、土・日曜日だと自分の子どもだけでなく地域子どもたちと一緒に触れ合いが出来るので参加してみたいと思っています。平日の放課後も仕事のある私たちとしてはとても助かりますが、実際自分たちもどのようにして地域の子どもたちを育てていけばいいのかわからずにいます。</p>
<p>子ども会活動への参加も強制でない地区などでは年々減少傾向にあり、地域の秋祭りやお月見会、ドンドヤなどの伝承行事がせっかくあるのに知らない子どもも増えています。(子どもは参加したいのに親の都合で子ども会に入会しない家庭が多いようです。)地区の行事に参加する事でいろんな方と知り合え、縦のつながり(学年)、近所とのつながりも深まると思います。親の意識改革が必要だと思います。</p>
<p>子ども会や公民館の方々に、いろいろなことを企画していただき、大変うれしく思っています。老人会の方々も幼稚園に手伝い(農作業)に来ていただいたりとても子どもも喜んでます。イベントの時は仲良しになってもなかなか長続きせず、点々とした感じがあります。継続して地域の大人と仲良くなれるといいなと思います。</p>
<p>子ども自身が自分で通える範囲の場所がいいと思います。移動に車を使う事や自転車に乗ることが多い地域子ども教室なので、もっと歩いてほしいと思います。そして少ない子どもたちを大人たちが見守り、時には注意や悪い事をしていたら叱ってくれる大人がいる地域になったらいいと思います。</p>
<p>子どもたちには、自分のほうから気軽に声をかけるようにしている。たとえ返事がかえってこなくても。子どもはよく知っていてもその保護者まではあまりふれ合う機会も無く、顔さえ分からない方もいる。自宅に遊びに来る子どもたちには遊んでいる様子を見ながら良い事悪い事はその都度話している。遠慮なく注意もしている。他の大人たちにもそうであって欲しいと思う。親の言葉はなかなか聞かないので、地域ぐるみで子どもたちを指導していただけたら嬉しいです。</p>
<p>子どもたちは外で遊ぶようになり、大変良いことだとおもいます。だけど、その反面親が子どもたちに無関心のように思えます。ある程度のルールは、親が教えてほしいものです。私の子は、いま中学生になり部活に頑張っています。そのため、地域子ども教室に無縁になったように感じます。</p>
<p>この地域では、子どもクラブという活動が割と盛んで、子どもたちの参加も多いようです。また、PTAの関係者が中心となり、1、2ヶ月に1度程度、活動していますがこちらも参加者が多く段々定着していくことでしょう。核家族の多い中、三世代家族というの多い地域のため比較的の老人と接する機会も多いようです。しかし何か活動を通して地域の人々老若男女がふれ合う機会がもっともっと増えると、思いやる心、ゆずり合う心などが育つような気がします。</p>

表3-2 コーディネーターが感じる本事業の効果や意義《コーディネーターアンケート回答から抜粋》

<p>ボランティアの無償性に頼ることは、そのすそ野を狭めることになるので、必要な予算措置を講じ、ボランティアのすそ野を拡大させることが急務と感じます。</p>
<p>乳幼児を持ったお母さん方がいつでも気軽に行ける開放した部屋があれば、喜ばれると思います。同じ館内に高齢者も出入りし、交流できればもっと良い。少しの間でも子どもを見てあげたり気晴らしができる時間が大切。そして、話を聞いてあげることも第三者には色々な悩みも言いやすいようです。</p>
<p>主催地域だけでなく、できるだけ他地域からの参加ができるようにおたがいオープンに活動交流をして関心興味のある子や大人が自由に参加できるとよい。無理なく、楽しく、主催者も参加者も参加できる楽しい居場所となることを望みます。また、そのように17年度は一部進めています。</p>
<p>子ども会、老人会、趣味の会等、色々な団体が活発に活動しています。それぞれの団体がひとつになって連携して活動していない。定期的に代表者が集まって話し合う場があれば、もっと充実した活動ができると思う。</p>
<p>学校(場所)との連携が難しく、教育委員会の方でもっと協力して欲しい。学校長は全く理解を示さない人が多い。地域をまとめるのは難しく、地道にやらなければいけない。2~3年でできることではなく文部科学省の支援を長く続けて欲しい。</p>
<p>18年度以降も予算措置を継続して頂けることが望ましいが、国の支援がなくなったとしても、自主財源や参加費を中心に運営ができるよう計画を立てていく必要がある。又、PTAなど、年度毎に交替もあるのでスムーズな連携が取れるような組織作り、自立して活動団体の育成、活動の定着化を図っていくことが課題である。</p>
<p>社会教育部局が主として担当していますが、学校教育部局との関わりがないように思います。もっと連携をとるべきではないかと思われまして、子どもの教育とは、という考えに戻った活動が必要であるように思われます。</p>

子どもの変化については、保護者からはこんな声も寄せられています

- ・ 他の人の輪に入っていけるようになった。(30代 女性)
- ・ 多い人数で遊ぶのが苦手だったのでこの教室で遊べるようになった気がします。(30代 女性)
- ・ 家の祖父母以外のおじいさん、おばあさんの存在を強く意識するようになった。(40代 女性)
- ・ 毎日のように児童館へ行くので、2歳ぐらいの小さな子どもたちとも知り合いになりお母さんたちにも顔を覚えてもらい、本人も知り合いが増えて楽しく過ごしています。(30代 女性)
- ・ 同年代の子と数多くふれ合う事ができ、とてもうれしそうである。(40代 女性)
- ・ いろんなことに自信がついて積極的になった。(40代 女性)
- ・ 自分から進んで行動できるようになってきた。(30代 女性)
- ・ 地域の活動にはほとんど参加するようになり、そのときの色々な話をしてくれたり、家でも同じ事をやってみたりして、とても楽しい時間が過ごせて嬉しそうです。(30代 女性)
- ・ 地域の人との挨拶が増えたとし、行事に進んで出られるようになりました。(40代 女性)
- ・ 知らない人の中の活動でも楽しいと思えるようになったようです。(30代 女性)
- ・ 体を動かすことが好きなので、夜は早く寝るようになった。子どもの表現が豊かになった。色々な大人、お友だちに出会うことによって、相手を思いやったり、大人に対する接し方が分かるようになった。約束を守ることを覚えた。(30代 女性)
- ・ 他の学校、学年、男女の差をあまり意識しないで話せるようになった。(40代 女性)

◆地域の特性を活かした野外活動を通して身近な自然を発見

島根県雲南市「遊学スポーツプログラム」コーディネーター 速水久樹さん



1. コーディネーターとなったきっかけ

近年は子どもたちのスポーツ離れが深刻な問題になりつつあります。私たちの子どもたちに比べ現代の子どもたちを取り巻く環境はずいぶん変わり、何かに打ち込んだり集中するといったことが難しくなっています。私は平成16年6月、子どもの居場所プログラム開始にあたり加茂町(当時)教育委員会からの依頼を受け、地域スポーツ指導のコーディネーターを勤めることになりました。子どもたちに「スポーツの楽しさ」「友だちの大切さ」「地域の自然の素晴らしさ」を伝えていくためのコーディネイト役を担っています。

2. 主な活動内容

遊学スポーツプログラムでは、小学生を対象にしたスポーツ教室・野外活動を中心とした年間計画を作成し活動に取り組んでいます。それぞれの種目では、指導者による専門的な指導だけでなく、活動の楽しさを十分に取り入れながら基本技術の習得をめざしています。また、大会等への参加も積極的に行っています。私自身はミニバスケットボールの指導を毎週火曜日・土曜日に2時間おこなっており、現在24名の児童が活動に参加しています。

年間を通して毎週定期的に活動するスポーツ教室のほかに、季節ごとのスポーツ教室(水泳・陸上・スキーなど)や野外体験活動、交流活動にも積極的に取り組んでいます。特に、夏に実施している斐伊川の自然を感じるプログラム「川流れ」や、体のバランス感覚と思考力を養う「フリークライミング」は、雲南市の特徴的な活動として子どもたちに大人気です。

3. 活動にあたっての課題点

活動にあたっての課題点は、子どもたちがスポーツを楽しめる環境をつくることです。子どもたちが興味を持ち参加したくなるプログラムづくりがまず必要だと考えます。そして、子どもたちと同じ目線で見、状況を把握し取り組むことのできる指導者を見つけることが重要です。ミニバスケット教室では指導者が児童と一緒に練習に参加し、会話をしながら丁寧に指導することでコミュニケーションを図っています。

また、地域の特性をいかした野外活動は子どもたちが身近にある自然を発見する良い機会であり、自然に対する見方や考え方が変わってきたことが大きな成果です。夏に行う「斐伊川川流れ」ではライフジャケットを着て川に入り、浮き輪やビーチマットを使って3.5kmのコースを3時間かけて流れます。斐伊川の綺麗な水や砂に触れたり、魚を見つけ捕まえようと手を伸ばしたりと斐伊川の自然を体いっぱいを感じるができます。

この活動を地域の人たちにもっと知ってもらい、プログラムの理解者を増やしていくことも今後の活動を続けていく上で大切だと感じています。

4. 今後の抱負

今後は、このプログラムにもっと多くの子どもたちが参加し、スポーツの楽しさや自然の素晴らしさを感じてほしいと思います。また、地域の子どものと大人・高齢者が一緒になって活動できるプログラムを取り入れることで活動の輪を広げたいと考えています。

活動事例の紹介

地域子ども教室名	高津ボランティアハウス	実行委員会名称	地域で育む益田の子推進協議会
活動施設の名称	益田市立高津小学校	活動施設の住所	島根県益田市高津一丁目 34-1
通常の開催曜日	月～金 14:00～18:00 (4時間), 土 10:00～18:00 (8時間)		
指導員登録数	24名 (1回あたり約3名)	子どもの参加数	1回あたり約25名
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 放課後や土曜日などに、子どもたちと学習や体験活動を地域のボランティアがつくる。 「ボランティアハウス」の活動や使用のルールなどは、常駐するコーディネーターたちの話し合いで決めていく。 		
参加者の感想	<p>(子どもの感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> いろいろなおじさんやおばさんと楽しく遊べてうれしい。 「ビーズづくり」や「おやつづくり」など楽しい活動があつてうれしい。 <p>(保護者の感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが、地域のいろいろな方とふれあえる場ができてありがたい。 高学年がもう少し参加できるようになるとよいのだが。 <p>(指導者等のボランティアの感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちとふれあえて、ますます元気になった。 この場がずっと続くために、運営の仕方をもっと工夫しなくては。 地域の方にもっとこの活動に関わってほしい。 もっと広い部屋があると多くの活動ができるのだが。 		
成果と課題	<p>(成果) 学習と話し合い、夏休みの「プレイイベント」を進める中で、多くの常駐するコーディネーターが生まれてきた。活動と学びが両者あることで、スムーズな運営ができてきた。</p> <p>(課題) 平成19年度以降を見据え、継続できる活動の場作りのための工夫をしていく必要がある。またもっと多くの方がこの場でボランティアとして関わられるシステムづくりをしていく必要がある。</p> <p style="text-align: right;">「子どもの居場所活動事例集」(島根県地域教育力再生協議会発行)より抜粋</p>		

◆地域子ども教室は子どもの「寄り道」できる場所

島根県益田市「高津ボランティアハウス」コーディネーター 中島良子さん



1. コーディネーターとなったきっかけ

仕事を辞め、ボランティアに無縁だった私が、先輩からの誘いで、高津小学校内にできた「高津ボランティアハウス」に関わることとなりました。以前より、子どもに関わることがしたいと思っていた私にとって、「地域で子育てを支援する」というこの事業の目的は、コーディネーターを引き受ける理由に充分でした。

2. 主な活動内容

益田市の「高津ボランティアハウス」は、学校の空き教室を使って、月曜日から土曜日まで、各曜日に担当のコーディネーターが常駐しています。決まったカリキュラムは作らず、宿題をする子、折り紙をする子、ゲームをする子、ただハイテンションでふざけあう子など・・・、子どもたちが、自由にやりたいことをしています。コーディネーターは、そういう子どもたちと自然に関わり合っています。

私は、火、水曜日を担当していますが、時には30名を越す子どもがやってくるとなど、担当のコーディネーター(おじさん1名とおばさん3名)ではてんでこまいになることもあります。どの子の相手も・・・と頑張りますが、時にはふくれっつらの子を抱きしめあやまることも・・・。

登録制をとってはいますが、申し込みの必要な体験活動以外はすべての子どもを受け入れることにしています。私たちの心の中では、教室に入らずに外の廊下にいる子どもたちも、みんなボランティアハウスの子どもたちだと思っています。

申し込みの必要な体験活動は、主に休日を利用して、ビーズ教

室や竹細工教室、お菓子作り、習字教室など、子どもたちの希望が膨らんできたという時に展開しています。

3. いままでの活動を通して思うこと

この活動は「子どもの居場所づくり」とはいえ、子どもの第一の居場所は家庭であり、そうであるためにも、ボランティアハウスは「寄り道」の場所であることを大切にしていきたいと思っています。子どもの自主性を尊重し、あれこれ口出しをしないようにしていきたいと思っています。

子どもに寄り添うためには、大人の物差しを握り締めている私にとって、心も体もリセットすべきことだらけだと実感しています。まだまだ自分が楽しむといった余裕はないけれど、心地よい疲れに酔いしれているところです。

4. これからの活動について

平成16年度最後の会議において、平成17年度から土曜日を申込みによる体験活動の日にあてることになりました。継続的な活動も可能になり、自分自身が活動を作ったり、多くの仲間を集めて活動の場づくりの支援をしていきたいと楽しみにしています。

私たちの「高津ボランティアハウス」は、活動しながらルールや方向性を見つけていくことにしているので、自由な発想や展開が可能です。この強みを活かし、ボランティアハウスが子どもの居場所となり、大人の居場所となり、地域の交流の拠点となるようたくさん考え、たくさん行動を起こし、たくさん発信していきたいと思っています。

◆学校や NPO、企業などとの連携により多彩な体験プログラムを提供

東京都世田谷区「旭 SUN2 スクール」コーディネーター 金子寿子さん



来年度新しく始まる『地域子ども教室推進事業』をやってみませんか、と校長から『旭探検隊』にお話をいただいたのが16年2月末のこと。年間50日程度の活動を実施という条件に、とても無理とお断りしました。『旭探検隊』というのは、旭小学校に通う子どもたちとその周りのおとなたちが同じ目線に立ち、自分たちの住む町の歴史や環境を知ることにより、町を見る目を育てよう、地域を愛する子どもを育てようと、4年前から年に3~4回活動していました。旭小の特色ある教育の一環として位置づけられてもいます。一旦はお断りしたのですが、旭小で活動している人たちと連携すれば何とか回数はこなせるのでは、という校長の押しの強さに、『旭探検隊』の他のメンバーの了解を得てやってみることになりました。世話役だった私がコーディネーターとなり、この探検隊をコアとしてスポーツ教室、パソコン教室、読み聞かせの会と、子どもたちにいろいろな居場所を提供しながら進んでいくことにしました。

探検隊の活動はこれまで、タウンウォッチングをしてジオラマを作ったり、消火器や井戸の場所を探したり、ご近所ウォークラリーで町の再発見、雑草でピンゴで草木の名前を知る、といった活動をしてきました。今年度の子ども教室もその延長線上にあるものとして、4年前には工事中だった所に建ったマンションをジオラマに加えたり、校庭の植栽の四季の姿をパソコンに落とし、ゆくゆくは旭小ホームページにのせよう、という活動をしてきました。パソコン教室では地域のNPOの協力が得られ、パソコンを壊す、作るといった思いも寄らないアイデアを出してもらい、

好評でしたし、yahoo きっずの方と、インターネットに潜む落とし穴、危険性などを保護者も交えて話す機会も持ちました。ただ、読み聞かせの会についてはこれまで現役のお母さんたちが授業への協力という形で細々とやってきたものが、実施回数をこなすため開催を強いる結果となってしまい、ギブアップを告げられたことや、スポーツ教室も地域のスポーツ少年団と校庭の利用を巡って不評を買うこともありましたが、スポーツの楽しさをできるだけ多くの子どもたちに提供する、ということで理解してもらいました。学区外の子どもたちにも声を掛け、指導者も少年団の方が協力してくれています。

今にして思えば年50回開催のその回数にはこだわらなくても良かったのかもしれない。もともとボランティアという形ではじめたものです。以前は協力してくれる大学生の交通費を捻出するためバザーをするなどの苦勞を今年はしなくて済みました。それだけでもありがたいことですので、自分たちにできる範囲で無理なく進めていこうと思っています。教頭先生が毎回参加して下さったこともありがたいことでした。

『地域子ども教室:旭 SUN2 スクール』では子どもだけでなく大人の参加も呼びかけています。このスタンスは持ち続けて行こうと思っています。地域の中で子どもたちの健やかな成長を見守っていこうという、おとなたちの緩やかな関係をも大事にしていきたいと思っているからです。

活動事例の紹介

事業タイトル	パソコンでジャンプ!
主催	旭 SUN2 スクール
企画・運営・技術協力	NPO法人イーパーツ(講師:会田和弘(イーパーツ))
会場	世田谷区立旭小学校
内容	<p>【第1回】「うちわを作ってみよう」 2004年7月19日(月)</p> <p>【第2回】「パソコンを壊してみよう」 2004年9月19日(日)</p> <p>【第3回】「パソコンをつくってみよう」 2004年9月26日(日)</p> <p>【第4回】「親子でインターネット」 2004年11月28日(日)</p> <p>【第5回】「クリスマスカードを作ってみよう」 2004年12月12日(日)</p> <p>【第6回】「ブログでホームページを作ってみよう」 2005年3月5日(土)</p>
活動例	<p>【第2回】「パソコンを壊してみよう」 2004年9月19日(日) 14:00~16:00</p> <p>10台のパソコンをグループになって、パソコンを分解します。外のカバーを外して、細かい配線やハードディスクの仕組みを見ながら、やがてこなごなに。身体の仕組みは教科書にあるけど、こんなに身近になったパソコンの仕組みはまだ教科書にはありません。子たちに自由に分解してもらいました、親子ともに真剣な眼差しが印象的でした。</p> <p>※パソコン提供協力:日本航空株式会社</p>



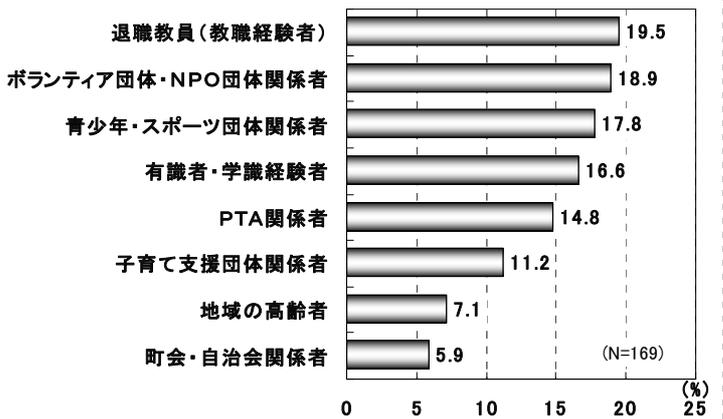
NPO 法人イーパーツ HP より(<http://www.eparts-jp.org/project/asahi-sunsun/index.html>)

3 - 2 . 事業を支える人材の確保・養成 ~地域の“人財”の資質向上を目指して~

地域子ども教室は、地域の大人が中心となって動かしています

この地域子ども教室は、地域で子どもの指導に関わってこられた方やボランティア活動をされている方など、地域の様々な方がコーディネーターとして、あるいは指導員・ボランティアとして関わり、取組を進めていただいています。

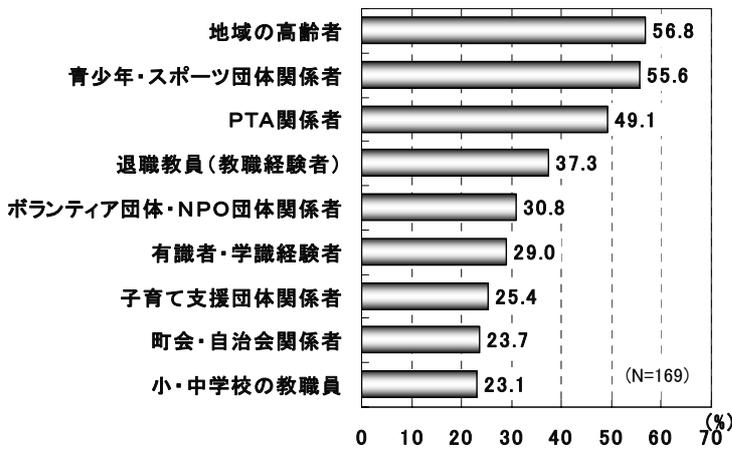
◆コーディネーターをされている方(上位8項目)



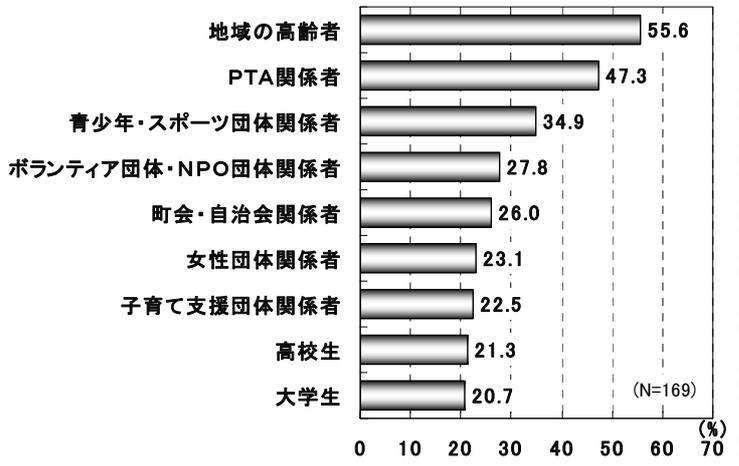
地域の中で、「子どもたちと関わる機会があれば参加したい・・・」とか「ボランティアしたいな」という人たちに活動の場を紹介できることが、素晴らしいと思います。もちろん子どもたちにとっては全面的にプラスだと思います。(愛媛県 コーディネーター)

これまで、子どもとのかかわりをほとんど持たなかったような大人の方たちが、子どもたちとふれ合うことにより、日頃の子どもの生活にも関心を持ち、次第に子どもたちの心に合った付き合い方をするようになったと思う。(埼玉県 コーディネーター)

◆指導員をされている方(上位8項目)



◆ボランティアとして参加されている方(上位8項目)



子育ては親・学校だけで行われるものではないと思います。地域の目や温かい心遣いが不可欠です。自分の子、〇〇さんの子ではなく、私たち地域の子であるという見方が少しでも多くの方にいただければよいのではないかと思います。(40代 男性, 指導員)

◆様々な世代の地域の人と関わることで子どもは変わる！

山形県遊佐町 コーディネーター 佐藤正子さん



1.活動コーディネーターになったきっかけ

地域に中学生の姿がみえないといわれた頃、社会教育指導員だった私は、何かできないだろうかと考えました。当時、私は様々なボランティア活動をしていたので、中学生、高校生を対象にしたボランティア養成講座を立ち上げました。1年目は中学生、2年目は高校生、そしてサークルとしても活動を始めました。私は、担当者ということで、中学生、高校生と共に活動していました。毎年開催されている「庄内中高生ボランティア養成講座」にもかかさず、生徒たちと参加しています。そんなつながりからか、教育事務所からの依頼があり、平成14年から活動コーディネーターとして、ボランティア育成に力を入れています。

2.主な活動内容

遊佐町中央公民館は、中高生ボランティアの情報発信の場として、重要な役割を担っています。

月1～2回の土、日が活動日です。町のイベント(ツーデーマーチ・敬老会・成人式・公民館祭り等)のスタッフボランティアとして、地域の人たちとボランティアを通して交流しています。また、町の福祉施設などを利用し、ボランティア研修なども行っています。

他市町村との交流や研修会に参加することで、「子ども夏祭り」「バザー」など、中高生自ら企画運営する事業も自信を持ってできるようになりました。特に「子ども夏祭り」は、小学生がとても楽しみにしている事業になっています。

活動には、地域の人はもちろん、青年サークル、婦人会、ボランティア団体から協力してもらい、地域とのつながり人との交流を大切に考えています。

3.活動にあたっての課題点

最近の中高生は部活中心の生活型が多く、活動日程を決めるのが難しいです。月に一回の活動日も参加したくてもできない状況です。参加人数にこだわらず、できるだけ多くの活動日を設定し、機会の提供を行う必要があります。

また、日常的に色々な世代との交流の少ない年齢なので、ボランティア活動の中で、地域の人たち、青年、高齢者、幼児などをまきこんだ活動の計画が望ましいと考えています。地域の人たちから声をかけられたり、励まされたり、喜ばれたりすることで、中高生は変わってきます。明るくなります。自信を持つようになります。そこで、町の事業、施設のイベント等の情報を集め、大いに利用し、参加していくことが大切だと思います。

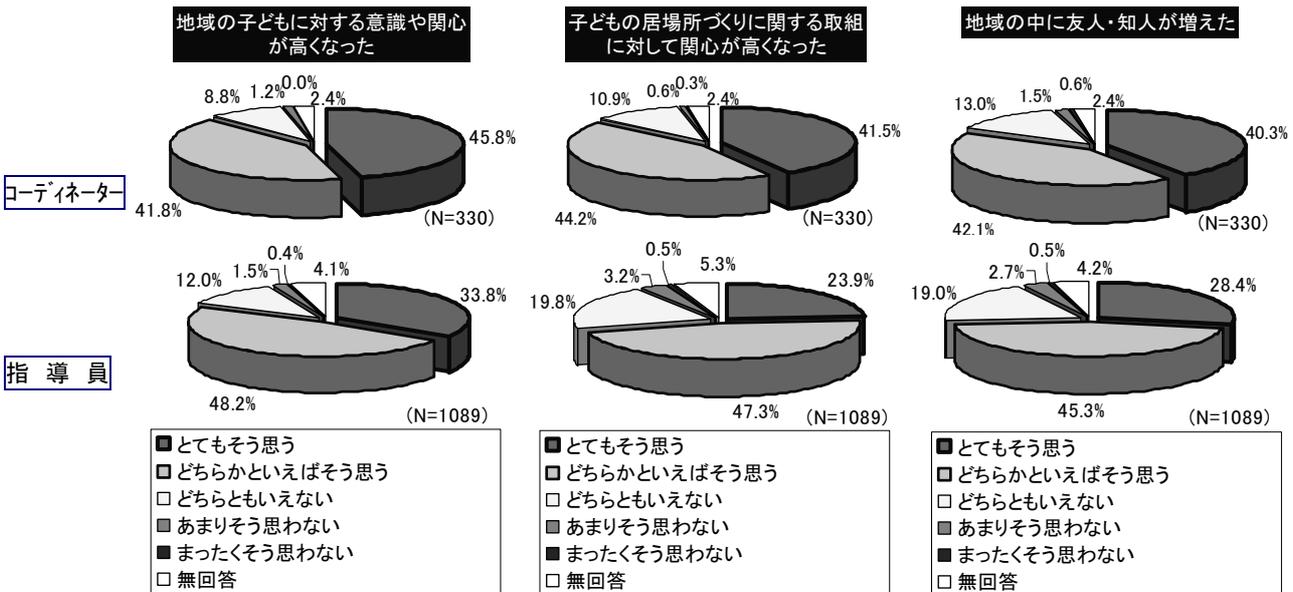
4.今後の抱負

小学校高学年から巻き込んで、早い時期からボランティアの楽しさを体験させたいと思っています。

また、地域の人たちとの交流を通して、地域の一員であるという自覚を育て、将来、自分に何ができるかを考えるきっかけの場となってほしいと思っています。

参加した大人自身も、活動を通して自身の変化を感じています

コーディネーターや指導員として参加した人からは、地域子ども教室の取組に関わったことで、自分自身の子どもに対する意識や地域の人とのつながりが変わったという声が多く聞かれます。



指導者間での結束が強くなり、活動をよりよくするためにどうしたらよいか、真剣に考え意見がたくさんでてくるようになった。また指導者の年齢が若いせいか、子どもたちの方から寄ってきたり、話しかけてきたりと、距離が毎回近づいている気がする。(20代 女性、指導員)

地域子ども教室の取組は、地域の活性化にもつながっています

- ・ 保護者の方の教育や子育てに関する関心が少し高まったように思います。(60代 男性)
- ・ 各種団体の連携が深まった(30代 男性)
- ・ 地域の大人が地域で子どもを育てる事に真剣に取り組み始めた。(50代 女性)
- ・ 多くの地域の方、小中学生との出会いがあり、言葉かけがとても楽になった。子どもたちが積極的に関わってくれている。大人と子どもの交流もとてもよくお互いの居場所づくりとして楽しめている。(60代 女性)
- ・ 小学6年生の児童が中学に行ってから公民館に立ち寄る子が増加した(50代 男性)
- ・ 宿題忘れや忘れ物が少なくなったと校長先生がよく話されているのを何度か耳にした。(60代 男性)
- ・ 私たち自治会関係者や高齢者クラブ関係者が子ども会の活動や子どもの居場所づくりの活動を通じて地域の子どもたちに対する関心が高まったし、子どもの目線で子どもの様子について議論できるようになった。(60代 男性)
- ・ 子どもと地域の人が顔見知りとなり、挨拶などコミュニケーションが行われるようになったと思う。(60代 男性)
- ・ 万引きが減ってきたように思う。地域の人々が子どもに声かけや注意をするようになった。(60代 男性)
- ・ 異年齢、他地域の大人や子どもとの交流ができる。(50代 女性)
- ・ 年齢の違った子どもたち(幼児も)が、知り合い、仲良く遊べるようになった。若いお母さん方同士のお友達づくりの場になっている。また、指導員やボランティアに子育て相談ができるので、お母さん方が一緒にいるようになった。(50代 女性)

◆指導スタッフの確保が一番の課題

山形県 表現遊びサークル「ちゃれんこ」指導員 沼澤直人さん

1. 主な活動内容

表現遊びサークル「ちゃれんこ」は、学校体育の表現運動を研修した教員が中心となって、3年前に発足しました。リズム遊び、ダンス、パントマイムのような表現遊び、さらには、人間関係づくりのためのゲームなど様々な体験活動を行っています。それらの活動を通して、異なった学年、学校の子どもたちがいろいろな人とかわり、自分や相手の心に気づくことを狙いとしています。

ダンスでは、ヒップホップ系のもので楽しみながら習得し、地域のイベントやお祭りの際にアトラクションとして出演することも多くありました。(16年度は10回の依頼がありました。)

さらに、毎年2月には、1年間活動してきたことのまとめとして、文化会館大ホールにて、定期公演を行ってきました。今年度は2月20日(日)に、ステージ発表を行い、第1部ではダンスパフォーマンス、第2部では、ショートコメディ2つとこぶとりじいさんをもとにした創作劇「こぶとり」を上演しました。毎年400人程度の観客があり、アンケート等の感想からは、子どもたちの伸び伸びとしたダンスや生き生きと演じるステージに対して、高い評価を得ています。

2. 成果と課題

様々な表現遊び、ダンス、仲間づくりゲーム、演劇などを通して学年や学校を越えた友だちができ、交流を深めることができました。

人前で何かを表現するという体験を通して、子どもたちは自分や相手の心に気づき、恥ずかしさを乗り越え、少しずつたくましくなってきました。

イベントなどのパフォーマンスや公演では、PC(TV)ゲームにはない、リセットできない緊張感やプレッシャーを乗り越えるという貴重な経験をすることができました。

指導スタッフの確保が一番の課題です。保護者の中にも、子どもたちと一緒に遊んでくれる方がいますが、スタッフも何かを指導しなければならないということではなく、一緒に楽しもうという気持ちで参加してもらえるように意識改革を図っていきたくと考えています。

指導スタッフ不足の問題とは反対に、参加したくても“何もできないから”という理由で参加を遠慮している人もいます。保護者の方々も巻き込んで、できる限り研修の機会をつくっていきたくと考えています。

3. 今後の見通し

国の委託事業を受けられる3年間に農業体験や野外体験などの地域のコーディネーターとなってくれる人材を確保し、子どもたちと地域の方々とのかわり増やし、さらに豊かな体験をより多くさせたいと思っています。

3年前には、新庄市の助成金と参加者の年会費という自己負担で活動を行ってきました。平成16年度、この国の委託事業のおかげで、経費に関わる様々な負担が軽減されました。今後も助成金等が受けやすいようにNPO法人化をめざすなど、地域の方々を大勢まきこんで、子どもの居場所づくりはもちろん、子どもたちの活躍を通して、よりよい地域づくりをしていきたくと考えています。

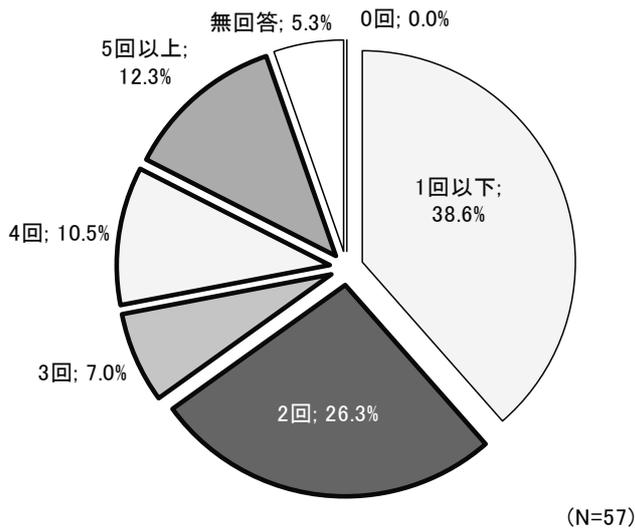


多くの方に安心して参加していただくために、様々な研修や講習が開催されています

都道府県・政令指定都市運営協議会などでは、より多くの地域の方がこの取組について理解を深め、活動に参加していただけるよう、様々な研修や講習を開催しています。

また、実際に取組に参加された方からも、他の地域の取組を紹介する研修などを求める声が聞かれます。

◆多くの運営協議会で研修会が複数開催されています



他の地域がどんなことをやっているかなどの意見交換なんかができる研修や、講師の方などの講演などで話を聞いたりする研修など、職につく前にコーディネーターとはどんなものかといった内容の研修が必要だと思う。自分の町以外、同県内で他の地域がどんなことをやっているか分かるような場が欲しい。(滋賀県 コーディネーター)

コーディネーター・指導員・ボランティア等に対する研修の実態

- ❖ コーディネーター、指導員、ボランティア等に対する研修の内容は、「活動事例の紹介」と「講義・講演」の2つの柱が主なプログラムの構成となっている。
- ❖ 講義では、警察・消防・個人情報・自然活動などの専門家によるリスクマネジメントの話として、事故発生時や不審者進入対策、自然体験活動での危険に対する対応に加え、実践的な演習もセットで行われている。
- ❖ 講演では、子どもやボランティア活動の支援組織や大学関係者などを他県から招聘した講演を行っている例が多く見られるが、その内容は概論的なものが多い。
- ❖ その他、地域子ども教室が実施されている施設で研修会を開催することにより、その活動を見学するプログラムを取り入れ、より具体的・実践的に地域子ども教室について理解する場としている事例も見られる。
- ❖ また、研修会に参加した人々同士の討論や情報交換の場として、ワークショップを開催したり、地域ごとに情報交換を開催したりしている研修が見られる。
- ❖ さらに、スキルアップを目指した取組として、定員を限定した長期研修を実施しているところもある。

表3-3 各地で行われている研修の紹介 《運営協議会アンケート添付資料より抜粋》

分類	運営協議会	対象	概要	
事例	他県事例	茨城県地域教育力再生運営協議会	事業関係者	○「全国における特色ある取り組みについて」 …先進事例を知り、今後の参考とする
		埼玉県地域教育力再生プラン運営協議会	当事業コーディネーター及び市町村担当者等	○平成17年度地域教育力再生プランコーディネーター研修会 …ビデオによる全国事例紹介及び情報交換
		奈良県子どもの居場所づくり運営協議会	地域子ども教室関係者ほか	○子どもの居場所づくり推進研修「他府県の事例」 …他府県の事例から、今後の活動プログラムや組織運営に活かす。
講義・演習	緊急対応(警察)	岩手県地域教育力再生事業運営協議会	地域教育力再生事業担当者・指導者等	○講義・実技「緊急時における対応」 …岩手県警察本部生活安全企画課職員
		鳥取県家庭・地域教育推進協議会	ボランティアコーディネーター、指導員、安全管理員等	○講義・演習「不審者侵入対策」 …県警察本部生活安全企画課地域安全対策室職員
	(消防署)	鳥取県家庭・地域教育推進協議会	ボランティアコーディネーター、指導員、安全管理員等	○講義・演習「事故発生時の救急対応・応急対応」 …倉吉消防署職員
	(その他)	北海道地域教育力向上協議会	地域子ども教室推進事業関係者	○「リクスマネジメントの重要性と保険の有効活用」 …事故例やスポーツ安全保険の紹介
		東京都地域教育力再生プラン運営協議会	安全管理指導員、コーディネーター、活動指導員等	○地域子ども教室安全管理研修会 …安全管理の基礎、事故防止の体制整備と対応策
	危険予知トレーニング	富山県子どもかがやき教室推進協議会	市町村実行委員会の指導員	○子どもかがやき教室指導員研修会 …安全意識を高める講演 …危険予知トレーニング(実技)
		北九州市地域子ども教室運営協議会	指導員、ボランティア	○安全管理研修会 …救急法・危険予知トレーニング
	情報	鳥取県家庭・地域教育推進協議会	ボランティアコーディネーター、指導員、安全管理員等	○講義「個人情報保護制度の概略と留意点」 …鳥取県民室情報公開担当職員
	自然体験活動	岩手県地域教育力再生事業運営協議会	地域教育力再生事業担当者・指導者等	○講演「子どもたちが危ない 活動に潜む危険」 …ホールアース自然学校 NPO法人ホールアース研究所 代表(広瀬敏道)

第3部 地域子ども教室の今後の推進に向けて

分類	運営協議会	対象	概要
講演	ボランティア活動の支援組織	福井県子ども居場所づくり推進協議会	事業担当者、コーディネーター ○講義1「ボランティア学習の意義」 ○講義2「ボランティア学習プログラム企画立案の技術」 …全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター、東京都世田谷ボランティア協会 理事長（興柁寛）
		香川県地域教育力活性化推進協議会	コーディネーター、指導員 ○「ボランティア活動を元気にするには」 …明治学院大学教授、東京ボランティア・市民活動センター 所長（山崎美貴子）
		沖縄県地域子ども教室推進事業運営協議会	コーディネーター、子ども教室指導者、社会教育主事等 ○講演「いま、なぜ子どもの居場所か」 …東京都渋谷区青少年教育コーディネーター、元原宿中学校長、東京都社会教育委員、渋谷区社会教育指導員（相川良子）
	他県の学識経験者	青森県子ども地域活動推進協議会	コーディネーター、指導員、社会教育関係者、県民 ○講演「将来の大人たちのためにいまできること」 …横浜子ども支援協議会（会長 阿部進） ○講義「地域資源を活かした子どもの居場所づくり」 …茨城大学 助教授（長谷川幸介）
		鳥取県家庭・地域教育推進協議会	ボランティアコーディネーター、指導員、安全管理員等 ○講演「子どもたちを取り巻く危険の現状」 ○ワークショップ「安全管理マニュアルの作成入門編、安全管理なんでも相談」 …兵庫教育大学 教授（西岡伸紀）
		子どもの居場所づくり運営協議会（岡山県）	コーディネーター、指導員、ボランティア ○講義「子どもの成長を支える大人の役割」 …文教大学人間科学部 教授（野島正也）
		佐賀県子どもの居場所づくり運営協議会	— ○講演「今なぜ居場所づくりが必要なのか」 …大阪大学大学院 人間科学研究科 教授（秦政春）
	地域子ども教室の見学	京都府地域で子どもを育てようスクラムプラン推進委員会	教育委員会等関係者、ボランティア ○「KYOTOボランティアフォーラム」 …基調提案、リレートーク、講座を開催 …休憩時間に地域子ども教室の見学を予定
和歌山県ふれあいネットワーク推進協議会		指導員、ボランティア、NPO、行政・学校関係者 ○「地域ふれあいルーム指導員等研修会」 …県立図書館文化情報センターで開催。 …同施設で実施している「スペースいばしょ」の事例紹介とともに、30分の見学時間を確保。 …コーディネーターによる解説。	
子どもの居場所づくり運営協議会（岡山県）		コーディネーター、指導員、ボランティア ○活動見学 …希望者のみ実施。“きびっ子ふれあい広場”	

分類	運営協議会	対象	概要
ワーク ショップ	子どもの居場所づくり運営協議会(岡山県)	コーディネーター、指導員、ボランティア	○ワークショップ「危険予知トレーニング 子ども会KYTを通して」 …岡山県子ども会連合会 事務局長(桑原勝) ○ワークショップ「子どもの力を引き出すプログラムづくり」 …NPOビッグバンファクトリー 代表理事(松田隆之)
	京都府地域で子どもを育てようスクラムプラン推進委員会	教育委員会等関係者、ボランティア	○ワークショップ「安心・安全な子どもの居場所づくり」 …NPO国際自然大学校 東京校ディレクター(佐藤繁一) ○ワークショップ「ボランティアコーディネートの知識と技能」 …NPO静岡県ボランティア協会 事務局長(鳥羽茂)
情報交換	グループごと	コーディネーター、指導員、ボランティア	○「グループ別協議」 …各地域での取組状況について …事業推進上の課題と今後の活動について
	立場ごと	青森県子ども地域活動推進協議会	○情報交換交流会 …コーディネーター、地域子ども教室相談員、行政担当者が、研修の最後に、地域子ども教室へ関わる立場ごとに分かれて、情報交換交流会を行う。
	地区ブロックごと	青森県子ども地域活動推進協議会	○東青地区子ども教室指導員等ブロック交流会 …地域子ども教室指導員を対象に、ブロックごとに研修交流会を開催し、運営についての情報交換を行う。 …30分の事例発表と、1時間20分の交流会
長期研修	千葉県地域教育力再生プラン運営協議会	市町村教育委員会及び社会福祉協議会の推薦者、青少年体験活動関係団体のリーダー、ボランティア経験者	○「子どもの居場所づくりコーディネーター養成講座」 …10日間の全課程に参加可能な者 20名。 …6月～11月(8月を除く)の金曜日、10日間
指導員・事務局向け研修の同時開催	和歌山県ふれあいネットワーク推進協議会	指導員、ボランティア、NPO、行政・学校関係者	○「地域ふれあいルーム指導員等研修会」 …事例紹介の後、“指導員・コーディネーター”と“事務局、事務担当者”に分かれて講義を開催。 …“指導員・コーディネーター”は趣旨説明、“事務局、事務担当者”は事務説明を実施
他事業連携	フォーラム	香川県地域教育力活性化推進協議会	○全国家庭教育フォーラム in かがわ …基調講演:「子どもたちの未来を大切にするために」 理学博士 秋山仁(子どもの居場所づくり応援団) …地域子ども教室推進事業パネル展示

表3-4 人材育成に係る研修の事例 《運営協議会アンケート添付資料等より抜粋》

分類	運営協議会	研修の内容																																																												
長期研修	千葉県地域教育力再生プラン運営協議会	<p>○青少年体験活動ボランティアコーディネーター研修講座 (子どもの居場所づくりコーディネーター養成講座)</p> <p>1. 対象 : 市町村教育委員会及び社会福祉協議会の推薦者、青少年体験活動関係団体のリーダー、ボランティア経験者</p> <p>2. 定員 : 20名</p> <p>3. 期日 : 平成17年6月17日(金)～11月11日(金) 10日間</p> <p>4. 会場 : さわやかちば県民プラザ 3階研修室</p> <p>5. 日程 : 毎回 10:00～12:00、13:00～15:00 の実施</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日数</th> <th>月日</th> <th>学習内容</th> <th>講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>6月17日</td> <td>テーマ 自分を見つめよう</td> <td rowspan="10">大学教授</td> </tr> <tr> <td>(金)</td> <td>内容 自己啓発</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2</td> <td>6月24日</td> <td>テーマ 何のためにコーディネートするのか</td> </tr> <tr> <td>(金)</td> <td>内容 問題解決・自己発見</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3</td> <td>7月1日</td> <td>テーマ どのようなコーディネーターを目指すか</td> </tr> <tr> <td>(金)</td> <td>内容 目標の確認</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">4</td> <td>7月8日</td> <td>テーマ 子どもをどう理解するか</td> <td rowspan="10">元子どもと親のサポートセンター教育相談員</td> </tr> <tr> <td>(金)</td> <td>内容 青少年理解</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">5</td> <td>7月15日</td> <td>テーマ 子どもとどう接するか</td> </tr> <tr> <td>(金)</td> <td>内容 青少年理解</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">6</td> <td>9月9日</td> <td>テーマ 子どもとどうかかわるか</td> </tr> <tr> <td>(金)</td> <td>内容 コミュニケーションスキル</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">7</td> <td>9月22日</td> <td>テーマ 子どもの居場所とは</td> <td rowspan="2">大学教授</td> </tr> <tr> <td>(木)</td> <td>内容 活動推進のポイント</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">8</td> <td>10月14日</td> <td>テーマ 学習プログラムの立案</td> <td rowspan="3">大学助教授</td> </tr> <tr> <td>(金)</td> <td>内容 模擬プログラムによる検討</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">9</td> <td>10月28日</td> <td>テーマ 学習プログラムの作成</td> </tr> <tr> <td>(金)</td> <td>内容 グループごとの立案</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>11月11日</td> <td>テーマ これからのコーディネーター活動</td> <td>大学教授</td> </tr> <tr> <td>(金)</td> <td>内容 反省と抱負</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	日数	月日	学習内容	講師	1	6月17日	テーマ 自分を見つめよう	大学教授	(金)	内容 自己啓発	2	6月24日	テーマ 何のためにコーディネートするのか	(金)	内容 問題解決・自己発見	3	7月1日	テーマ どのようなコーディネーターを目指すか	(金)	内容 目標の確認	4	7月8日	テーマ 子どもをどう理解するか	元子どもと親のサポートセンター教育相談員	(金)	内容 青少年理解	5	7月15日	テーマ 子どもとどう接するか	(金)	内容 青少年理解	6	9月9日	テーマ 子どもとどうかかわるか	(金)	内容 コミュニケーションスキル	7	9月22日	テーマ 子どもの居場所とは	大学教授	(木)	内容 活動推進のポイント	8	10月14日	テーマ 学習プログラムの立案	大学助教授	(金)	内容 模擬プログラムによる検討	9	10月28日	テーマ 学習プログラムの作成	(金)	内容 グループごとの立案	10	11月11日	テーマ これからのコーディネーター活動	大学教授	(金)	内容 反省と抱負	
日数	月日	学習内容	講師																																																											
1	6月17日	テーマ 自分を見つめよう	大学教授																																																											
	(金)	内容 自己啓発																																																												
2	6月24日	テーマ 何のためにコーディネートするのか																																																												
	(金)	内容 問題解決・自己発見																																																												
3	7月1日	テーマ どのようなコーディネーターを目指すか																																																												
	(金)	内容 目標の確認																																																												
4	7月8日	テーマ 子どもをどう理解するか		元子どもと親のサポートセンター教育相談員																																																										
	(金)	内容 青少年理解																																																												
5	7月15日	テーマ 子どもとどう接するか																																																												
	(金)	内容 青少年理解																																																												
6	9月9日	テーマ 子どもとどうかかわるか																																																												
	(金)	内容 コミュニケーションスキル																																																												
7	9月22日	テーマ 子どもの居場所とは	大学教授																																																											
	(木)	内容 活動推進のポイント																																																												
8	10月14日	テーマ 学習プログラムの立案	大学助教授																																																											
	(金)	内容 模擬プログラムによる検討																																																												
9	10月28日	テーマ 学習プログラムの作成																																																												
	(金)	内容 グループごとの立案																																																												
10	11月11日	テーマ これからのコーディネーター活動	大学教授																																																											
(金)	内容 反省と抱負																																																													
ワークショップ	京都府地域で子どもを育てようスクラムプラン推進委員会	<p>○ワークショップ「安心・安全な子どもの居場所づくり」 …NPO国際自然大学校 東京校ディレクター(佐藤繁一)</p> <p>○ワークショップ「ボランティアコーディネートの知識と技能」 …NPO静岡県ボランティア協会 事務局長(鳥羽茂)</p>																																																												
地域子ども教室の見学	和歌山県ふれあいネットワーク推進協議会	<p>○「地域ふれあいルーム指導員等研修会」</p> <p>1. 主催 : 和歌山県教育委員会、和歌山県ふれあいネットワーク推進協議会</p> <p>2. 期日 : 平成16年6月20日(日)</p> <p>3. 会場 : 県立図書館文化情報センター 2F講義・研修室</p> <p>4. 対象 : 県内に開設する「地域ふれあいルーム」の運営に携わる指導員、ボランティア、NPO関係者、行政関係者、学校関係者 等</p> <p>5. 日程</p> <p>①趣旨説明 10:30～12:00 「地域ふれあいルーム」の全県展開に向けた取組について ～みんなでつくろう、子どもと大人のふれあいの輪～ 県生涯学習局生涯学習課 地域教育班長 西中 啓 「地域ふれあいルーム」解説事業に係わる事務処理等について 県生涯学習局生涯学習課 地域教育班 社会教育主事 高橋玉泉</p> <p>②事例紹介 13:00～13:30 子どもと大人の交流拠点「スペース“いばしょ”」の取組について 県立図書館文化情報センター 社会教育主事 村崎隆志</p> <p>見学 13:30～14:00 「いろいろな国探検隊」を見学しよう! スペース“いばしょ”コーディネーター 野沢ゆう子・田中直子</p> <p>③講義 14:00～15:00 「地域社会全体で子どもを育てるといふこと ～その意義と効用～」 和歌山大学教育学部 助教授 山下晃一</p>																																																												

3 - 3 . 安全・安心な『子どもの居場所』づくりの方策 ~危機管理とリスクの共有~

今後、より多くの地域で子どもの居場所づくりに取り組んでいただく上では、安全・安心な居場所づくりに対するノウハウが広く共有されることが重要です。

ここでは、既に取り組を展開してきた各地の事例から、実際に発生した事故や、安全な居場所の運営上の問題とそうした事態に対する対応の例を紹介します。

事故事例とその対応

【ケース 1】

- ・地域子ども教室の行き帰り時に、猿が山から下りてきて通学路に出没し、子どもたちを追いかけていた。
→すぐに警察へ連絡をするとともに、教育委員会に電話し対応を考え、子どもたちにも毎日のように注意をした。また、しばらくの間、帰宅時は集団で帰すようにした。

【ケース 2】

- ・グラウンドゴルフの時、1年生にスティックの持ち方、振り方を教えてあげようとした3年生が、1年生の振り上げたスティックに頭をぶつけ、こぶをつくった。
→応急処置として、バンソウコウや湿布をし、休ませた。

【ケース 3】

- ・水を足元にこぼして滑り、けがをしそうになった。
→活動の最初に子どもをまとめ、注意事項を伝えるようにした。

【ケース 4】

- ・活動で使用するとかした口ウでやけどをしそうになった。
→軽く水で冷やしてすんだ。

【ケース 5】

- ・スタッフの目が届かないところで、子ども同士がけんかをし、頭にけがをした。
→応急手当をするとともに、大事を考えて帰宅させ、家庭へその旨を連絡した。

青森県子ども教室活動推進協議会報告書より

◆安全管理マニュアルの作成と研修会での各地の問題点の共有

長崎県子どもの居場所づくりコーディネーター 石瀬尚美さん

長崎県の子どもの居場所づくりコーディネーターとなって5ヶ月が過ぎました。県のコーディネーターとしての私の仕事は、県内における子どもたちの居場所づくりを推進することです。

平成16年度、長崎県には、48ヶ所の居場所があります。その組織や活動の形態は様々です。小学校の保護者が中心となって居場所づくりをしているところ、各地域の達人が集まっている居場所、NPO法人が中心になって進めているところ等々、各居場所が、それぞれの特性を活かして活動しています。居場所の形態は様々ですが「未来を担う子どもたちのために」、「地域ぐるみで子どもたちを育てていこう」の思いは同じです。

さて、この「子どもの居場所・地域子ども教室」を息の長いものにしていくために、本年度は「安全管理マニュアル」の作成に取り組むとともに、「地域子ども教室研修会」を2回開催してまいりました。研修会においては、現在「地域子ども教室」の運営に携わっている方、次年度からの教室開催を考えていらっしゃる方、行政の担当の方など130名近くの参加がありました。その中で活発な意見交換がされ、すでに取り組んでいる方からは、「地域の子子どもたちが親しみをもって挨拶してくれるようになった」「子どもたちとの居場所の活動の中で、自分たち大人にも居場所ができたような気がする」など「やりがいがある」とい

うプラスの感想を多く寄せていただきました。反面、「思うように参加者・支援者が集まらない」「子どもたちへの接し方に迷う」「運営が大変」などの悩みも挙げられました。

今後は研修会で挙げられた課題を皆で共有しながら、「よりよい地域子ども教室の運営方法」を探っていきたくて考えています。そのためには、通信の発行等のネットワーク作りを進め、各地域子ども教室のみなさんが情報交換しやすい環境づくりをしていきます。その中で地域子ども教室推進事業研究協議会の全国事例や先進地視察で得られた県内・県外の情報を確実に伝えていきたいと考えています。

「子どもたちのために」という皆さんの温かい気持ちを「地域子ども教室」という形で長く続けていくためには、ある程度のひな型が必要であるとと考えています。煩雑な部分はできるだけ簡略化し、より多くの人に「地域子ども教室」に関わっていただき、「地域の子子どもは地域が育てる気運」が県内各地に広がることを目指します。



安全な居場所の運営上の問題とその対応

【ケース1】

- ・台風が近づいていた為、当日に中止を決定した。
→学校の協力を得て、各担任の先生が帰宅予定時間を変更しても大丈夫か確認。4年生1名が保護者と連絡がとれず、職員室に残っていた。「参加カード」に「緊急連絡先」を書いてあるが、再度徹底してもらおう文書を作成し、配布予定。

【ケース2】

- ・10:00スタートの土曜開設の居場所なのに、9:00ごろ子どもがきてしまった。
→子どもの家に電話したところ、「学校が閉まっていれば帰ってくると思った」とのことなので、迎えに来てもらった。学校近隣は商店街のため、休日の朝は人通りが少なく危険。受付時間を明記し、あまり早くこないように呼びかける。

【ケース3】

- ・居場所の近くで強盗傷害事件が発生し、学校長より連絡があったので委員長判断で事業を中止した。その後、犯人がつかまらず、目撃情報もあったために土曜日開催の事業も中止し緊急連絡網で流した。当日に中止の張り紙をし、指導員2名を入り口配置して来てしまった子に対応した。
→このような時だからこそ、事業を行うべきではという保護者らしき人からの電話があり、指導員間でも色々な意見がでた。次回の会議で対応について話し合う。行政とも相談。中止の判断基準と、時期について検討。学校に子どもがいる段階で決定し、先生を通じて連絡してもらうことも。
- ・4月土曜日朝、校区で発砲事件があった。
→ドッジホール大会開催中集団下校を行う。関係者に連絡、指導。手紙を後日出して周知した。

アンケート調査自由回答より

◆安全管理指導員も配置し、毎日の引継ぎの徹底で子どもの安全を守る

東京都港区「放課 GO→あおやま」コーディネーター 軸屋博子さん

1. コーディネーターとなったきっかけ

二年前より、地域のイベントに子どもたちが参加し、楽しい時間を過ごせるよう学生や主婦を募り、ボランティアグループをたちあげ、地域の子ども支援に参加してまいりました。子どもたちが、いかに楽しく過ごせるかを仲間と考えていましたところ、文部科学省ホームページの『居場所づくり』を知り参考にしていました。

今回、港区青山小での放課後育成事業の指導員として、今までの経験を生かし、子どもたちと放課後の時間を過ごしてみようと思ひ応募いたしました。

2. 主な活動内容

「放課 GO あおやま」は、港区青山小の児童を対象に学校内の教室を利用し、子どもたちが安心して安全に、のびのびと過ごすことができる『居場所』です。子どもたちが様々な活動を通し、学年の異なる友だちや地域の方々と交流し、自主性や社会性、創造性を養うこと目的としています。

指導員はリーダー2名、サブリーダー4名と、地域の方々による安全管理指導員6名で、月曜日より金曜日の放課後から五時まで行っています。現在登録者は56名で『フリータイム』、『放課 GO タイム』、英会話教室、算数教室が、主なプログラムです。

『フリータイム』は『アップタイム』と私たち指導員が名づけた時間で宿題やプリント綴り（計算と漢字）を30分間学習します。プリント綴りは指導員の手作りで、各学年の学習を復習形式に各30枚ずつ作成しました。

9月開設時は、入室から各自が30分間『アップタイム』をしていましたが、各学年の下校時間が異なり、先に入室した子どもが遊び始めている中での『アップタイム』が、なかなかうまくいかず、『一斉アップタイム』に10月末より変更いたしました。その後、子どもたちの中に「今日は何時からなの?」「もうアップタイ

ムの時間?」という質問がでるなど意識の定着を実感し、30分間が有意義なものとなりました。

その後、指導員と安全管理指導員の見守る中、1時間程、校庭や体育館で各自ドッジボール、ソフトボールや野球などの外遊びを行います。

『放課 GO タイム』は、キンボール、スポーツ吹き矢、スポーツチャンバラ、折り紙教室で専門的指導者に月一回ずつ指導していただいています。

3. 活動にあたっての課題点

開設時より子どもたちが安全に楽しく過ごすことができるよう心掛けています。

参加申込後、子どもたちの一ヵ月分の参加予定を事前に参加簿に記入しておき参加カードを持参した子どもと照らし合わせ入室の時間を記入します。

参加予定の子どもが入室していない時は、保護者に連絡するなど子どもの入退室には、細心の注意をはらって子どもが今どこにいるかを常に確認しています。

またリーダー2名は、毎日引き継ぎをおこなって前日の放課 GO 室の様子が次の日に伝わるようにしています。子どもたちの安全を守るためにも、その情報交換がとても重要となっています。

このように子どもたちの情報（特に健康面）が放課 GO 室に数多く得られることが『子どもたちの安全』にとって大切なことと、この6ヵ月間で実感しています。

4. 今後の抱負

今後は「放課 GO 室」での体験や思考の輪を広げていき、子どもたちが楽しく安全な放課後を過ごせるように努力したいと考えております。



実際の失敗・事件・事故事例とその対応

- ❖ 平成 16 年度に実施された子ども教室での事件・事故は、全体の 1 割に満たない発生率であり(アンケート結果より) 内訳は、「子どものけが」「災害」「施設周辺での事件」「運営・管理上の問題」に大別され、その大部分は「子どものけが」となっている。
- ❖ 「子どものけが」は、“きず”“捻挫・骨折”“やけど”などが発生している。その対応としては、応急手当、病院での治療、保護者への連絡、保険の申請等を行うとともに、教育委員会や指導員、コーディネーター等に事故の周知を図り、再発防止に努めている。
- ❖ 「災害」に関しては、“台風による子ども教室の中止”があった。その対応としては、学校の協力を得て、先生が帰宅予定時間を変更しても大丈夫が確認している。その際、子ども 1 名が保護者と連絡がとれず、職員室に残ったことから、「参加カード」の「緊急連絡先」を再度徹底してもらった文書を作成し、配布する予定となっている。
- ❖ 「施設周辺での事件」に関しては、“子ども教室の近くでの強盗傷害事件”と“校区での発砲事件”があった。強盗傷害事件の発生に対しては、委員長判断で事業を中止するとともに、中止の張り紙をし、さらに指導員 2 名を入り口配置して、来てしまった子に対応している。また、発砲事件の発生に対しては、予定していたドッジボール大会は開催したが、活動後にボランティア、指導員、職員で下校指導を行っている。
- ❖ 「運営・管理上の問題」に関しては、“判断連絡”“盗難”“人的トラブル”“器物破損”が発生している。このうち、“判断連絡”に関しては、天候判断により海上での事故の危険があったケースであり、その対応として、後日、実行委員会と協議し、実施の際の天候判断について基準を設けている。また、子ども教室開催の 1 時間前に子どもが来てしまったケースがあり、子どもの家に電話して迎えに来てもらうとともに、受付時間を明記し、あまり早くこないように呼びかけることとしている。これらは、運営サイドの事前のチェック項目として配慮すべき事項であり、実行委員会による情報収集とともに、研修会や速報などにより各子ども教室に周知していくことが、同様の問題を発生させない上で重要となる。
- ❖ その他、運営・管理上の問題として、スタッフの現金盗難、子ども同士のトラブル、ガラスの破損などが発生している。このうち、スタッフの現金盗難、子ども同士のトラブルに関しては、問題を抱える子どもをフォローアップする居場所としての役割にも配慮し、即座に否定するようなことはせず、見守る体制が取られている。また、器物破損に関しては、保護者に費用負担してもらったり、保険に入っていなかったため困ったりするなど、事前の対策が取られていないケースであった。

表3-5 アンケートから得られた事件・事故の事例（抜粋）

分類	発生したこと(例)	対応(例)
子どものけが	スポーツ活動中にボールやバット等が顔面に当たった。	家庭に連絡すると共に、医療機関で治療を受けた。 児童が加入している保険会社に申請して治療費を受けた。 事故の様子や状況等について他の指導員・管理者に連絡し、再発防止に配慮した。
	かくれんぼの弾みで転んで、設置してあった書架の棚の角で右目横下を負傷した。	事故発生後安全指導員は学校の養護教員にけがの状況を見てもらい、応急処置をして医療機関へ行くと同時に保護者に状況説明をする。 中部ブロック社会教育センターから事故の連絡を受け、北部ブロック社会教育センターの職員が現地へ行く。けがの状況を聞きその後は保護者をお願いして帰る。 会長が地域子ども教室の子ども全員に再度周知徹底をした。
	活動中に児童がけがをした	ボランティアが、医者に連れて行き、教育委員会、保護者に連絡。保険にて対応
	施設内に置いたある器具にぶつかり、右目下に1.5cmの切り傷	病院へ連れて行くとともに保護者に連絡、治療を受けた。後日、指導員会議を開き、会場の死角など安全対策について再確認を行った。
捻挫・骨折	活動中に他の児童に腕を強く引かれたため、捻挫した。	痛みを訴えたので、早退させ、保護者に整形外科に連れて行ってもらった。 子ども同士のトラブルにも注意を払うことの必要性を再認識した。
	ドッチボールの最中の突き指で小指の骨折	学校で養護教諭の応急手当を受け、経過を観たが、痛みがおさまらない様子だったので病院へ連れて行った。保護者にも連絡した。
	足の骨折	活動マニュアルに従って病院にて治療保険適用により対処
	そりすべりでの骨折	実行委員会においても学校と経過を共通に確認し対応した。地区コーディネーター会議において状況を説明し周知した。
やけど	料理教室で熱い鉄板が触れてやけど	熱いものを運ぶときは声を出すように徹底した。
災害	台風が近づいていたため、当日に中止を決定した	学校の協力を得て、各担任の先生が帰宅予定時間を変更しても大丈夫か確認。4年生1名が保護者と連絡がとれず、職員室に残っていた。「参加カード」に「緊急連絡先」を書いてあるが、再度徹底してもらおう文書を作成し、配布予定。
施設周辺における事件・事故	居場所の近くで強盗傷害事件が発生	学校長より連絡があったので委員長判断で事業を中止した。その後、犯人がつかまらず、目撃情報もあったために土曜日開催の事業も中止し緊急連絡網で流した。当日に中止の張り紙をし、指導員2名を入り口配置して来てしまった子に対応した。このような時だからこそ、事業を行うべきではという保護者らしき人からの電話があり、指導員間でも色々な意見がでた。 次回の会議で対応について話し合う。行政とも相談。中止の判断基準と、時期について検討。学校に子どもがいる段階で決定し、先生を通じて連絡してもらおうことも。

分類	発生したこと(例)	対応(例)
	早朝 8 時前、校区で発砲事件発生	土曜開放 10:00-12:00 ドッジボール大会を予定していた。実行委員会のメンバー、会長、子ども会会長、スポーツ関係スタッフに連絡対応する。活動後、ボランティア、指導員、職員で下校指導を行う。
運営・管理上の問題	判断連絡 悪天候の時に、小船で海上に出る活動を実施。波が高く事故につながる危険があった。	後日実行委員会で協議し、実施の際の天候判断について基準を設けた。
	10:00スタートの土曜開設の居場所なのに、9:00ごろ子どもがきてしまった	子どもの家に電話したところ、「学校が閉まっていれば帰ってくると思った」とのことなので、迎えに来てもらった。学校近隣は商店街のため、休日の朝は人通りが少なく危険。受付時間を明記し、あまり早くこないように呼びかける。
	盗難 スタッフのお金(17,000円ほど)が盗難に遭った	子どもたち(高校生)との話し合いを持つ。スタッフ全員と中高生運営委員との緊急会議をもつ。大人から解決するまで閉鎖をとの意見がでたが、高校生か「心の寂しさからくる犯行だと思う。その気持ちをくみとり、フォローアップするためにもこの場合は必要」との発言を尊重し、そのことに徹した。
人的トラブル	中 1 の男子生徒のグループが時々地域子ども教室に来て、低学年の子どもたちにちょっかいを出すトラブルがあった	注意されても聞かないグループ(中 1)に対して、他の大人の施設利用者から排除(出入り禁止)するよう施設側に申し入れがあった。しかし当施設も排除すると、この子どもたちはさらに社会から追いやられると考え、繰り返し注意しながら、また中学校とも連絡を取りながら対応している。家庭にも問題があり、その他の子どもたちへの影響もあるが、見守り続けている。
	子ども同士のケンカが親のケンカになった	コーディネーター・指導員がそれぞれの親の意見を聞き、話し合った。
	ボランティアの人選上の問題があった	地域の方より自主的にボランティア希望の申し出があり、ボランティアを希望する方だから信用できるだろうという事をお願いしたが、後から地域の方より「問題がある方」だよという情報があった。委嘱状も交付した手前、お断りする事もできず、教師が講師の管理もしながら進めている状況である。
器物破損	事業に伴う、レンタカー運転時に部損事故を起こした	車両保険で対処
	校庭にある小屋の窓ガラスを叩いて、ヒビを入れてしまう	関わった子の保護者に状況を説明し、かかる費用を負担してもらった。
	学校の窓ガラスを割ってしまった	休日だったこともあり指示をおおげなかつた。直接ガラス屋に連絡をとり修理した。保険に入っていなかったのが困った。

安全な居場所づくりには、活動に関わる全ての人の意識が重要です

地域子ども教室に活動場所を提供している学校長や施設長も、施設の管理方法や事故発生時の対策などを地域子ども教室のスタッフと確認するなど、安全な活動に向けた配慮を行っています。

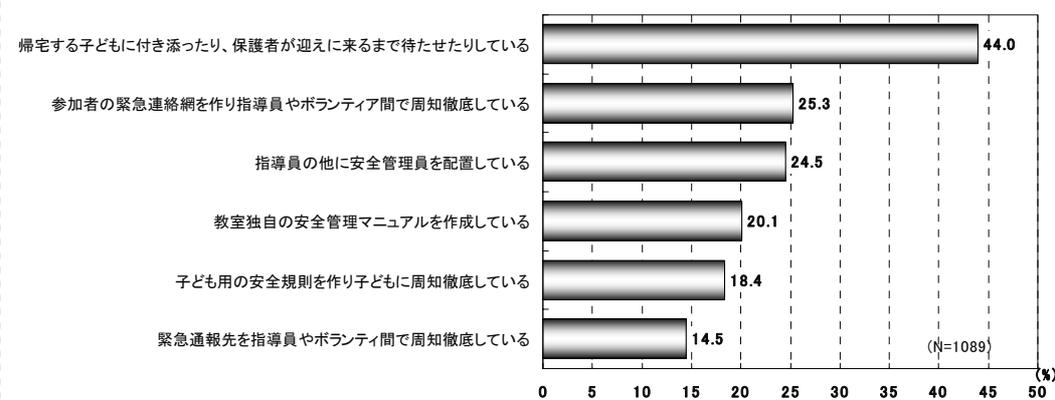
また、指導員やボランティアの方は、子どもが地域子ども教室の中で安全に活動できるだけでなく、無事に家に帰るまで気を配っていることが分かります。

こうした、地域子ども教室の運営を支えるあらゆる関係者が、安全・安心な居場所づくりに配慮することが重要です。

地域子ども教室で実施されている安全対策例

	項目	内容
教室での対応	在籍児童の管理	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや指導員、ボランティア等に身元確認のための名札やバッジをつけさせる 受付で参加者の名前、学校、学年、来た時間、帰る時間等を記入させる 参加証を子どもに発行し、入口で回収してから終了までに参加印を押して子どもに返却する 在籍児童が活動している場所をマグネット式名札で掲示し、子どもの動向を把握する
	部外者の立入管理	<ul style="list-style-type: none"> 部外者が立入困難な会場や部屋を使用し、出入り口を1ヶ所にしたり、旋錠したりする 教育委員会事務局、駐在所、消防署等の近くの施設で活動する 指導員の他に、安全管理担当の人員を配置する 会場に防犯用具(護身スティック、カラーボール等)を配備したり、指導員にホイッスルや防犯ベルを常備させる 見学者は、名簿に名前を記載するとともに、名札をつけてもらう
教室周辺での対応	巡回パトロール	<ul style="list-style-type: none"> 通学路や教室開催時刻の会場近辺を巡回パトロールする 子ども教室事業を周知するチラシを学校区の全戸に配布し、子どもの下校時に「呼びかけ」を依頼する
	連絡体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話やFAXを使い、発出所や公民館、防犯協会、児童センター等との連携により、不審者や事故の情報を一斉に連絡する
	子どもの送迎	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時には活動場所、玄関、道路ゲートに一人ずつ職員を配置する 帰宅時には同一方向ごとに集団下校の体制をとる 保護者の送り迎えを要請する。(特に、低学年の子どもや日の短い冬期) 職員や安全管理員が送り迎えをする 子どもを広い地域から集める時には、バスで送迎する

◆指導員やボランティアの方は、子どもの帰路の安全について特に配慮されています



←安全管理に関する研修会
(岩手県子どもの居場所づくり運営協議会)

安全管理員 →
(とよなか地域子ども教室実行委員会)



安全対策の実施状況

- ❖ 地域子ども教室の安全対策では、「安全管理マニュアルの作成」や「安全管理員の配置」「活動の監視・注視」「帰宅時の安全確保」などが実施されている（アンケート結果より）。
- ❖ このうち活動中の安全確保としては、子どもがきちんと子ども教室内で活動しているかを把握するために、「名札つけ」「受付での名前・学年・学校・来た時間・帰る時間の記入」「参加証の発行」「子どもの居場所の掲示」などが行われている。また、部外者の立入管理として、「出入口の旋錠」や「教育委員会事務局等の近くでの実施」「安全管理員の配置」「防犯用具の設置」「見学者の名札つけ」が行われている。その他、参加に際して「保険への加入」を義務づけているケースもある。
- ❖ また、アンケート結果で最も多かった子どもの集合・帰宅時の安全対策については、地域での監視として「巡回パトロール」や「携帯電話・FAXを使った連絡システム」「啓発ステッカーの配布」が行われている。さらに、送迎に関しては「集団下校」のほか、広い地域から子どもを集める時には「バスで送迎」する事例や、日の短い冬期間や低学年の時は「保護者」や「地域の安全管理員」に帰りの引率をお願いしたり、同方向の子どもがいた場合は、その子どもの引率もお願いしたりしている事例も見られる。

表3-6 安全対策の内容《運営協議会事業報告書等から抜粋》

分類		運営協議会	実行委員会	概要
在籍児童の管理	参加者に名札をつける	岩手県子どもの居場所づくり運営協議会	大迫町子どもの居場所づくり運営協議会	○大迫町子どもの居場所づくり「ダルトン・ハウス」参加希望者名簿の作成と当日は呼名と挨拶名前をガムテープに書き衣服に貼り付け 指導員・協力員等のスタッフは名札使用
		静岡県地域子ども教室運営協議会	三島市地域子ども教室実行委員会	○コスモスキッズクラブ 身元確認のためカード(氏名等)を発行し、 <u>バッジを身体につけることにより参加者の把握をしている。</u>
	受付で名前等を記入	岩手県子どもの居場所づくり運営協議会	盛岡市子どもの居場所づくり実行委員会	○上田ジュニアキャンパス(UJC) 木曜日のUJCに子どもが来たら、 <u>受付で名前、学校、学年を書かせる。</u>
		岩手県子どもの居場所づくり運営協議会	新里村子どもの居場所づくり実行委員会	○新里あっとホーム 玄関に参加名簿を置き、「 <u>氏名・学年・来た時間・帰る時間</u> 」を必ず記入させた
参加証の発行		兵庫県子どもの居場所づくり運営協議会	猪名川町子どもの居場所づくり推進協議会	○こどもパークつつじが丘 <u>参加証を発行、入口で回収し、終了までに参加印を押して子どもに返却して、途中で帰宅する子どもを掌握している。</u> 低学年に関しては親に連絡を取り、 <u>迎えを要請する。</u> <u>安全担当には必ず男性が1名以上着いている。</u>
		兵庫県子どもの居場所づくり運営協議会	福崎町子どもの居場所づくり推進協議会	○福崎町子ども教室 屋外活動に際しては、 <u>ポイント毎に人員を配置し、無線等で適宜連絡を取り合うようにしていく。</u> また、 <u>最初に番号カードをわたし、帰ってきたらカードをもらい全員の確認を確実にを行う。</u>
子どもの居場所の掲示		滋賀県地域教育力体験活動推進協議会	多賀町女性団体連絡協議会	<u>マグネット方式の名前札</u> で子どもの居場所をスタッフ全員が把握できるようにしている

第3部 地域子ども教室の今後の推進に向けて

分類	運営協議会	実行委員会	概要
	静岡県地域子ども教室運営協議会	中川根地域ふれあいスクール実行委員会	○中川根地域ふれあいスクール三つ星校 子どもの動向がはっきりするように、児童昇降口に <u>黒板と名前磁石を設置</u> している。 子どもは放課後、希望教室欄に名前磁石を貼ってから移動、帰宅時には帰宅欄に貼ってから帰宅するようにした。
部外者の立ち入り管理	兵庫県子どもの居場所づくり運営協議会	尼崎市子どもの居場所づくり推進協議会	○尼崎北子ども教室 学校に設置している校門遠隔旋錠システムの活用 救急法の徹底、冊子を作成し職員に配布
	おおいた子ども教室推進委員会	別府市子ども居場所づくり実行委員会	○緑丘育成クラブ 学校の中で実施するので、校舎の開閉は校長または教頭にしてもらい、校舎内への出入りは、校長か教頭が責任をもって監視した。
	滋賀県地域教育力体験活動推進協議会	マキノいきいき元気体験活動推進協議会	体育館、フェンス付きグラウンド、多目的室など部外者の立入が困難な会場を使用し、リーダー・ボランティア数人～10数人で教室の運営を図る。
	静岡県地域子ども教室運営協議会	子どもの居場所づくり(森町)実行委員会	○おはなしぶんこ 会場内に読み聞かせのための <u>部屋を用意</u> して不審者などの侵入に配慮している
	岩手県子どもの居場所づくり運営協議会	北上市子どもの居場所づくり実行委員会	○うで組 講座会場が旋錠可能な施設では、 <u>鍵をかけて講座を開催</u> した。また、帰宅時に不安がある場合には、自宅までスタッフが送り届ける。
	岩手県子どもの居場所づくり運営協議会	軽米町子どもの居場所づくり実行委員会	○軽米図書館ひろば 不審者の侵入を考慮し、会場である中央公民館の2ヶ所ある <u>出入り口を、子ども教室の活動時間帯は1ヶ所だけ使用</u> することにし、人の出入りが確認しやすいようにした。 参加者は帰宅時、必ず指導員に声をかけるように決めた。
教育委員会事務局等の近くで実施	岩手県子どもの居場所づくり運営協議会	野田村子ども居場所づくり運営協議会	○野田キッズセンター 入室、退室する際は <u>出席表で必ず確認</u> した。緊急連絡先名簿や救急箱を常備した。 主会場は、 <u>教育委員会事務局や駐在所、消防署のすぐ近くにある生涯学習センター</u> とした。 冬期間は、 <u>保護者に迎え</u> にきてもらうよう依頼した。
	岩手県子どもの居場所づくり運営協議会	九戸村子ども居場所づくり実行委員会	○九戸村地域子ども教室 事務局を置く <u>教育委員会の2階に活動場所を設置</u> し、すぐに職員が対応できる体制とした。
安全管理員の配置	滋賀県地域教育力体験活動推進協議会	大津つ子夢 未来知あけん活動推進協議会	指導員研修において、危機管理の鉄則について説明し、3名以上の指導員を配置し、そのうち <u>1名は必ず安全管理担当</u> とするよう依頼した。
	兵庫県子どもの居場所づくり運営協議会	養父市子どもの居場所づくり推進協議会	○養父市ようか子ども教室 開催時には、常に安全管理指導員を2名配置(10名程度の安全管理指導員の中でローテーション)した。 活動毎に、参加者全員が自ら作成した <u>名札をつけ</u> 、名前の確認ができるようにした。 子どもの送迎の有無と引き渡しの確認を行う。
防犯用具の設置	静岡県地域子ども教室運営協議会	福田町地域子ども教室実行委員会	○遊びの宝島 会場には防犯用に護身スティックを配備している

分類	運営協議会	実行委員会	概要
	兵庫県子どもの居場所づくり運営協議会	播磨町子どもの居場所づくり推進協議会	○播磨町いきいきスポーツ子ども教室 安全対策として安全管理員はもとより、 <u>指導員全員がホイッスルを携帯し不審者への対策も関係者全員で行っている。</u>
	兵庫県子どもの居場所づくり運営協議会	加東郡子どもの居場所づくり推進協議会	○東条東子ども教室 防犯ベルの携帯、カラーボールの常備、出席簿の記入(退出の時間と方法の確認)、名札の着用と返却
	見学者に名札をつける	福島県青少年体験活動・居場所事業推進協議会	本郷二小寺子屋教室実行委員会 不審者への対応として、 <u>見学者は名簿に名前を記載するとともに、名札をつけてもらうようにしている。</u>
保険への加入	静岡県地域子ども教室運営協議会	熱海市子どもの居場所づくり実行委員会	○網代海の子学校 網代小学校の児童を対象としているため、 <u>保険への加入はPTA会費から拠出した</u>
	おおいた子ども教室推進委員会	中津子ども教室実行委員会	<u>保険加入(スポーツ安全保険)が義務づけられていることを保護者に十分に理解してもらったうえで、募集をしている。</u>
	北九州市教育委員会	—	○老松子どもひろば 子どもは参加者全員、 <u>初回に必ず保険に加入してもらい、途中入会者もその都度保険に加入。登録指導員は「老松子どもひろば」より費用を負担し、ボランティアは主に自己で負担する。</u>
地域での監視	巡回パトロール	滋賀県地域教育力体験活動推進協議会	石部地域子ども教室実行委員会 実行委員会では趣旨に賛同してもらえるボランティアをできるだけ数多く依頼し、 <u>教室開催時刻に会場近辺をパトロールしてもらう。</u>
		兵庫県子どもの居場所づくり運営協議会	市川町子どもの居場所づくり推進協議会 ○瀬加子ども教室 <u>教室周辺および通学路の巡回パトロール</u> を行い、帰宅時の安全確保に努めた。
		静岡県地域子ども教室運営協議会	伊豆市子ども教室実行委員会 ○伊豆市子ども教室 下校時の安全対策として、子ども教室事業を周知するチラシを学区の全戸に配布し、「子ども教室」への参加を依頼するとともに、子どもたちの下校時の安全対策として「呼びかけ」を依頼している。
子どもの送迎	連絡体制づくり	岩手県子どもの居場所づくり運営協議会	水沢市子どもの居場所づくり運営委員会 ○水沢市立常磐小学校「あそんでいいとも！」 学校では不審者対策がとられており、また居場所内でのけがや病気などについても、保健室の利用を許可されるなど、学校側の協力体制が取られている。 居場所から帰宅する際の安全確保に関しては、 <u>プリペイド携帯電話を使った「安全管理システム」を運用した。電話番号とメールアドレスを記載したチラシを、派出所や公民館、防犯協会、児童センターなどに配布し、不審者や事故などの情報をこの携帯電話に連絡してもらうようにした。</u>
		滋賀県地域教育力体験活動推進協議会	近江八幡市子ども体験活動協議会 市内や、近隣市町村で子どもが被害にあった場合(未遂も含め)、市教育委員会に連絡が入り次第、市内の各公民館にFAX等で一斉に連絡をして、対応できるようにしている。
	啓発ステッカーの配布	兵庫県子どもの居場所づくり運営協議会	龍野市子どもの居場所づくり推進協議会 ○龍野西子ども教室 青少年育成連絡協議会では、地元地域に <u>啓発ステッカーを配布</u>
子どもの送迎	職員の配置	静岡県地域子ども教室運営協議会	三島市地域子ども教室実行委員会 ○コスモスキッズクラブ 送迎時には <u>活動場所、玄関、道路ゲートに一人ずつ職員を配置している</u>

第3部 地域子ども教室の今後の推進に向けて

分類	運営協議会	実行委員会	概要
集団下校	福島県青少年体験活動・居場所事業推進協議会	滝根町子ども教室運営協議会	参加者の確認、下校には同一方向ごとに集団下校の体制をとっている。
保護者による送迎	北九州市地域子ども教室運営協議会	—	○広徳なかよし広場 往路1(学校⇒家庭⇒市民センター)、往路2(学校⇒市民センター)の選択を各家庭にお願いし、学校からセンターへ直接くる児童については、保護者の同意のもと、センター方向へ帰る児童と一緒に帰すよう学校長にお願いした。 また、一度家に帰ってから来る児童については、各家庭に責任をお願いしているが、保護者が送ってくるか友だちと一緒に行かせているようである。 復路については、活動終了後、活動指導員より「広徳なかよし広場」安全管理マニュアルに則って、絶対守るべき規則を子どもたちに徹底し、同じ方向の子ども同士、組を作って帰らせている。保護者が迎えにくるところは同方向の子どもをお願いしている。
	静岡県地域子ども教室運営協議会	島田市地域子ども教室実行委員会	○初倉地区子ども教室 登下校時の安全確保のために保護者の送り迎えを参加申し込みの条件としている。
	兵庫県子どもの居場所づくり運営協議会	猪名川町子どもの居場所づくり推進協議会	○こどもパークつつじが丘 参加証を発行、入口で回収し、終了までに参加印を押して子どもに返却して、途中で帰宅する子どもを把握している。低学年に関しては親に連絡を取り、迎えを要請する。 安全担当には必ず男性が1名以上ついている。 窓ガラス、ドアガラスに飛散防止フィルムを貼り付けた。
職員による送迎	静岡県地域子ども教室運営協議会	小山町地域子ども教室推進協議会	○金太郎教室 職員が学校と会場までの送り迎えをしている
	北九州市地域子ども教室運営協議会	—	○東郷チャレンジクラブ 子どもたちの安全のために、2校区に安全管理員を配置している。 駐在職員、消防署と連携をとっている。 放課後、17時まで子ども教室を実施。帰宅時の安全のために地域の安全管理員に、各町内に分かれて帰りの引率をお願いしている。 年間500円のスポーツ安全保険に加入。
車での送迎	岩手県子どもの居場所づくり運営協議会	大野村教育振興連絡会議	○土曜探検隊(大野教室) 子どもを広い地域から集める時には、バスで送迎する他、各児童館から子どもを送り迎えするように児童厚生員にお願いした。 少しでも危険が予測される事業に関しては、イベント保険を概数で事前にかけた。
	静岡県地域子ども教室運営協議会	東伊豆町地域子ども居場所づくり実行委員会	○東伊豆町囲碁教室、ふるさと学級、こども広場 教室の場所がそれぞれの地域から6km位はなれた町の中心に近いところにあり車での送り迎えを相乗りでしている。

安全管理マニュアルの作成状況

- ❖ 安全管理のための取組の一つとして、文部科学省の「地域子ども教室推進事業 安全管理マニュアル H16.5」が半数以上の運営協議会で活用され、「健康管理」「不審者侵入対策」「災害対策」「施設周辺における事故・事件」に関わる危機管理についての対応が示されている。
- ❖ 文部科学省のマニュアルを、地域の実態に合わせた内容にして活用している事例として、青森県では、「点検場所」や「医療機関の連絡先」、「担当者」等の具体的な情報を記述する記入欄を設け、具体的な対応がとれるようにするとともに、「安全点検表」、「連絡カード」、「子ども教室緊急対応表」等を添付している。福井県でも、文部科学省のマニュアルの内容を補完する形で、「参加申込書・健康調査票・免責同意書例」、「危機予知トレーニング例」、「緊急時の心得」、「連携を図った安全対策例」、「救急・火災の通報における注意事項」、「関係機関一覧」、「保険について」等の情報を参考資料として添付している。
- ❖ また、3割弱の運営協議会では独自の安全管理マニュアルが策定されており、事例をみると、静岡県では、事故発生時の対応・処理と事後の処理が事故の種類毎に示され、さらに地域で懸念される災害として東海地震への対応が示されている。東京都では、実行委員会と安全管理指導員の役割を明確化しており、実行委員会の日常業務・緊急時の役割・事後処理の方法について示すとともに、「安全管理指導員のてびき」を作成し、子ども教室の現場での安全管理に対応している。また、当該内容を示した「東京都地域子ども教室 安全管理のてびき」は北海道地域子ども教室推進事業運営協議会が複製使用承諾を得て、北海道地域子ども教室「安全管理のてびき」として活用している。
- ❖ その他、岩手県では実行委員会と地域子ども教室のチェックリストを作成し、各主体に応じた安全管理が実行されるようにしている。また、長崎県では、緊急時の対応の流れを簡素に示したハードリーフレットを作成・配布し、事件・事故発生時には即座に対応できるようにしている。

表3-7 各地で工夫されている安全管理マニュアルの内容

分類	運営協議会	安全管理マニュアルの内容
文部科学省 マニュアル を活用	福井県子ども の居場所づく り推進協議会	<p>○「地域子ども教室推進事業における安全管理」 文部科学省の「地域子ども教室推進事業 安全管理マニュアル H16.5」等を参考に以下の情報を参考資料として添付</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 救急箱の内容例(消毒薬、傷口ばんそうこう、三角巾、包帯……) 2. 参加申込書、健康調査票、免責同意書例 3. 食中毒の予防について(①清潔な調理、②できるだけ早い調理と喫食、③食品の加熱・冷却) 4. 危機予知トレーニング例(日本ボーイスカウト福井連盟、(社)全国子ども会連合会のものを紹介) 5. 緊急時の心得(事件・事故発生時の緊急連絡体制例) 6. 各種手当てについて…基本的な手当(意識の有無、人工呼吸、心臓マッサージ、外傷の手当など) 7. 連携を図った安全対策例(学校、警察、消防、PTA、医療機関、教育委員会、住民など) 8. 記録用紙例 9. 救急・火災の通報における注意事項 10. 関係機関一覧(①食中毒防止・衛生管理等、②救急法講習・消火訓練・防火講話・不審者対策等) 11. 保険について(傷害保険、賠償責任保険など)

分類	運営協議会	安全管理マニュアルの内容
文部科学省 マニュアル を活用	青森県子ども 地域活動推 進協議会	<p>○「地域子ども教室 安全管理マニュアル」</p> <p>文部科学省の「地域子ども教室推進事業 安全管理マニュアル H16.5」等を参考に、点検場所や医療機関の連絡先、担当者等の具体的な情報を記述する欄を設け、地域の実態に合わせた対応がとれるようにしている。また、以下の情報を参考資料として添付</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全点検表(入り口の扉に破損はないか、照明器具に落下の危険はないか など) 2. 連絡カード(児童名、生年月日、学校名、住所、保護者名、日中の連絡先、特記事項) 3. 子ども教室緊急対応表(定期的な確認事項、各係、緊急連絡先) 4. 命を救う心肺蘇生法の手順、大出血時の止血法
独自マニ ュアルを作成	静岡県地域 教育力再生 プラン運営協 議会	<p>○「地域子ども教室推進事業」実施あたっての安全に関する留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全体を通じて 2. 開場について(管理面、会場の案内) 3. 参加者に対して(連絡について、参加者への気遣い、傷害のある子どもたちへの配慮について) 4. 保護者に対して(保護者等による迎えを原則とする) 5. 事故発生時の対応(事故の種類毎の対応・処置と事後の処理) <ul style="list-style-type: none"> ・けがの場合・生命に関わる重大事故・物品損傷・火事・地震等の災害 ・不審者の侵入 6. 東海地震に伴う対応について(「東海地震警戒宣言」「東海地震注意情報」が発令及び発表された時点で、次回以降の活動は休止する) <p>○参考シート</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域子ども教室とは 2. こんな危険に注意してください(事故・災害・健康・事件) 3. 安全管理指導員の仕事(安全に関するチェックリストの作成、事前準備・活動中・事件事務発生時) 4. 安全に関する事前準備(活動内容の確認、関係者との事前打ち合わせ、緊急連絡先の確認、周辺情報の収集) 5. 活動中の安全管理(子どもたちの観察、施設内・周辺の巡回、周辺情報の収集) 6. 活動後の安全管理(子どもたちの帰宅時の配慮、活動記録の作成、ひやり・はっとレポートの作成) 7. ひやり・はっとレポート(記録者名、発生日、時間帯、活動内容、場所、起きたことと対応、課題など) 8. 非常事態発生時の対応(健康問題、不審者侵入、施設・設備による事故、災害発生時) 9. 緊急連絡表(消防救急、警察、実行委員会、教育委員会、実行委員長、コーディネーター、病院) 10. 地域の関係機関連絡表(実行委員会、教育委員会、警察署、消防署、病院、コーディネーター、指導員) 11. 応急手当(救命、悪化防止、苦痛軽減) 12. チェックリスト(事前・当日・活動中)

分類	運営協議会	安全管理マニュアルの内容
独自マニュアルを作成	東京都地域教育力再生プラン運営協議会	<p>○「東京都地域子ども教室 安全管理のてびき」: 実行委員会向け</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の業務(①安全管理指導員の配置、②安全管理指導員に対する助言・指導、③情報の収集と提供、④危機管理器具の提供、⑤関係機関との連絡調整、⑥地域住民への周知と協力要請、⑦研修・訓練、⑧点検、⑨ヒヤリ・ハット事例の収集) 2. 緊急時の役割(①事前の準備、②情報の収集、③現場への支援、④関係機関への連絡・調整、⑤マスコミへの対応、⑥保護者への説明、⑦子どもたちへの対応) 3. 事後処理(①記録の作成、②原因調査と再発防止、③保護者への対応、④現場スタッフへの対応、⑤参加した子どもたちへの対応) 4. ハットレポート(記録者名、発生日、時間帯、プログラム、場所、起きたことと対応、課題など) <p>○「安全管理指導員のてびき」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域子ども教室とは 2. こんな危険に注意(事故・災害・健康・事件) 3. 安全管理指導員の仕事(事前に実施する事項、事業開催前・中、事件・事故発生時・後) 4. 居場所の安全管理体制(例)(実行委員会、コーディネーター、安全管理指導員、活動指導員) 5. 事業前日までにしておくこと(事業内容の確認、関係者との事前の打ち合わせ、緊急連絡先の確認、周辺情報の収集、救急箱等の準備) 6. 事業当日までにしておくこと(参加する指導員との打合せ、施設の確認、使用する器具の確認、参加者の確認、子どもへの指導) 7. 事業開催中にすること(子どもの観察、施設及び周辺の巡回、周辺情報の収集) 8. 事業後にすること(子どもたちの帰宅への配慮、記録の作成、ハットレポートの報告) 9. 非常事態発生時の対応(健康問題、不審者侵入、施設・設備の事故、災害発生時、救急車で運ばれる際の注意) 10. 非常時連絡手順 11. 子ども帰宅基準(迎えに来てもらう場合、一人で帰宅させる場合) 12. 緊急連絡表(消防・救急、警察、実行委員会事務局、教育委員会、実行委員長、休日連絡先、夜間連絡先) 13. 緊急連絡 通話要領(100番通話要領、119番通話要領) 14. 事業前日までのチェックリスト(活動計画の確認、情報の確認、主催者スタッフとの確認事項) 15. 事業前(当日)チェックリスト(安全確認、場所について、参加者について) 16. 事業開催中チェックリスト(活動継続へのチェック、場所の確認) 17. 事業後記録用紙(日付、プログラム名、安全管理状況、問題点・注意点) 18. 事件事故記録用紙(記録者名、発生日、時間帯、プログラム、場所、起きたことと対応、課題など) 19. 地域連絡表(実行委員会事務局、教育委員会担当部署、警察署、消防署、病院) 20. 応急手当・きず・やけど・鼻血・骨折・熱中症・蜂にさされた

分類	運営協議会	安全管理マニュアルの内容
その他(チェックリスト・リーフレット等の作成)	岩手県地域教育力再生事業運営協議会	<p>○平成16年度「地域子ども教室推進事業」安全管理チェックリスト(例)</p> <p>[市町村の実行委員会におけるチェック項目]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域子ども教室の施設・設備に関すること 2. 関係機関や地域住民等との協力体制の整備に関すること 3. 地域子ども教室の管理運営及び指導体制の整備に関すること 4. 地域内の児童生徒や保護や、学校等の理解と協力に関すること <p>[各地域子ども教室におけるチェック項目]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども教室開始前(会場の施設設備の完全確認、非常口・避難路の確認点検など) 2. 参加者の受付時(参加者の学校・氏名・連絡先の確認、途中帰宅の有無など) 3. 活動中(指導員・安全管理員の適切な配置と活動状況の監視、貴重品の監視など) 4. 活動終了時(参加者の人数確認、地域内の不審者情報・災害情報等の確認など) 5. 終了後(施設の破損等の確認、忘れ物の確認・連絡、活動日誌の記録など) 6. その他(実行委員会への定期的な事業報告書の提出、事故報告の提出)
	長崎県地域教育力・体験活動推進協議会	<p>○「地域子ども教室」安全のために:リーフレット</p> <p>[平常時の対応]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを守る安全3か条(①大事なはいのちを守ること、どんな時にも落ち着いて行動しよう、③困った時にはすぐに助けを呼ぼう) 2. 備えは万全ですか(①緊急連絡網の作成、②救急用品の常置、③日常的な施設の安全点検、④活動時の安全確認、⑤避難訓練・防犯訓練、⑥救急救命法の講習受講、⑦地域の関連機関との連携、⑧参加者全員の保険の加入) <p>[緊急時の対応]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 通報のポイント(活動場所の名前、住所、電話番号、連絡者指名、概要説明) 2. けが、不審者の侵入、災害(地震・火事等)時の対応

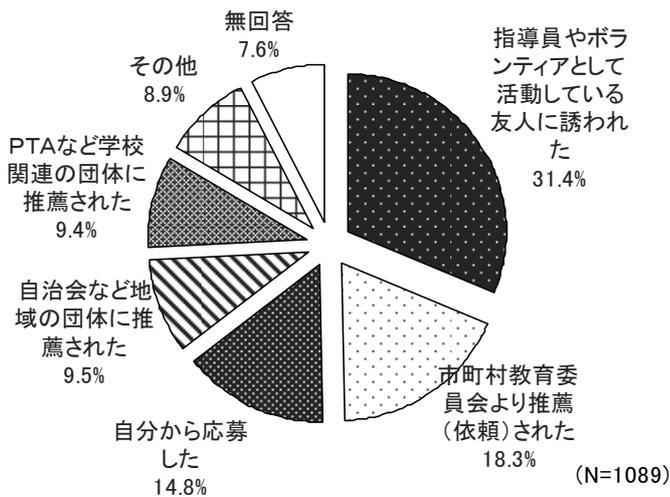
3 - 4 . 多くの主体の参加による事業運営に向けて ~ 各種支援制度等の紹介 ~

より多くの方の参加を得るためには、大人にとっての「居場所」となることも重要です

地域子ども教室の活動に実際にコーディネーターや指導員等として参加されている方の多くは、実行委員会からの声かけのほか、既に活動をされているお友だちから誘われて参加されています。

地域子ども教室が、子どもだけでなく保護者の方や地域の大人にとっての『居場所』となっていくことも、これから取組を広げていく上で重要といえるでしょう。

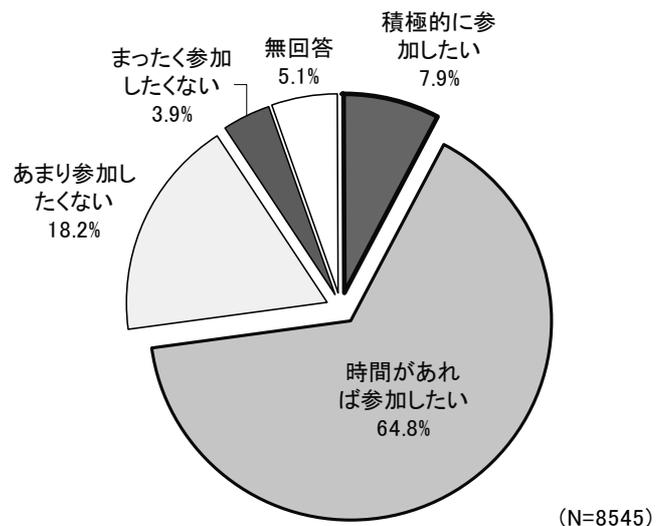
◆指導員やボランティアの方は、個人的な紹介や友人からの誘いで参加した方が多いようです



「地域子ども教室」や、コーディネーターの存在を、もっと地元の高中生や大学生に知ってもらいたい。ボランティアの参加の場、身近にあることを知ってもらいたい。また当日ボランティアだけでなく、企画・運営まで携われると面白いと思う。ボランティアの参加を大学の単位として認めるなどの考慮があるといいかも。(広島県コーディネーター)

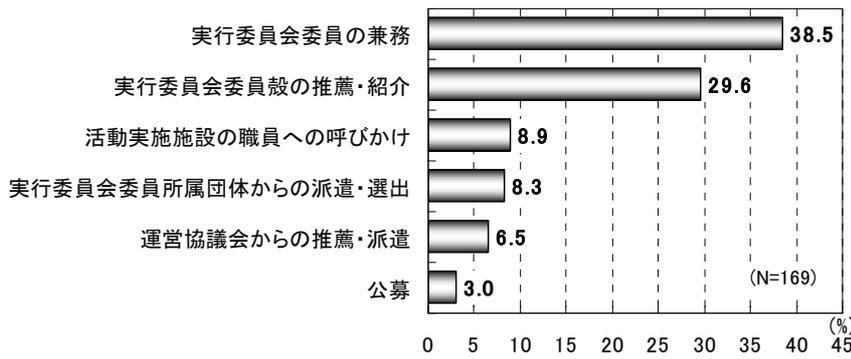
地域子ども教室は、子どもたちが普段接する機会の少ない地域の大人たちと交流できるよい機会だと思います。今後は放課後の学校を会場として活用するなど、地域-学校(教諭)-子どもたちの三者が交流できる場として成長させていけるようにすべき。(30代 男性, 指導員)

◆親子で参加できる企画があれば地域子ども教室に参加したいという保護者も多いようです



子どもが小学生になると親同士の交流が少なくなり、子育て他についての意見交換の場がかなり減りました。子どもの「居場所」がその保護者も自由に参加できる保護者の「交流の場」にもなることで、大人と他の子どもとの距離もより近くなり「地域での子育て」をより実のあるものにしていけるのではないかと思います。(30代 女性, 保護者)

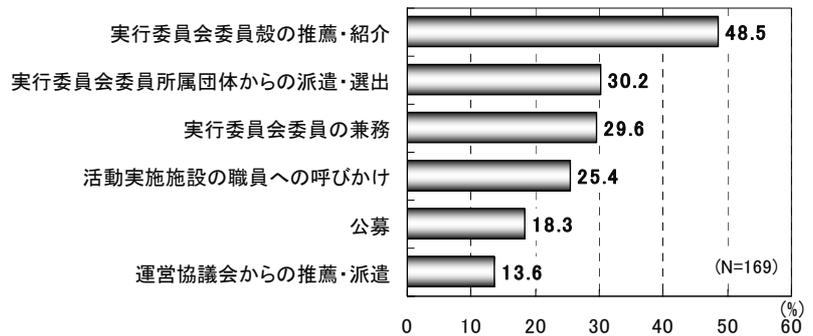
◆コーディネーターは実行委員会委員との兼務が多いようです



現状の地域指導員は高齢者（65才以上）がほとんどで、将来が心配である。日頃からPTA役員をはじめ、地域の保護者の中から、有望な将来の指導員となる人材確保を目的に制度化が必要ではないか。（70代 男性、指導員）

“行政や学校が何かやってくると助かる”という保護者の意識を、「自分にも何かできるかも…」という意識に変えていく必要があると思う。そのためには、誰が、ということなく、いろいろな方面から保護者に呼びかけていく必要があると思う。（40代 男性、指導員）

◆指導員は実行委員会委員の推薦で依頼する人が多いようです



◆地域の「達人」や「名人」を掘り起こし地域の財産として活かす

長崎県長崎市「ちびっこ創作村」指導員 入枝一男さん

1. 活動の経緯

中学時代、田舎の農産物を収納する小屋を改造した六畳ひと間に家族六人で暮らしていました。水も電気もない生活でしたから、母はいつもちゃんとした家に住みたいと言っておりました。38年前、私は24歳の時、自己所有の山林を開拓し、自然の中で家族が暮らせる家を建てることを思い立ちました。資力のない、情熱だけの無謀な計画だけに、19年もの時間が経ってしまい、住めるようになるかなあということまで進んだ頃、母が亡くなりその目標を失いました。無念と失意のあと思い直して、そのまま、子どもの遊び場に活用することとしました。今から19年前、名前を“ちびっこ創作村”と名付けて、開村式を行い、市民に無料開放することでスタートしました。当所は年間200名に満たない利用数でしたが、年々少しずつ増え、マスコミの報道の力も加わって、近年では障害者の人、不登校の生徒も含めれば年間3000人前後の利用数にまでになりました。「みんなで作って、みんなで使おう」の方針が時間はかかったものの、途中で老人ホームや障害者施設への売却の相談を断ったことで、一人の人間として、少しでも社会に役に立っているのであれば、亡くなった母も喜んでくれていると思います。私の思いとしては、子どもたちがぐらなければならない年齢にその体験のできる自然環境がなくなったことを人為的にでも取り戻し捨て去ったものを拾いあつめることは、50年後を生きる子どもたちへ我々大人の責任であるという事であります。

2. 活動内容と方針

自然の中で子どもたちの様子を私は両親に特にお母さんに観てもらいたいと常日頃思います。それは、学校でも家庭でもみせない行動と潜んでいる能力が、水を得た魚の如く実に多彩にま

たくまに出てきます。それを『危ないわよう〜』と声をかけて、つみとろうとするのは、その危険の度合いを体験していないお母さんだからです。我が子の才能を見抜くのも、育てるのも親の特権であり責任であるということをお母さん方にも理解してもらおう努めております。



支援をする私たちボランティアの立場としては、多彩な子どもたちの好気心に応えてやるべく、その様子と行動をじっくり観ながら、整備の方針を決めていきます。今年一年間で大人、子どもを含めて約2000人以上の人たちが訪れました。多彩な活動ができるということに加えて、もう一つの特色は、平成15年に行政（長崎市）の印刷代等の支援を受けた市民活動として、市井にうもれておられる、一芸に富んだ経験豊かな人材を地域の財産として掘り起こし、200名を超える、人材掘り起こしの結果を冊子にまとめ、市内・学校・活動グループ等へ2000部配布しました。各方面より好評を得、活発な活用がなされています。また、お願いされた側も活躍の機会を得たとして、喜んでおられます。先般、農文協出版の全国誌より取材を受けました。全国随所におられることで、参考になればとの思いです。

3. 今後の抱負

16年度中に前述の名人、達人、ボランティアと子どもたちとの協働作業で、自然の中でできる、ありとあらゆる、創作品を展示する“森の博物館”を作る予定です。子どもたち主役のいやがもうでも創作意欲をかきたてられる人気の館になることを楽しみにしています。中期計画としては、核家族に抵抗して囲炉裏と縁側文化の整備をすすめ、おじいちゃんの昔ばなし、おばあちゃんのお手玉などができるようにしてやりたいと考えております。

安全して活動に取り組むための様々な保険があります

地域子ども教室での活動は、屋外でのスポーツや運動などから工作活動、あるいは料理の体験教室など、地域それぞれの実情やニーズに合わせ、多彩な活動を展開することができます。

こうした活動の実施に際しては、参加する子どもたちはもとより、指導員、ボランティア等の方々の安全にも十分留意し、事故等が起こったときに備えて、保険に加入することが必要です。

代表的な保険制度（一例）

名 称	保険契約者・事業実施者	加入団体及び被保険者	保険料
スポーツ安全保険	(財)スポーツ安全協会	スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動、地域活動等を行う5名以上の子ども/大人の団体の構成員(個人)	1人につき年額 500円～9000円
ボランティア活動保険	(社)全国社会福祉協議会	ボランティア個人 ボランティアの管理義務者 ボランティアグループ、特定非営利活動法人	1人につき年額 300円～700円
市民活動補償保険	各地方公共団体	市民活動団体(指導者・参加者) ※市町村への登録の要否など要件は市町村によって異なる	地方公共団体が負担
全国子ども会安全会事業	全国子ども会安全会	全国子ども会安全会の会員	会費1人につき年額 100円前後
公民館総合保障制度 施設賠償責任保険	(社)全国公民館連合会	公民館	1公民館につき 5000円～

安全対策に係る文部科学省の取組

文部科学省では、各学校でより具体的な安全確保の取組を推進するため、平成16年1月に「学校安全緊急アピール」を、また、平成17年3月には「学校安全のための方策の再点検等について」（安全安心な学校づくりのための文部科学省プロジェクトチーム第一次報告）をそれぞれ策定し、公表しております。「地域子ども教室推進事業」においても、協力者会議を設置し、「地域子ども教室推進事業安全管理マニュアル」を作成しました。（詳しくはホームページ <http://www.ibasyo.com/office/index.html> を参照）

このマニュアルは、子どもたちが安全にかつ安心して活動できる居場所をつくるため、健康管理、不審者侵入対策災害対策、施設周辺の危機管理といった4点について、その留意点をまとめたものです。

なお、地域子ども教室は、全国各地で実施場所や実施形態等が異なることから、事業を推進する上での基本的事項を中心に記述するとともに、本マニュアルを参考にしながら、各地域でマニュアルを作成してもらうようお願いしているところです。

今後の活動展開には取組に関わる人々のネットワークづくりが重要です

地域子ども教室の活動や人材等の運営体制を充実するためには、取組に関わる人の協力を拡大することが重要となります。そのためには、地域の活動団体や住民・企業等との連携を図るとともに、現在参加している地域の指導員同士が情報交換・交流できる機会を提供することも重要となります。それにより、「他の教室はどんな活動や安全対策をしているのか？」など、他団体との連携が生まれ、お互いのイベントを協働で実施するなどの相互交流も生まれます。

ネットワークづくりに関する各地の取組

- ❖ 地域子ども教室の人材・情報の確保に資するネットワークづくりの取組事例として、「委員会組織の階層化」や「情報交換・交流機会の確保」「子どもの組織化」「多様な主体の参加」「インターネットを活用した連絡網の整備」などがみられる。
- ❖ 「委員会組織の階層化」を図る取組として、茨城県「さんわキッズ実行委員会」において、各小学校区（6校）と町レベルで実行委員会を設置し、学校、諸機関（中央公民館、図書館、スポーツセンター等）諸団体（PTA、消防団、商工会等）が連携して、プログラムの編成や学校区間の調整を行っている例がある。
- ❖ 「情報交換・交流機会の確保」では、栃木県「ふれあい学習企画委員会（安足地区）」の事例が挙げられる。同委員会では、地区集会において、他団体との連携が生まれ、お互いのイベントを協働で実施するなどの相互交流も生まれている。また、大阪府「とよなか地域子ども教室実行委員会」でも、研修・交流会を実施し、指導員による活動プログラムの講習や高校生・大学生・一般のいろいろな年代によるディスカッションが行われている。
- ❖ 高齢者や中高生などの「多様な主体の参加・協力」という点では、和歌山県「広川町地域ふれあいネットワーク実行委員会」の取組が挙げられる。同委員会では、高齢者のシニアスクール「耐久大学」の専科講座を子どもにも開放し、共に学び合う場として設け、さらに、野外での活動等でボランティアとして参加している。また、同実行委員会では、「白浜町児童館中学生高校生サポーター」により、受付や子どもたちの調理の補助、準備、片付けが行われている。
- ❖ 「インターネットを活用した連絡網の整備」としては、沖縄県「子ども環境デザイナークラブ子ども教室」において、ボランティアに小学校のPTAや中高生が参加し、また、連携ホームページやブログを立ち上げ、連絡網を簡素化している事例がある。

表3-8 ネットワークづくり《運営協議会事業報告書等から抜粋》

分類	運営協議会	実行委員会名	内容
委員会組織の階層化	茨城県子どもの居場所づくり運営協議会	さんわキッズ実行委員会	<p>○町および校区レベルでの実行委員会の設置</p> <p>各小学校区(6校)に実行委員会を設置し、学校・行政関係者以外からコーディネーターを決定し、活動の機会や場の開拓、情報収集・提供、プログラムの作成、学校や個人と活動先とのマッチング等のコーディネートを実施するなどの体験活動の推進を行う。</p> <p>また、町レベルで「さんわキッズ実行委員会」を設置し、幅広い関係者で地域の教育力活性化に向けての協議等を行う共通理解の場とした。具体的なプログラムの編成や学校区間の調整として、定期的に幹事を開催している。</p>
指導員等の情報交換・交流機会の確保	とちぎ地域・家庭教育活性化協議会	ふれあい学習企画委員会 (安足地区)	<p>「ふれあい学習ネットワーク」をとおして、地域の様々な団体や組織のネットワーク化を図った。</p> <p>○第1回安足地区集会</p> <p>1.全体研修「安足地区のふれあい学習の実践と推進のポイント」</p> <p>2.分散会「ふれあい学習で地域づくりを進めよう」</p> <p>ふれあい学習企画委員を中心として市町村ごとの協議を行った。情報交換の場の重要性が再確認されると共に、他団体との連携が生まれ、<u>お互いのイベントを協働で実施するなどの相互交流も生まれる。</u></p> <p>○第2回各市町村別集会</p> <p>各市町村別に開催し、子どものための地域づくり推進地域等の実践活動と共に、次年度に向けた地域活動の充実についての研究・協議を行った。</p>

分類	運営協議会	実行委員会名	内容
指導員等の 情報交換・ 交流機会の 確保	大阪府子ども の居場所づく り運営協議会	とよなか地域 子ども教室実 行委員会	<p>[平成 16 年度]</p> <p>○指導者交流会</p> <p>地域子ども教室には、様々な能力を持った大人が関わっている。「自分は子どもに教える技術や能力はないけれども、何かお手伝いしたい」「手作りの指導ができれば」そんな声を受けて実施。講師は、地域子ども教室の指導員として活動しているシルバーアドバイザー。会場は、千里公民館・岡町図書館で実施。</p> <p>「おりがみ講習会」：参加者数 45 名、</p> <p>「牛乳パックを使ったおもちゃづくり講習会」：参加者数 29 名</p> <p>○科学をテーマにした青少年指導者交流会</p> <p>若い世代の指導者、リーダーが不足している。そのため、<u>中学生、高校生、専門学校生</u>などの力を育てるために実施。会場は、豊中市教育センターで実施。</p> <p>「化石のレプリカを作ろう」「発泡スチロール板にレリーフを作ろう」「空気砲で遊ぼう」等</p> <p>[平成 17 年度]</p> <p>○研究・交流会の開催</p> <p>日 時：平成17年(2005年)7月10日(日) 午後2時～午後4時</p> <p>参加者：40名 <u>高校生：6名、大学生：4名、一般：4名、地域：26名</u></p> <p>内 容：</p> <p>1. 講演「地域活動の場をひろげていくためには」 大阪大学大学院人間科学研究科助教授 渥美公秀</p> <p>2. グループディスカッション「若い世代の地域活動を求めて」</p> <p>○「なぜ、若い世代は地域活動に参加しないのか」 <u>6グループに分かれて、いろいろな年代の方でディスカッション</u></p>  <p>http://www.city.toyonaka.osaka.jp/toyonaka/kyoiku/kyoiku2/M51_chiiki/chiikikodomo/top.htm</p>
多様な主体 の参加・協 力	和歌山県 教育委員会	広川町地域ふ れあいネット ワーク実行委 員会	<p>[子ども料理教室 ～自分でできる子になろう～]</p> <p>○白浜保健センター・白浜町すこやか推進協議会</p> <p>保健センターと連携することにより、健康面、栄養面の教育を取り入れることができる。</p> <p>○<u>白浜町児童館中学生高校生サポーター</u></p> <p>受付や子どもたちの調理の補助、準備、片付けを手伝ってくれる中で、年上としての自覚とやりがいの気持ちが育つ。</p>

第3部 地域子ども教室の今後の推進に向けて

分類	運営協議会	実行委員会名	内容
	和歌山県教育委員会	広川町地域ふれあいネットワーク実行委員会	<p>[広川町チャレンジ体験館の活動に協力する諸団体]</p> <p>○広川町体験活動ボランティアセンター 子どもの体験活動を支援するボランティア登録者を集約し、体験活動の時には随時ボランティアを派遣する。</p> <p>○耐久大学(高齢者大学)シニアサークル 耐久大学では、毎月第2土曜日に、午前中は教養講座として全員必修講座を、午後からは専科講座として選択講座を開催している。その専科講座を子どもにも開放し、共に学び合う場として設けている。また、野外での活動等でボランティアとして参加している。</p>  <p>○おはなしポケット 毎月第2水曜、第3土曜日にお話を開催している団体。チャレンジ体験館でも小学校低学年や幼児等を対象とするときにお話会と連携して開催。</p> <p>○かたりべサークル 広川町の史跡について学習し、将来的に語り部のボランティアとして活動することを目的としている団体。チャレンジ体験館のウォークラリーでは、語り部をしながらウォークラリーをするということを企画から計画実施まで行ってくれた。</p>
	和歌山県教育委員会	和歌山ろう学校 いきいき交流教室実行委員会	<p>[いきいき交流教室]</p> <p>○三菱電機冷熱システム製作所 三菱電機の協力を得て、本校生徒、紀北養護学校生徒、三菱電機、保護者・職員がチームを作りフットサル交流試合を実施。</p> <p>○障害者カヌー協会和歌山支部 障害者カヌー協会の全面的な支援・協力を得て運営</p> <p>○新和歌山NPO 新和歌山NPOやボランティアの協力を得て陶芸教室を開催</p>
	子どもの居場所づくり運営協議会(岡山県)	岡山市開かれた学校づくり推進協議会	<p>[ホクホク・スペース岡北 岡山市岡北中学校区子ども教室]</p> <p>○HOP STEP AFTER SCHOOL 放課後の学習会を開催し、基礎的な内容の復習を行った。複数の大学が近くにある点を利用し、多くの大学生がボランティア(岡山市学校支援ボランティア制度に登録済み)の協力を得て、指導を行った。</p> 
インターネットを利用した連絡網の整備	沖縄県地域子ども教室推進事業運営協議会	—	<p>○子ども環境デザイナークラブ子ども教室 ボランティアには小学校のPTAや中高生が参加した。 独自にガイドラインや日程を先に作ったおかげで、ボランティアはスケジュールを調整し、参加しやすい状況が確立された。また、<u>連携ホームページ</u>や<u>ブログ</u>を立ち上げ、連絡網を簡素化した。</p>

3-5. 「地域子ども教室」に一度来てみませんか？

「最近、子どもたちが外で群れて遊ぶ姿を見かけなくなったな」と感じませんか？

少子化による子どもの減少や昨今の子どもにまつわる悲惨な事件により、子どもも大人も常に安全・安心を気かけながら生活せざるを得ないという閉塞感の漂う社会状況も影響し、子どもたちの外遊びの場は確実に制限されてきています。

「昔は時間を忘れて、原っぱや空き地でみんなとよく遊んだなあ」と懐かしさに浸っていませんか？

地域差はもちろんありますが、郊外の里山には自然や生き物があふれ、市街地にはおもしろい路地があり、それら全てが子どもたちの格好の遊び場でした。そして、田舎の子は雑木林にダンボールや板切れを持ち込み“隠れ家”を、都会の子は廃材置き場や工事現場に潜り込み“秘密基地”をつくり、そこを仲間内のアジトとして絆を一層強くしたものです。これも、子どもたちの冒険を見守る地域の大人の寛容さがあればこそのものでした。しかし、今は大人から隠れた場の存在自体が、即、犯罪や事故につながると問題視されるような状況となっています。

「テレビゲームや携帯電話よりも、もっと楽しいものがあるよ」と子どもたちに言いたくありませんか？

今どきの子は・・・というのは簡単です。しかし、手をこまねいていても、昔私たちが友だちと思う存分遊びまわった環境が子どもたちに戻ってくることはありません。人と人が向き合い、かかわりあっていくことで培われていく社会性や道徳性、そして、子どもたちのコミュニケーション能力の大事さを痛感させる事件が頻発しています。

今の時代にふさわしい子どものための空間を“意図的”に私たち大人が創り、子どもたちに提供していく必要があるのではないのでしょうか。

「子どもに授けるような特技も、子どもとの交流経験もないし、面倒くさいな」と躊躇していませんか？

「地域子ども教室」は、現代に失われつつある子どもの遊び場を、地域の大人たちの協力や参加を得て、できるところから少しずつ築き上げていくものです。単に子どもたちに、ハード面の遊び場を提供するものではありません。地域の様々な大人が関わり、子どもたちにとって心の拠り所となるようなソフトの機能にあふれたような場創りをめざしています。

「地域子ども教室」に一度来てみませんか？

とにかく、一度足を運んでもらい、子どもを温かく見守ってもらう。そこで、居合わせた地域の大人同士でとりとめのない会話に興じる。それだけでも、子どもたちは安心して嬉しきった笑顔で遊びに夢中になるはずです。

“子どもは社会の宝”であり、“地域の子もたちは我々地域に住む大人が育む”との思いを少しでももった大人が、自分でできることから参加する。やがてそれが塊となり、子どもたちの遊び場の創造、地域コミュニティの再生に結実していく。そんな夢を現実に見せてみませんか。

參考資料



参考資料1

本調査で実施したアンケートは以下の9種類である。

各対象ごとのアンケート票については、次ページ以降に示すとおりである。

表1 各アンケートの対象及び配布方法・サンプル数

対象種別	アンケート票の対象者	配布方法	サンプル数	ページ
運営協議会	運営協議会	直接送付	57	参考 2-3
実行委員会	実行委員会	直接送付	220	参考 4-5
子ども	地域子ども教室に登録(活動)している子ども	地域子ども教室にて指導員等より配布	6,600	参考 6-7
	小3・小6,中2の各児童生徒(登録子どもも含む)	未実施学校にてクラス単位で配布	19,800	
保護者	地域子ども教室に登録(活動)している子どもの保護者	地域子ども教室より子どもを通じて配布	6,600	参考 8-9
	小3・小6,中2の保護者(登録子どもも含む)	未実施学校より子どもを通じて配布	19,800	
指導員等	指導員・ボランティア	地域子ども教室にて配布	2,200	参考 10-11
コーディネーター	コーディネーター	実行委員会より配布	660	参考 12-13
実施学校	地域子ども教室の活動場所となった小中学校の長	実行委員会より配布	440	参考 14-15
実施施設	地域子ども教室の活動場所となった学校以外の施設の長	実行委員会より配布	440	参考 16-17
未実施学校	地域子ども教室の活動場所とならなかった小中学校の長	実行委員会より配布	440	参考 18-19

3. 次に、「地域子ども教室」での安全対策について、お尋ねします

問11 貴運営協議会では、「地域子ども教室」における安全対策として、安全管理マニュアル等を策定されましたか。
 あてはまるもの1つに 印

「1.本事業に係るマニュアルとして独自に策定した」とお答えの場合は、策定されたマニュアルを1部ご同封ください。

問11で「2.各実行委員会でそれぞれ策定した」「3.学校等の安全管理マニュアルを活用した」「4.文部科学省が作成した安全管理マニュアルを活用した」とお答えの方にお尋ねします。

問12 今後、貴運営協議会として安全管理マニュアルを策定される予定はありますか。
 あてはまるもの1つに 印

問13 安全管理マニュアルの策定以外に、貴運営協議会において図られた安全対策はありますか。
 あてはまるものすべてに 印

問13で「4.指導員やボランティアなどへの保険加入の指導」「6.教室で活動する子どもへの保険加入の指導」に つけた方にお尋ねします。(他の方は問15へお進み下さい)

問14 貴運営協議会では、どのような保険への加入を指導していますか。
 あてはまるものすべてに 印

問15 貴運営協議会で実施した「地域子ども教室」で、これまで何が事故や事件、災害、あるいはそうした事態に発展しそうなことがありましたか。
 あてはまるもの1つに 印

1. 本事業に係るマニュアルとして独自に策定した
 2. 各実行委員会でそれぞれ策定した
 3. 学校等の安全管理マニュアルを活用し、運営協議会から各実行委員会に示した
 4. 文部科学省が作成した安全管理マニュアルを活用し、運営協議会から各実行委員会に示した
 5. 特に策定や周知等はしていない
 6. その他()

1. 今年度中に独自に策定する予定
 2. 独自の策定を検討しているが時期は未定
 3. 独自に策定する予定はない
 4. 他の事業と併せて、都道府県教育委員会において策定(検討)する予定
 5. 分からない・未定である
 6. その他()

1. 緊急連絡網の整備・周知
 2. 警察や病院等の関係機関への連絡・協力依頼
 3. 子どものための安全対策マニュアルの作成
 4. 指導員やボランティアなどへの保険加入の指導
 5. 教室で活動する子どもへの保険加入の指導
 6. その他の安全対策は特に行っていない
 7. その他()

1. スポーツ安全保険
 2. P T A安全保険制度
 3. 全国公民館保険
 4. 子ども会安全会保険
 5. 農協等の旅行保険
 6. ボランティア活動総合保障制度
 7. その他()

1. 事件や事故、災害などが実際にあった
 2. 事件や事故などに発展しそうなことがあった
 3. 今のところそうしたことは発生していない

問15で「1.事件や事故、災害などが実際にあった」「2.事件や事故などに発展しそうなことがあった」とお答えの方にお尋ねします。

問16 具体的には、どのようなことが見られましたか。また、そうした事態に対して、どのように対応されましたか。具体的にその状況をご回答下さい。

発生したこと	そうした事態に対する対応

4. 本事業に関する広報活動など参加促進を図るための取組についてお尋ねします

問17 貴運営協議会では、本事業を推進するために、どのような活動をされましたか。
 あてはまるものすべてに 印

問18 貴運営協議会では、本事業への子どもや地域の大人の参加を促進するために、どのような広報活動を行いましたか。
 あてはまるものすべてに 印
 特に力を入れたもの1つに 印

1. 地域内の学校長や学校教職員を対象とした事業説明会や研修会を開催した
 2. 関係部局を通じて、域内の社会教育施設や福祉施設に対して本事業の趣旨説明等を行った
 3. 各地の取組内容をとりまとめた事例集や報告書を作成し、学校や関係施設等に配布した
 4. 青少年・スポーツ団体やボランティア団体などに対して本事業の趣旨説明等を行った
 5. その他()

1. パンフレットやチラシなど広報資料を作成し、広報誌等とともに各戸に配布
 2. パンフレットやチラシなど広報資料を作成し、学校や関係施設を通じて子どもや家庭に配布
 3. 参加した子どもや指導員、学校関係者等に対するアンケート(実態調査)を実施
 4. 都道府県・市区町村の広報誌に紹介記事を掲載
 5. 都道府県・市区町村のHPに紹介記事を掲載
 6. 運営協議会の委員が所属する団体の広報誌やホームページに紹介記事を掲載
 7. シンポジウムなどのイベントを開催
 8. 新聞やテレビ、ラジオなどの広告・CM
 9. 運営協議会による本事業の情報誌の定期発行
 10. その他()

5. 最後に「地域子ども教室推進事業」の今後の推進方策などについてお尋ねします

問19 貴運営協議会では、本事業の推進において、コーディネーターに対してどのような役割を期待しますか。
 あてはまるものすべてに 印
 最も強く期待する役割1つに 印

問20 貴運営協議会では、「地域子ども教室推進事業」を実施して、事業運営上どのような課題があると思われるか。
 あてはまるものすべてに 印
 最も課題と思われるもの1つに 印

1. 実行委員会の運営の支援
 2. 行政と活動団体、学校、関係施設、家庭、地域間の連絡調整
 3. 子どもや地域に対する参加の呼びかけ
 4. 指導員やボランティアなど地域人材の確保・登録
 5. 「地域子ども教室」の各現場における子どもの活動ニーズの把握・分析
 6. 指導員やボランティアに対する資質向上のための指導・アドバイス
 7. 他の地域の取組や先進事例における活動プログラムの調査・分析
 8. 各実行委員会と運営協議会とのコーディネート
 9. 実行委員会間(各地域子ども教室間)の取組のコーディネート
 10. 実行委員会における活動プログラムの企画やプログラム作成における指導・アドバイス
 11. その他()

1. 本事業に携わる行政職員が不足している
 2. 教育委員会と首長部局との連携が難しい
 3. 学校教育担当課と社会教育担当課との連携が難しい
 4. 都道府県と市町村との連携が難しい
 5. 市町村など受入れ地域側の組織体制が未整備である
 6. コーディネーターや指導員など地域の人材の発掘や確保・育成が難しい
 7. コーディネーター間の連携やコーディネーターと指導員との連携が難しい
 8. 放課後児童クラブなどの既存の取組との連携や調整が難しい
 9. 学校行事や施設の事業との連携や調整が難しい
 10. 地域により取組に対する姿勢や熱意に差が見られ、一定レベルの活動を実施することが難しい
 11. 独自に活動している民間の子育て支援団体との連携・調整が難しい
 12. 警察や保健所、医療機関など緊急の連絡を要する関係団体との連携が難しい
 13. 子どもが安心して活動できる施設や場所の確保が難しい
 14. 予算が不足している
 15. その他()

問21 貴運営協議会において「地域子ども教室推進事業」をより一層推進していくにあたって、今後どのようなことが必要だと思いますか。
 あてはまるものすべてに 印
 最も必要と思われるもの1つに 印

問22 本事業に対する国の委託費は平成18年度までと予定されていますが、貴運営協議会では、国の委託費がなくなった後の地域子ども教室はどのようにしていくべきだとお考えになりますか。
 あてはまるもの1つに 印

問23 その他、貴運営協議会で「地域子ども教室推進事業」を実施した感想や、今後の「地域子ども教室推進事業」に望むことなどがあれば、ご自由にお書き下さい。

1. 都道府県や市町村における担当職員の配置
 2. コーディネーターの養成・確保
 3. 指導員の養成・確保
 4. ボランティアの養成・確保
 5. 担当職員やコーディネーター・指導員・ボランティア等に対する研修の充実
 6. 活動を主体的に牽引する地域リーダーの育成
 7. 保護者の理解と協力
 8. 広報体制の充実
 9. 受入れ地域側における推進体制づくり
 10. 実行委員会間での情報交換と連携
 11. 関係機関や各種子育て支援団体等との連携強化
 12. 小中学校との連携強化
 13. 公民館等の公立施設との連携強化
 14. 活動場所となるフィールドや施設の発掘
 15. 各地の取組事例の紹介やデータベース化
 16. 各地の取組における事件・事故事例の共有
 17. 定期的な子どものニーズ調査の実施
 18. シンポジウム等のイベントの開催
 19. コーディネーターや指導員、ボランティアの情報交換の場づくり
 20. 予算の充実

1. 運営協議会を組織している地方公共団体が予算措置を講じて継続的に実施していくべき
 2. 実行委員会を組織している地方公共団体が予算措置を講じて継続的に実施するべき
 3. 参加者に活動費を負担してもらい、NPOや社会教育団体などが中心になって実施していくべき
 4. 参加者に活動費を負担してもらい、地域住民が主体となって実施していくべき
 5. 終了すべき
 6. その他()

ご協力いただき本当にありがとうございました

地域子ども教室に関するアンケート調査 ～ ご協力をお願い ～

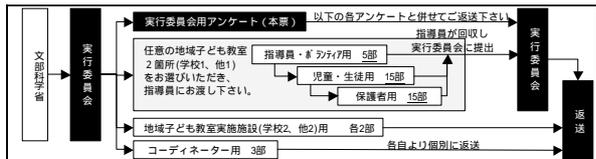
文部科学省では、地域住民が主体となった子どもの居場所づくりに関する取組を推進しており、平成16年度から「地域子ども教室推進事業」として各地の取組を支援しています。本アンケートは、この「地域子ども教室」の実行委員会に対して、事業の運営体制や事業推進に向けた取組の実態、事業を通じて子どもや地域の変化、あるいは事業に対するご意見等をお尋ねし、今後の事業展開に向けての参考とすることを目的として実施するものです。ご多忙のところ、恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力下さいませ。お願いいたします。

平成17年8月 文部科学省

ご記入にあたってのお願い

このアンケートは、平成16年度に文部科学省の「地域子ども教室推進事業」を実施した実行委員会にお送りしております。

各実行委員会には、このアンケート票のほか、地域子ども教室で活動しているコーディネーターや指導員・ボランティア、子ども及びその保護者に対するアンケート票や、活動場所となっている施設長に対するアンケート票も併せてお送りしています。別紙を参照の上、各アンケート票の配布及び回収にご協力下さいませ。お願いいたします。



ご記入はそれぞれの設問の指示にしたがって、回答欄の数字につけてください。また、「その他」を選んだ場合や、具体的内容を記入する欄がある場合は、()内に具体的に記入してください。お答えいただいた内容は、全て統計的に処理しますので、個別の回答を公表することはありません。ご記入いただいたアンケート票は、指導員から提出されたその他のアンケート票と併せて、同封の封筒にて、**9月16日(金)まで**に、直接ご返送ください。なお切手を貼る必要はありません。このアンケートに関するご質問やご不明点等がありましたら、下記の調査実施機関までお問い合わせください。

財団法人 日本システム開発研究所 地域資源研究室 (担当: 福室) TEL: 03-5379-5914 FAX: 03-5379-5924

実行委員会名等をご記入ください。なおご連絡先は本アンケートに関するお問合せ以外には使用しません。

都道府県	市町村	電話
(実行委員会名)		() - ()
		FAX
		() - ()

本件に関しお問合せをさせていただく場合のご担当者名:

1. はじめに、貴実行委員会の組織体制等についておかがいします

以下の設問は、すべて、**現在ではなく、平成16年度の実態について**ご回答下さい。

- 問1 貴実行委員会には、どのような方が委員として参画していますか。
あてはまるものすべてに 印
1. 市区町村教育委員会の職員
 2. 市区町村長部局関係室・課の職員
 3. 社会教育委員
 4. 公民館運営審議会委員
 5. PTA関係者
 6. 青少年・スポーツ団体関係者
 7. 女性団体関係者
 8. 子ども会・子育て支援団体関係者
 9. 町会・自治会関係者
 10. 商店会・商工会関係者
 11. 小・中学校の校長
 12. 小・中学校の教職員
 13. 有識者・学識経験者
 14. ボランティア団体・NPO団体
 15. その他()
- 問2 貴実行委員会の事務局はどこに設置していますか。
あてはまるもの1つに 印
1. 市区町村教育委員会
 2. 市区町村長部局関係室・課
 3. 社会教育施設()
 4. 民間団体()
 5. その他()
- 問3 貴実行委員会は、どのような場所で「地域子ども教室」の活動を実施していますか。
施設の種類のごとに実施した教室の箇所数を記入し、施設の種類のごとに実施している日すべてに 印

教室数	地域子ども教室 実施日(すべてに)					
	平日の放課後	土曜日	日曜日・祝日	夏休み	冬休み	その他
記入例 1. 小学校	3	箇所				
小学校	箇所					
中学校	箇所					
公民館・生涯学習センター	箇所					
スポーツ施設	箇所					
図書館・博物館等	箇所					
児童館・児童センター	箇所					
児童保育の実施場所	箇所					
地区センター・集会所など地域の施設	箇所					
地域の山や川・広場など	箇所					
その他()	箇所					

2. 貴実行委員会での「地域子ども教室」の指導体制についてお尋ねします

- 問4 貴実行委員会では、どのような方を「地域子ども教室」のコーディネーターや指導員、ボランティアとして配置していますか。
それぞれの欄にあてはまるものすべてに 印
- | | | |
|-------------------|-----|--------|
| 地域の高齢者 | 指導員 | ボランティア |
| 退職教員(教職経験者) | | |
| 高校生 | | |
| 大学生 | | |
| PTA関係者 | | |
| 青少年・スポーツ団体関係者 | | |
| 女性団体関係者 | | |
| 子育て支援団体関係者 | | |
| 町会・自治会関係者 | | |
| 商店会・商工会関係者 | | |
| 小・中学校の校長 | | |
| 小・中学校の教職員 | | |
| 有識者・学識経験者 | | |
| ボランティア団体・NPO団体関係者 | | |
| その他() | | |
- 問5 貴実行委員会では、コーディネーターや指導員、ボランティアをどのようにして確保していますか。
それぞれの欄にあてはまるものすべてに 印
- | | | |
|--------------------------|-----|--------|
| 公募による | 指導員 | ボランティア |
| 実行委員会委員が兼務している | | |
| 実行委員会の委員からの推薦・紹介による | | |
| 実行委員会の委員の所属団体からの派遣・選出による | | |
| 地域子ども教室運営協議会からの推薦・派遣による | | |
| 活動実施施設の職員への呼びかけによる | | |
| 各種研修・講習会等の受講生や修生 | | |
| その他() | | |

- 問6 貴実行委員会では、「地域子ども教室」で活動する指導員やボランティアに対して、研修や講習会等を行っていますか。
あてはまるもの1つに 印
1. 実行委員会主催の研修や講習会を行っている
 2. 市区町村教育委員会主催の研修や講習会を活用している
 3. 都道府県教育委員会主催の研修や講習会を活用している
 4. 特に研修や講習会はない
- 問7へお進み下さい 問8へお進み下さい

問6で「4.特に研修や講習会はない」とお答えの方以外の方にお尋ねします。

- 問7 貴実行委員会で行っている研修や活用されている研修の内容は、どのようなものですか。
それぞれの研修内容について研修の主催者別にあてはまる欄すべてに 印
- | 研修内容 | 実行委員会 | 市区町村教育委員会 | 都道府県教育委員会 | その他 |
|--------------------------|-------|-----------|-----------|-----|
| 子どもの居場所づくりに関する概論 | | | | |
| 生涯学習や社会教育に関する概論 | | | | |
| 青少年を取り巻く現状や青少年の心理などについて | | | | |
| 子育てを取り巻く現状などについて | | | | |
| 様々な地域の地域子ども教室の取組事例の紹介 | | | | |
| 子どもへの接し方や叱り方などについて | | | | |
| 遊びや体験活動の技術について | | | | |
| 地域子ども教室の運営方法について | | | | |
| 子どもの安全管理と防犯などの安全対策について | | | | |
| けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて | | | | |
| 体験活動の講師など人材確保について | | | | |
| 体験活動のフィールドや受け入れ施設等の紹介 | | | | |
| ボランティア活動に関する概論 | | | | |
| その他() | | | | |
- 問8 貴実行委員会では、「地域子ども教室」の指導員等として参加いただく方はどのような方が望ましいとお考えですか。
あてはまるものすべてに 印
1. 教職員としての経験をもつ人
 2. 社会教育主事の資格をもつ人
 3. 子どもと年齢の近い人
 4. 子育て経験のある人
 5. 地域活動に積極的に参加している人
 6. 子どもを指導したり、子どもと関わったりした経験のある人
 7. その他()

3. 貴実行委員会での「地域子ども教室」の取組内容についてお尋ねします

- 問9 貴実行委員会では実施されている「地域子ども教室」の活動内容はどのようなものですか。
あてはまるものすべてに 印
特に実施回数の多かったものを3つまで 印
1. スポーツや運動などを動かす活動
 2. お手玉やメンコなどの昔の遊び
 3. 地域の祭りの踊りや伝承行事の指導
 4. 紙や木などを使った工作活動
 5. 科学の実験やそらぼんの指導
 6. 地域の山や川での自然体験活動
 7. 公園や道路などの清掃活動
 8. パソコンを使った創作活動
 9. 保育園や幼稚園で小さい子どもと遊ぶ活動
 10. 高齢者福祉施設等でのボランティア活動
 11. 家事や料理などの生活活動
 12. 農業体験活動や職業体験活動
 13. 子どもの自由な遊びや自発的な活動
 14. その他()

問10 貴実行委員会では、「地域子ども教室」についてどのような広報活動をされましたか。
あてはまるものすべてに 印

- 1.パンフレットやチラシを作成し、広報誌等とともに各戸に配布
- 2.パンフレットやチラシを作成し、学校を通じて子どもや家庭に配布
- 3.パンフレットやチラシを作成し、関係施設にて配布・掲示
- 4.市区町村の広報誌に紹介記事を掲載
- 5.市区町村のHPに紹介記事を掲載
- 6.実行委員会参加団体の広報誌に紹介記事を掲載
- 7.実行委員会参加団体のHPに紹介記事を掲載
- 8.実行委員会委員が出席する各会合等での口コミ
- 9.都道府県の広報誌に紹介記事を掲載
- 10.都道府県のHPに紹介記事を掲載
- 11.特に広報活動は実施していない
- 12.その他()

問11 貴実行委員会が実施された「地域子ども教室」では、障害児は参加していますか。
あてはまるもの1つに 印

- 1.参加している
- 2.参加していない
- 3.把握していない・分からない

問11で「1.参加している」とお答えの方にお尋ねします。

問12 障害児の受け入れについて、何か配慮している点がありますか。
あてはまるものすべてに 印

- 1.障害児が利用できる設備環境に配慮している
- 2.指導員やボランティアに対して障害児への対応についての研修やレクチャーを行っている
- 3.障害児の参加申込みがあった場合は、指導員やボランティアを増員している
- 4.障害児の参加申込みがあった場合は、保護者の参加も依頼している
- 5.特別配慮していることはない
- 6.その他()

問13へお進み下さい

問13 貴実行委員会が実施された「地域子ども教室」では、不登校児は参加していますか。
あてはまるもの1つに 印

- 1.参加している
- 2.参加していない
- 3.把握していない・分からない

問13で「1.参加している」とお答えの方にお尋ねします。

問14 不登校児の参加に際し、何か配慮している点がありますか。
あてはまるものすべてに 印

- 1.参加している不登校児の態度や様子について、通っている学校の職員と情報交換をしている
- 2.学校を意識しないような環境づくりなど、空間の作り方に配慮している
- 3.教師的な関わり方にならないよう接し方、声かけに配慮している
- 4.参加方法や行動に幅をもたせ、柔軟な対応を心がけている
- 5.特別配慮していることはない
- 6.その他()

問15へお進み下さい

問15 貴実行委員会では、「地域子ども教室」における安全対策として、どのようなことを実施していますか。
あてはまるものすべてに 印

- 1.実行委員会独自、あるいは各教室独自の指導員の安全対策マニュアルを作成している
- 2.指導員のほかに安全管理員を配置している
- 3.内容に応じ看護士等の有資格者を配置している
- 4.子ども用の安全規則を作り周知徹底している
- 5.参加者の緊急連絡網を作り周知徹底している
- 6.指導員やボランティアに対して、心肺蘇生法や応急手当の研修をしている
- 7.活動を行う施設の職員に監視・注視してもらっている
- 8.帰宅する子どもに指導員やボランティアが付き添ったり、保護者が迎えに来るまで待たせたりして帰宅時の安全を確保している
- 9.病院や警察など、緊急通報先を指導員やボランティアに周知している
- 10.町内会や子ども110番などへの事業周知を図っている
- 11.警察やPTAなどにより巡視を行ってもらっている
- 12.指導員やボランティアに対し保険加入を指導している
- 13.地域子ども教室のスタッフと活動場所の施設管理者及び実行委員会により定期的に会合を設け事故例や対策等を協議・検討している
- 14.その他()

問15で「12.指導員やボランティアに対する保険加入」につけた方にお尋ねします。(他の方は問17へお進み下さい)

問16 指導員やボランティアはどのような保険に入っていますか。また、その費用は誰が負担していますか。
あてはまるものすべてに 印
また費用負担の主体別に番号を下に記入して下さい

参加者個人が負担	()
実行委員会が負担	()
参加者が所属する団体が負担	()

問17 貴実行委員会が実施した「地域子ども教室」で、これまで何か事故や事件、災害、あるいはそうした事態に発展しそうなことがありましたか。
あてはまるもの1つに 印

- 1.事件や事故、災害などが実際にあった
- 2.事件や事故などに発展しそうなことがあった
- 3.今のところそうしたことは発生していない

問18へお進み下さい 問19へお進み下さい

問17で「1.事件や事故、災害などが実際にあった」「2.事件や事故などに発展しそうなことがあった」とお答えの方にお尋ねします。

問18 具体的には、どのようなことが見られましたか。また、そうした事態に対して、どのように対応されましたか。具体的にその状況をご回答下さい。

発生したこと	そうした事態に対する対応

5.最後に「地域子ども教室」の今後の推進方策などについてお尋ねします

問19 貴実行委員会では、「地域子ども教室」を実施してみて、実行委員会の運営上どのような問題点がありましたか。
あてはまるものすべてに 印

- 1.各種団体の役員が企画・運営の中心となっているため、年度が変わり役員が交代してしまうと円滑な引継ぎが行えない
- 2.行政職員が企画・運営の中心となっているため、年度が変わり人事異動などがあると円滑な引継ぎが行えない
- 3.コーディネーターの確保や育成が難しい
- 4.指導員やボランティアなど地域の人材の掘り起こしや確保・育成が難しい
- 5.放課後児童クラブなどの既存の取組との連携や調整が難しい
- 6.学校行事や施設の事業との連携や調整が難しい
- 7.地域により取組に対する姿勢や熱意に差が見られ、一定レベルの活動を実施することが難しい
- 8.独自に活動している民間の子育て支援団体などとの連携・調整が難しい
- 9.警察や保健所、医療機関など緊急の連絡を要する関係団体との連携が難しい
- 10.子どもが安心して活動できる施設や場所の確保が難しい
- 11.予算が不足している
- 12.その他()

問20 貴実行委員会において「地域子ども教室推進事業」をより一層推進していくにあたって、今後どのようなことが必要だと思いますか。
あてはまるものすべてに 印

- 1.市区町村教育委員会における担当職員の配置
- 2.コーディネーターの養成・確保
- 3.指導員の養成・確保
- 4.ボランティアの養成・確保
- 5.担当職員や指導員・ボランティア等に対する研修の充実
- 6.活動を主体的に牽引する地域リーダーの育成
- 7.保護者の理解と協力
- 8.広報体制の充実
- 9.地域における推進体制づくり
- 10.実行委員会間での情報交換と連携
- 11.関係機関や各種子育て支援団体等との連携強化
- 12.小中学校との連携強化
- 13.公民館等の公立施設との連携強化
- 14.活動場所となるフィールドや施設の発掘
- 15.各地の取組事例の紹介やデータベース化
- 16.各地の取組における事件・事故事例の共有
- 17.定期的な子どものニーズ調査の実施
- 18.都道府県における推進体制の構築
- 19.コーディネーターや指導員、ボランティアの情報交換の場づくり
- 20.予算の充実

問21 本事業に対する国の委託費は平成18年度までと予定されていますが、貴実行委員会では、国の委託費がなくなった後の地域子ども教室はどのようにしていくべきだと思いますか。
あてはまるもの1つに 印

- 1.運営協議会を組織している地方公共団体が予算措置を講じて継続的に実施していくべき
- 2.実行委員会を組織している地方公共団体が予算措置を講じて継続的に実施するべき
- 3.参加者に活動費を負担してもらい、NPOや社会教育団体などが中心になって実施していくべき
- 4.参加者に活動費を負担してもらい、地域住民が主体となって実施していくべき
- 5.終了すべき
- 6.その他()

問22 その他、貴実行委員会が「地域子ども教室」を実施した感想や、今後の「地域子ども教室推進事業」に望むことなどがあれば、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただき本当にありがとうございました

アンケートのおねがい

「地域子ども教室」とは、みなさんの学校や公民館などで、放課後やおやすみの日などに地域の大人の方が中心となって開いている教室です。このアンケートは、みなさんに、その「地域子ども教室」についてお聞きするものです。これはテストではありません。思ったことをそのまま答えてください。

1. はじめに、あなたのことを教えてください

- 1) あなたの学校の名前は何ですか。
- 2) あなたは何年生ですか。
 あてはまるもの1つに をつける
- | | |
|----------|----------|
| 1. 小学1年生 | 2. 小学2年生 |
| 3. 小学3年生 | 4. 小学4年生 |
| 5. 小学5年生 | 6. 小学6年生 |
| 7. 中学1年生 | 8. 中学2年生 |
| 9. 中学3年生 | |
- 3) あなたの性別は。
 あてはまるもの1つに をつける
- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

2. あなたのいつもの生活や放課後のすごしがたについてお聞きします

- 4) あなたは、いつも学校がおわったあと、どのようにすごしていますか。
 よくすること**ぜんぶ**に をつける
- | | |
|------------------------------------|----------------------|
| 1. 自分の家であそぶ | 2. 友だちの家であそぶ |
| 3. 学校の教室や校庭や体育館でクラブかつどうをしたりあそんだりする | 4. 公園やあそび広場やひろばにいく |
| 5. 習いごとの教室やじゅくに行く | 6. プールやスポーツセンターに行く |
| 7. こうみんかんや地区センター、としょかん・じどうかんに行く | 8. がくどうクラブ・じどうクラブに行く |
| 9. ゲームセンターや近所のお店に行く | 10. 山や川、海や森などについてあそぶ |
| 11. それ以外のことをする | |



- 5) あなたは、いつも、つぎのようなことをどのくらいしていますか。

あてはまる数字にそれぞれ**1つずつ** をつける
 よく たまに あまり ぜんぜん する する しない しない

近所のおまつりなどに参加する	1	2	3	4
子ども会の活動をする	1	2	3	4
近所の年下の子どものあそび相手やせわをする	1	2	3	4
地域のおそじやあきかんひろいなどの活動をする	1	2	3	4
地域でやる子どものスポーツ大会に参加する	1	2	3	4
もちつき大会やたこあげ大会など、地域の行事に参加する	1	2	3	4
家のまわりの公園や山や川などの自然の中であそぶ	1	2	3	4



- 6) あなたは、学校から帰って、いつもいっしょにあそぶ友だちが近所にいますか。
 あてはまるもの1つに をつける
- | |
|----------------------|
| 1. たくさん(10人以上)いる |
| 2. まあまあ(5人から9人くらい)いる |
| 3. すこしは(1人から4人くらい)いる |
| 4. ぜんぜんいない |
- 7) あなたは、近所に顔と名前を知っているおじさんやおばさん、おにいさんやおねえさんがいますか。
 あてはまるもの1つに をつける
- | |
|----------------------|
| 1. たくさん(10人以上)いる |
| 2. まあまあ(5人から9人くらい)いる |
| 3. すこしは(1人から4人くらい)いる |
| 4. ぜんぜんいない |
- 8) あなたの家のまわりには、いつも「おはよう」などと声をかけてくれる人がいますか。
 あてはまるもの1つに をつける
- | |
|----------------------|
| 1. たくさん(10人以上)いる |
| 2. まあまあ(5人から9人くらい)いる |
| 3. すこしは(1人から4人くらい)いる |
| 4. ぜんぜんいない |
- 9) あなたの家のまわりには、いたずらをしたりするとおこったり注意したりする人はいますか。
 あてはまるもの1つに をつける
- | |
|----------------------|
| 1. たくさん(10人以上)いる |
| 2. まあまあ(5人から9人くらい)いる |
| 3. すこしは(1人から4人くらい)いる |
| 4. ぜんぜんいない |

- 10) 小学3年生以上のおききします。
 あなたは、自分の住んでいるまちについて、どう思いますか。
 あてはまる数字にそれぞれ**1つずつ** をつける
- | | | | | |
|---------------------------|---|---|---|---|
| 自分の住んでいるまちのことをもっと知りたい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 自分の住んでいるまちをもっと住みやすいまちにしたい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 自分の住んでいるまちをもっときれいにしたい | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 自分がかよっている学校はよい学校だと思う | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 大きくなってからも、自分の住んでいるまちに住みたい | 1 | 2 | 3 | 4 |



3. つぎに、「地域子ども教室」のことにしておきします

- 11) あなたは「地域子ども教室」を知っていますか。
 あてはまるもの1つに をつける
- | |
|----------|
| 1. 知っている |
| 2. 知らない |
- 12) あなたは「地域子ども教室」にどのくらい来ていますか。
 あてはまるもの1つに をつける
- | |
|----------------------|
| 1. 一週間に4・5・6日くらい来ている |
| 2. 一週間に2・3日くらい来ている |
| 3. 一週間に1日くらい来ている |
| 4. ひと月に1・2・3日くらい来ている |
| 5. 夏休みや冬休みにだけ来ている |
| 6. 来ていない |



- 13) 「地域子ども教室」に来ていない人だけに、おききします。
 あなたが「地域子ども教室」に来ていないのは、どうしてですか。
 あてはまるもの**ぜんぶ**に をつける
- | |
|-----------------------------|
| 1. 「地域子ども教室」のことを知らなかったから |
| 2. 友だちが来ていないから |
| 3. 知らない学校の子がいるから |
| 4. やっているところが遠いから |
| 5. つまらなさそうだから |
| 6. 習いごとやじゅくがあるから |
| 7. ゲームをしたりマンガをよんだりしたいから |
| 8. めんどくさそうだから |
| 9. 来たい日にやっていないから |
| 10. ゆっくり休みたいから |
| 11. 宿題をしたり勉強をしたりする時間がなくなるから |



- 14) 「地域子ども教室」に来ている人に、おききします。
 一番はじめに「地域子ども教室」に来たときのことを思い出してください。
 あなたは、どうして「地域子ども教室」に来るようになったのですか。
 あてはまるもの**ぜんぶ**に をつける
- | |
|-----------------------------------|
| 1. 友だちに「いこう」とさそわれたから |
| 2. お父さん・お母さんなど家の人に「いっておいで」といわれたから |
| 3. おにいさん・おねえさん・おとうと・いもうとにさそわれたから |
| 4. 学校の先生にすすめられたから |
| 5. 地域の大人の人に「おいで」とさそわれたから |
| 6. 放課後、家にだれもいないから |
| 7. ポスターやちらしをみて楽しそうと思ったから |
- 15) では、あなたは、「地域子ども教室」に来ていて、楽しいですか。
 あてはまるもの1つに をつける
- | |
|-------------|
| 1. とても楽しい |
| 2. 楽しい |
| 3. あまり楽しくない |
| 4. とてもつまらない |



16) 「地域子ども教室」に来ていて「とても楽しい」という人や「楽しい」という人に、おききます。あなたが「地域子ども教室」に来ていて楽しいと思うのは、どうしてですか。あてはまるもの**ぜんぶ**に をつける



17) あなたが、これまで「地域子ども教室」でやったことの中で楽しかったことは何ですか。楽しかったことをくわしく教えてください



18) 「地域子ども教室」に来ていて「あまり楽しくない」という人や、「とてもまらない」という人におききます。あなたが「地域子ども教室」に来ていて楽しくないと思うのは、どうしてですか。あてはまるもの**ぜんぶ**に をつける



19) あなたは、「地域子ども教室」に来るようになってから、同じ学年の友だちはふえましたか。あてはまるもの**1つ**に をつける

20) あなたは、「地域子ども教室」に来るようになってから、ちがう学年の友だちはふえましたか。あてはまるもの**1つ**に をつける

21) あなたは、「地域子ども教室」に来るようになってから、地域の大人の人を知っている人はふえましたか。あてはまるもの**1つ**に をつける

22) あなたは、「地域子ども教室」に来るようになってから、来る前とくらべて、いつもの生活の中でなにか変わったことはありますか。あてはまる数字にそれぞれ**1つずつ** をつける

放課後や学校がやすみの日は、家の中ではなく外であそぶようになった	1	2	3
ちがう学年の友だちと前よりもあそぶようになった	1	2	3
「地域子ども教室」のことを家の人と話したり、習ったことを家の人といっしょにやってみたりするようになった	1	2	3
学校の授業がよくわかるようになって勉強が楽しくなった	1	2	3
学校に行くのが楽しくなった	1	2	3
テレビゲームをしたりマンガをよんだりすることが少なくなった	1	2	3
家でごろごろしたりボーッとしたりすることが少なくなった	1	2	3
地域の大人の <u>人</u> とあいさつをしたり、話をしたりするようになった	1	2	3
おにいさんやおねえさん、おとうとやいもうととよくあそぶようになった	1	2	3
興味があることをとしまかんにいってしらべたり、自分でパソコンをつかってしらべたりするようになった	1	2	3

4. 「地域子ども教室」に来ていない人も、来ていない人も、全員におききます

23) あなたは、これから「地域子ども教室」に来たいと思いますか。あてはまるもの**1つ**に をつける

24) 「地域子ども教室」に「来たいと思う」という人におききます。あなたがこれから「地域子ども教室」に来たいと思うのはどうしてですか。あてはまるもの**ぜんぶ**に をつける




25) 「地域子ども教室」に「来たいとは思わない」という人におききます。あなたがこれから「地域子ども教室」に来たいとは思わないのはどうしてですか。あてはまるもの**ぜんぶ**に をつける



26) 全員におききます。あなたは、もし「地域子ども教室」に来るとしたら、「地域子ども教室」がどうしてほしいと思いますか。あてはまるもの**ぜんぶ**に をつける



27) 全員におききます。あなたは、これから「地域子ども教室」に来るとしたら、いつがいいですか。あてはまるもの**ぜんぶ**に をつける

28) 全員におききます。あなたは、これから「地域子ども教室」に来るとしたら、どこで活動したいですか。あてはまるもの**ぜんぶ**に をつける

29) 全員におききます。あなたは、これから「地域子ども教室」に来るとしたら、一番やってみたいあそびや活動は何ですか。やってみたいことを自由に書いてください



・ ・ これでおわりです。どうもありがとうございました。 ・ ・



保護者用

地域子ども教室に関するアンケート調査 ～ ご協力をお願い ～

文部科学省では、地域住民が主体となった子どもの居場所づくりに関する取組を推進しており、平成16年度から「地域子ども教室推進事業」として各地の取組を支援しています。本アンケートは、この「地域子ども教室」について、主たる対象者である小中学生の保護者の皆様のご意見やご感想をお聞きし、今後の事業展開に向けての参考とすることを目的として実施するものです。
ご多忙のところ、恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力下さいますよう、お願いいたします。

平成17年8月 文部科学省

ご記入にあたってのお願い

このアンケートは、**地域子ども教室を実施している学校や公民館、あるいは地域子ども教室を実施していない小中学校を通じて、お子さんから保護者の方にお渡しいただいております。**本アンケートの送付に際し、文部科学省は、みなさまの氏名・住所等の個人情報は一切収集しておりません。ご記入にあたっては、ありのままのお気持ちでご回答をお願いいたします。なお、調査票は無記名で結構です。
ご記入はそれぞれの設問の指示にしたがって、回答欄の数字に をつけてください。また、「その他」を選んだ場合や、具体的内容を記入する欄がある場合は、() 内に具体的に記入してください。お答えいただいた内容は、全て統計的に処理しますので、個人の内容を公表することはありません。ご記入いただいたアンケート票は、**9月14日(水)までに**、以下にしたがってご返送下さい。
地域子ども教室からお子さんを連れてお手元に配布された方については、ご記入いただいたアンケート票をお子さんにお渡しいただき、地域子ども教室にご提出下さい。
小中学校を通じて配布された方については、お子さん用のアンケート票と一緒に、お渡ししております返信用封筒にて直接ご返送下さい。なお、切手を貼る必要はありません。
お子さん用のアンケートについては、保護者の方が一緒に見ながらご回答をお願いします。このアンケートに関するご質問やご不明な点等がありましたら、下記の調査実施機関までお問い合わせください。

財団法人 日本システム開発研究所 地域資源研究室 (担当: 福室) TEL: 03-5379-5914 FAX: 03-5379-5924

「地域子ども教室」推進事業とは

子どもたちに関わる重大事件の続発など、青少年の問題行動の深刻化や地域や家庭の教育力の低下等の緊急的課題に対応し、未来の日本を創る心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むため、地域の大人の教育力を結集して、学校等を活用して、緊急かつ計画的に子どもたちの居場所(活動拠点)を整備し、子どもたちの放課後や週末におけるスポーツや文化活動などの様々な体験活動や地域住民との交流活動等を推進していくという内容の事業です。

具体的には、学校の校庭や教室、公民館などを子どもの居場所として開放し、地域の大人が子どもに伝承遊びやスポーツ、ものづくり活動など様々な体験活動を実施するというものです。
平成16年度には、全国で約5,400箇所近くの「居場所」で地域子ども教室が開催されています。



1. はじめに、あなたご自身のことについておうかがいします

問1 あなたの性別は。 1. 男性 2. 女性
あてはまるもの1つに 印

問2 あなたの年齢は。 1. 20歳未満 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代以上
あてはまるもの1つに 印

問3 お子さんは何人いらっしゃいますか。 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上
あてはまるもの1つに 印

問4 お子さんはそれぞれ何年生ですか。 1. 小学校入学前 2. 小学1年 3. 小学2年 4. 小学3年 5. 小学4年 6. 小学5年 7. 小学6年 8. 中学1年 9. 中学2年 10. 中学3年 11. 高校生以上
あてはまるものすべてに 印
このアンケートを持って帰ってきたお子さんについては 印

2. このアンケートを持って帰ってきたお子さんについておたずねします

問5 お子さんの性別は。 1. 男 2. 女
あてはまるもの1つに 印

問6 お子さんは、このアンケートをどこで誰から渡されてきましたか。 1. 「地域子ども教室」の指導員から 2. 通っている学校の担任の先生から
あてはまるもの1つに 印

問7 お子さんは、普段ご家庭で学校のことや放課後のことなどをよく話しますか。 1. よく話をする 2. 時々話をする 3. ほとんど話をしない 4. まったく話をしない
あてはまるもの1つに 印

問8 あなたは、お子さんが放課後どこでよく遊んでいるかご存知ですか。 1. 子どもから話を聞くので知っている () 2. 子どもからは聞かないが大体予測はつく () 3. 知らないし、予測もつかない ()
あてはまるもの1つに 印
1.又は2.の場合は()内に活動場所など具体的に 印
ご回答下さい

問9 地域子ども教室に、お子さんはどのくらい参加していますか。 1. 一週間に4日以上参加している 2. 一週間に2-3日は参加している 3. 一週間に1日は参加している 4. ひと月に1-3日くらい参加している 5. 夏休みや冬休みにだけ参加している 6. 特別なイベントのときだけ参加している 7. 参加していない
あてはまるもの1つに 印

問10へお進み下さい

この問9の後は、問21へお進み下さい

3. ここからは、地域子ども教室に参加しているお子さんについてお尋ねします

問9で「7.参加していない」とお答えの方以外の方に
お尋ねします。

問10 地域子ども教室に参加するようになったのは、お子さん自身の考えですか。それとも保護者の方の考えですか。 1. 子ども自身から参加したいと言った 2. 保護者の考えとして参加しよう勧めた 3. どちらでもない
あてはまるもの1つに 印
具体的には

問11 では、あなたやお子さんが地域子ども教室に参加させたい・しなさいと思った具体的な理由は何ですか。 1. 色々な体験活動ができそうだから 2. 楽しそうだから 3. 子どもが安心して遊べるから 4. 友達と一緒にいけるから 5. 他の学年の子どもとも一緒に遊べるから 6. 地域の大人の人と交流できそうだから 7. 新しい友達ができそうだから 8. テレビゲームなど家で遊ぶよりもいいから 9. 兄弟姉妹と一緒に参加するから 10. 家にいても暇だから 11. 仕事などで放課後に保護者が家にいないから 12. その他
あてはまるものすべてに 印

問12 お子さんは、地域子ども教室での活動をどのように感じているようですか。 1. とても楽しいと感じているようだ 2. まあ楽しんでいるようだ 3. あまり楽しくなさそう 4. とてもつまらなそう
あてはまるもの1つに 印

問13 では、具体的にどのような点でそう感じているようですか。 1. 色々な体験ができるから 2. いろいろな友達と遊べるから 3. 普段できないことができるから 4. 新しい友達ができるから 5. 地域の大人の人と遊んだり知り合いになれるから 6. 居心地がいいから 7. 面白い活動が少ないから 8. 友達があまりいない(参加しない)から 9. 興味をひく活動がない(少ない)から 10. 飽きてしまったから 11. その他
あてはまるものすべてに 印

問14 地域子ども教室に参加してから、お子さんの様子が変わったと感じることはありますか。 1. ある 2. 特にない
あてはまるもの1つに 印
問15へお進み下さい 問17へお進み下さい

問15 では、お子さんが地域子ども教室に参加してから、どのような点がどれくらい変わったと感じますか。

あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印
とても 少しいは あまり 全く
変わった 変わった 変わらない 変わらない

家の中よりも、屋外でよく遊ぶようになった	1	2	3	4
違う学年の友達とよく遊ぶようになった	1	2	3	4
違う学校の友達とよく遊ぶようになった	1	2	3	4
祭りやスポーツ大会など地域の行事に積極的に参加するようになった	1	2	3	4
宿題や勉強を積極的にやるようになった	1	2	3	4
学校に行くのを楽しみにするようになった	1	2	3	4
テレビゲームをしたりマンガを読んだりすることが少なくなった	1	2	3	4
家でごろごろしたりボーッとしたりすることが少なくなった	1	2	3	4
地域の大人の人とあいさつをしたり、話をしたりするようになった	1	2	3	4
年上の人とよく遊ぶようになった	1	2	3	4
自分より年下の子の面倒をよくみるようになった	1	2	3	4
自分で考えて遊ぶようになった	1	2	3	4
以前よりも活発で明るくなった	1	2	3	4
落ち着いた行動が取れるようになった	1	2	3	4
ルールや決まりを守れるようになった	1	2	3	4
正しい言葉遣いや礼儀正しい行動が取れるようになった	1	2	3	4
我慢強くなった	1	2	3	4
大人の言うことをよく聞くようになった	1	2	3	4
家の手伝いを積極的にするようになった	1	2	3	4
興味があることは自分で調べて調べたりするようになった	1	2	3	4

問16 このほかに、特にお子さんが地域子ども教室に参加して大きく変わったと感じたことがあれば、ご自由にご回答下さい。

問17 お子さんが地域子ども教室に参加したことによって、あなたご自身の気持ちや暮らし方などに何か変化はありましたか。

あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印
とても 少しいは あまり 全く
変わった 変わった 変わらない 変わらない

地域において色々な子どもに声をかけたり、交流を持つようになった	1	2	3	4
地域の人と挨拶を交わしたり、よく話したりするようになった	1	2	3	4
地域の様々な問題について地域のひとと話し合ったりするようになった	1	2	3	4
地域の子どもに対する意識や関心が高くなった	1	2	3	4
他の地域子ども教室の取組など、子どもの居場所づくりに関する各地の取組に対して、意識や関心が高くなった	1	2	3	4
町会や自治会などの地域の団体・組織の活動に以前より積極的に参加するようになった	1	2	3	4
地域の学校や子どもの集まる施設について、意識や関心が高くなった	1	2	3	4

問18 地域子ども教室の活動についてお父さんと話をしたり、教室で習ったことを家庭で親子で行うなどをしたことがありますか。
あてはまるもの1つに 印

1. よくしている
2. 時々している
3. ほとんどしない
4. したことがない

問19 お父さんが地域子ども教室に参加するようになってから、親子の会話の頻度に変化はありましたか。
あてはまるもの1つに 印

1. とても増えた(とても多くなった)
2. やや増えた(やや多くなった)
3. どちらともいえない・変化はない
4. やや減った(やや少なくなった)
5. とても減った(とても少なくなった)

問20 お父さんは今後地域子ども教室に参加したいと思っていますようですか。
あてはまるもの1つに 印

1. 積極的に参加したいと思っているようだ
2. 参加してもいいと思っているようだ
3. あまり参加したくないと思っているようだ
4. もう参加したくないと思っているようだ

この問の後には問26へお進み下さい

4. ここからは、お父さんが地域子ども教室に参加していない方に、お尋ねします

問21 お父さんが地域子ども教室に参加していないのは、なぜですか。
あてはまるものすべてに 印

1. 地域子ども教室のことをよく知らないから
2. 友達が参加していないから
3. 同じ学年の子が少ないから
4. 知らない学校の子がいるから
5. やっている場所が遠いから
6. つまらなそうだから
7. 習いごとや学習塾に行かせているから
8. 参加させたい日にやっていないから
9. ゆっくり休ませたいから
10. 宿題や勉強をする時間がなくなるから
11. 安全面で心配だから
12. 家庭の事情により
13. その他()

問22 あなたは、今後地域子ども教室にお父さんを参加させたいと思いますか。
あてはまるもの1つに 印

1. ぜひ参加させたい
2. 参加させてもいい
3. 参加させたくない

問22で「1.ぜひ参加させたい」とお答えの方にお尋ねします。

問23 ぜひ参加させたいと思う理由は何ですか。
あてはまるものすべてに 印

1. 色々な体験活動ができるから
2. 安心して放課後に遊べる場所だから
3. 色々な学年の子どもと交流できるから
4. 色々な世代の人と交流できるから
5. 家や学校でできない体験ができると思うから
6. テレビゲームなどで遊ぶ時間が減ると思うから
7. 保護者自身も働いたり家を空けられるから
8. その他()

問24へお進み下さい

問22で「3.参加させたくない」とお答えの方にお尋ねします。

問24 あまり参加させたくないと思う理由は何ですか。
あてはまるものすべてに 印

1. 勉強や宿題をする時間が減ってしまうから
2. 保護者の知らない人と遊ぶようになるから
3. なかなか家に帰ってこないようになるから
4. 習い事や学習塾に行きたがらなくなるから
5. 実施している施設が遠くて心配だから
6. 何かあったときのことがか心配だから
7. その他()

問25 あなたは、もしお父さんを地域子ども教室に参加させるとしたら、地域子ども教室はどのようにしてほしいと思いますか。
あてはまるものすべてに 印

1. 子どもが仲の良い友達と一緒に参加してほしい
2. 同じ学年の子どもたくさん参加してほしい
3. 同じ学校の子どもたくさん参加してほしい
4. 子どもが通っている学校で開催してほしい
5. 子どものやりたい遊びをさせてほしい
6. 学校の先生や施設の職員が安全管理をしてほしい
7. その他()

5. 保護者の方の地域子ども教室への関わりやご意見についてお尋ねします

全ての方にお尋ねします。

問26 あなたは、地域子ども教室のことを、どのようにして知りましたか。
最もあてはまるもの1つに 印

1. 子どもから話を聞いて知った
2. 学校から配られた資料やチラシをみて知った
3. 学校や施設に貼ってあったチラシをみて知った
4. 保護者会などの会の席で説明を聞いて知った
5. 子どもの同級生の保護者から話を聞いて知った
6. 近所の人や地域の人から話を聞いて知った
7. 役所にあったチラシなどをみて知った
8. このアンケートを見るまで知らなかった
9. その他()

問27 あなたは、地域子ども教室が開始されたことについて、どう思われますか。
あてはまるもの1つに 印

1. よい取組だと思う
2. どちらともいえない・分からない
3. よい取組ではないと思う

問27で「1.よい取組だと思う」又は「3.よい取組ではないと思う」とお答えの方にお尋ねします。

問28 そう思われるのは、具体的にはどのような点からですか。
あてはまるものすべてに 印

1. 色々な体験活動ができるから
2. 安心して放課後に遊べる場所だから
3. 色々な学年の子どもと交流できるから
4. 色々な世代の人と交流できるから
5. 家や学校でできない体験ができるから
6. テレビゲームなどで遊ぶ時間が減るから
7. 子どもが楽しんでいから
8. 地域全体で子どもを見守る雰囲気ができるから
9. 保護者自身も働いたり家を空けられるから
10. 勉強する時間が減ってしまうから
11. 保護者の知らない人と遊ぶようになるから
12. なかなか家に帰ってこないようになるから
13. 習い事や塾に行きたがらなくなるから
14. その他()

問29 あなたは、地域子ども教室の活動に何らかの形で参加されたことはありますか。
あてはまるものすべてに 印

1. 指導員やボランティアとして参加したことがある
2. 親子で参加できる企画に参加したことがある
3. 運営や企画の場に参加したことがある
4. 参加したことはない

問30 あなたご自身は、今後、地域子ども教室の運営に参加・協力したいと思いますか。
あてはまるものすべてに 印

1. 指導員やボランティアとして参加・協力したい
2. 活動計画を作ったり、活動内容を検討したりする場に参加したい
3. 広報活動に協力したい
4. 参加費を負担するなど費用面で協力したい
5. 運営には参加・協力したいとは思わない

問31 あなたご自身は、今後、地域子ども教室で親子交流企画(親子で参加できる企画)があれば参加したいと思いますか。
あてはまるもの1つに 印

1. 積極的に参加したい
2. 時間があれば参加したい
3. あまり参加したくない
4. まったく参加したくない

問31で「3.あまり参加したくない」「4.まったく参加したくない」とお答えの方にお尋ねします。

問32 あなたが、地域子ども教室にあまり参加したくないと思う理由は、何ですか。
あてはまるものすべてに 印

1. 働いていて時間がないから
2. 家事などで忙しいから
3. ほかに子どもに手がかかるから
4. 興味がないから
5. ほかにやりたいことがあるから
6. その他()

6. 最後に、今後の地域子ども教室のあり方について、お尋ねします

問33 あなたは、お住まいの地域で地域子ども教室が実施されたことにより、実施する前と比べて地域において変わったと思うことはありますか。
あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印

そう どちらか どちらとも あまり
思う といえ ば いえ ない 思う 思わ ない
そう 思う 分 からない 思わ ない

子ども達が外で遊んでいる様子をよく目にするようになったと思う	1	2	3	4	5
地域の大人と子ども達が挨拶を交わしたり、話をしたりしている様子をよく目にするようになったと思う	1	2	3	4	5
地域の大人同士が、挨拶を交わしたり、よく話をしたりするようになったと思う	1	2	3	4	5
近所の祭りなどの地域行事や子どもの大会に参加する子どもが増えたと思う	1	2	3	4	5
近所の祭りや地域の行事などに参加する大人が増えたと思う	1	2	3	4	5
危険な子どもの行動に大人が注意するようになるなど、地域がより安全になったと思う	1	2	3	4	5
道路や公園などがきれいになったと思う	1	2	3	4	5
学校の行事に参加する保護者が増えたと思う	1	2	3	4	5
子育てボランティアなど、子どものための活動を行う団体に協力・参加する地域の大人が増えたと思う	1	2	3	4	5

問34 あなたは、今後、地域子ども教室を実施することについて、どう思いますか。
あてはまるもの1つに 印

1. ぜひ実施してほしい
2. できれば実施してほしい
3. あまり実施してほしいとは思わない
4. 実施してほしくない

問34で「1.ぜひ実施してほしい」「2.できれば実施してほしい」とお答えの方にお尋ねします。

問35 では、今後の地域子ども教室に、どのようなことを望みますか。
あてはまるものすべてに 印
そのうち最も望むものに 印

1. 色々な体験活動を充実してほしい
2. 子どもにとって安心・安全な居場所にしてほしい
3. 子どもがやりたいことを自由にやらせてほしい
4. 地域の大人がもっと参加するようにしてほしい
5. 学校の先生が参加するようにしてほしい
6. 親子で参加できる活動を充実してほしい
7. その他()

問36 では、今後、地域子ども教室をいつ実施してほしいですか。
あてはまるものすべてに 印
そのうち最も実施してほしい日に 印

1. 平日の放課後
2. 土曜日
3. 日曜日(祝日)
4. 長期休み
5. その他()

問37 では、今後、地域子ども教室をどこで実施してほしいですか。
あてはまるものすべてに 印
そのうち最も実施してほしい場所に 印

1. 小学校や中学校などの学校施設
2. 児童館や公民館・図書館・コミュニティセンターなど
3. 学校以外の地域の体育館や運動場
4. 近くの公園や広場・山・川など
5. それ以外の場所()

問38 今後、どのような活動内容を地域子ども教室で充実させてほしいですか。
あてはまるものすべてに 印

1. スポーツや運動など体を動かす活動
2. お手玉やメンコなどの昔の遊び
3. 地域の祭りの踊りや伝承行事の指導
4. 紙や木などを使った工作活動
5. 科学の実験やそろばんなどの指導
6. 地域の山や川などでの自然体験活動
7. 公園や道路などの清掃活動
8. パソコンを使った創作活動
9. 保育園や幼稚園で小さい子どもと遊ぶ活動
10. 高齢者福祉施設等でのボランティア活動
11. 家事や料理などの生活活動
12. 農業体験活動や職業体験活動
13. 子どもの自由な遊びや自発的な活動
14. その他()

問39 全員にお尋ねします。お住まいの地域で子育てをしていて日頃感じていることや、地域全体で子どもを育てることなどについてのご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただき本当にありがとうございました

地域子ども教室に関するアンケート調査 ～ ご協力のお願～

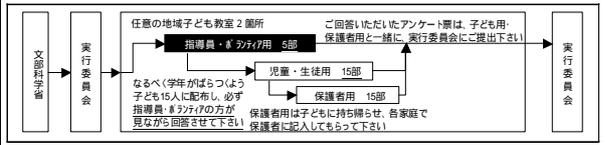
文部科学省では、地域住民が主体となった子どもの居場所づくりに関する取組を推進しており、平成16年度から「地域子ども教室推進事業」として各地の取組を支援しています。本アンケートは、この「地域子ども教室」で指導員又はボランティアとして活動していらっしゃる皆様へ、取組の実態や取組を通じた子どもや地域の変化、あるいは事業に対するご意見等をお尋ねし、今後の事業展開に向けての参考とすることを目的として実施するものです。ご多忙のところ、恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力下さいますよう、お願いいたします。

平成17年8月 文部科学省

～ アンケート票の配布について ～

このアンケートは、**地域子ども教室の実行委員会(市町村)**を通じ、**任意の地域子ども教室を指定していただいた上で、そこで活動する指導員やボランティアの方にお配り**しています。本アンケートの送付に際し、文部科学省は、皆様の氏名・住所等の個人情報は一切収集していません。

各地域子ども教室には、この「指導員・ボランティア用」アンケート票のほか、地域子ども教室に参加している子ども及びその保護者に対するアンケート票も併せて配布しています。指導員・ボランティアの皆様は、以下の図にしたがって、「児童・生徒用」アンケート票の実施及び「保護者用」アンケート票の配布・回収にご協力くださいますよう、お願いいたします。



ご記入にあたってのお願い

ご記入にあたっては、ありのままのお気持ちでご回答をお願いいたします。なお、調査票は無記名で結構です。

ご記入はそれぞれの設問の指示にしたがって、回答欄の数字に をつけてください。また、「その他」を選んだ場合や、具体的内容を記入する欄がある場合は、()内に具体的に記入してください。

お答えいただいた内容は、全て統計的に処理しますので、個人の内容を公表することはありません。ご記入いただいたアンケート票は、**9月14日(水)まで**に、児童・生徒用アンケート票及び保護者用アンケート票と併せて、実行委員会までご提出ください。

このアンケートに関するご質問やご不明点等がありましたら、下記の調査実施機関までお問い合わせください。

財団法人 日本システム開発研究所 地域資源研究室 (担当: 福屋) TEL: 03-5379-5914 FAX: 03-5379-5924

1. はじめに、あなたご自身のことについておうかがいします

問1 あなたの性別は。 1. 男性 2. 女性
問2 あなたの年齢は。 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代 8. 80代以上
問3 あなたの現在の主なご職業は。 1. 農林水産業 2. 工業・建設業 3. 商業・サービス業 4. 公務員 5. 会社員・団体職員 6. 教諭・教員 7. パート・7割/1割 8. 自由業・自営業 9. 主婦 10. 学生 11. 無職 12. その他()
問4 あなたはこれまで、子どもと一緒に活動したり、スポーツや工作などを指導したりした経験はありますか。
問5 あなたは普段、地域でのイベントや様々な集まり、行事などに参加していますか。
問6 あなたは地域子ども教室に参加する以前に、何かボランティア活動に参加したことはありますか。
問7 あなたは、まちや地域の団体や組織で何か活動をなさっていますか。

3. 「地域子ども教室」で活動する指導員やボランティアへの研修についてお尋ねします

問14 あなたは、地域子ども教室の指導員やボランティアに対する研修や講習を受けたことがありますか。
問15 あなたが受けた研修の内容はどのようなものですか。
問16 あなたは、地域の大人が地域子ども教室でスタッフとして活動する場合に、参加者に対する研修は必要だと思いますか。
問17 では、どのような内容の研修がどのような時期に必要だと思いますか。
問18 問15の選択肢以外に必要なと思う研修内容や、研修の方法についてのご意見など、ご自由に記入下さい。

子どもの居場所づくりに関する概論	1	2	3	4	5
生涯学習や社会教育に関する概論	1	2	3	4	5
青少年を取り巻く現状や青少年の心理などについて	1	2	3	4	5
子育てを取り巻く現状などについて	1	2	3	4	5
様々な地域の地域子ども教室の取組事例の紹介	1	2	3	4	5
子どもへの接し方や叱り方などについて	1	2	3	4	5
遊びや体験活動の技術について	1	2	3	4	5
地域子ども教室の運営方法について	1	2	3	4	5
子どもの安全管理と防犯などの安全対策について	1	2	3	4	5
けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて	1	2	3	4	5
体験活動の講師など人材確保について	1	2	3	4	5
体験活動のフィールドや受け入れ施設等の紹介	1	2	3	4	5
ボランティア活動に関する概論	1	2	3	4	5
その他()	1	2	3	4	5

2. あなたと「地域子ども教室」との関わりについてお尋ねします

問8 あなたは、現在、地域子ども教室で、どのような立場で活動していますか。
問9 あなたが現在、地域子ども教室で活動される時、報酬等は支給されていますか。
問10 支給されているものすべてに をつけて下さい。
問11 あなたは、地域子ども教室にどのくらいの頻度で活動していますか。
問12 あなたが、地域子ども教室を初めて知ったきっかけは何ですか。
問13 では、あなたが地域子ども教室で指導員又はボランティアとして活動するようになったきっかけは何か。

4. 地域子ども教室の実施による子どもや地域の変化などについてお尋ねします

問19 地域子ども教室の実施前と実施後と比較して、参加している子どもたちの様子や態度に何か変化は見られましたか。

あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印

	とても 思う	どちらか といえば 思う	どちら ともい えない	あまり まった くそう 思わ ない	まった くそう 思 わない
家の中ではなく、屋外で遊ぶ子どもが増えたと思う	1	2	3	4	5
違う学年の友達とよく遊ぶようになったと思う	1	2	3	4	5
違う学校の友達とよく遊ぶようになったと思う	1	2	3	4	5
祭りやスポーツ大会などに積極的に参加するようになったと思う	1	2	3	4	5
新しい遊びを自分で考え出すようになったと思う	1	2	3	4	5
地域の大人の人に挨拶をしたり話したりするようになったと思う	1	2	3	4	5
自分より年下の子どもを面倒をよくみるようになったと思う	1	2	3	4	5
以前よりも活発で明るくなったと思う	1	2	3	4	5
落ち着いた行動が取れるようになったと思う	1	2	3	4	5
自分勝手な行動が少なくなったと思う	1	2	3	4	5
相手を思いやり、気を配るようになったと思う	1	2	3	4	5
ルールや決まりを守れるようになったと思う	1	2	3	4	5
正しい言葉遣いや礼儀正しい行動が取れるようになったと思う	1	2	3	4	5
我慢強くなったと思う	1	2	3	4	5
大人の言うことを良く聞くようになったと思う	1	2	3	4	5
後片付けなどを積極的にするようになったと思う	1	2	3	4	5
興味があがることは自分で調べたり質問するようになったと思う	1	2	3	4	5

問20 地域子ども教室に参加したことによって、あなたご自身の気持ちや暮らし方などに何か変化はありましたか。

あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印

	とても 思う	どちらか といえば 思う	どちら ともい えない	あまり まった くそう 思わ ない	まった くそう 思 わない
地域で色々な子どもに声をかけたり、交流を持つようになった	1	2	3	4	5
地域の人と挨拶を交わしたり、よく話したりするようになった	1	2	3	4	5
地域の様々な問題を地域の人と話し合ったりするようになった	1	2	3	4	5
地域の子どもに対する意識や関心が高くなった	1	2	3	4	5
他の地域子ども教室の取組など、子どもの居場所づくりに関する各地の取組に対して、意識や関心が高くなった	1	2	3	4	5
町会や自治会などの地域の団体・組織の活動に以前より積極的に参加するようになった	1	2	3	4	5
地域の学校や子どもも集まる施設について、意識や関心が高くなった	1	2	3	4	5
地域の人の中に知人や友人が増えた	1	2	3	4	5

5. 次に、「地域子ども教室」での安全対策について、お尋ねします

問24 あなたが活動している地域子ども教室では、安全管理体制として、どのようなことを行っていますか。

- あてはまるものすべてに 印
1. 教室独自の安全管理マニュアルを作成している
 2. 指導員のほかに安全管理員を配置している
 3. 内容に応じ看護士等の有資格者を配置している
 4. 子ども用の安全規則を作り子どもに周知徹底している
 5. 参加者の緊急連絡網を作り指導員やボランティア間で周知徹底している
 6. 病院や警察など、緊急連絡先を指導員やボランティア間で周知徹底している
 7. 帰宅する子どもに付き添ったり、保護者が迎えに来るまで待たせたりしている
 8. その他 ()

問25 あなたが活動している地域子ども教室で、これまで何か事故や事件、災害、あるいは、そうした事態に発展しそうなことがありましたか。

- あてはまるもの1つに 印
1. 事件や事故、災害などが実際にあった
 2. 事件や事故などに発展しそうなことがあった
 3. 今のところそうしたことはない

問26へお進み下さい

どのようなことが発生し、またどのように対応されたか、具体的にその状況をご回答下さい。

発生したこと	そうした事態に対する対応

6. 最後に、「地域子ども教室」の事業効果や今後の進め方などについてお尋ねします

問26 あなたは、地域子ども教室は、どのような点で効果や利点があると思いますか。

- あてはまるものすべてに 印
1. 子どもが安心して過ごせる居場所ができる点
 2. 子どもが異学年の子と交流できる点
 3. 地域の大人同士が交流できる点
 4. 子どもが地域の大人と交流できる点
 5. 学校と地域、家庭とが連携できる点
 6. 地域の伝承や伝統芸能を子どもに伝えられる点
 7. 特に有効だと思う点
 8. その他 ()

問21 地域子ども教室の実施前と実施後とを比較して、地域の大人や保護者に何か変化は見られましたか。

あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印

	とても 思う	どちらか といえば 思う	どちら ともい えない	あまり まった くそう 思わ ない	まった くそう 思 わない
地域の子どもの声をかけたり、遊んだりする人が増えたと思う	1	2	3	4	5
子どもの悩みや考えをよく理解できる人が増えたと思う	1	2	3	4	5
地域子ども教室に参加する人が増えたと思う	1	2	3	4	5
地域子ども教室に対して、地域の大人や保護者からの問合せが増えたと思う	1	2	3	4	5
地域で行う行事や子どものスポーツ大会などに積極的に参加する人が増えたと思う	1	2	3	4	5
危険箇所の点検活動など、子どもが安心して暮らせる地域づくりに積極的に参加する人が増えたと思う	1	2	3	4	5
地域で大人同士が挨拶を交わしたり、よく話をするようになったと思う	1	2	3	4	5
地域の大人に子どもの居場所づくりへの協力を働きかける人が増えたと思う	1	2	3	4	5
清掃活動など、地域活動に積極的に参加する人が増えたと思う	1	2	3	4	5
子育てボランティアなど、子どものための活動を行う団体に協力・参加する人が増えたと思う	1	2	3	4	5
学校や施設の行事に参加する地域の大人や保護者が増えたと思う	1	2	3	4	5

問22 地域子ども教室を実施したことによって、地域社会に何か変化は見られましたか。

あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印

	とても 思う	どちらか といえば 思う	どちら ともい えない	あまり まった くそう 思わ ない	まった くそう 思 わない
様々な面で、学校と地域や家庭との協力・連携が進んできたと思う	1	2	3	4	5
地域において、いたずらやいじめ、非行などの子どもたちの問題行動が少なくなってきたと思う	1	2	3	4	5
町会や自治会、子ども会などの地域の団体・組織の活動が活発になったと思う	1	2	3	4	5
地域の大人の目が行き届くようになり、薄暗い場所や見通しの悪い場所など、子どもにとって危険な箇所が減ったと思う	1	2	3	4	5
道路や公園など、地域がきれいになったと思う	1	2	3	4	5
地域住民同士が話し合っって色々な地域の問題を解決するようになったと思う	1	2	3	4	5

問23 その他、地域子ども教室を実施したことによる変化として感じたことがあればご回答下さい。

問27 あなたは、今後も地域子ども教室で指導員やボランティアとして活動したいですか。

- あてはまるもの1つに 印
1. ぜひ活動を続けたい
 2. どちらかといえば活動したい
 3. できれば活動したくない
 4. 活動したくない

問28 では、今後、今の報酬等が減額されたりなくなったりした場合は、指導員やボランティアとして活動したいですか。

- あてはまるもの1つに 印
1. ぜひ活動を続けたい
 2. どちらかといえば活動したい
 3. できれば活動したくない
 4. 活動したくない

問29 今後、地域子ども教室をいつ実施したいですか。

- あてはまるものすべてに 印
- | | |
|------------|---------|
| 1. 平日の放課後 | 2. 土曜日 |
| 3. 日曜日(祝日) | 4. 長期休み |
| 5. その他 () | |

問30 今後、地域子ども教室をどこで実施したいですか。

- あてはまるものすべてに 印
1. 小学校や中学校などの学校施設
 2. 児童館や公民館・図書館・コミュニティセンターなど
 3. 学校以外の地域の体育館や運動場
 4. 近くの公園や広場・山・川
 5. それ以外の場所 ()

問31 今後、地域子ども教室の取組をより発展させていくためにはどのようなことが重要だと思いますか。

- あてはまるものすべてに 印
1. 指導員やボランティア間の情報交換の場づくり
 2. 子どものニーズに合った実施内容の改良
 3. 多くの人の参加を促すための広報・PRの充実
 4. 指導員やボランティアの研修の充実と資質向上
 5. 関係機関や各種子育て支援団体との連携の強化
 6. 多くの子どもが参加できる場所や開催日の検討
 7. 保護者も積極的に参加するような企画の検討
 8. 他の団体や他の地域子ども教室などで実施されている活動内容の情報収集
 9. 人件費や活動費など各種経費の確保
 10. その他 ()

問32 その他、お住まいの地域で日頃感じていることや、地域全体で子どもを育てることなどについてのご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただき本当にありがとうございました

コーディネーター用

地域子ども教室に関するアンケート調査
～ ご協力のお願い ～

文部科学省では、地域住民が主体となった子どもの居場所づくりに関する取組を推進して
おり、平成16年度から「地域子ども教室推進事業」として各地の取組を支援しています。
本アンケートは、この「地域子ども教室」でコーディネーターとして活動していらっしゃる
皆様に、取組の実態や取組を通じた子どもや地域の変化、あるいは事業に対するご意見等
をお尋ねし、今後の事業展開に向けての参考とすることを目的として実施するものです。
ご多忙のところ、恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力下さい
ますよう、お願いいたします。

平成17年8月 文部科学省

ご記入にあたってのお願い

このアンケートは、地域子ども教室の実行委員会(市町村)において、地域子ども教室のコーディネ
ーターとしてご活動されている方を3名までお選りいただき、同実行委員会を通じてお配りして
います。本アンケートの送付に際し、文部科学省は、みなさまの氏名・住所等の個人情報は一切取
集しておりません。

ご記入にあたっては、ありのままのお気持ちでご回答をお願いいたします。なお、調査票は無記名
で結構です。

ご記入はそれぞれの設問の指示にしたがって、回答欄の数字に をつけてください。また、「その他」
を選んだ場合や、具体的内容を記入する欄がある場合は、()内に具体的に記入してください。

お答えいただいた内容は、全て統計的に処理しますので、個人の内容を公表することはありません。

ご記入いただいたアンケート票は、同封の封筒にて、9月9日(金)までに、直接ご返送下さい。

このアンケートに関するご質問やご不明な点等がありましたら、下記の調査実施機関までお問い合わせ
ください。

財団法人 日本システム開発研究所 地域資源研究室 (担当: 福室) TEL: 03-5379-5914 FAX: 03-5379-5924

あなたがコーディネーターとして関わっていた実行委員会名及び都道府県名等をご記入ください。

実行委員会名
都道府県・市町村名

あなたがコーディネーターとして配置されていた場所(施設名)をご記入ください。

例) 市公民館、 市教育委員会 等

以上の情報は本アンケートに関するお問合せ以外には使用しません。

1. はじめに、あなたご自身のことについておうかがいします

問1 あなたの性別は。 1. 男性 2. 女性
あてはまるもの1つに 印

問2 あなたの年齢は。 1. 10代 2. 20代 3. 30代
4. 40代 5. 50代 6. 60代
7. 70代 8. 80代以上
あてはまるもの1つに 印

問3 あなたの現在の主なご職業は。 1. 農林水産業 2. 工業・建設業
3. 商業・サービス業 4. 公務員
5. 会社員・団体職員 6. 教諭・教員
7. パート・アルバイト 8. 自由業・自営業
9. 主婦 10. 学生
11. 無職 12. その他()
あてはまるもの1つに 印
兼業の方は主な職業のみに 印をつけて下さい

問4 あなたはこれまで、子どもと一緒に活動
したり、スポーツや工作などを指導した
経験はありますか。 1. ある
2. ない
あてはまるもの1つに 印
ある場合は具体的な活動内容を()にご記入下さい

問5 あなたは、右のような資格をお持ちで
すか。またそのうちご経験されたものはあ
りますか。 1. 幼稚園教諭 2. 保育士
3. 小学校教諭 4. 中学校教諭
5. 高等学校教諭 6. その他の教諭資格
7. 社会教育主事 8. 生涯学習アドバイザー
9. その他()
お持ちの資格すべてに 印
また、ご経験のあるものすべてに 印

問6 あなたは地域子ども教室に参加する以前
に、何かボランティア活動に参加したこ
とはありますか。 1. これまでに5回以上参加したことがある
2. これまでに3～4回参加したことがある
3. これまでに1～2回参加したことがある
4. ボランティア活動は全くしたことがない
あてはまるもの1つに 印

問7 あなたは、まちや地域の団体や組織で何
が活動をなさっていますか。 1. 町会・自治会活動
2. 青年会活動
3. 婦人会活動
4. 老人会活動
5. PTA活動
6. 商店会活動
7. スポーツ活動
8. 趣味の会での活動
9. 子ども会の活動
10. 特に活動していない
11. その他()
あてはまるものすべてに 印

2. あなたと「地域子ども教室推進事業」との関わりについてお尋ねします

問8 あなたが、地域子ども教室推進事業にお
いてコーディネーターとして活動するに
あたり、謝金は支給されていますか。 1. 支給されている ()円/回)
2. イベントなど内容によっては支給される
()円/回)
3. 支給されていない
あてはまるもの1つに 印

問9 それでは、交通費は支給されていますか。 1. 所定額が支給されている ()円/回)
2. 毎回実費が支給されている
3. 支給されていない
あてはまるもの1つに 印

問10 それでは、上記の謝金や交通費のほか
に支給されている報酬はありますか。 1. ある
2. ない
あてはまるもの1つに 印
ある場合は具体的な報酬を()にご記入下さい

問11 あなたが地域子ども教室推進事業でコー
ディネーターとして活動するようになった
きっかけは何ですか。 1. 自分から応募した
2. コーディネーターとして活動している人に誘われた
3. 自治会など地域の団体に推薦された
4. PTAなど学校関連の団体に推薦された
5. 市町村教育委員会より推薦(依頼)された
6. 都道府県教育委員会より依頼された
7. その他()
あてはまるものすべてに 印
最もあてはまるもの1つに 印

問12 あなたは、地域子ども教室推進事業にお
けるコーディネーターとして、どのよう
な役割や活動をされていますか。 1. 実行委員会の運営の支援
2. 実行委員会と運営協議会との連携・調整
3. 子どもや保護者に対する事業への参加呼びかけ
4. 地域の大人に対する事業への参加呼びかけ
5. 指導員・ボランティアなど地域子ども教室の協
力者の確保・登録・配置
6. 地域子ども教室における子どものニーズの把握
7. 地域子ども教室における活動プログラムの策定
8. 行政・学校・地域・関係団体等との連絡調整
9. 他の地域のコーディネーターとの連携
10. その他()
あてはまるものすべてに 印

問13 あなたは、コーディネーターとして、各
地域子ども教室での活動にどの程度関
わっていますか。 1. 担当している教室の活動には毎回必ず参加する
2. 担当している教室の活動に定期的に参加する
3. 週末や休日に限り、教室の活動に参加している
4. コーディネーターだけでなく、指導員や講師も
兼務している
5. コーディネーターだけでなく、ボランティアも
兼務している
6. 地域子ども教室の活動にはほとんど参加しない
7. その他()
あてはまるものすべてに 印

3. コーディネーターへの研修についてお尋ねします

問14 あなたは、地域子ども教室のコーディ
ネーターに対する研修や講習を受けたこ
とがありますか。 1. 受講したことがある
2. 研修や講習はある(あった)が受講していない
3. 研修や講習がないので受講していない
あてはまるもの1つに 印

問15 あなたが受けた研修の内容はどのようなものですか。またそれはどの程度役に立ちましたか。
あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印

Table with 5 columns: 子どもの居場所づくりに関する概論, 生涯学習や社会教育に関する概論, 青少年を取り巻く現状や青少年の心理などについて, 子育てを取り巻く現状などについて, 様々な地域の地域子ども教室の取組事例の紹介, 子どもへの接し方や叱り方などについて, 遊びや体験活動の技術について, 地域子ども教室の運営方法について, 子ども安全管理と防犯などの安全対策について, けがや事故に対する応急処置や初動対応などについて, 体験活動の講師など人材確保策について, 体験活動のフィールドや受け入れ施設等の紹介, ボランティア活動に関する概論, その他(). Rows 1-5.

問16 あなたは、地域子ども教室でコーディ
ネーターとして活動する人に対する研修
は必要だと思いますか。 1. 必要だと思う
2. どちらともいえない・分からない
3. 必要ないと思う
あてはまるもの1つに 印

問17 では、どのような内容の研修がどのよう
な時期に必要だと思いますか。問15の選
択肢から、必要だと思う番号をすべてご
記入下さい。 参加する前に行った方がよい研修
定期的に行った方がよい研修
必要に応じて行う方がよい研修

問18 問15の選択肢以外に必要なと思う研修内
容や、研修の方法についてのご意見など、
ご自由にご記入下さい。

4. 地域子ども教室の実施による子どもや地域の変化などについてお尋ねします

問19 地域子ども教室の実施前と実施後と比較して、参加している子どもたちに何か変化は見られたと思いますか。

あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印
 とても どちらか どちらとも あまり まったく
 そう といえは いえなし/ そう思 思う
 そう思う 分からない わない 思わない

家の中ではなく、屋外で遊ぶ子どもが増えたと思う	1	2	3	4	5
違う学年の友達とよく遊ぶようになったと思う	1	2	3	4	5
違う学校の友達とよく遊ぶようになったと思う	1	2	3	4	5
祭りや大会などに積極的に参加するようになったと思う	1	2	3	4	5
新しい遊びを自分で考え出すようになったと思う	1	2	3	4	5
地域の大人の人に挨拶をしたり話したりするようになったと思う	1	2	3	4	5
自分より年下の子どもの面倒をよくみるようになったと思う	1	2	3	4	5
以前よりも活発で明るくなったと思う	1	2	3	4	5
落ち着いた行動が取れるようになったと思う	1	2	3	4	5
自分勝手な行動が少なくなったと思う	1	2	3	4	5
相手を思いやり、気を配るようになったと思う	1	2	3	4	5
ルールや決まりを守れるようになったと思う	1	2	3	4	5
正しい言葉遣いや礼儀正しい行動が取れるようになったと思う	1	2	3	4	5
我慢強くなったと思う	1	2	3	4	5
大人の言うことを良く聞くようになったと思う	1	2	3	4	5
後片付けなどを積極的にするようになったと思う	1	2	3	4	5
興味があることは自分で調べたり質問するようになったと思う	1	2	3	4	5

問20 地域子ども教室に参加したことによって、あなたご自身の気持ちや暮らし方などに何か変化はありましたか。

あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印
 とても どちらか どちらとも あまり まったく
 そう といえは いえなし/ そう思 思う
 そう思う 分からない わない 思わない

地域で色々な子どもに声をかけたり、交流を持つようになった	1	2	3	4	5
地域の人と挨拶を交わしたり、よく話したりするようになった	1	2	3	4	5
地域の様々な問題を地域の人と話し合ったりするようになった	1	2	3	4	5
地域の子どもに対する意識や関心が高くなった	1	2	3	4	5
他の地域子ども教室の取組など、子どもの居場所づくりに関する各地の取組に対して、意識や関心が高くなった	1	2	3	4	5
町会や自治会などの地域の団体・組織の活動に以前より積極的に参加するようになった	1	2	3	4	5
地域の学校や子どもの集まる施設について、意識や関心が高くなった	1	2	3	4	5
地域の人の中に知人や友人が増えた	1	2	3	4	5

5. 次に、「地域子ども教室推進事業」の事業運営上の問題点等についてお尋ねします

問24 あなたがコーディネーターとして「地域子ども教室推進事業」に関わる中で、何か困ったことや問題となったことなどはありましたか。

1. コーディネーターと指導員やボランティアとの役割分担が不明確だった
2. 学校行事との調整が難しかった
3. 活動場所の確保が困難だった
4. 市町村教育委員会との連絡調整が困難だった
5. 関係団体との連携や講師の確保が困難だった
6. 指導員やボランティアの確保が困難だった
7. 学校との連携や先生との連絡調整が困難だった
8. 子どもが参加しやすい企画の立案が困難だった
9. その他()

あてはまるものすべてに 印

問25 あなたが活動している地域子ども教室で、これまで何か事故や事件、災害、あるいは、そうした事態に発展しそうなことがありましたか。

1. 事件や事故、災害などが実際にあった
2. 事件や事故などに発展しそうなことがあった
3. 今のところそうしたことは発生していない

あてはまるもの1つに 印

問26へお進み下さい

どのようなことが発生し、またどのように対応されたか、具体的にその状況をご回答下さい。

発生したこと	そうした事態に対する対応

問26 あなたは、地域子ども教室推進事業では、どのようなコーディネーターの配置が望ましいとお考えになりますか。

1. 青少年活動など子どもの指導経験がある人
2. 教職員経験や社会教育主事資格をもつ人
3. 高校生や大学生など、子どもと年齢の近い人
4. 教育委員会職員など行政担当者
5. 子育て中あるいは子育ての経験のある人
6. その他()

あてはまるものすべてに 印

問27 あなたは、今後も地域子ども教室推進事業でコーディネーターとして活動したいですか。

1. ぜひ活動を続けたい
2. どちらかといえば活動したい
3. できれば活動したくない
4. 今後は活動するつもりはない

あてはまるもの1つに 印

問27で「1.ぜひ活動を続けたい」「2.どちらかといえば活動したい」とお答えの方にお尋ねします。

問29へお進み下さい

問28 では、その際にコーディネーターに対する報酬は必要だと思いますか。

1. 報酬・謝金が必要である
2. 交通費などが支給されれば謝金は不要である
3. 無報酬でよいと思う

あてはまるもの1つに 印

問21 地域子ども教室の実施前と実施後とを比較して、地域の大人や保護者に何か変化は見られましたか。

あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印
 とても どちらか どちらとも あまり まったく
 そう といえは いえなし/ そう思 思う
 そう思う 分からない わない 思わない

地域の子どもの声をかけたり、遊んだりする人が増えたと思う	1	2	3	4	5
子どもの悩みや考えをよく理解できる人が増えたと思う	1	2	3	4	5
地域子ども教室に参加する人が増えたと思う	1	2	3	4	5
地域子ども教室に対して、地域の大人や保護者からの問合せが増えたと思う	1	2	3	4	5
地域で行う行事や子どものスポーツ大会などに積極的に参加する人が増えたと思う	1	2	3	4	5
危険箇所の点検活動など、子どもが安心して暮らせる地域づくりに積極的に参加する人が増えたと思う	1	2	3	4	5
地域で大人同士が挨拶を交わしたり、よく話すようになったと思う	1	2	3	4	5
地域の大人に子どもの居場所づくりへの協力を働きかける人が増えたと思う	1	2	3	4	5
清掃活動など、地域活動に積極的に参加する人が増えたと思う	1	2	3	4	5
子育てボランティアなど、子どものための活動を行う団体に協力・参加する人が増えたと思う	1	2	3	4	5
学校や施設の行事に参加する地域の大人や保護者が増えたと思う	1	2	3	4	5

問22 地域子ども教室を実施したことによって、地域社会に何か変化は見られましたか。

あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印
 とても どちらか どちらとも あまり まったく
 そう といえは いえなし/ そう思 思う
 そう思う 分からない わない 思わない

様々な面で、学校と地域や家庭との協力・連携が進んできたと思う	1	2	3	4	5
地域において、いたずらやいじめ、非行などの子どもたちの問題行動が少なくなってきたと思う	1	2	3	4	5
町会や自治会、子ども会などの地域の団体・組織の活動が活発になったと思う	1	2	3	4	5
地域の大人の目が行き届くようになり、薄暗い場所や見通しの悪い場所など、子どもにとって危険な箇所が減ったと思う	1	2	3	4	5
道路や公園など、地域がきれいになったと思う	1	2	3	4	5
地域住民同士が話し合っって色々な地域の問題を解決するようになったと思う	1	2	3	4	5

問23 その他、地域子ども教室を実施したことによる変化として感じたことがあればご回答下さい。

6. 最後に、「地域子ども教室」の事業効果や今後の進め方などについてお尋ねします

問29 あなたは、地域子ども教室は、どのような点で効果や利点があると思いますか。

1. 子どもが異学年の子と交流できる点
2. 地域の大人同士が交流できる点
3. 子どもが地域の大人と交流できる点
4. 学校と地域、家庭と連携できる点
5. 地域の伝承や伝統芸能を子どもに伝えられる点
6. 子どもが安心して過ごせる居場所ができる点
7. 特に有効だと思わない
8. その他()

あてはまるものすべてに 印

問30 今後、地域子ども教室推進事業をより発展させていくためにはどのようなことが重要だと思いますか。

1. コーディネーター間の情報交換の場づくり
2. 子どものニーズに合った実施内容の改良
3. 多くの人の参加を促すための広報・PRの充実
4. コーディネーターや指導員、ボランティアの研修の充実と資質向上
5. 関係機関や各種子育て支援団体との連携の強化
6. 多くの子どもが参加できる場所や開催日の検討
7. 保護者も積極的に参加するよう企画の検討
8. 地域の活動内容など各地の取組事例の共有
9. 活動に対する保護者等の理解と協力
10. その他()

あてはまるものすべてに 印

問31 本事業に対する国の委託費は平成18年度までと予定されていますが、あなたは、国の委託費がなくなった後の地域子ども教室はどのようにしていくべきだと思いますか。

1. 都道府県が予算措置を講じて継続的に実施していくべき
2. 市町村が予算措置を講じて継続的に実施していくべき
3. 参加者に活動費を負担してもらい、NPOや社会教育団体などが中心になって実施していくべき
4. 参加者に活動費を負担してもらい、地域住民が主体となって実施していくべき
5. 終了すべき
6. その他()

あてはまるもの1つに 印

問32 その他、お住まいの地域で日頃感じていることや、地域全体で子どもを育てることなどについてのご意見などがありましたら、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただき本当にありがとうございました

地域子ども教室に関するアンケート調査
～ ご協力のお願い ～

文部科学省では、地域住民が主体となった子どもの居場所づくりに関する取組を推進しており、平成16年度から「地域子ども教室推進事業」として各地の取組を支援しています。本アンケートは、この「地域子ども教室」の活動場所となっている学校長の皆様へ、「地域子ども教室」と学校との関わりや、事業を通じた子どもや学校の変化、あるいは事業に対するご意見等をお尋ねし、今後の事業展開に向けての参考とすることを目的として実施するものです。

ご多忙のところ、恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力下さいませよう、お願いいたします。

平成17年8月 文部科学省

ご記入にあたってのお願い

このアンケートは、**地域子ども教室の実行委員会(市町村)において地域子ども教室の活動場所となっている学校を2校お選びいただき、実行委員会(市町村)を通じてお配りしています。**また、**地域子ども教室の活動場所となっていない小中学校に対しても、それぞれを1校ずつ実行委員会(市町村)にお選びいただき、実行委員会(市町村)を通じてお配りしています。**

地域子ども教室の活動場所となっている学校については、この「学校長用」アンケートのほか、「指導員・ボランティア用」「児童・生徒用」及び「保護者用」の各アンケートが同封されている場合があります。これらの実施・配布・回収については地域子ども教室において指導員が実施いたしますので、貴学校で活動している指導員にお渡し下さい。

本アンケートは、**校長又はそれに代わる方**にご回答をお願いいたします。

ご記入にあたっては、ありのままのお気持ちでご回答をお願いいたします。

ご記入はそれぞれの設問の指示にしたがって、回答欄の数字に をつけてください。また、「その他」を選んだ場合や、具体的内容を記入する欄がある場合は、()内に具体的に記入してください。お答えいただいた内容は、全て統計的に処理しますので、個人の内容や各学校の回答を公表することはありません。

ご記入いただいたアンケート票は、同封の封筒にて、**9月9日(金)まで**に、直接ご返送ください。なお切手を貼る必要はありません。

このアンケートに関するご質問やご不明な点等がありましたら、下記の調査実施機関までお問い合わせください。

財団法人 日本システム開発研究所 地域資源研究室 (担当: 福室) TEL: 03-5379-5914 FAX: 03-5379-5924

貴校の学校名等をご記入ください。なおご連絡先は本アンケートに関するお問合せ以外には使用しません。

都 道 府 県	市 町 村 立	電話 () - () - ()
学 校		FAX () - () - ()

1. はじめに、貴校のこれまでの取組についておうかがいします

問1 貴校では、これまでに、「地域子ども教室」推進事業以外で、学校施設を活用した子どもの健全育成に関する補助事業やモデル事業等を実施したことはありますか。
あてはまるもの1つに 印

1. 実施したことがある(実施している)
2. 「地域子ども教室推進事業」以外には、実施したことはない

問3にお進み下さい

問1で「1. 実施したことがある(実施している)」とご回答の方にお尋ねします。

問2 貴校で実施した、子どもの健全育成に関する事業について、最新のものから5つまで、ご回答下さい。

例えば貴校独自の取組として実施されている場合は、実施主体名も事業主体名も貴校になります。また市町村の補助事業で実施されている場合は、実施主体名は貴校、事業主体名は各市町村になります。

事業名	実施主体	事業主体	実施年度
活動内容(簡単に)			平成 年度

2. 貴校と「地域子ども教室」との関わりについておうかがいします

問3 貴校が「地域子ども教室」の活動場所となりにあたり、このアンケートを配られた**実行委員会(市町村)レベルの実行委員会**に委員として参画しているらっしゃいますか。
あてはまるもの1つに 印

1. 学校長又はそれに準ずる職員が委員となり、学校として参画している
2. 学校としては参画していないが、教職員が個人的にメンバーとして参画している
3. 実行委員会には参画していない

問4 貴校が「地域子ども教室」の活動場所となった理由はどのようなことでしたか。
あてはまるもの1つに 印

1. 実行委員会より、活動場所として使用したい旨の提案があった
2. PTAなど学校関係団体から、活動場所として活用したらどうかと提案があった
3. 「地域子ども教室」を実施している団体から活動場所として活用したいという申し出があった
4. 学校から、活動場所として施設を活用してほしいと提案した
5. その他()

問5 貴校で実施されている「地域子ども教室」では、何年生が登録・参加していますか。
あてはまるものすべてに 印

- | | |
|----------|------------|
| 1. 小学1年生 | 2. 小学2年生 |
| 3. 小学3年生 | 4. 小学4年生 |
| 5. 小学5年生 | 6. 小学6年生 |
| 7. 中学1年生 | 8. 中学2年生 |
| 9. 中学3年生 | 10. その他() |

問6 貴校で実施されている「地域子ども教室」では、どの学校施設を使用していますか。
あてはまるものすべてに 印

- | | | |
|---------|-----------|-----------|
| 1. 校庭 | 2. 体育館 | 3. 特別教室 |
| 4. 音楽室 | 5. 理科室 | 6. 図工・美術室 |
| 7. 家庭科室 | 8. その他() | |

問7 貴校で実施されている「地域子ども教室」には、どのような地域の団体・組織が活動に参加していますか。
あてはまるものすべてに 印

- | | | |
|-----------|---------|--------|
| 1. 町会・自治会 | 2. 青年会 | 3. 婦人会 |
| 4. 老人会 | 5. PTA | 6. 商店会 |
| 7. スポーツ団体 | 8. 子ども会 | |
| 9. その他() | | |

問8 貴校では、貴校で実施されている「地域子ども教室」の活動を、教職員の方が直接ご覧になったことはありますか。
あてはまるもの1つに 印

1. 毎回必ず見ている
2. 定期的に見ている
3. 何度かは見たことがある
4. まだ一度も見たことはない

問9 貴校では、貴校で実施されている「地域子ども教室」の活動に、教職員の方が講師やスタッフとして参加されていますか。
あてはまるもの1つに 印

1. 毎回必ず参加している
2. 定期的に参加している
3. 何度かは参加している
4. まだ一度も参加したことはない

問10 貴校の先生方は、「地域子ども教室」の活動に講師やスタッフとして参加することについてどう思っているようですか。
あてはまるもの1つに 印

1. 積極的に参加したいと思っている人が多い
2. 参加してもよいと思っている人が多い
3. あまり参加したくないと思っている人が多い
4. 全く参加したくないと思っている人が多い

問11 貴校では、「地域子ども教室」の取組について、何か広報活動を行ったり、参加を促進するための働きかけを行ったりしましたか。
あてはまるものすべてに 印

1. 教育委員会や実行委員会等で作成したチラシを子どもや保護者に配布した
2. 学校として独自にチラシや資料を作成し、子どもや保護者に配布した
3. 学級活動の時間などで、教職員から子どもに「地域子ども教室」の説明を行った
4. 保護者会などの機会に、保護者に対して「地域子ども教室」の説明を行った
5. 放課後学校に残って遊んでいる子どもに声をかけ、「地域子ども教室」への参加を呼びかけた
6. 特に広報活動や働きかけなどは行っていない
7. その他()

問12 貴校では、「地域子ども教室」での活動内容について、学校行事や授業などの連携や調整を行ったことはありますか。
あてはまるものすべてに 印

1. 学校行事との連携・調整を図った
2. 授業内容との連携・調整を図った
3. 特に連携・調整を図るようなことはなかった

具体的な連携の内容をご回答下さい

問13 貴校では、「地域子ども教室」の指導員やボランティアと、「地域子ども教室」に参加している子どもについての情報交換や協議・話し合いをされることはありますか。
あてはまるもの1つに 印

1. 定期的に行っている
2. 必要なときに行っている
3. ほとんど行っていない
4. 一度も行っていない

問13で「1. 定期的に行っている」「2. 必要なときに行っている」とお答えの方にお尋ねします。

問14 「地域子ども教室」の指導員やボランティアとどのようなことを話し合われますか。
あてはまるものすべてに 印

1. 参加した子どもの学年や人数
2. 参加した子どもの態度や様子
3. 事故やけがの有無やその対応策
4. 「地域子ども教室」の運営方法や活動内容
5. その他()

問15 「地域子ども教室」のスタッフと協議や話し合い等を行った結果、貴校の教職員の方の児童理解が進んだと感じましたか。
あてはまるもの1つに 印

1. 進んだと感じた
2. どちらかといえば進んだと感じた
3. どちらかというに進んだとは感じなかった
4. 進んだとは感じなかった

問16 貴校が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたって、学校として何か配慮したことはありますか。
あてはまるものすべてに 印

1. 学校の安全管理マニュアルを「地域子ども教室」のスタッフに周知した
2. 「地域子ども教室」との連絡担当者を配置した
3. 「地域子ども教室」との緊急連絡網を作成し、「地域子ども教室」のスタッフに周知した
4. 施設や備品等の管理方法や清掃方法について「地域子ども教室」のスタッフと協議・確認した
5. 不審者への対応など、事件・事故につながるような事態への対策を「地域子ども教室」のスタッフと事前に協議した
6. 必ず誰か教職員が参加するように指導した
7. 教職員に対して、「地域子ども教室」の事業趣旨や具体的な活動内容等についての説明を行った
8. その他()

問17 貴校では実施されている「地域子ども教室」の活動において、事件・事故やそれにつながるようなこと、あるいはトラブルなどは、発生しましたか。
あてはまるもの1つに 印

1. 事件や事故やトラブルなどが実際にあった
2. 事件や事故などに発展しそうなおことがあった
3. 今のところそうしたことは発生していない

具体的なその状況や発生したことなどをご回答下さい

問18 貴校では、「地域子ども教室」の活動場所として学校施設が活用されたことで、学校教育活動や学校運営において何か支障や問題が生じたことはありませんか。
あてはまるもの1つに 印

1. 支障や問題が生じた
2. 今のところそうした問題は発生していない

具体的なその状況や発生したことなどをご回答下さい

3. 「地域子ども教室」の実施による子どもや学校の変化などについてお尋ねします

問19 地域子ども教室の実施前と実施後と比較して、貴校に通う子どもたちの様子や態度に何か変化は見られましたか。
あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印

	とても 思う	どちらか とも そう	どちらか とも いえない	あまり まった く ない	まったく 思わ ない
校庭や屋外で遊ぶ子どもが増えた	1	2	3	4	5
違う学年の友達とよく遊ぶようになった	1	2	3	4	5
学校行事に積極的に参加するようになった	1	2	3	4	5
宿題や勉強を積極的にやるようになった	1	2	3	4	5
朝礼や授業で静かに話を聞くようになった	1	2	3	4	5
先生の言うことをよく聞くようになった	1	2	3	4	5
自分より年下の子どもの面倒をよくみるようになった	1	2	3	4	5
以前よりも活発で明るくなった	1	2	3	4	5
落ち着いた行動が取れるようになった	1	2	3	4	5
自分勝手な行動が少なくなった	1	2	3	4	5
相手を思いやりたり、気を配るようになった	1	2	3	4	5
ルールや決まりを守るようになった	1	2	3	4	5
正しい言葉遣いや礼儀正しい行動が取れるようになった	1	2	3	4	5
我慢強くなった	1	2	3	4	5
後片付けなどを積極的にするようになった	1	2	3	4	5
興味があることは自分で調べたり質問するようになった	1	2	3	4	5
いじめや不登校の子どもが減った	1	2	3	4	5

問20 上記のほかに、特に地域子ども教室を実施してから、学校の子どもたちに大きく変わったことがあれば、ご自由にご回答下さい。

問21 地域子ども教室の実施前と実施後とを比較して、保護者や地域の大人の様子や活動に何か変化は見られましたか。
あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印

	とても 思う	どちらか とも そう	どちらか とも いえない	あまり まった く ない	まったく 思わ ない
保護者会などに参加する保護者が増えた	1	2	3	4	5
学校の行事や授業参観に参加する保護者が増えた	1	2	3	4	5
P T A活動が活発になった	1	2	3	4	5
通学路の点検活動や交通安全ボランティアなどに参加する保護者が増えた	1	2	3	4	5
学校や子どもの問題について、学校と保護者・地域が話し合う機会が増えた	1	2	3	4	5
学校の様々な取組に対して、保護者や地域の協力がより得られるようになった	1	2	3	4	5
学校の様々な取組に対して、学校と保護者・地域とが協働で取り組む機会が増えた	1	2	3	4	5
その他()	1	2	3	4	5

4. 最後に、「地域子ども教室」の事業効果や今後の進め方などについてお尋ねします

問22 あなたは、地域子ども教室は、どのような点で効果や利点があると思いますか。
あてはまるものすべてに 印

1. 子どもが異学年の子と交流できる点
2. 地域の大人同士が交流できる点
3. 子どもが地域の大人と交流できる点
4. 学校と地域、家庭とが連携できる点
5. 地域の伝承や伝統芸能を子どもに伝えられる点
6. 子どもが安心して過ごせる居場所ができる点
7. 特に有効だと思わない
8. その他()

問23 「地域子ども教室」の活動場所として学校施設が活用されることについて、どうお考えになりますか。
あてはまるもの1つに 印

1. 非常に好ましいと思う
2. 好ましいと思う
3. どちらともいえない
4. あまり好ましくないと思う
5. 好ましくないと思う

問23で「1.非常に好ましいと思う」「2.好ましいと思う」とお答えの方にお尋ねします。

問24 では、好ましいと思う理由は何ですか。
あてはまるものすべてに 印

1. 子どもが慣れ親しんでいる施設だから
2. 放課後そのまま活動できるため、子どもが参加しやすいから
3. 子どもの安全性が確保できるから
4. 家庭との連絡や連携が図りやすいから
5. 地域の核となる施設であり、参加する地域の人にとっても参加しやすいから
6. 「地域子ども教室」を実施することにより、学校と保護者や地域との連携が図れるから
7. その他()

問23で「4.あまり好ましくないと思う」「6.好ましくないと思う」とお答えの方にお尋ねします。

問25 では、好ましくないと思う理由は何ですか。
あてはまるものすべてに 印

1. 放課後に学校で発生した問題について、学校側が責任を負えないから
2. 学校施設の設備や物品が破損したりなくなったりする可能性があるから
3. 放課後は家庭や地域に子どもをかえすが好ましいから
4. 放課後多くの子どもが残っていることにより、職員会議の開催などに支障が生じるから
5. 子どもが無事帰宅するまで、学校としても安全に気を配らなくてはならないから
6. 不審者への対応など、学校としての安全管理の取組を広げなければならないから
7. 教職員が「地域子ども教室」での活動支援に時間を割かれ本来の学校教育活動に支障が出るから
8. その他()

問26 今後、「地域子ども教室」の活動場所として学校施設を活用するにあたり、どのような課題や改善点があると思いますか。
あてはまるものすべてに 印

1. 学校教育と「地域子ども教室」の活動との区別を子どもに付けさせること
2. 放課後の活動に関する決まりやルールを子どもに徹底すること
3. 学校行事や学校教育活動に配慮した活動内容とすること
4. 戸締りや物品の管理など、学校施設の管理について、「地域子ども教室」との連携を図ること
5. 不審者の侵入への対策など、学校施設における子どもの安全確保の対策を強化すること
6. 子どもの帰宅時の安全管理を強化すること
7. 学校施設の安全管理について、「地域子ども教室」の指導員等とルールを徹底すること
8. その他()

問27 その他、貴校で「地域子ども教室」を実施した感想や、今後の「地域子ども教室」に望むことなどがあれば、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただき本当にありがとうございました

地域子ども教室に関するアンケート調査
- ご協力をお願い -

文部科学省では、地域住民が主体となった子どもの居場所づくりに関する取組を推進しており、平成16年度から「地域子ども教室推進事業」として各地の取組を支援しています。本アンケートは、この「地域子ども教室」の活動場所となっている施設長の皆様へ、「地域子ども教室」と施設との関わりや、事業を通じた子どもや地域の変化、あるいは事業に対するご意見等を尋ね、今後の事業展開に向けての参考とすることを目的として実施するものです。ご多忙のところ、恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力下さいますようお願いいたします。

平成17年8月 文部科学省

ご記入にあたってのお願い

このアンケートは、**地域子ども教室の実行委員会(市町村)において地域子ども教室の活動場所となっている施設を2箇所お選びいただき、同実行委員会(市町村)を通じてお送りいたします。**なお、同様のアンケートを地域子ども教室の活動場所となっている学校に対しても実施しています。**地域子ども教室の活動場所となっている施設については**、この「施設長用」アンケートのほか、「指導員・ボランティア用」「児童・生徒用」及び「保護者用」の各アンケートが同封されている場合があります。これらの実施・配布・回収については地域子ども教室において指導員が実施いたしますので、貴施設で活動している指導員にお渡し下さい。本アンケートは、**施設長又はそれに代わる方**にご回答をお願いいたします。ご記入にあたっては、ありのままのお気持ちでご回答をお願いいたします。ご記入はそれぞれの設問の指示にしたがって、回答欄の数字に をつけてください。また、「その他」を選んだ場合や、具体的内容を記入する欄がある場合は、()内に具体的に記入してください。お答えいただいた内容は、全て統計的に処理しますので、個人の内容や各施設のご回答を公表することはありません。ご記入いただいたアンケート票は、同封の封筒にて、**9月9日(金)まで**に、直接ご返送ください。なお切手を貼る必要はありません。このアンケートに関するご質問やご不明な点等がありましたら、下記の調査実施機関までお問い合わせください。

財団法人 日本システム開発研究所 地域資源研究室 (担当: 福室) TEL: 03-5379-5914 FAX: 03-5379-5924

貴施設名等をご記入ください。なおご連絡先は本アンケートに関するお問合せ以外には使用しません。

都道府県	市町村	電話
()	()	() - ()
(施設名)		FAX
		() - ()

2. 貴施設と「地域子ども教室」との関わりについておかがいします

- 問3 貴施設が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたり、このアンケートを配られた**実行委員会(市町村)レベルの実行委員会**に委員として参画しているらっしゃいますか。
あてはまるもの1つに 印
- 問4 貴施設が「地域子ども教室」の活動場所となった理由はどのようなことでしたか。
あてはまるもの1つに 印
- 問5 貴施設で実施されている「地域子ども教室」では、何年生が登録・参加していますか。
あてはまるものすべてに 印
- 問6 貴施設で実施されている「地域子ども教室」には、どのような地域の団体・組織が活動に参加していますか。
あてはまるものすべてに 印
- 問7 貴施設では、貴施設で実施されている「地域子ども教室」の活動を、職員の方が直接ご覧になったことはありますか。
あてはまるもの1つに 印
- 問8 貴施設では、貴施設で実施されている「地域子ども教室」の活動に、職員の方が講師やスタッフとして参加されていますか。
あてはまるもの1つに 印

1. はじめに、貴施設のこれまでの取組についておかがいします

- 問1 貴施設では、これまでに、「地域子ども教室推進事業」以外で、施設を活用した子どもの健全育成に関する補助事業やモデル事業等を実施したことはありますか。
あてはまるもの1つに 印
- 問2 貴施設で実施した、子どもの健全育成に関する事業について、最新のものから5つまで、ご回答下さい。

事業名	実施主体名	事業主体名	実施年度
活動内容(簡単に)			平成 年度

- 問9 貴施設の職員は、「地域子ども教室」の活動に講師やスタッフとして参加することについてどう思っているようですか。
あてはまるもの1つに 印
- 問10 貴施設では、「地域子ども教室」の取組について、何か広報活動を行ったり、参加を促進するための働きかけを行ったりしましたか。
あてはまるものすべてに 印
- 問11 貴施設では、「地域子ども教室」での活動内容について、施設の主催事業との連携や調整を行ったことはありますか。
あてはまるもの1つに 印
- 問12 貴施設では、「地域子ども教室」の指導員やボランティアと「地域子ども教室」に参加している子どもについての情報交換や協議・話し合いをされることはありますか。
あてはまるもの1つに 印

問12で「1.定期的に行っている」「2.必要に応じて行っている」とお答えの方にお尋ねします。

問13 「地域子ども教室」の指導員やボランティアなどのようなことを話し合われますか。
あてはまるものすべてに 印

問14 「地域子ども教室」のスタッフと協議や話し合い等を行った結果、貴施設においてよりよい事業展開や施設独自の事業の発展などが進んだと感じましたか。
あてはまるもの1つに 印

問15 貴施設が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたって、施設として何か配慮したことはありますか。
あてはまるものすべてに 印

問16 貴施設では実施されている「地域子ども教室」の活動において、事件・事故やそれにつながるようなこと、あるいはトラブルなどは、発生しましたか。
あてはまるもの1つに 印

↓

具体的にその状況や発生したことをご回答下さい

1. 参加した子どもの態度や様子
2. 事故やけがの有無やその対応策
3. 「地域子ども教室」の運営方法や活動内容
4. 参加した子どもの活動ニーズや意見
5. その他 ()

1. 進んだと感じた
2. どちらかといえば進んだと感じた
3. どちらかというに進んだと感じなかった
4. 進んだと感じなかった

1. 施設の安全管理マニュアルを「地域子ども教室」のスタッフに配布し周知した
2. 「地域子ども教室」との連絡担当者を配置した
3. 「地域子ども教室」との緊急連絡網を作成し、「地域子ども教室」のスタッフに周知した
4. 施設や備品等の管理方法や清掃方法について「地域子ども教室」のスタッフと協議・確認した
5. 不審者への対応など、事件・事故につながるような事態への対策を「地域子ども教室」のスタッフと事前に協議した
6. 必ず誰か職員が参加するように指導した
7. 職員に対して、「地域子ども教室」の事業趣旨や具体的な活動内容等についての説明を行った
8. その他 ()

1. 事件や事故やトラブルなどが実際にあった
2. 事件や事故などに発展しようがあった
3. 今のところそうしたことは発生していない

↓

具体的にその状況や発生したことをご回答下さい

問17 貴施設では、「地域子ども教室」の活動場所として施設が活用されたことで、施設の事業運営において何か支障や問題が生じたことはありましたか。
あてはまるもの1つに 印

↓

具体的にその状況や発生したことをご回答下さい

1. 支障や問題が生じた
2. 今のところそうした問題は発生していない

問18へお進み下さい

3. 「地域子ども教室」の実施による子どもや施設の変化などについてお尋ねします

問18 地域子ども教室の実施前と実施後と比較して、施設に来る子どもたちの様子や態度に何か変化は見られましたか。
あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印

	1	2	3	4	5
屋外で遊ぶ子どもが増えた					
違う学年の友達とよく遊ぶようになった					
他の施設行事に積極的に参加するようになった					
宿題や勉強を積極的にやるようになった					
施設の職員のことをよく聞くようになった					
自分より年下の子どもの面倒をよくみるようになった					
以前より活発で明るくなった					
落ち着いた行動が取れるようになった					
自分勝手な行動が少なくなった					
相手を思いやり、気を配るようになった					
ルールや決まりを守るようになった					
礼儀正しい言葉遣いや行動が取れるようになった					
我慢強くなった					
後片付けなどを積極的にするようになった					

問19 上記のほかに、特に地域子ども教室を実施してから、施設に来る子どもたちに大きく変わったことがあれば、ご自由にご回答下さい。

問20 地域子ども教室の実施前と実施後とを比較して、貴施設を利用する地域の大人に何か変化は見られましたか。
あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印

	1	2	3	4	5
子どもに声をかけたり、遊んだりする人が増えた					
子ども関連の講座の受講者が増えた					
子どもと一緒に活動する事業やイベントへの参加者が増えた					
子どもや子育てに関する学習サークルなどが活発になった					
「地域子ども教室」の様子を見に来る大人や保護者が増えた					
施設の主催事業に参加する人が増えた					
その他 ()					

4. 最後に、「地域子ども教室」の事業効果や今後の進め方などについてお尋ねします

問21 あなたは、地域子ども教室は、どのような点で効果や利点があると思いますか。
あてはまるものすべてに 印

1. 子どもの異学年の子と交流できる点
2. 地域の大人同士が交流できる点
3. 子どもが地域の大人と交流できる点
4. 施設と地域とが連携できる点
5. 地域の伝承や伝統芸能を子どもに伝えられる点
6. 子どもが安心して過ごせる居場所ができる点
7. 特に有効だと思わない
8. その他 ()

問22 「地域子ども教室」の活動場所として貴施設が活用されることについて、どうお考えになりますか。
あてはまるもの1つに 印

1. 非常に好ましいと思う
2. 好ましいと思う
3. どちらともいえない
4. あまり好ましくないと思う
5. 好ましくないと思う

問22で「1.非常に好ましいと思う」「2.好ましいと思う」とお答えの方にお尋ねします。

問23 では、好ましいと思う理由は何か。
あてはまるものすべてに 印

↓

問24へお進み下さい

1. 子どもが慣れ親しんでいる施設だから
2. 「地域子ども教室」を支える指導員やボランティアなど地域の人が日頃からよく使う施設だから
3. 保護者にもよく知られている施設であり、子どもや家庭との連絡や連携がしやすいから
4. 地域の核となる施設であり、参加する地域の人間にとっても参加しやすいから
5. 「地域子ども教室」を実施することにより、地域の大人や子どもがより施設を利用するようになるから
6. その他 ()

問22で「4.あまり好ましくないと思う」「5.好ましくないと思う」とお答えの方にお尋ねします。

問24 では、好ましくないと思う理由は何ですか。
あてはまるものすべてに 印

1. 施設の物品が破損したりなくなったりする可能性があるから
2. 多くの子どもが遅くまで残っていることにより、施設の事業や事務などに支障が生じるから
3. 他の施設利用者や利用団体などとの調整や施設の独自事業との調整が難しいから
4. 子どもの帰宅に対して、施設としても安全に気を配らなくてはならないから
5. 子どもが安心して過ごせる場所としての安全管理対策を充実しなければならぬから
6. 職員が「地域子ども教室」の活動支援に時間を割かれ本来の業務に支障が出るから
7. その他 ()

問25 今後、「地域子ども教室」の活動場所として学校以外の施設を活用するにあたり、どのような課題や改善点があると思いますか。
あてはまるものすべてに 印

1. 施設の利用方法に関する決まりやルールを子どもにも徹底すること
2. 施設の事業や施設を使う他団体の活動に配慮した活動内容とすること
3. 戸締りや物品の管理など、施設の管理について、「地域子ども教室」との連携を図ること
4. 不審者の侵入への対策など、施設における子どもの安全確保の対策を強化すること
5. 子どもの帰宅時の安全管理を強化すること
6. 施設の安全管理について、「地域子ども教室」の指導員等とルールを徹底すること
7. その他 ()

問26 その他、貴施設で「地域子ども教室」を実施した感想や、今後の「地域子ども教室」に望むことなどがあれば、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただき本当にありがとうございました

地域子ども教室に関するアンケート調査 ～ ご協力のお願い ～

文部科学省では、地域住民が主体となった子どもの居場所づくりに関する取組を推進しており、平成16年度から「地域子ども教室推進事業」として各地の取組を支援しています。本アンケートは、学校長の皆様、学校施設を核とした子どもの居場所づくりに対するお考えや、本事業に対するご意見等をお尋ねし、今後の事業展開に向けての参考とすることを目的として実施するものです。
ご多忙のところ、恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力下さいませよう、お願いいたします。

平成17年8月 文部科学省

ご記入にあたってのお願い

このアンケートは、**地域子ども教室の実行委員会(市町村)**において、**地域子ども教室の活動場所となっていない小中学校を各1校ずつお選びいただき、同実行委員会(市町村)を通じてお配りしています。**

本アンケートは、**校長又はそれに代わる方**にご回答をお願いいたします。
ご記入にあたっては、ありのままのお気持ちでご回答をお願いいたします。
ご記入はそれぞれの設問の指示にしたがって、回答欄の数字に をつけてください。また、「その他」を選んだ場合や、具体的内容を記入する欄がある場合は、()内に具体的に記入してください。
お答えいただいた内容は、全て統計的に処理しますので、個人の内容や各学校のご回答を公表することはありません。
ご記入いただいたアンケート票は、同封の封筒にて、**9月9日(金)まで**に、直接ご返送ください。なお切手を貼る必要はありません。
このアンケートに関するご質問やご不明な点等がありましたら、下記の調査実施機関までお問い合わせください。
財団法人 日本システム開発研究所 地域資源研究室 (担当: 福室) TEL: 03-5379-5914 FAX: 03-5379-5924

貴校の学校名等をご記入ください。なおご連絡先は本アンケートに関するお問合せ以外には使用しません。

都 道 府 県	市 町 村 立	電話 () -
	学 校	FAX () -

1. はじめに、貴校のこれまでの取組についておうかがいします

問1 貴校では、これまでに、学校施設を活用した子どもの健全育成に関する補助事業やモデル事業等を実施したことはありますか。
1. 実施したことがある
2. 実施したことはない
→ 問3へお進み下さい

あてはまるもの1つに 印

問1で「1.実施したことがある(実施している)」とご回答の方に
お尋ねします。

問2 貴校で実施した、子どもの健全育成に関する事業について、最新のものから5つまで、ご回答下さい。

例えば貴施設の独自事業として実施されている場合は、実施主体も事業主体も貴施設になります。また市町村の補助事業で実施されている場合は、実施主体は貴施設、事業主体は各市町村になります。

事業名	実施主体	事業主体	実施年度
			平成 年度
活動内容(簡単に)			
			平成 年度
活動内容(簡単に)			
			平成 年度
活動内容(簡単に)			
			平成 年度
活動内容(簡単に)			
			平成 年度
活動内容(簡単に)			

2. 貴校と「地域子ども教室推進事業」との関わりについておうかがいします

問3 「地域子ども教室推進事業」について、ご存知でしたか。
1. 知っていた
2. 知らなかった
あてはまるもの1つに 印

問4 市町村において「地域子ども教室」の実行委員会が組織され、「地域子ども教室推進事業」が実施されていることをご存知でしたか。
1. 知っていた
2. 知らなかった
あてはまるもの1つに 印

問5 「地域子ども教室」の活動場所として貴校の施設を活用することについて、打診があったり検討をされたりしたことはありますか。
1. 実行委員会より、活動場所として使用したい旨の提案があった
2. 「地域子ども教室」を実施している団体から活動場所として活用したいという申し出があった
3. PTAや保護者から、活動場所として活用したらどうかと提案があった
4. 教職員から、活動場所として本校施設を活用したらどうかと提案があった
5. 本校に通っている児童・生徒から、本校でも実施してほしいとの希望があった
6. その他()
7. 特に本校を活動場所とするかどうか、提案を受けたり検討したりしたことはない
あてはまるものすべてに 印

問5で「7.特に本校を活動場所とするかどうか、提案や検討をしたことはない」とお答えの方以外の方に
お尋ねします。

問6 貴校が「地域子ども教室」の活動場所とならなかった(しなかった)理由は何のようなことですか。
あてはまるものすべてに 印

1. 学校行事との調整が難しいから
2. クラブ活動などとの調整が難しいから
3. 放課後に学校で発生した問題について、学校側が責任を負えないから
4. 学校施設の物品が破損したりなくなったりする可能性があるから
5. 放課後多くの子が残っていることにより、職員会議の開催などに支障が生じるから
6. 不審者への対応など、学校としての安全管理の取組を怠らなければならないから
7. 教職員が「地域子ども教室」での活動支援に時間を割かれ本来の学校教育に支障が出るから
8. 放課後児童クラブなど、他の放課後児童対策事業との調整が難しいから
9. 「地域子ども教室」の必要性を感じなかったから
10. その他()

3. 貴校での放課後児童対策についてお尋ねします

問7 貴校では、放課後児童クラブ(学童保育)を実施していますか。
1. 実施している
2. 実施を予定している
3. 実施していない
あてはまるもの1つに 印
→ 問8へお進み下さい

問8 貴校では、放課後児童クラブ(学童保育)以外に、放課後児童対策に関する取組を実施していますか。
1. 実施している
2. 実施を予定している
3. 実施していない
あてはまるもの1つに 印
→ 問7が「1.でない場合は問13へお進み下さい」

貴校で実施されている放課後児童クラブや放課後児童対策事業について、事業ごとに詳細をご回答下さい。

	放課後児童クラブ(学童保育)	放課後児童対策事業
事業名		
対象者		
開催日時		
開催場所		
使用教室数		

問7又は問8で「1.実施している」とお答えの方に
お尋ねします。

問9 貴校では、放課後児童対策事業を実施する中で、事件・事故やそれにつながるようなことは、発生しましたか。
あてはまるもの1つに 印
→ 問10へお進み下さい

具体的にその状況や発生したことをご回答下さい

1. 事件や事故やトラブルなどが実際にあった
2. 事件や事故などに発展しそうなことがあった
3. 今のところそうしたことは発生していない

問7又は問8で「1.実施している」とお答えの方にお尋ねします。

問10 貴校では、放課後児童対策事業を実施したことにより、実施する前と後とで貴校に通う子どもたちの様子や態度に何か変化が見られましたか。 **あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印**

	とても そう 思う	どちらか といえば そう 思う	どちらか とも い え ない / 分 ら な い	あまり そう 思 わ な い	まった く そ う 思 わ な い
校庭や屋外で遊ぶ子どもが増えた	1	2	3	4	5
違う学年の友達とよく遊ぶようになった	1	2	3	4	5
学校行事に積極的に参加するようになった	1	2	3	4	5
宿題や勉強を積極的にやるようになった	1	2	3	4	5
朝礼や授業で静かに話を聞くようになった	1	2	3	4	5
先生の言うことをよく聞くようになった	1	2	3	4	5
自分より年下の子どもの面倒をよくみるようになった	1	2	3	4	5
以前よりも活発で明るくなった	1	2	3	4	5
落ち着いた行動が取れるようになった	1	2	3	4	5
自分勝手な行動が少なくなった	1	2	3	4	5
相手を思いやり、気を配るようになった	1	2	3	4	5
ルールや決まりを守るようになった	1	2	3	4	5
正しい言葉遣いや礼儀正しい行動が取れるようになった	1	2	3	4	5
我慢強くなった	1	2	3	4	5
後片付けなどを積極的にするようになった	1	2	3	4	5
興味があることは自分で調べたり質問するようになった	1	2	3	4	5

問11 上記のほか、特に放課後児童対策事業を実施してから、学校の子ども達に大きく変わったことがあれば、ご自由にご回答下さい。

問7又は問8で「1.実施している」とお答えの方にお尋ねします。

問12 放課後児童対策事業の実施前と実施後とを比較して、保護者や地域の大人の様子や活動に何か変化は見られましたか。 **あてはまる番号にそれぞれ1つずつ 印**

	とても そう 思う	どちらか といえば そう 思う	どちらか とも い え ない / 分 ら な い	あまり そう 思 わ な い	まった く そ う 思 わ な い
保護者会などに参加する保護者が増えた	1	2	3	4	5
学校の行事や授業参観に参加する保護者が増えた	1	2	3	4	5
P T A活動が活発になった	1	2	3	4	5
通学路の点検活動や交通安全ボランティアなどに参加する保護者が増えた	1	2	3	4	5
学校や子どもの問題について、学校と保護者・地域が話し合う機会が増えた	1	2	3	4	5
学校の様々な取組に対して、保護者や地域の協力がより得られるようになった	1	2	3	4	5
学校の様々な取組に対して、学校と保護者・地域とが協働で取り組む機会が増えた	1	2	3	4	5
その他()	1	2	3	4	5

4. 最後に、「地域子ども教室推進事業」の今後の推進方策等についてお尋ねします

問13 「地域子ども教室」の活動場所として学校施設が活用されることについて、どう考えになりますか。 **あてはまるもの1つに 印**

1. 非常に好ましいと思う
2. 好ましいと思う
3. どちらともいえない
4. あまり好ましくないと思う
5. 好ましくないと思う

問13で「1.非常に好ましいと思う」「2.好ましいと思う」とお答えの方にお尋ねします。

問14 では、好ましいと思う理由は何ですか。 **あてはまるものすべてに 印**

1. 子どもが慣れ親しんでいる施設だから
2. 放課後のまま活動できるため、子どもが参加しやすいから
3. 子どもの安全性が確保できるから
4. 家庭との連絡や連携が図りやすいから
5. 地域の核となる施設であり、参加する地域の人にとっても参加しやすいから
6. 「地域子ども教室」を実施することにより、学校と保護者や地域との連携が図れるから
7. その他()

問13で「4.あまり好ましくないと思う」「5.好ましくないと思う」とお答えの方にお尋ねします。

問15 では、好ましくないと思う理由は何ですか。 **あてはまるものすべてに 印**

1. 放課後に学校で発生した問題について、学校側が責任を負えないから
2. 学校施設の設備や物品が破損したりなくなったりする可能性があるから
3. 放課後は家庭や地域に子どもをかえすのが好ましいから
4. 放課後多くの子どもが残っていることにより、職員会議の開催などに支障が生じるから
5. 子どもが無事帰宅するまで、学校としても安全に気を配らなくてはならないから
6. 不審者への対応など、学校としての安全管理の取組を広げなければならないから
7. 教職員が「地域子ども教室」での活動支援に時間を割かれ本来の学校教育活動に支障が出るから
8. 学校以外の施設で実施する方が望ましいから
9. その他()

問16 今後、「地域子ども教室」の活動場所として貴校を活用していきたいとお考えになりますか。 **あてはまるものすべてに 印**

1. ぜひ活動場所として活用したい
2. 活動場所としての活用を検討したい
3. 活動場所としての活用を検討するつもりはない
4. 何ともいえない・分からない

問16で「1.ぜひ活動場所として活用したい」「2.活動場所としての活用を検討したい」とお答えの方にお尋ねします。

問17 貴校が「地域子ども教室」の活動場所となるにあたり、何か条件や必要事項はありますか。 **あてはまるものすべてに 印**

1. 校長や教職員が実行委員会に参画すること
2. 学校行事や学校教育活動に配慮した活動内容とすること
3. 戸締りや物品の管理など、学校施設の管理を指導員等が徹底して行うこと
4. 指導員やボランティアなどと定期的な会議や意見交換を行うこと
5. 不審者の侵入への対策など、学校施設における子どもの安全確保対策について、実行委員会側でも十分な対応を図ること
6. 学校施設の安全管理などについて、指導員等とルールを徹底すること
7. 指導員が子どもの帰宅時に付き添うなど、子どもの帰宅時の安全管理を強化すること
8. 放課後児童クラブなど既存の学校施設を活用した放課後児童対策事業との連携を十分図ること
9. 特に条件や必要事項はない
10. その他()

問16で「3.活動場所としての活用を検討するつもりはない」とお答えの方にお尋ねします。

問18 「地域子ども教室」の活動場所として、貴校の活用を検討されない理由は何ですか。 **あてはまるものすべてに 印**

1. 学校行事との調整が難しいから
2. クラブ活動などの調整が難しいから
3. 放課後に学校で発生した問題について、学校側が責任を負えないから
4. 学校施設の物品が破損したりなくなったりする可能性があるから
5. 放課後多くの子どもが残っていることにより、職員会議の開催などに支障が生じるから
6. 不審者への対応など、学校としての安全管理の取組を広げなければならないから
7. 教職員が「地域子ども教室」での活動支援に時間を割かれ本来の学校教育に支障が出るから
8. 放課後児童クラブなど、他の放課後児童対策事業との調整が難しいから
9. 「地域子ども教室」の必要性を感じないから
10. 放課後児童クラブなど既存の学校施設を活用した放課後児童対策事業で十分だと思うから
11. その他()

問19 その他、今後の「地域子ども教室推進事業」に望むことや、学校と地域、家庭とが連携して地域全体で子どもを育てることについての考えなどがあれば、ご自由にお書き下さい。

ご協力いただき本当にありがとうございました

「地域子ども教室推進事業普及委員会」設置要項

平成16年9月24日
生涯学習政策局長決定

1. 趣旨

文部科学省が、これまでに作成した「実施のための手引き」、「安全マニュアル」の充実を図るとともに、本事業により得られた効果等の評価に資するための事業実施状況調査を行うなど、「地域子ども教室推進事業」の一層の普及に資する。

2. 事業の概要

- (1) コーディネーター等を対象とした研修プログラム例の収集
- (2) 事故に対する責任及び補償、保険制度についての検討
- (3) 「地域子ども教室推進事業」事業評価の検討等
- (4) 上記(1)～(3)に関する報告書の作成

3. 報告書の作成方法

作成に当たっては、別紙の学識経験者等の協力を得るものとする。

なお、必要に応じ、事業実施状況等調査や別紙以外の者の協力を得ることができる。

4. 実施期間

平成16年10月1日から平成18年3月31日

5. 庶務

この事業に関する庶務は、生涯学習政策局生涯学習推進課において処理する。

別紙

地域子ども教室推進事業普及委員会委員名簿

五十音順
は座長

伊 藤 康 志 琉球大学教授

岡 田 俊 樹 大阪市教育委員会事務局
教育施策担当部長

小 澤 紀美子 東京学芸大学教授

猿 渡 智 衛 弘前大学大学院地域社会研究科大学院生

西 岡 伸 紀 兵庫教育大学大学院教授

濱 田 崇 弁護士

鍋 島 豊 岡山県教育委員会生涯学習課長

(平成16年10月～平成17年3月 渡邊 倫子 役職同)

「地域子ども教室推進事業」実施状況調査報告書

平成18年3月

地域子ども教室推進事業普及委員会

〔調査・分析〕 財団法人 日本システム開発研究所

〒162-0067 東京都新宿区富久町16番5号 新宿高砂ビル

〔本件担当 電話：03-5379-5914 FAX：03-5379-5924〕
